

平成29年度実施  
「鳥取大学の教育力」  
アンケート調査結果報告書

平成31年3月  
教育支援・国際交流推進機構

# 目 次

|                                |     |
|--------------------------------|-----|
| 調査の概要                          | 1   |
| ・調査の趣旨・目的                      | 1   |
| ・調査対象                          | 1   |
| ・実施方法・回収率                      | 1   |
| ・調査内容                          | 2   |
| ・調査結果の分析と報告書の構成                | 3   |
| 第 I 部 学部卒業生に対する調査結果            | 4   |
| 調査概要                           | 5   |
| 第 1 章 全学 集計結果                  | 7   |
| ・回答者全体の属性                      | 8   |
| ・総合的な満足度                       | 13  |
| ・教育・研究の充実度                     | 15  |
| ・交流活動・支援体制の充実度                 | 23  |
| ・大学での教育・学生生活を通じて習得した能力・技術・知識等  | 29  |
| ・社会に出て教育成果として役立った能力・技術・知識等     | 38  |
| ・習得度×役立ち度                      | 47  |
| ・卒年別×役立ち度                      | 48  |
| ・学んでおけば良かったこと                  | 53  |
| ・H24・H29 比較                    | 54  |
| ・キャリア教育                        |     |
| ・キャリア教育の役立ち度                   | 59  |
| ・インターンシップへの参加状況                | 64  |
| ・鳥取大学学生に必要な教育、指導               | 66  |
| ・グローバル教育（該当する学生のみ）             |     |
| ・海外研修・留学プログラムの目的               | 67  |
| ・海外研修・留学プログラムの満足度              | 68  |
| ・海外研修・留学プログラムでの能力・知識等の習得度      | 69  |
| ・海外研修・留学プログラムに対する具体的な事例等（自由記述） | 70  |
| 第 2 章 学部別 集計結果                 | 74  |
| ・地域学部                          | 75  |
| ・医学部                           | 88  |
| ・工学部                           | 101 |
| ・農学部                           | 114 |
| 第 II 部 大学院修了生に対する調査結果          | 127 |

|                                    |       |
|------------------------------------|-------|
| 調査概要                               | 1 2 8 |
| ・回答者全体の属性                          | 1 2 9 |
| ・総合的な満足度                           | 1 3 4 |
| ・教育・研究の充実度                         | 1 3 7 |
| ・大学院での研究・専門教育を通じて習得した能力・技術・知識等     | 1 4 3 |
| ・社会に出て教育成果として役立った能力・技術・知識等         | 1 5 2 |
| ・習得度×役立ち度                          | 1 6 1 |
| ・習得した能力×もっと学んでおきたかった能力             | 1 6 2 |
| <br>                               |       |
| 第Ⅲ部 就職先企業に対する調査結果                  | 1 6 3 |
| 調査概要                               | 1 6 4 |
| 第1章 回答企業の属性・新卒者一般に関する回答            | 1 6 5 |
| ・回答企業の属性                           | 1 6 6 |
| ・新卒採用時に重視する能力・態度等                  | 1 6 8 |
| ・学部卒業生・大学院修了生に求める能力・態度等の違い         | 1 6 9 |
| 第2章 本学卒業生に関する回答                    | 1 7 2 |
| ・本学卒業生の採用実績                        | 1 7 3 |
| ・本学卒業生のイメージ                        | 1 7 5 |
| ・新卒採用時に重視する能力・態度等×身につけている能力・技術・知識等 | 1 7 9 |
| ・本学卒業生の能力・技術・知識等                   |       |
| 身につけている×もっと身につけておくべき               | 1 8 0 |
| ・教育・学生支援に対する意見・要望等（自由記述）           | 1 8 2 |
| <br>                               |       |
| 第Ⅳ部 就職先企業・学部卒業生・大学院修了生のデータ関連性      | 1 8 5 |
| ・設問項目の分析観点                         | 1 8 6 |
| ・【習得度】企業の評価×学部卒業生の自己評価             | 1 8 8 |
| ・【習得度】企業の評価×大学院修了生の自己評価            | 1 9 0 |
| ・【習得度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価           | 1 9 2 |
| ・【要望度】企業の評価×学部卒業生の自己評価             | 1 9 3 |
| ・【要望度】企業の評価×大学院修了生の自己評価            | 1 9 5 |
| ・【要望度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価           | 1 9 7 |
| ・【ギャップ度】企業の評価×学部卒業生の自己評価           | 1 9 8 |
| ・【ギャップ度】企業の評価×大学院修了生の自己評価          | 2 0 0 |
| ・【ギャップ度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価         | 2 0 2 |
| ・【不足度】企業の評価×学部卒業生の自己評価             | 2 0 3 |
| ・【不足度】企業の評価×大学院修了生の自己評価            | 2 0 5 |
| ・【不足度】卒業生・修了生の自己評価×企業の評価           | 2 0 7 |

まとめ・・ 208

資料・・ 217

・平成24年度・平成29年度調査の比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 218

・「鳥取大学の教育力アンケート」調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 224

## 調査の概要

### 1. 調査の趣旨・目的

本学では、基本理念「知と実践の融合」のもと、学則で教育の目標を定めるとともに、これを「教育グランドデザイン」として具現化し、「現代的教養と人間力を根底に置いた教育」を展開することによって、「社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成」を目指している。

これまでに、学外者等からの客観的な意見を聴取し、本学の教育内容等の改善に活かすことを目的として、第1期（平成19年度）及び第2期（平成24年度）に、本学の卒業生等へのアンケート調査を全学的に実施し、学生の本学に対する満足度、在学中に習得した能力・知識の習得度、社会に出てからの役立ち度等について分析を行ない、教育改善等に活用してきた。

<参考：過去の実施状況>

| 実施年度       | 対 象                              | 卒業・修了年度             | 備 考                          |
|------------|----------------------------------|---------------------|------------------------------|
| 平成<br>19年度 | 学部卒業生<br>大学院修了生                  | 平成11年3月<br>～平成16年3月 | 日経リサーチ<br>(21世紀大学経営協会)       |
| 平成<br>24年度 | 学部卒業生<br>大学院修了生<br>卒業（修了）生の就職先企業 | 平成20年3月<br>～平成24年3月 | 鳥取大学の教育力アンケート<br>報告書としてHPで公表 |

第3期中期目標期間においては、「学部・研究科における教育効果及び学生が身につけた能力等を検証するため、学生の成績情報等を基に学習成果を可視化するとともに、卒業生（修了生）及び就職先企業に対するアンケートを3年毎に実施し、その結果を教育プログラムの改善に活用する。」ことを明確に計画として掲げている。そこで、前回（平成24年度）調査後から5年が経過した平成29年度に、卒業生・修了生から見た本学の教育効果とその役立ち度、また、前回調査から引き続き、就職先企業から見た本学学生の学修成果を把握することを目的として、アンケート調査を実施した。

アンケート調査項目は、過去の調査データとの比較を行うため、原則として前回調査を踏襲することとした。ただし、前回調査において、卒業生・修了生からの本学の外国語学習や海外留学制度、学修成果の一つである「語学など国際化への対応能力」への評価が低かったこと、就職先企業からももっと身に付けておくべき能力として強く求められていたことをふまえ、平成24年度に採択されたグローバル人材育成推進事業後に改革が進められた「グローバル教育」に関する調査項目を学部卒業生に追加した。

併せて、平成24年度からキャリア入門必修化、キャリア教育の体系化を図ってきた「キャリア教育」についても、学部卒業生の調査票に追加した。

### 2. 調査対象

- 調査対象とする学部及び大学院、就職先企業及び期間は、以下のとおりである。

|         |   |
|---------|---|
| 学 部     | 地域学部、医学部、工学部、農学部  |
| 大学院     | 地域学研究科、医学系研究科、工学研究科、農学研究科   |
| 就職先企業   | 上記の卒業生・修了生の就職先企業  |
| 卒業・修了年月 | 平成25年3月～平成29年3月<br>*社会に出てからの教育成果の役立ち度を問うため、卒業（修了）後、1年以上が経過した学生を対象とする。 |

### 3. 実施方法・回収率

- 学務支援システムに登録された、卒業生・修了生の保証人データを利用して、保証人先へア

- ンケート用紙を送付し協力依頼を行った。
- 教育支援・国際交流推進機構キャリアセンターが保有する卒業生・修了生の就職先企業のデータを利用して、企業へアンケート用紙を送付し協力依頼を行った。
  - アンケート用紙は、調査対象者（卒業生・修了生・就職先企業）が記入後、日本郵便株式会社の料金受取人払いにより返送することで回収を行った（回収されたアンケートは外注のうえ、データ化すると共に、グラフ化を行い分析した。）。
  - アンケートは、平成 30 年 3 月下旬に送付を行い、平成 30 年 5 月末に返送を締切った。回収率は以下のとおりである。

| 対 象    | 送 付 数       | 回 答 数 | 回 収 率 | 有効回収率 |
|--------|-------------|-------|-------|-------|
| 学部卒業生  | 5,606 (342) | 558   | 10.0% | 10.6% |
| 大学院修了生 | 1,534 (114) | 196   | 12.8% | 13.8% |
| 就職先企業  | 1,963 ( 82) | 462   | 23.5% | 24.6% |

\*送付数の（ ）内は、住所不明等による日本郵便株式会社からの返却数を示す（内数）。

#### 4. 調査内容（別紙調査票のとおり）

アンケート調査票は、学部卒業生用・大学院修了生用・就職先企業用の3種類とする。主な内容及び調査項目は、次のとおりである。

|          |   |
|----------|---|
| 【卒業生】    | Q 1：基本属性（性別／卒業時期／卒業した学部学科）<br>Q 2：現在の職業・業種<br>Q 3：鳥取大学の教育と研究の充実度<br>Q 4：鳥取大学の交流活動とサポート体制の充実度<br>Q 5：鳥取大学に対する総合的な満足度<br>Q 6：鳥取大学での能力・技術・知識等の習得度<br>Q 7：鳥取大学での学修成果の役立ち度<br>Q 8：社会に出てから役立った具体的な事例（自由記述）<br>Q 9：教育・学生支援の改善に対する意見・要望等（自由記述）<br>キャリア教育<br>Q10：キャリア教育の役立ち度<br>Q11：インターンシップへの参加状況<br>Q12：鳥取大学学生に必要な教育、指導<br>グローバル教育（該当する学生のみ）<br>Q13：海外研修・留学プログラムの目的<br>Q14：海外研修・留学プログラムの満足度<br>Q15：海外研修・留学プログラムでの能力・知識等の習得度<br>Q16：海外研修・留学プログラムに対する具体的な事例等（自由記述） |
| 【大学院修了生】 | Q 1：基本属性（性別／修了時期／修了した研究科専攻）<br>Q 2：現在の職種・業種<br>Q 3：鳥取大学大学院の教育や研究の充実度<br>Q 4：鳥取大学大学院に対する総合的な満足度<br>Q 5：鳥取大学大学院での能力・技術・知識等の習得度<br>Q 6：鳥取大学大学院での学修成果の役立ち度<br>Q 7：社会に出てから役立った具体的な事例（自由記述）<br>Q 8：研究指導の改善に対する意見・要望等（自由記述）  |
| 【就職先企業】  | Q 1：従業員規模<br>Q 2：業種<br>Q 3：本社所在地  |

|  |   |
|--|---|
|  | Q 4 : 新卒採用活動で重視する学生の能力・態度等<br>Q 5 : 学部卒業生・大学院修了生に求める能力・態度等の違い<br>Q 6 : 鳥取大学卒業生の採用実績（人数）<br>Q 7 : 鳥取大学卒業生の採用実績（学部・研究科）<br>Q 8 : 鳥取大学卒業生のイメージ<br>Q 9 : 鳥取大学卒業生の能力・技術・知識等<br>Q10 : 教育・学生支援に対する意見・要望等（自由記述） |
|--|---|

## 5. 調査結果の分析と報告書の構成

調査結果については、第Ⅰ部（学部卒業生）は入学センター山田准教授、第Ⅱ部（大学院修了生）は教育センター井上准教授、小林准教授、第Ⅲ部（就職先企業）についてはキャリアセンター長尾准教授、前回調査との比較については、学長室大野教授が中心となり、それぞれ分析・とりまとめを行った。

第Ⅰ部は、「学部卒業生」に対する調査結果であり、主に本学の教育・研究等に対する満足度、大学での教育成果、卒業後の教育成果の役立ち度について、第1章では大学全体、第2章では各学部毎の結果について分析を行っている。併せて、平成24年度のアンケート結果との比較も行っている。

第Ⅱ部は、「大学院修了生」に対する調査結果であり、学部卒業生と同様に、主に本学大学院の教育・研究内容の充実度、大学院での教育成果、社会へ出てからの教育成果の役立ち度について分析を行っている。

第Ⅲ部は、「就職先企業」に対する調査結果であり、第1章として企業が一般的に採用時に重視する学生の能力・態度等について、第2章では、企業から見た本学卒業生の印象、能力・技術・態度等について分析を行っている。

第Ⅳ部は、就職先企業・学部卒業生・大学院修了生への調査で共通する学部・研究科における教育成果について、関連性の分析を行っている。

# 第 I 部

## 学部卒業生に対する 調査結果



## 2 調査概要1/2

### 1. 目的

学部卒業生を対象として、本学が実施した教育の効果ならびに学生が身につけた学習の成果等を把握する。

また、平成24年度より全学で推進してきた、キャリア教育ならびにグローバル教育に関して、その成果等を把握する。

### 2. 対象

平成25年3月～平成29年3月卒業生(過去5か年)

### 3. 実施・回収時期

平成30年3月下旬に対象者へ送付、5月末迄回収

### 4. 実施方法

卒業生の保証人へ調査票を送付し回答依頼、郵便局の料金受取人払いによる回収。

### 5. サンプル件数

5,606件送付、558件回収(回収率10.0%)

## 6. アンケート項目

- Q1 : 基本属性(性別/卒業時期/卒業した学部学科)
- Q2 : 現在の職業/業種
- Q3 : 鳥取大学の教育と研究の充実度
- Q4 : 鳥取大学の交流活動とサポート体制の充実度
- Q5 : 鳥取大学に対する総合的な満足度
- Q6 : 鳥取大学での能力・技術・知識等の習得度
- Q7 : 鳥取大学での学修成果の役立ち度
- Q8 : 社会に出てから役立った具体的な事例(自由記述)
- Q9 : 教育・学生支援に対する意見・要望等(自由記述)

## &lt;キャリア教育(回答数 522件)&gt;

- Q10 : キャリア教育の役立ち度
- Q11 : インターンシップへの参加状況
- Q12 : 鳥取大学学生に必要な教育・指導

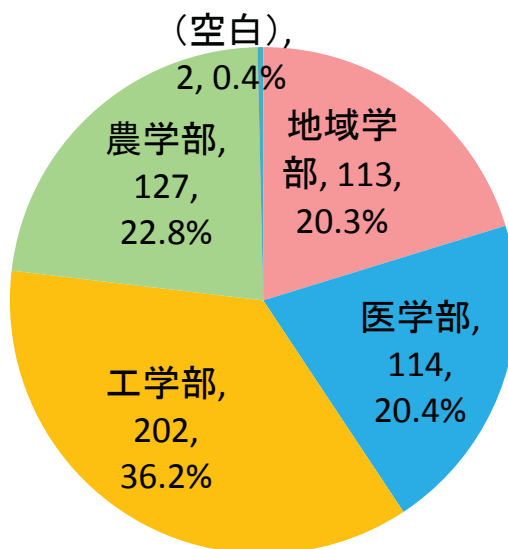
## &lt;グローバル教育(回答数 104件)&gt;

- Q13 : 海外研修・留学プログラムの目的
- Q14 : 海外研修・留学プログラムの満足度
- Q15 : 海外研修・留学プログラムでの能力・知識等の習得度
- Q16 : 海外研修・留学プログラムに対する具体的な事例等  
(自由記述)

# 第1章 全学 集計結果

## 【学部別・全体】

| 地域学部  | 医学部   | 工学部   | 農学部   | (空白) | 計      |
|-------|-------|-------|-------|------|--------|
| 113   | 114   | 202   | 127   | 2    | 558    |
| 20.3% | 20.4% | 36.2% | 22.8% | 0.4% | 100.0% |



## 【学部別 × 学科別】

| 地域学部 | 政策    | 教育    | 文化    | 環境    | 計      |
|------|-------|-------|-------|-------|--------|
|      | 29    | 36    | 24    | 24    | 113    |
|      | 25.7% | 31.9% | 21.2% | 21.2% | 100.0% |

| 医学部 | 医     | 生命    | 看護    | 検査    | (空白) | 計      |
|-----|-------|-------|-------|-------|------|--------|
|     | 32    | 22    | 40    | 18    | 2    | 114    |
|     | 28.1% | 19.3% | 35.1% | 15.8% | 1.8% | 100.0% |

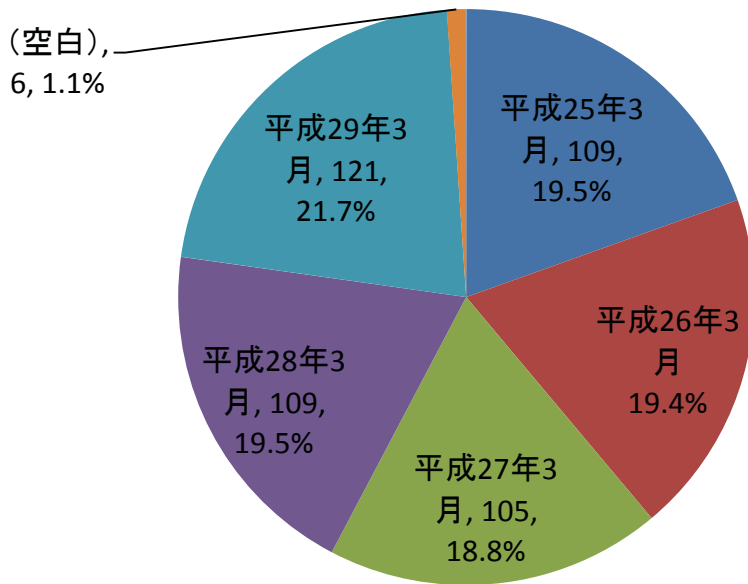
| 工学部 | 機械    | 知能    | 電電    | 物質    | 生応   | 土木    | 社シス   | 応数    | 計      |
|-----|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|--------|
|     | 27    | 22    | 31    | 25    | 17   | 26    | 33    | 21    | 202    |
|     | 13.4% | 10.9% | 15.3% | 12.4% | 8.4% | 12.9% | 16.3% | 10.4% | 100.0% |

| 農学部 | 生物    | 獣医    | 計      |
|-----|-------|-------|--------|
|     | 108   | 19    | 127    |
|     | 85.0% | 15.0% | 100.0% |

# 回答者全体の属性2/5 卒年

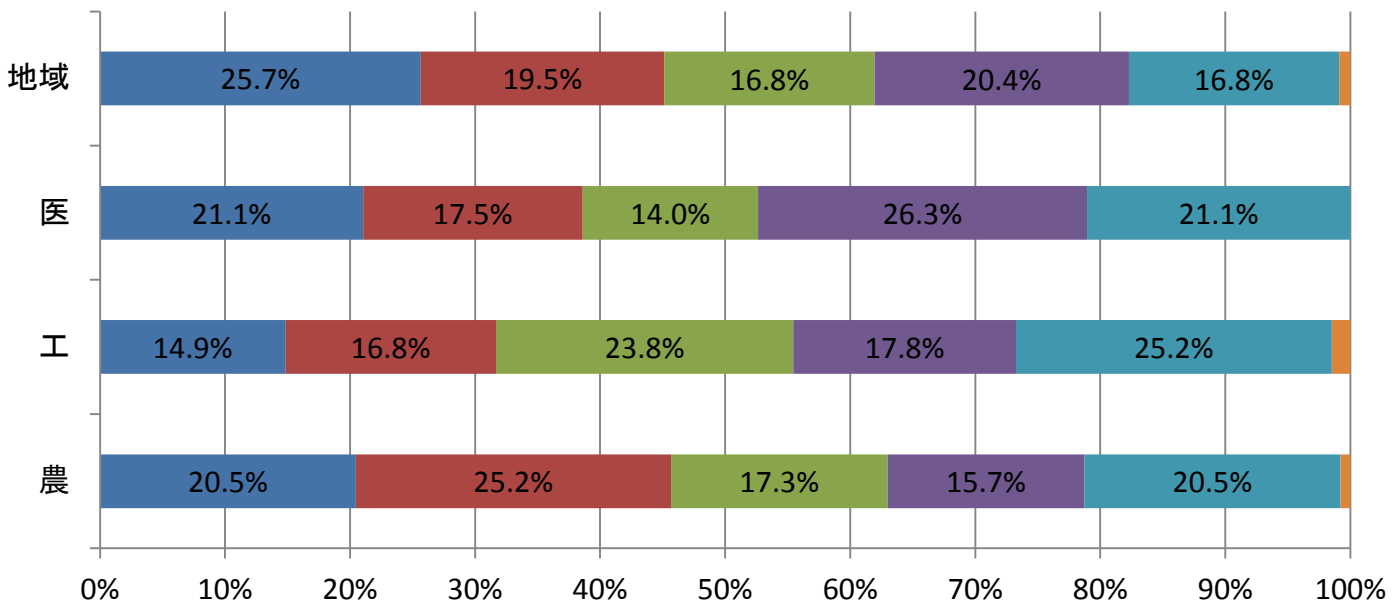
## 【卒年別・全体】

| 平成25年3月 | 平成26年3月 | 平成27年3月 | 平成28年3月 | 平成29年3月 | (空白) | 計      |
|---------|---------|---------|---------|---------|------|--------|
| 109     | 108     | 105     | 109     | 121     | 6    | 558    |
| 19.5%   | 19.4%   | 18.8%   | 19.5%   | 21.7%   | 1.1% | 100.0% |



## 【卒年別×学部別】

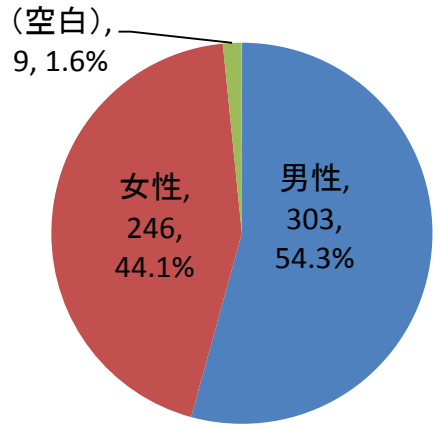
■ 平成25年3月 ■ 平成26年3月 ■ 平成27年3月 ■ 平成28年3月 ■ 平成29年3月 ■ 未回答



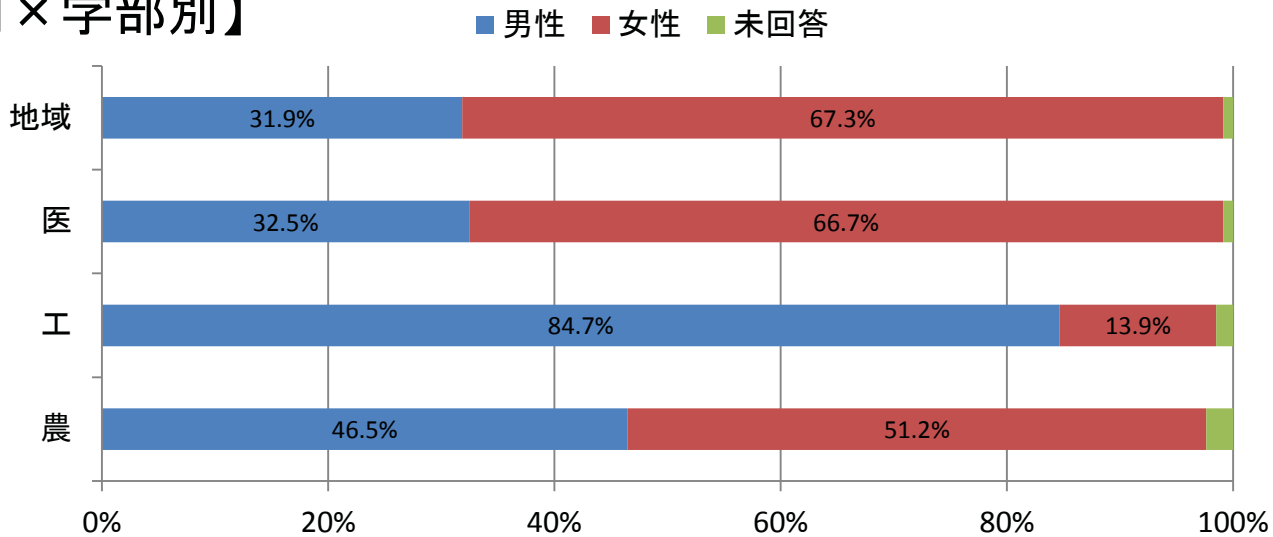
# 回答者全体の属性3/5 性別

## 【性別・全体】

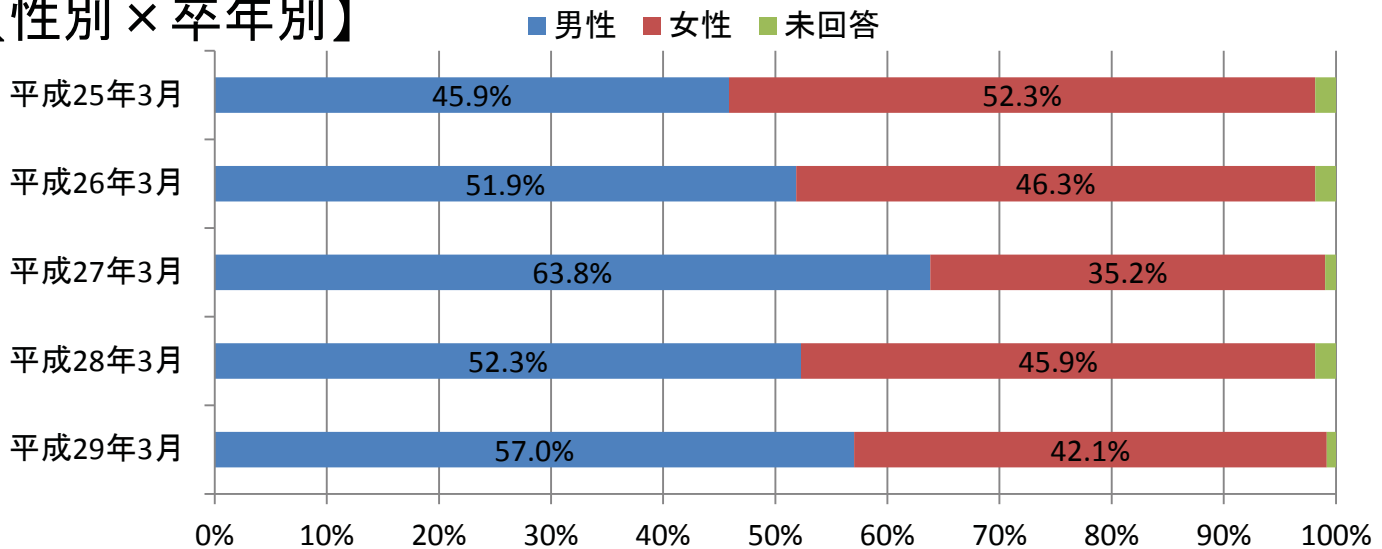
| 男性    | 女性    | (空白) | 計      |
|-------|-------|------|--------|
| 303   | 246   | 9    | 558    |
| 54.3% | 44.1% | 1.6% | 100.0% |



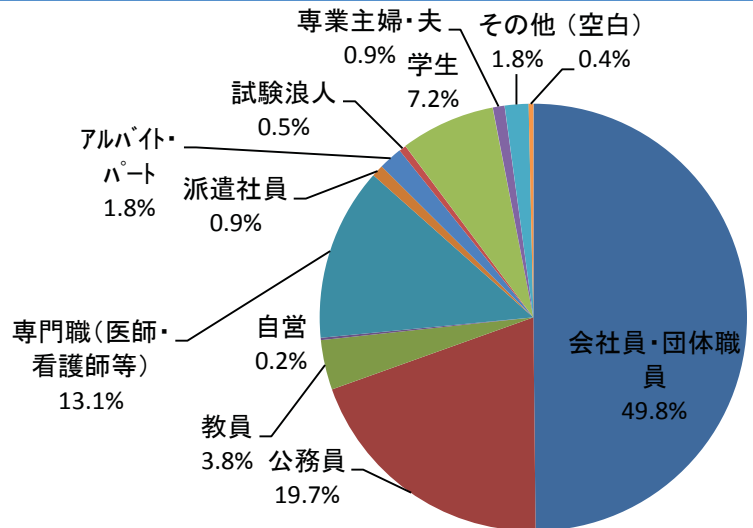
## 【性別×学部別】



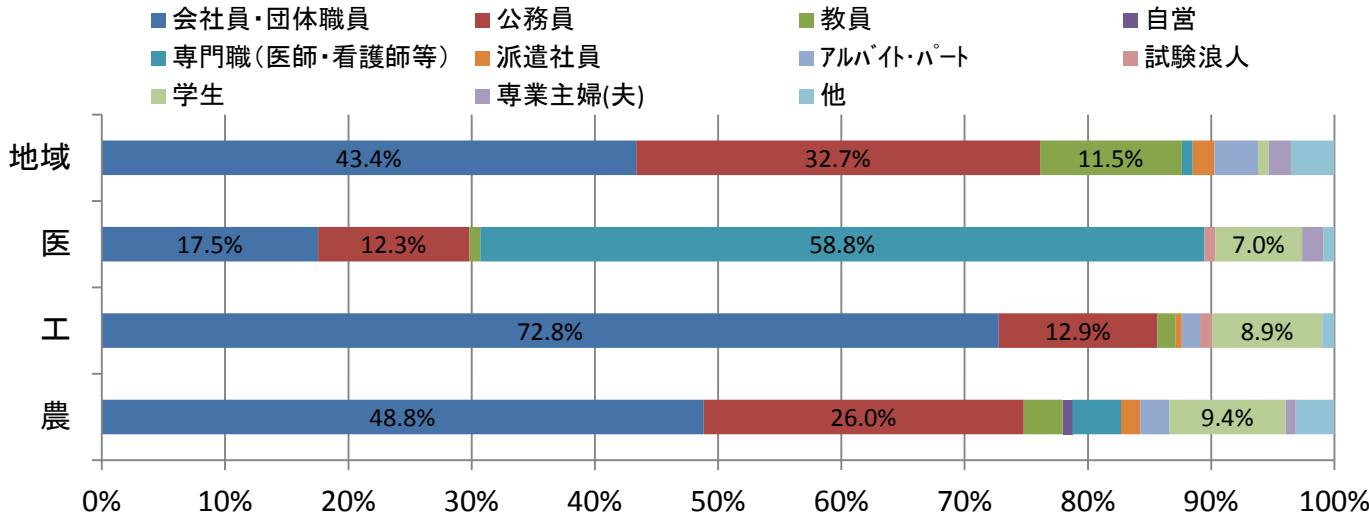
## 【性別×卒年別】



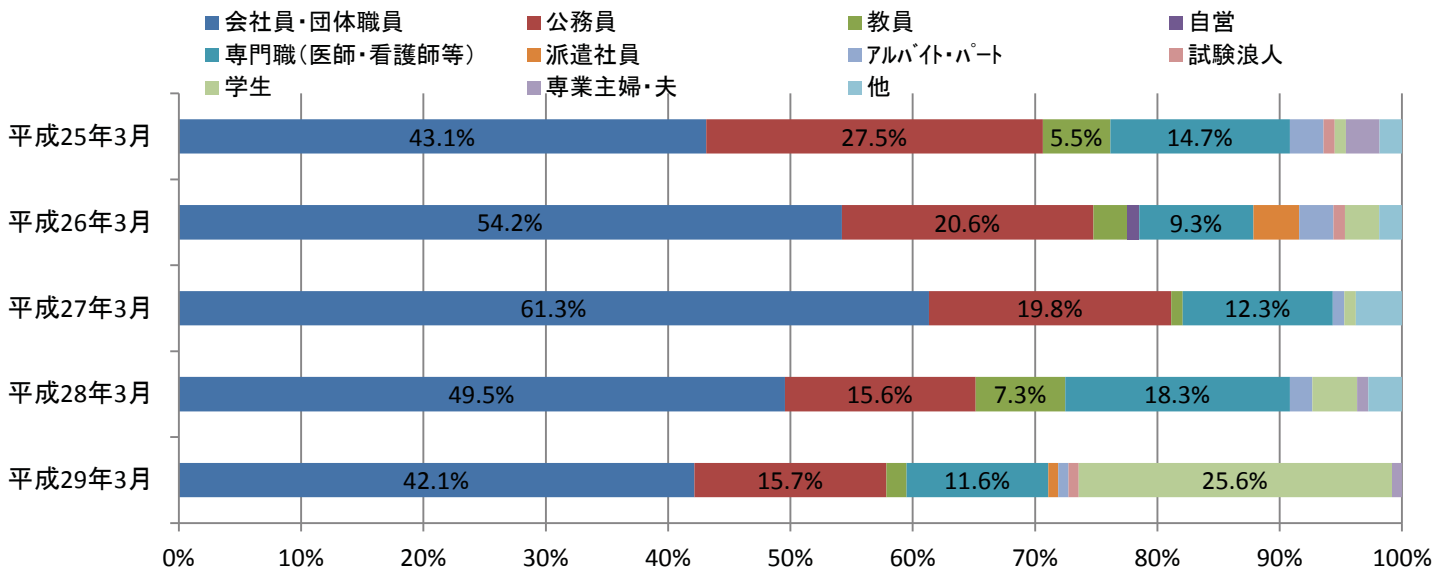
## 【現在の職業・全体】



## 【現在の職業×学部別】

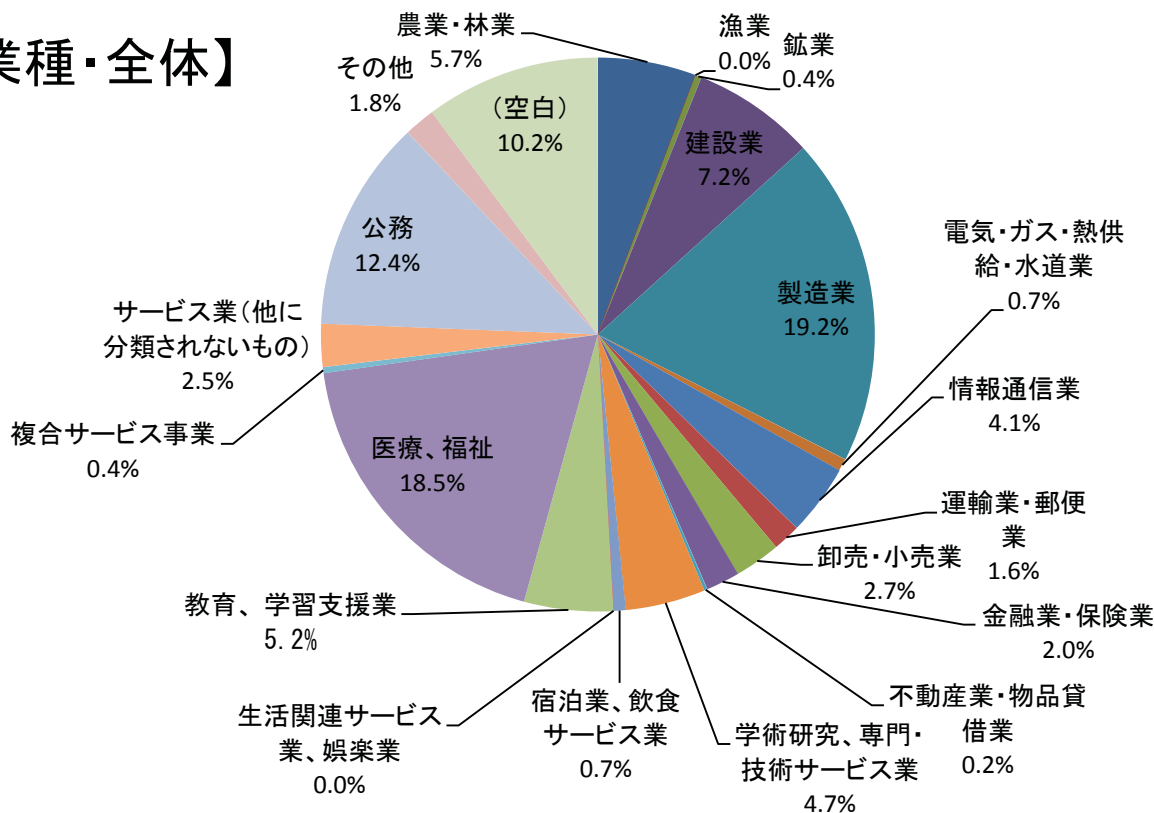


## 【現在の職業×卒年別】

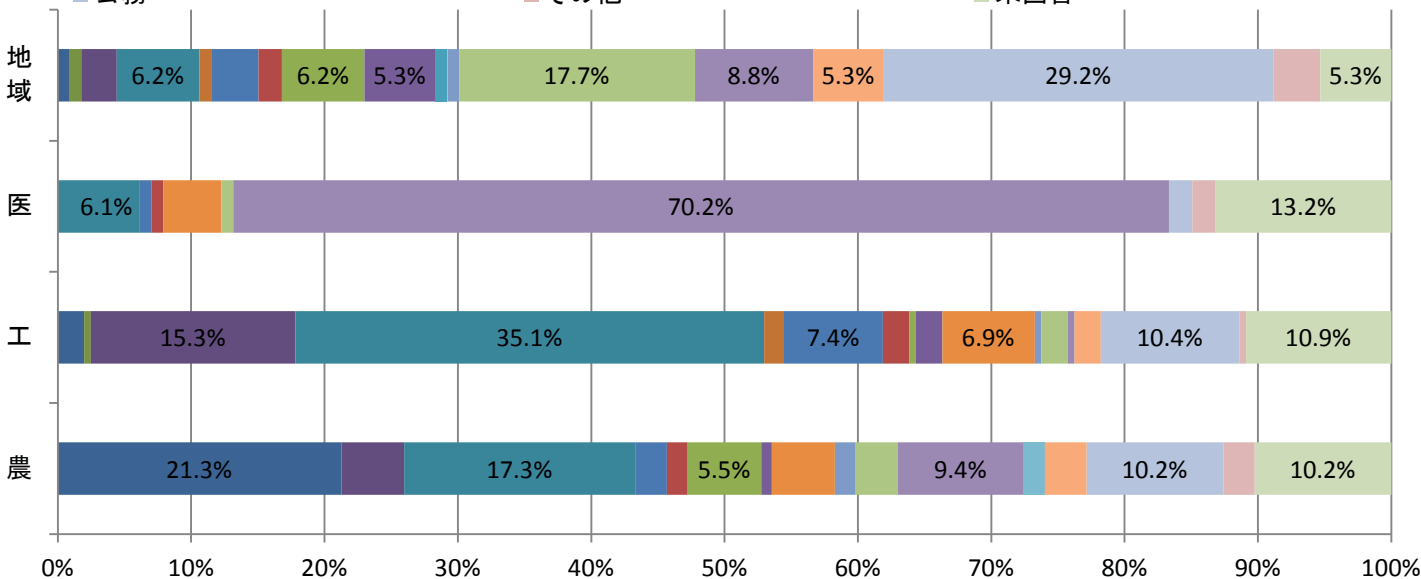
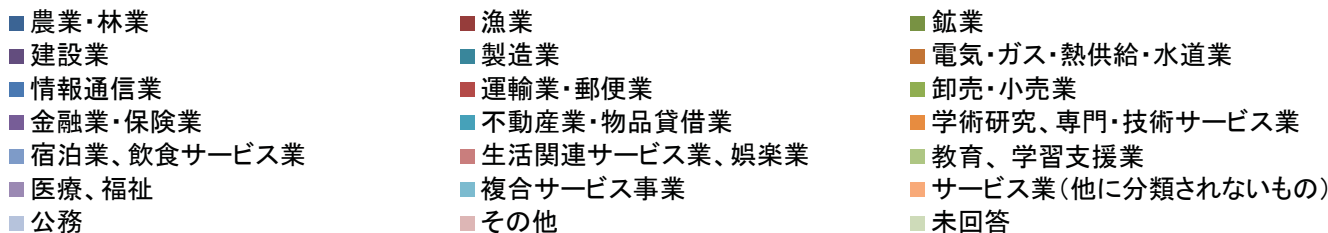


# 回答者全体の属性5/5 現在の業種

【現在の業種・全体】



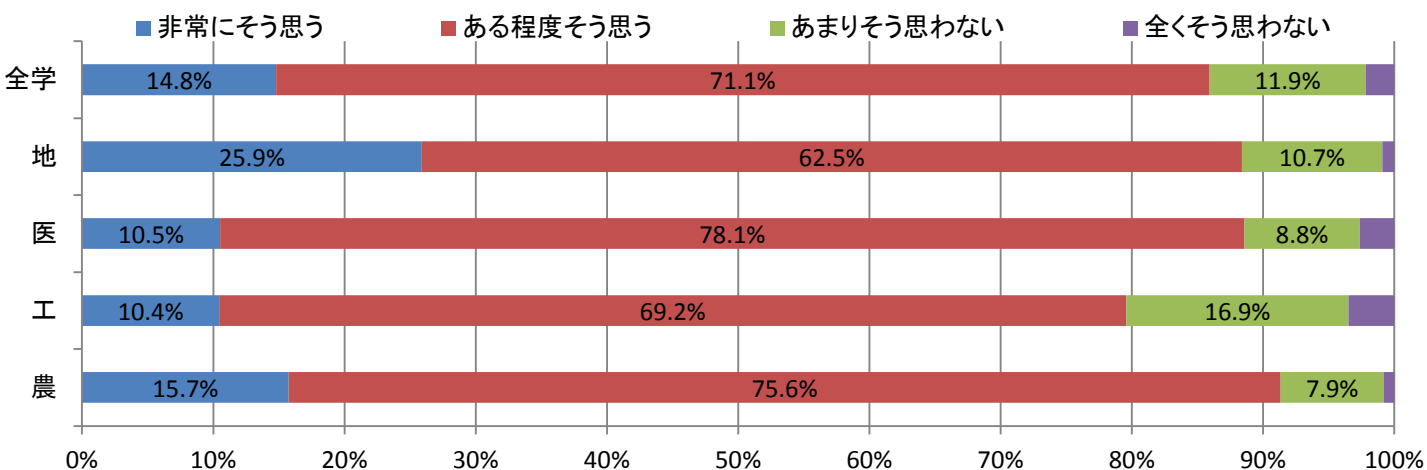
【現在の業種 × 学部別】



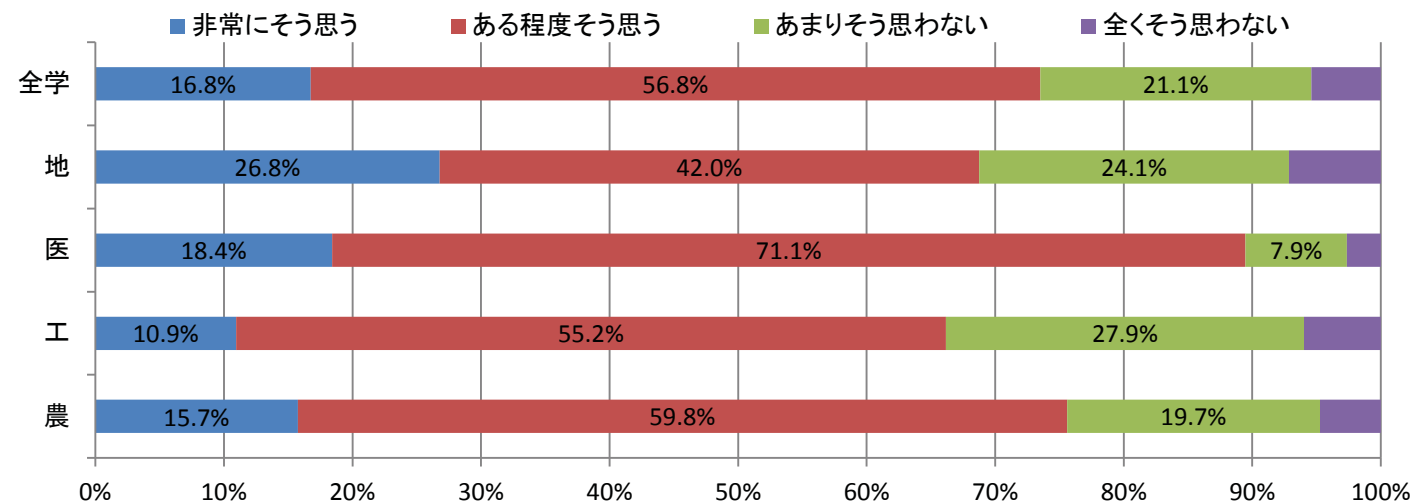


- ・「鳥取大学の教育内容に対する全体的な満足度」は、全学で85.9%が肯定回答（「非常にそう思う」+「ある程度そう思う」、以下本調査結果において同じ）をした。学部別では、農学部91.3%、医学部88.6%、地域学部88.4%で、3学部が約9割の肯定回答に対し、工学部は79.6%で約8割だった。
- ・「大学教育の卒業後の仕事や生活への役立ち度」は、全学で73.6%が肯定回答をした。学部別では、医学部が極めて最も多く89.5%だった。次いで農学部75.5%、地域学部68.8%、工学部66.1%であった。
- ・地域学部は「全体的な満足度」「役立ち度」ともに「非常にそう思う」の回答が1/4以上であり、他学部に比べ「非常にそう思う」の回答率が高かった。

### a 鳥取大学の教育内容に全体として満足



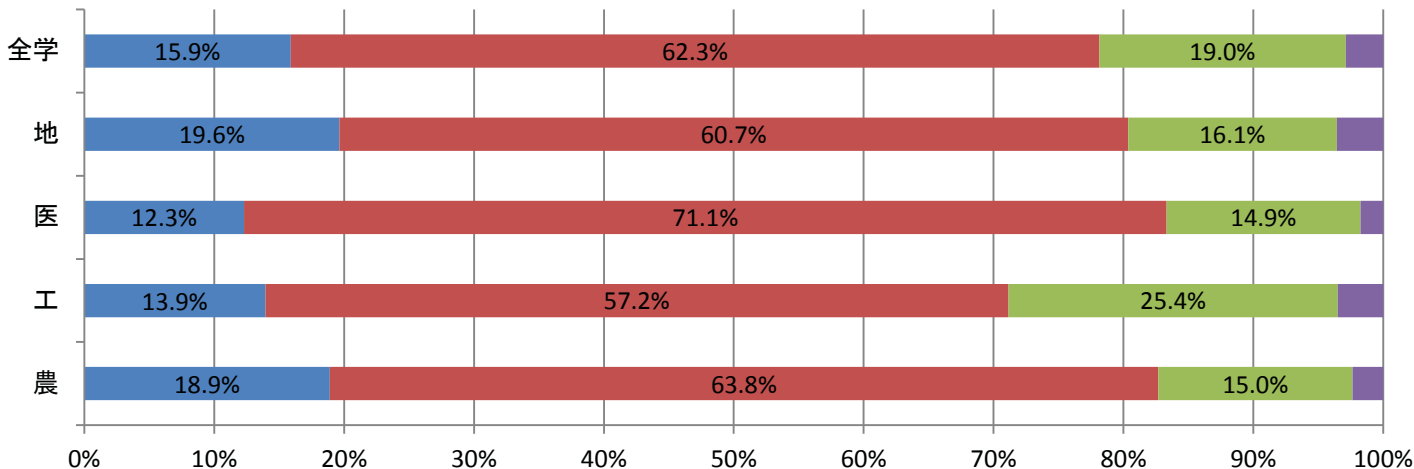
### b 大学教育は卒業後の仕事・生活で役立っている



・「高校生に対する本学受験の推奨度」は、全学で78.2%が肯定回答をした。学部別では、医学部が83.4%、農学部が82.7%、地域学部が80.3%で、3学部が8割を超える肯定回答だったが、工学部では71.1%で約7割の肯定回答であった。

### c.鳥取大学への受験を高校生に薦めたい

■ 非常にそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

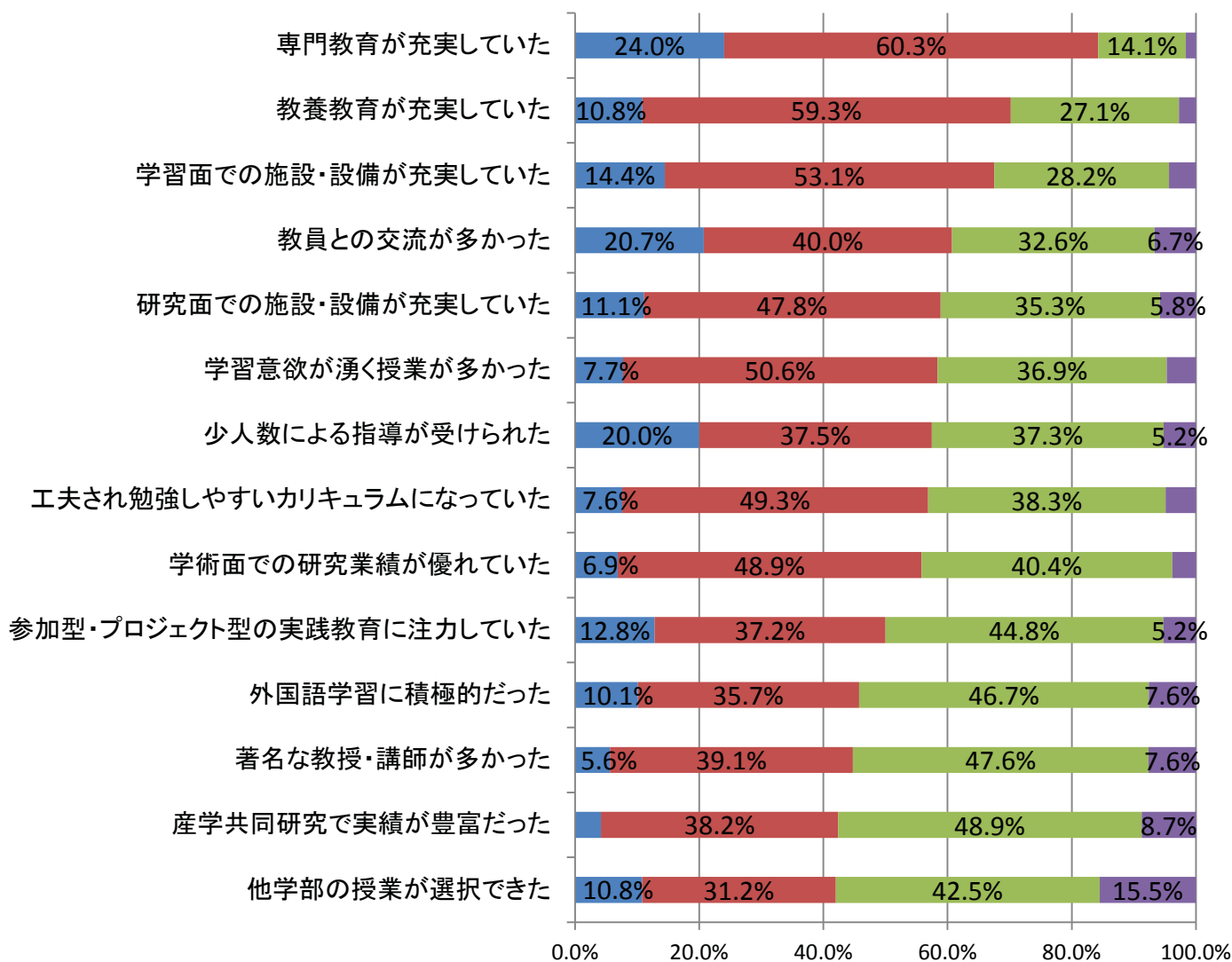


・大学の教育・研究の充実度に関する14項目のうち、「専門教育が充実していた」(84.3%)が最も多かった。最も少なかったもので「他学部の授業が選択できた」(42.0%)で、14全項目で4割以上の肯定回答を得た。

・「非常にそう思う」と強い肯定回答が2割を超えるものは、「専門教育が充実していた」(24.0%)、「教員との交流が多かった」(20.7%)、「少人数による指導が受けられた」(20.0%)の3項目だった。

## 大学の教育と研究の充実度に対する肯定回答

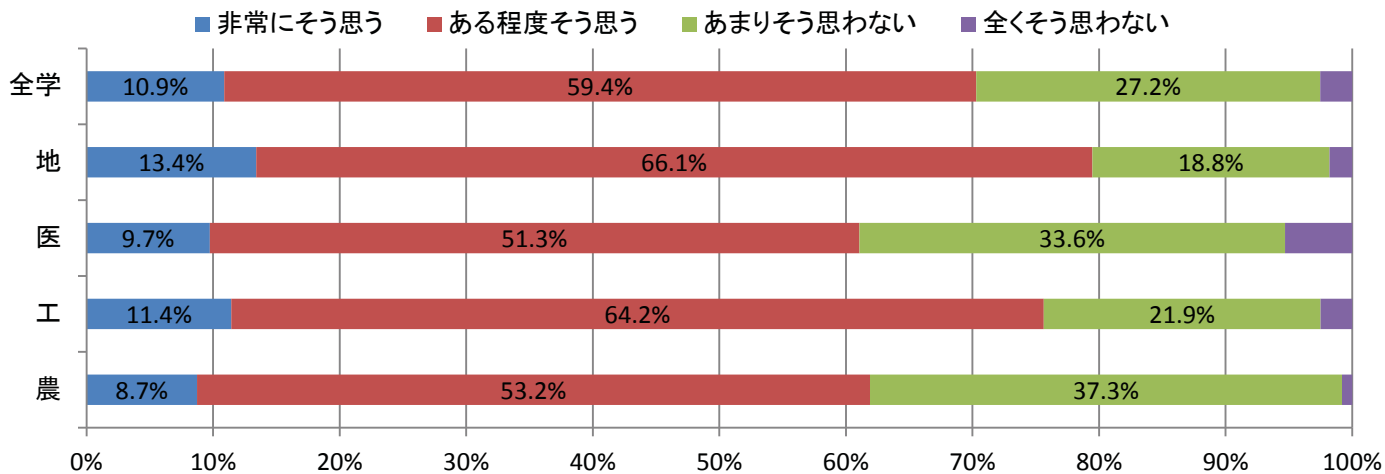
■ 非常にそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



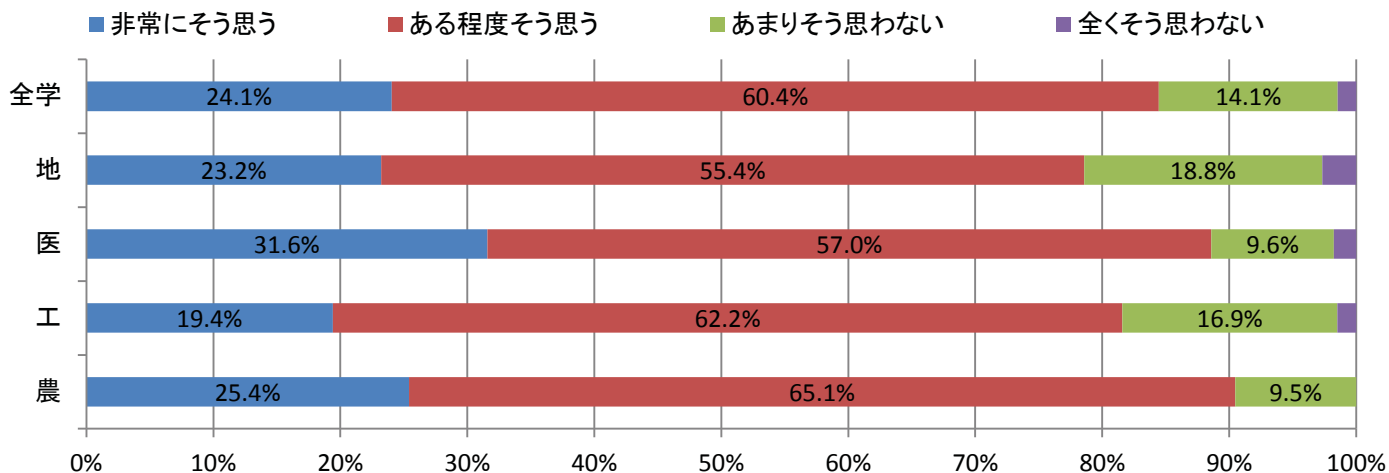
・「教養教育」の充実について、全学では約7割が肯定回答だった。地域学部と工学部では8割近い肯定回答だったが、医学部と農学部では約6割の肯定回答率だった。

・「専門教育」の充実について学部別で見ると、農学部と医学部が約9割の高い肯定回答率を得る一方、工学部と地域学部は8割前後の肯定回答で、農学部・医学部に比べ低めだった。総じて8～9割が肯定回答をしており、全学的に専門教育が充実していたという結果であった。

### a. 教養教育が充実していた



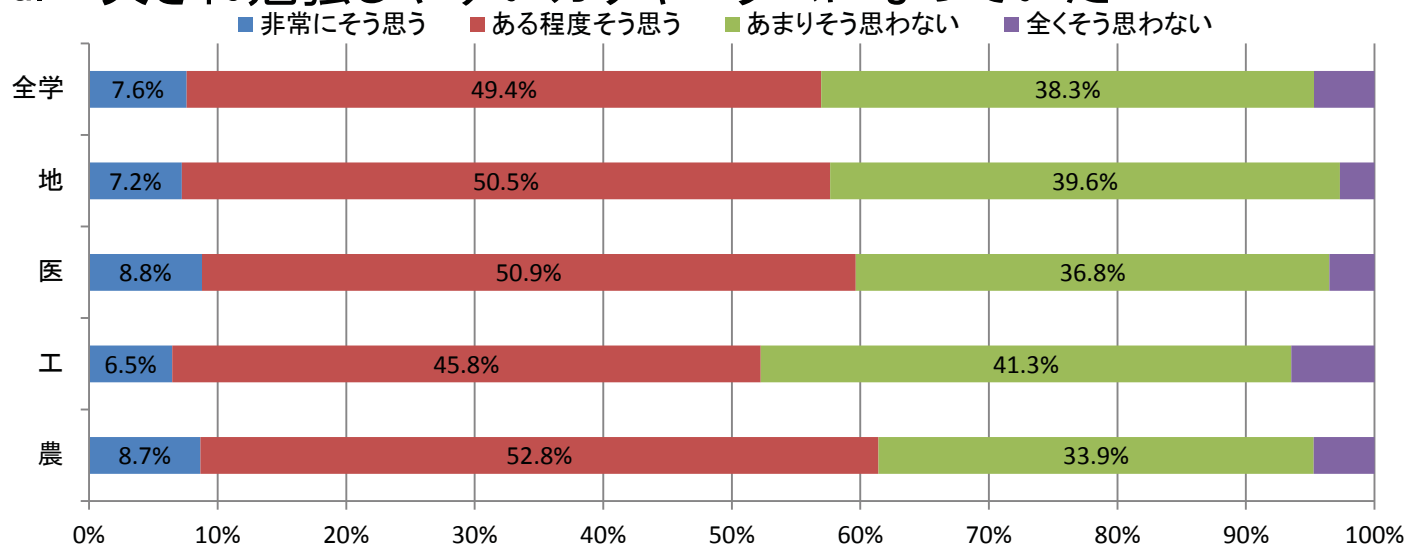
### b. 専門教育が充実していた



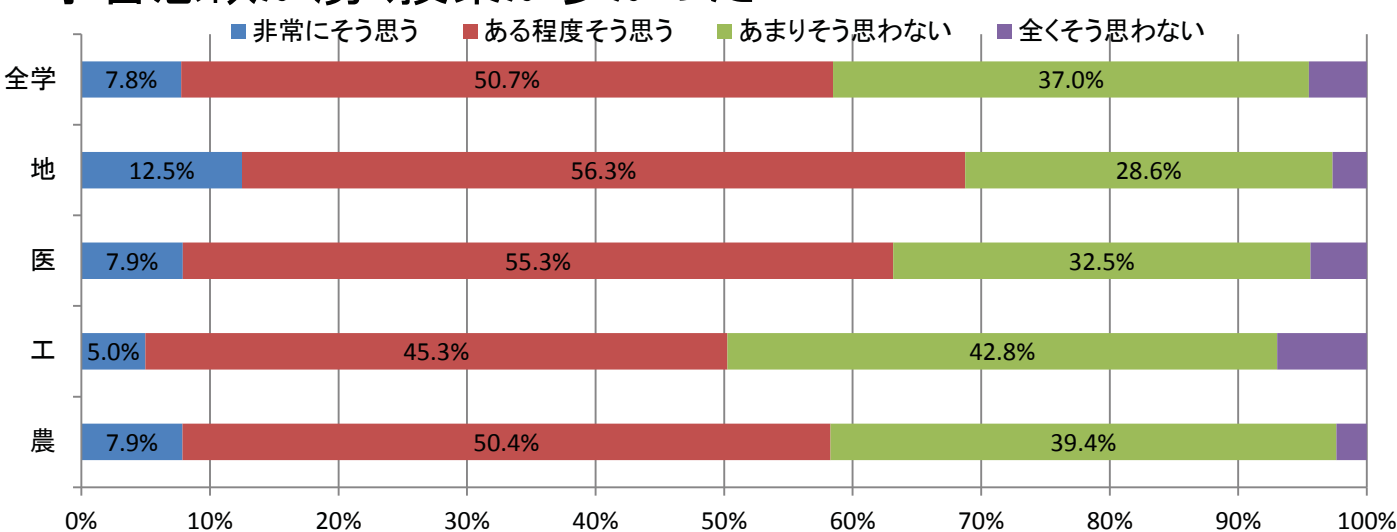
・「工夫され勉強しやすいカリキュラム」について、全学では約6割の肯定回答だった。農学部・医学部・地域学部の3学部は約6割、工学部が若干低く52.3%の肯定回答だった。

・「学習意欲が湧く授業が多かった」に関して、全学で約6割の肯定回答だった。学部間で差異があり、地域学部が最も高く68.8%、医学部で63.2%、農学部で58.3%、工学部で50.3%の肯定回答だった。

### d.工夫され勉強しやすいカリキュラムになっていた



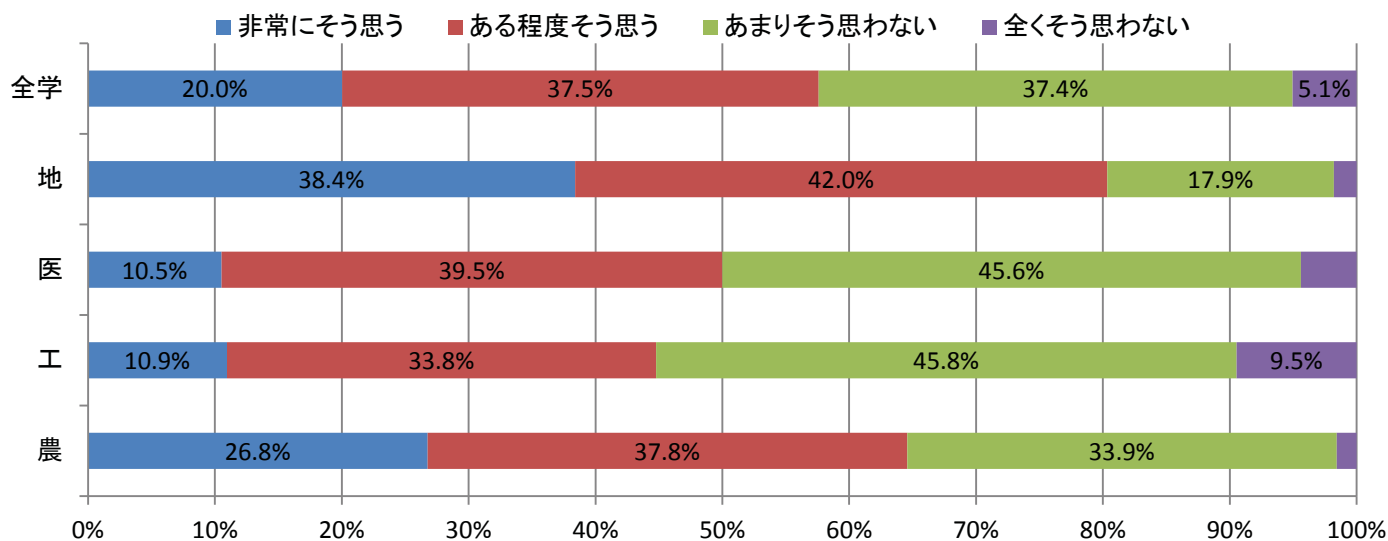
### h.学習意欲が湧く授業が多かった



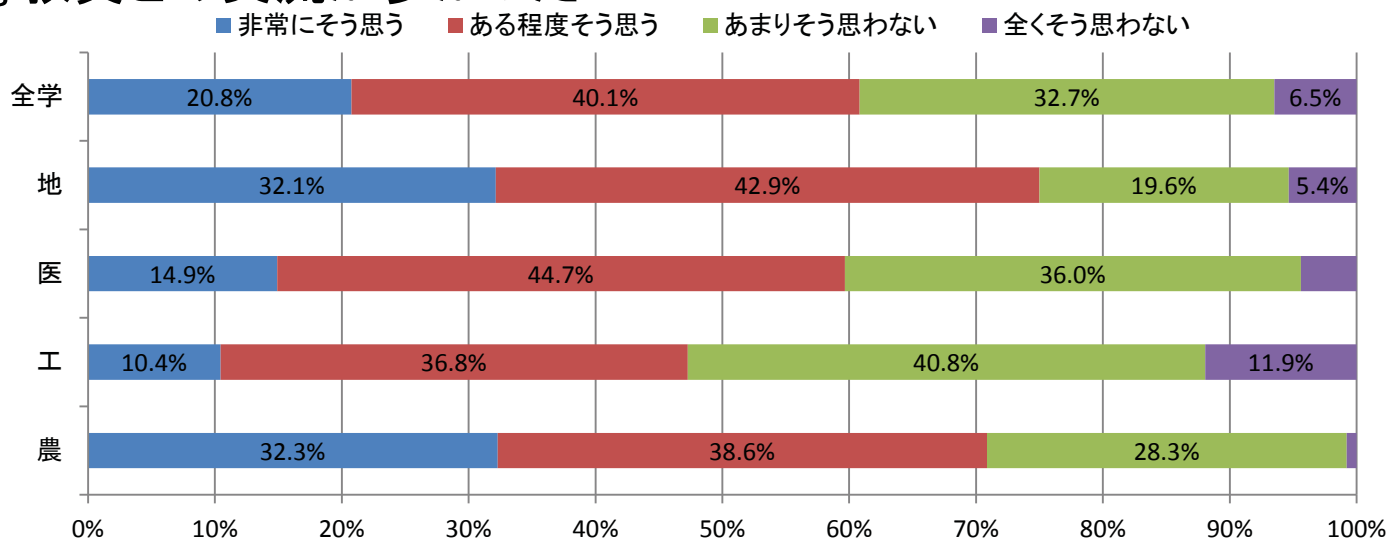
・「少人数による指導」は、学部間の差異が大きい。肯定回答について地域学部では約8割だったが、農学部で約6割5部、医学部と工学部では5割以下だった。

・「教員との交流が多かった」に関しても、学部間の差異が大きい。地域学部で7割5部、農学部で約7割、医学部で約6割、工学部で5割未満の肯定回答だった。

### f. 少人数による指導が受けられた



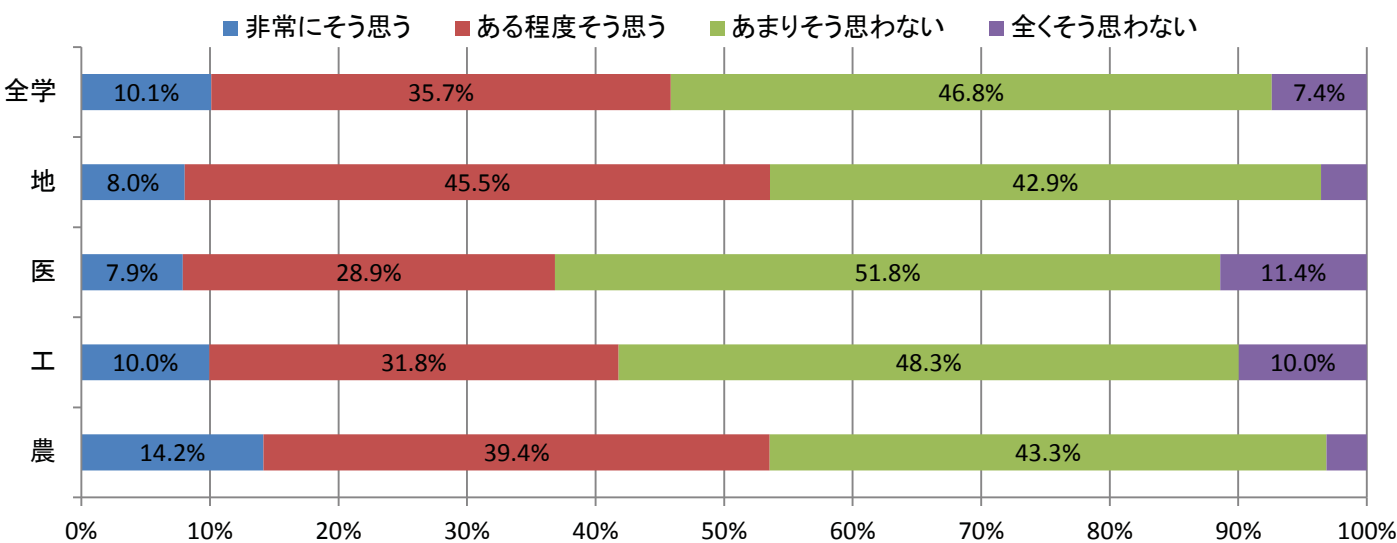
### g. 教員との交流が多かった



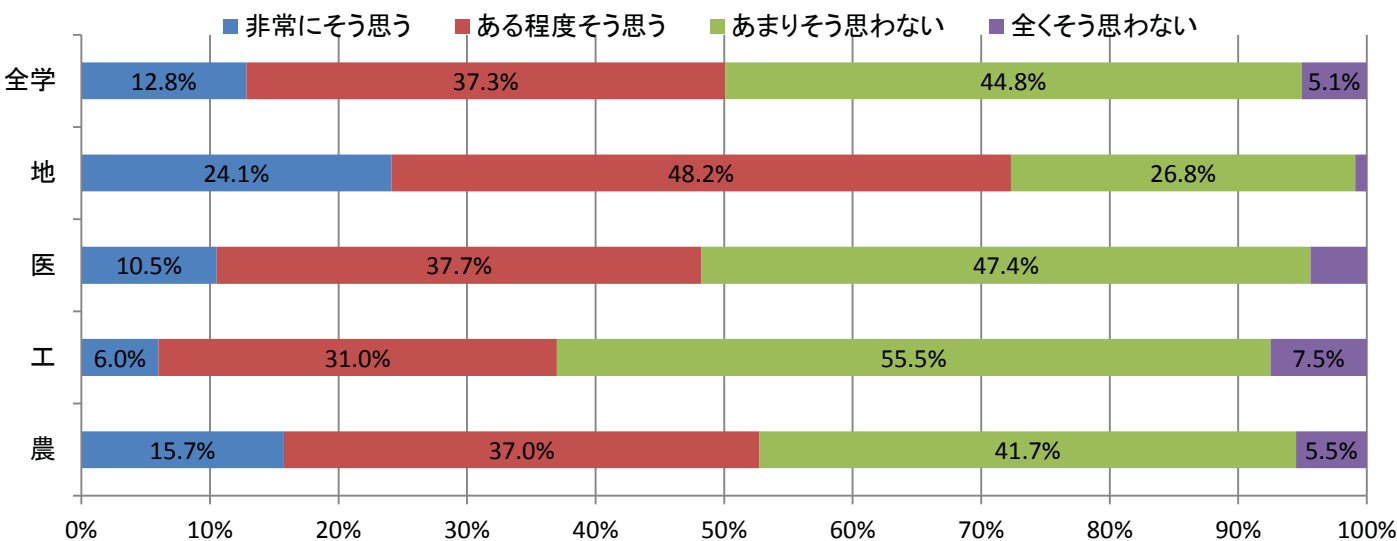
・「外国語学習に積極的」に関して、地域学部と農学部は5割を超える一方、工学部では41.8%、医学部では36.8%と低めの肯定回答だった。

・「参加型・プロジェクト型の実践教育に注力」に関して、全学では約半数が肯定回答という結果だが、学部間の差異が大きい。地域学部は7割以上である一方、農学部と医学部は約5割、工学部は4割未満の肯定回答だった。

### c. 外国語学習に積極的だった

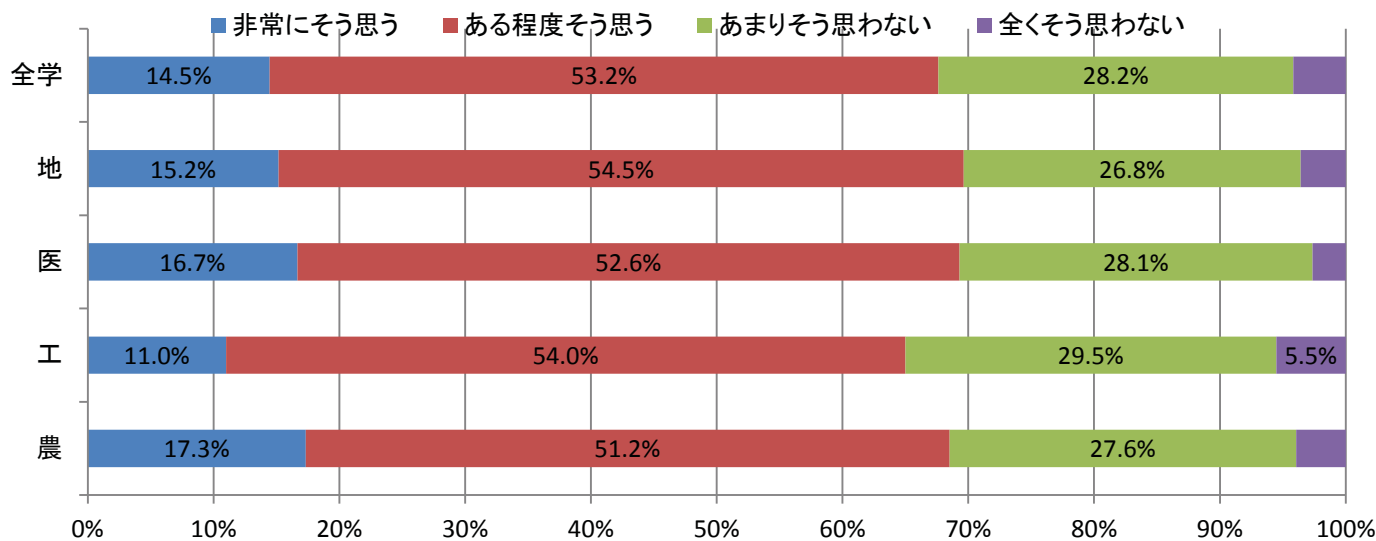


### e. 参加型・プロジェクト型の実践教育に注力していた

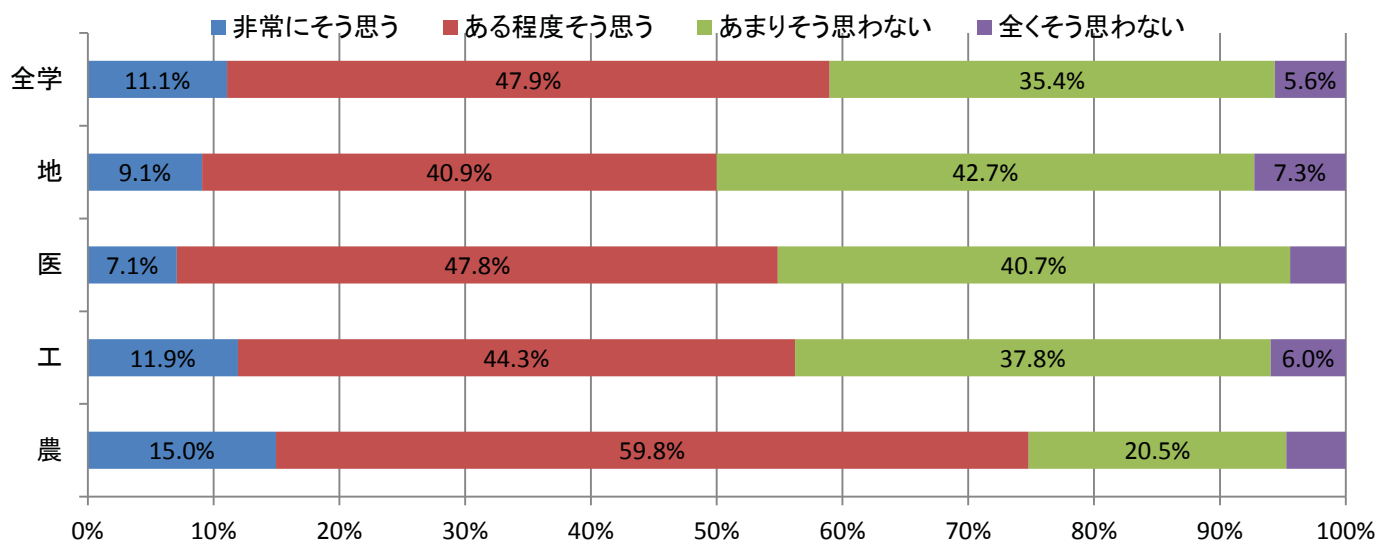


- ・「学習面での施設・設備が充実していた」と感じる卒業生は、学部にかかわらず、全学的におよそ7割弱が肯定回答をした。
- ・「研究面での施設・設備が充実していた」については、学部間での差異が表われており、農学部のみが極めて高い肯定回答であった。農学部は7割5分である一方、工学部と医学部は約5割5分、地域学部では5割という結果だった。

### j. 学習面での施設・設備が充実していた



### n. 研究面での施設・設備が充実していた

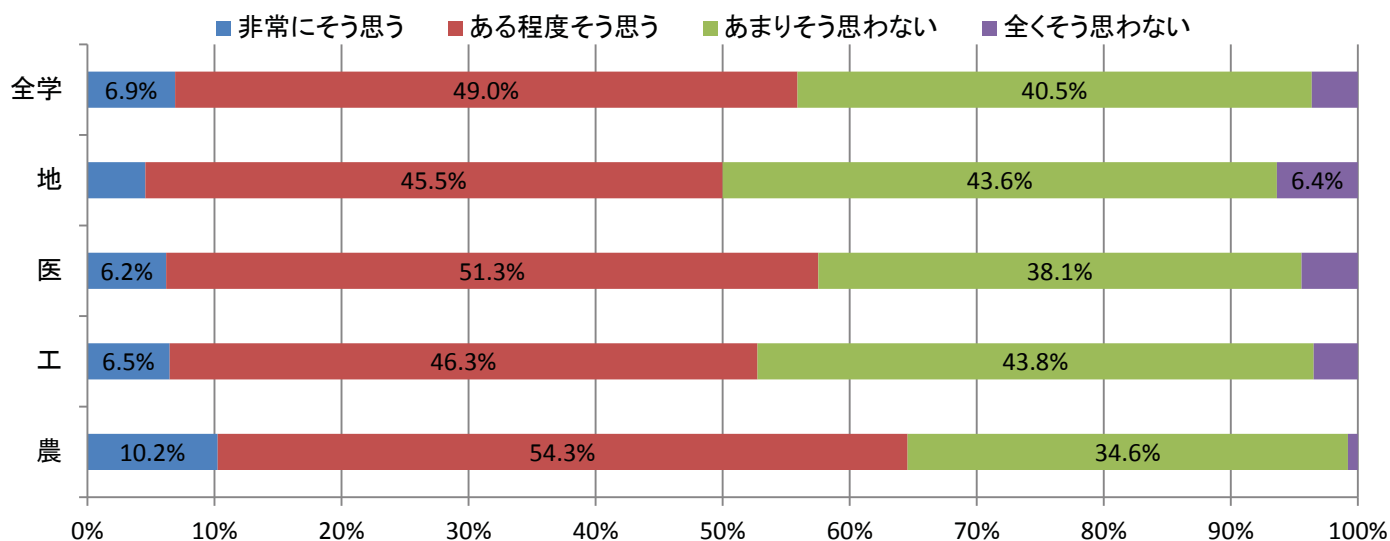




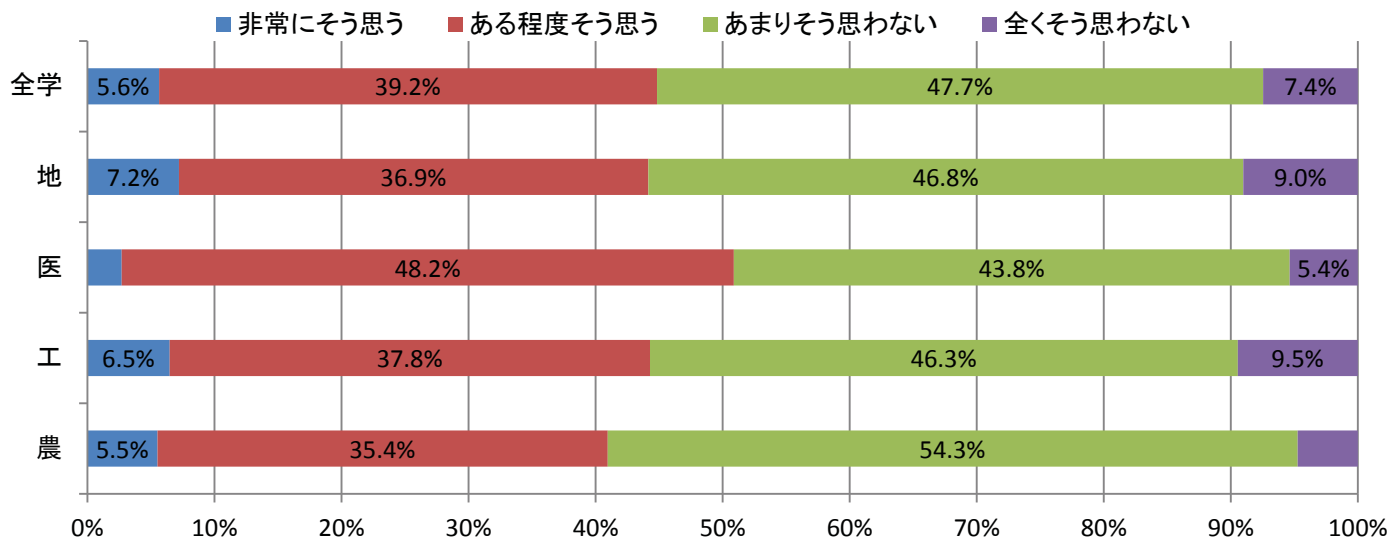
・「学術面での研究業績が優れていた」に関して、全学では約5割5分が肯定回答をしているが、学部間での差が発生している。農学部が最も高く64.5%、医学部は57.5%、工学部は52.8%、地域学部は51%であった。

・「著名な教授・講師が多かった」について、全学では4割5分が肯定回答をおり、医学部のみ5割を若干超えた結果であったが、おおよそ4~5割の肯定回答であり、大きな学部間の差異はなかった。

### l.学術面での研究業績が優れていた

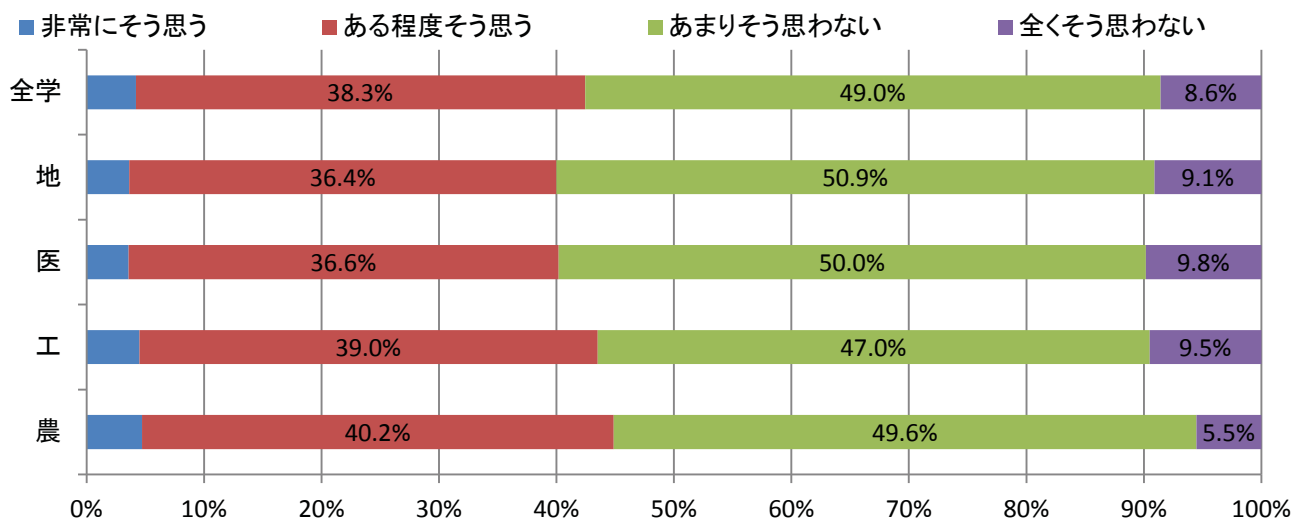


### k.著名な教授・講師が多かった

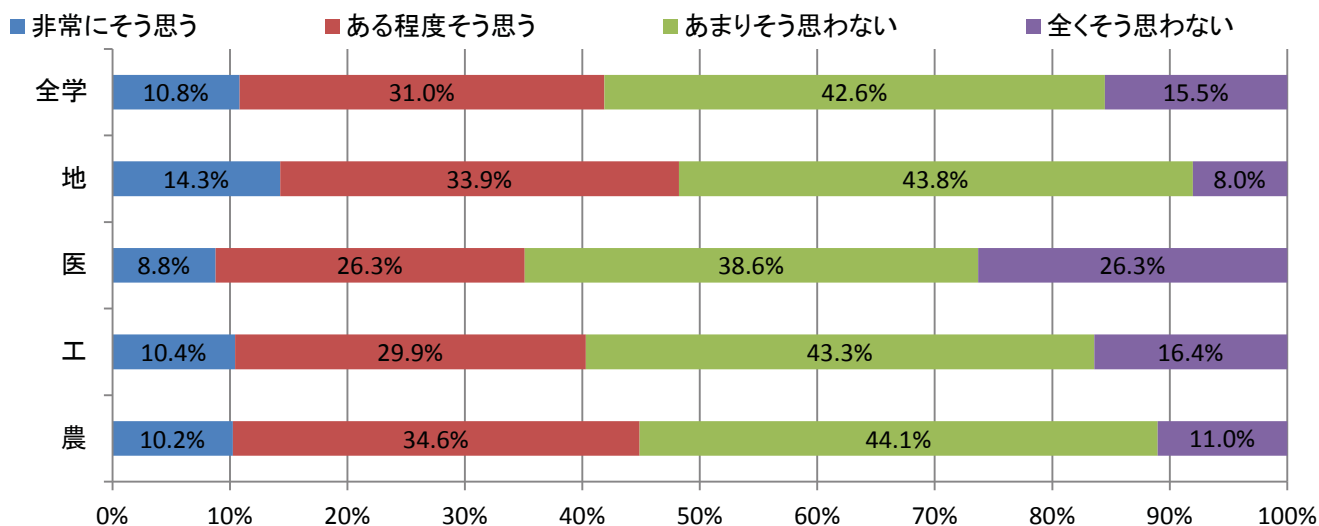


- ・「産学共同研究で実績が豊富だった」について、肯定回答は全学で約4割であり、各学部の結果もおおよそ4割であった。
- ・「他学部の授業が選択できた」について、地域学部で48.2%、農学部で44.8%、工学部で40.3%で4割を超える一方、医学部では35.1%と低めの肯定回答であった。

### m.産学共同研究で実績が豊富だった



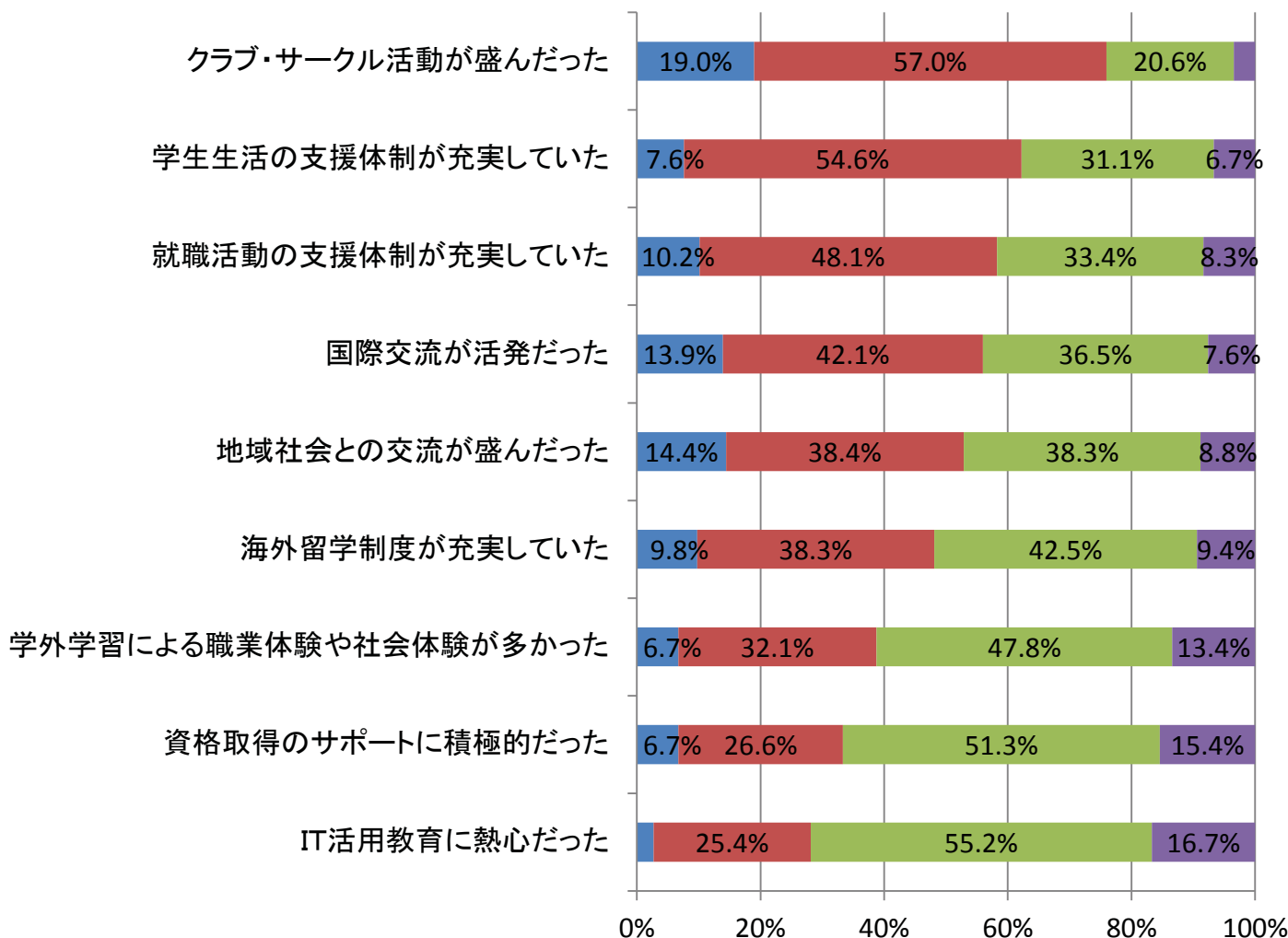
### i.他学部の授業が選択できた



・大学の交流活動やサポート体制について問う9項目のうち、肯定回答の多い順でみると、「クラブ・サークル活動が盛んだった」(76.0%)が最も多かった。最も少なかったのは、「IT活用教育」(28.1%)だった。  
 「学生生活の支援体制が充実」「就職活動の支援体制が充実」はおよそ6割、「国際交流が活発」「地域社会との交流が盛ん」はおよそ5割5分、「海外留学制度が充実」はおよそ5割が肯定回答をしていた。

## 大学の交流活動やサポート体制に対する肯定回答

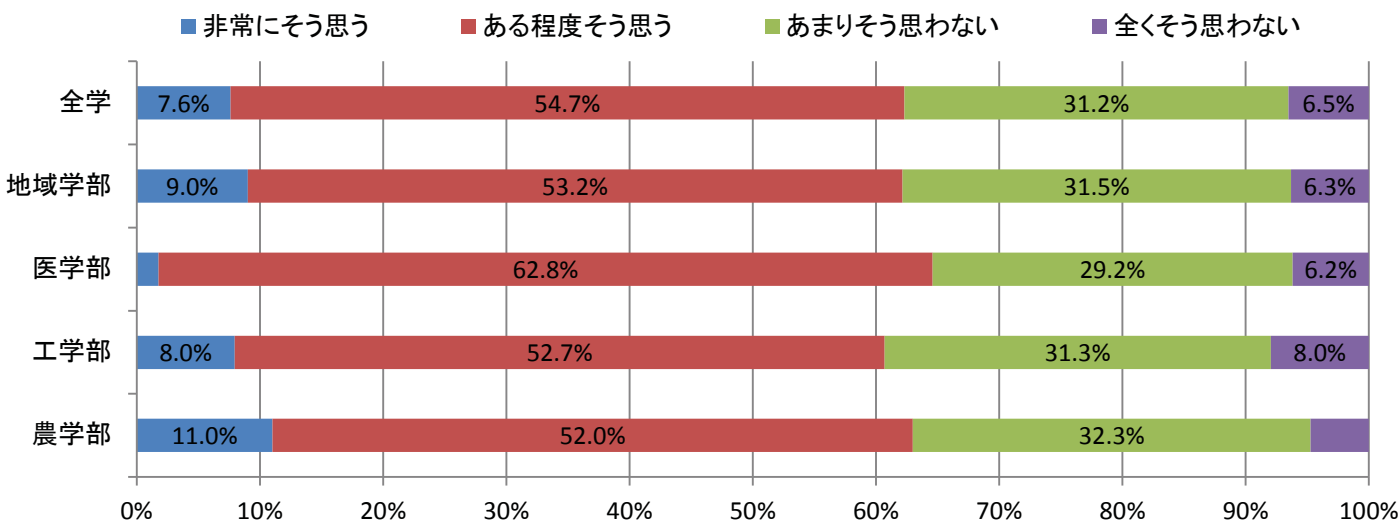
■ 非常にそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



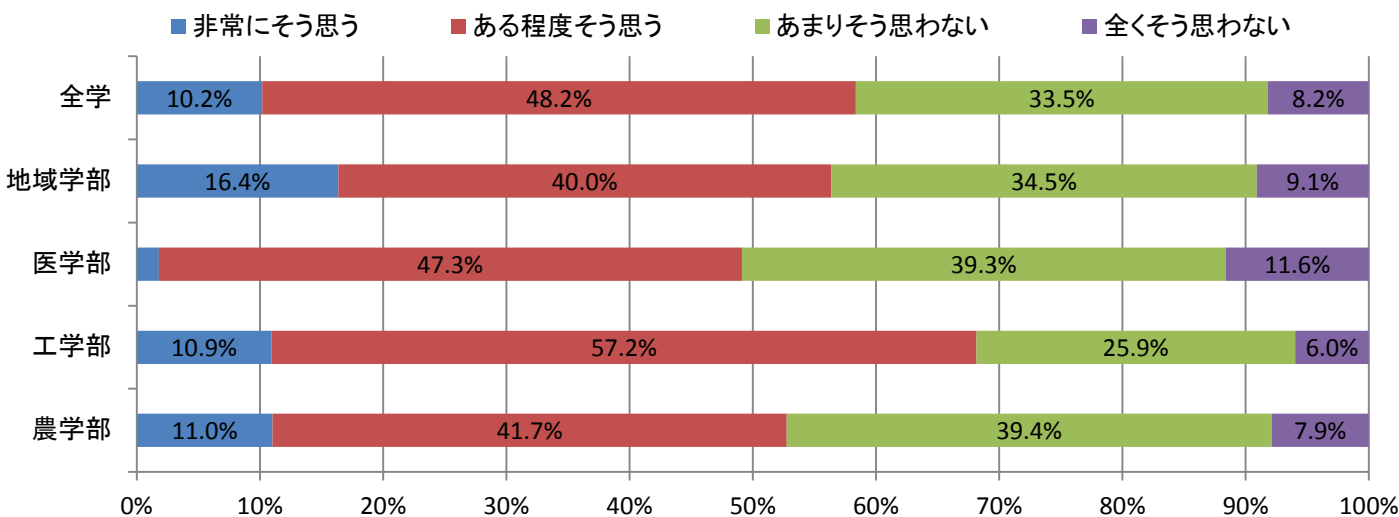
・「学生生活の支援体制が充実していた」と肯定回答した卒業生は、全学で62.3%だった。学部間の差異はあまりなく、6割以上の肯定回答だった。

・「就職活動の支援体制が充実していた」と肯定回答した卒業生は、全学で58.4%だった。工学部では7割近くである一方、地域学部と農学部では5割台、医学部では49.1%で5割未満の肯定回答だった。「非常にそう思う」と回答した者では地域学部が16.4%と最も高く、工学部と農学部では1割程度、医学部では1.8%だった。

### v. 学生生活の支援体制が充実していた



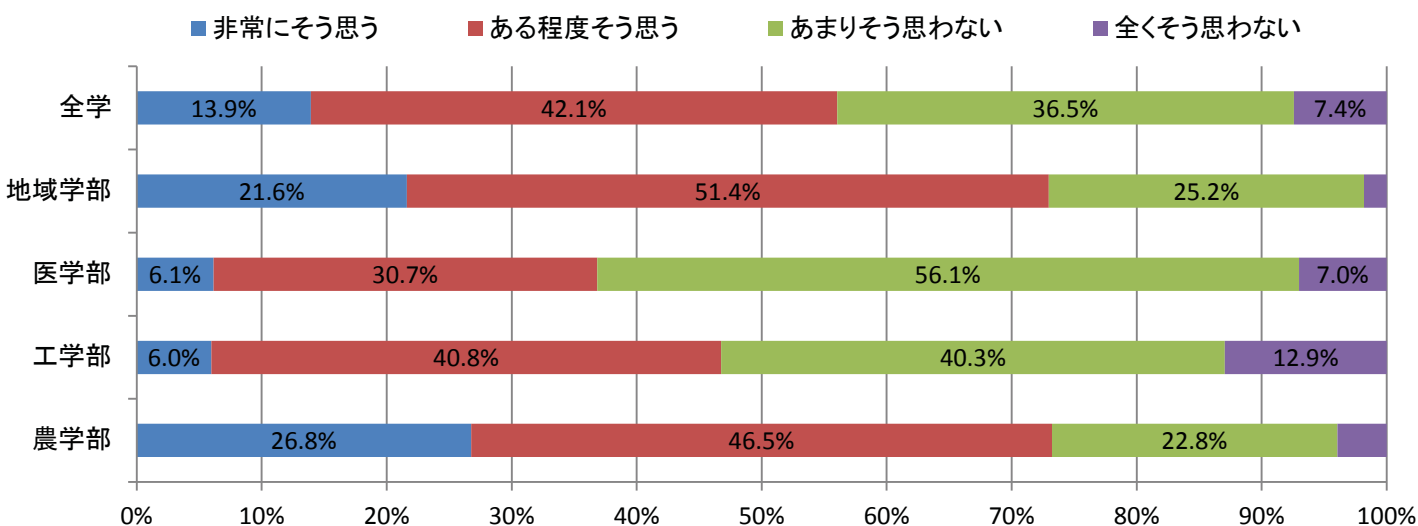
### w. 就職活動の支援体制が充実していた



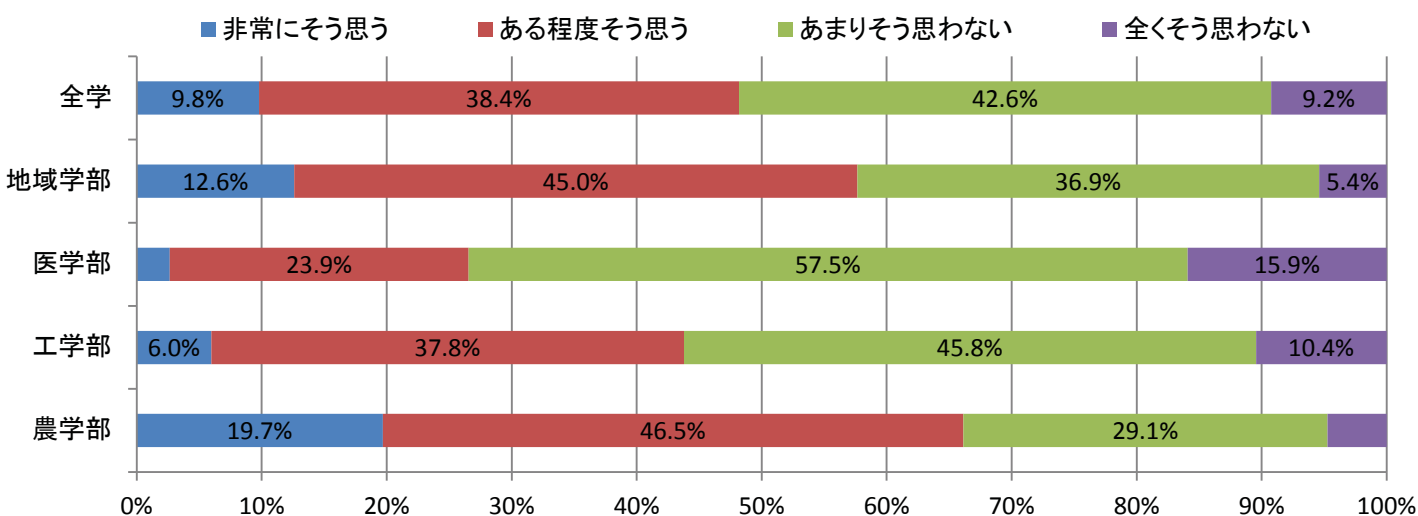
・「国際交流が活発だった」と肯定回答した卒業生は、全学で56.0%だった。農学部と地域学部では7割を超える一方、工学部では約5割、医学部では4割未満の肯定回答だった。

・「海外留学制度が充実していた」と肯定回答した卒業生は、全学で48.2%だった。農学部では約2割が「非常にそう思う」と回答、66.2%が肯定回答だった。地域学部では1割以上が「非常にそう思う」と回答、57.6%が肯定回答だった。工学部では43.8%、医学部では26.6%であった。

## p. 国際的な交流が活発だった

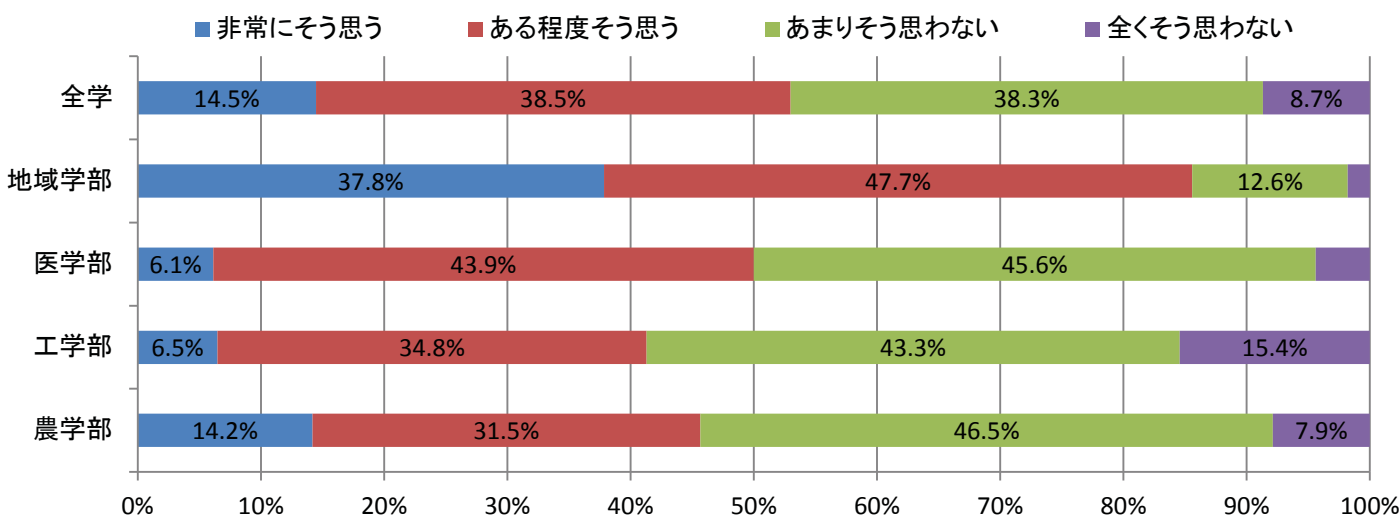


## u. 海外留学制度が充実していた

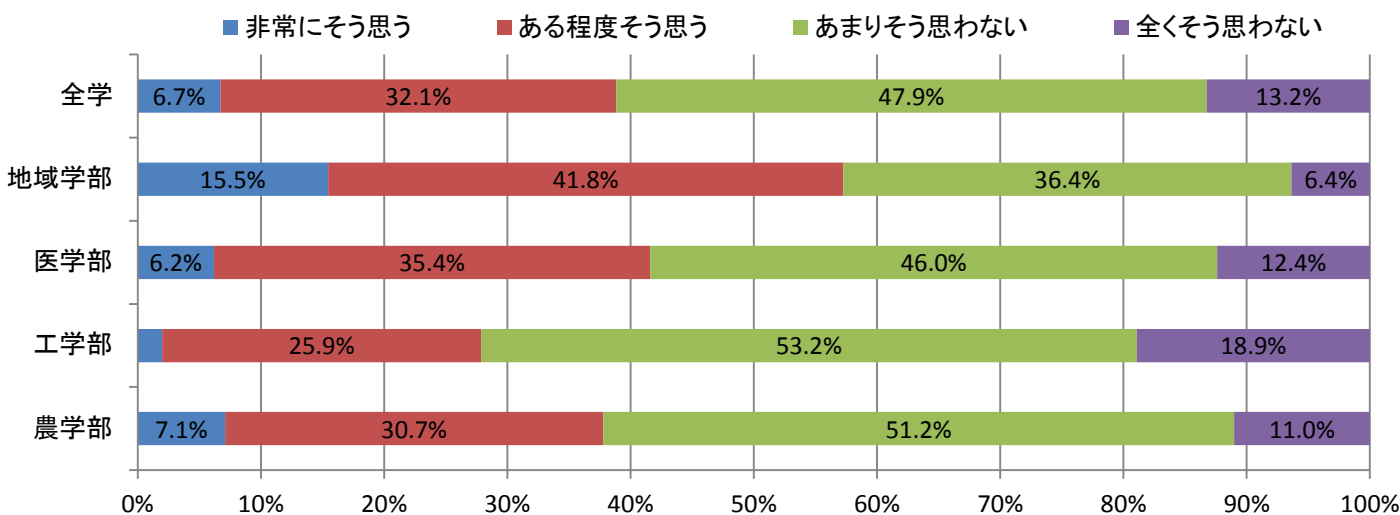


- ・「地域社会との交流が盛んだった」と肯定回答した卒業生は、全学で53.0%だった。地域学部では圧倒的に高く85.5%に対し、医学部で5割、農学部と工学部では4割台の肯定回答だった。
- ・「学外学習による職業体験や社会体験が多かった」と肯定回答した卒業生は、全学で38.8%だった。地域学部で高く57.3%、医学部と農学部では約4割前後、工学部では3割未満だった。

### o. 地域社会との交流が盛んだった



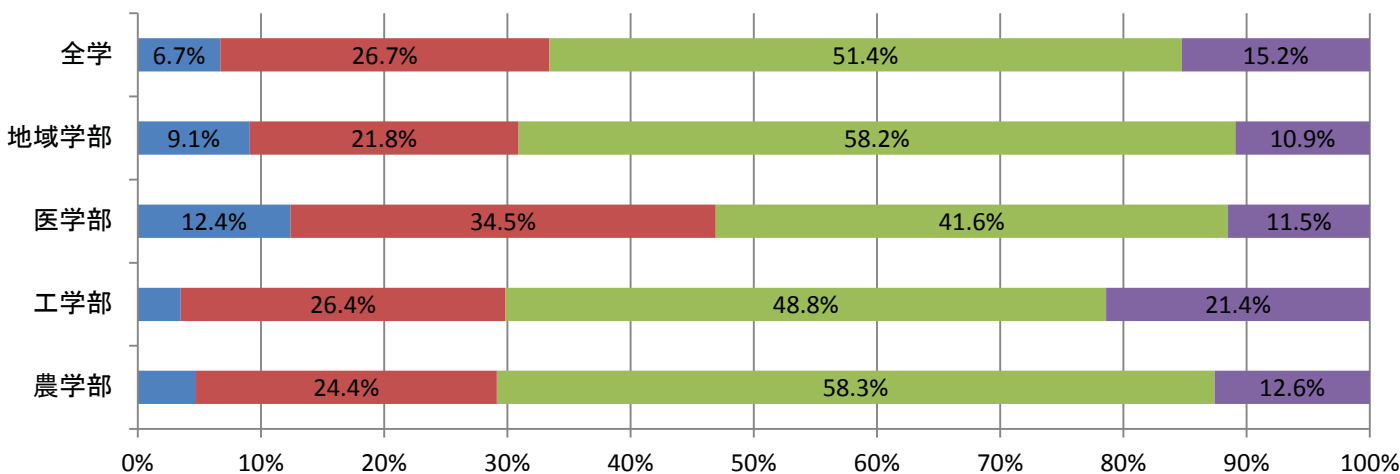
### r. 学外学習による職業体験や社会体験が多かった



- ・「資格取得のサポートに積極的だった」と肯定回答した卒業生は、全学で33.4%だった。地域学部・工学部・農学部の3学部は約3割だったのに対して、医学部のみ46.9%と高い肯定回答だった。
- ・「IT活用教育に熱心だった」と肯定回答した卒業生は、全学で28.2%だった。工学部・地域学部・医学部で約3割前後、農学部は24.4%で低めだった。

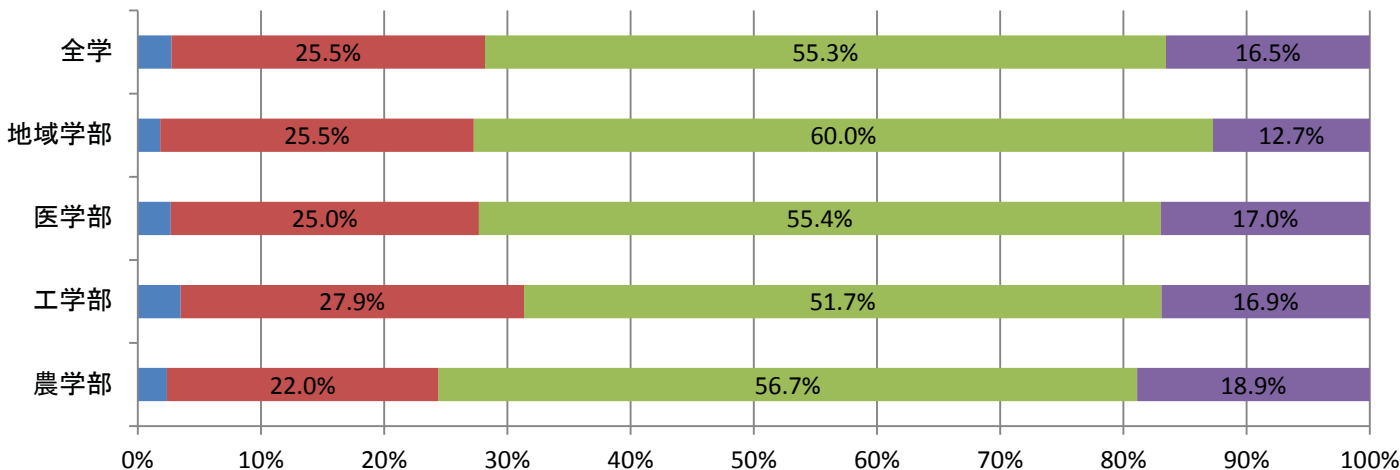
### s. 資格取得のサポートに積極的だった

■ 非常にそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



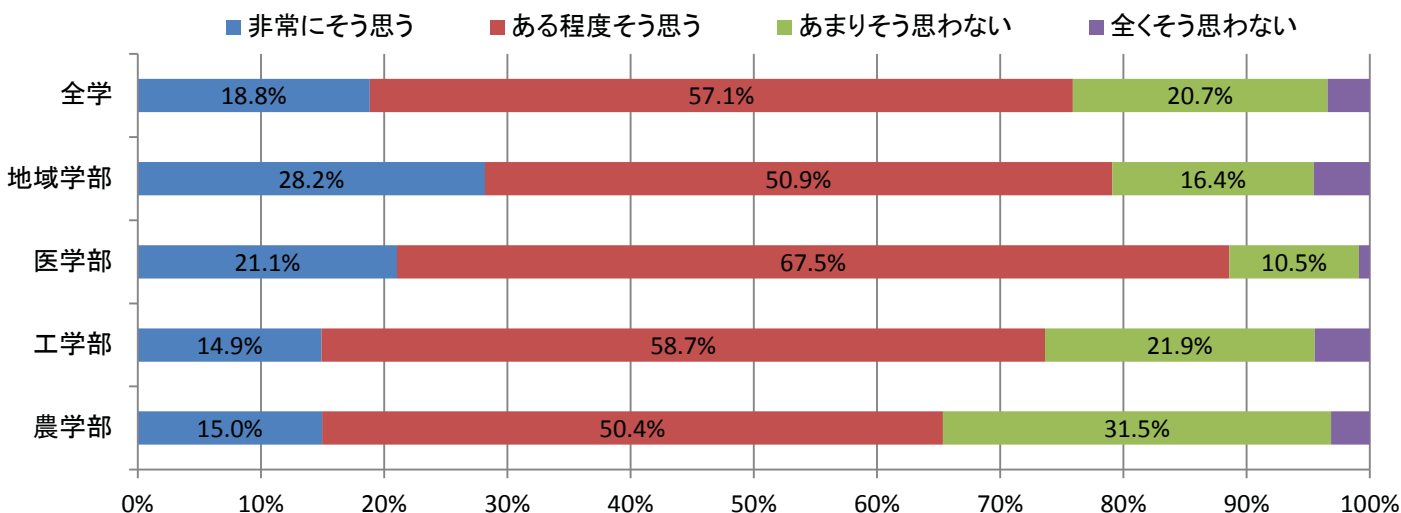
### t. IT活用教育に熱心だった

■ 非常にそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



- ・「クラブ・サークル活動が盛んだった」と肯定回答した卒業生は、全学で75.9%だった。
- ・医学部では約9割、地域学部では約8割、工学部では7割強、農学部では6割5分の肯定回答だった。

### q.クラブ・サークル活動が盛んだった

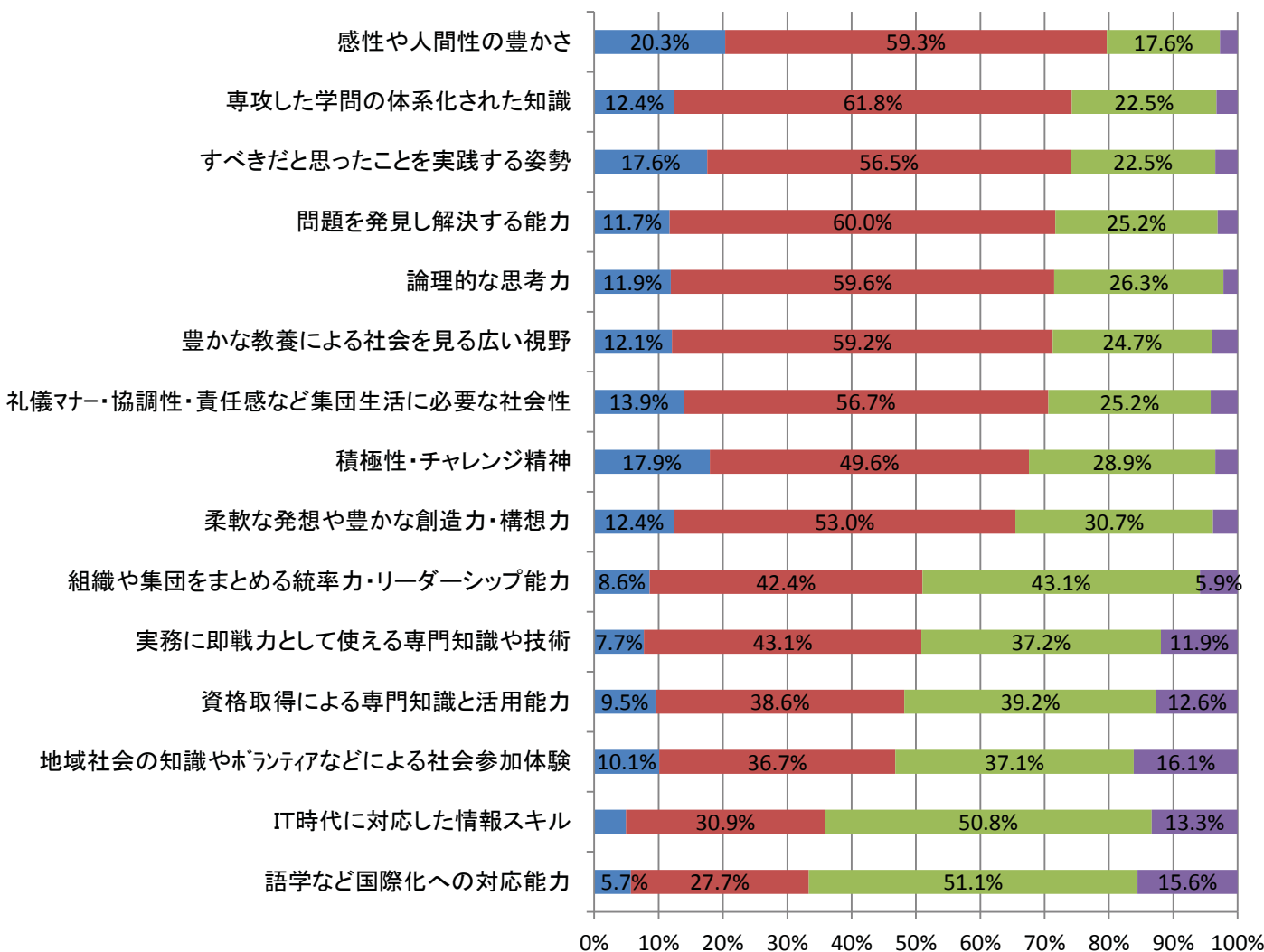




- ・大学での教育・学生生活を通じて習得した能力・技術・知識等15項目の中で、「感性や人間性の豊かさ」(79.6%)が最も高い習得度だった。
- ・「専攻した学問の体系化された知識」「すべきだと思ったことを実践する姿勢」「問題を発見し解決する能力」「論理的な思考力」「豊かな教養による社会を見る広い視野」「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」「積極性・チャレンジ精神」「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」の8項目は約7割が肯定回答だった。
- ・「IT時代に対応した情報スキル」「語学など国際化への対応能力」は4割未満の肯定回答だった。

## 大学での教育・学生生活を通じて習得した能力・技術・知識等

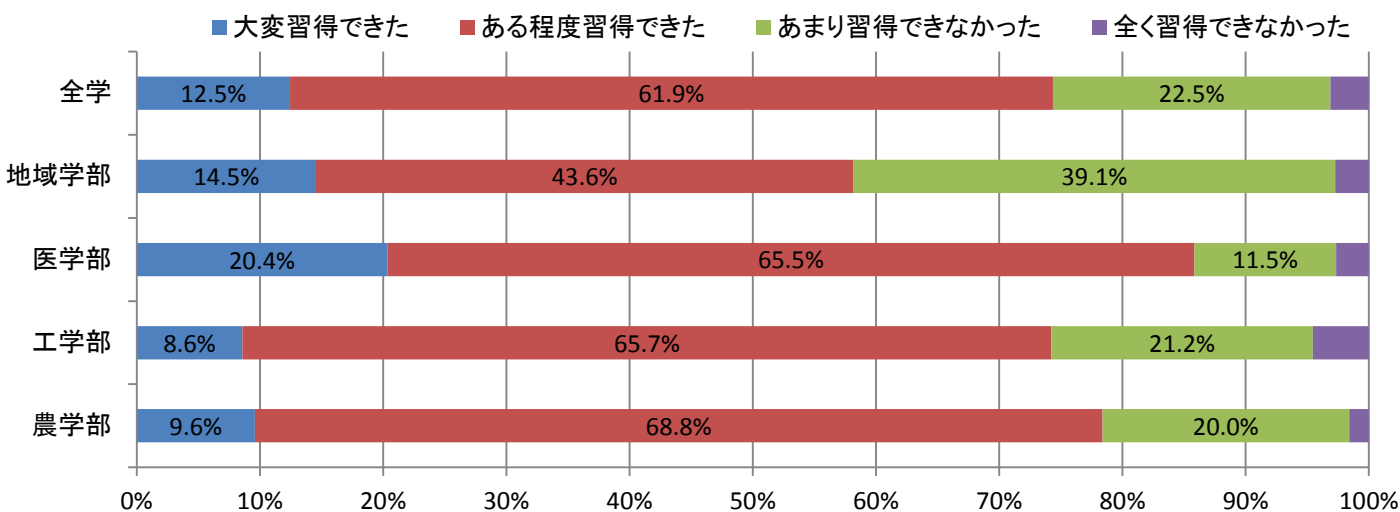
■ 大変習得できた ■ ある程度習得できた ■ あまり習得できなかった ■ 全く習得できなかった



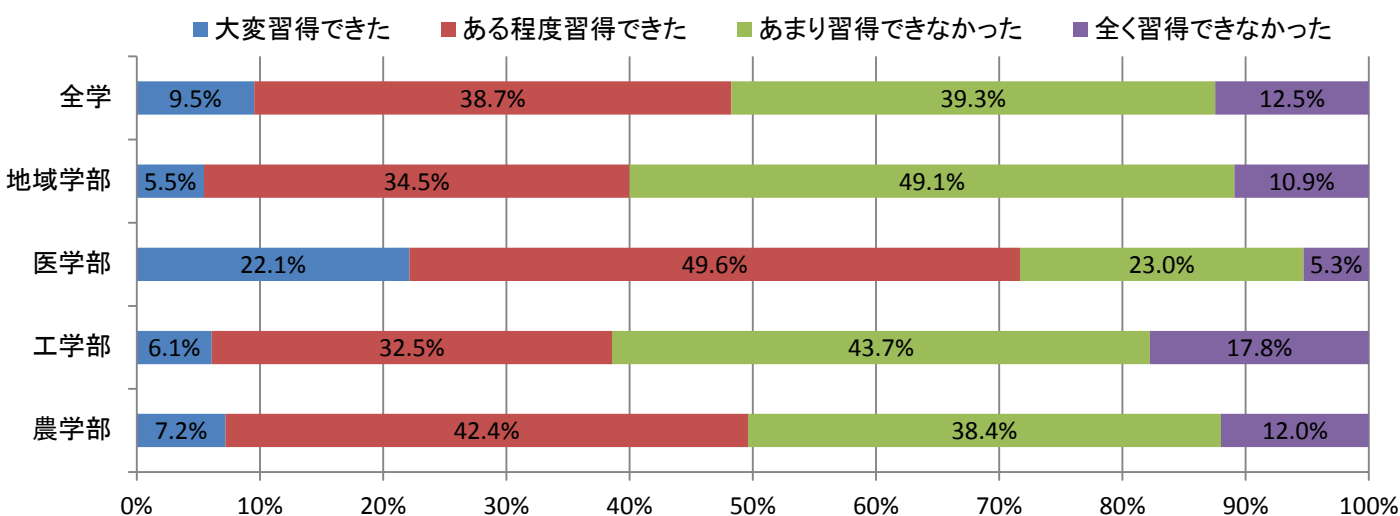
※未回答者を除き回答全件に占める各項目の回答率を算出。

- ・「専攻した学問の体系化された知識」は、全学で74.4%の習得度だった。学部別では、医学部が85.9%で最も高い習得度で、次いで農学部78.4%、工学部74.3%、地域学部58.1%だった。
- ・「資格取得による専門知識と活用能力」は、全学で48.2%の習得度だった。医学部が7割と高い習得度に対し、農学部で約5割、地域学部と工学部で約4割であった。

## g. 専攻した学問の体系化された知識

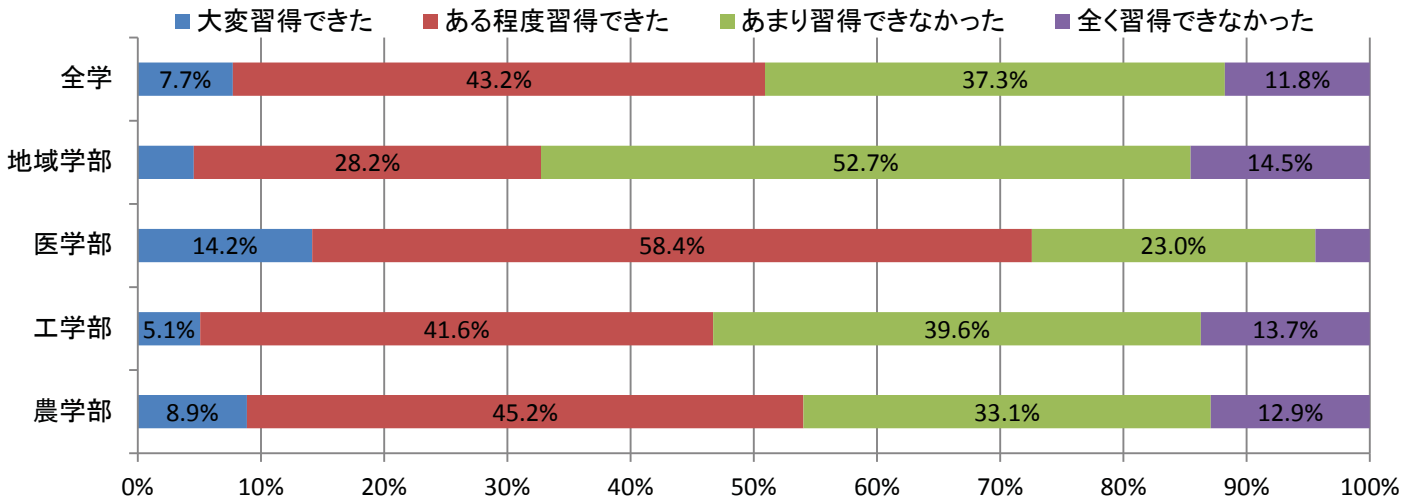


## o. 資格取得による専門知識と活用能力

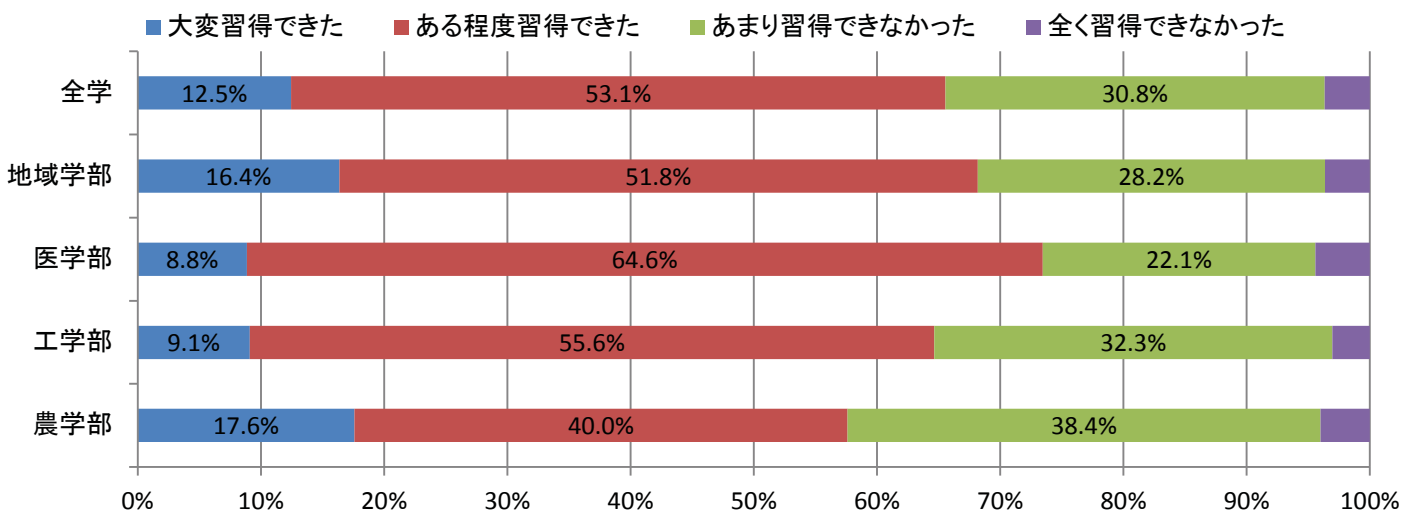


- ・「実務に即戦力として使える専門知識や技術」は、全学で50.9%の習得度だった。医学部が7割以上で最も高い習得度に対して、農学部で54.1%、工学部で46.7%、地域学部で32.7%だった。
- ・「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」は、全学で65.6%の習得度だった。医学部73.4%、地域学部68.2%、工学部64.7%、農学部57.6%だった。

## m. 実務に即戦力として使える専門知識や技術



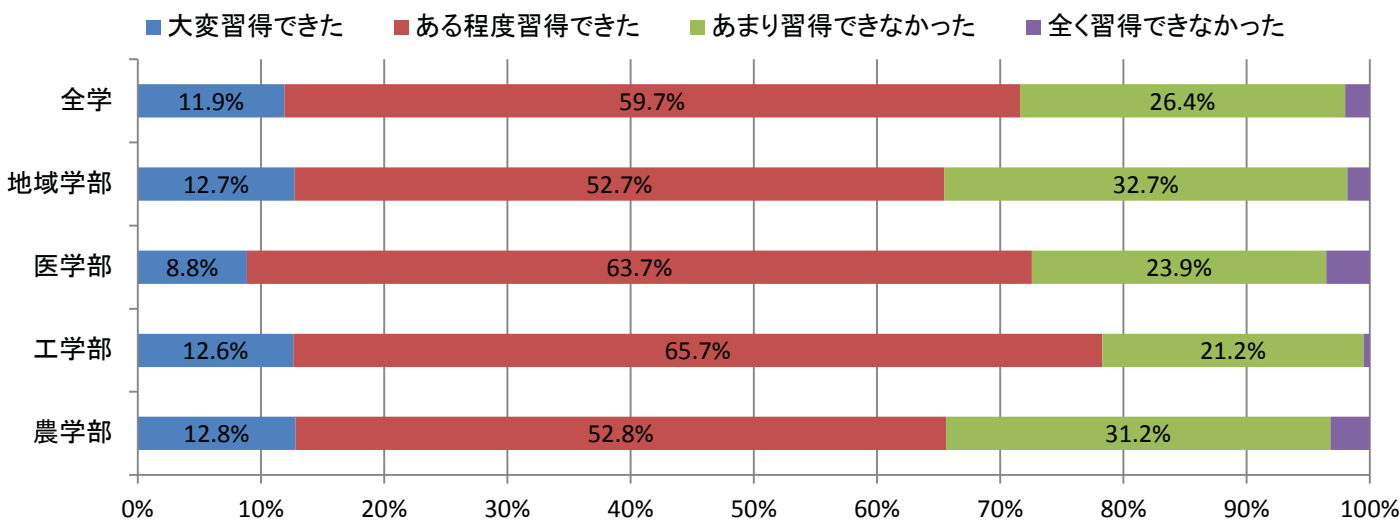
## j. 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力



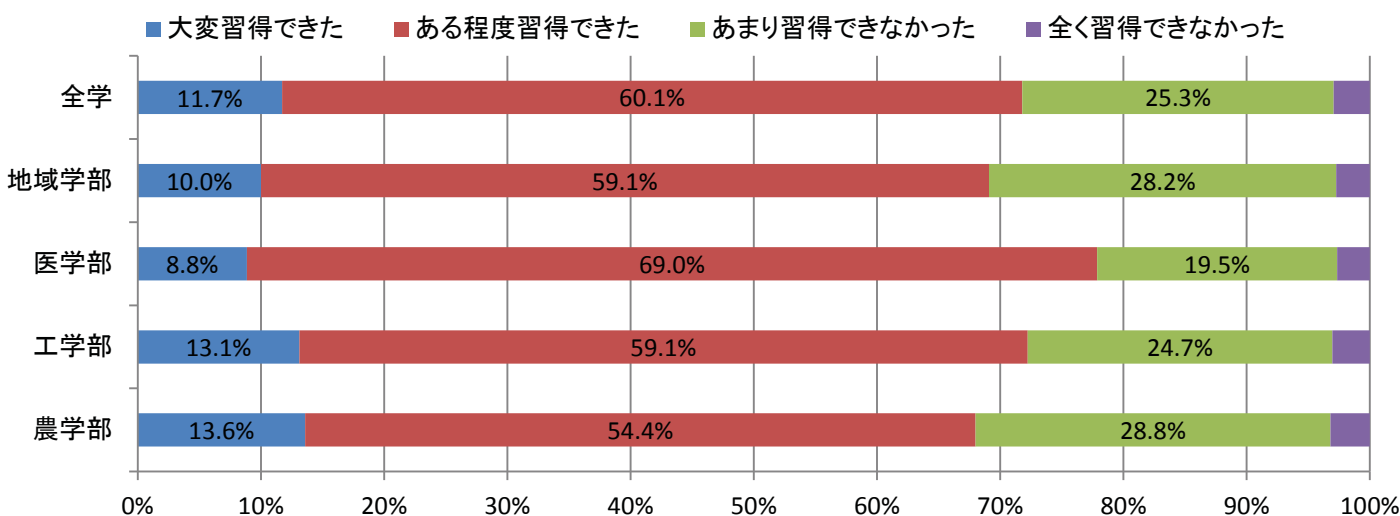
・「論理的思考力」は、全学では71.8%の習得度だった。工学部で78.3%、医学部で72.5%、地域学部と農学部はおよそ6割5分だった。

・「問題を発見し解決する能力」は、全学で71.8%の習得度だった。医学部で77.8%、工学部・地域学部・農学部は7割前後の習得度だった。

## h. 論理的な思考力



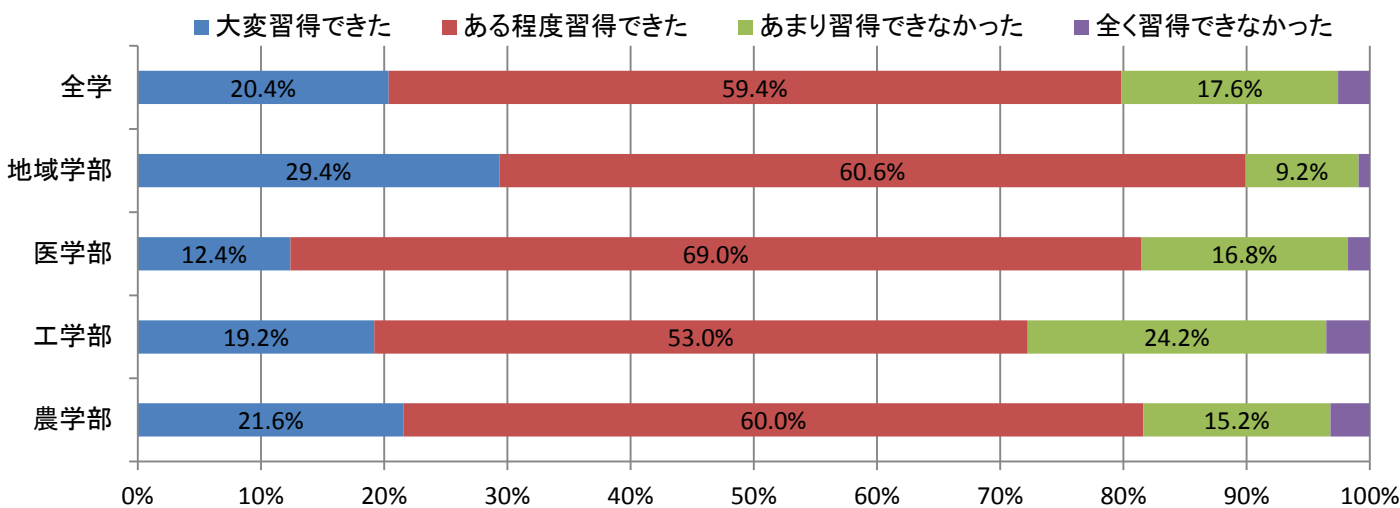
## i. 問題を発見し解決する能力



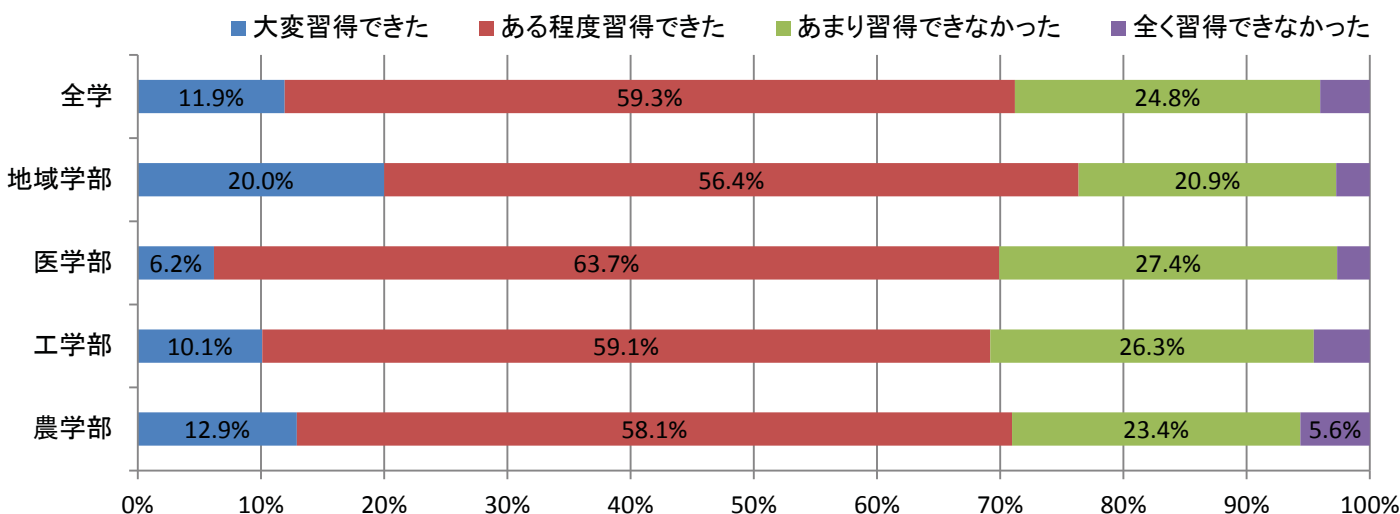
・「感性や人間性の豊かさ」は、全学で79.8%の習得度だった。地域学部で約9割、医学部と農学部で約8割、工学部で7割強という、高い習得度だった。特に地域学部では「大変習得できた」の回答者が約3割だった。

・「豊かな教養による社会を見る広い視野」は、全学で71.2%の習得度だった。医学部・工学部・農学部の3学部は約7割に対して、地域学部は約76.4%と少し高めの習得度だった。

## a. 感性や人間性の豊かさ



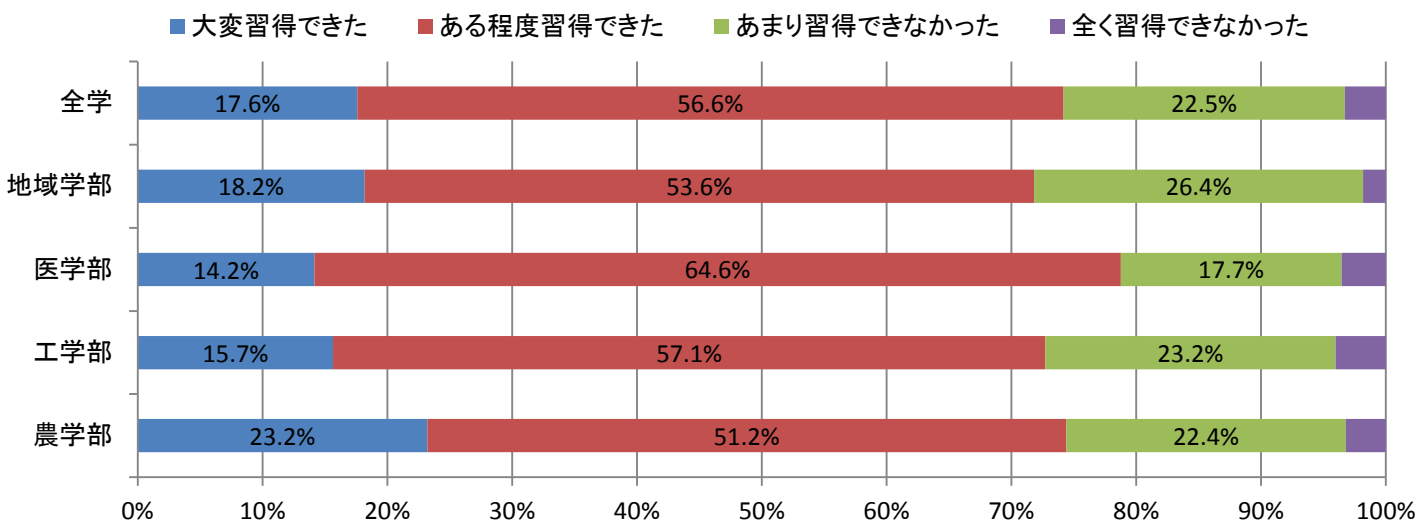
## b. 豊かな教養による社会を見る広い視野



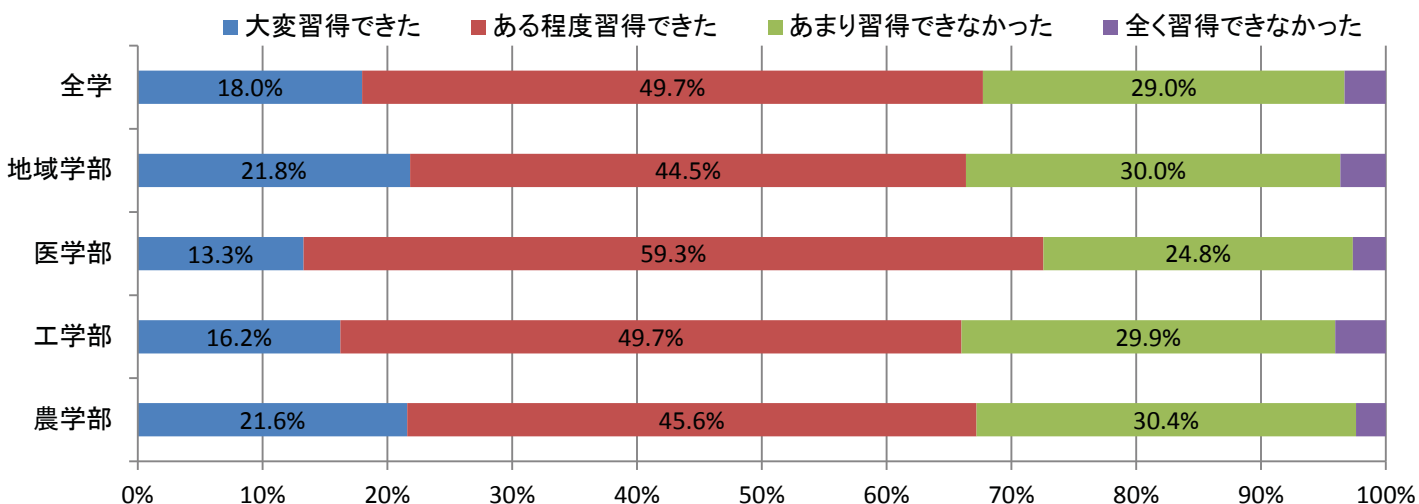
・「すべきだと思ったことを実践する姿勢」は、全学で74.2%だった。学部間の差異はなく、4学部ともに7割台であった。「大変習得できた」では、農学部が特に高く23.2%だった。

・「積極性・チャレンジ精神」は、全学で67.7%だった。学部間の差異はなく、4学部ともに7割前後であった。

## c. すべきだと思ったことを実践する姿勢



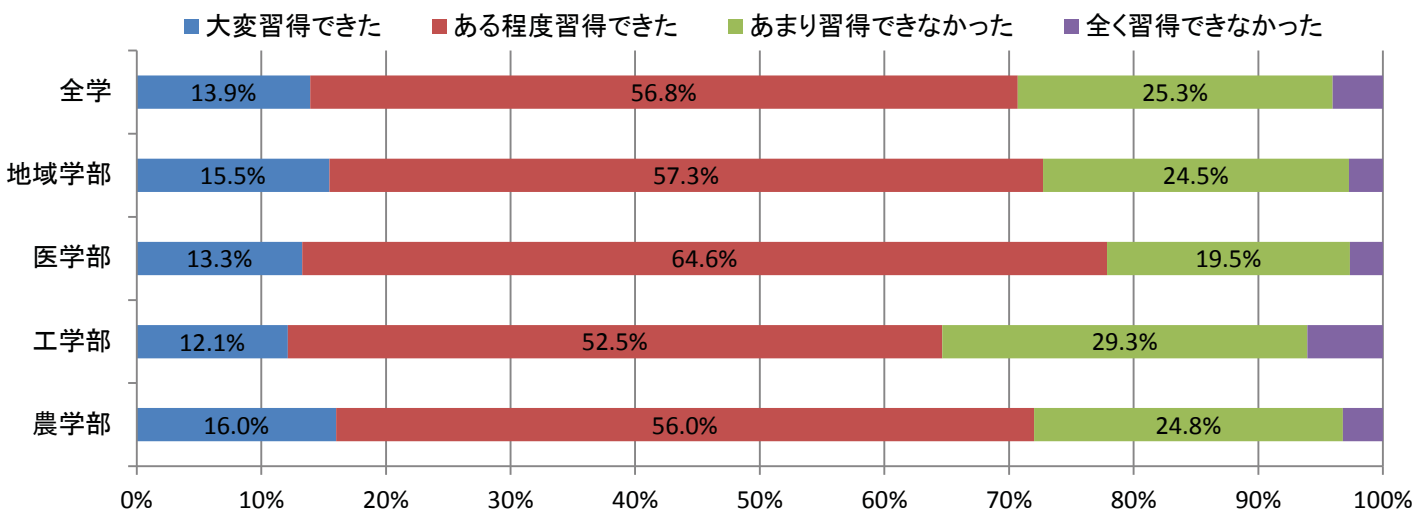
## d. 積極性・チャレンジ精神



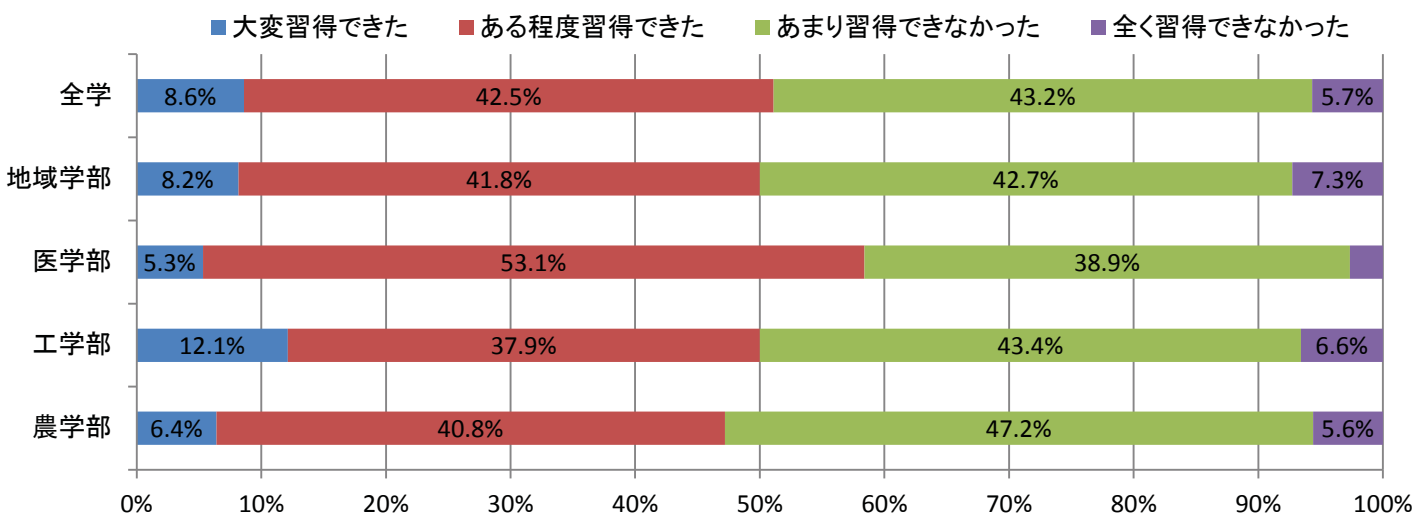
・「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」は、全学で約7割の習得度だった。医学部が最も高く、医学部・地域学部・農学部の3学部は7割台の一方、工学部では約6割5分だった。

・「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」は、全学で約5割の習得だった。医学部のみ6割近くであり、地域学部・工学部・農学部はおおよそ5割であった。

## e. 礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性

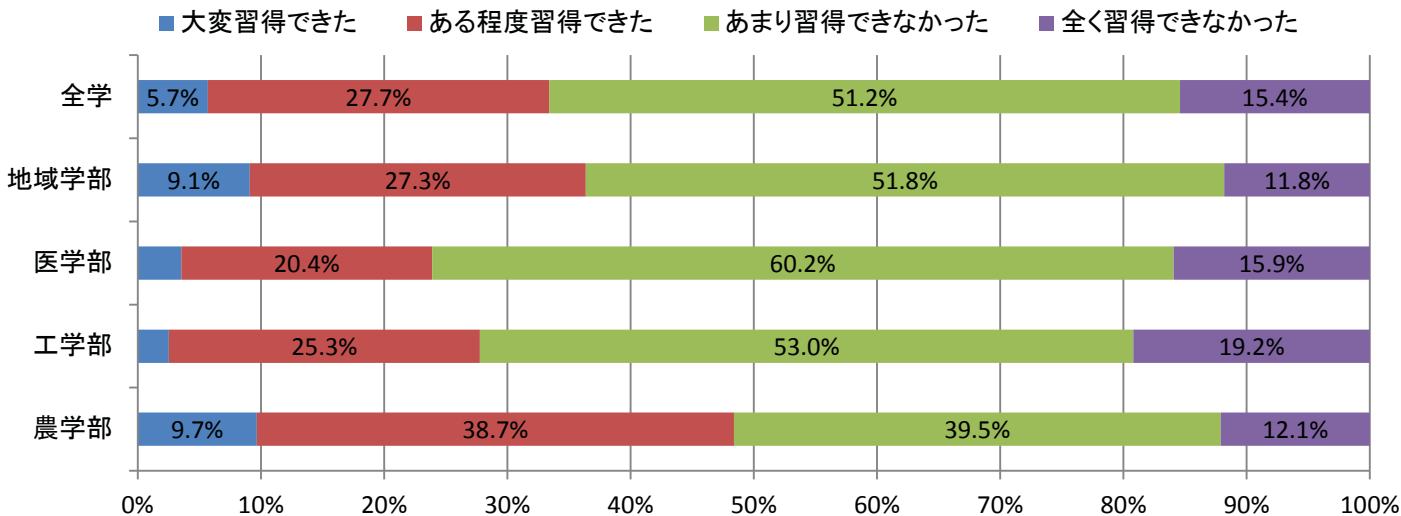


## f. 組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力

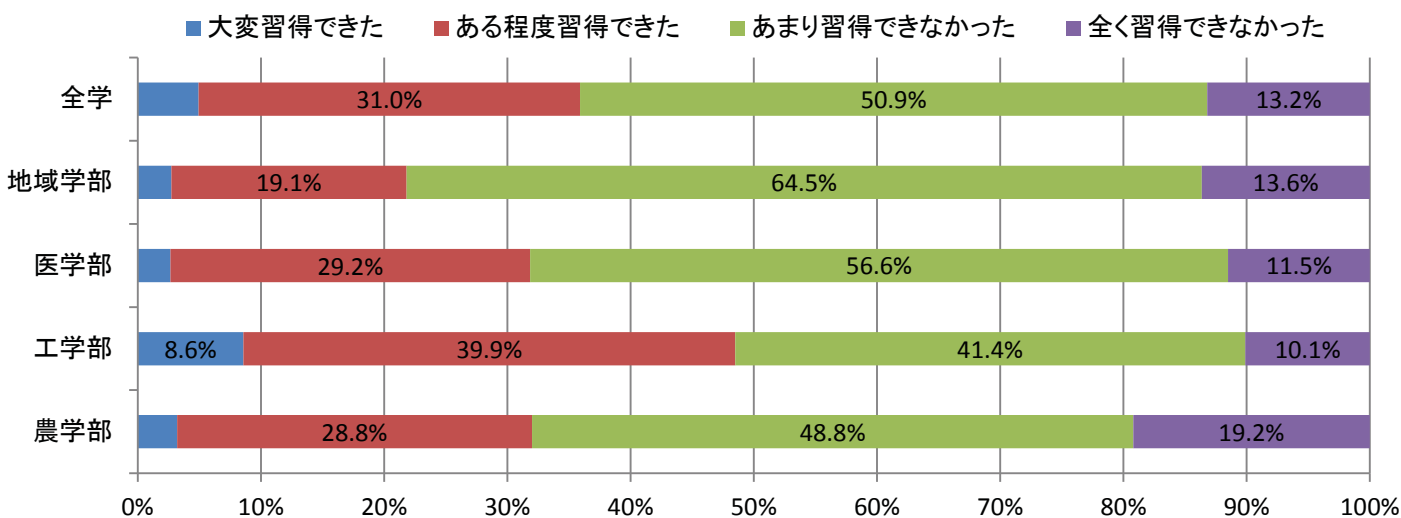


- ・「語学など国際化への対応能力」は、全学で33.4%の習得度だった。農学部が最も高く49.4%、次いで地域学部で36.4%、工学部と医学部では約2割台だった。
- ・「IT時代に対応した情報スキル」は、全学で35.9%の習得度だった。工学部が約5割の高い習得度だったが、医学部と農学部は約3割、地域学部は約2割だった。

## l. 語学など国際化への対応能力



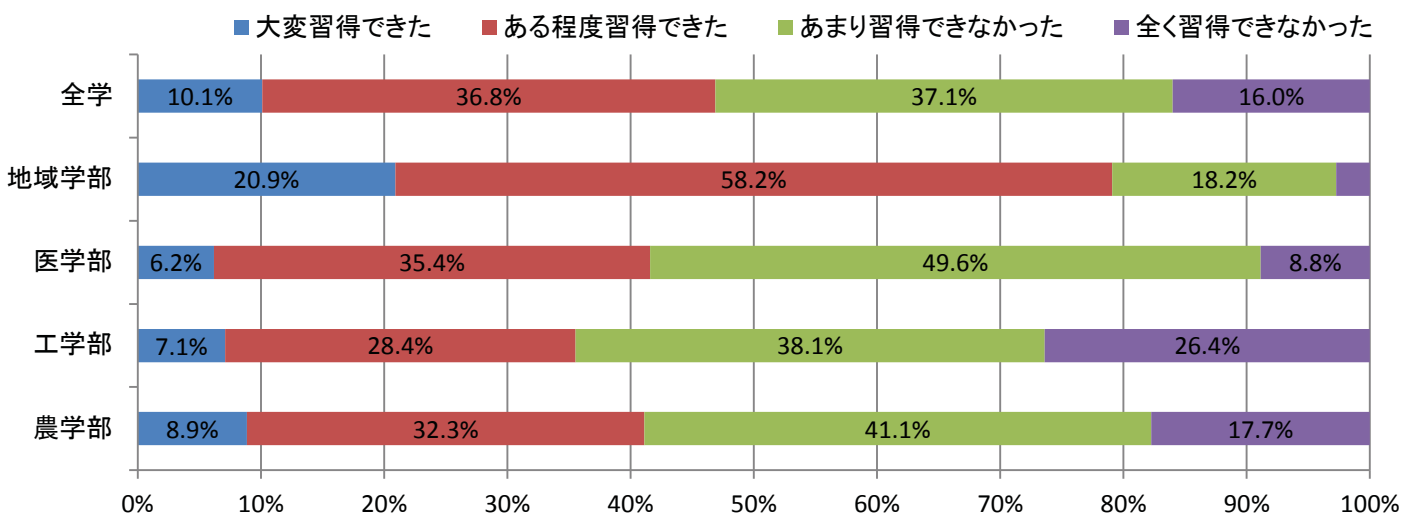
## k. IT時代に対応した情報スキル





・「地域社会の知識やボランティア等による社会参加体験」は、全学で46.9%の習得度だった。地域学部が約8割で圧倒的に高い習得度で、特に「大変習得できた」の回答者は2割を超えていた。医学部と農学部は約4割、工学部では約3割5分という習得度だった。

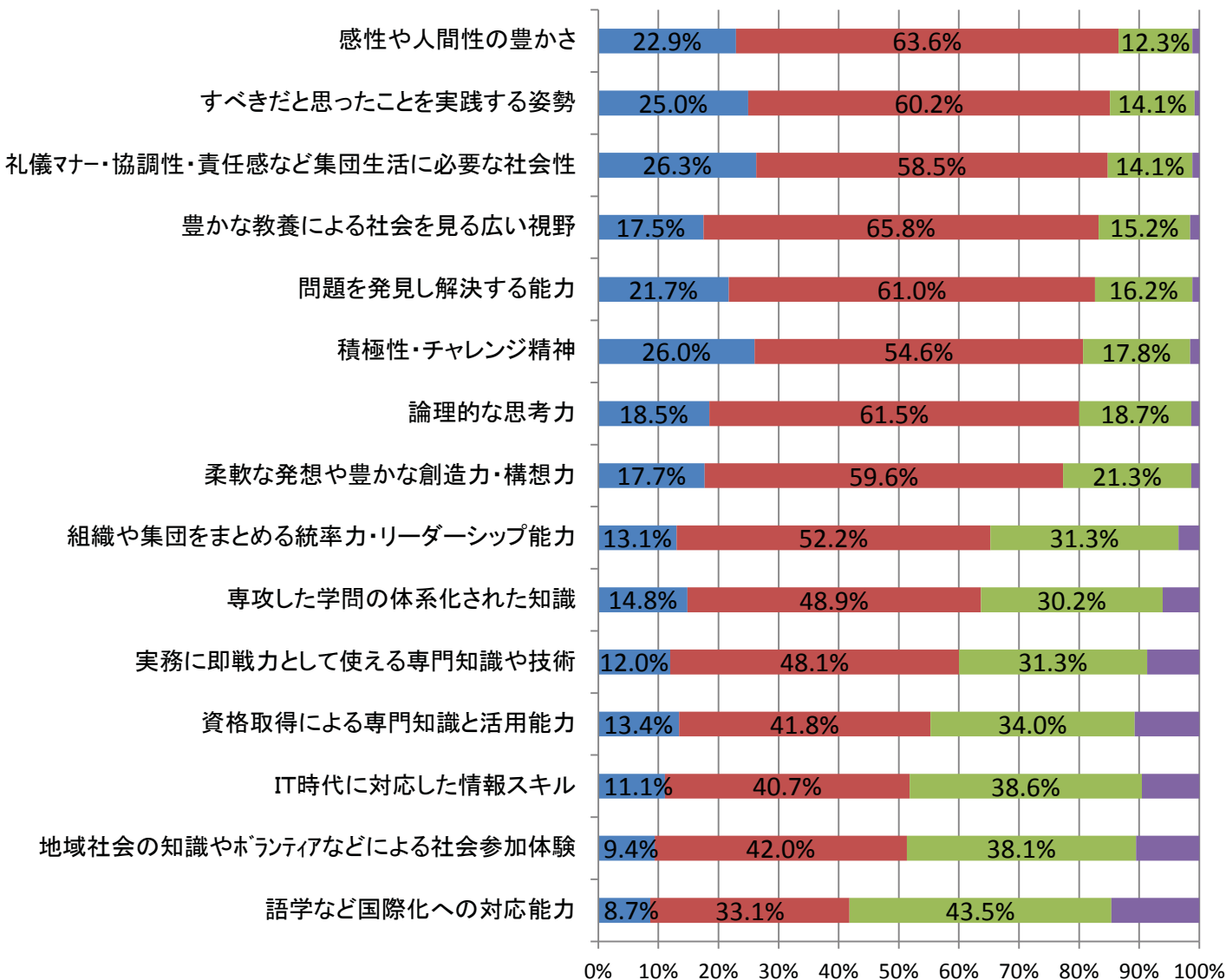
## n.地域社会の知識やボランティア等による社会参加体験



・社会に出て大学で学んだ教育成果として役立った(「大変役立った」+「ある程度役立った」の回答合計)能力・技術・知識等は、「感性や人間性の豊かさ」が最も高い役立ち度で86.5%だった。「すべきだと思ったことを実践する姿勢」(85.2%)、「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」(84.8%)、「豊かな教養による社会を見る広い視野」(83.3%)、「問題を発見し解決する能力」(82.7%)、「積極性・チャレンジ精神」(80.6%)、「論理的な思考力」(80.0%)は、8割以上の役立ち度であった。

## 社会に出て教育成果として役立った能力・技術・知識等

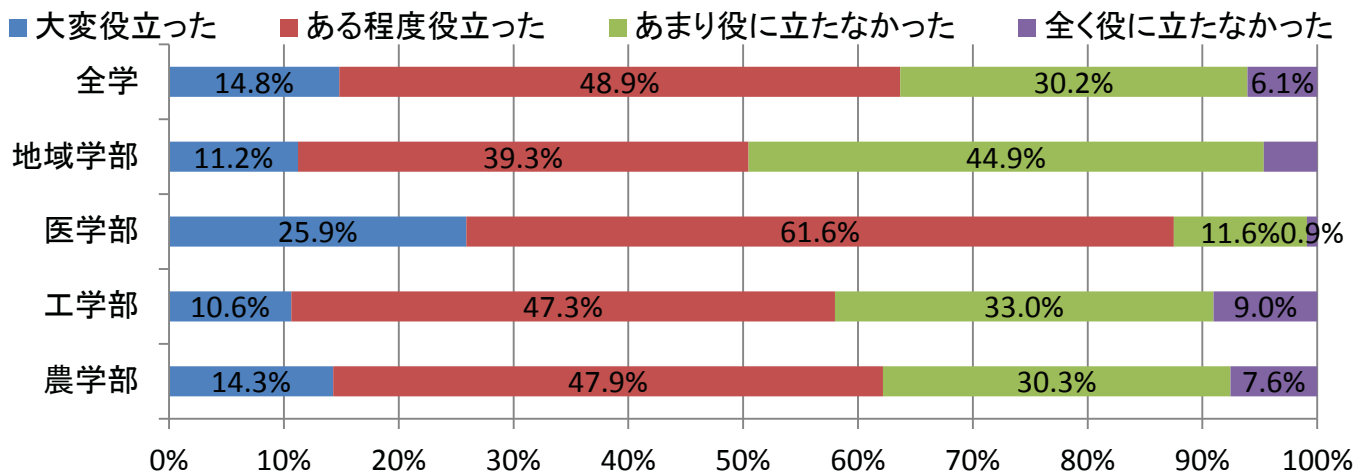
■ 大変役立った ■ ある程度役立った ■ あまり役に立たなかった ■ 全く役に立たなかった



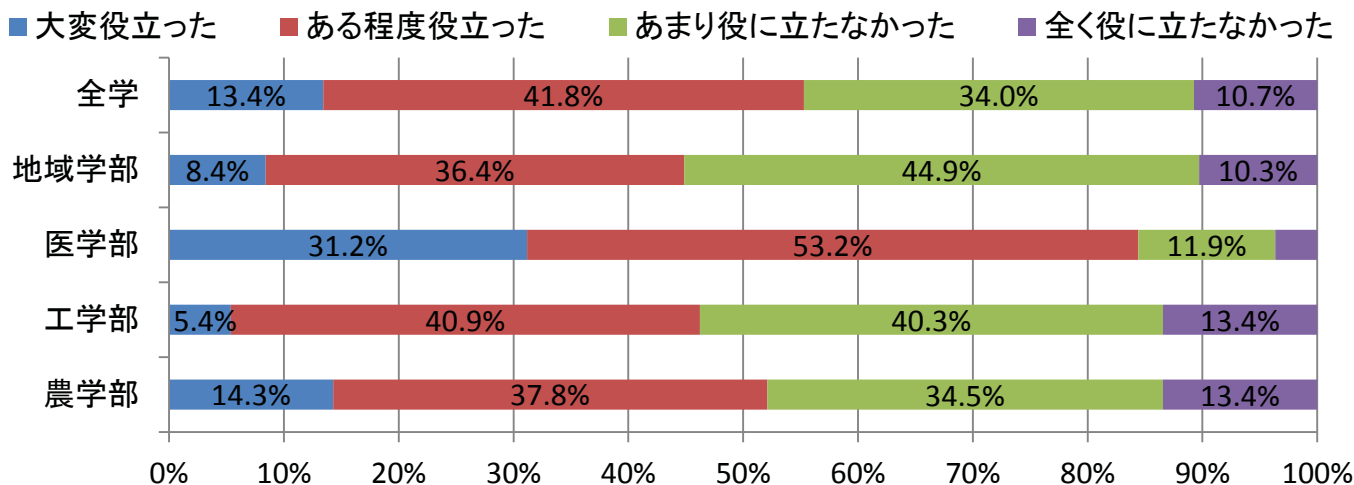
※未回答者を除き回答全件に占める各項目の回答率を算出。

- ・「専攻した学問の体系化された知識」は、全学で63.7%の役立ち度だった。学部別では、医学部が87.5%で最も高く、農学部と工学部では6割前後、地域学部約5割だった。
- ・「資格取得による専門知識と活用能力」は、全学で55.2%の役立ち度だった。医学部が84.4%と高い一方、農学部で52.1%、地域学部と工学部で約4割5分であった。

### g. 専攻した学問の体系化された知識



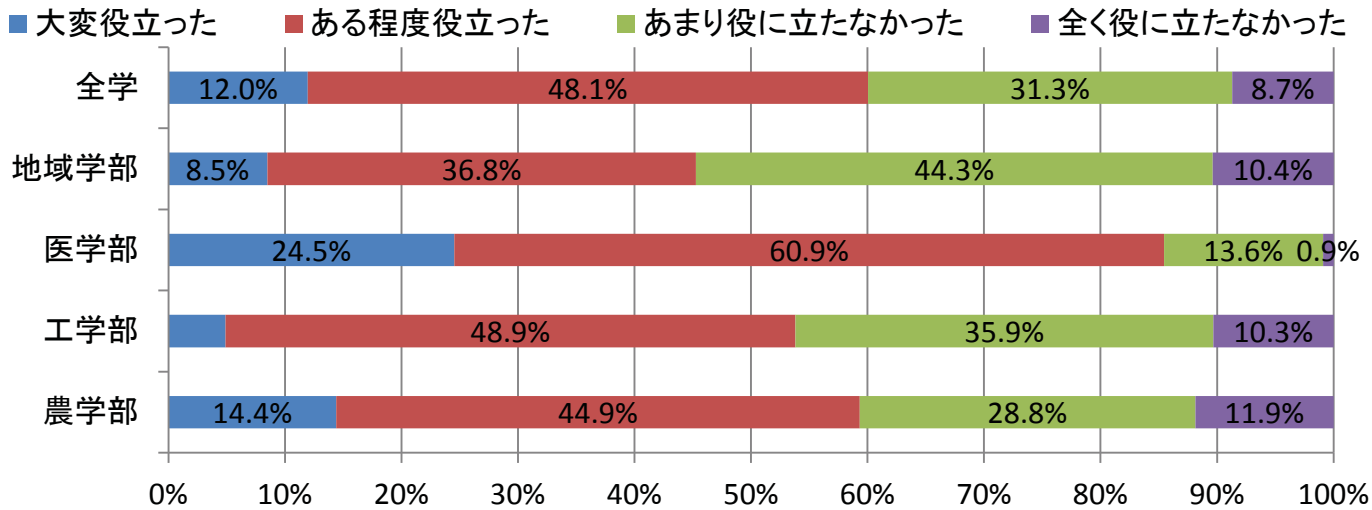
### o. 資格取得による専門知識と活用能力



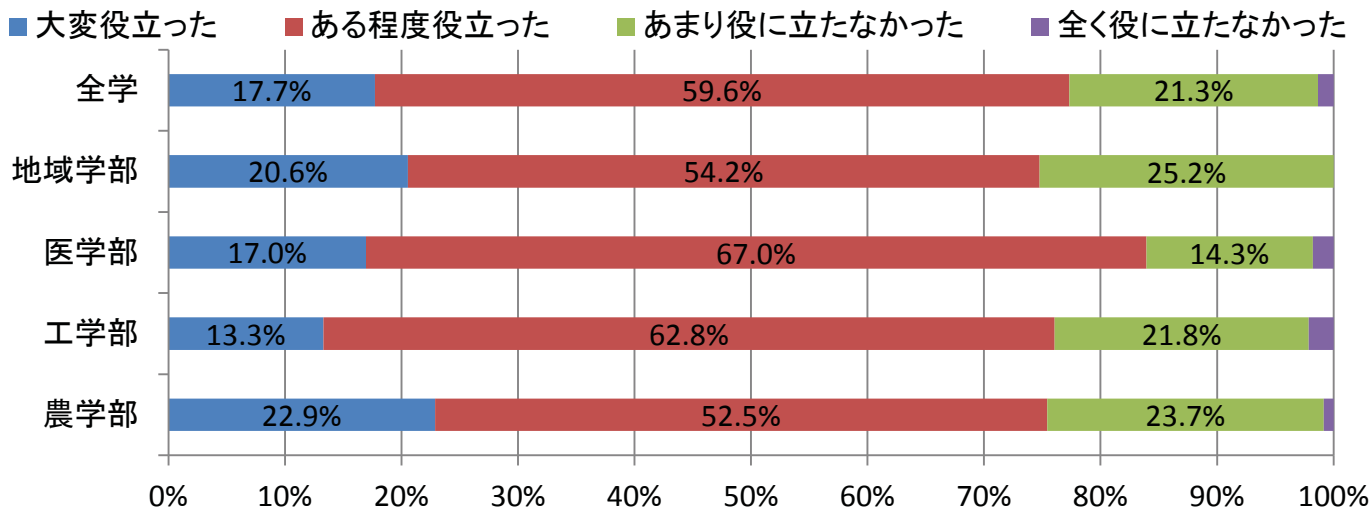
・「実務に即戦力として使える専門知識や技術」は、全学で60.1%の役立ち度だった。医学部では85.4%と高い役立ち度に対して、農学部と工学部では5割台、地域学部では4割台だった。

・「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」は、全学で77.3%の役立ち度だった。医学部のみ8割台だったが、地域学部・工学部・農学部も75%以上の高い役立ち度で、学部間での大きな差異はなかった。

### m. 実務に即戦力として使える専門知識や技術



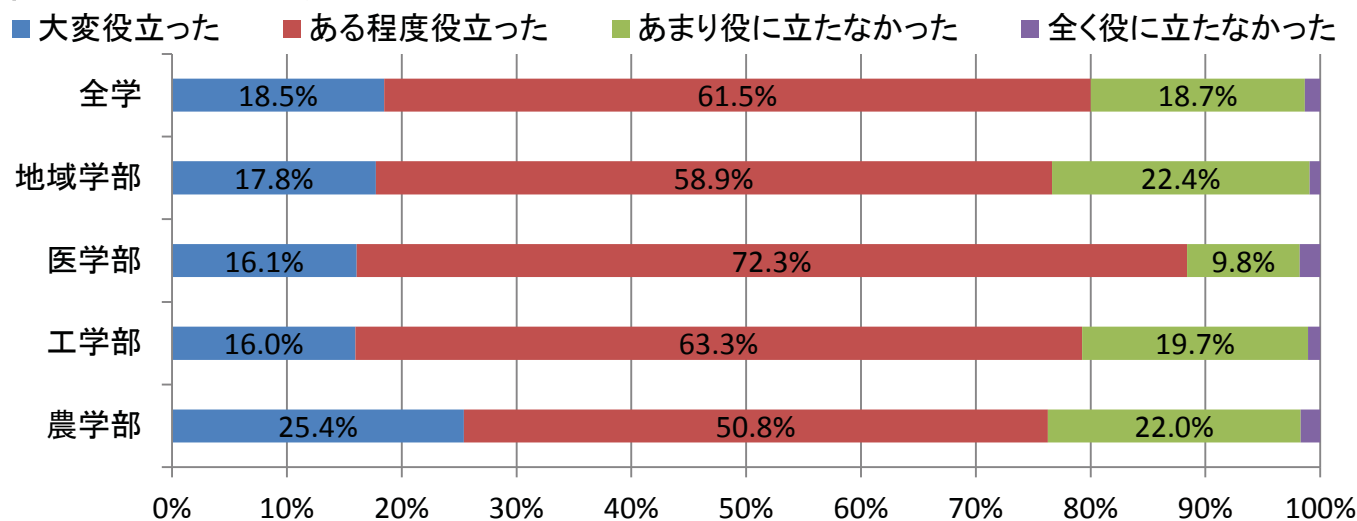
### j. 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力



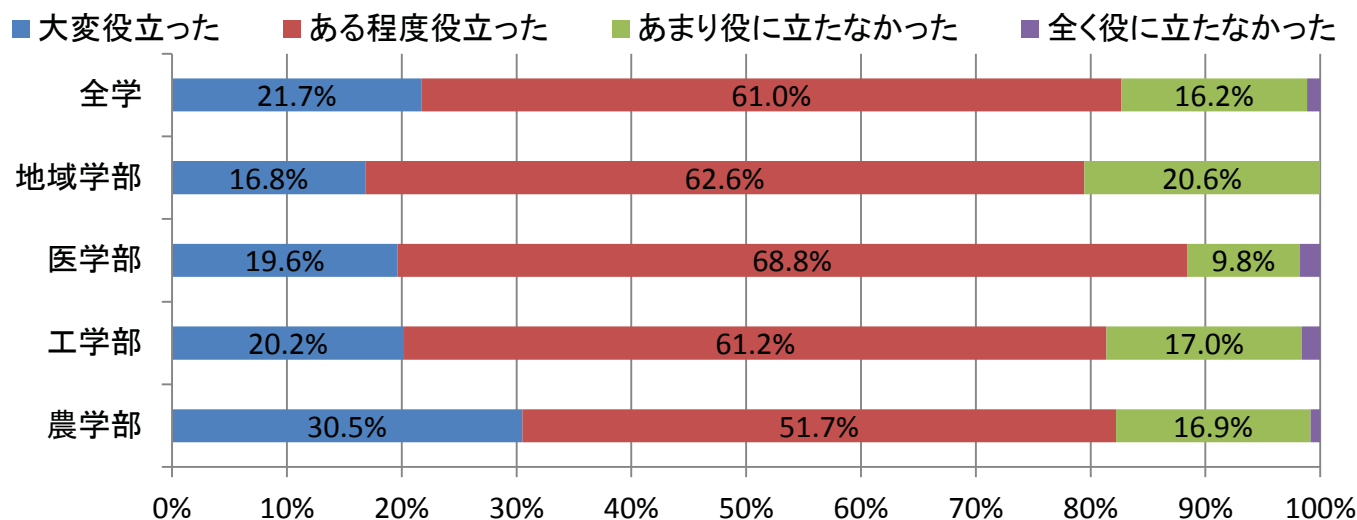
・「論理的思考力」は、全学では80.0%の役立ち度だった。医学部で88.4%と最も高く、地域学部・工学部・農学部も8割弱の役立ち度であった。

・「問題を発見し解決する能力」は、全学で82.7%の役立ち度だった。医学部で88.4%と最も高く、地域学部・工学部・農学部も8割前後の役立ち度で、学部間での大きさ差異はなかった。

## h. 論理的な思考力



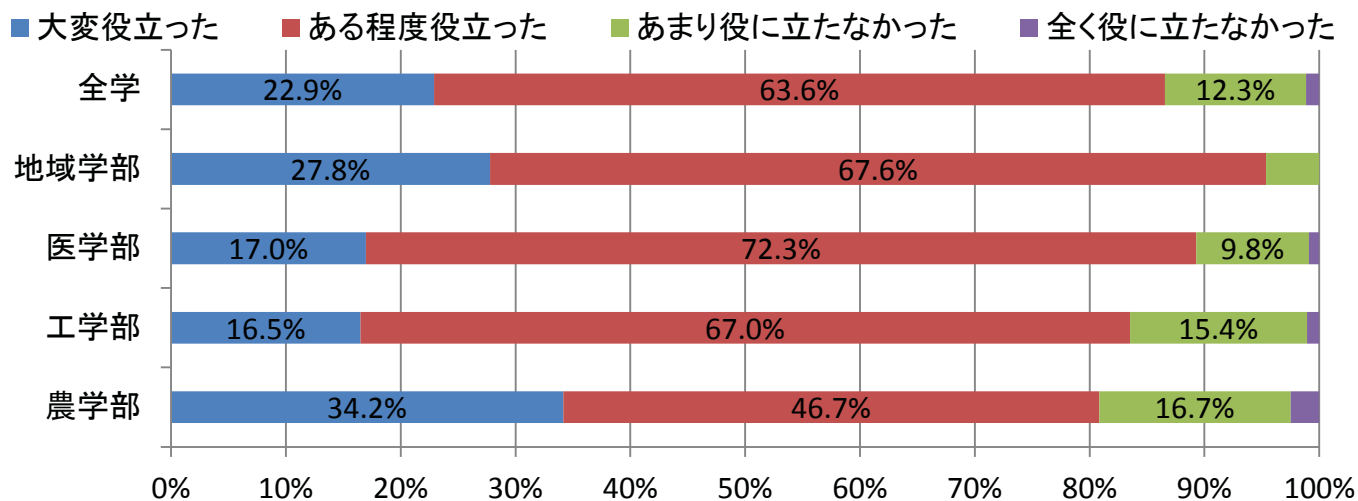
## i. 問題を発見し解決する能力



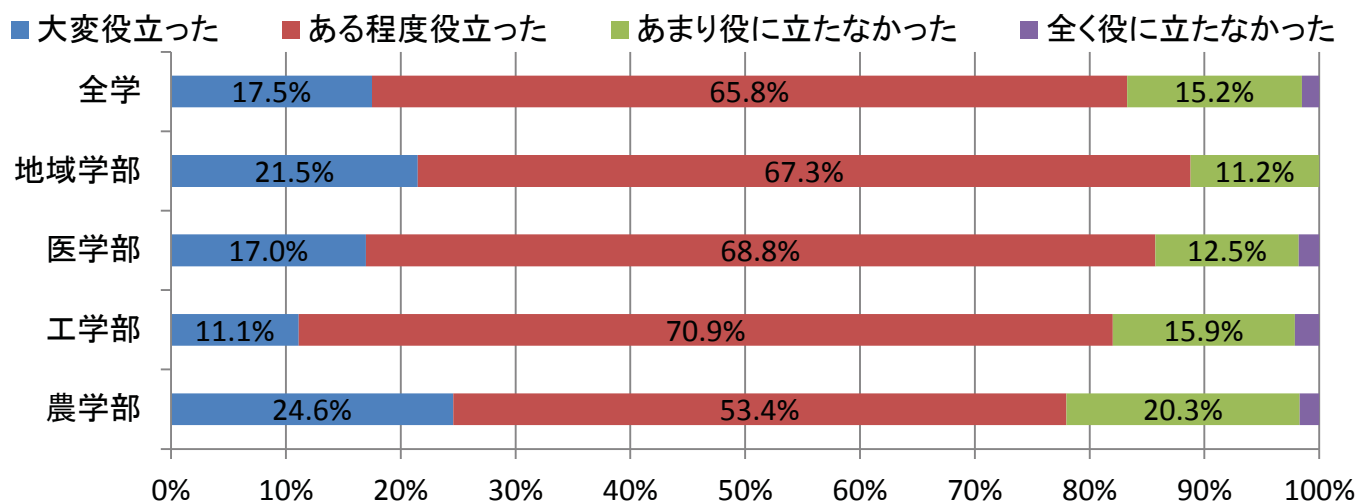
・「感性や人間性の豊かさ」は、全学で高く86.5%の役立ち度だった。地域学部で95.4%と最も高く、次いで医学部で89.3%、工学部83.5%、農学部80.9%だった。

・「豊かな教養による社会を見る広い視野」は、全学で83.3%の役立ち度だった。地域学部で88.8%と最も高く、次いで医学部で85.8%、工学部82.0%、農学部78.0%だった。

### a.感性や人間性の豊かさ



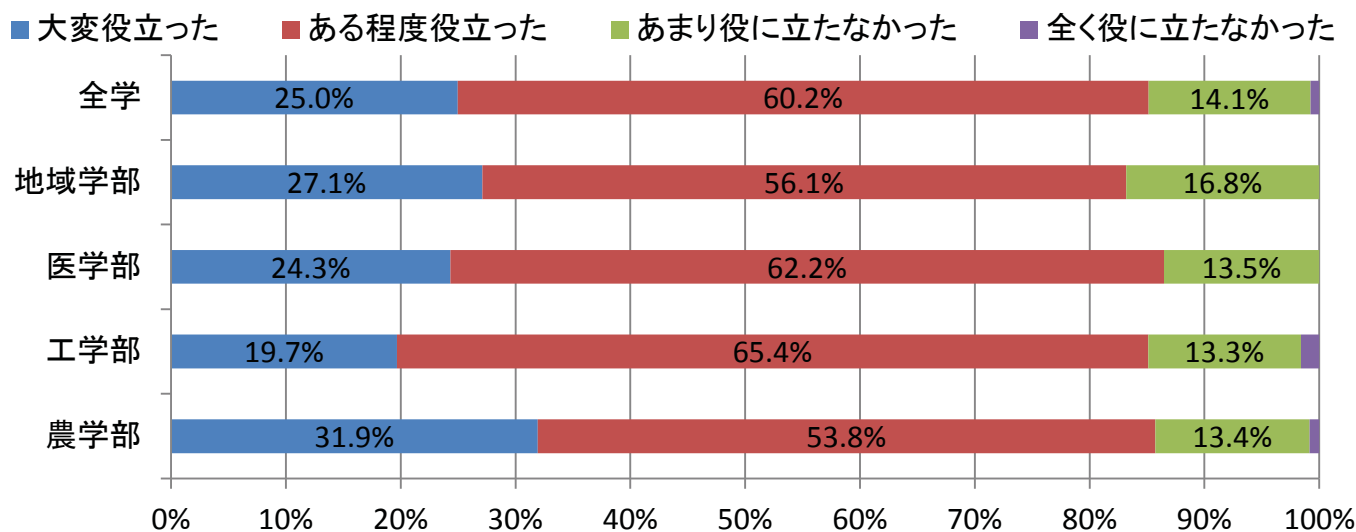
### b.豊かな教養による社会を見る広い視野



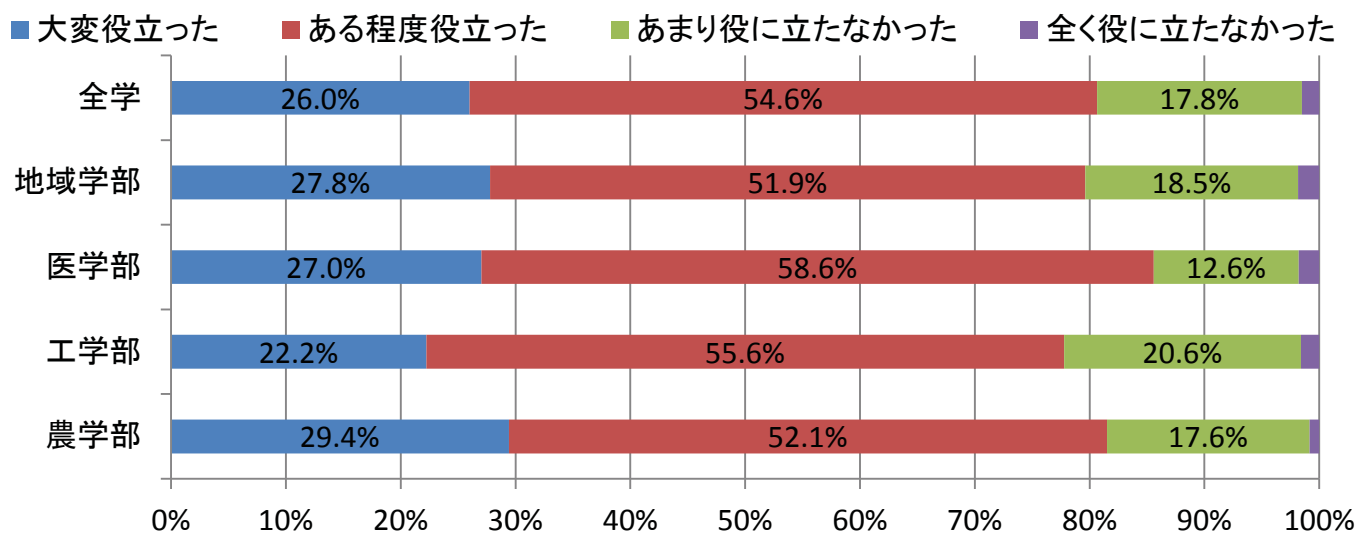
・「すべきだと思ったことを実践する姿勢」は、全学で85.2%の役立ち度だった。学部間の差異はなく、4学部ともに8割台であった。「大変習得できた」では、農学部が特に高く31.9%だった。

・「積極性・チャレンジ精神」は、全学で80.6%の役立ち度だった。学部間の大きな差異はなく、4学部ともに8割前後であった。

### c. すべきだと思ったことを実践する姿勢



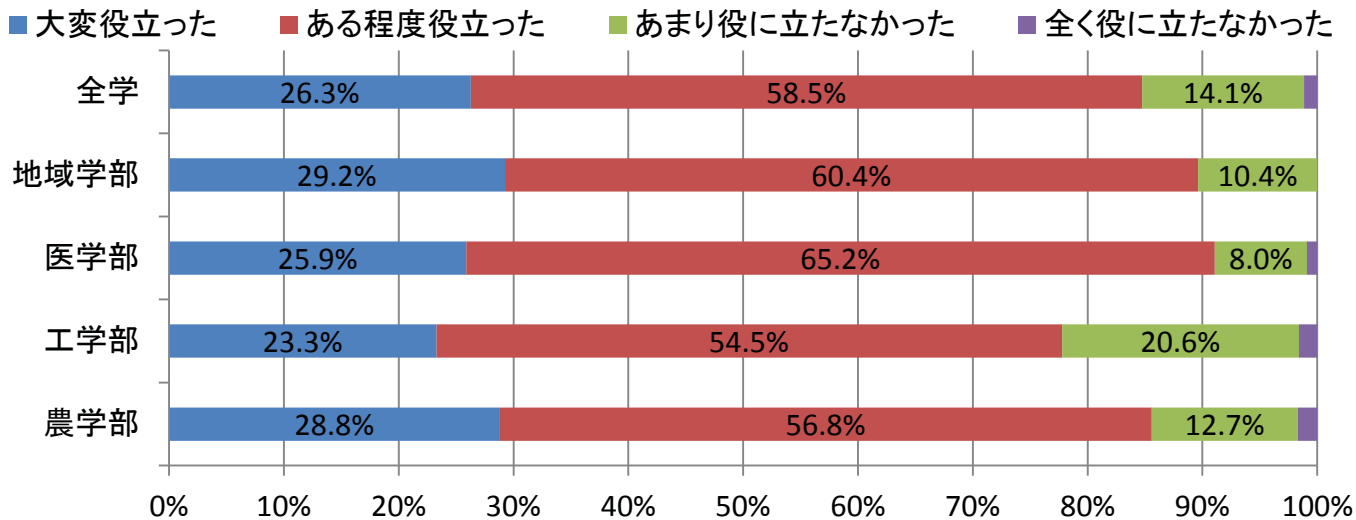
### d. 積極性・チャレンジ精神



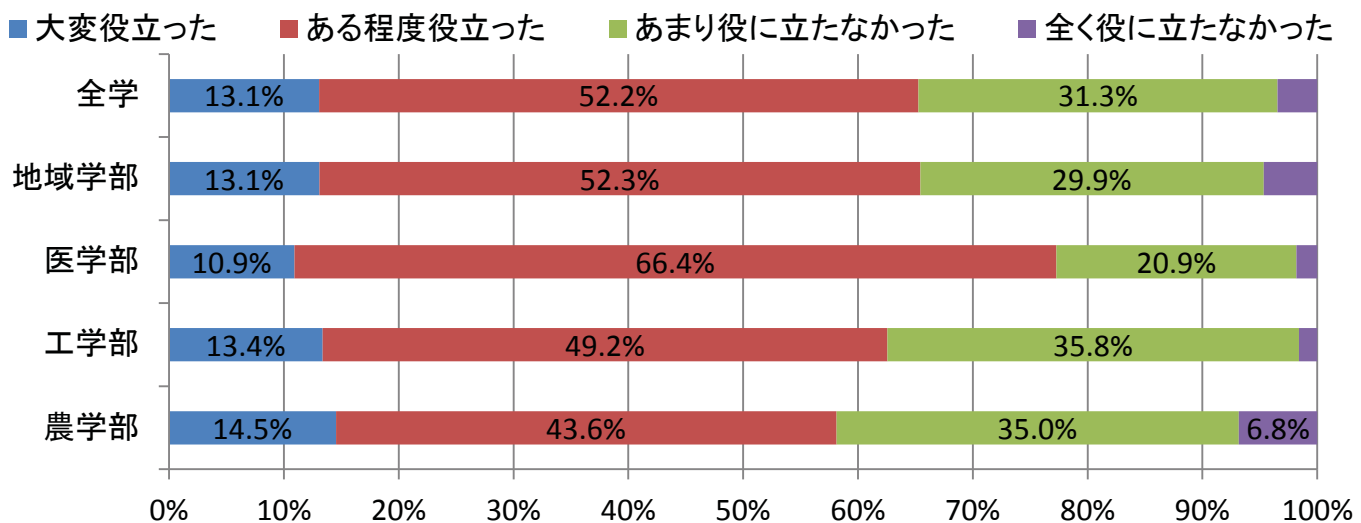
・「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」は、全学で84.8%の役立ち度だった。地域学部と医学部で約9割、農学部で約8割5分の方、工学部は77.8%で若干低い役立ち度だった。

・「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」は、全学で65.3%の役立ち度だった。医学部が77.3%で高い一方、地域学部・工学部は6割台、農学部は58.1%で若干低い役立ち度だった。

### e. 礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性



### f. 組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力



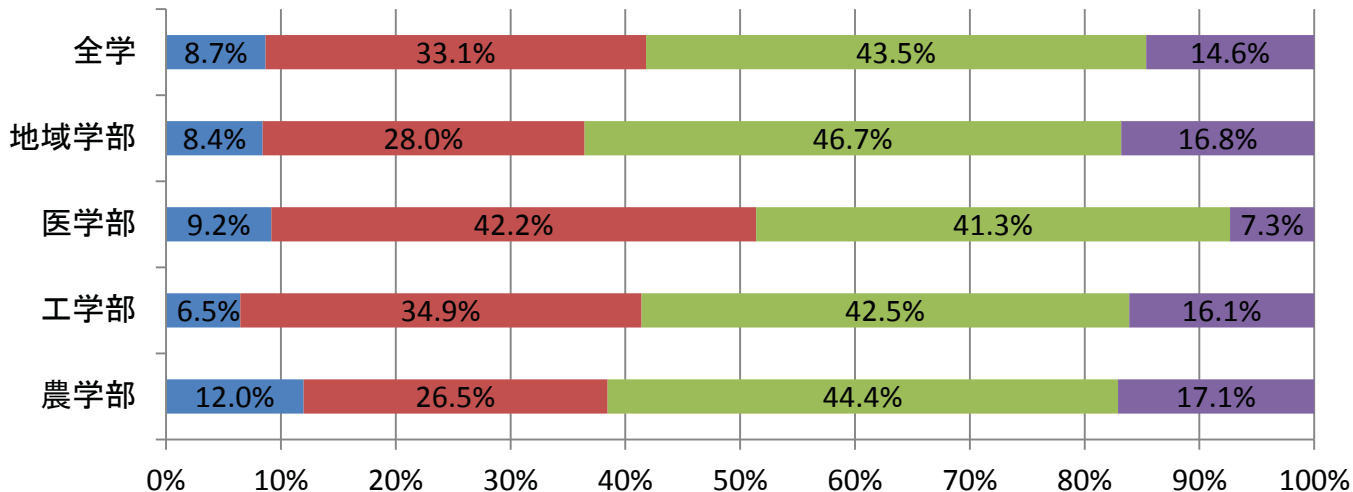


・「語学など国際化への対応能力」は、全学で41.8%の役立ち度だった。医学部が最も高く51.4%の一方、地域学部・工学部・農学部は4割前後の役立ち度だった。

・「IT時代に対応した情報スキル」は、全学で51.8%の役立ち度だった。工学部が約6割と高い一方、医学部と農学部は約5割、地域学部は約4割と低い役立ち度だった。

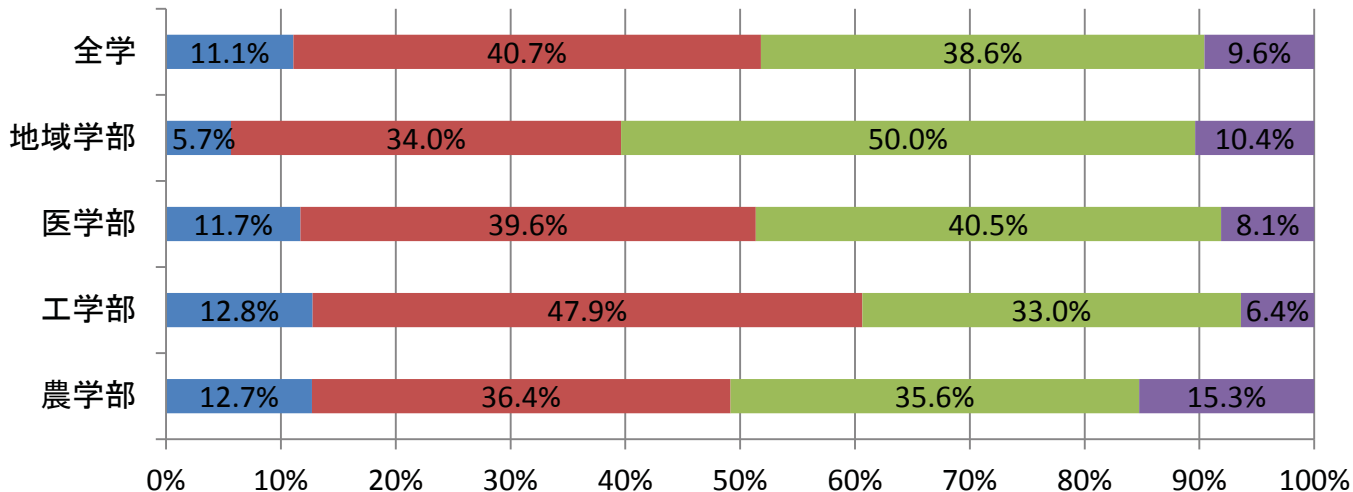
## l. 語学など国際化への対応能力

■ 大変役立った ■ ある程度役立った ■ あまり役に立たなかった ■ 全く役に立たなかった



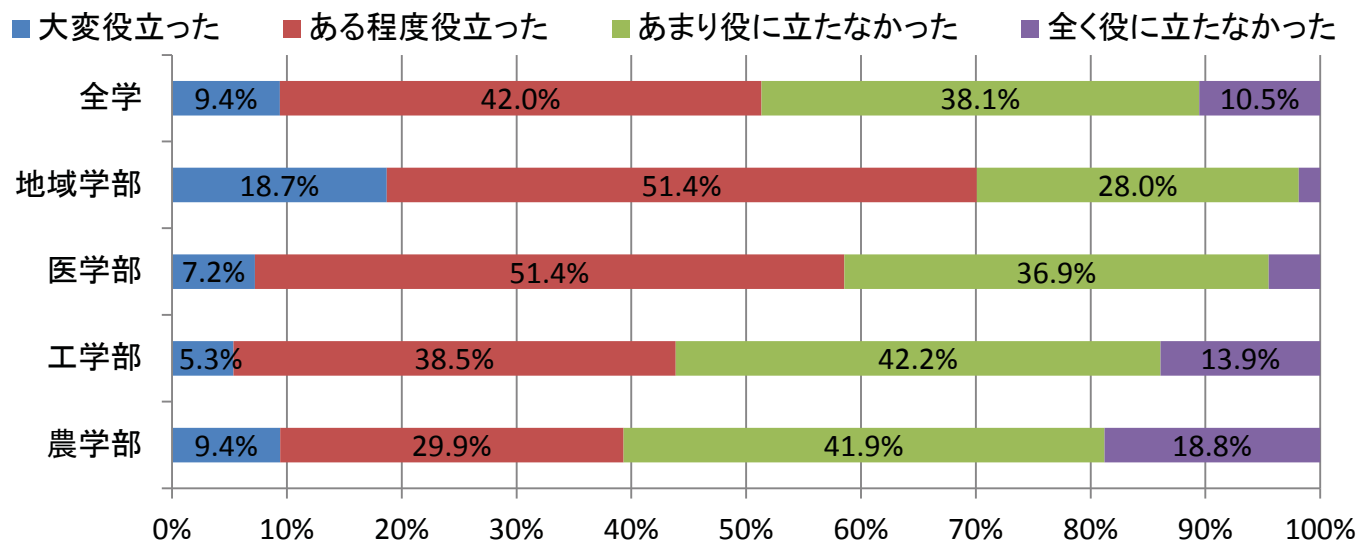
## k. IT時代に対応した情報スキル

■ 大変役立った ■ ある程度役立った ■ あまり役に立たなかった ■ 全く役に立たなかった



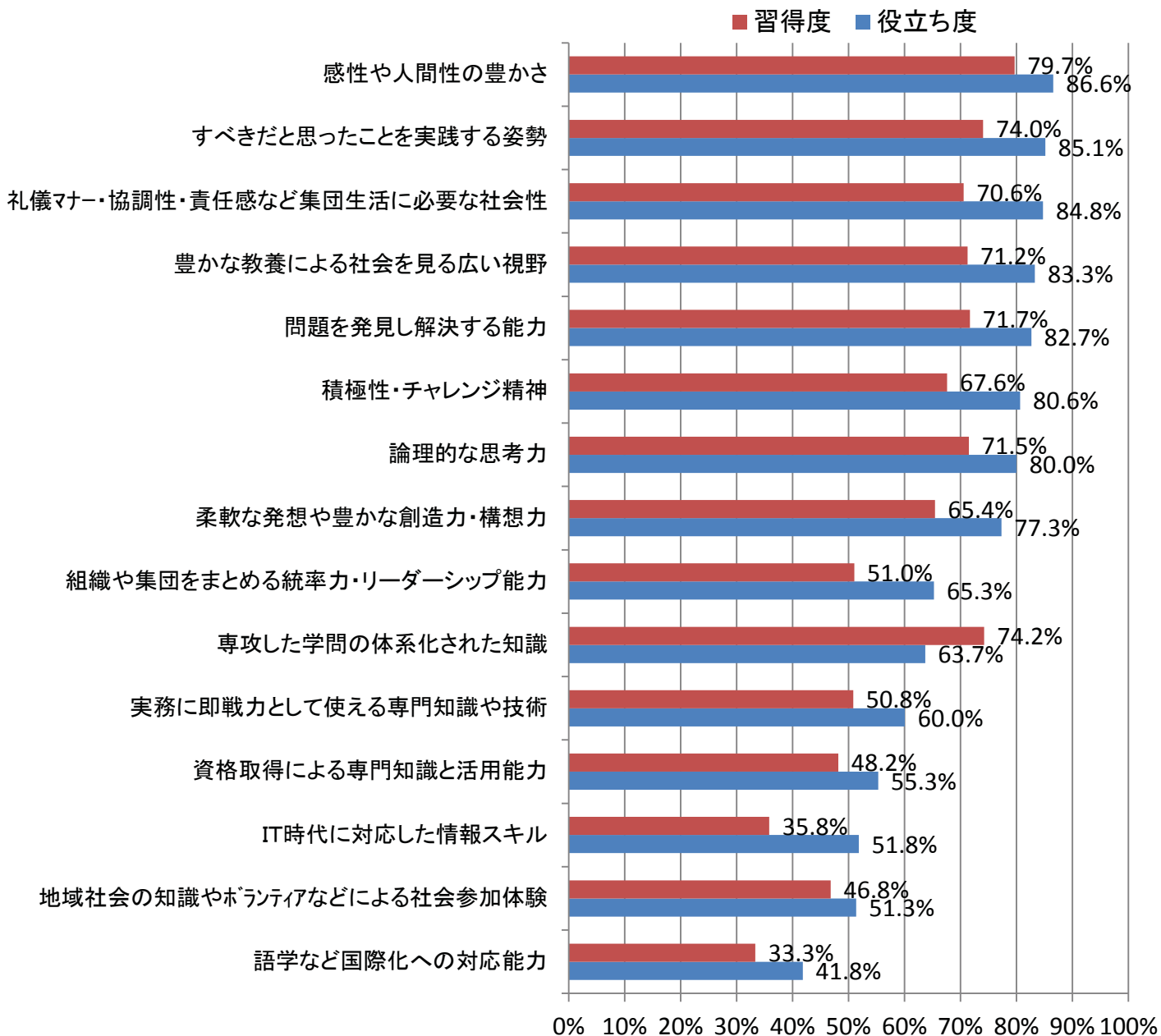
・「地域社会の知識やボランティア等による社会参加体験」は、全学で51.4%の役立ち度だった。地域学部が約7割、医学部で約6割と高い役立ち度の一方、工学部・農学部では約4割の低い役立ち度だった。

## n.地域社会の知識やボランティア等による社会参加体験

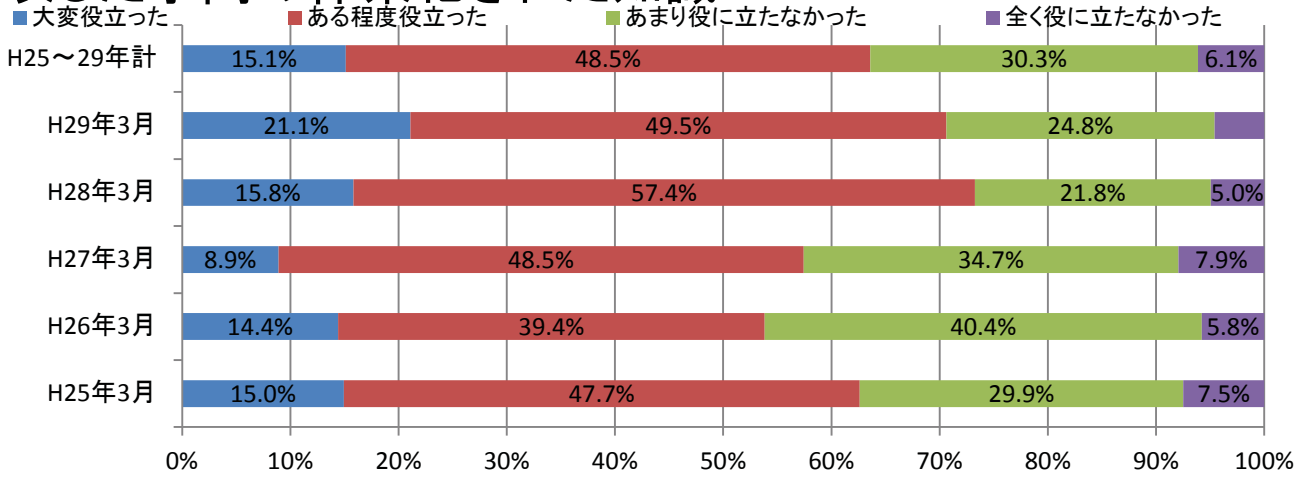


# 習得度 × 役立ち度

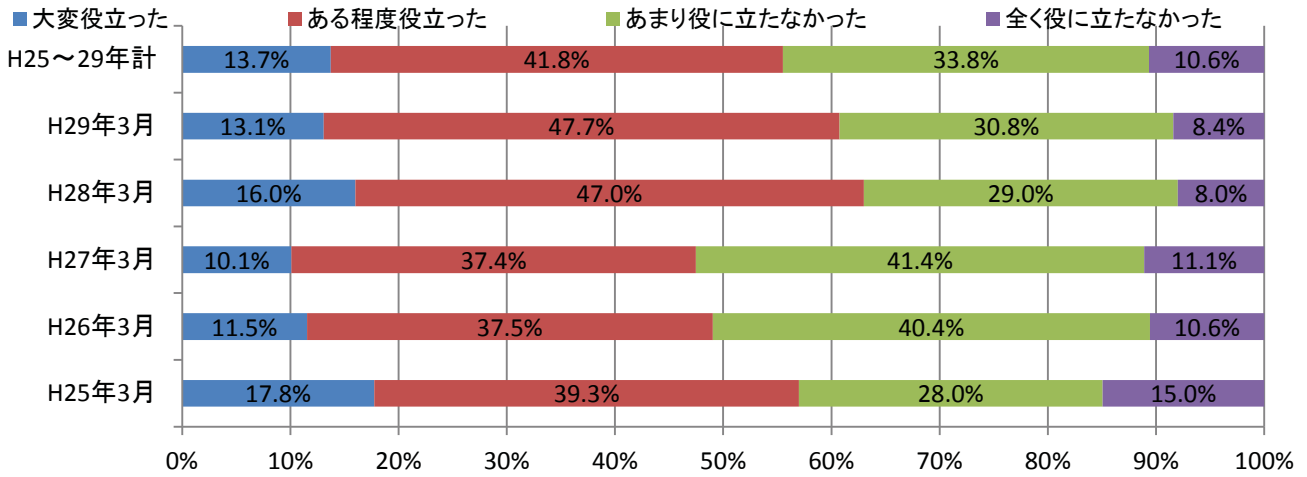
・“習得度”（「大変」+「ある程度」の「習得できた」）と、教育成果としての“役立ち度”（「大変」+「ある程度」の「役だった」）について比較すると、「専攻した学問の体系化された知識」以外の項目は“役立ち度”が高い結果となった。学生時代にあまり“習得”できていない能力・技術・知識等であっても、社会に出てからその重要性を理解し“役立った”と認識している可能性がある。



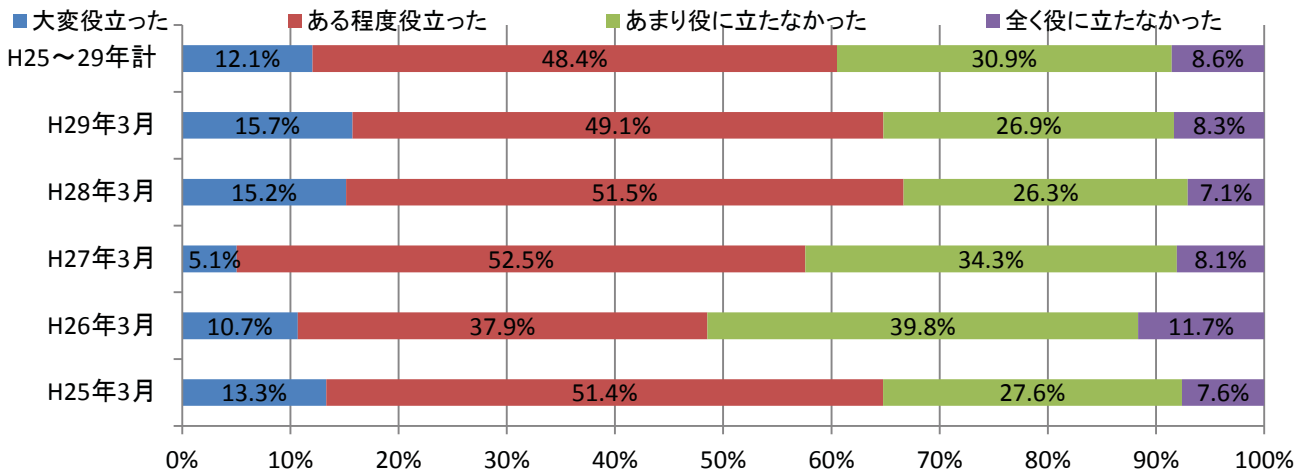
g. 専攻した学問の体系化された知識



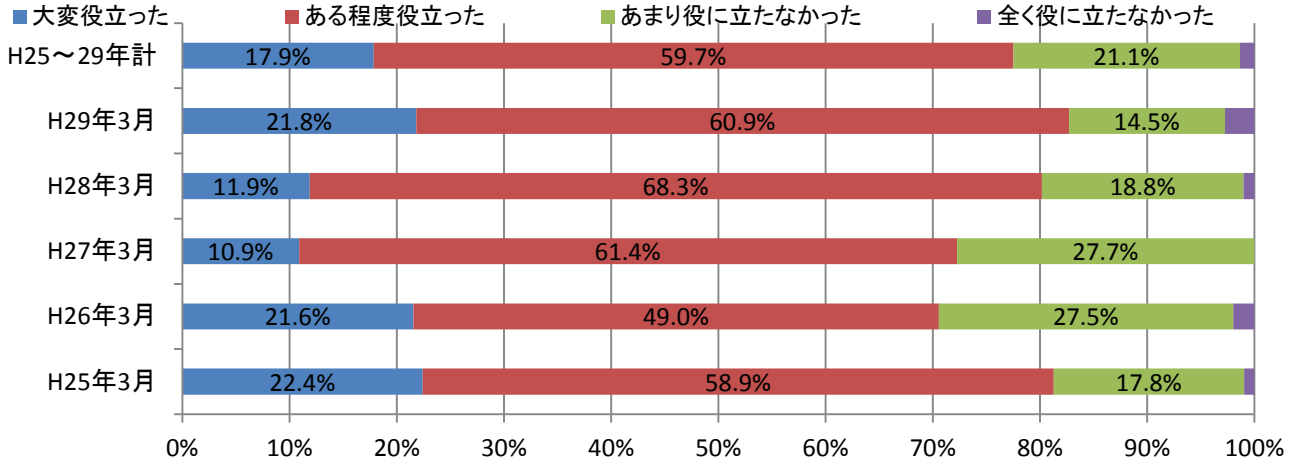
o. 資格取得による専門知識と活用能力



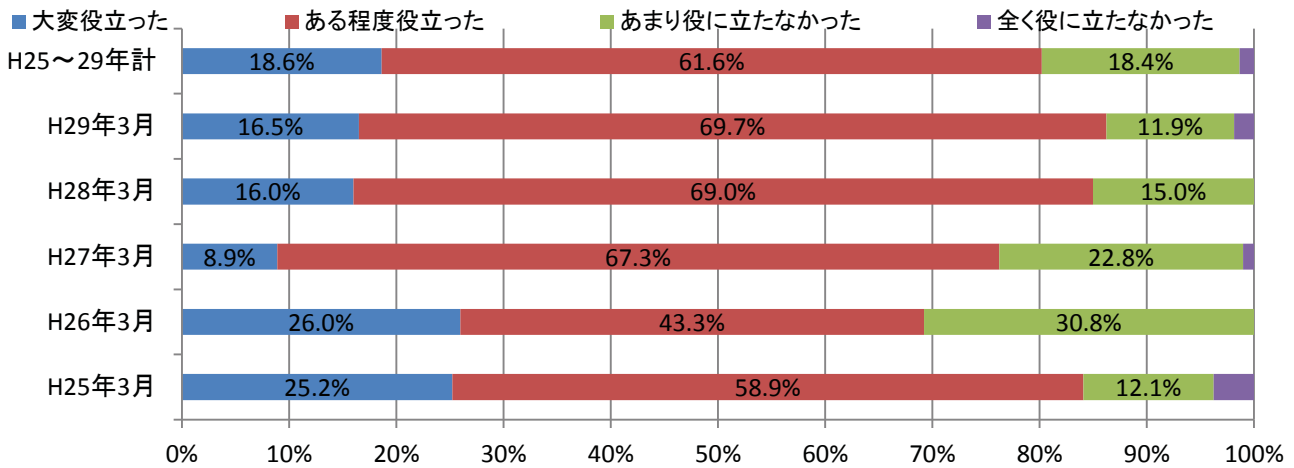
m. 実務に即戦力として使える専門知識や技術



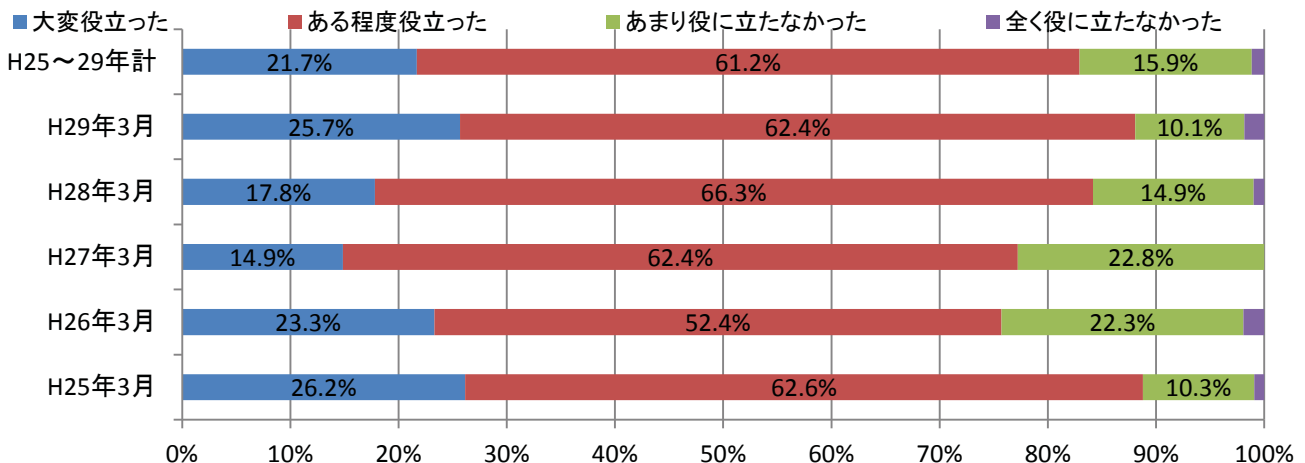
### j. 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力



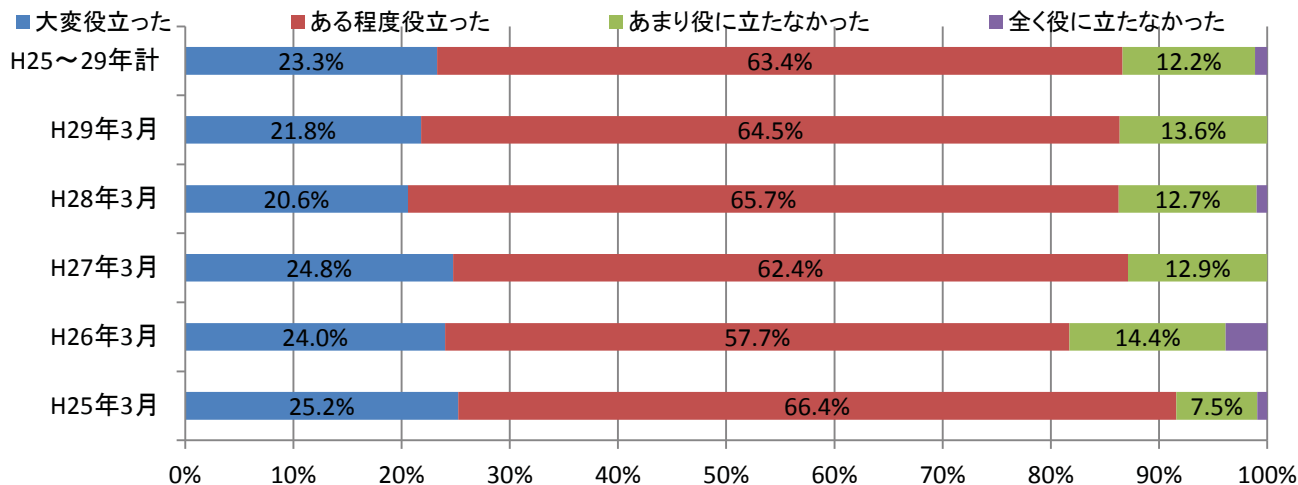
### h. 論理的な思考力



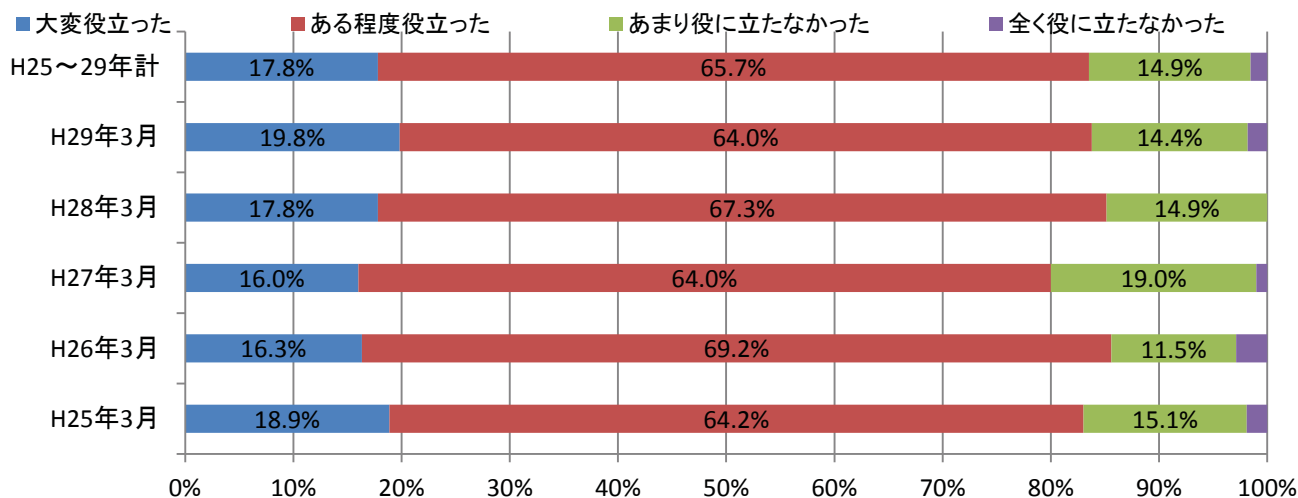
### i. 問題を発見し解決する能力



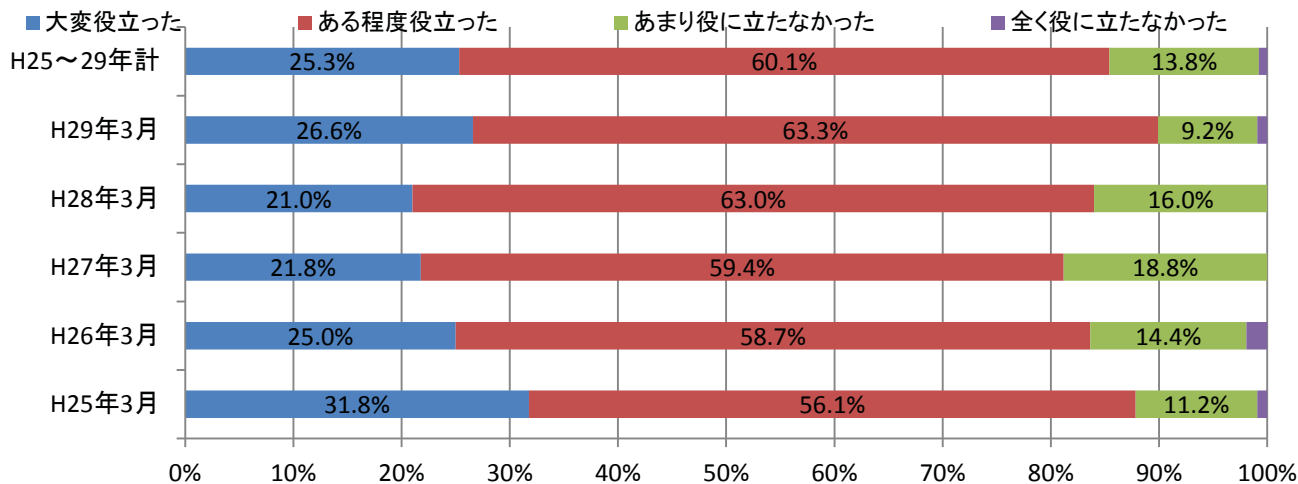
## a.感性や人間性の豊かさ



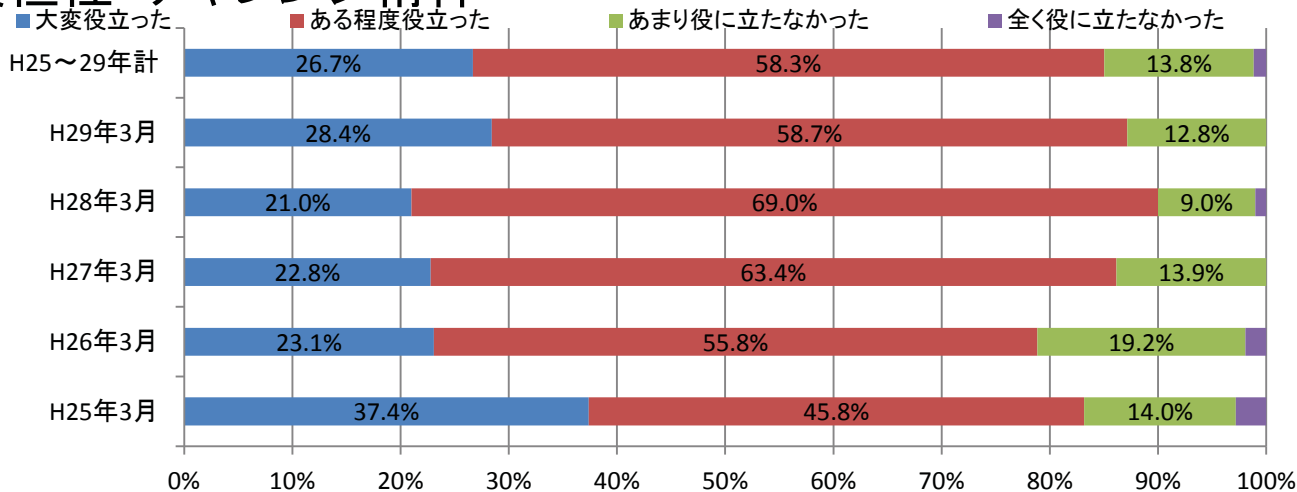
## b.豊かな教養による社会を見る広い視野



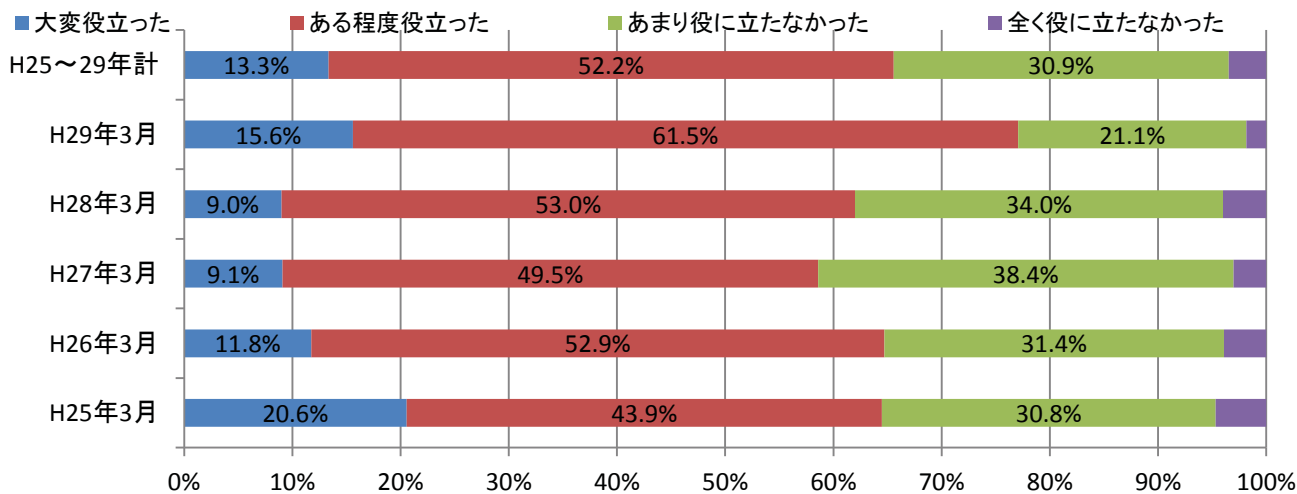
## c.すべきだと思ったことを実践する姿勢



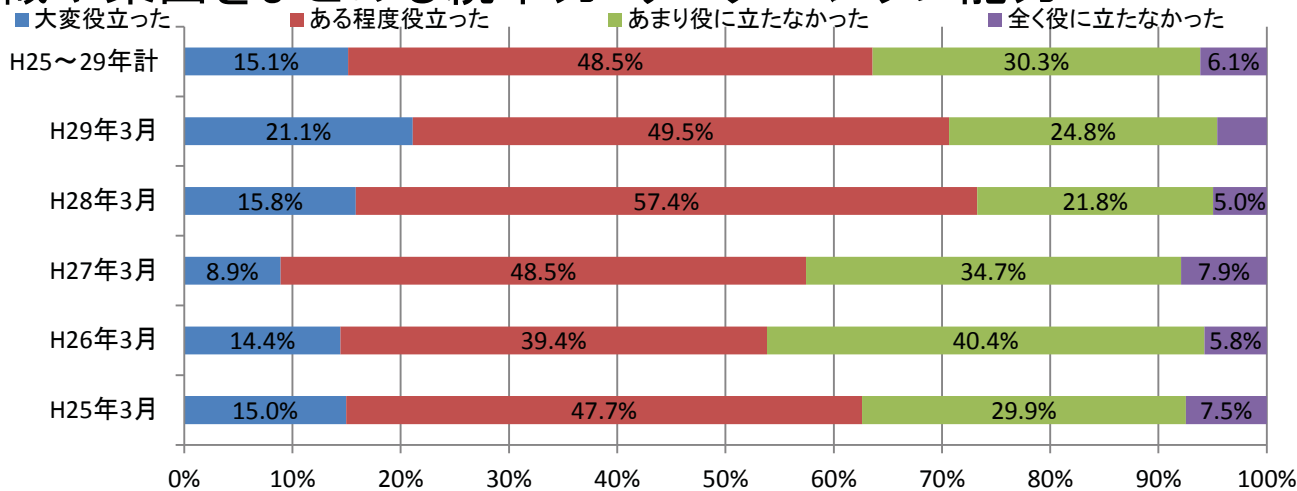
### d. 積極性・チャレンジ精神



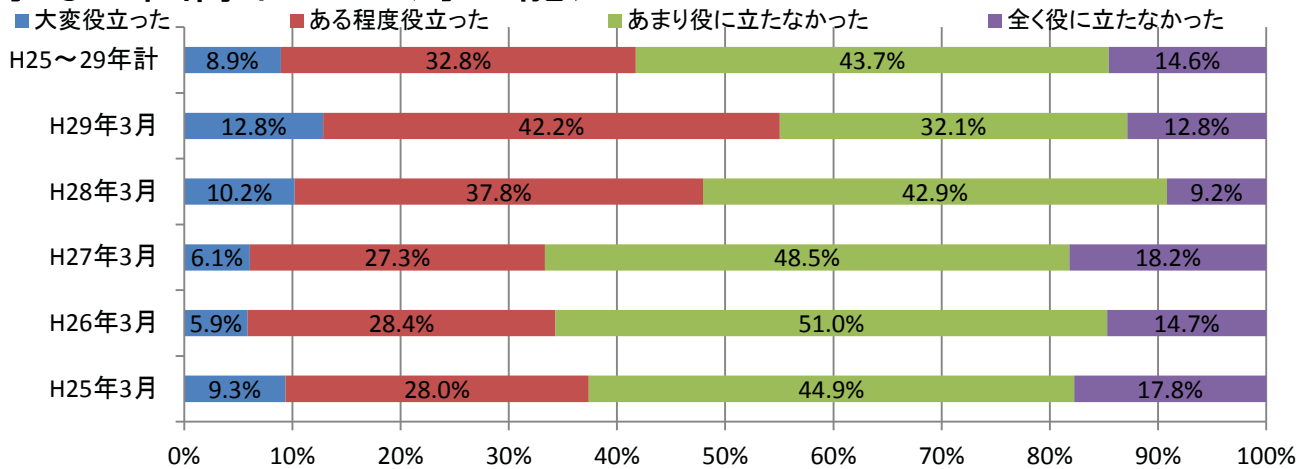
### e. 礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性



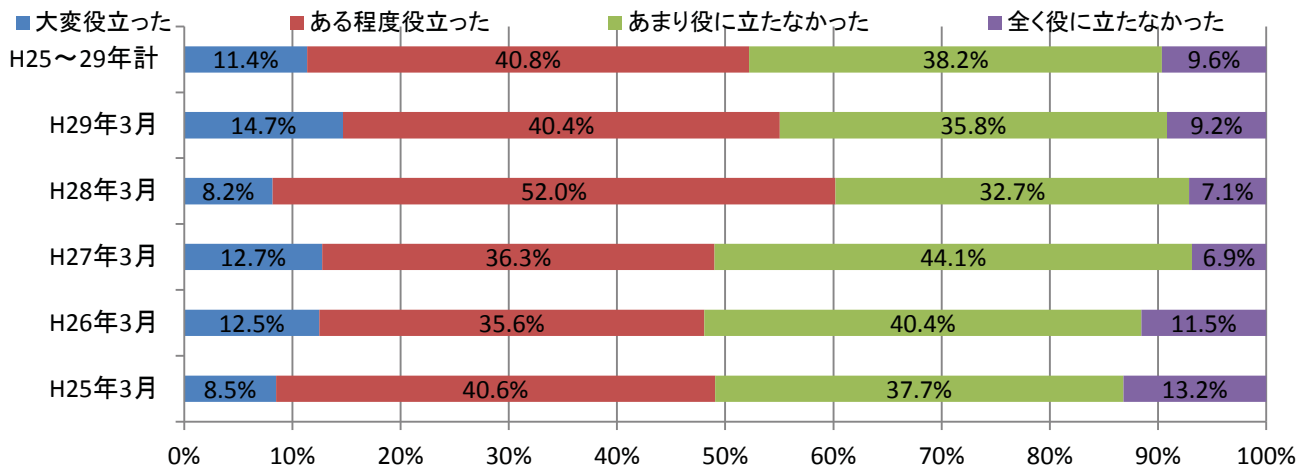
### f. 組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力



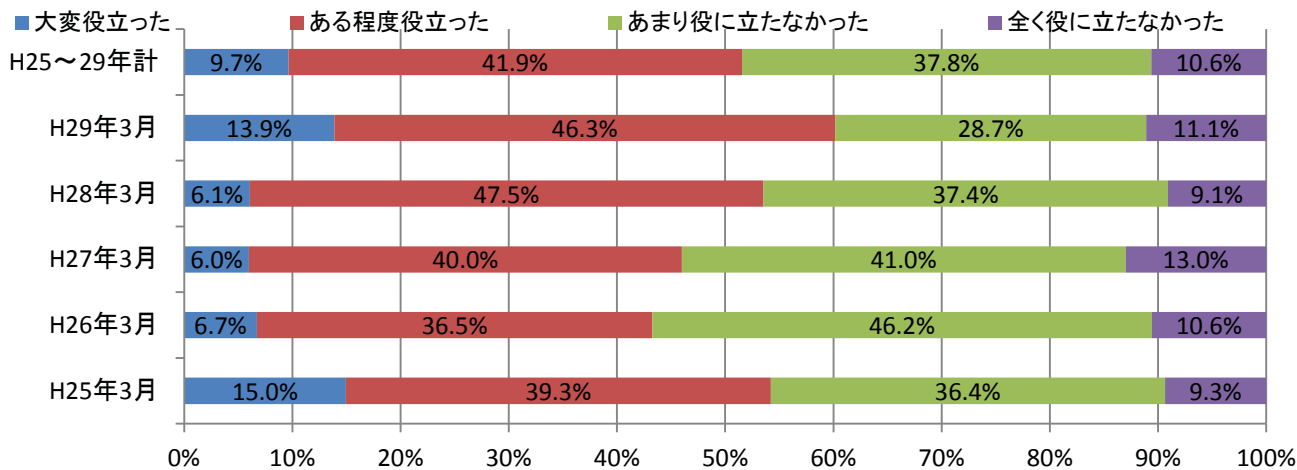
## I. 語学など国際化への対応能力



## k. IT時代に対応した情報スキル



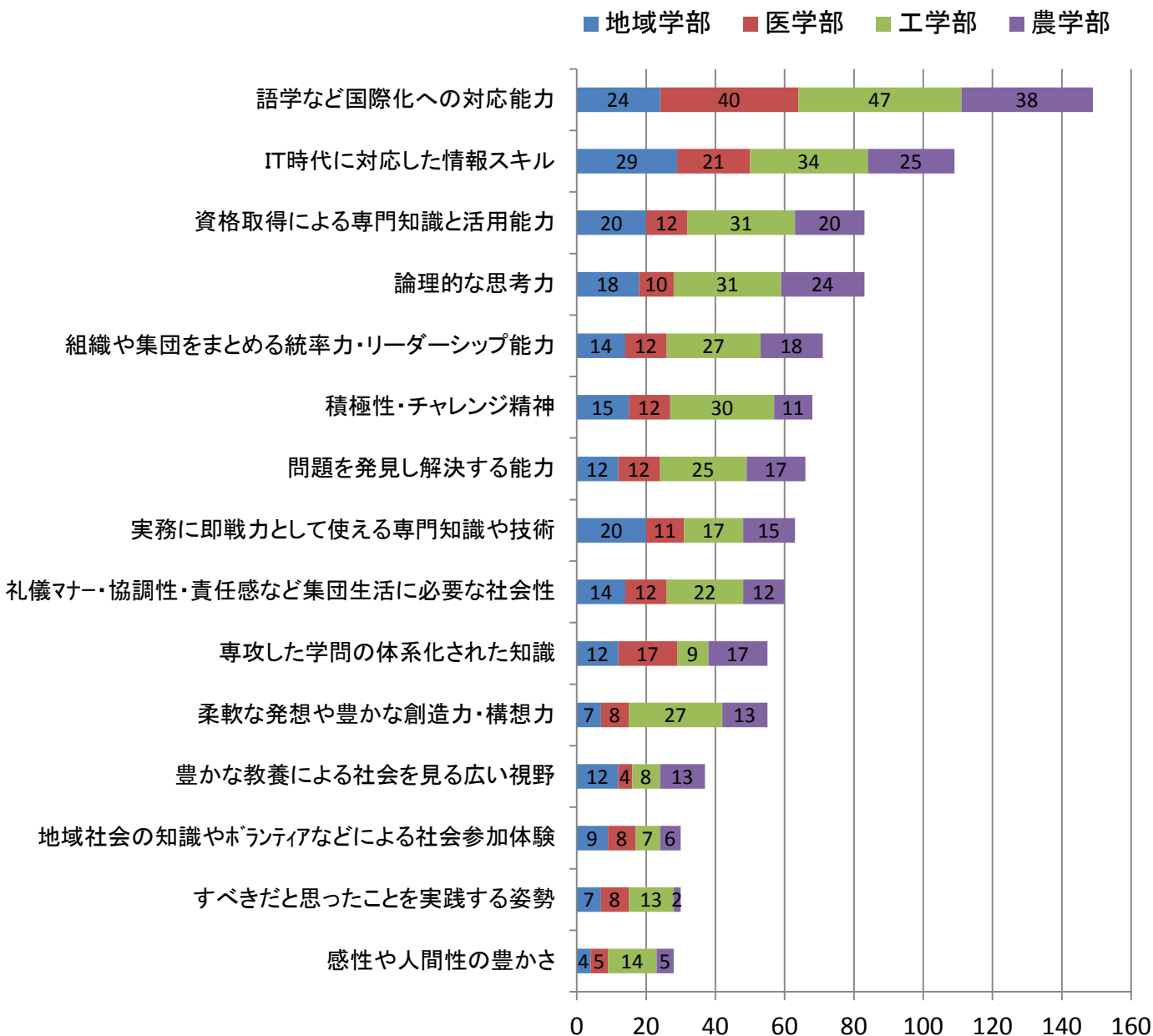
## n. 地域社会の知識やボランティアなどによる社会参加経験





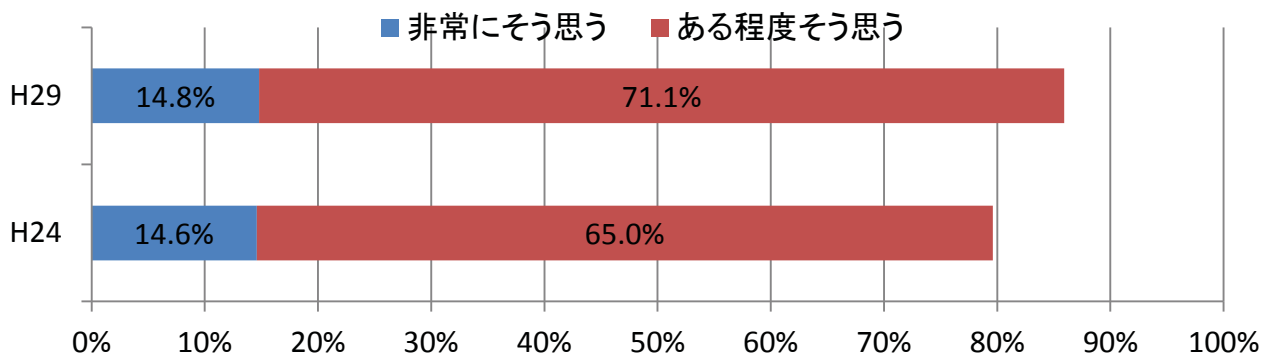
# 学んでおけば良かったこと

「学生時代にもっと学んでおけば良かった」と思う能力・技術・知識等に関して回答を求めたところ(1人3件まで)、「語学など国際化への対応能力」が149件で圧倒的に多く、次いで「IT時代に対応した情報スキル」が109件であった。

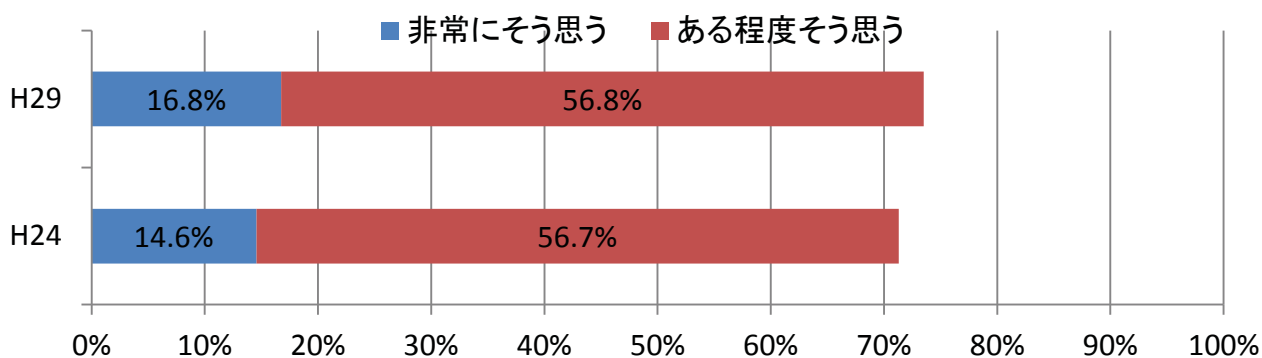


平成24年度調査と平成29年度調査の「総合的な満足度」を比較すると、「全体として満足」「卒業後の仕事や生活に役立っている」「受験を高校生に薦めたい」の全3項目で、平成29年度調査の方が肯定回答率が高かった。

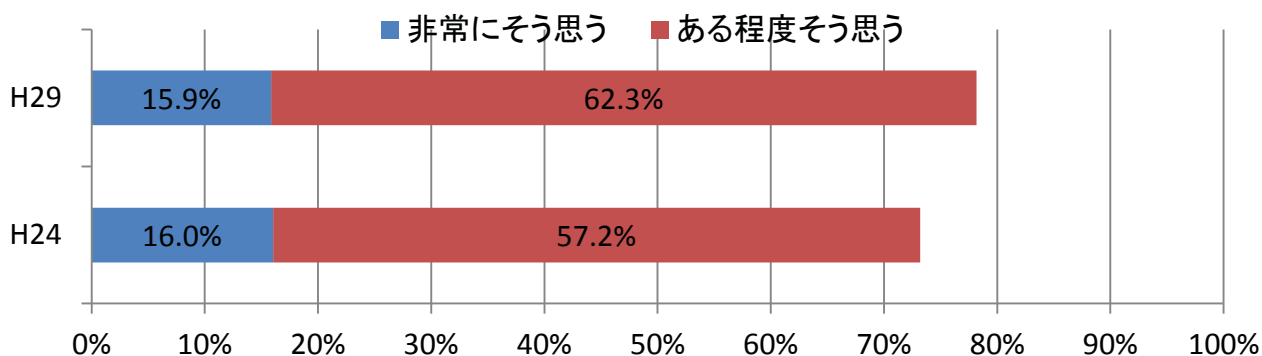
### a.鳥取大学の教育内容に、全体として満足している



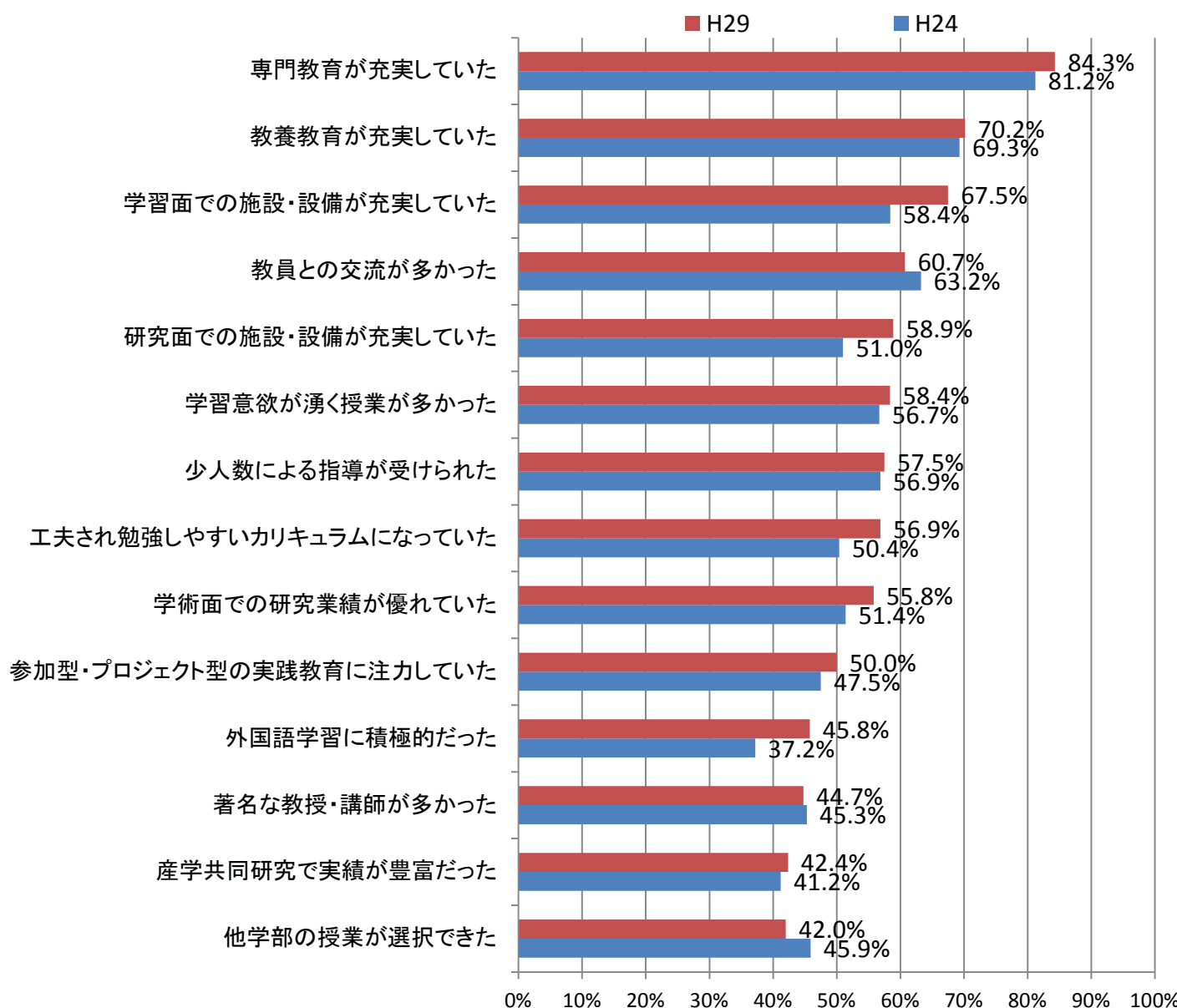
### b.鳥取大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている



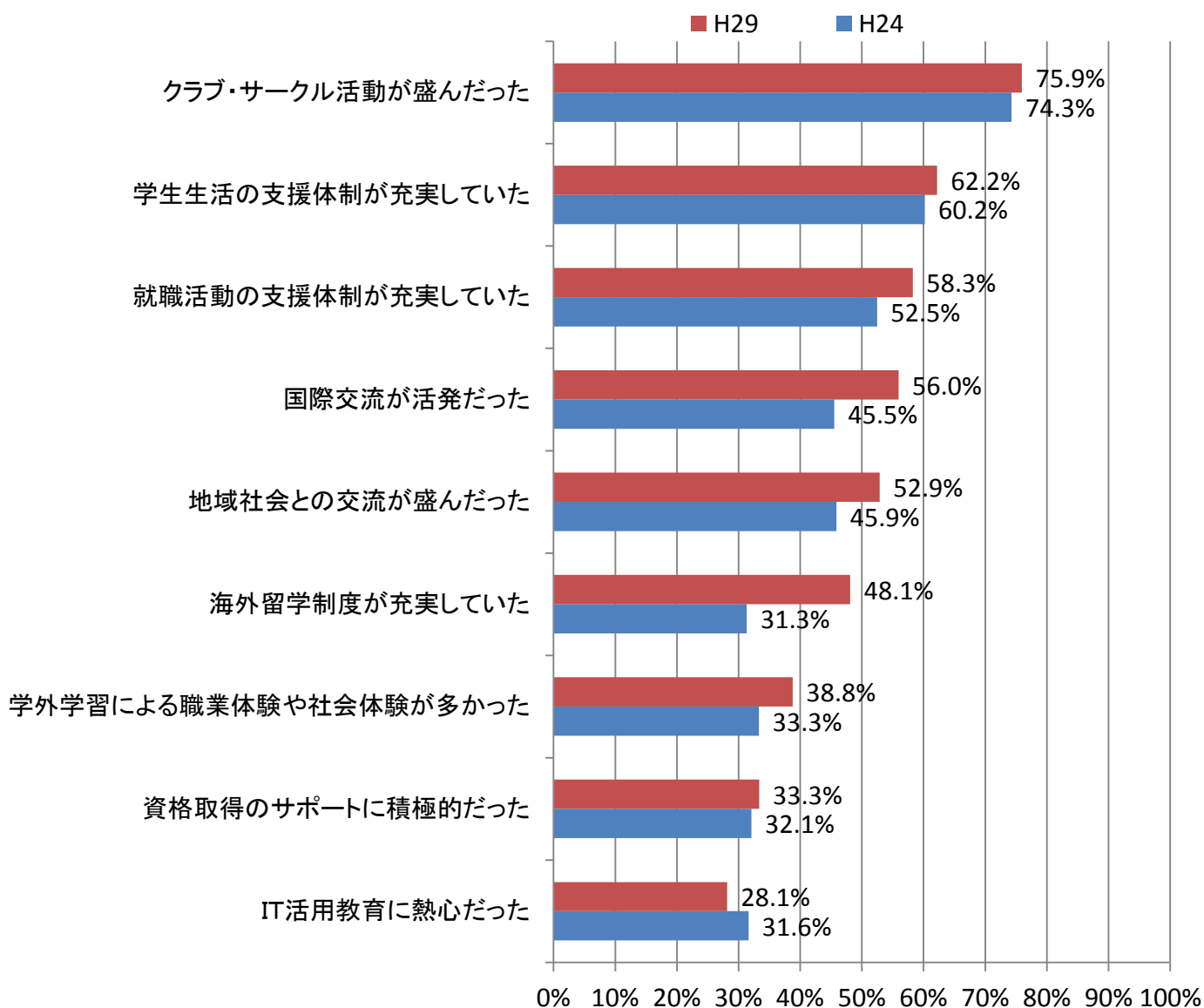
### c.鳥取大学への受験を高校生に薦めたい



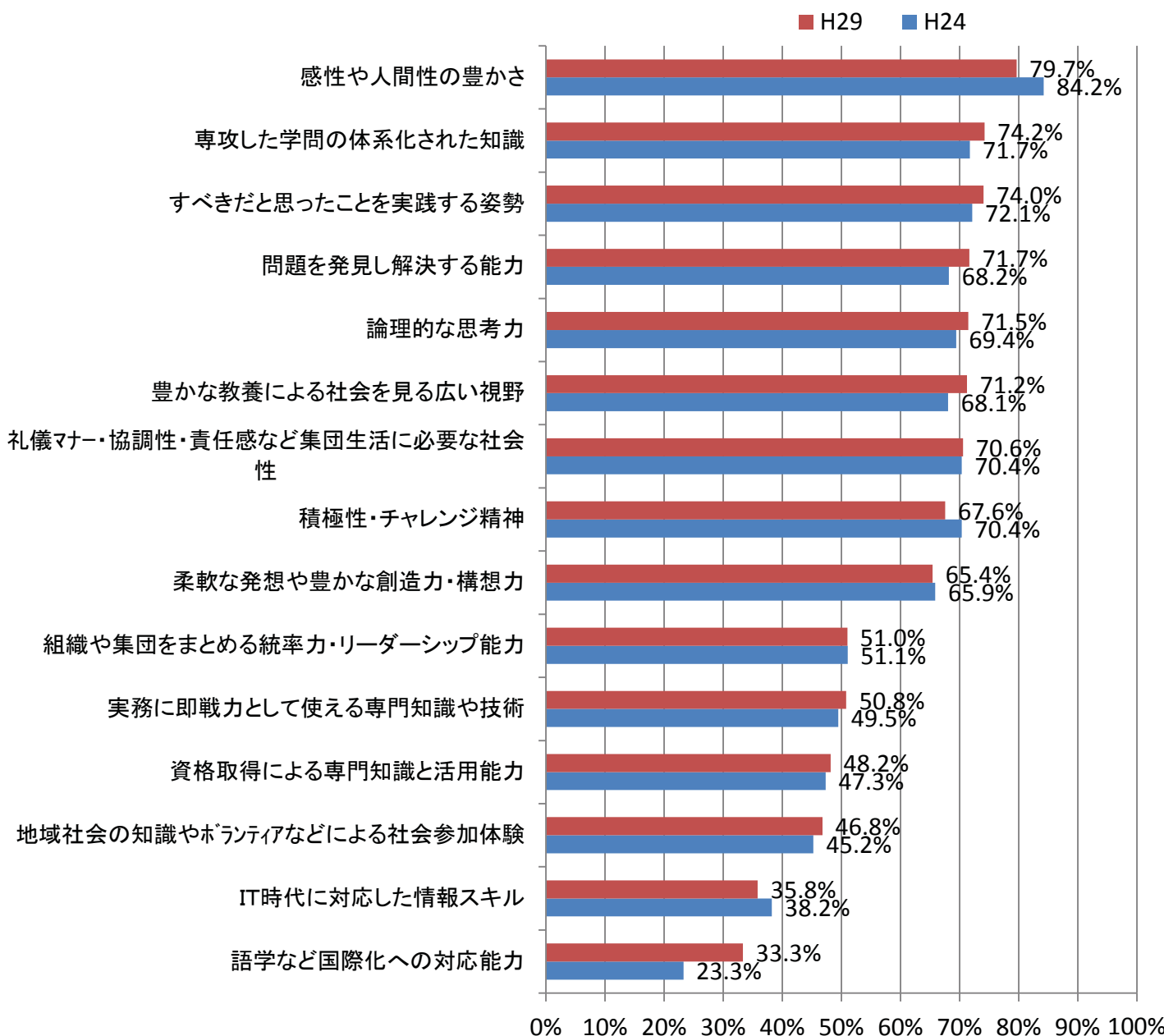
平成24年度調査と平成29年度調査の「教育と研究に関する充実度」を比較すると、「学修面での施設・設備が充実」「研究面での施設・設備が充実」「工夫され勉強しやすいカリキュラム」「外国語学習に積極的」の4項目で、平成29年度調査の方が高い肯定回答率だった。「教員との交流が多かった」「著名な教授・講師が多かった」「他学部の授業が選択できた」の3項目では、平成24年度調査の方が肯定回答率が若干高かった。



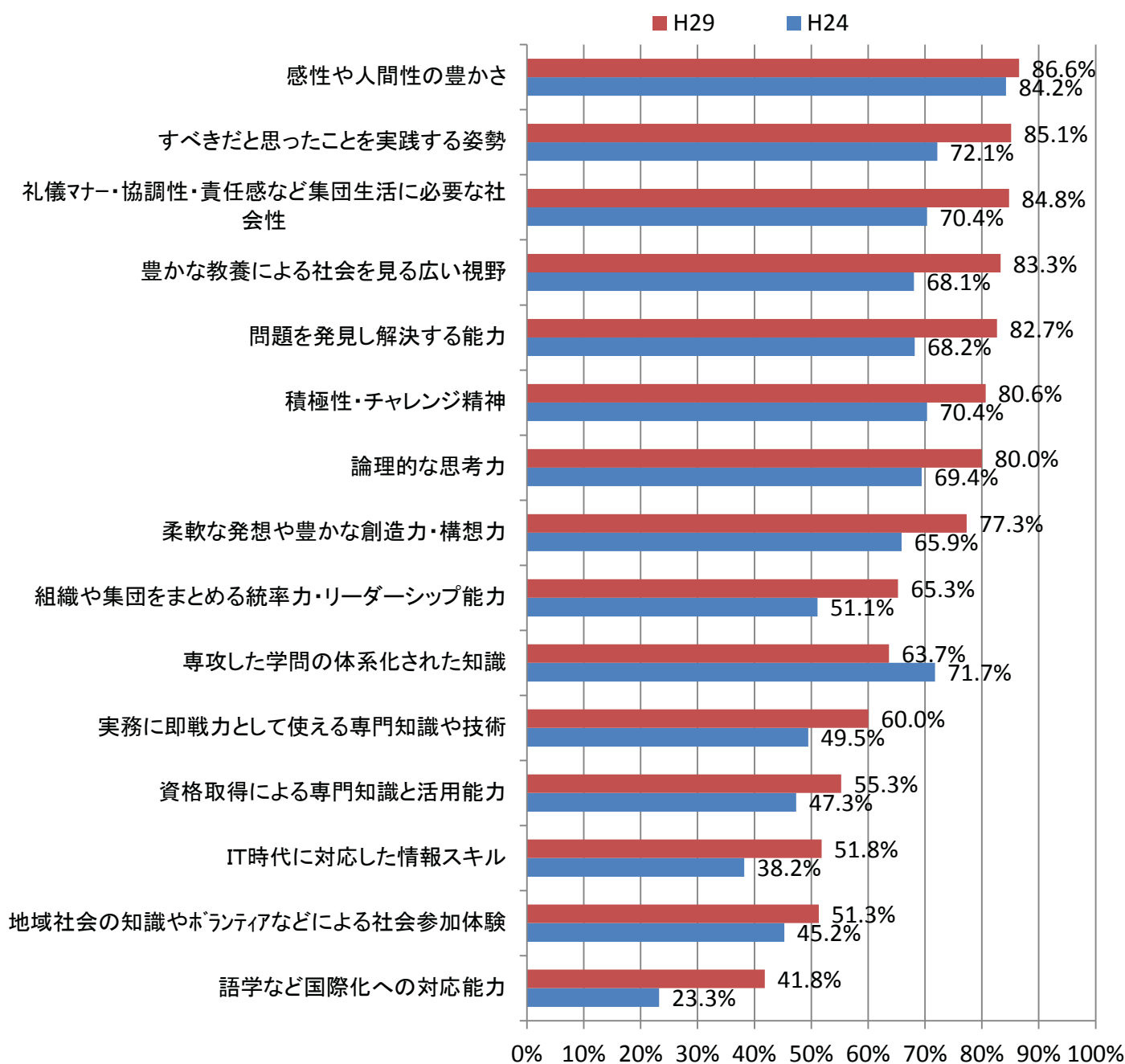
平成24年度調査と平成29年度調査の「交流活動・支援体制に関する充実度」を比較すると、「就職活動の支援体制が充実」「国際交流が活発」「地域社会との交流が盛ん」「海外留学制度が充実」「学外学習による職業体験や社会体験活動が多い」の5項目で、平成29年度調査の方が高い肯定回答率だった。特に「海外留学制度が充実」は大きな差異が表われていた。



平成24年度調査と平成29年度調査の「大学での教育や学生生活を通じて習得した能力・技術・知識」を比較すると、「語学など国際化への対応能力」で、平成29年度調査結果の肯定回答率が高くなっていた。しかしながら、平成29年度調査においても「国際化への対応能力」は33.3%で、全ての項目の中で最も低い結果だった。その他の項目では、微細な変動のみで大きな差異は見受けられなかった。



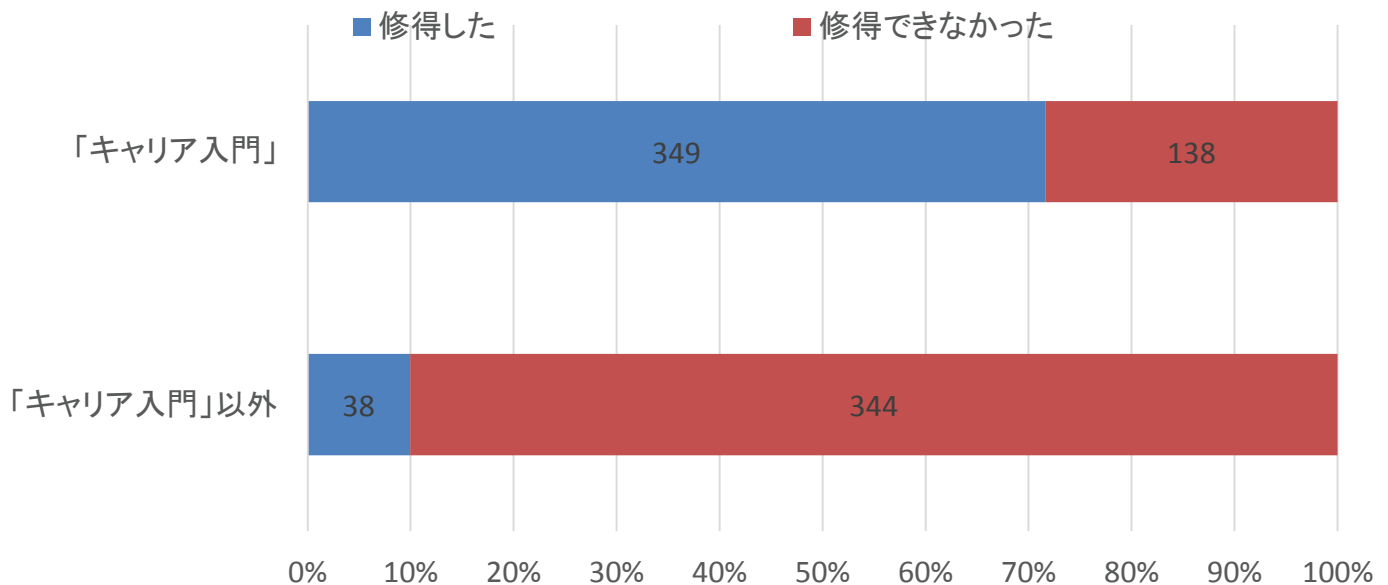
平成24年度調査と平成29年度調査の「社会に出てから役立った能力・技術・知識」を比較すると、15項目中14項目で平成29年度調査結果の肯定回答率が高くなっていた。「専攻した学問の体系化された知識」については、平成24年度調査の役立ち度の方が平成29年度よりも高い結果となっていた。



・「キャリア入門」は平成24年度入学生より、本学では地域学部を除いて必修（または選択必修）科目となっているため、今回の調査対象となる卒業生ではその多くが単位を修得している。

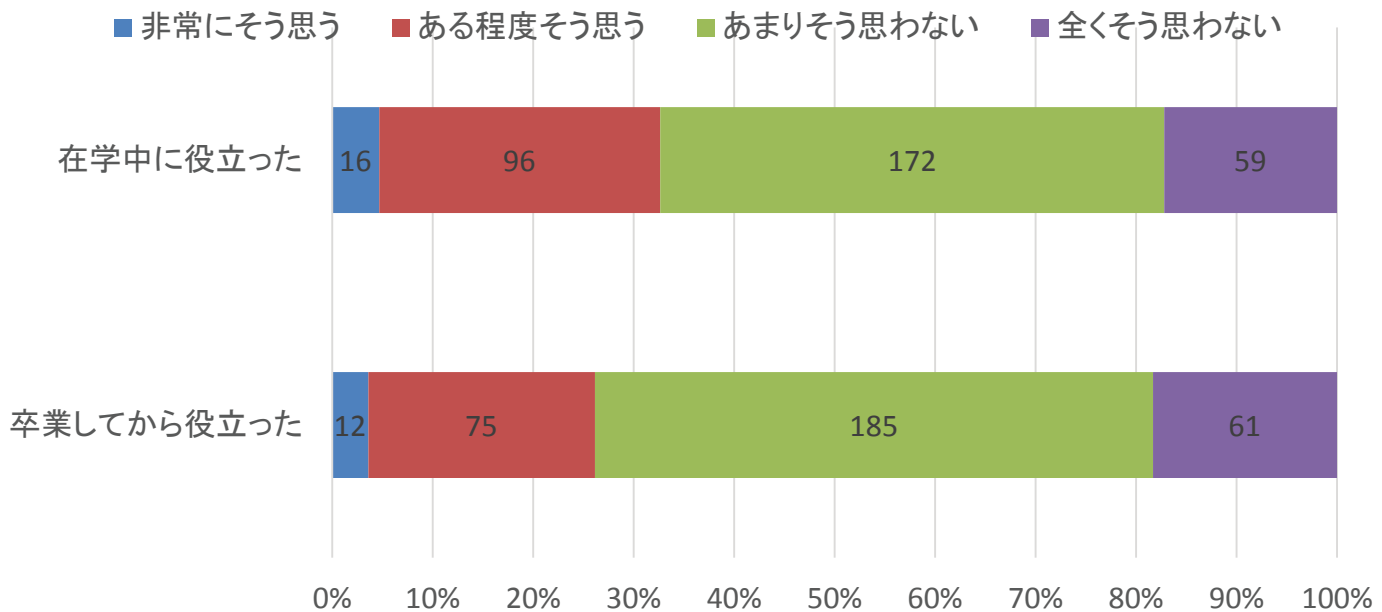
・「キャリア入門」以外のキャリア教育科目について、単位を修得した卒業生は少ない。現在は、基幹科目、主題科目と並ぶ科目区分として「キャリア科目」を設置しているが、先の二つの科目区分に比べると開講科目数が少なく、履修者も少ない現状にある。

## 単位修得状況



・科目からの学びがその後、役に立ったのかを聞いたところ、在学中の役立ち感・卒業後の役立ち感とも、肯定回答率は全体の3割前後にとどまった。大学教育の意義や卒業後の効用については、必ずしも即効性あるものばかりではないとはよく言われるところでもあり、判断には注意を要する。その一方で、在学中の役立ち感が決して高いとはいえない点については、「在学中の教育効果」をどう高めていくか、検討を要するところである。

## 科目からの学び





・「キャリア入門」や、そのほかのキャリア教育科目を履修したことが、在学中にどのようなかたちで役立ったと感じたかを自由に記述してもらった。「キャリア入門」についての役立ち感を記した回答では、同科目が掲げる達成目標「大学(学部)卒業後の生き方や働き方を視野に入れて日々の学生生活を送ることができるようになる。」と関連性の高い記述が目立った。また、「就職活動に挑む」(※現在は正課科目としては開講せず)等、「キャリア入門」以外の科目も含め、就職(活動)活動に向けての役立ち感を記した回答も多くみられた。

| 授業科目名      | 在学中に役立ったと感じたこと(自由記述)                         |
|------------|--|
| キャリアデザイン   |  |
| キャリア入門(5件) |  |
| キャリア入門     | 1年次に受けたが、大学で何を目的として生活すべきかが明確になったから。          |
| キャリア入門     | PDCAサイクルの考え方を改めて学び、部活に反映させることで、技術力が向上したと感じた。 |
| キャリア入門     | PDCAサイクルは研究活動をする上では根幹になる態度・姿勢の示標となった。        |
| キャリア入門     | 学習意欲   |
| キャリア入門     | 学部卒業後の進路を考えると                                |
| キャリア入門     | 科目の選び方(教養等)に参考になった。                          |
| キャリア入門     | キャリアがどんなものか知ることが出来た。                         |
| キャリア入門     | キャリアを取得できた                                   |
| キャリア入門     | 研究室選び及びその後の進路選択に役に立った。                       |
| キャリア入門     | 今後の生き方をあらためて考えさせられたため                        |
| キャリア入門     | 今後の自分の将来を考える上で、視野が少し広がった。                    |
| キャリア入門     | 今後の進路についてきちんと考えるきっかけになった。                    |
| キャリア入門     | 在学中から、就職後の仕事についてイメージすることができた                 |
| キャリア入門     | 在学中に働くことについて学べたので就職の際に参考にできた。                |
| キャリア入門     | 在学中に目的意識を持って学習できた。                           |
| キャリア入門     | 自分が何に興味があり、どんなことを学ぶ必要があるか考えるきっかけになった。        |
| キャリア入門     | 自分の将来や、やりたいことを真剣に見つめ直すきっかけになった。              |
| キャリア入門     | 自分の将来を考えていくうえで参考材料になった。                      |
| キャリア入門     | 就活へのビジョンが見えた。                                |
| キャリア入門     | 就活を行う上で、役に立ったと思う                             |
| キャリア入門     | 就職活動に向けて、自分の強みを考えることができた                     |
| キャリア入門     | 就職活動に役立った。進路(自分がやりたいこと)を決める参考になった。           |
| キャリア入門     | 就職活動のとき役立った。                                 |
| キャリア入門     | 自分が何に興味があり、どんなことを学ぶ必要があるか考えるきっかけになった。        |
| キャリア入門     | 自分の将来や、やりたいことを真剣に見つめ直すきっかけになった。              |
| キャリア入門     | 自分の将来を考えていくうえで参考材料になった。                      |
| キャリア入門     | 就活へのビジョンが見えた。                                |
| キャリア入門     | 就活を行う上で、役に立ったと思う                             |

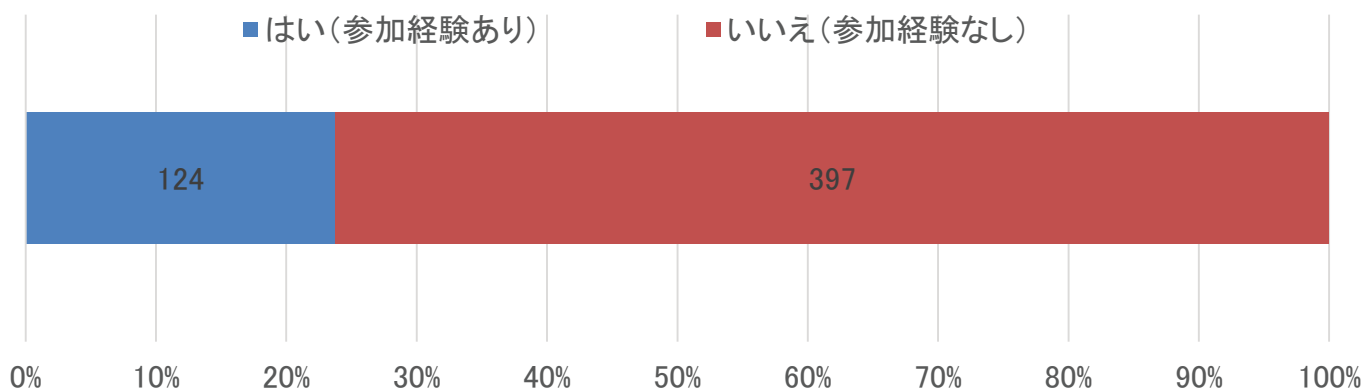
| 授業科目名                 | 在学中に役立ったと感じたこと(自由記述)  |
|-----------------------|---|
| キャリア入門                | 就職活動に向けて、自分の強みを考えることができた  |
| キャリア入門                | 就職活動に役立った。進路(自分がやりたいこと)を決める参考になった。  |
| キャリア入門                | 就職活動のとき役立った。  |
| キャリア入門                | 就職先を考える際や自分の将来を考える機会になった。   |
| キャリア入門                | 就職先を検討する際に、役立った。  |
| キャリア入門                | 将来の進路を考えるきっかけとなった。  |
| キャリア入門                | 将来や就活を意識するきっかけになった。   |
| キャリア入門                | 将来を考えるきっかけになった  |
| キャリア入門                | 進路選択に役立った。  |
| キャリア入門                | 卒業後進路を考えた上で授業や実習に臨めた。   |
| キャリア入門                | 大学卒業まで身につけなければいけないことを意識して生活を送れたことです。  |
| キャリア入門                | 当時担当して下さった先生(三宅先生)が就職を含む進路の相談に親身になってくれた。                                    |
| キャリア入門                | どのようなことを学んだのかあまり覚えていませんが、半年も習ったので、きっと何も意味が無かったということはないだろうなという理由で回答致しました。    |
| キャリア入門                | どのような授業であったか忘れましたが、受けた気がします。あまり印象に残っていません。                                  |
| キャリア入門                | 自分の将来や、やりたいことを真剣に見つめ直すきっかけになった。   |
| キャリア入門                | 自分の将来を考えていくうえで参考材料になった。   |
| キャリア入門                | 入学時、大学卒業後に就きたい仕事の明確なビジョンがなかったが、キャリア入門を受け、おおまかになりたい職種がきまり、その業界について調べる習慣がついた。 |
| キャリア入門                | 入学してすぐに履修したような気がします。大学になじむこと、社会になじむことに役立った。                                 |
| キャリア入門                | バイト・就活中の礼儀・マナー  |
| キャリア入門                | 勉学を何故やるかという動機付けに役立つ   |
| キャリア入門                | 学び方、考え方が変わり、学習がしやすくなった。   |
| キャリア入門                | 礼儀が身についた  |
| キャリア入門                | 労働に関する法律を知ることは大切だと感じたから(アルバイト)  |
| キャリア入門、社会人入門          | 就職活動において、企業選択をする際   |
| 就業～                   | 就職先の選択  |
| 就業体験学習                | インターンの経験が就活時のアピールポイントになった為。   |
| 就職活動に挑む               |   |
| 就職活動に挑む               | 就活の際に必要な基礎知識や、履歴書の書き方、面接に必要な事など、専門家の視点で、学ぶことが出来た為、就活時にはこれらの知識をフル活用できた。      |
| 理系学生のためのグローバルキャリアデザイン | グループワークでコミュニケーション力を養えた。   |
|                       | 1年、2年生のうちに、就職について考えるきっかけとなった。   |
|                       | あまり覚えていないのですが、そのような気がする、という感じです。すみません！                                      |
|                       | 主に、面接試験、内定式で、また卒論作成の際にお世話になる方々へのマナーとして。                                     |
|                       | 進路の方向は1つしかない学科であったので、どのような経過を辿るのか分かり良かった。                                   |
|                       | 人間関係  |
|                       | 文章能カスキル、自らのライフスタイルの確立   |
|                       | ほとんど役に立っておらず、苦痛でした。内容を精選してほしい。  |

・キャリア教育科目を履修したことの、本学を卒業してからの役立ち感を自由に記述してもらった。「キャリア入門」では、「鳥取大学で充実した学生生活を送ることが今後のキャリア形成にとって最も確かな「リソースresource」である」という考えを核とした授業内容を編成しているが、その一例として授業内での体得を目指すPDCAサイクルが、卒業後も役立ち感として認識されている。

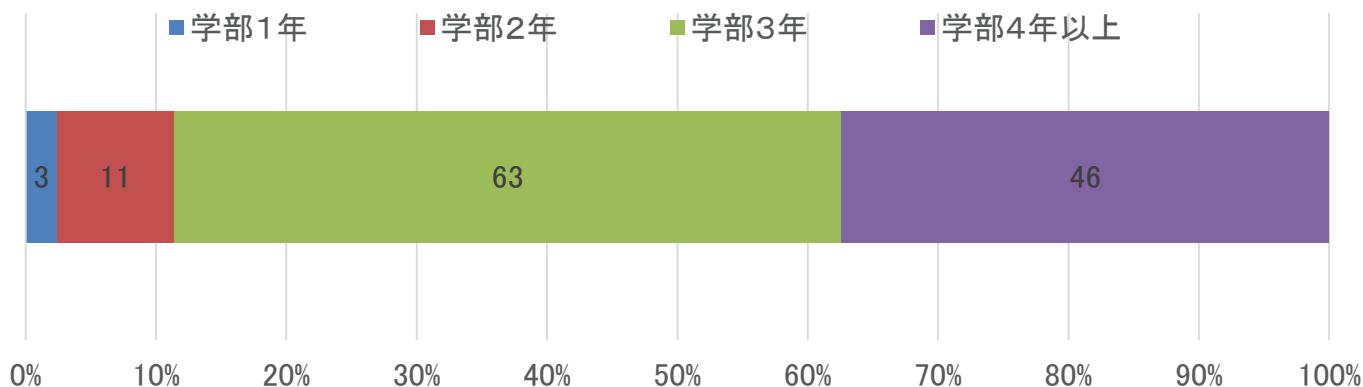
| 授業科目名        | 卒業してから役立ったと感じたこと(自由記述)                                    |
|--------------|---|
| キャリアデザイン     | 自己分析に役立った。  |
| キャリアデザイン     | 早い段階から就活について考えることが出来た。そのことによって希望の職に就職出来、就職後の仕事へのギャップも少ない。 |
| キャリアデザインⅠ    | ビジネスマナーの講座があったことが役立った。                                    |
| キャリア入門(4件)   |   |
| キャリア入門       | PDCAサイクルが仕事を進めていく上で役に立っていると思う。                            |
| キャリア入門       | 院卒後の進路を考えるときに   |
| キャリア入門       | 会社でもPDCAサイクルに類似した考え方が推奨されており、考えが一層深まったと感じた。               |
| キャリア入門       | 学部生の頃とは違う環境でもあいさつなど変わらず大切だった。                             |
| キャリア入門       | 教員採用試験の面接対策などで自己分析をする際に参考になった。                            |
| キャリア入門       | 現場の様子を少し知っておくことで、ギャップに苦しむことが少なかった。                        |
| キャリア入門       | 仕事えらびに役立った  |
| キャリア入門       | 自分に合う進路を選択できていると思う。                                       |
| キャリア入門       | 就業のモチベーションを高めるのに役立つ                                       |
| キャリア入門       | 就職後のイメージと実際のギャップが少なかった                                    |
| キャリア入門       | 上司・先輩社員との交流   |
| キャリア入門       | 常識や倫理について学びそれをいかすことができた。                                  |
| キャリア入門       | 卒業してからも、学び続ける姿勢が身に付いたと思います。                               |
| キャリア入門       | 大学を卒業したあと(他大学大学院)でも、気軽に相談ができた。社会人のキソを授業で学べた気がする。          |
| キャリア入門       | ただ仕事をこなすのではなく、目的意識を持って仕事に取り組んでいることです。                     |
| キャリア入門       | 入社後の研修がスムーズに終えられたので役立ったと思う。                               |
| キャリア入門       | 働き方やキャリアアップの方法を考えるのに役に立った。                                |
| キャリア入門       | 人として成長できた   |
| キャリア入門       | 目標を持つことの大切さを学び、仕事において資格を取得したい等の具体的な目標を持てるようになった。          |
| キャリア入門       | 受けたのが1年時の為、覚えていない。  |
| キャリア入門(2件)   | 当ても今も役に立つと思ったことはない(2件)                                    |
| キャリア入門、社会人入門 | 労基法など就労制度について聞いていて良かったと思う。                                |
| 就職活動に挑む      | 就活の為の知識にとどまらず、社会人になってからも、会社は新人にどんな事を求めているのか、すぐ理解できたため。    |
| 地域公共メディア論    | メディアのとらえ方、扱い方がわかるようになった。                                  |
|              | 組織人としての基礎知識を学ぶ際、予備知識として役立った                               |
|              | 入社してからの先輩社員への接し方。社外の顧客への接し方。                              |

- ・在学中にインターンシップに参加したことがある卒業生は、2割強。
- ・参加経験のある場合、学部3年以上での参加が大半で、学部1・2年次での経験は少数にとどまっている。

## インターンシップ参加経験の有無

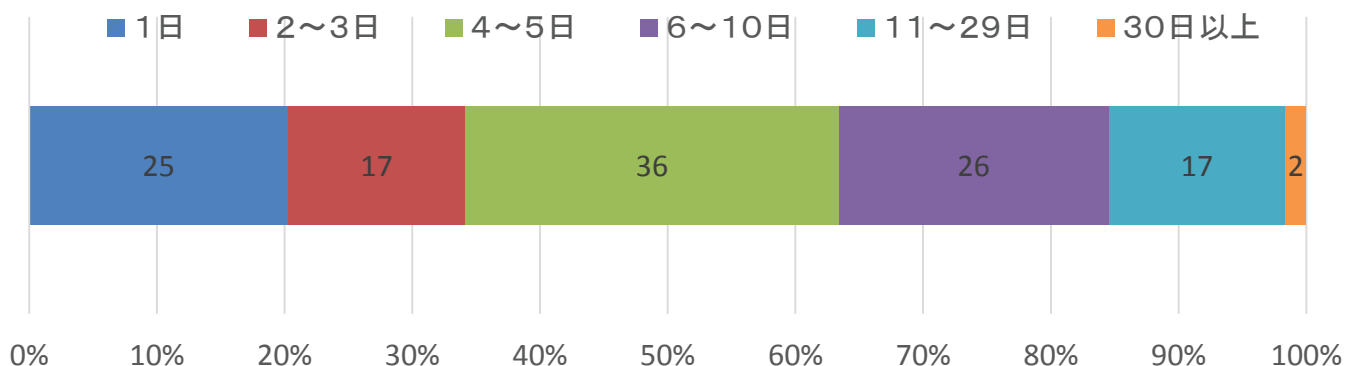


## 参加学年

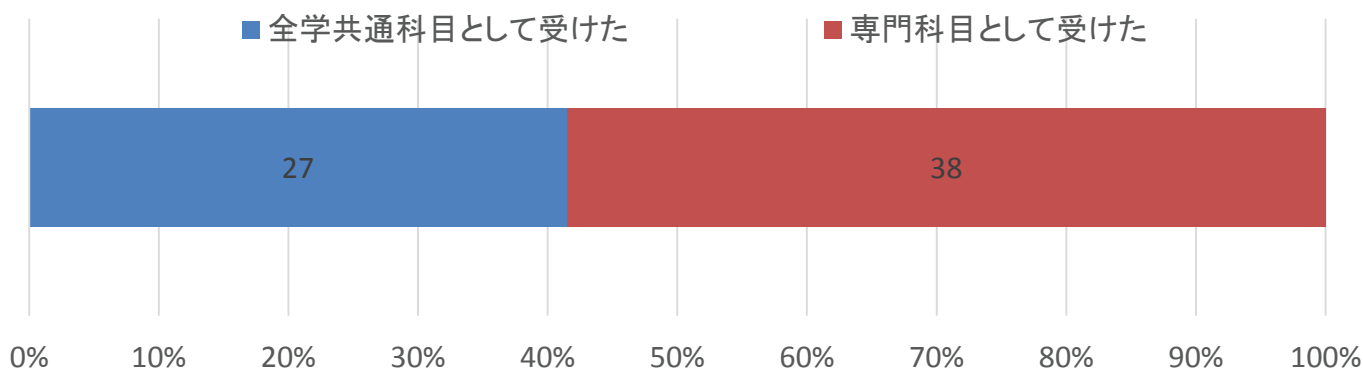


- ・参加したインターンシップの実習期間は、5日間までのもので6割以上を占める。3日以内で3分の1、1日のものも2割など、短期間の「インターンシップ」経験が目立つ。
- ・参加したインターンシップについて単位認定を受けた卒業生は、参加経験者全体の半数程度。

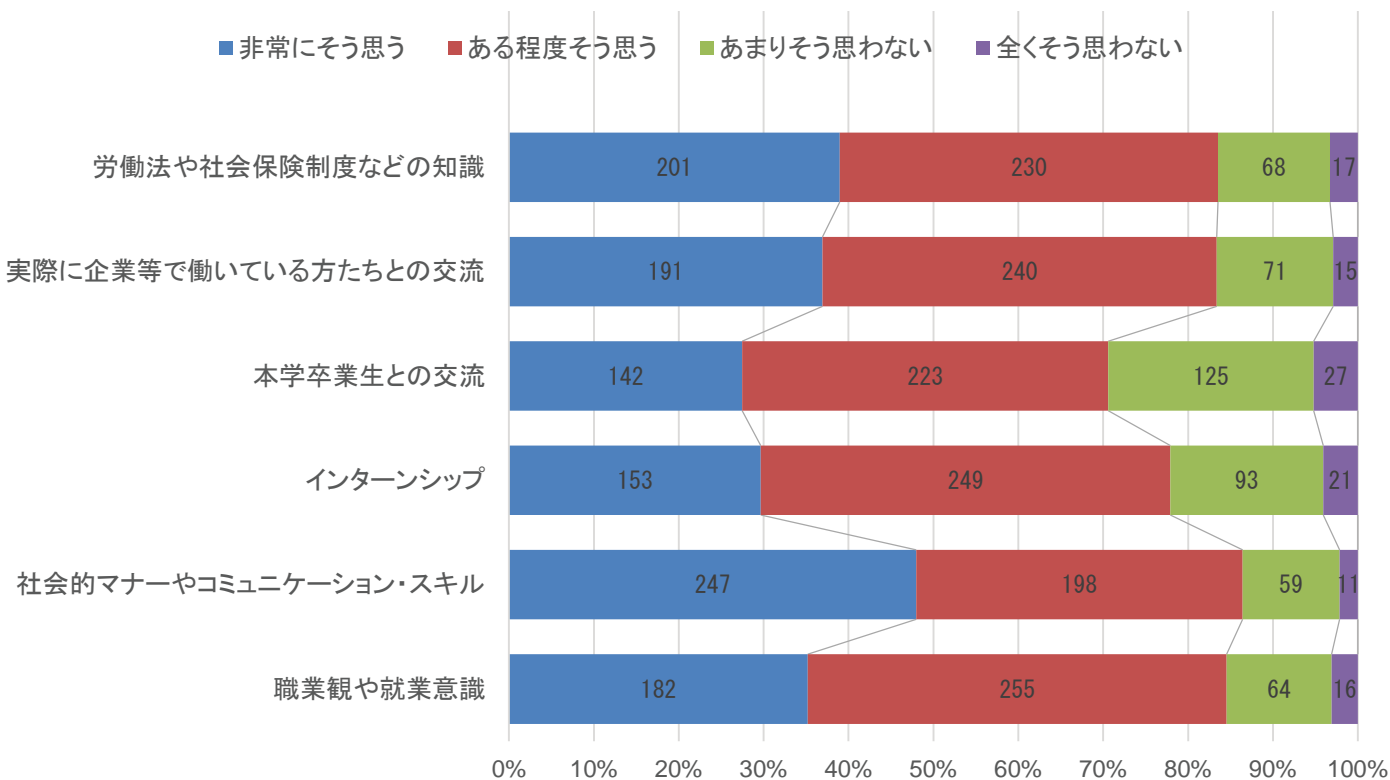
## 実習期間



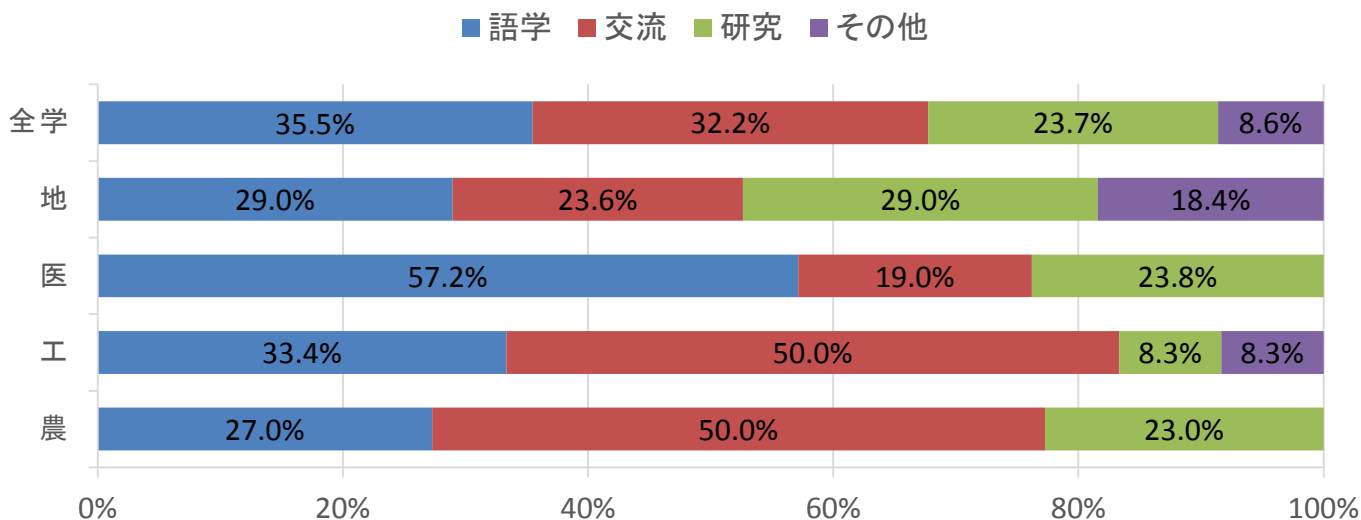
## 単位認定の有無



- ・どの項目についても軒並み「必要」と考えられている。
- ・なかでも半数近くの卒業生が、「社会的マナーやコミュニケーション・スキル」について「非常にそう思う」と回答しており、在学中の教育・指導における強化の必要性を示唆している。

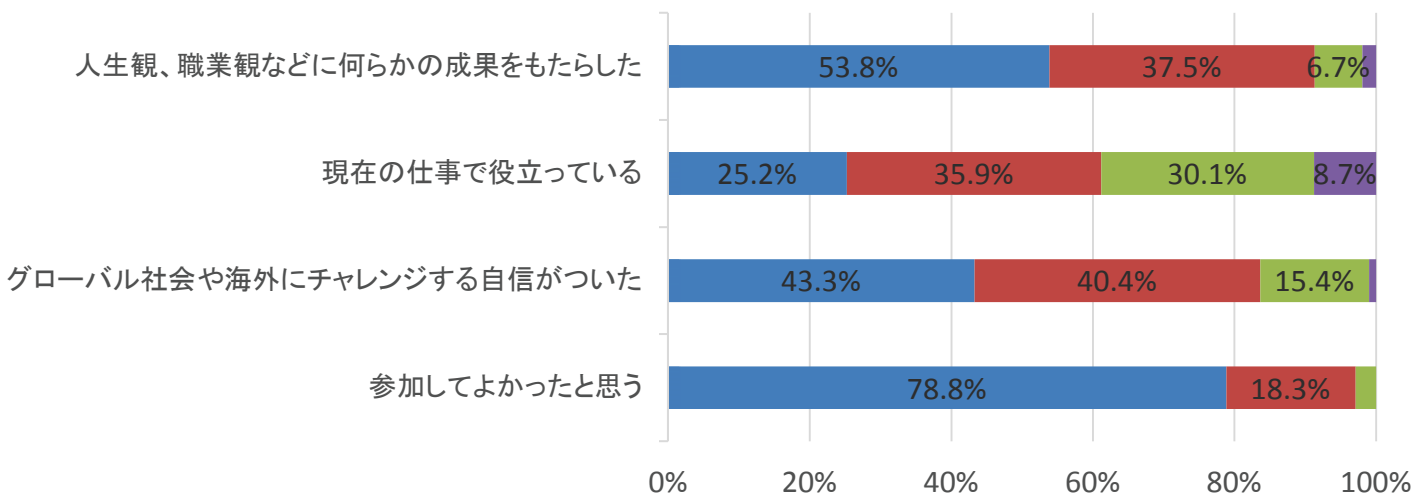


・学部生時代に海外研修や留学プログラムに参加しているため、研究というよりは、語学の習得や国際交流が主たる参加目的であるように思われる。



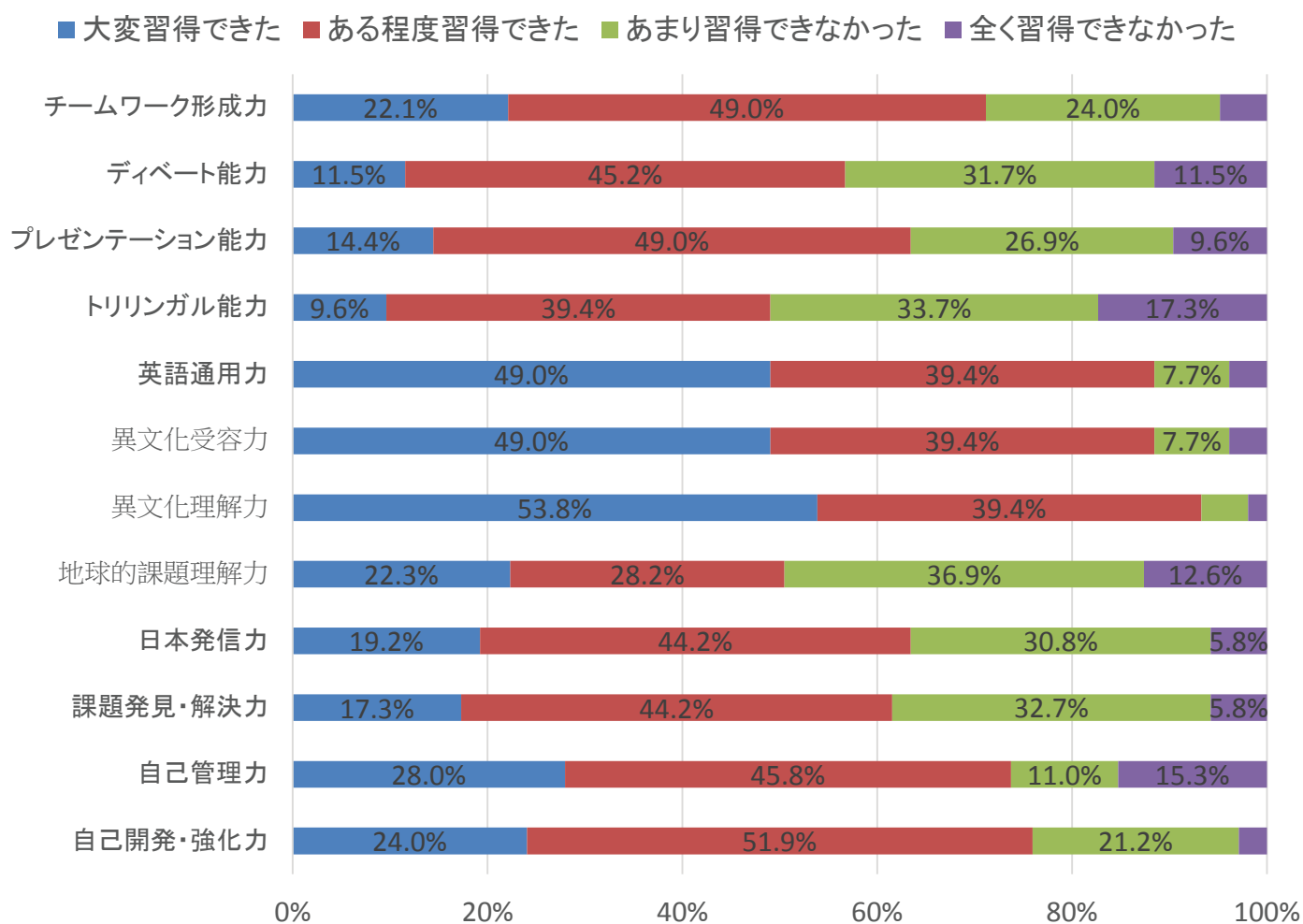
・卒業した現在でも、満足度に関するすべての質問項目において肯定的な意見が6割以上を占めた。

■ 非常にそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない





- ・チームワーク形成力、英語運用力、異文化理解・受容力、自己開発・管理力の習得について7割以上の肯定的な回答を得られた。
- ・一方で、トリリンガル能力の習得や地球的規模の問題に関する認識能力については、否定的な回答が半数近くあった。



# 海外研修・留学プログラムに対する具体的な事例等(自由記述)

## ・グローバル教育について改善点や成果をもたらした点(自由記述)

- ・ もっと宣伝が必要だと思う。
- ・ 長期留学中に直面する困難を自分の力や周りの人からの支えで**乗り越えた経験**は今後の人生に役立つと思う。学生のうちに経験するチャンスを下さり、ありがとうございました。
- ・ 参加前にある程度の英語の**復習のような集まり**があってもいいかもしれない。
- ・ ケンブリッジ大学の動物医療センターでの研修を経て、教育の水準、教育のシステムの根本的な違いを痛感した。
- ・ 自己で留学あっせん業者を使用してトロントに留学しました。当時は交換留学のような制度はあったかと思いますが、医学部だったこともあり、単位になるような制度もなく、プログラムを利用した方がメリットとなるようなものではありませんでした。同学部内の友人もプログラムは利用せず、自己で行ってました。全学部共通となるような制度があれば良いかと思います。社会に出れば、プレゼン・交渉・コミュニケーション・語学・IT、異文化を学ぼうとする能力、マネジメント(ストレスマネジメントを含む)力が求められるため、**留学はその糧となるため**、若い内に行くことを学生におすすめます。
- ・ 外資系企業において外国人に**臆せず接する**ことができている。
- ・ 海外への行き方や現地で起こった事故の対処法、日本と海外の様々な違い(考え方など)を知ることによって**何事にも動じない**ようになりました。
- ・ 海外経験により、語学学習への意欲が沸き、TOEICやスペイン語検定で多少の成果を残せた。今の職場で海外勤務を行うのに必要な最低ラインはクリアしているため、将来海外勤務できる可能性はあるようだ。
- ・ 慣れない環境での生活を通して、どうしたらうまくいくのか考え、**行動ができるようになった**のはよかったです。
- ・ いろいろ国から留学してきた人と話す機会が多く、いろいろな英語のクセ・なまりを聞いて耳を慣らすことができました。仕事上、様々なアクセント・なまりの人と話すので助かっています。
- ・ 現在広島市の留学生会館という施設で、広島市へ留学している外国人大学生を支援する仕事に従事しており、自身が釜慶大の寮で生活した際の苦労や色々な貴重な経験をもとに学生と接する事ができています。全て大学時代の留学や海外プログラムが、今の仕事に就くきっかけとなったと感じています。今後もそういった海外に関心のある学生が鳥取大学で有意義に学び、今後の人生に役立つ経験をできるようにしてほしいです。
- ・ いろいろな場所を観光できてよかった。**価値感**が広がった。留学(短期でも)経験がある人は視野が広く、採用されやすい人材が多いと思っている。
- ・ メキシコ研修について、スペイン語を修得するには3ヶ月では短いように感じた。(語学に重きを置いた場合)日本を飛び出して様々な価値感や異文化に触れることで自分の世界が広がった。困難な状況に陥っても仲間と協力して臨機応変に対応できる**しなやかさや人間力を身につけた**。海外での活動だけでなく、国内での活動、仕事、プライベートにおいても色々な場面で学んだことが活かしている。プログラムに参加できて良かったと心から感謝しています。

# 海外研修・留学プログラムに対する具体的な事例等(自由記述)

- ・ 力を入れている留学プログラムがあるなら、人を選ぶ方法をもっと考えた方がよい。希望者だけでなく、各学科・コースが推薦する人を選出等。
- ・ 卒業後も会うほどの友人ができたことが1番良かった。
- ・ 韓国語を話せるようになったことで、働く中でネイティブ（日本語が話せない）の韓国人と会話することがあり、きちんと対応することができました。**積極的な姿勢や負けん気が身に付き、役に立っています。**
- ・ 海外研修に参加すれば良かったと後悔しております。
- ・ 良かった点・・・いろんな語学に興味を持った。改善が必要な点・・・留学制度をあまり知らなかった。研修の内容や経験が現在の仕事で役立った点・・・外国の人と物怖じせず交流しようとする力。海外経験が人生観・職業観などに何らかの成果をもたらした点・・・固定概念がとり払われた。
- ・ 医学科でIFMSAを通して留学しましたが、あまり研究には参加できませんでした。学校主催の他国研修は、応募しましたが抽選で外れました。行ける人をもっと増やしてもらいたいです。
- ・ 技術交流のためインドへの実践教育プログラムに参加しましたが、この経験はとてつもないと思えます。国際社会の理解は必至課題なので、どんどん海外研修・留学プログラムを充実させて下さい。
- ・ ウイルス学、フィリピンのサンラザロ病院に留学しました。日本では癌や動脈硬化症疾患が死因として多いですが、感染症が主な問題となる国での実習は、**日本以外の国の現状を知る良い機会**でした。また、医師のリーダーシップは、日本よりも重要視されており、考えさせられました。
- ・ 海外生活を通して「生きる力」を身に付けることができた。受身ではなく、主体的に行動しないと生きていけないと感じた。
- ・ いろんな人と共にやっていく力がついた。
- ・ フィリピンの感染症に強い病院で研修させてもらいました。日本と異なる環境や資源の中での医療について見聞できたことはとても良い経験になりました。
- ・ 海外の**諸言語に関心**が沸いた。
- ・ フランスのグルノーブルに語学研修で行きました。日本語を母語としない方とも、積極的にコミュニケーションを取ろうとするようになりました。
- ・ 商社に就職し、中国・韓国・アメリカ人が職場におり、様々な国の人と交流することのできる異文化交流プログラムは意義のあるものになった。
- ・ 海外でプログラムに参加し、現地の学生と話し合いながら、最終的にはプレゼンまでできたということは大変貴重な経験でしたし、いつまでもそれは自分の糧となっています。
- ・ 現在の職場で外国人と接することが多々あり、英語で対応できる力を身につけることができたこと。また、国際的な仕事につきたいという気持ちがより強くなり、その夢を留学後に叶えることができた。留学や渡航に何度も行ったことで得られた物怖じしない性格は、現在非常に役立っている。
- ・ 初めての海外を体験し、**今までの価値観が良い意味で壊された**と思えます。現在は外国人と関わることは減ってしまいましたが、これからの国際社会を生きていくためにはとても良い経験となったと考えています。

# 海外研修・留学プログラムに対する具体的な事例等(自由記述)

- カナダ研修は今の仕事にもものすごく生きました。昨年3度渡米して現地業務を英語でこなしたのもこの経験からでした。学生の時間のあるうちにたった1ヶ月でもまたそれ以上海外での経験があれば、**一生役立つ**と思います。是非金銭的支援等で1人でも多く海外に行かせてあげて下さい。
- 海外研修プログラムを通じ、得た経験を活かし海外営業として業務に携わることが出来た。また、インバウンドで神戸・大阪に来られた外国の方と知り合いになることが出来た。これは道案内をきっかけとして、連絡先を交換したことで交流が始まったのだが、このように気軽に声をかける行動力は、イタリア人の友人達から学んだ。(イギリス語学研修にて)
- 派遣**メンバーの選び方について改善が必要**だなと感じていた。補助金で予算が補充されていた以上、研修期間、全力で努力し、実力をつけ、現地での経験を帰国後も結果に残せる学生のみを派遣すべきだったと思う。
- 獣医5年?の夏に2週間程、鳥大のプログラムを利用させて頂いて、コロラド州立大学の付属動物病院にて、見学、研修させてもらった。その時の経験は、水準の高い国では獣医学生がどの様に学んでいるかや、教育体制、学生達がどの様にトレーニングしているかを知ることができ、大変参考になった。滞在期間中はホームステイで、学生の家泊めてもらい、仲良くなれた事は、自分の語学力習得のモチベーションにもなり大変良かった。研修しっぱなしだったので、どこかで報告する機会があると、行けなかった他の学生とも経験を共有できるので、良いのではないかなと思う。
- 普通とは何なのか、他の文化や、環境の中で、生活や勉強してみる経験は、多様性が求められる社会の中で働く上でとても大切なことだと思います。
- 台湾への留学で中国語を身につけ、現在は中国語で仕事をしています。
- 良かったのは語学を習得できたこと。今まであたりまえと思っていたことを客観的にみれるようになり、考えて行動できるようになったこと。
- 他の文化を理解し、受け入れることができた。多様な人々を受け入れる土台となったと思う。
- 韓国へ交流で滞在したが、同世代で多国籍の人と話したり、遊んだりしたのは良いしげきになりました。
- 様々な大学の学生と交流し、海外での生活を共にすることで、**海外の生活への順応能力や、コミュニケーション力を身につける**ことができた。
- スペイン語がしゃべれるようになった為、スペイン語圏の人と話せるようになった。
- 鳥大のころは参加しなかったが、他大の院に行くと、外国の教員が多くいて、自然にコミュニケーションをとり、日常会話ができるレベルが身についた。鳥大もそうすべき。
- 出会った人達・学生の**熱意に刺激を受けた**。
- 長きに渡って、価値観・生活スタイルなど異なる人と一緒に過ごすことは、集団社会で過ごす上で、とても役に立ちました。大学までは、自分で選んで付き合うことができるが、社会人となるとそうはいかないと実感して助かってます。
- 途上国への渡航、交流では、**レベルの高い人たちと出あえる**。自分自身が高い能力を持っているわけではないのに。今の豊かな日本を維持、発展させるためにも、若い人が頑張らないといけないと思う。また、日本はアジアのリーダーシップをはっきりしていくべき、と思っている。

# 海外研修・留学プログラムに対する具体的な事例等(自由記述)

- ・ 私は現在、学生の1/3が留学生という国際的な環境の研究室で、世界的にもインパクトのある成果をあげるべく日々研究に取り組んでいる。そこでは、異なるバックグラウンドを持つ仲間と協調して物事を遂行する力や、世界の中での自分たちの立ち位置を俯瞰的に理解した上で、世界を舞台に挑戦するエネルギーが欠かせない。これらは、貴学のグローバル教育のおかげである。
- ・ 改善が必要な点：海外にいるのに、休日がレポート等につぶれるようなスケジュール。TOEICの点数ではなく、実際に海外で語学を用いた経験が実際に語学を使う際の自信と結果につながった。

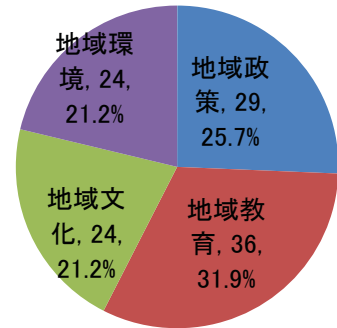
# 第2章

## 学部別 集計結果

# 地域学部

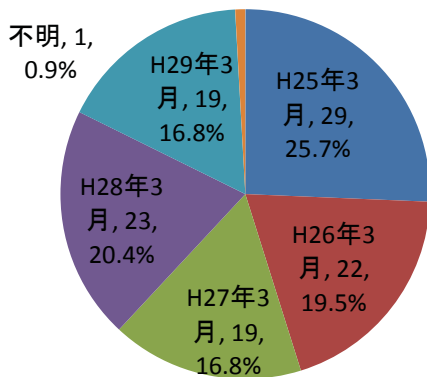
## 【学部・学科】

| 地域政策  | 地域教育  | 地域文化  | 地域環境  | 計      |
|-------|-------|-------|-------|--------|
| 29    | 36    | 24    | 24    | 113    |
| 25.7% | 31.9% | 21.2% | 21.2% | 100.0% |



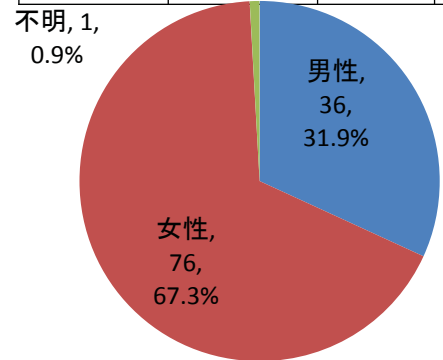
## 【学部・卒年】

| H25年<br>3月 | H26年<br>3月 | H27年<br>3月 | H28年<br>3月 | H29年<br>3月 | 不明   | 計      |
|------------|------------|------------|------------|------------|------|--------|
| 29         | 22         | 19         | 23         | 19         | 1    | 113    |
| 25.9%      | 19.6%      | 17.0%      | 20.5%      | 17.0%      | 0.9% | 100.0% |

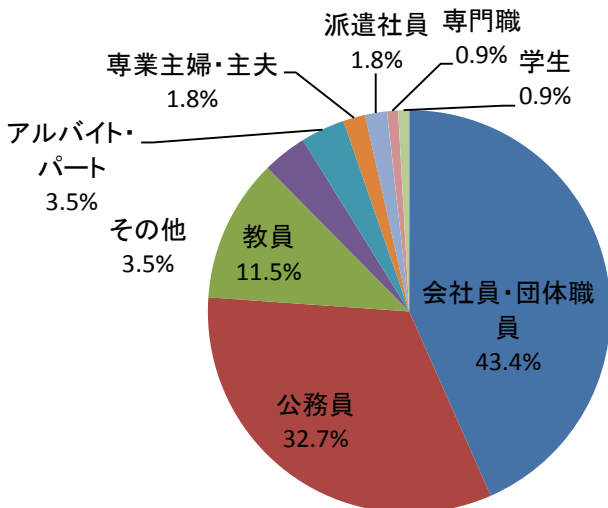


## 【学部・性別】

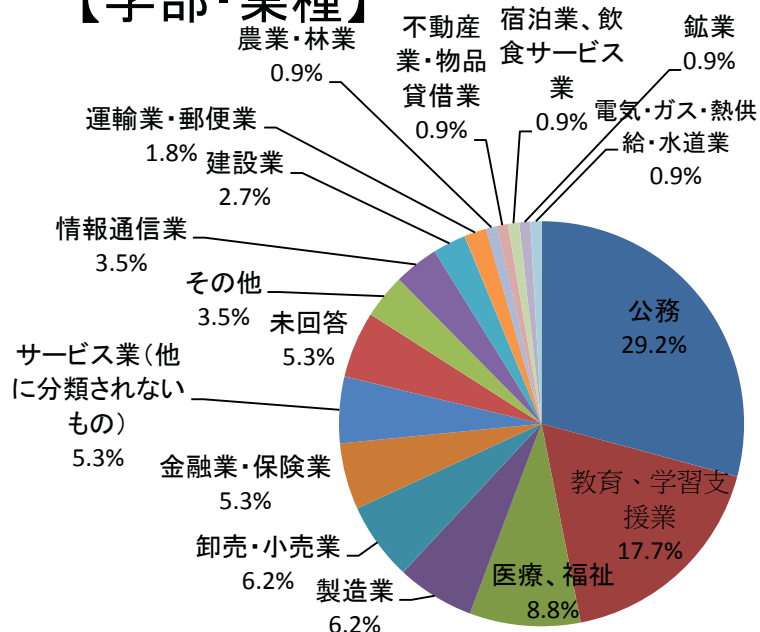
| 男性    | 女性    | 不明   | 計      |
|-------|-------|------|--------|
| 36    | 76    | 1    | 113    |
| 31.9% | 67.3% | 0.9% | 100.0% |



## 【学部・職業】



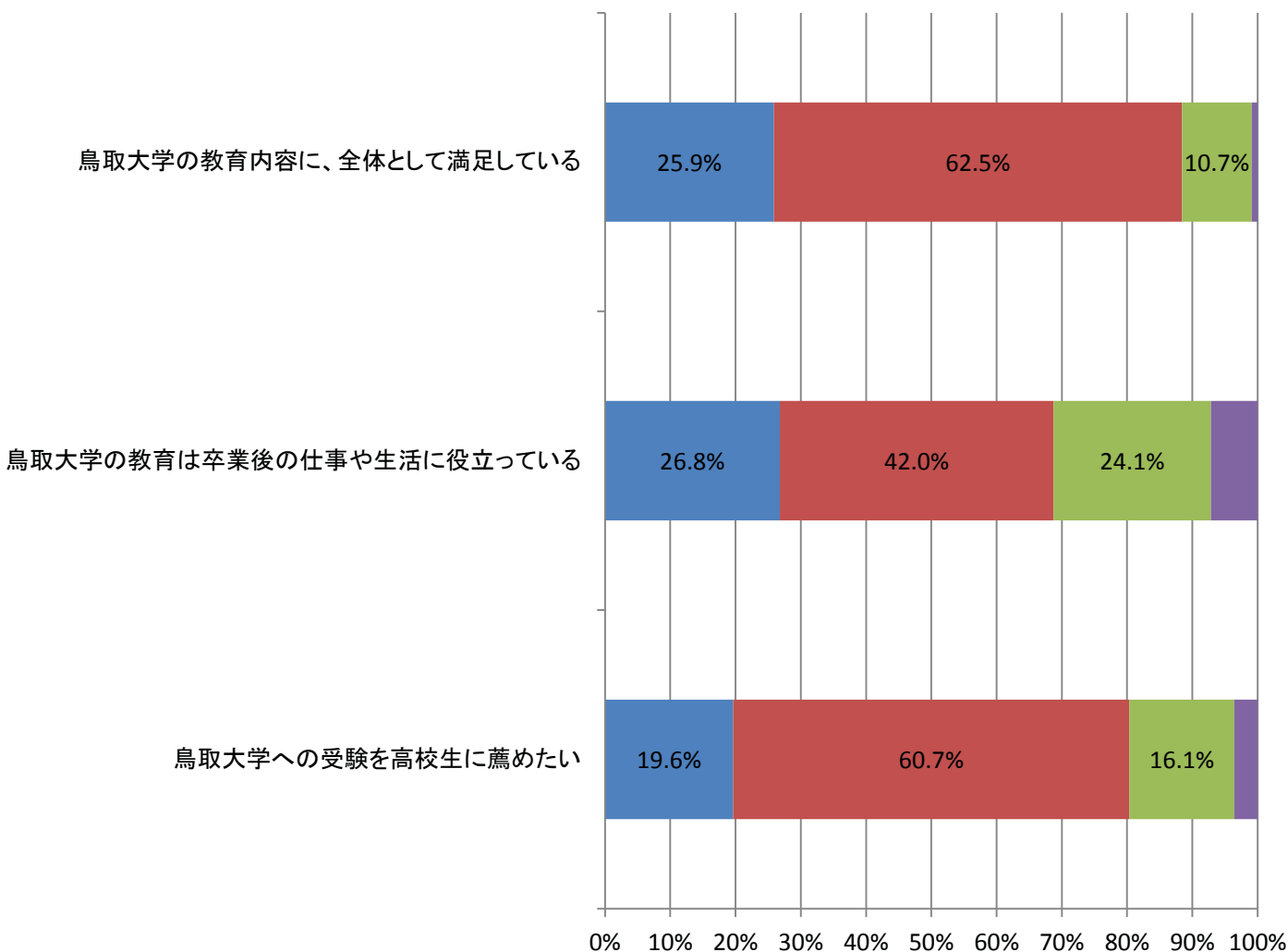
## 【学部・業種】





- ・「鳥取大学の教育内容に対する全体的な満足度」は、「非常にそう思う」25.9%、「ある程度そう思う」62.5%で、9割近くが肯定回答した。
- ・「鳥取大学の教育の卒業後の仕事や生活への役立ち度」は、「非常にそう思う」が26.8%であり4人に1人以上が強い肯定回答だった。「ある程度そう思う」42.0%とあわせると、7割近くが肯定回答だった。
- ・「鳥取大学への受験を高校生に薦めたい」は、「非常にそう思う」が19.6%であり約2割が強い肯定回答だった。「ある程度そう思う」60.7%とあわせると、約8割が肯定回答した。

■ 非常にそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

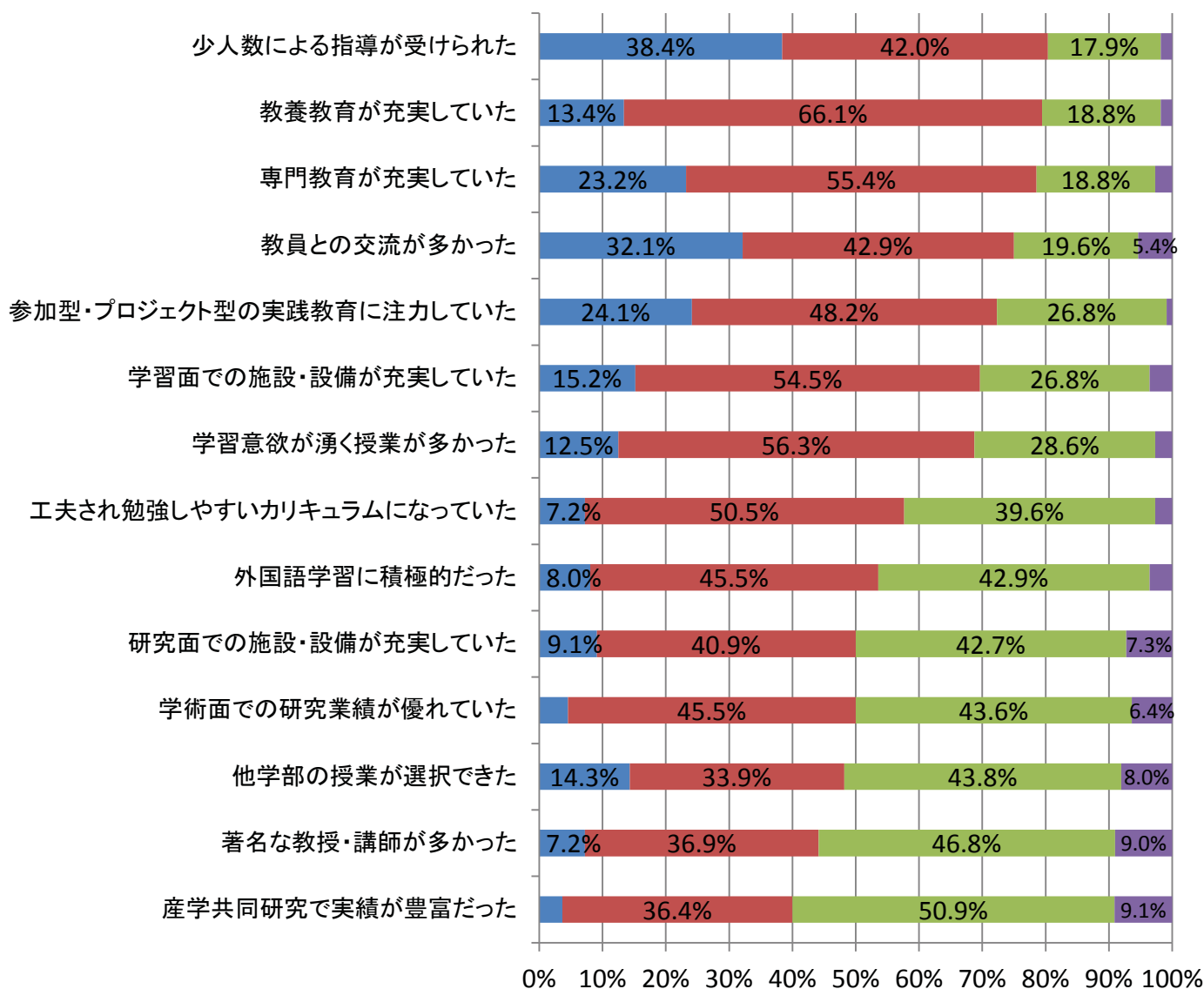


・「少人数による指導が受けられた」が80.4%で8割を超える肯定回答を得た。特に「非常にそう思う」の回答が4割近くを占めた。

・「教養教育が充実」「専門教育が充実」で約8割の高い肯定回答を得ており（79.5%と78.6%）、教育面に対して高い充実度だった。

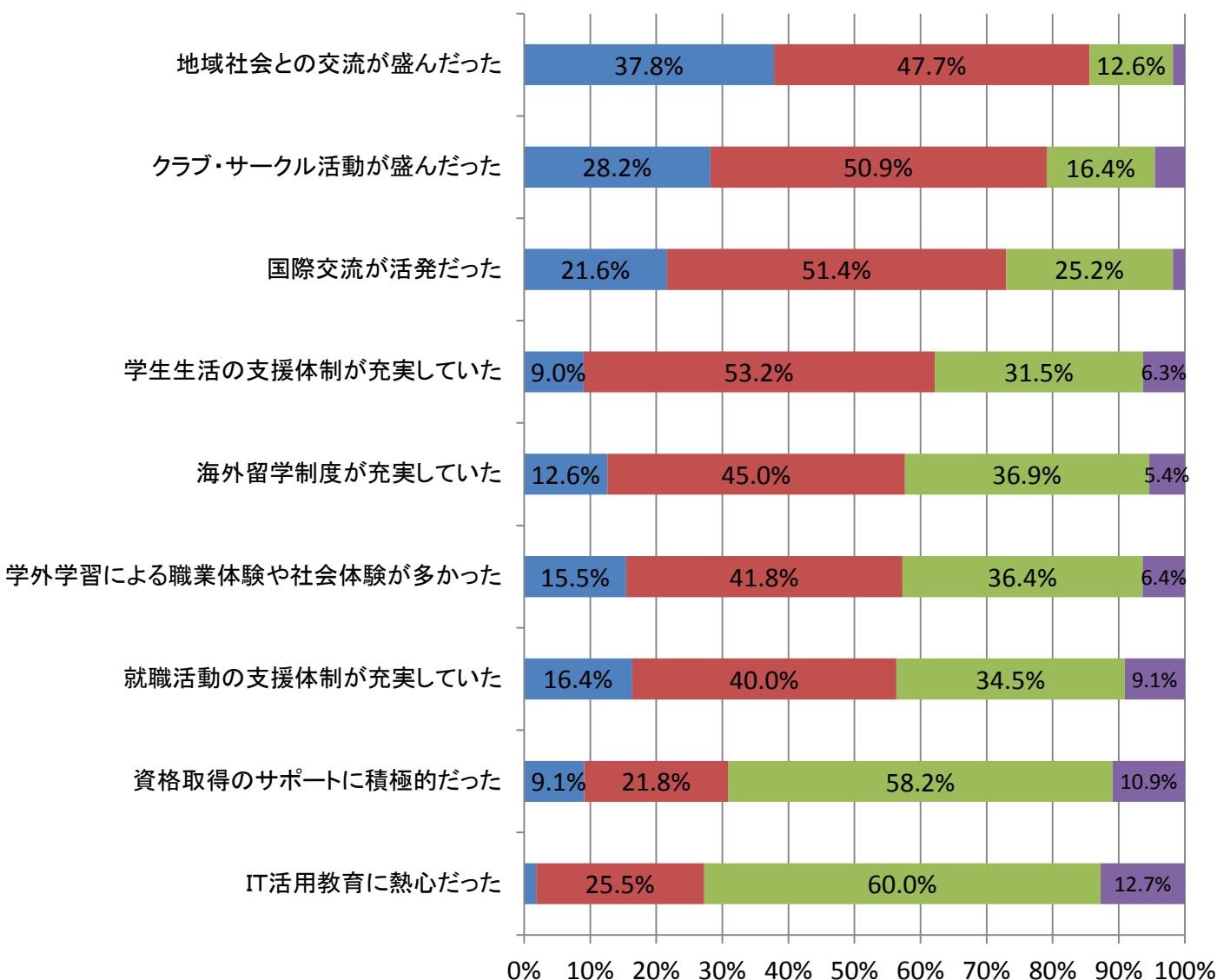
「教員との交流が多かった」は75%の肯定回答であり、特に「非常にそう思う」が32.1%と3人に1人の割合の強い肯定回答だった。

■ 非常にそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

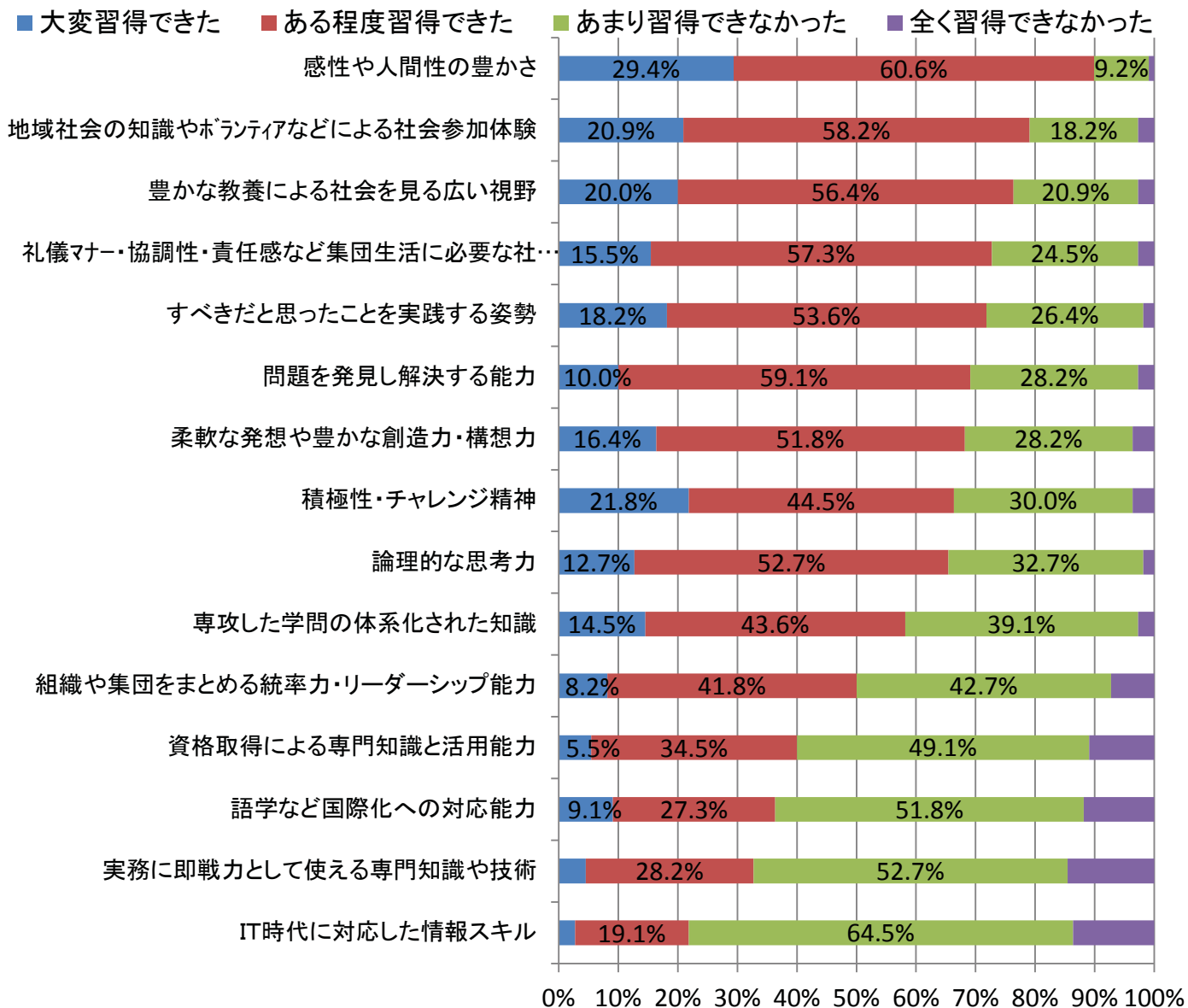


- ・「地域社会との交流活動が盛ん」は85.5%が肯定回答しており、特に「非常にそう思う」は4割近くが回答していた。
- ・「クラブ・サークル活動が盛ん」は79.1%と約8割近くが肯定回答していた。
- ・「国際交流が活発」は、73.0%が肯定回答していた。
- ・「学生生活の支援体制が充実」「海外留学制度が充実」「学外学習による職業体験・社会体験が多い」「就職活動の支援体制が充実」は、6割前後の肯定回答を得ていた。

■ 非常にそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



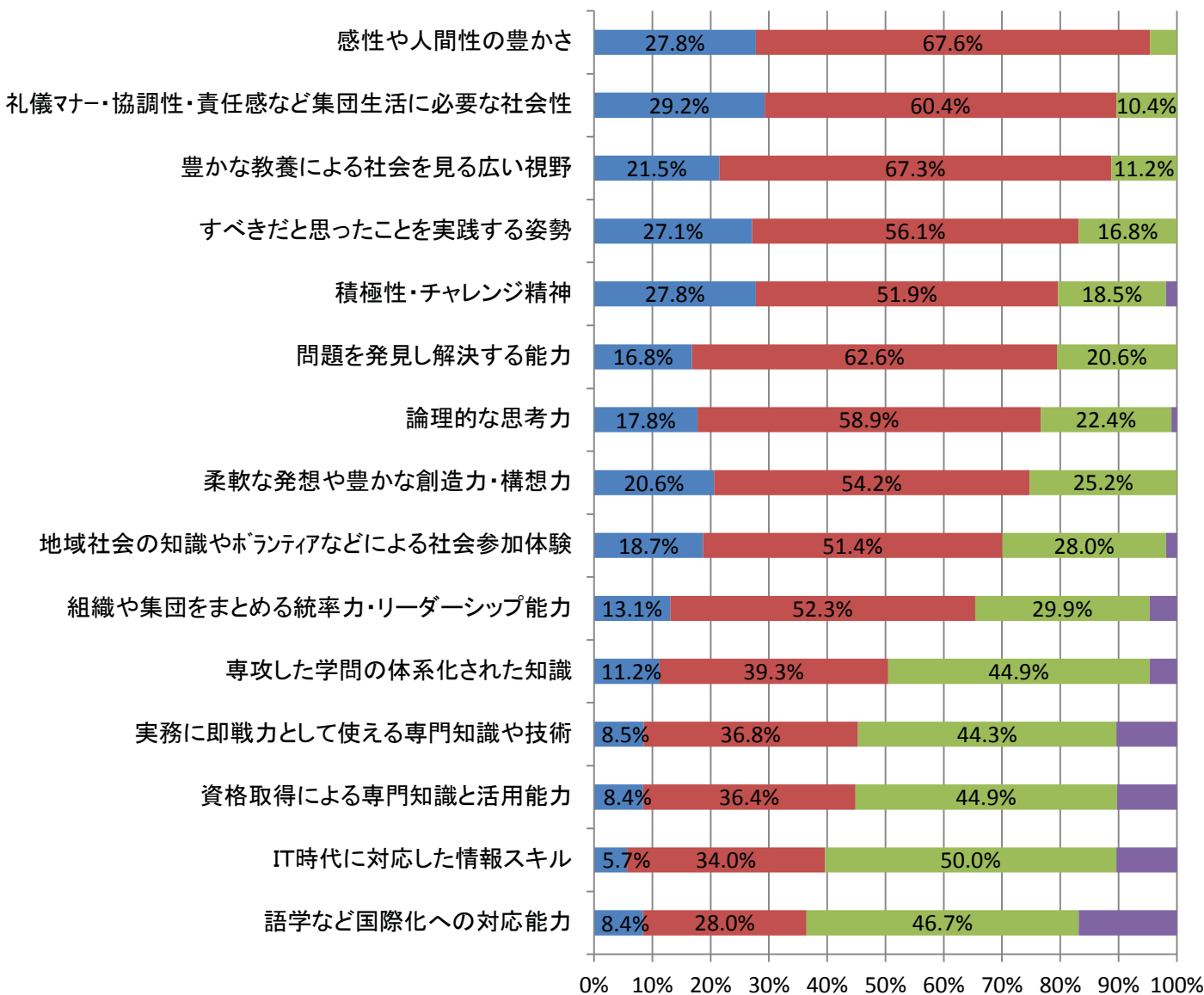
- ・大学での教育・学生生活を通じて、「感性や人間性の豊かさ」が最も高い習得度で、9割が肯定回答した。
- ・「地域社会の知識やボランティア等による社会参加体験」(79.1%)や「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」(72.8%)等、地域社会との交流や学外活動の影響と考えられる項目で、高い習得度だった。
- ・「豊かな教養による社会を見る広い視野」が76.4%だったのに対し、「専攻した学問の体系化された知識」は58.1%だった。



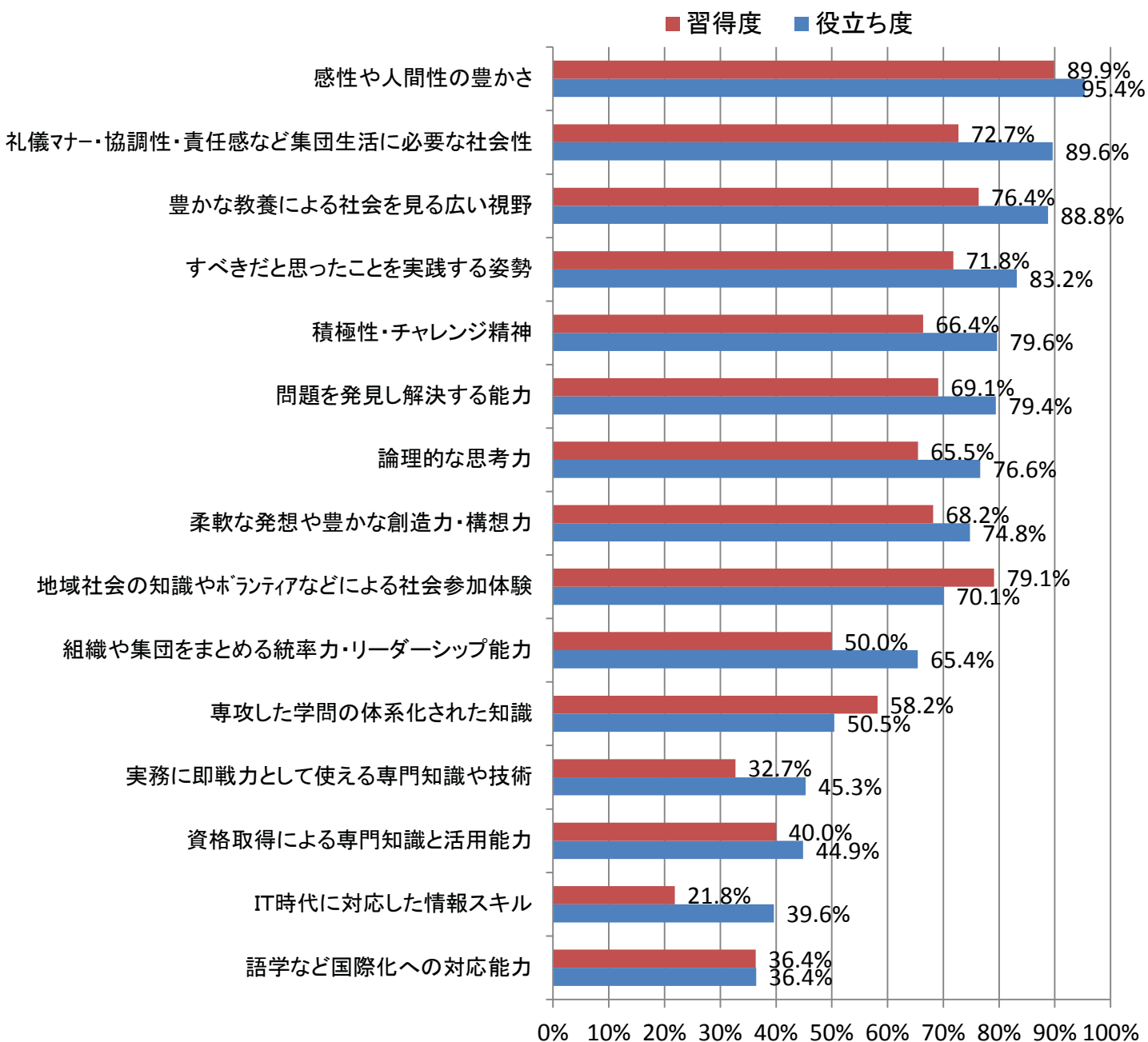
・社会に出た後、大学での教育成果として役立ったと感じられる能力・技術・知識は、「感性や人間性の豊かさ」が95.4%で最も高い肯定回答だった。

・「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」「豊かな教養による社会を見る広い視野」の2項目も約9割という高い肯定回答だった。

■ 大変役立った ■ ある程度役立った ■ あまり役に立たなかった ■ 全く役に立たなかった

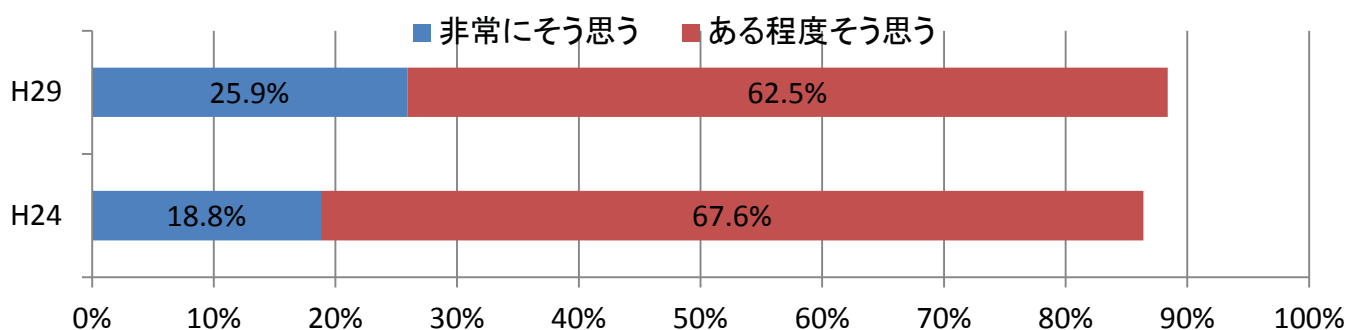


・大学での習得度に対し、社会での役立ち度の方が値が大きいものが15項目中12項目あった。逆に習得度の方が値が大きいものに「地域社会の知識やボランティアなどによる社会参加体験」と「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ納涼」の2項目が挙げられる。「語学など国際化への対応能力」は同値であった。

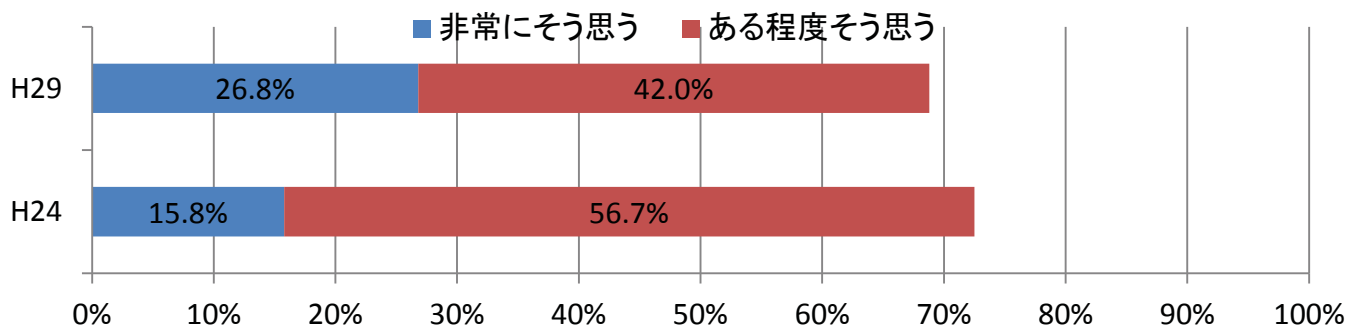


- ・平成24年度調査と平成29年度調査の「総合的な満足度」を比較すると、肯定回答率自体は大きな変動はなかった。
- ・「全体として満足」「卒業後の仕事や生活に役立っている」において、「非常にそう思う」の回答率が高い結果だった。

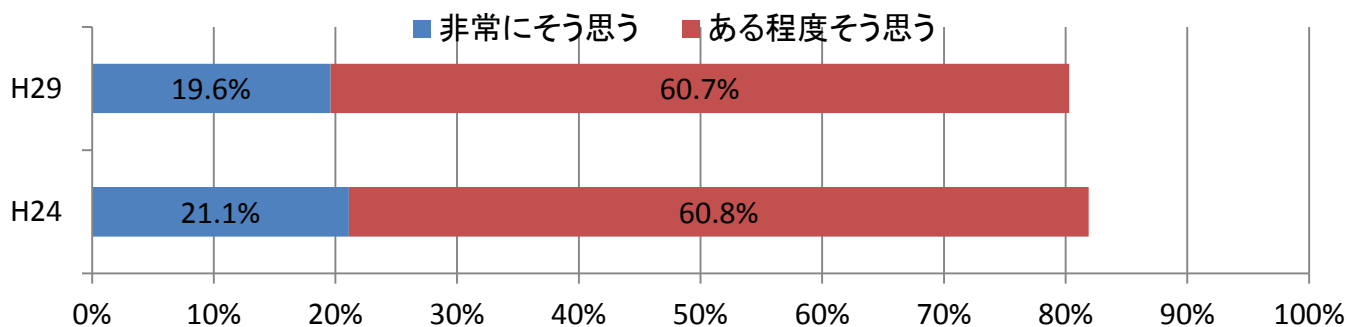
### a.鳥取大学の教育内容に、全体として満足している



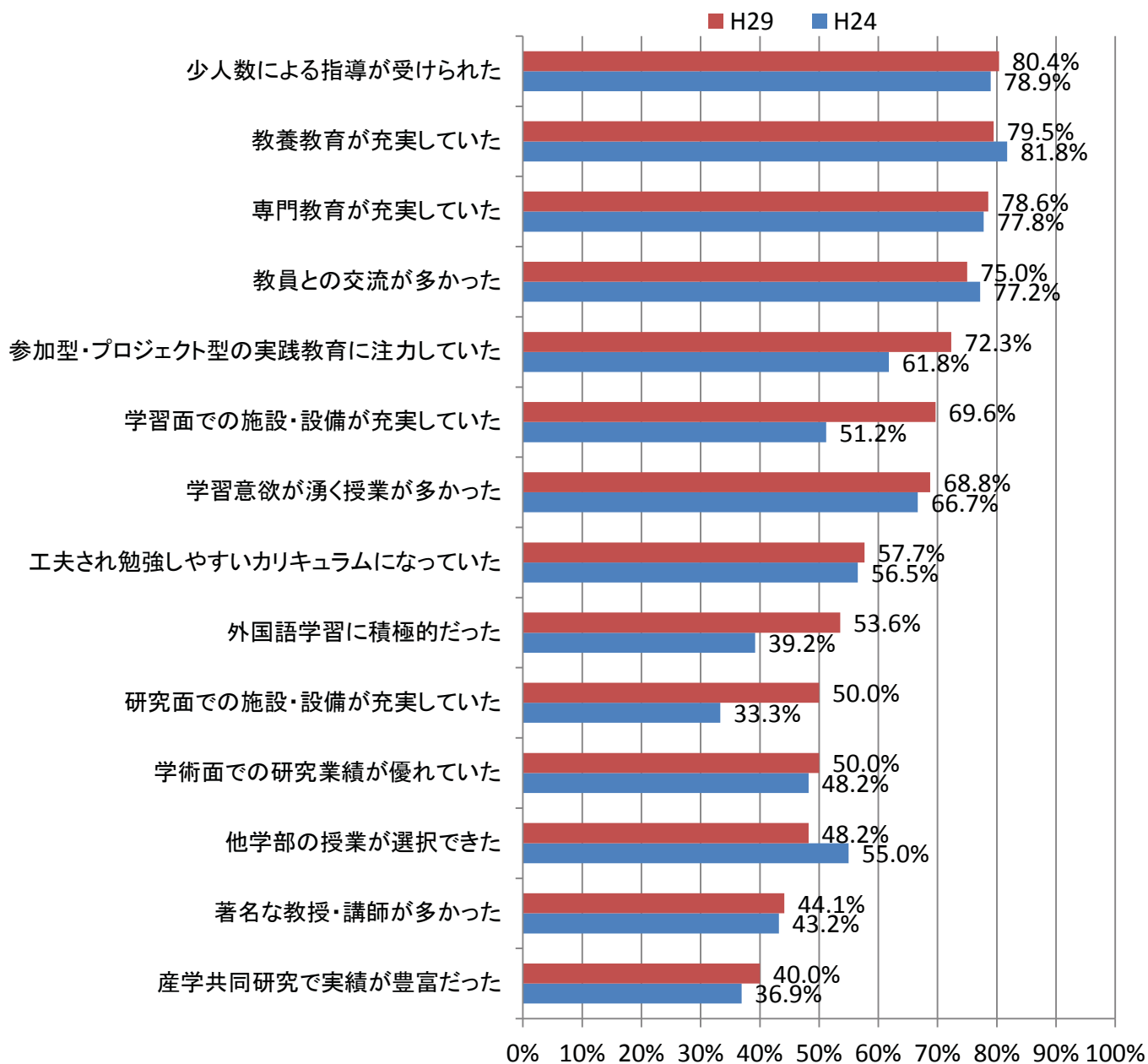
### b.鳥取大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている



### c.鳥取大学への受験を高校生に薦めたい

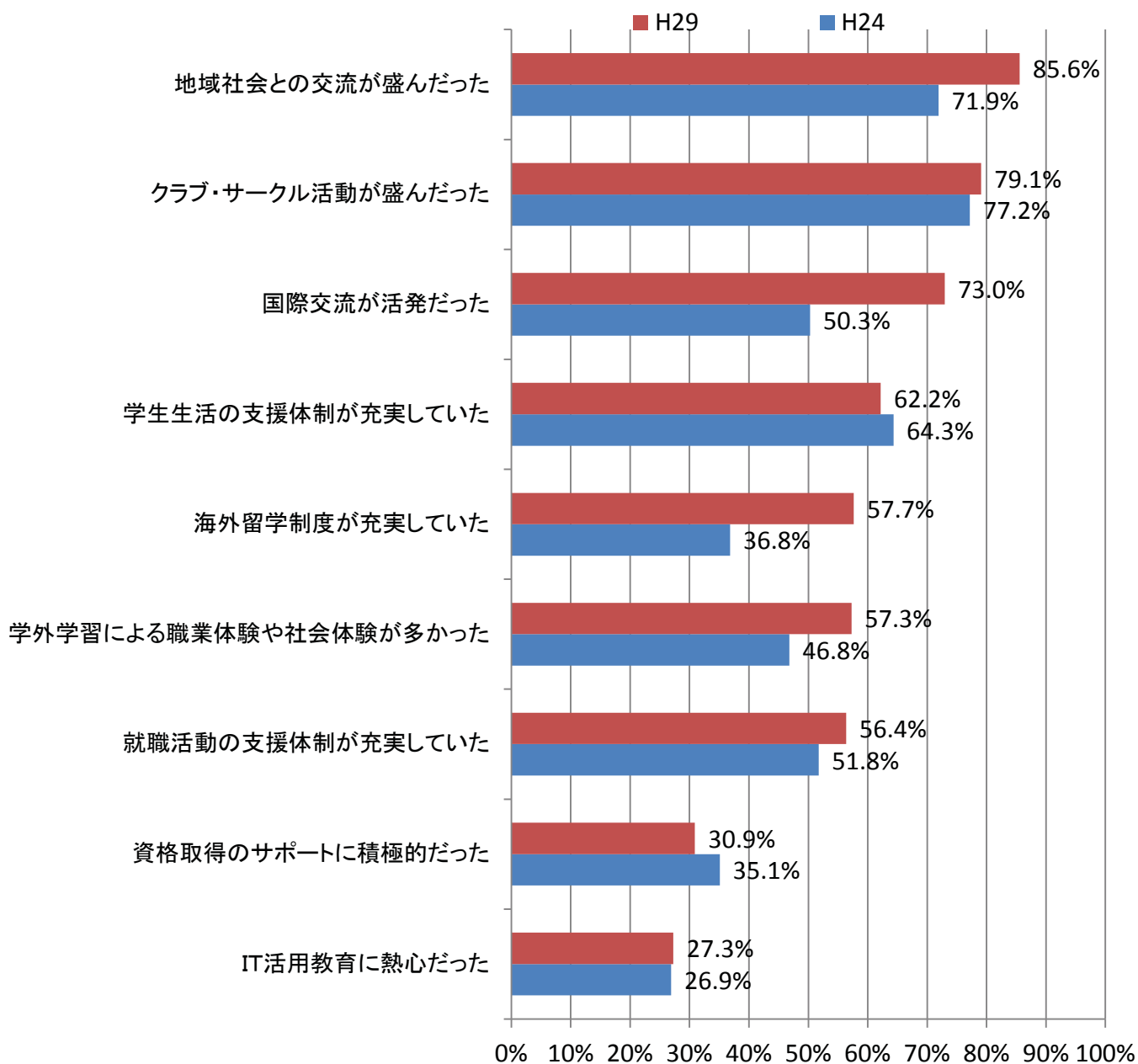


・平成24年度調査と平成29年度調査の「教育と研究に関する充実度」を比較すると、「少人数による指導」「教養教育が充実」「専門教育が充実」「教員との交流」等の高肯定回答率に大きな変化はないものの、「参加型・プロジェクト型の実践教育に注力」「学修面での施設・設備が充実」「外国語学習に積極的」「研究面での施設・設備が充実」等の項目で、平成29年度の方が高い結果だった。

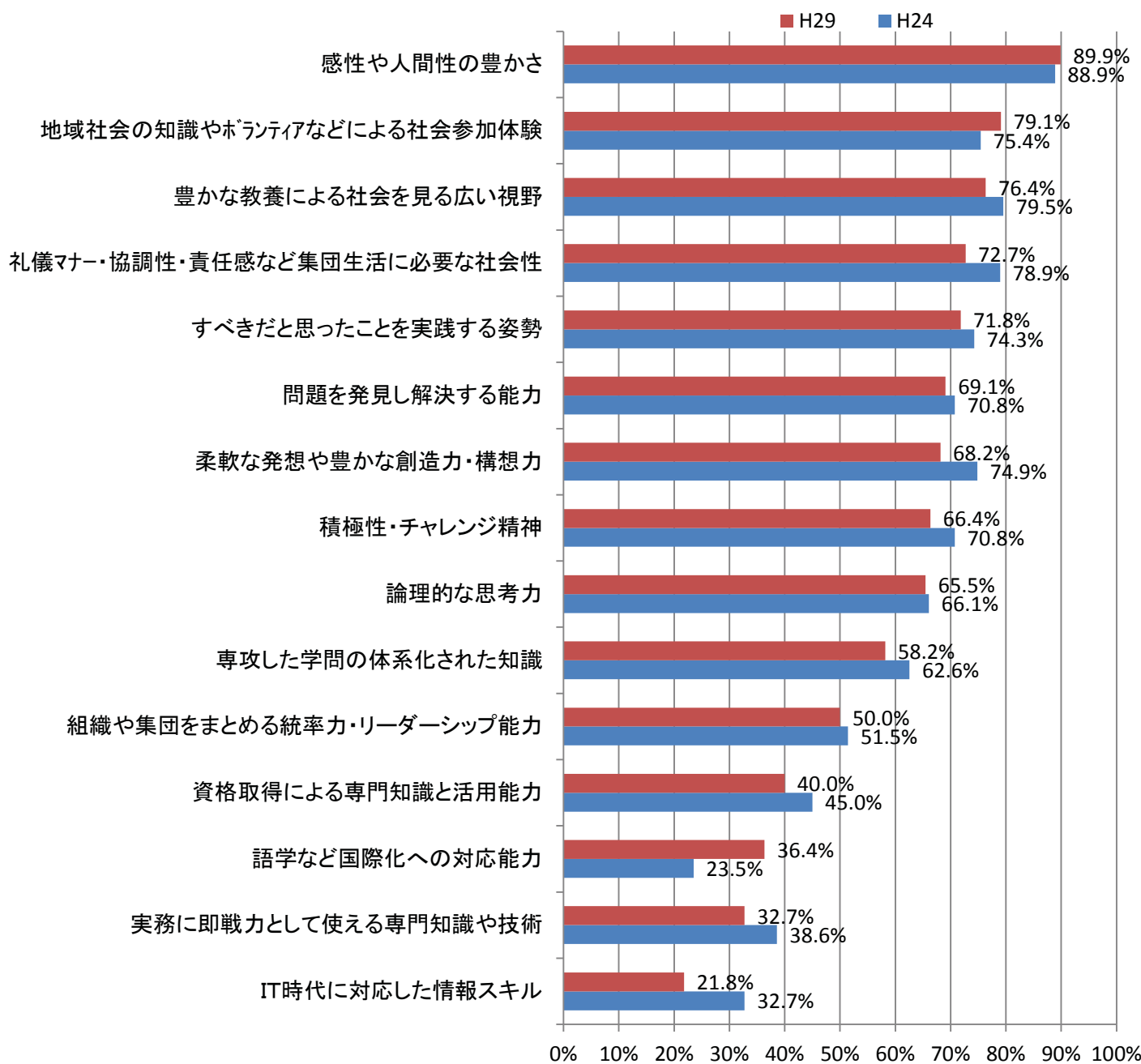




・平成24年度調査と平成29年度調査の「交流活動・支援体制に関する充実度」を比較すると、「地域社会との交流が盛ん」「国際交流が活発」「海外留学制度が充実」「学外学習による職業体験や社会体験活動が多い」等で、平成29年度の方が高い肯定回答率が得られていた。

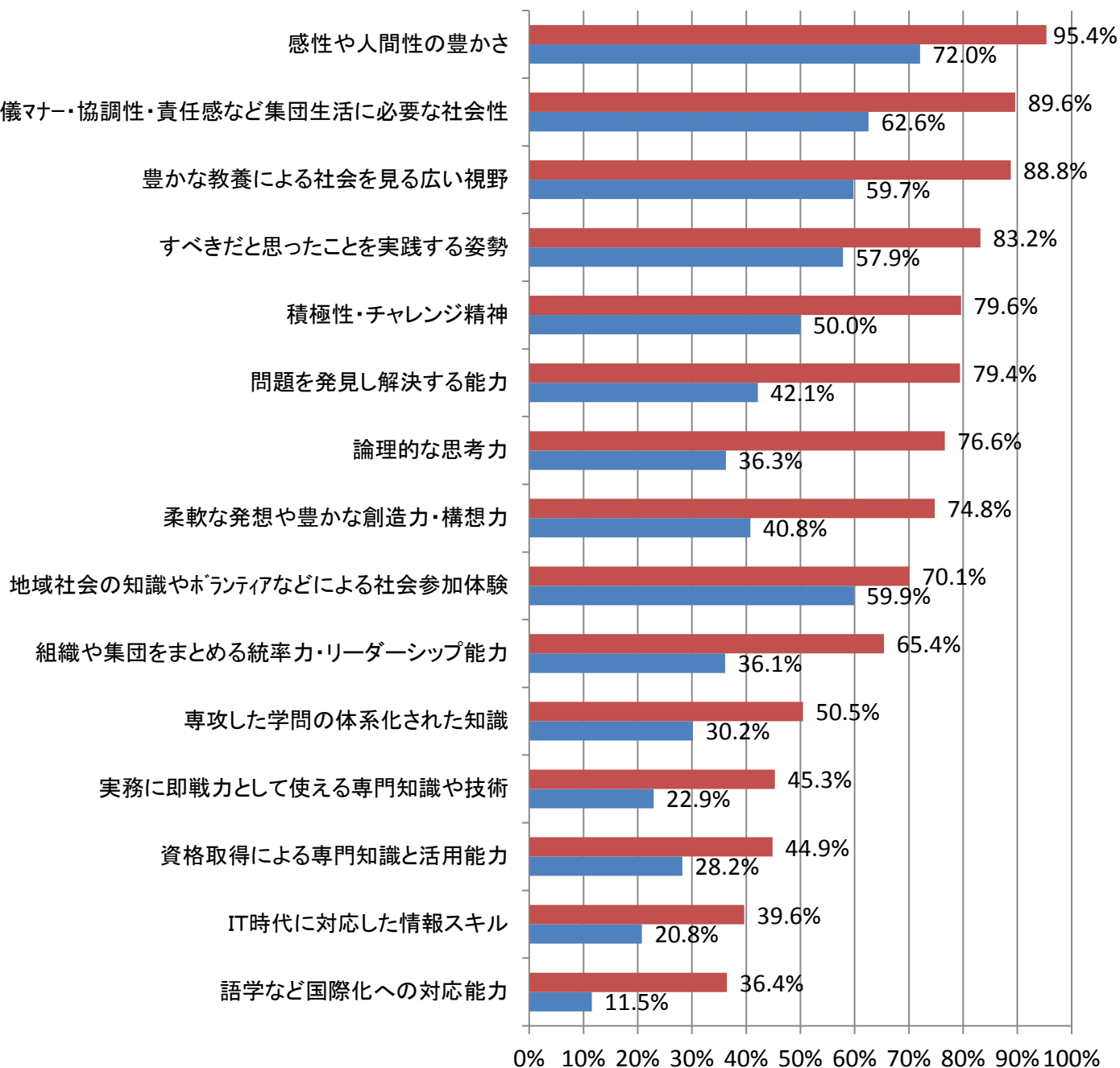


・平成24年度調査と平成29年度調査の「大学での教育や学生生活を通じて習得した能力・技術・知識」を比較すると、多くの項目であまり変化はないが、「語学など国際化への対応能力」では平成29年度の肯定回答率が著しく高くなっていた。



・平成24年度調査と平成29年度調査の「社会に出てから役立った能力・技術・知識」を比較すると、15項目中14項目で平成29年度調の肯定回答率が高かった。

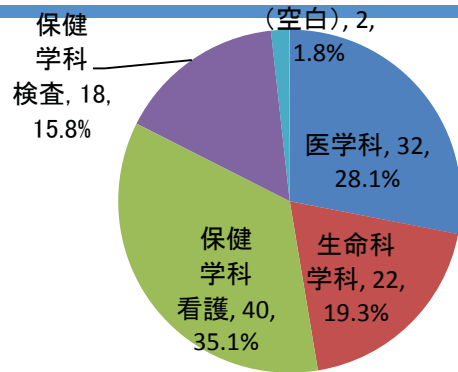
■ H29 ■ H24



# 医学部

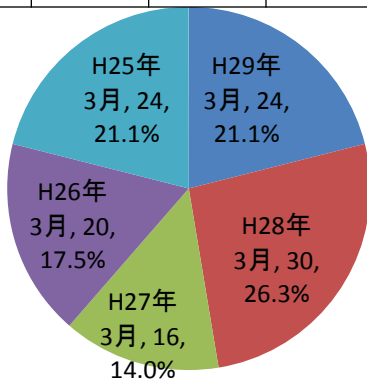
## 【学部・学科】

| 医学科   | 生命科学科 | 保健学科看護 | 保健学科検査 | (空白) | 計      |
|-------|-------|--------|--------|------|--------|
| 32    | 22    | 40     | 18     | 2    | 114    |
| 28.1% | 19.3% | 35.1%  | 15.8%  | 1.8% | 100.0% |



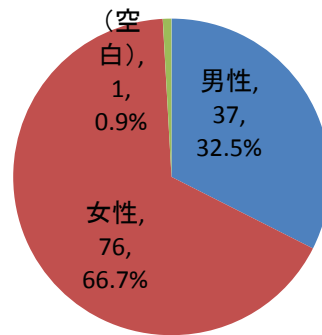
## 【学部・卒年】

| H29年3月 | H28年3月 | H27年3月 | H26年3月 | H25年3月 | 計      |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 24     | 30     | 16     | 20     | 24     | 114    |
| 21.1%  | 26.3%  | 14.0%  | 17.5%  | 21.1%  | 100.0% |

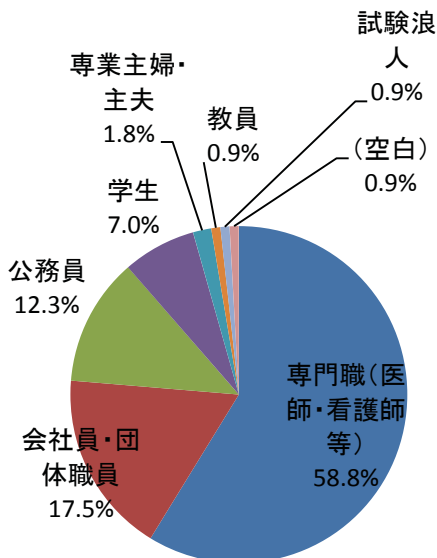


## 【学部・性別】

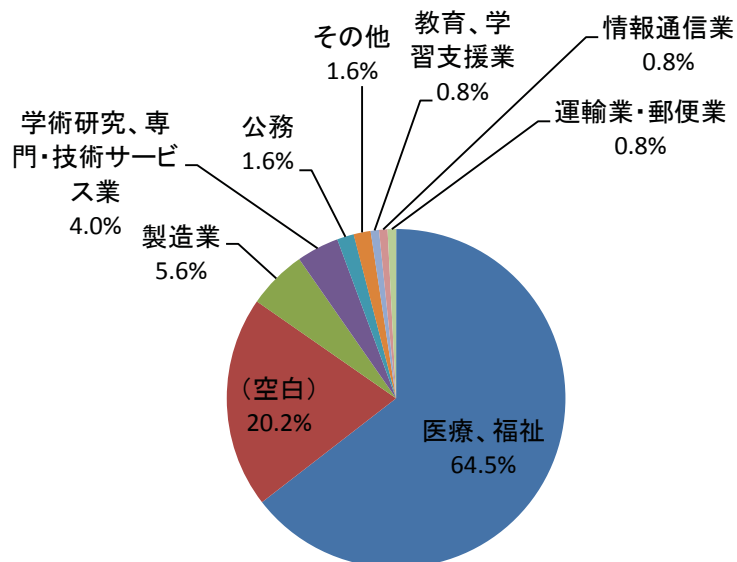
| 男性    | 女性    | (空白) | 総計     |
|-------|-------|------|--------|
| 37    | 76    | 1    | 114    |
| 32.5% | 66.7% | 0.9% | 100.0% |



## 【学部・職業】



## 【学部・業種】



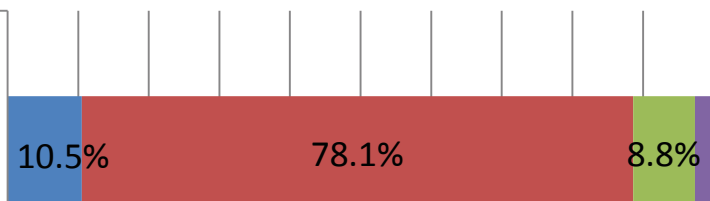
・「鳥取大学の教育内容に対する全体的な満足度」は、「非常にそう思う」10.5%、「ある程度そう思う」78.1%であり、9割近くが肯定回答した。

・「鳥取大学の教育の卒業後の仕事や生活への役立ち度」は、「非常にそう思う」が18.4%であり約2割が強い肯定回答をした。「ある程度そう思う」71.1%とあわせると、約9割が肯定回答だった。

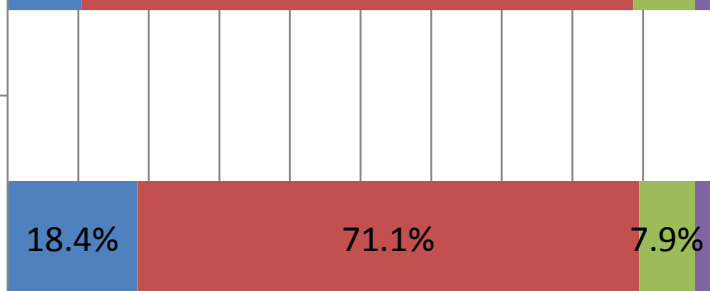
・「鳥取大学への受験を高校生に薦めたい」は、「非常にそう思う」が12.3%であり、「ある程度そう思う」71.1%とあわせると、約8割強が肯定回答した。

■ 非常にそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

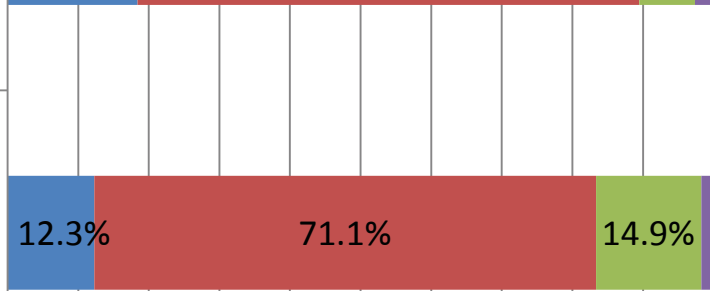
鳥取大学の教育内容に、全体として満足している



鳥取大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている



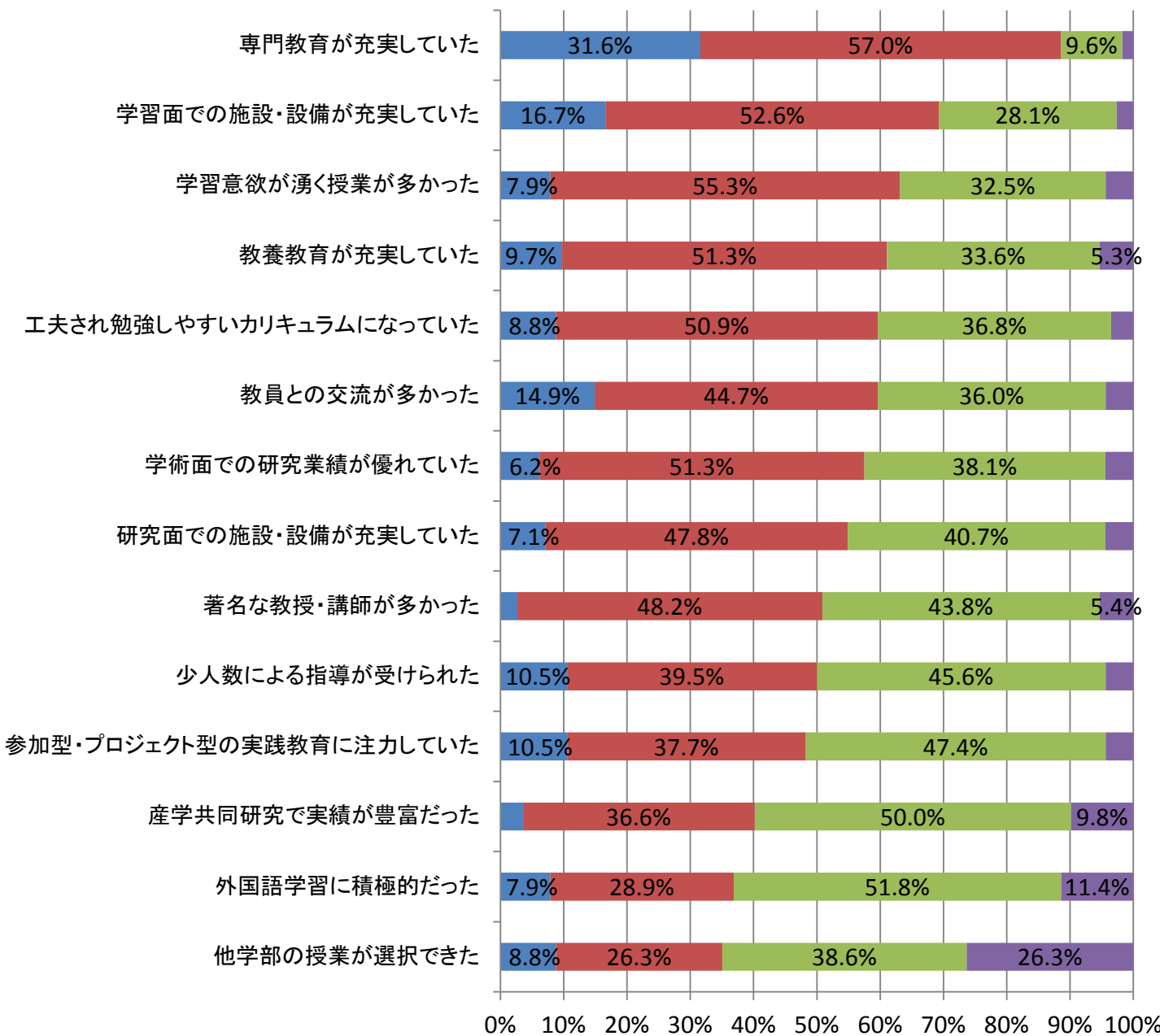
鳥取大学への受験を高校生に薦めたい



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

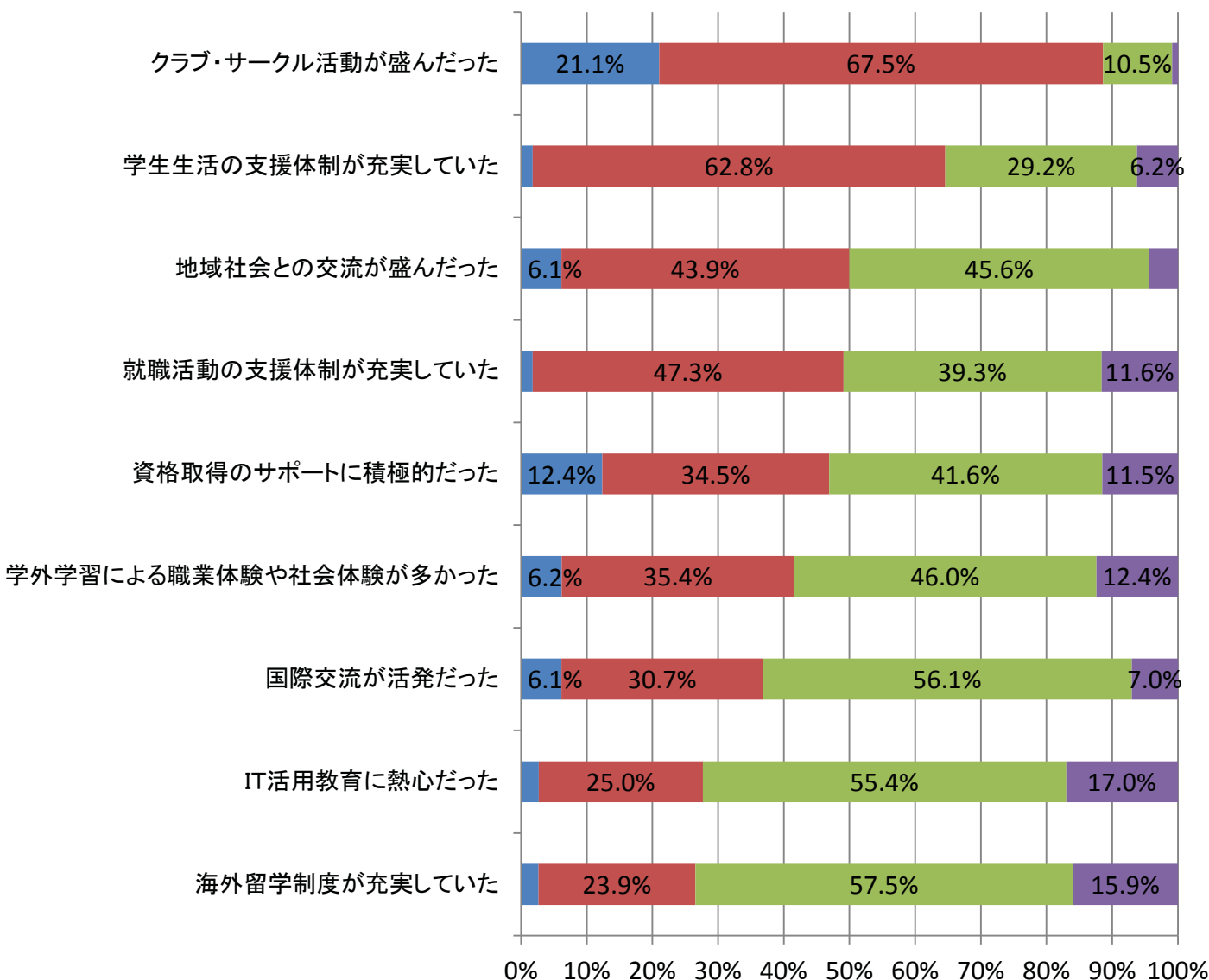
・「専門教育が充実していた」の肯定回答は約9割であり、他の項目に比べ、圧倒的に高い肯定回答率だった。  
 ・「学修面での施設・設備が充実」は約7割、「学習意欲が湧く授業」「教養教育が充実」「工夫され勉強しやすいカリキュラム」は約6割が肯定回答していた。

■ 非常にそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



- ・「クラブ・サークル活動が盛ん」は、「非常にそう思う」は2割を超え、「ある程度そう思う」とあわせると、9割近くが肯定回答していた。
- ・「学生生活の支援体制が充実」は、6割強が肯定回答していた。
- ・「地域社会との交流」「就職活動の支援体制」「資格取得のサポートに積極的」はおよそ5割の肯定回答率だった。
- ・「IT活用教育が熱心」「海外留学制度が充実」の肯定回答率は3割未満だった。

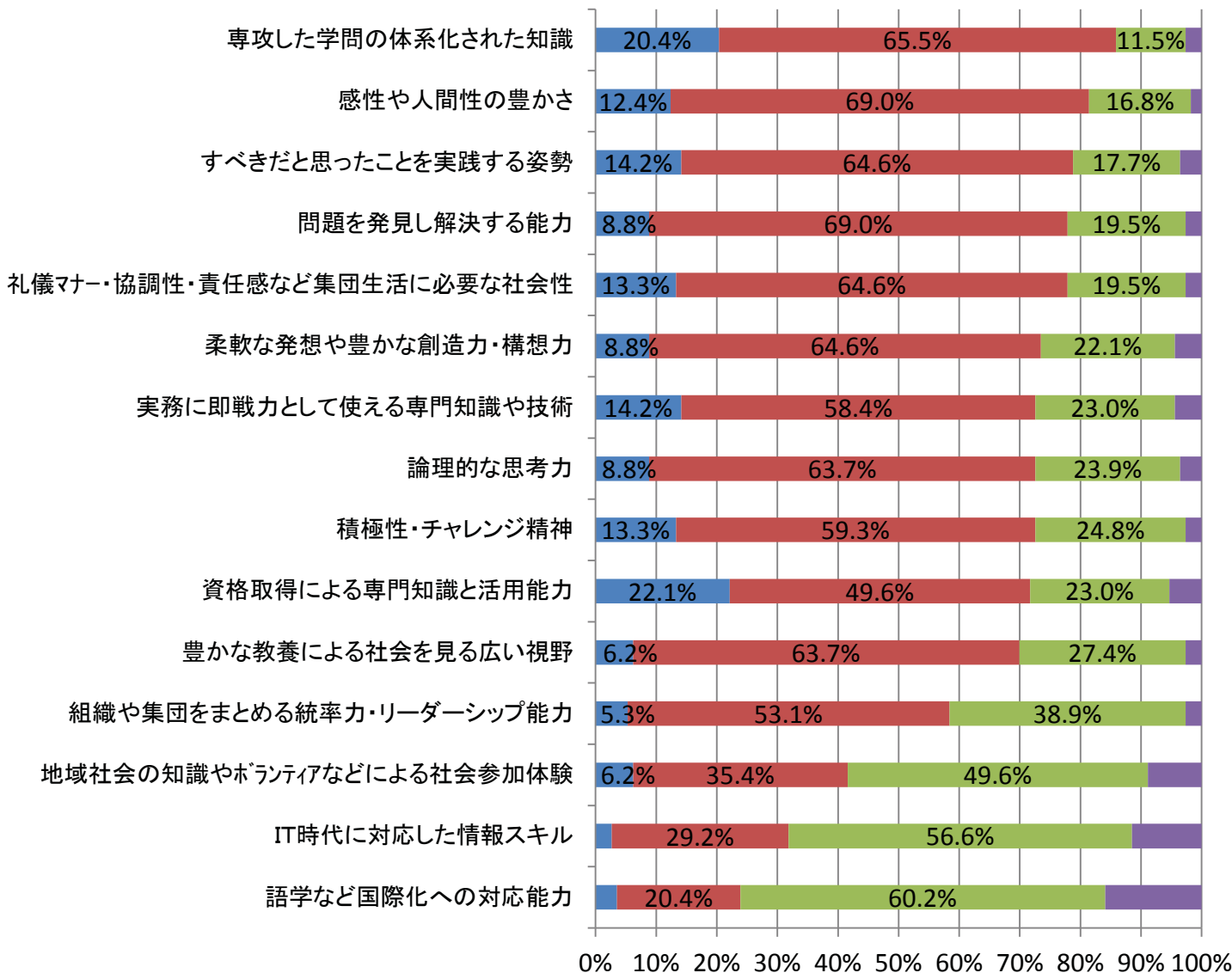
■ 非常にそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない





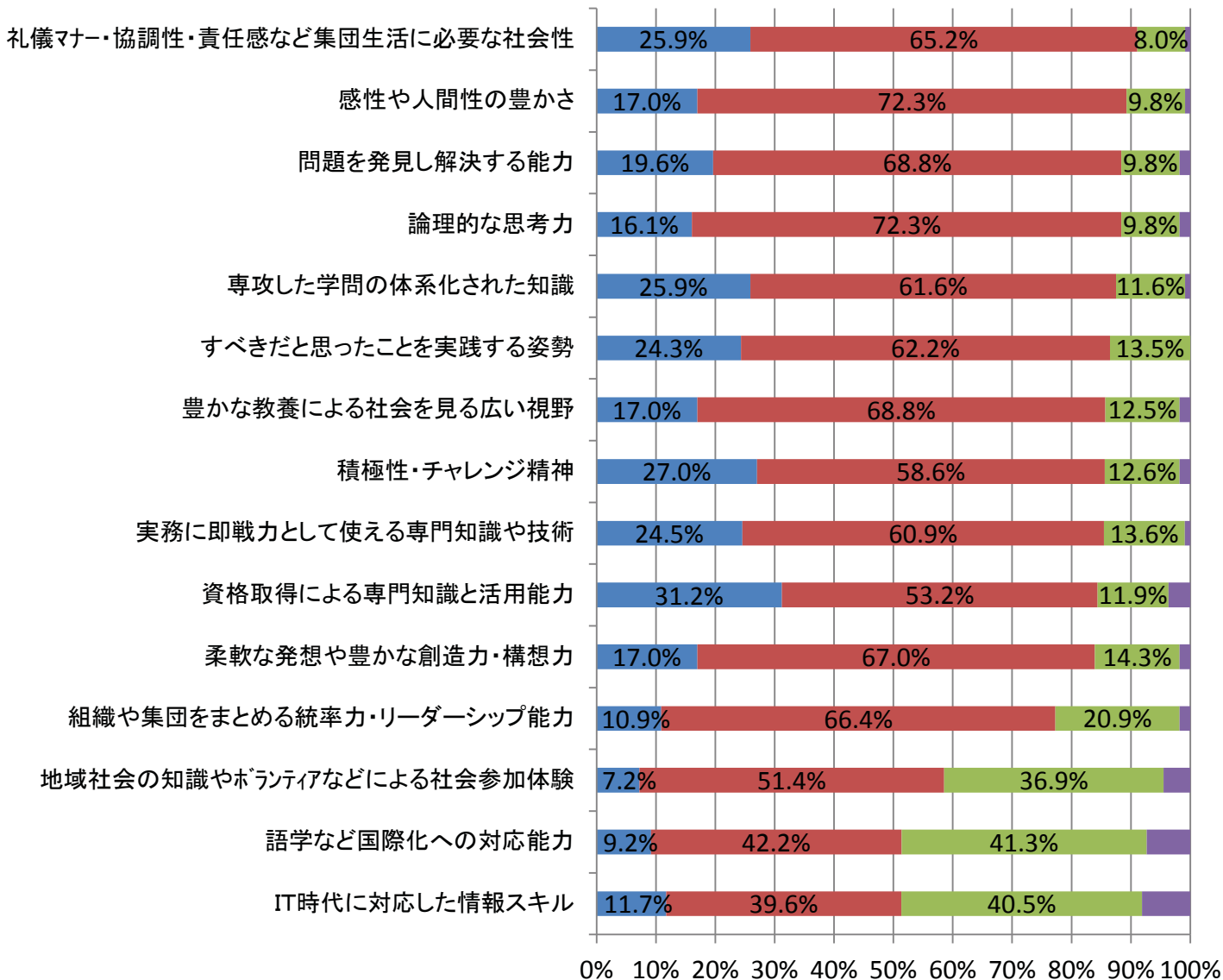
- ・大学での教育・学生生活を通じて習得した「能力・技術・知識等」15項目のうち、11項目で7～9割の高い習得度であった。
- ・「専攻した学問の体系化された知識」が最も高く85.9%だった。
- ・「地域社会の知識やボランティアなどによる社会参加体験」は約4割、「IT時代に対応した情報スキル」は約3割、「語学など国際化への対応能力」は3割未満だった。

■ 大変習得できた ■ ある程度習得できた ■ あまり習得できなかった ■ 全く習得できなかった

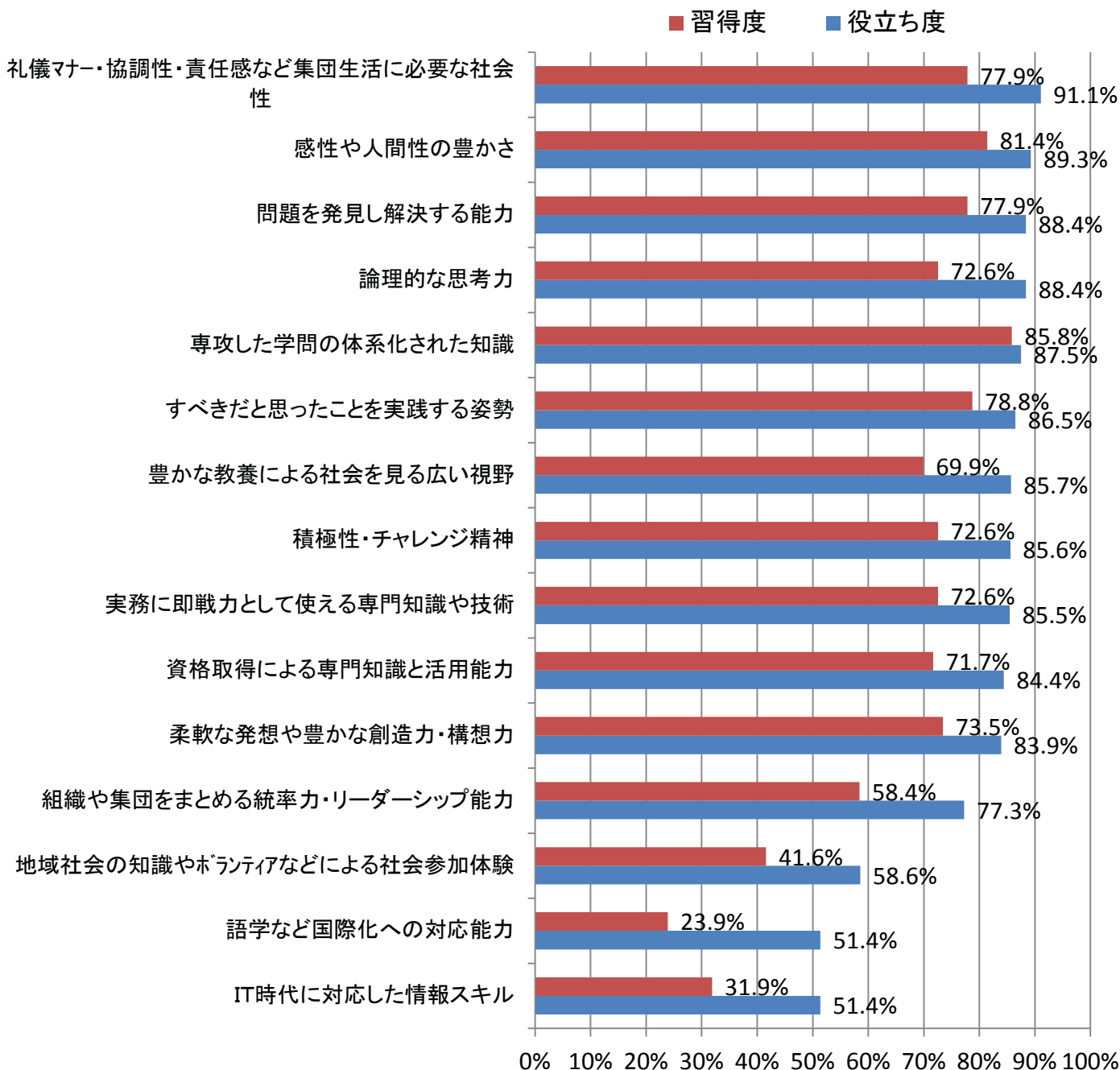


- ・社会に出た後、大学での教育成果として役立った「能力・技術・知識等」15項目のうち、11項目で8～9割の高い役立ち度だった。
- ・「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」が最も高く91.1%だった。
- ・「語学など国際化への対応能力」「IT時代に対応した情報スキル」はおおよそ5割の役立ち度だった。

■ 大変役立った ■ ある程度役立った ■ あまり役に立たなかった ■ 全く役に立たなかった

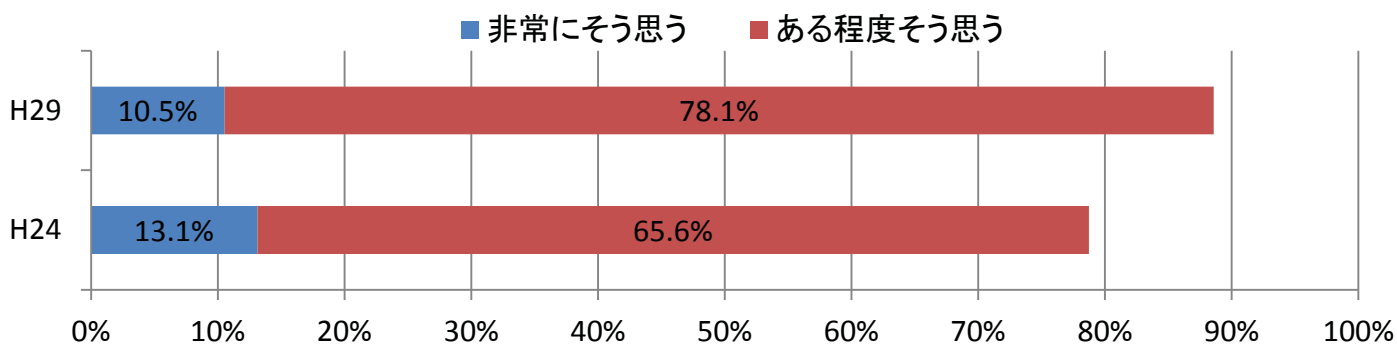


・15項目全ての項目において、大学での習得度に対し、社会での役立ち度の方が値が大きかった。「専攻した学問の体系化された知識」については、習得度も役立ち度もほぼ同じ値であった。

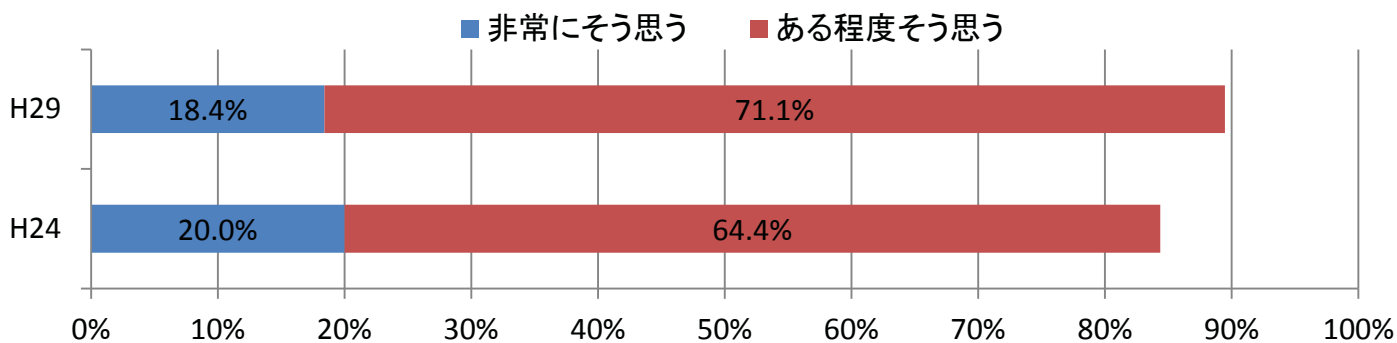


・平成24年度調査と平成29年度調査の「総合的な満足度」を比較すると、「全体として満足」「卒業後の仕事や生活で役立っている」「高校生に薦めたい」の3項目ともに、H24年度よりもH29年度の方が高い肯定回答率だった。

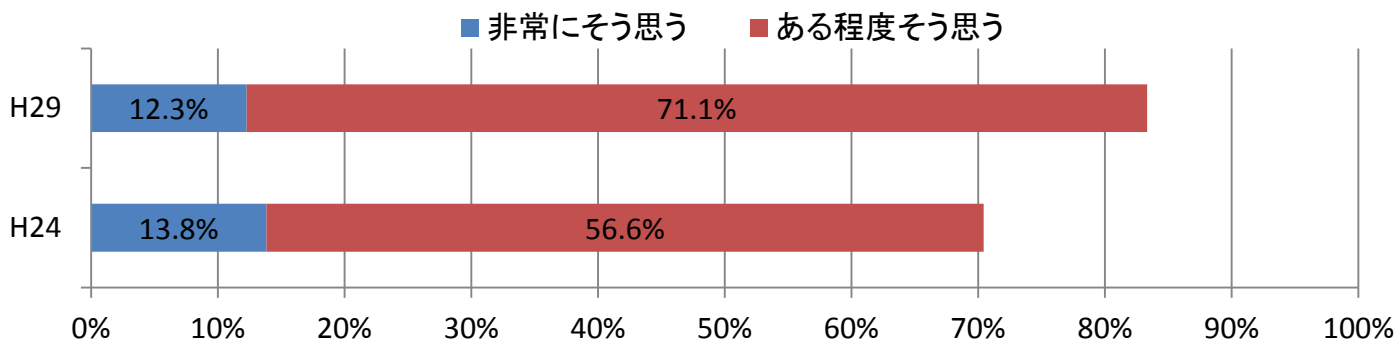
### a.鳥取大学の教育内容に、全体として満足している



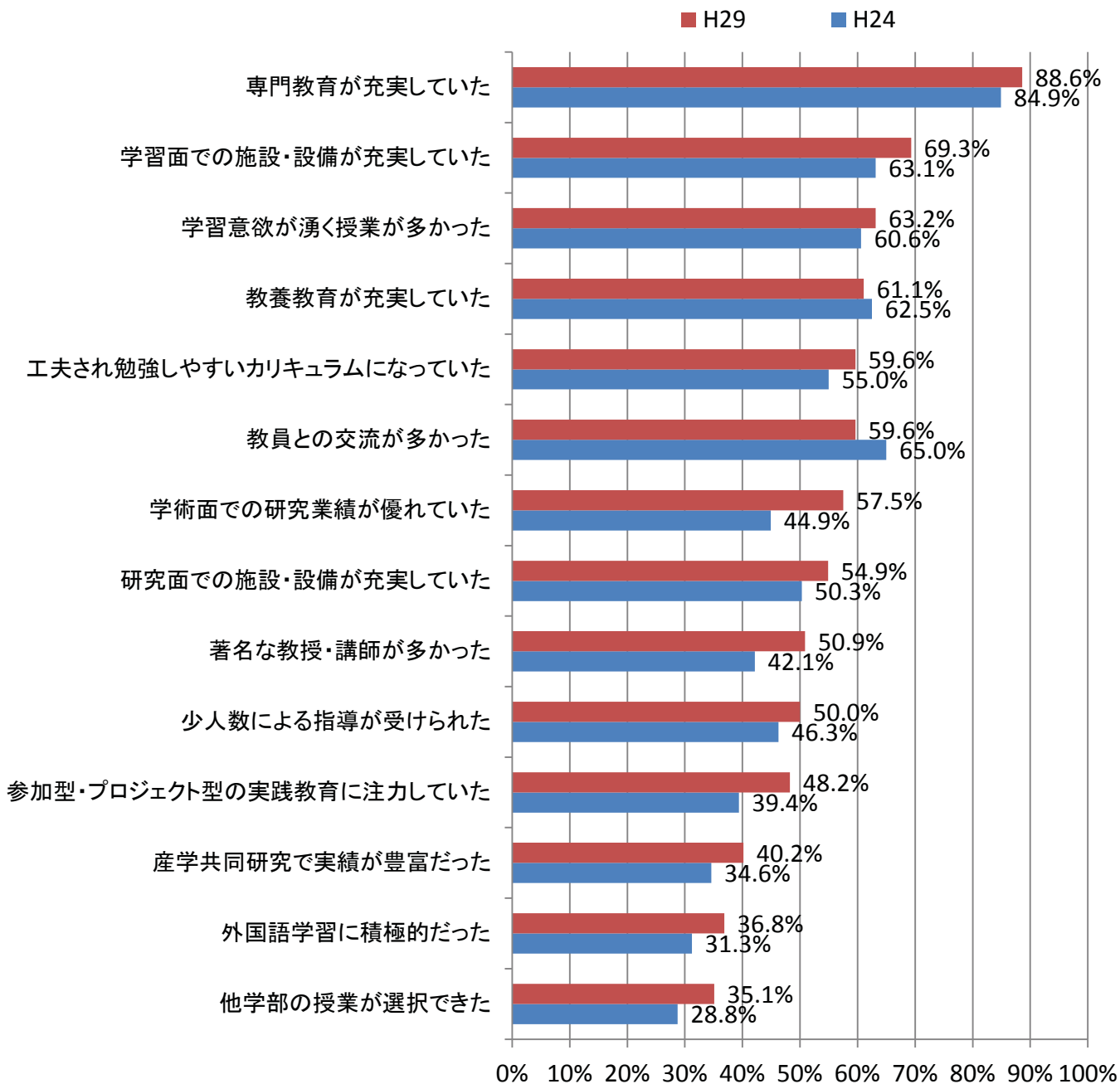
### b.鳥取大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている



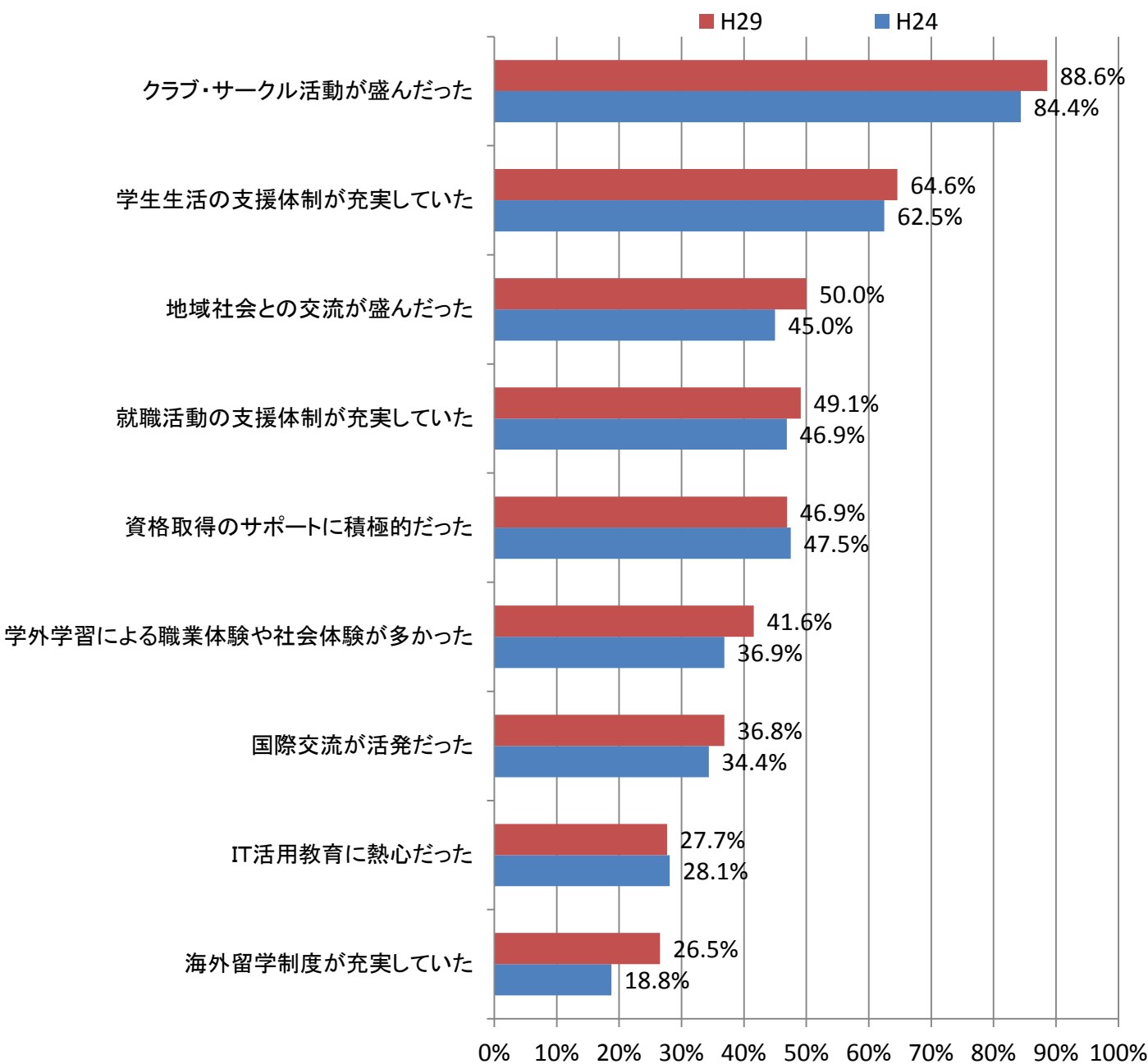
### c.鳥取大学への受験を高校生に薦めたい



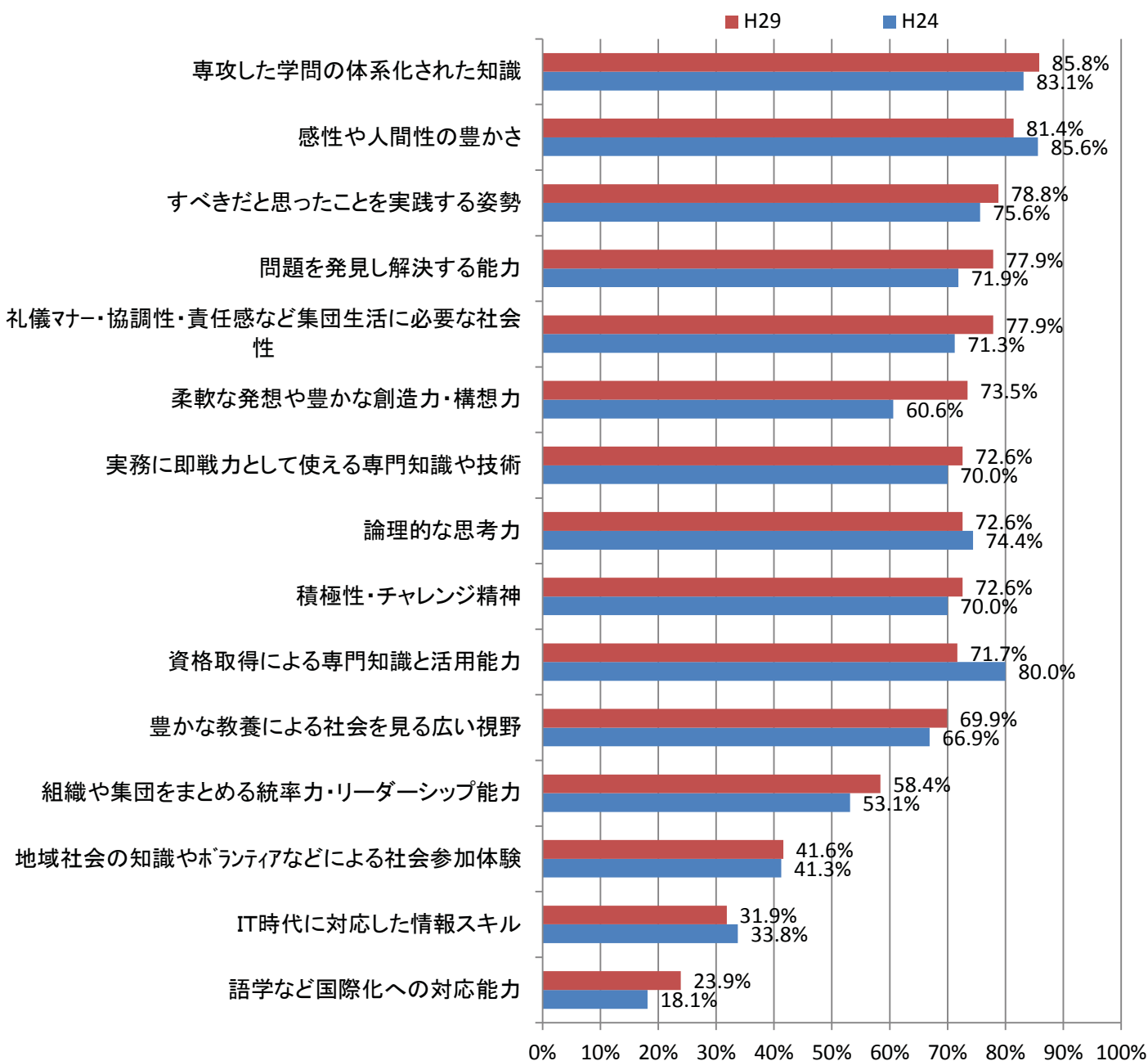
・平成24年度調査と平成29年度調査の「教育と研究に関する充実度」を比較すると、「学術面での研究業績が優れていた」をはじめとする多くの項目で平成29年度の方が高い肯定回答率となっていた。「教養教育」「教員との交流」の2項目のみ、平成24年度の方が高い肯定回答率だった。



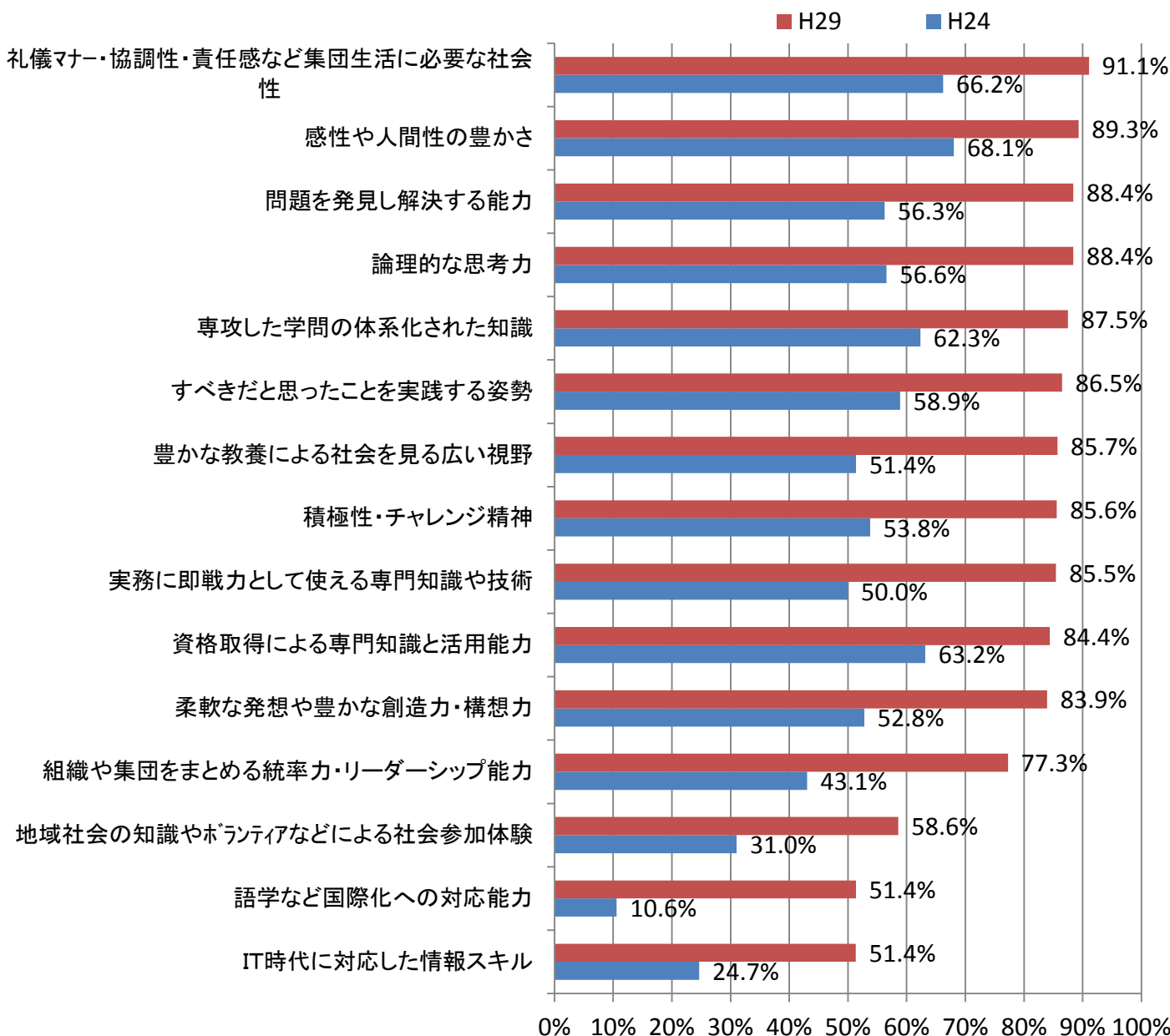
・平成24年度調査と平成29年度調査の「交流活動・支援体制に関する充実度」を比較すると、大きな変化は見受けられなかった。「クラブ・サークル活動が盛ん」「地域社会との交流が盛ん」「学外学習による職業体験や社会体験が多かった」「海外留学制度が充実」の4項目では、平成29年度が4～8%程高い結果だった。



・平成24年度調査と平成29年度調査の「大学での教育や学生生活を通じて習得した能力・技術・知識」を比較すると、15項目中12項目で平成29年度の方が高かった。特に「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」は習得度がかなり高くなっていた。逆に「資格取得による専門知識と活用能力」は、平成24年度に比べ大きく低下していた。



・平成24年度調査と平成29年度調査の「社会に出てから役立った能力・技術・知識」を比較すると、全ての項目で平成29年度の肯定回答率が高い結果だった。「資格取得による専門知識と活用能力」について、平成24年度では3番目に高い項目であったが、平成29年度では10番目となっていた。



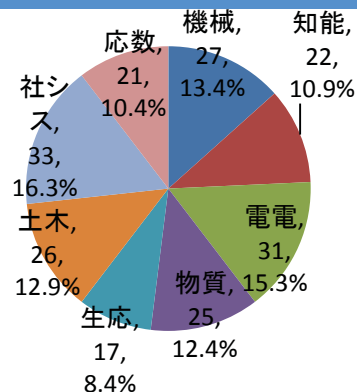


# 工学部

# 回答者の属性

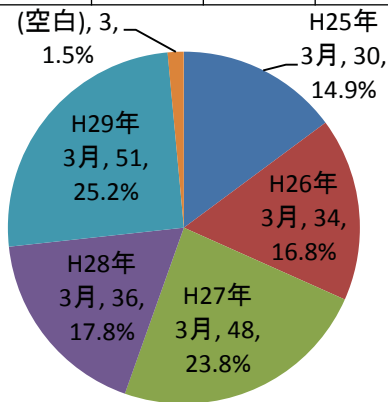
## 【学部・学科】

| 機械    | 知能    | 電電    | 物質    | 生応   | 土木    | 社シス   | 応数    | 計      |
|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|--------|
| 27    | 22    | 31    | 25    | 17   | 26    | 33    | 21    | 202    |
| 13.4% | 10.9% | 15.3% | 12.4% | 8.4% | 12.9% | 16.3% | 10.4% | 100.0% |



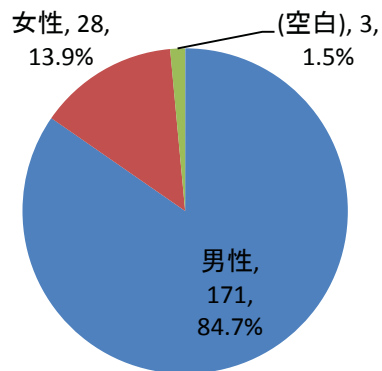
## 【学部・卒年】

| H25年<br>3月 | H26年<br>3月 | H27年<br>3月 | H28年<br>3月 | H29年<br>3月 | (空白) | 計      |
|------------|------------|------------|------------|------------|------|--------|
| 30         | 34         | 48         | 36         | 51         | 3    | 202    |
| 14.9%      | 16.8%      | 23.8%      | 17.8%      | 25.2%      | 1.5% | 100.0% |

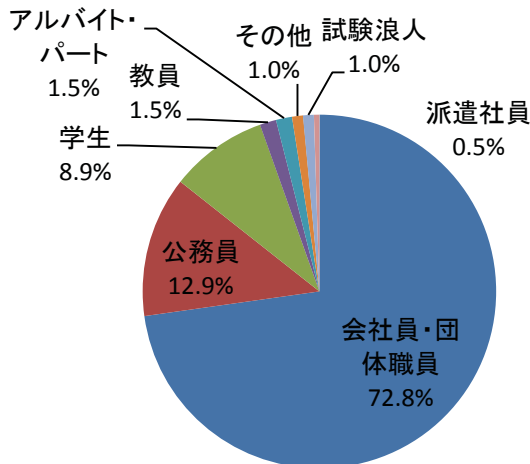


## 【学部・性別】

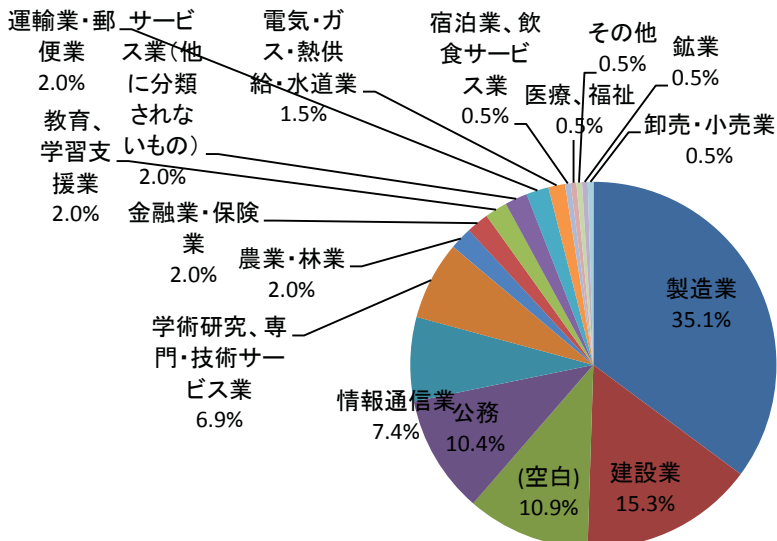
| 男性    | 女性    | (空白) | 計      |
|-------|-------|------|--------|
| 171   | 28    | 3    | 202    |
| 84.7% | 13.9% | 1.5% | 100.0% |



## 【学部・職業】

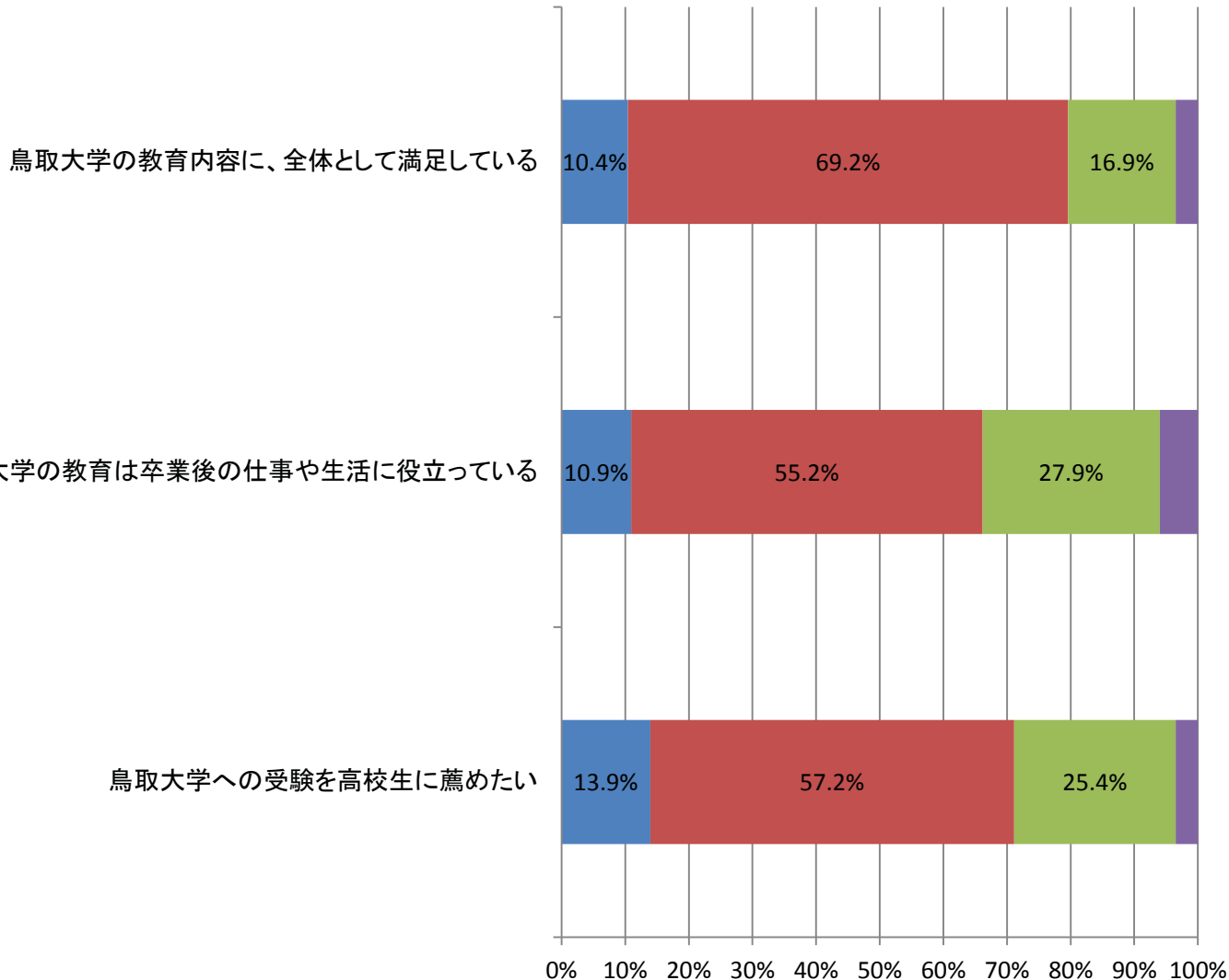


## 【学部・業種】



- ・「鳥取大学の教育内容に対する全体的な満足度」は、「非常にそう思う」が約1割、「ある程度そう思う」が約7割で、肯定回答率が約8割であった。
- ・「鳥取大学の教育の卒業後の仕事や生活への役立ち度」について、66.1%が肯定回答しており、卒業生の約2/3は大学教育の成果として役立っていると回答した。
- ・「鳥取大学への受験を高校生に薦めたい」は、約7割が肯定回答した。

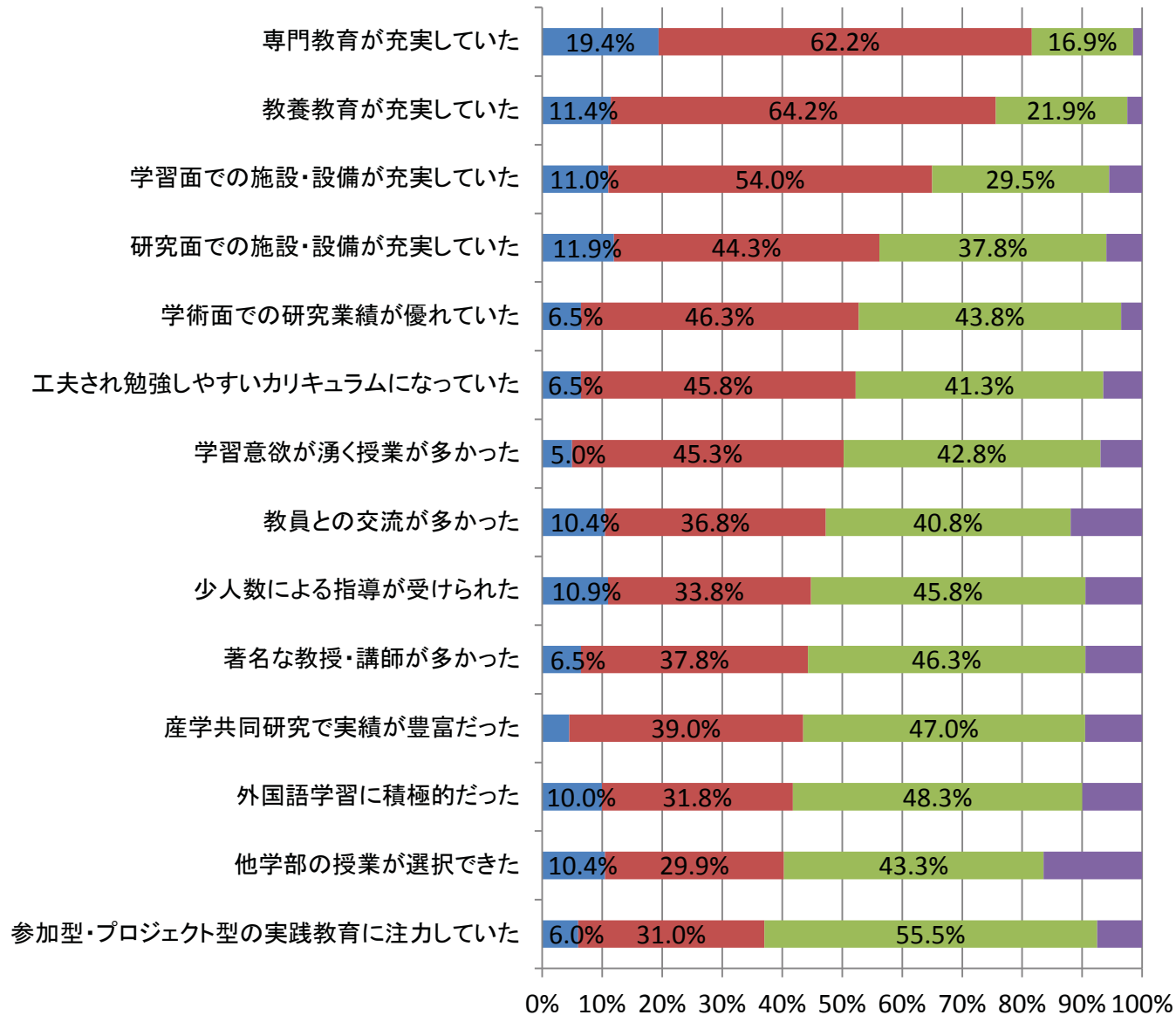
■ 非常にそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



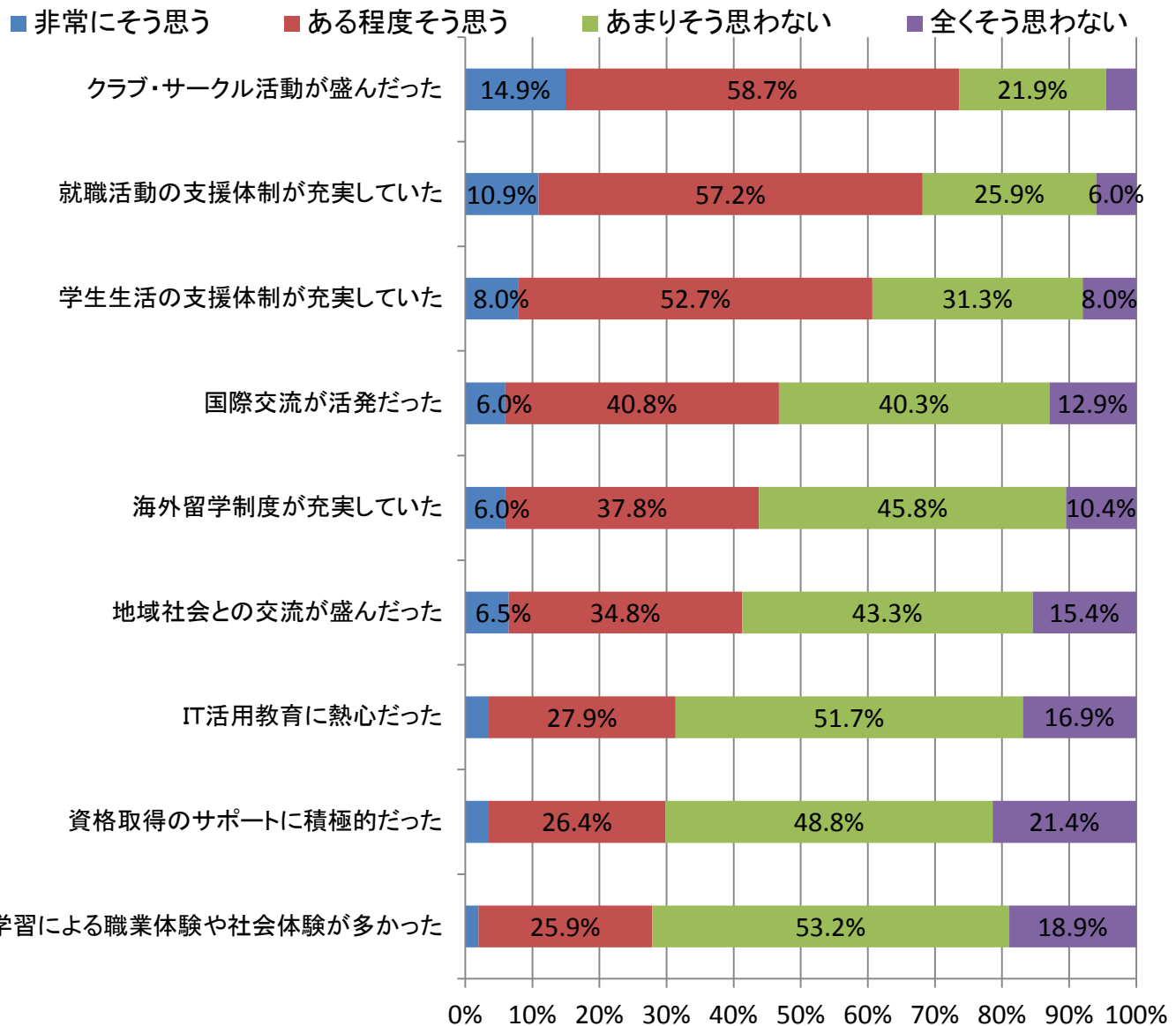
・「専門教育が充実」は、「非常にそう思う」が約2割、「ある程度そう思う」が約6割が回答しており、約8割が肯定回答率だった。次いで「教養教育が充実」が約75%だった。

・「学習面での施設・設備が充実」「研究面での施設・設備が充実」「学術面での研究業績が優れていた」「工夫され勉強しやすいカリキュラム」「学修意欲が湧く授業」の肯定回答は約5～7割だった。

■ 非常にそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

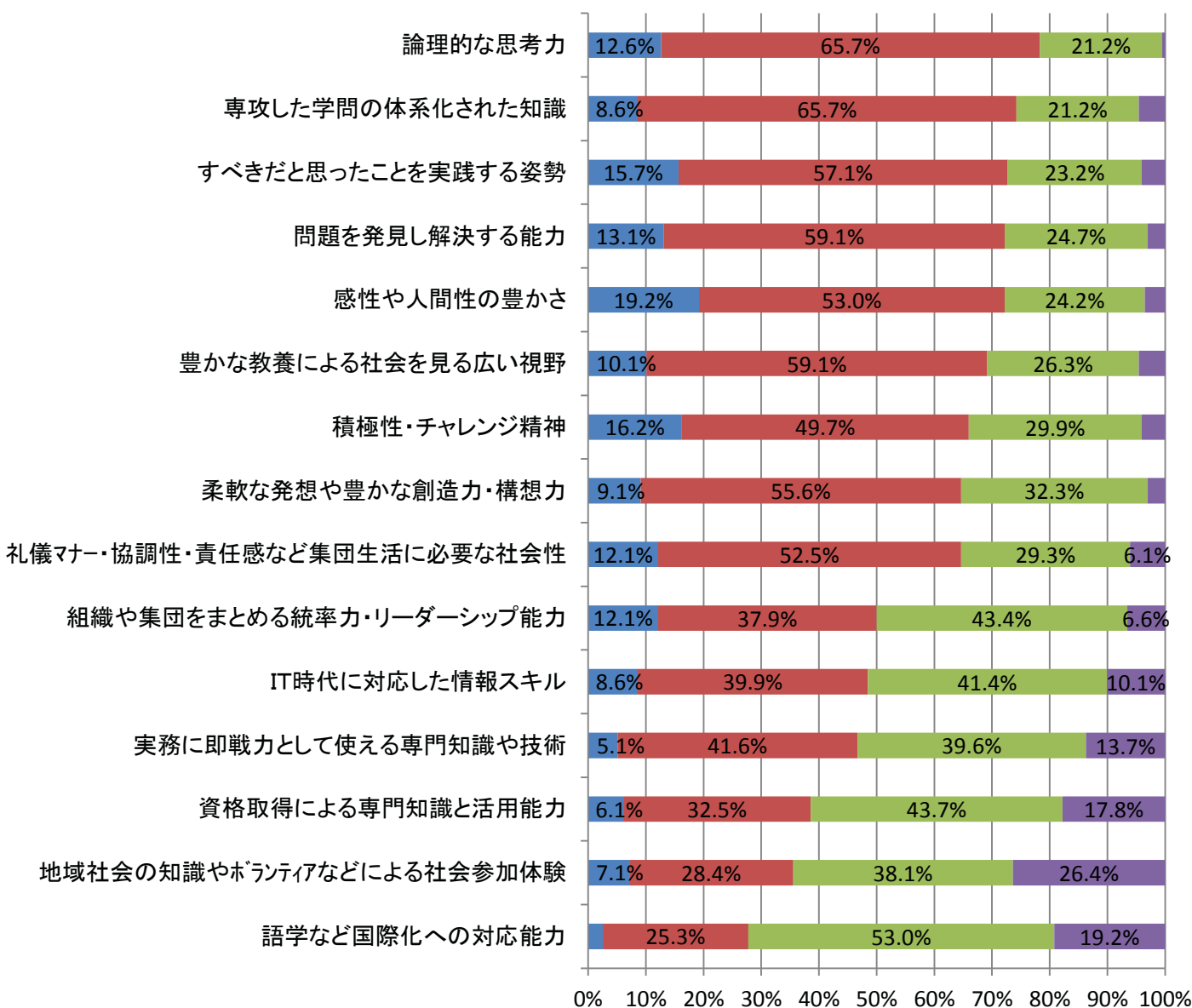


- ・「クラブ・サークル活動が盛ん」は「非常にそう思う」が14.9%、「ある程度そう思う」が58.7%で、73.6%が肯定回答した。
- ・「就職活動の支援体制が充実」が68.1%、「学生生活の支援体制が充実」が60.7%で、6割台の肯定回答率だった。
- ・「国際交流が活発」「海外留学制度が充実」は、4割台の肯定回答率だった。



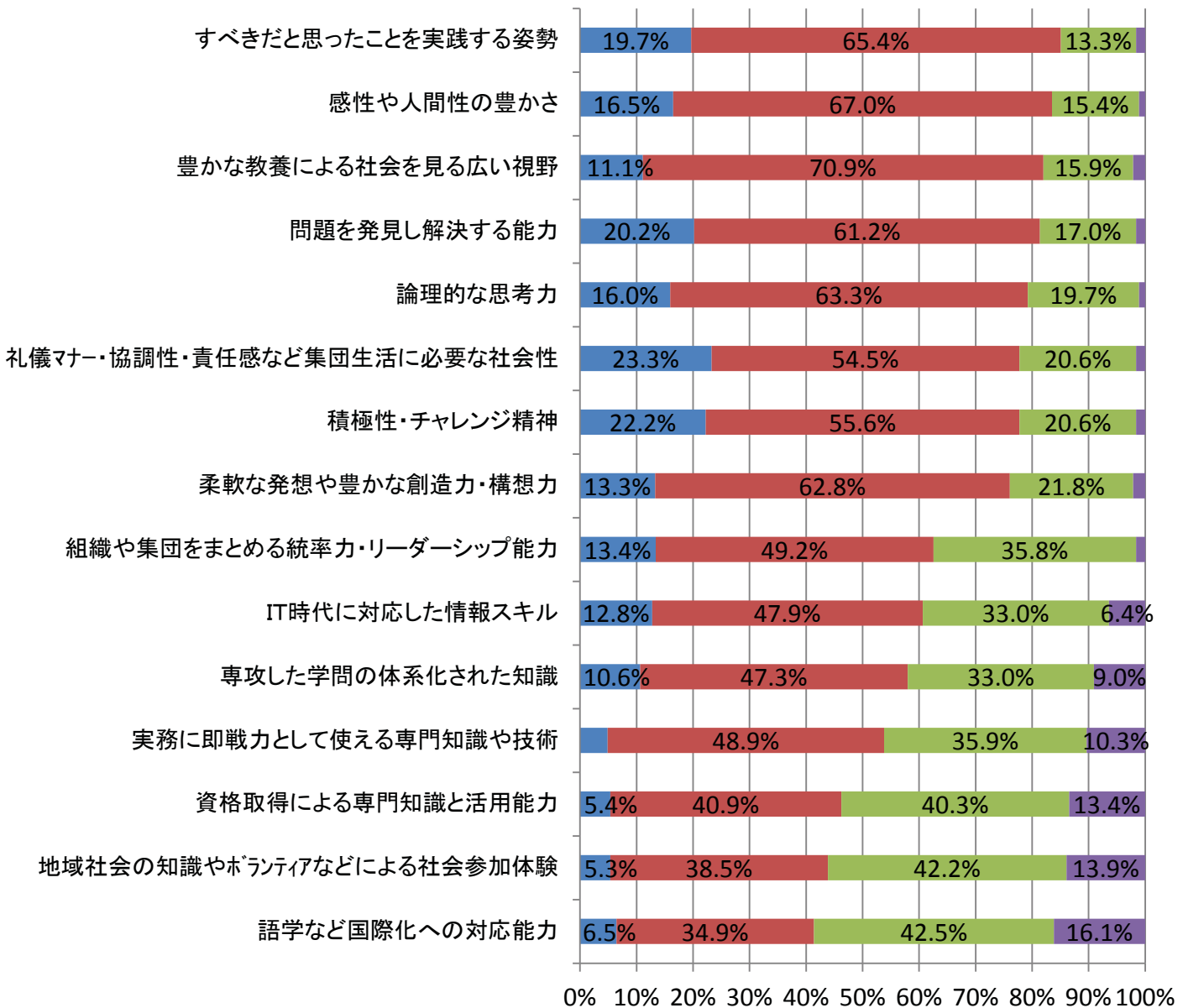
- ・大学での教育・学生生活を通じて習得した能力・技術知識等の中で、「論理的な思考力」が最も高い肯定回答率で78.3%だった。
- ・「専攻した学問の体系化された知識」「すべきだと思ったことを実践する姿勢」「問題を発見し解決する能力」「感性や人間性の豊かさ」は7割台の肯定回答率だった。
- ・「語学など国際化への対応能力」は、3割未満の肯定回答率だった。

■ 大変習得できた ■ ある程度習得できた ■ あまり習得できなかった ■ 全く習得できなかった

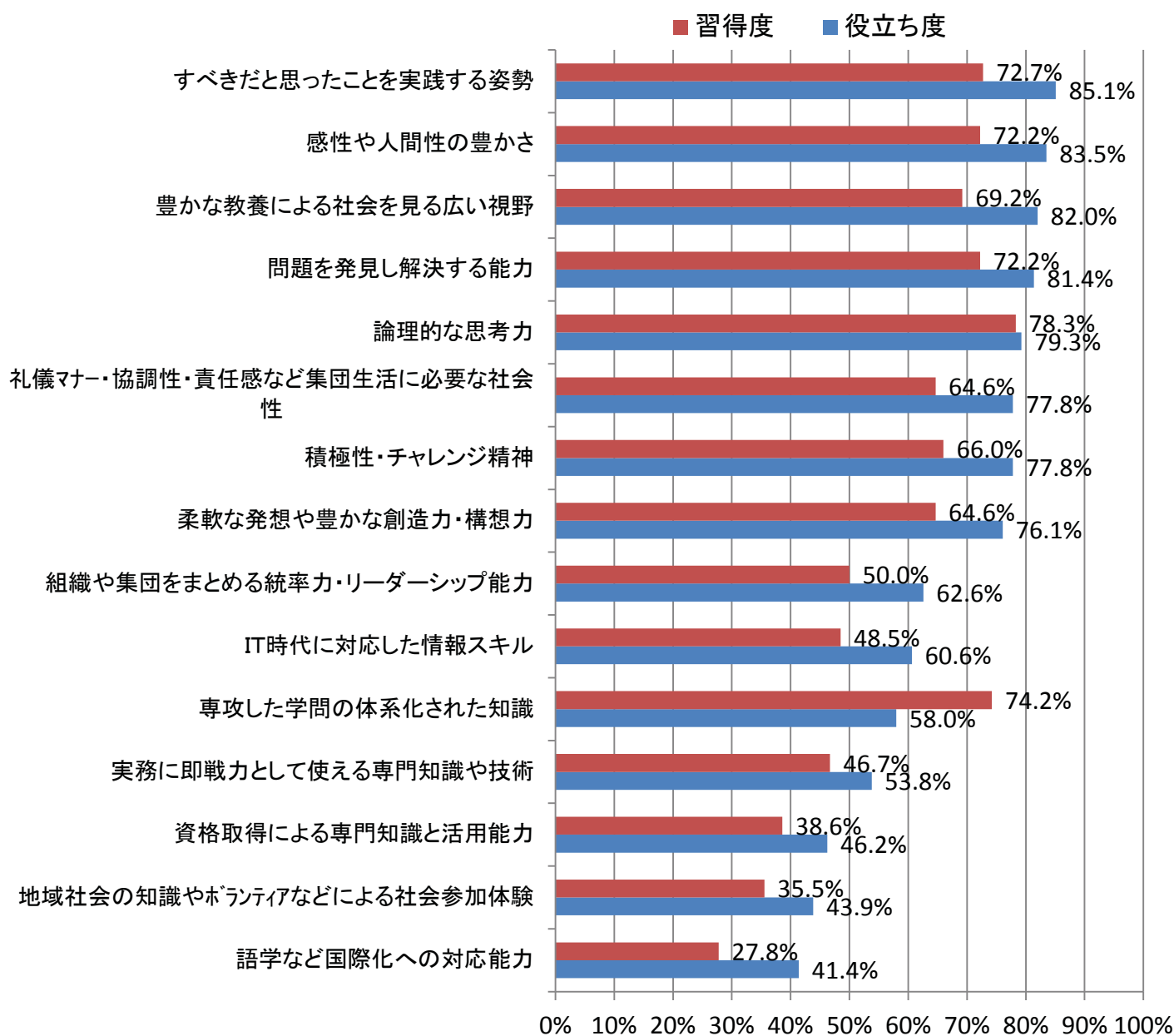


・社会に出た後、大学での教育成果として役立ったと感じる能力・技術・知識等は、「すべきだと思ったことを実践する姿勢」(85.1%)、「感性や人間性の豊かさ」(83.5%)、「豊かな教養による社会を見る広い視野」(82.0%)、「問題を発見し解決する能力」(81.4%)で、8割以上の肯定回答率だった。  
・「語学など国際化への対応能力」では、約4割の肯定回答率だった。

■ 大変役立った ■ ある程度役立った ■ あまり役に立たなかった ■ 全く役に立たなかった



- ・大学での習得度に対して、社会での役立ち度の方が値が大きいものが、15項目中、14項目あった。
- ・「専攻した学問の体系化された知識」についてのみ、役立ち度よりも習得度の方が値が大きかった。
- ・「論理的思考力」は、役立ち度の方が少し大きかったが、習得度とほぼ同値であった。

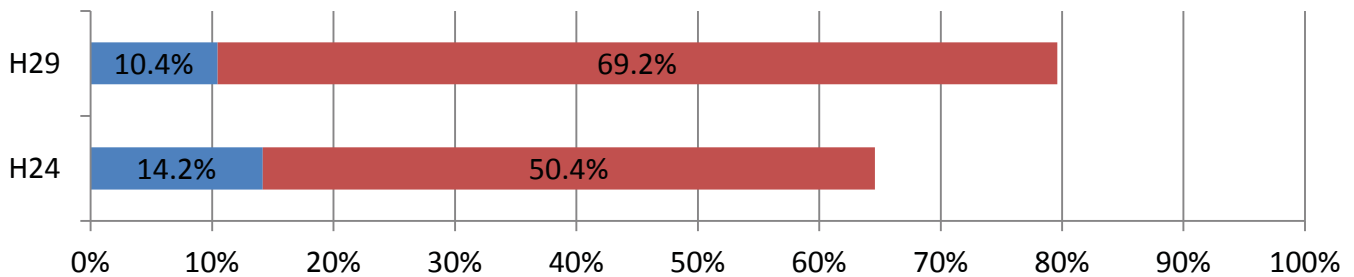




・平成24年度調査と平成29年度調査の「総合的な満足度」を比較すると、「卒業後の仕事や生活に役立っている」「受験を高校生に薦めたい」では大きな変化はなかった。「全体として満足」は、64.6%から79.6%へと肯定回答率が高くなった。

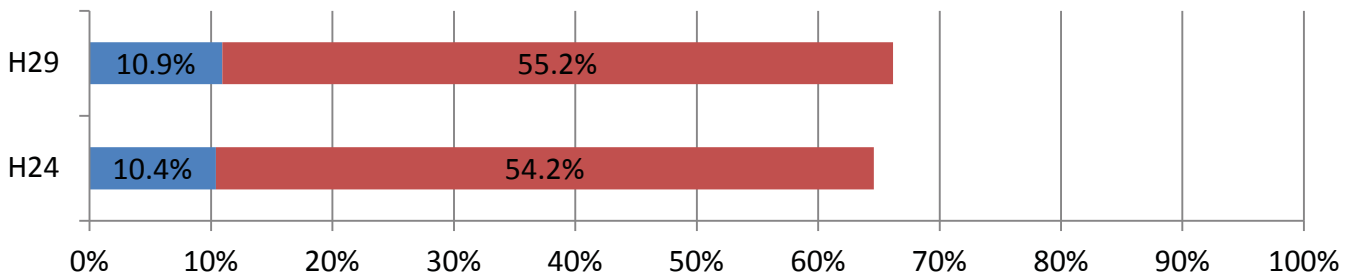
### a.鳥取大学の教育内容に、全体として満足している

■非常にそう思う ■ある程度そう思う



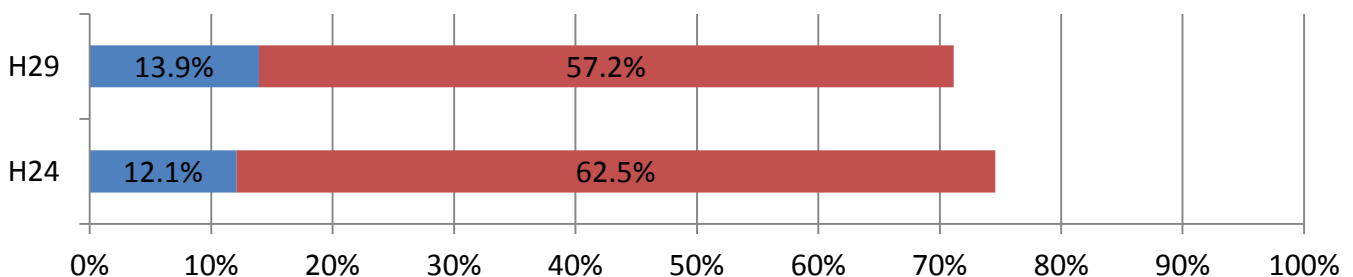
### b.鳥取大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている

■非常にそう思う ■ある程度そう思う

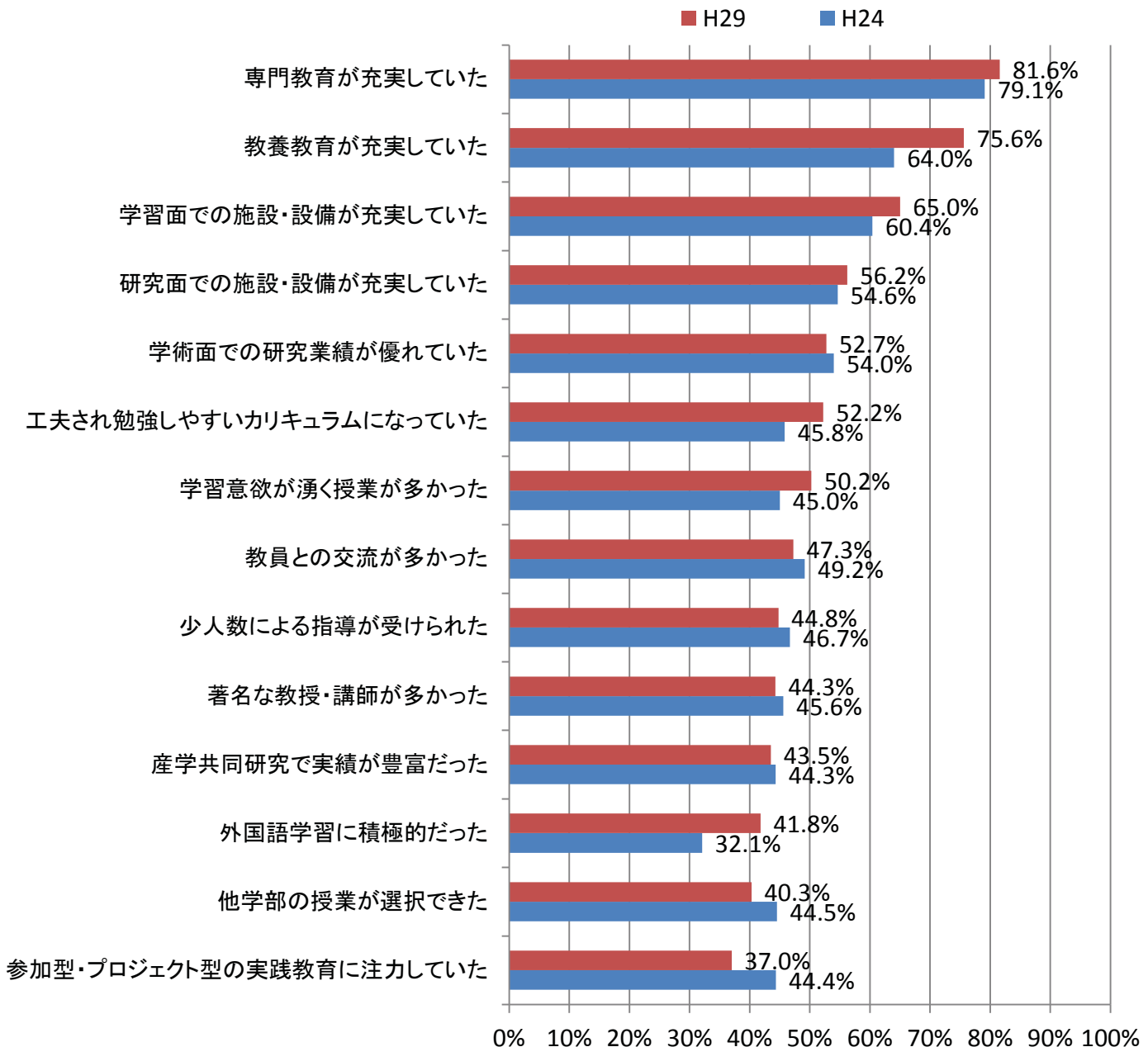


### c.鳥取大学への受験を高校生に薦めたい

■非常にそう思う ■ある程度そう思う

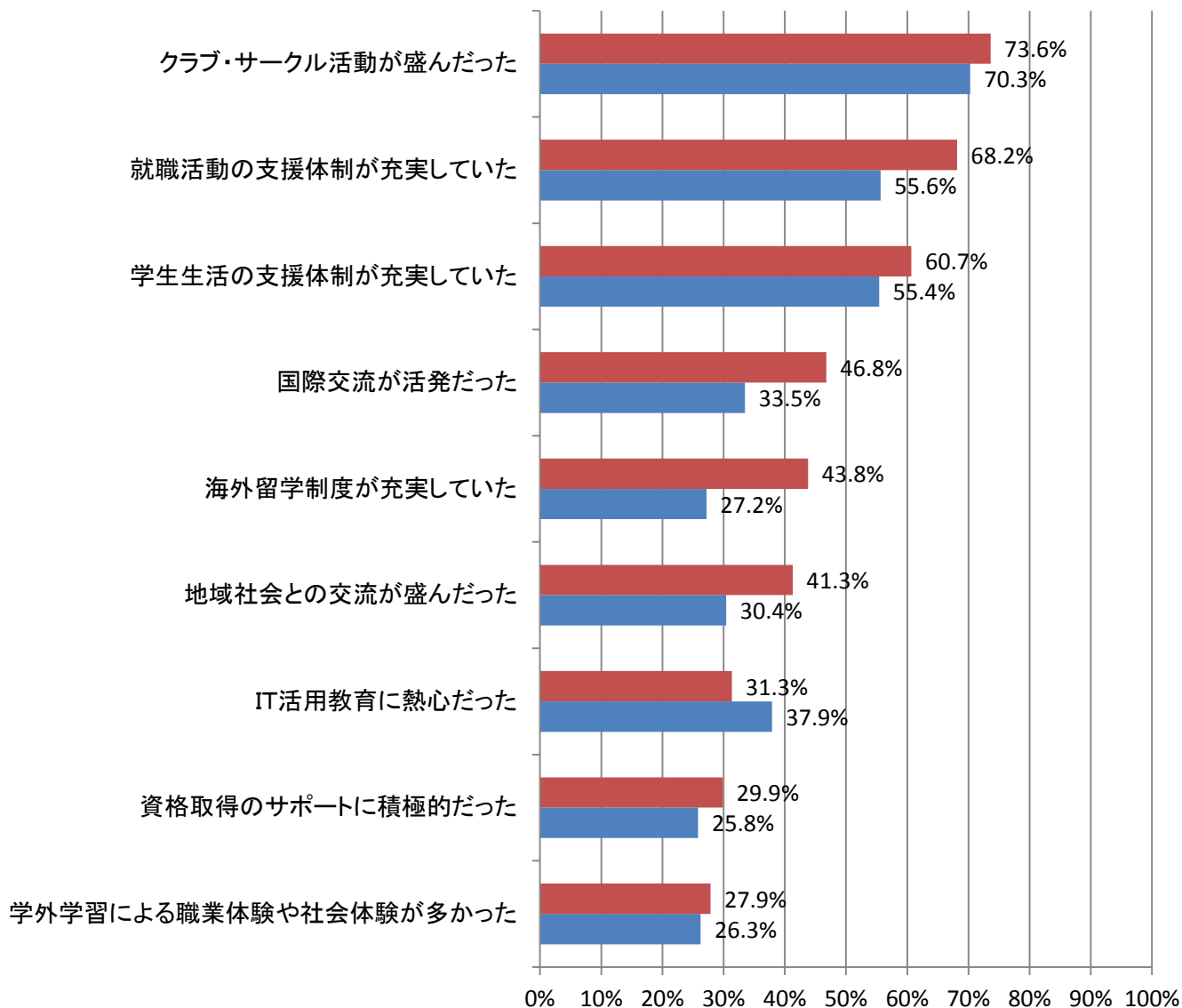


・平成24年度調査と平成29年度調査の「教育・研究に関する充実度」を比較すると、「教養教育が充実」「工夫され勉強しやすいカリキュラム」「外国語学習に積極的」で、平成24年度に比べ平成29年度の肯定回答率が高かった。「参加型・プロジェクト型の実践教育」「他学部の授業が選択」「教員との交流」「学術面での研究業績」は平成24年度の方が高かった。

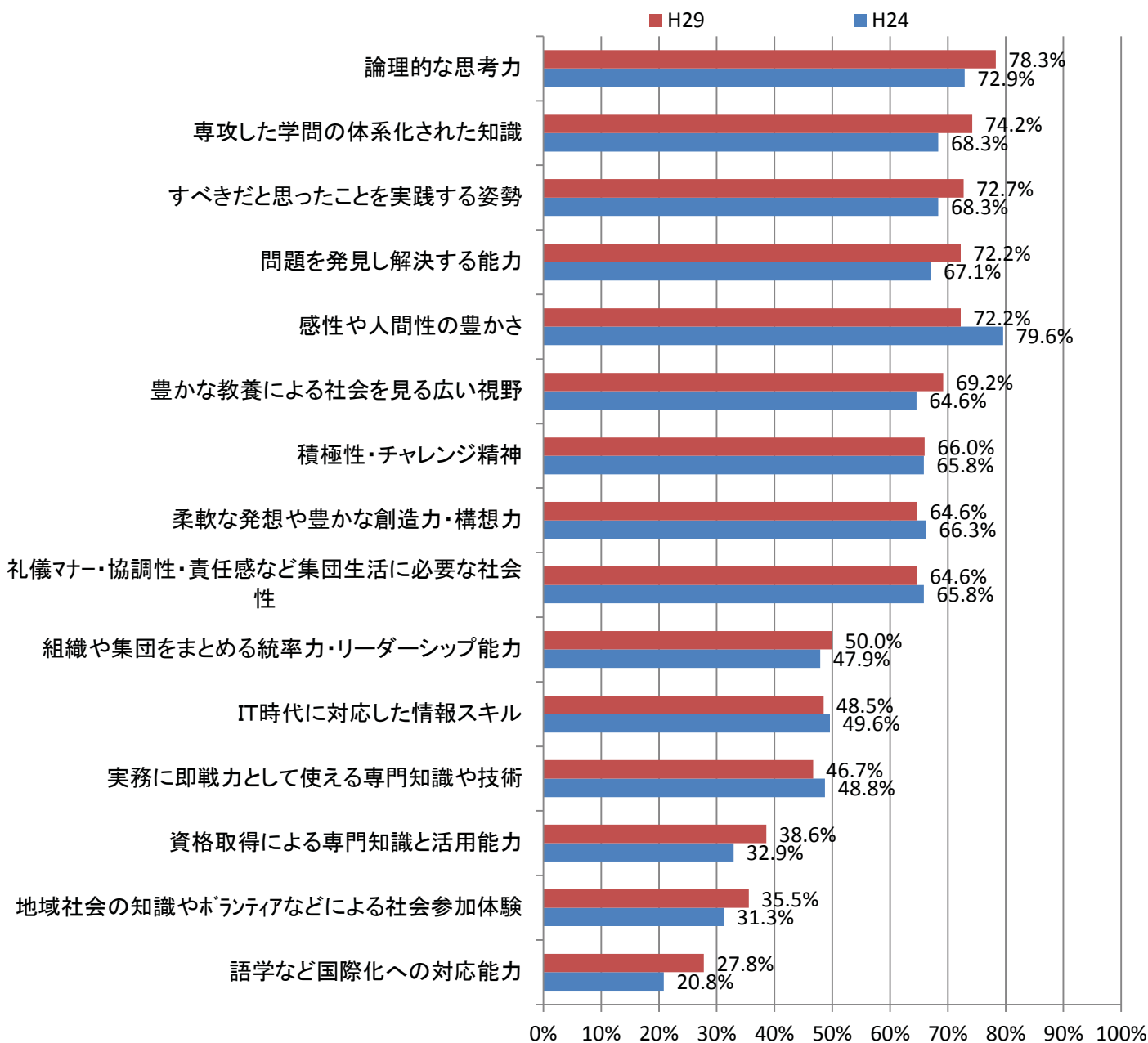


・平成24年度調査と平成29年度調査の「交流活動・支援体制に関する充実度」を比較すると、「IT活用教育に熱心」以外の項目は、平成29年度の方が高い肯定回答率だった。特に、「就職活動の支援体制が充実」「国際交流が活発」「海外留学制度が充実」「地域社会との交流が盛ん」では、平成24年度の数値から大きな伸びを示していた。

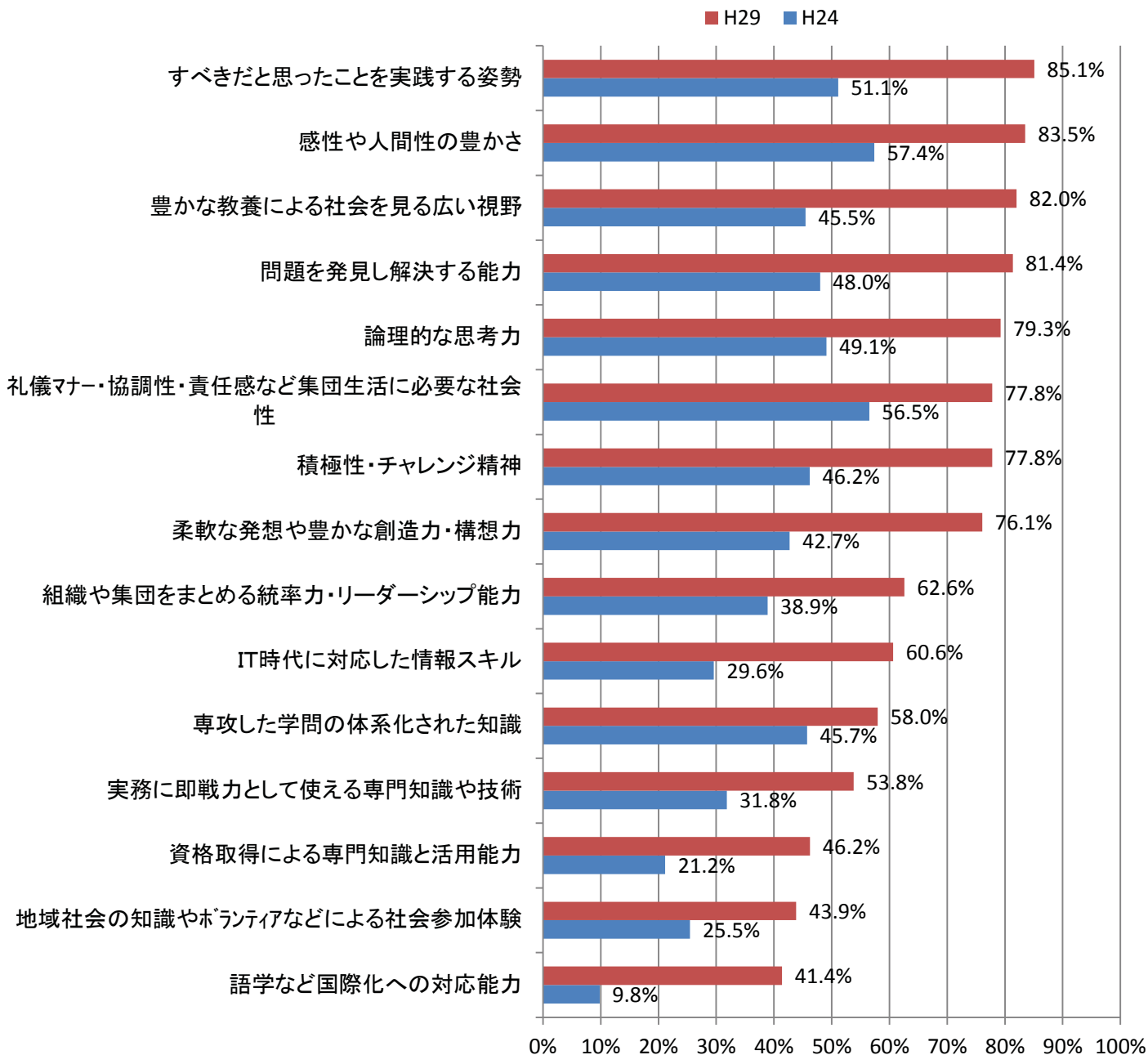
■ H29 ■ H24



・平成24年度調査と平成29年度調査の「大学での教育や学生生活を通じて習得した能力・技術・知識」を比較すると、「論理的思考力」「専攻した学問の体系化された知識」「すべきだと思ったことを実践する姿勢」「問題を発見し解決する能力」などで、平成29年度の方が平成24年度を上回る一方、「感性や人間性の豊かさ」では逆に低下していた。



・平成24年度調査と平成29年度調査の「社会に出てから役立った能力・技術・知識」を比較すると、全ての項目で平成29年度の肯定回答率が高かった。「豊かな教養による社会を見る広い視野」について、平成24年度では上位8番目の項目であったが、平成29年度では上位3番目となっていた。

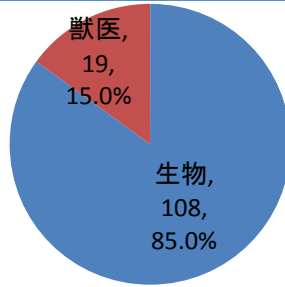


# 農学部

# 回答者の属性

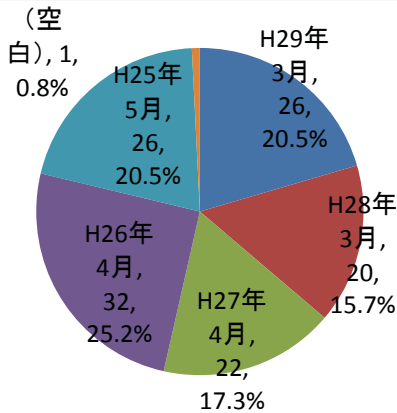
## 【学部・学科】

| 生物    | 獣医    | 計      |
|-------|-------|--------|
| 108   | 19    | 127    |
| 85.0% | 15.0% | 100.0% |



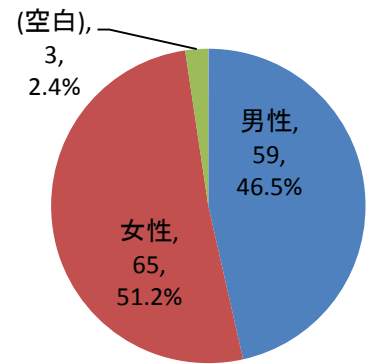
## 【学部・卒年】

| H29年<br>3月 | H28年<br>3月 | H27年<br>4月 | H26年<br>4月 | H25年<br>5月 | (空白) | 計      |
|------------|------------|------------|------------|------------|------|--------|
| 26         | 20         | 22         | 32         | 26         | 1    | 127    |
| 20.5%      | 15.7%      | 17.3%      | 25.2%      | 20.5%      | 0.8% | 100.0% |

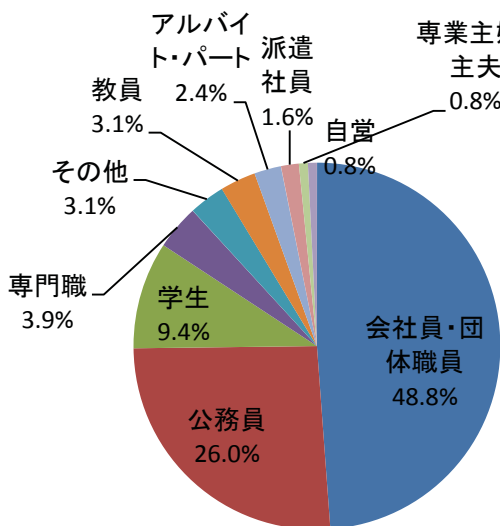


## 【学部・性別】

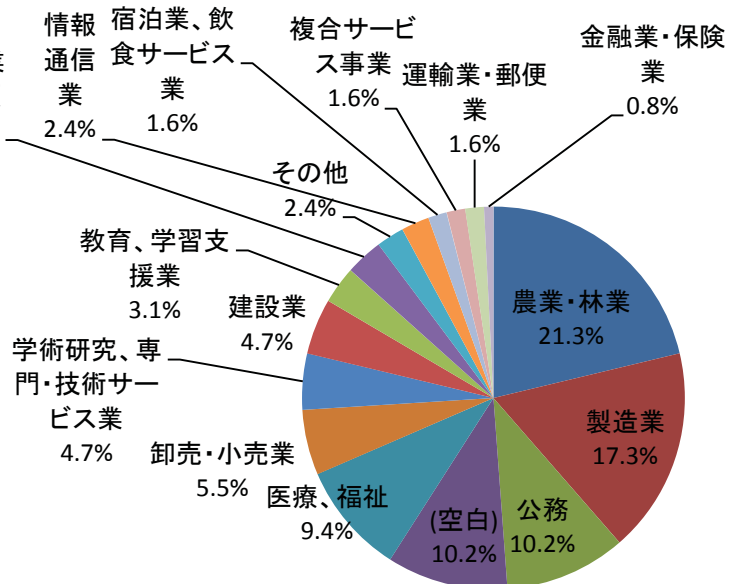
| 男性    | 女性    | (空白) | 計      |
|-------|-------|------|--------|
| 59    | 65    | 3    | 127    |
| 46.5% | 51.2% | 2.4% | 100.0% |



## 【学部・職業】



## 【学部・業種】

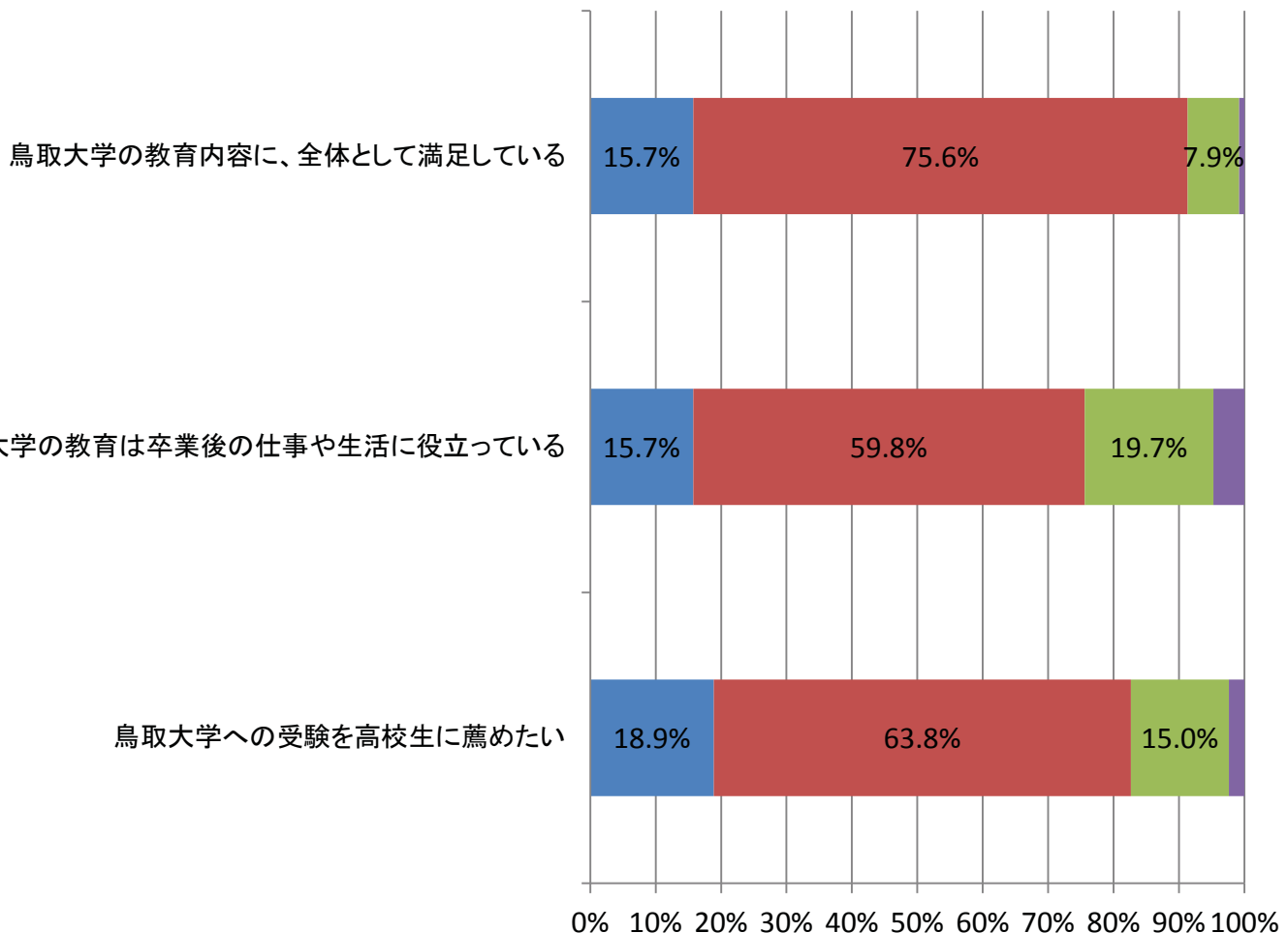


・「鳥取大学の教育内容に対する全体的な満足度」は、「非常にそう思う」15.7%、「ある程度そう思う」75.6%で、9割以上の卒業生が肯定回答をした。

・「鳥取大学の教育の卒業後の仕事や生活への役立ち度」は、「非常にそう思う」15.7%、「ある程度そう思う」59.8%で、7割以上の卒業生が役立っていると回答した。

・「鳥取大学への受験を高校生に薦めたい」は、「非常にそう思う」18.9%、「ある程度そう思う」63.8%で、8割以上の卒業生が推奨意欲を有する結果だった。

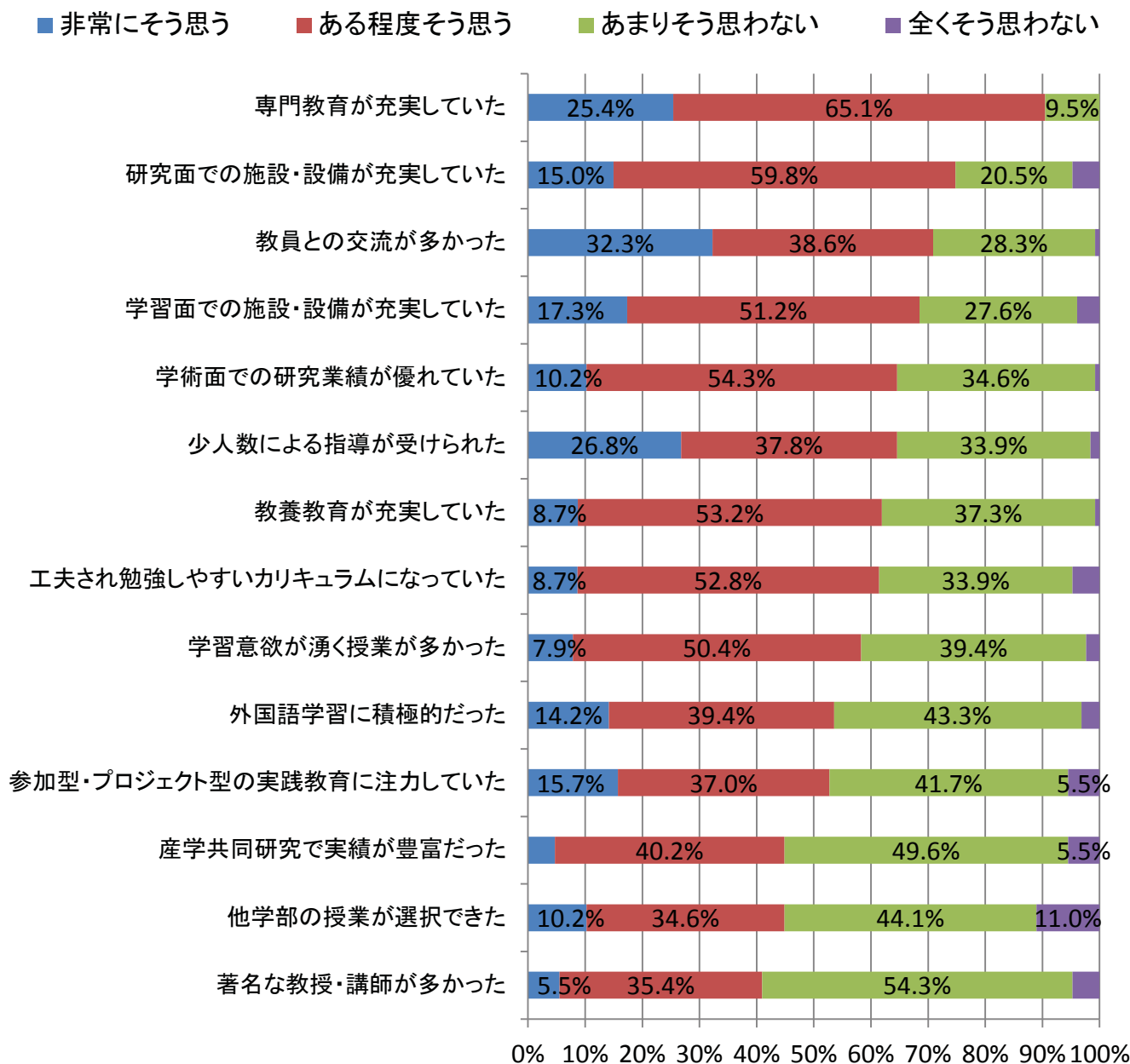
■ 非常にそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



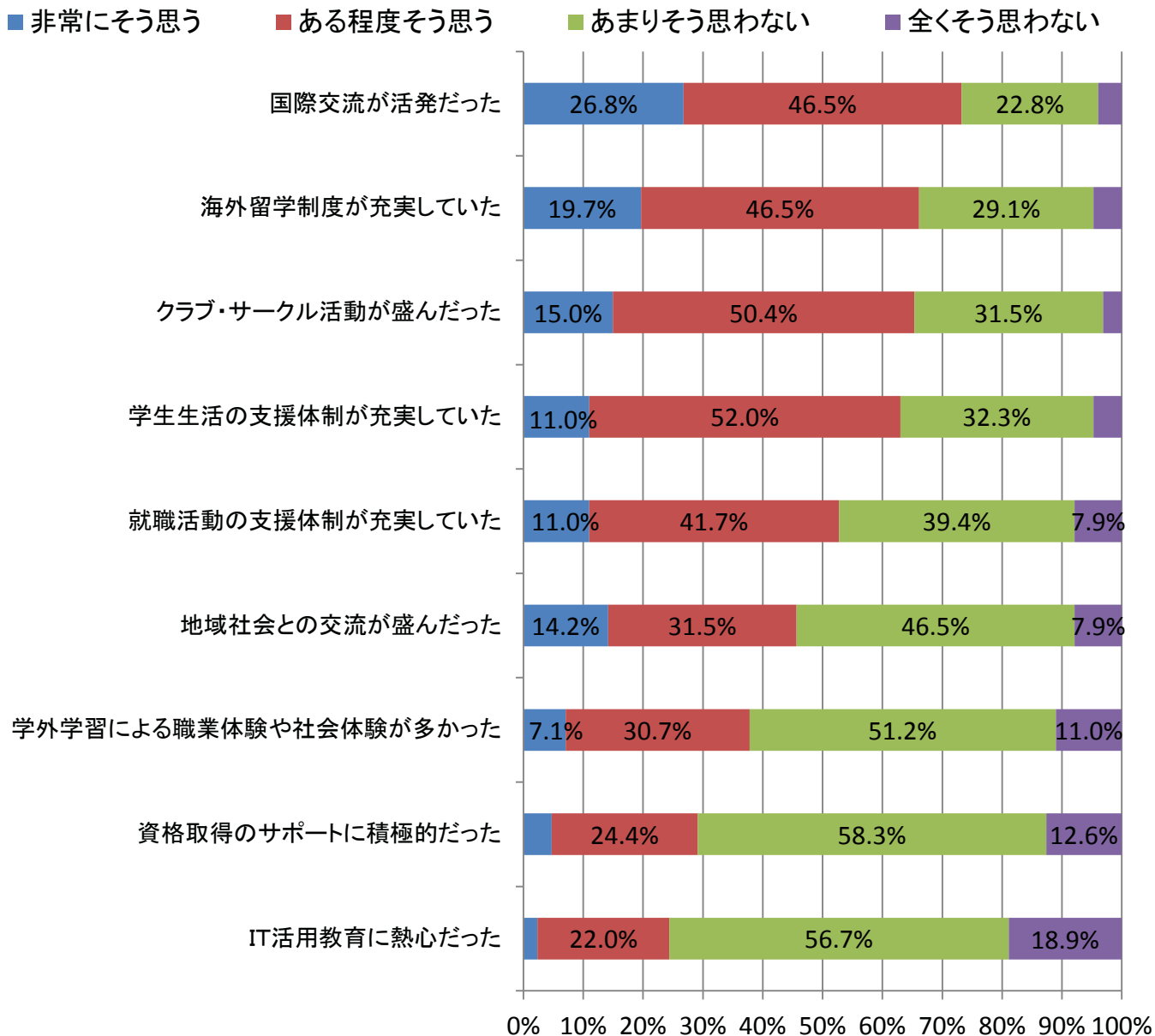


・「専門教育が充実」の「非常にそう思う」25.4%、「ある程度そう思う」65.1%で、9割以上の肯定回答率だった。

・「教員との交流」の「非常にそう思う」は32.3%、「少人数による指導」の「非常にそう思う」は26.8%であり、少人数での教員指導に対して、強い肯定をした者が多かった。

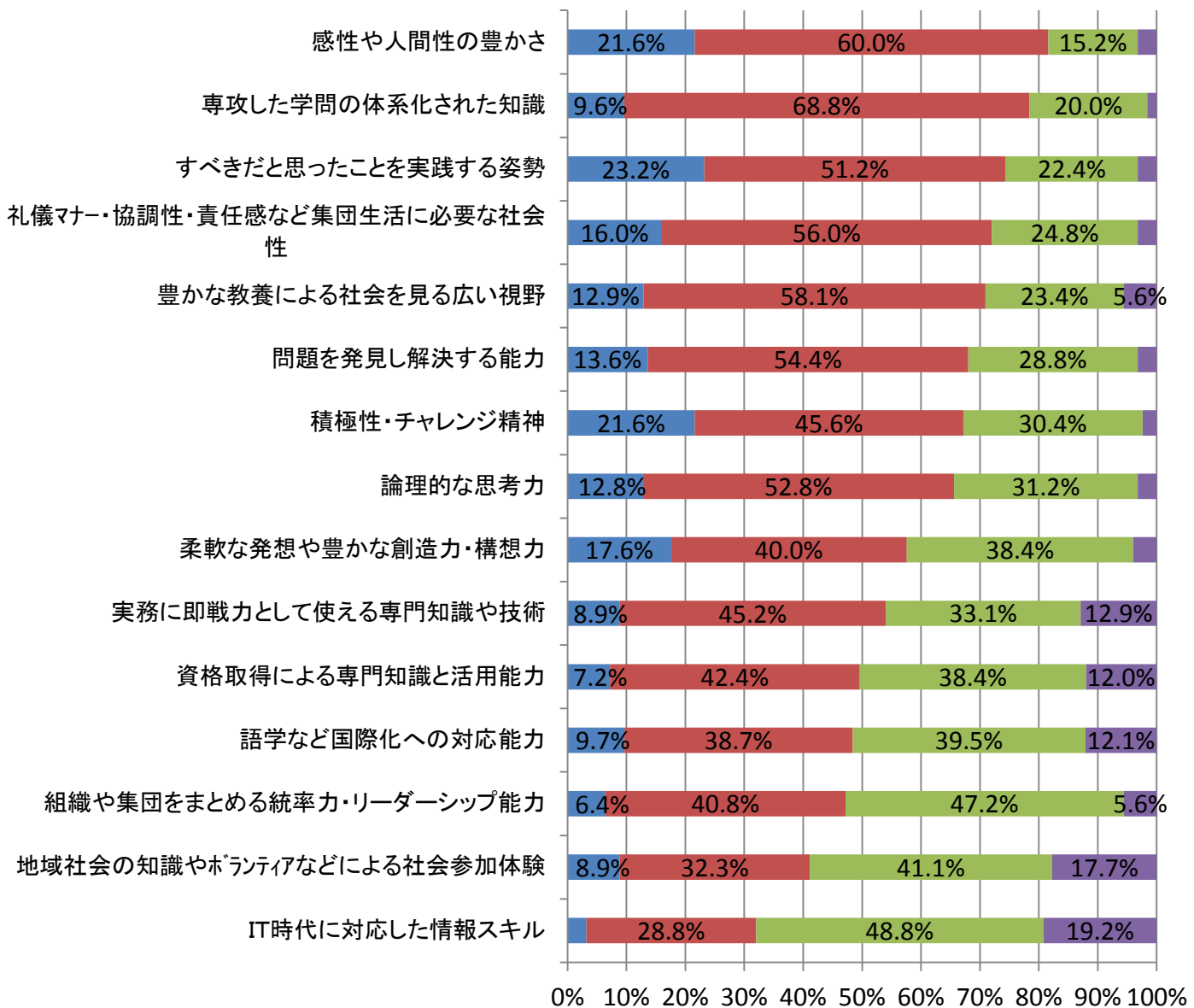


・「国際的な交流が活発」は「非常にそう思う」26.8%、「ある程度そう思う」46.5%で、7割以上が肯定回答した。  
 「海外留学制度が充実」「クラブ・サークル活動が盛ん」「学生生活の支援体制が充実」は6割台の肯定回答率だった。  
 ・「資格取得のサポートに積極的」「IT活用教育に熱心」は、3割未満の肯定回答率だった。



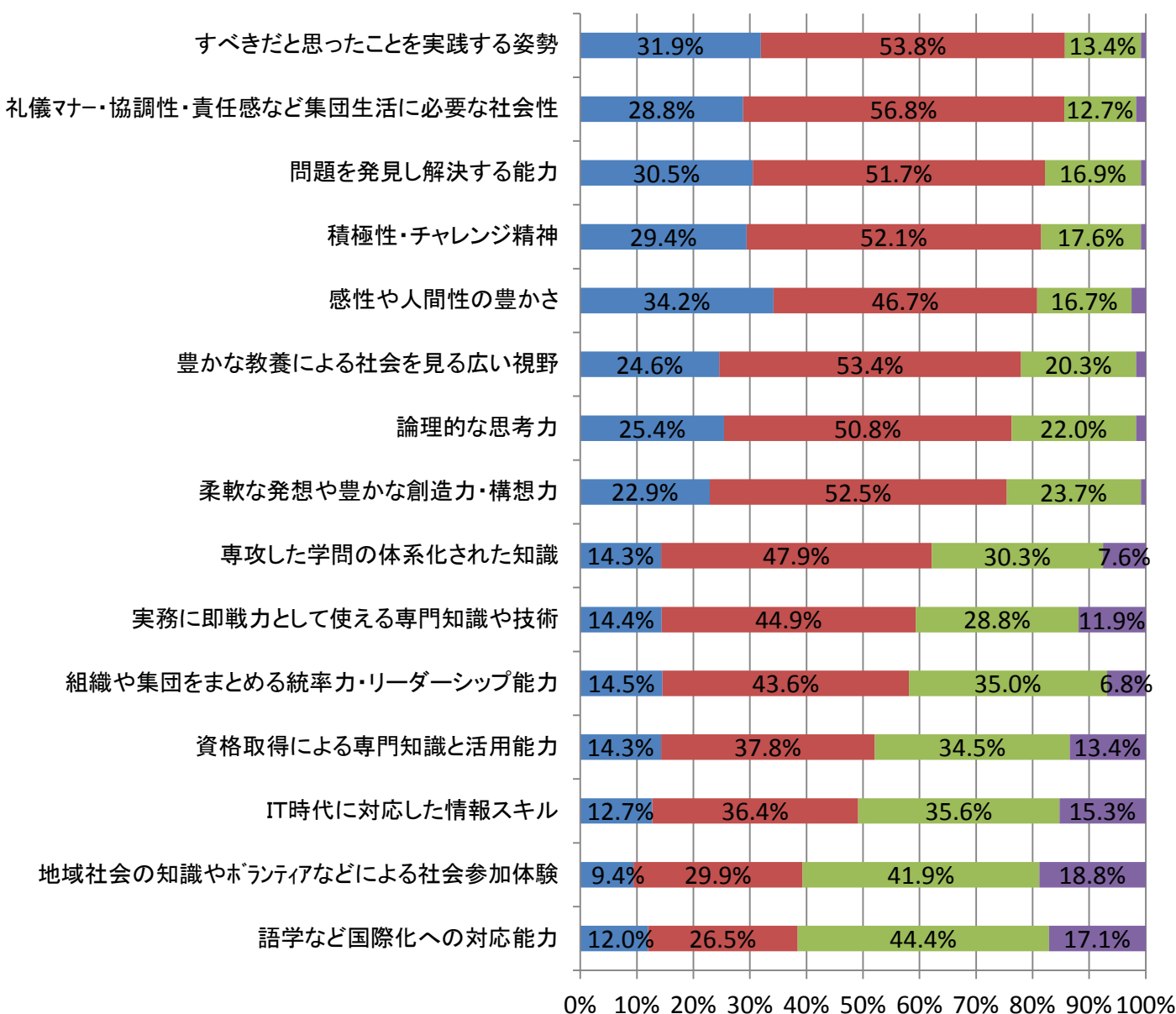
- ・大学での教育・学生生活を通じて、「感性や人間性の豊かさ」(81.6%)が最も高い習得度だった。
- ・「専攻した学問の体系化された知識」(78.4%)、「すべきだと思ったことを実践する姿勢」(74.4%)、「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」(72.0%)、「豊かな教養による社会を見る広い視野」(71.0%)は、7割台の習得度だった。

■ 大変習得できた ■ ある程度習得できた ■ あまり習得できなかった ■ 全く習得できなかった

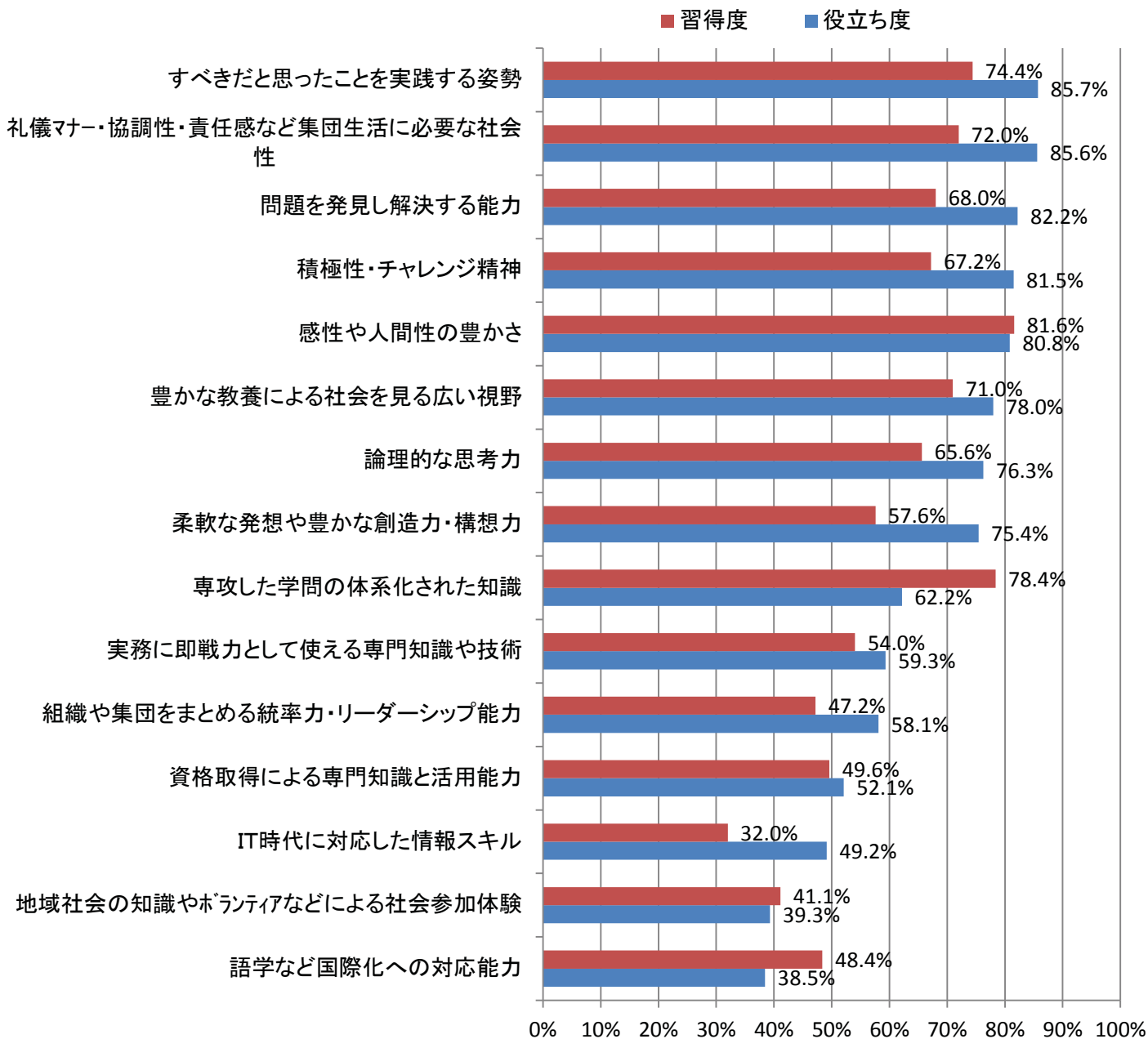


- ・「すべきだと思ったことを実践する姿勢」(85.7%)、「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」(85.6%)、「問題を発見し解決する能力」(82.2%)、「積極性・チャレンジ精神」(71.5%)、「感性や人間性の豊かさ」(80.9%)が、8割以上の役立ち度だった。
- ・「地域社会の知識やボランティアなどによる社会参加体験」「語学など国際化への対応能力」は4割未満の役立ち度だった。

■ 大変役立った    ■ ある程度役立った    ■ あまり役に立たなかった    ■ 全く役に立たなかった

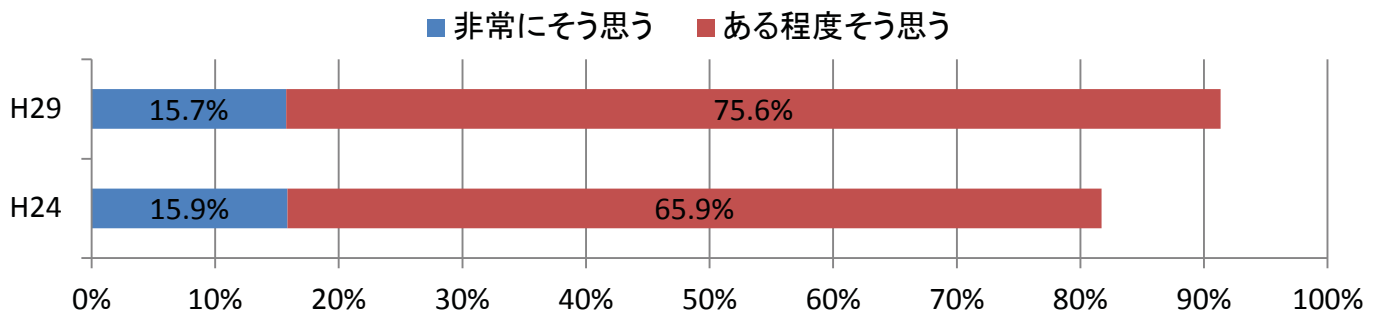


大学での習得度に対して、社会での役立ち度の方が値が大きいものが、15項目中11項目だった。習得度の方が大きい値のものは、「専攻した学問の体系化された知識」「語学など国際化への対応能力」「感性や人間性の豊かさ」「地域社会の知識やボランティアなどによる社会参加経験」の4項目だった。

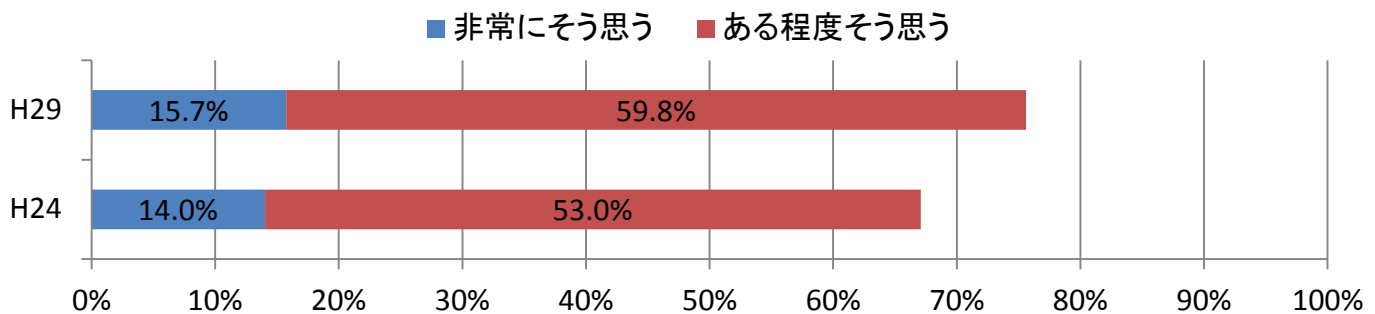


・平成24年度調査と平成29年度調査の「総合的な満足度」を比較すると、「全体として満足」「卒業後の仕事や生活に役立っている」「受験を高校生に薦めたい」の3項目ともに、平成29年度結果の方が高い肯定回答となっていた。特に「全体として満足」は約10%高い結果だった。

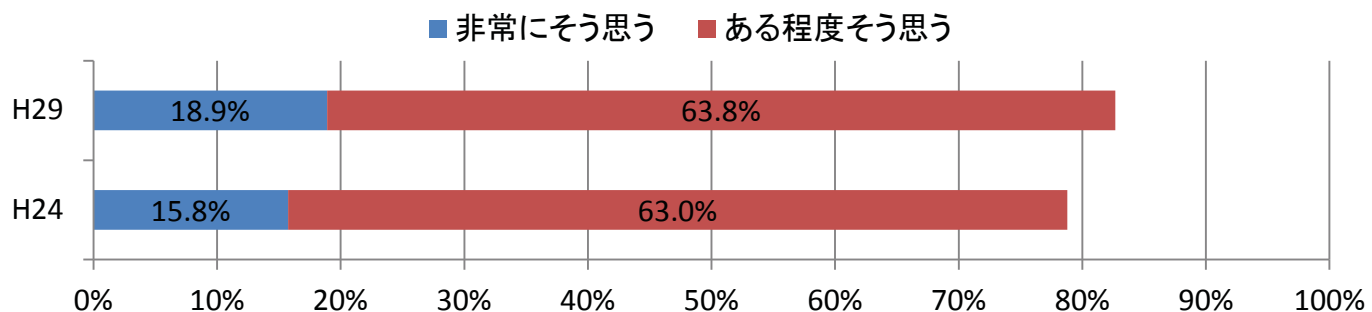
### a. 鳥取大学の教育内容に、全体として満足している



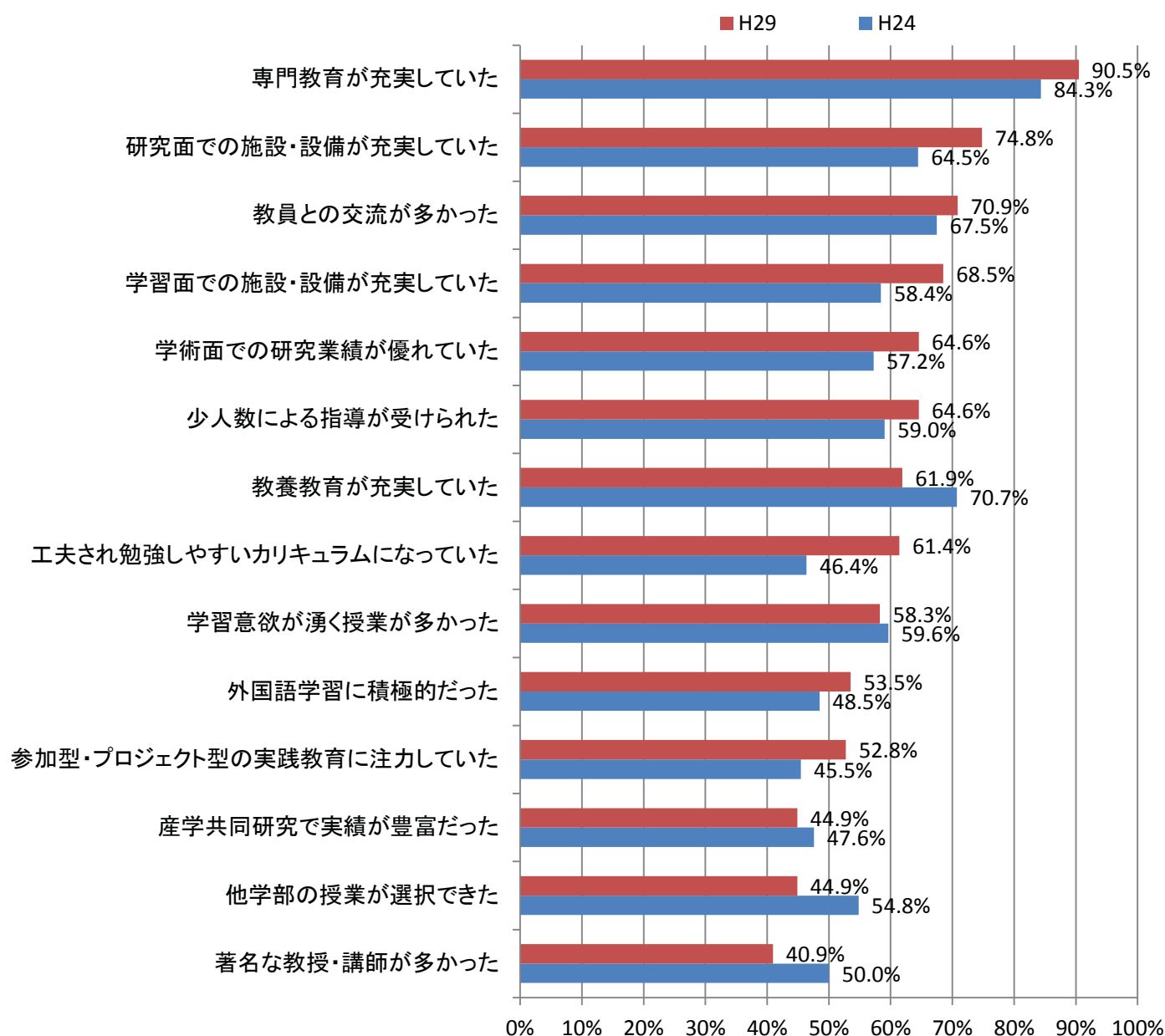
### b. 鳥取大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている



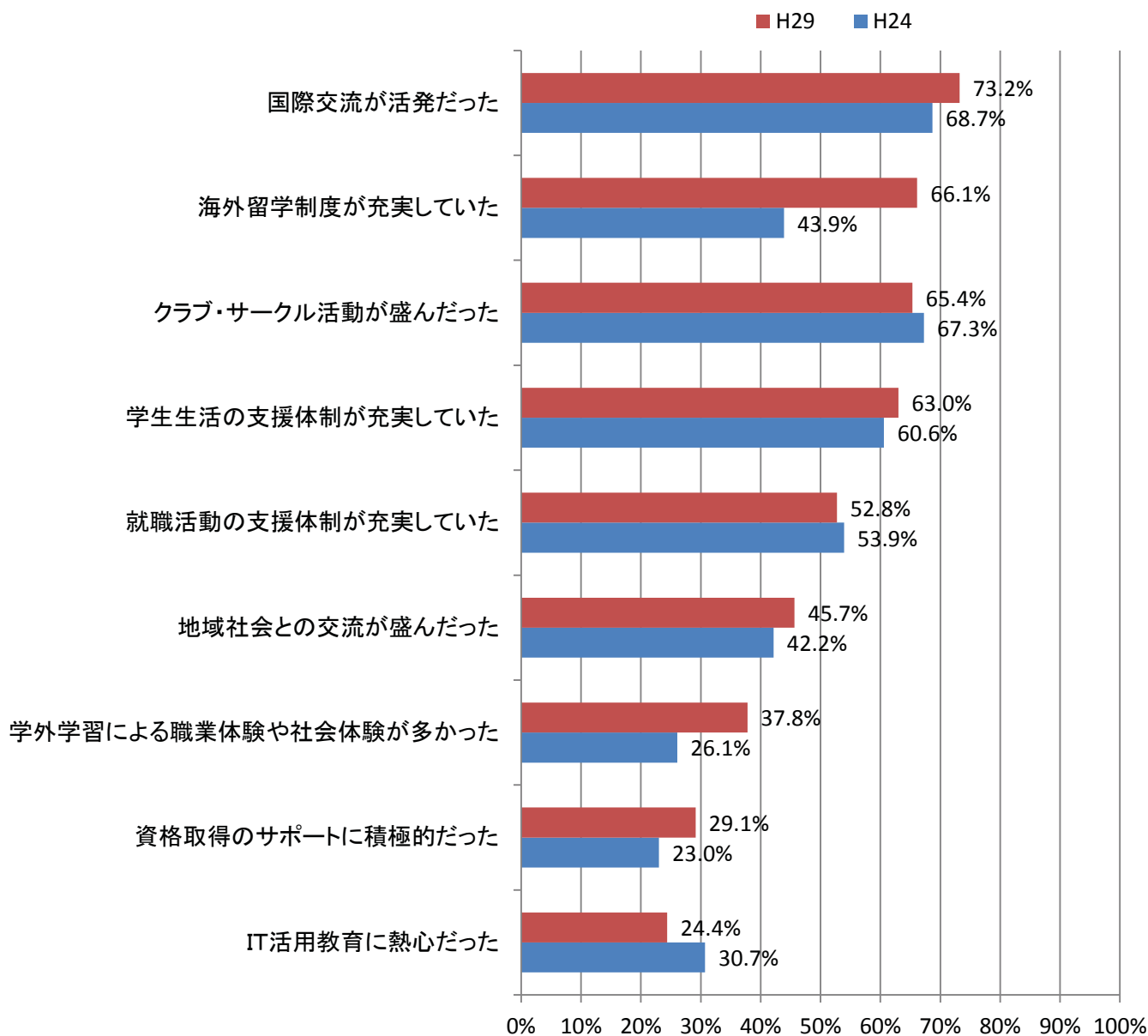
### c. 鳥取大学への受験を高校生に薦めたい



・平成24年度調査と平成29年度調査の「教育と研究に関する充実度」を比較すると、「工夫され勉強しやすいカリキュラム」をはじめ「研究面での施設・設備が充実」「学習面での施設・設備が充実」等の項目で、平成29年度の方が高い結果だった。一方、「教養教育が充実」「他学部の授業が選択」「著名な教授・講師」「産学共同研究で実績が豊富」「学習意欲が湧く授業が多い」の5項目では、平成24年度の方が高い結果だった。

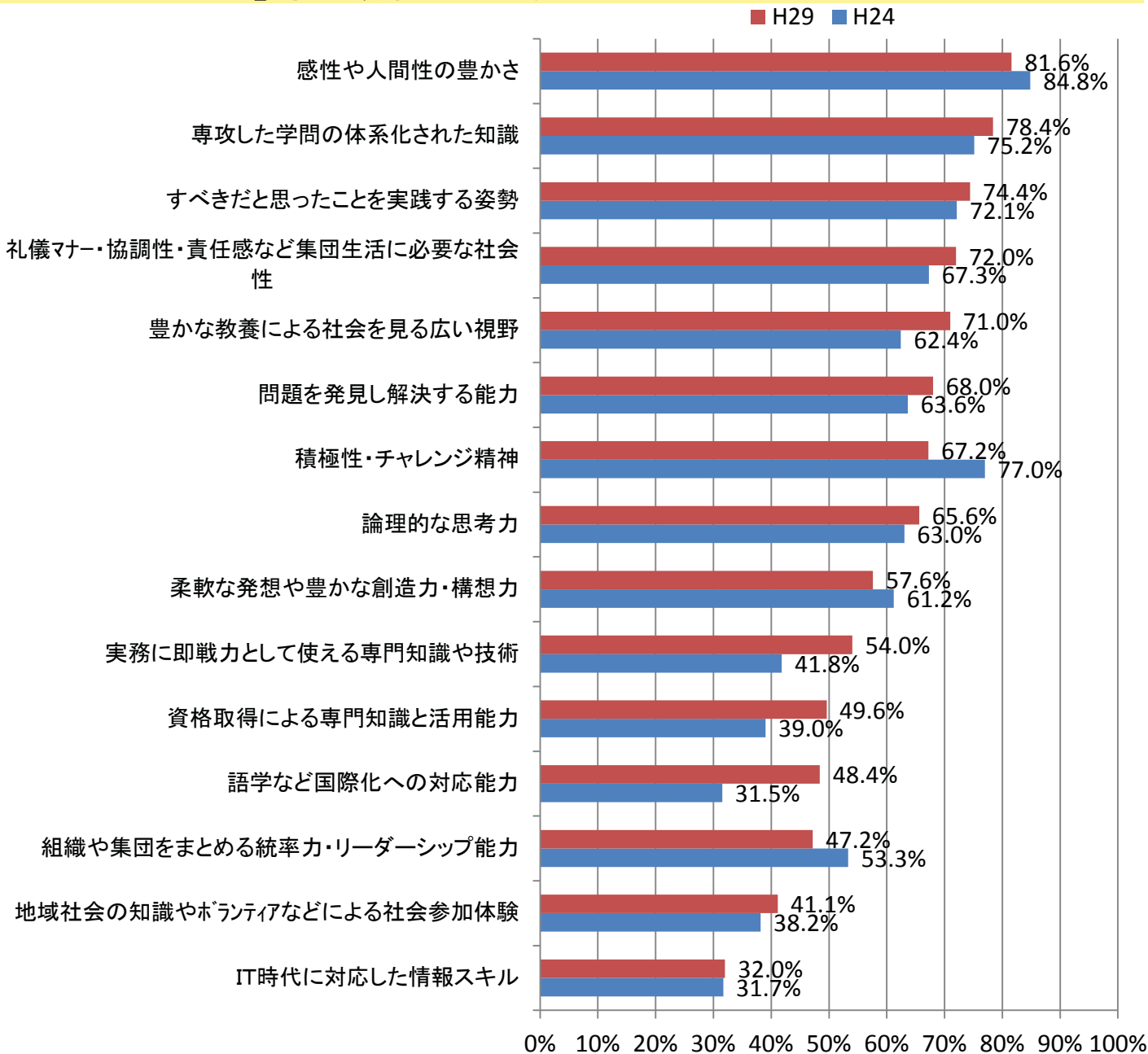


・平成24年度調査と平成29年度調査の「交流活動・支援体制に関する充実度」を比較すると、「海外留学制度が充実」では22.2%、「学外学習による職業体験や社会体験が多かった」では11.7%、平成29年度の方が高い結果となっていた。「IT活用教育に熱心」のみ、平成24年度の方が高い結果だった。

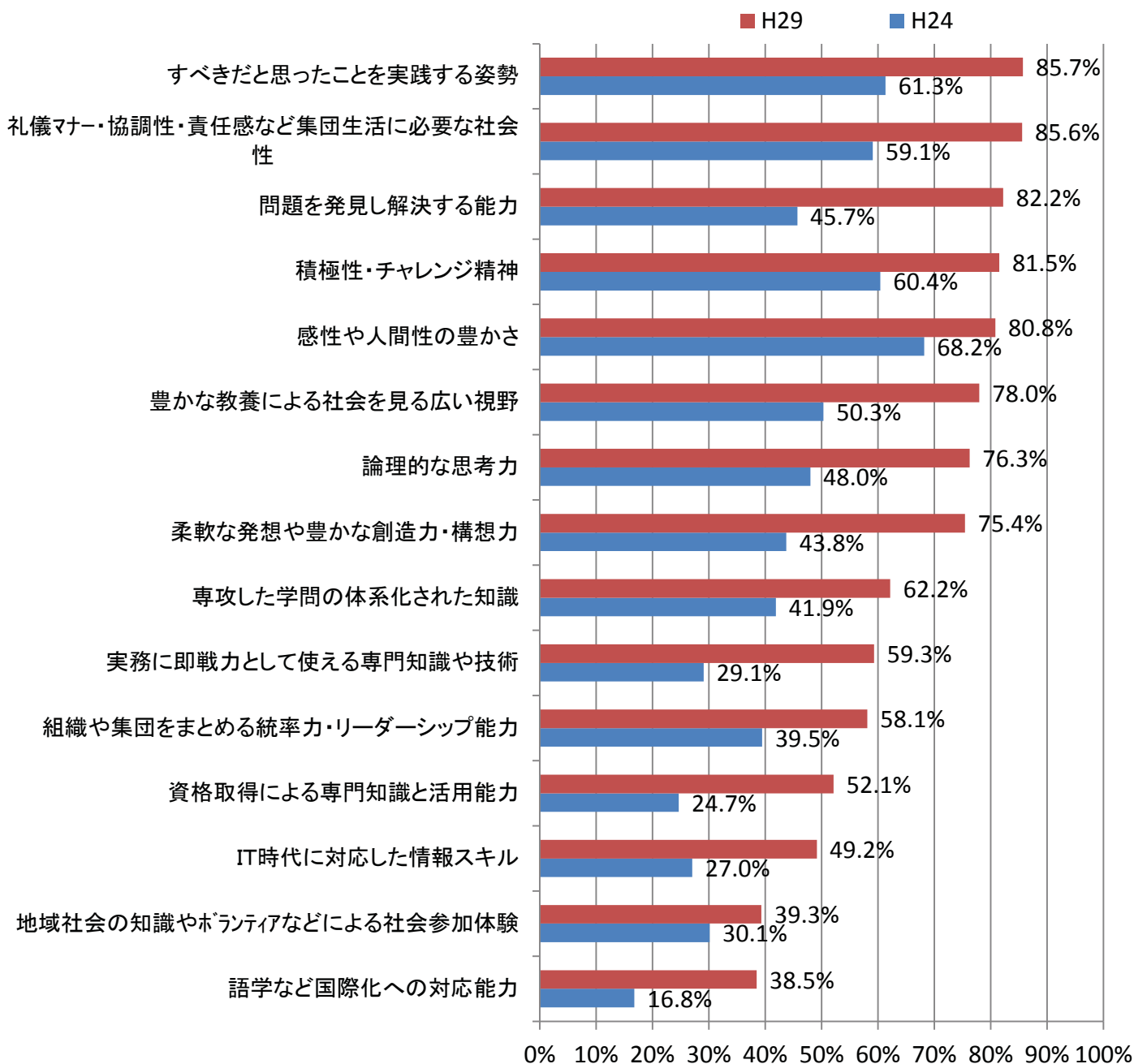




・平成24年度調査と平成29年度調査の「大学での教育や学生生活を通じて修得した能力・技術・知識」を比較すると、平成24年度に比べ値が上下しているものがあった。上がっているものは「語学など国際化への対応能力」「豊かな教養による社会を見る広い視野」「実務に即戦力として使える専門知識や技術」等があった。下がっているものは、「積極性・チャレンジ精神」「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ」等で顕著だった。



平成24年度調査と平成29年度調査の「社会に出てから役立った能力・技術・知識」を比較すると、全ての項目で平成29年度の肯定回答率が高かった。「問題を発見し解決する能力」は、平成24年度では上位7番目の項目であったが、平成29年度では上位3番目となっていた。



# 第Ⅱ部

## 大学院修了生に対する 調査結果

## 1. 目的

大学院修了生を対象として、本学が実施した教育の効果ならびに学生が身に付けた学習の成果等を把握する。

## 2. 対象

平成25年3月～平成29年3月修了者(過去5か年)

## 3. 実施・回収時期

平成30年3月下旬に対象者に送付、5月末迄回収

## 4. 実施方法

修了生の保証人へ調査票を送付し回答依頼、郵便局の料金受取人払いによる回収。

## 5. サンプル件数

1,534件送付、196件回収(回収率12.8%)

## 6. アンケート項目

Q1:基本属性(性別/修了時期/修了した研究科専攻)

Q2:現在の職種・業種

Q3:鳥取大学大学院の教育や研究の充実度

Q4:鳥取大学大学院に対する総合的な満足度

Q5:鳥取大学大学院での能力・技術・知識等の習得度

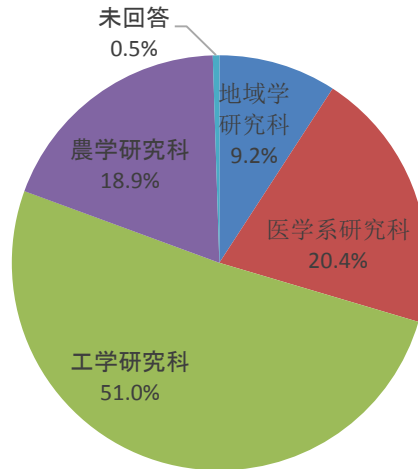
Q6:鳥取大学大学院での学修成果の役立ち度

Q7:社会に出てから役立った具体的な事例(自由記述)

Q8:研究指導の改善に対する意見・要望等(自由記述)

## 【研究科別・全体】

| 地域学研究科 | 医学系研究科 | 工学研究科 | 農学研究科 | 未回答 | 計   |
|--------|--------|-------|-------|-----|-----|
| 18     | 40     | 100   | 37    | 1   | 196 |



## 【研究科別×専攻別】

| 地 | 地域創造専攻 | 地域教育専攻 | 発達科学分野専攻 | 特別支援教育 | 学習科学専攻 | 未回答  | 計      |
|---|--------|--------|----------|--------|--------|------|--------|
|   | 5      | 8      | 1        | 1      | 2      | 1    | 18     |
|   | 27.8%  | 44.4%  | 5.6%     | 5.6%   | 11.1%  | 5.6% | 100.0% |

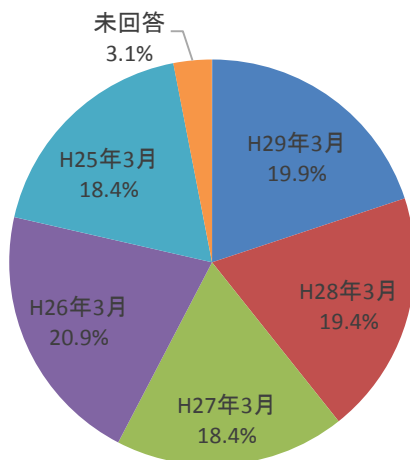
| 医 | 機能再生医学 | 検査専攻 | 臨床心理学 | 保健学専攻 | 生命科学専攻 | 病態検査学専攻 | 計      |
|---|--------|------|-------|-------|--------|---------|--------|
|   | 4      | 1    | 19    | 12    | 3      | 1       | 40     |
|   | 10.0%  | 2.5% | 47.5% | 30.0% | 7.5%   | 2.5%    | 100.0% |

| 工 | 情報エレクトロニクス | 応用化学専攻 | 化学・生物応用工学 | 社会基盤工学専攻 | 電気電子情報システム | 機械宇宙工学 | 知能情報工学 | 未回答  | 計      |
|---|------------|--------|-----------|----------|------------|--------|--------|------|--------|
|   | 27         | 1      | 16        | 30       | 1          | 20     | 1      | 4    | 100    |
|   | 27.0%      | 1.0%   | 16.0%     | 30.0%    | 1.0%       | 20.0%  | 1.0%   | 4.0% | 100.0% |

| 農 | 森林生態系管理学 | 生物生産 | 生命資源科学 | フィールド生産科学 | 国際乾燥地科学 | 水利用専攻 | 未回答   | 計      |
|---|----------|------|--------|-----------|---------|-------|-------|--------|
|   | 1        | 1    | 11     | 9         | 10      | 1     | 4     | 37     |
|   | 2.7%     | 2.7% | 29.7%  | 24.3%     | 27.0%   | 2.7%  | 10.8% | 100.0% |

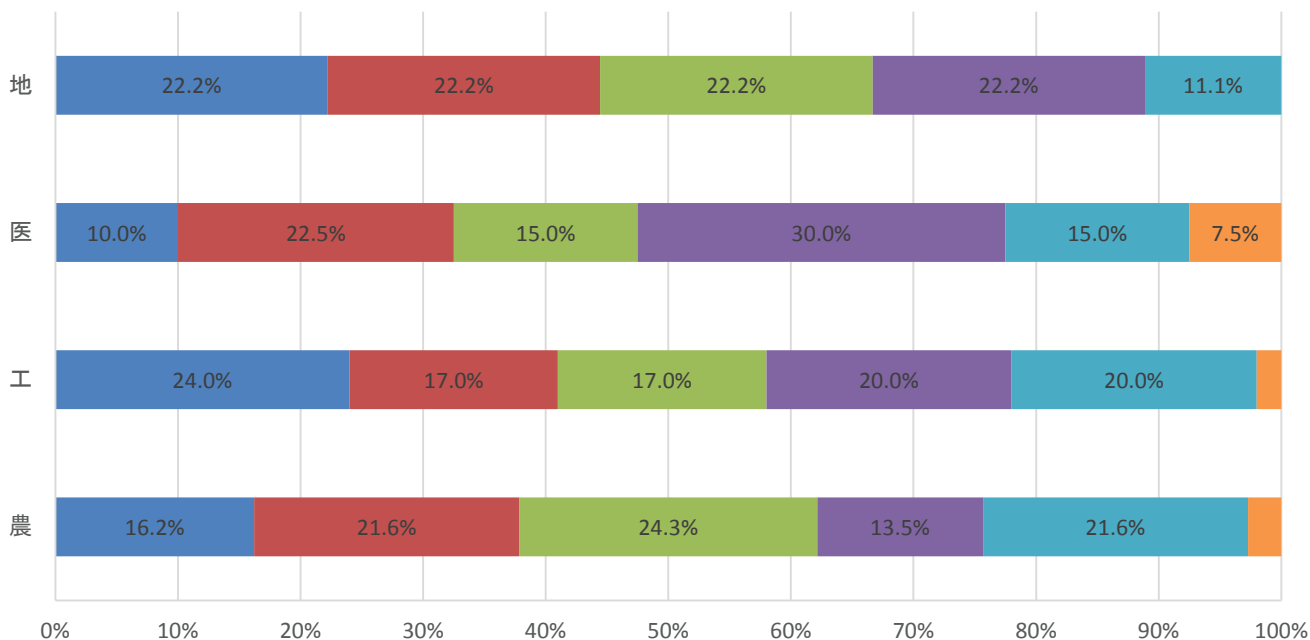
## 【修了年別・全体】

| H29年3月 | H28年3月 | H27年3月 | H26年3月 | H25年3月 | 未回答 | 計   |
|--------|--------|--------|--------|--------|-----|-----|
| 39     | 38     | 36     | 41     | 36     | 6   | 196 |



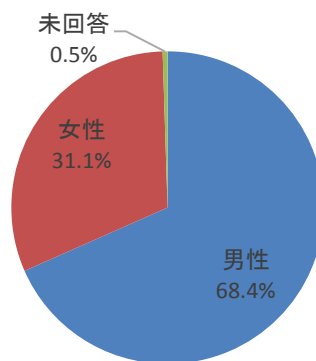
## 【修了年別 × 研究科別】

■ H29年3月 ■ H28年3月 ■ H27年3月 ■ H26年3月 ■ H25年3月 ■ 未回答

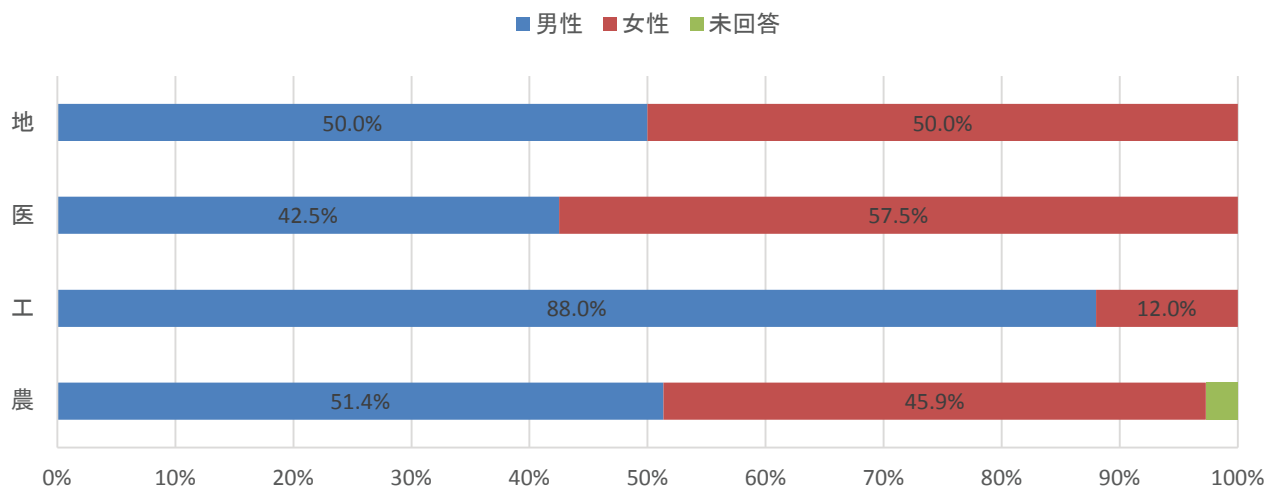


## 【性別・全体】

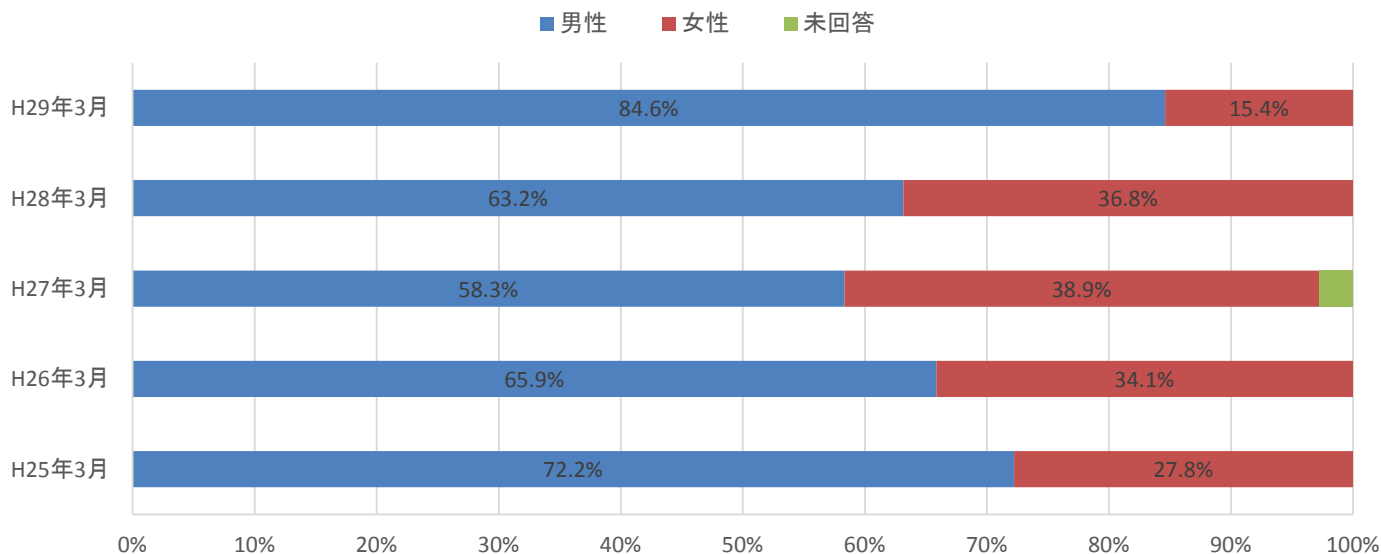
| 男性  | 女性 | 未回答 | 計   |
|-----|----|-----|-----|
| 134 | 61 | 1   | 196 |



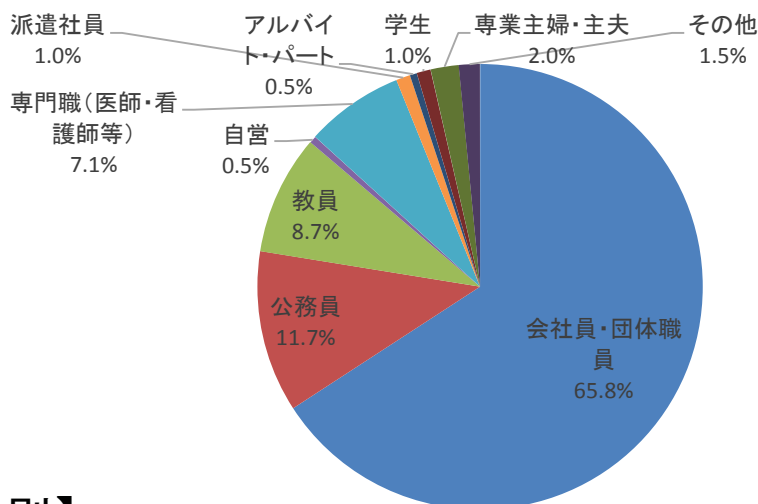
## 【性別×研究科別】



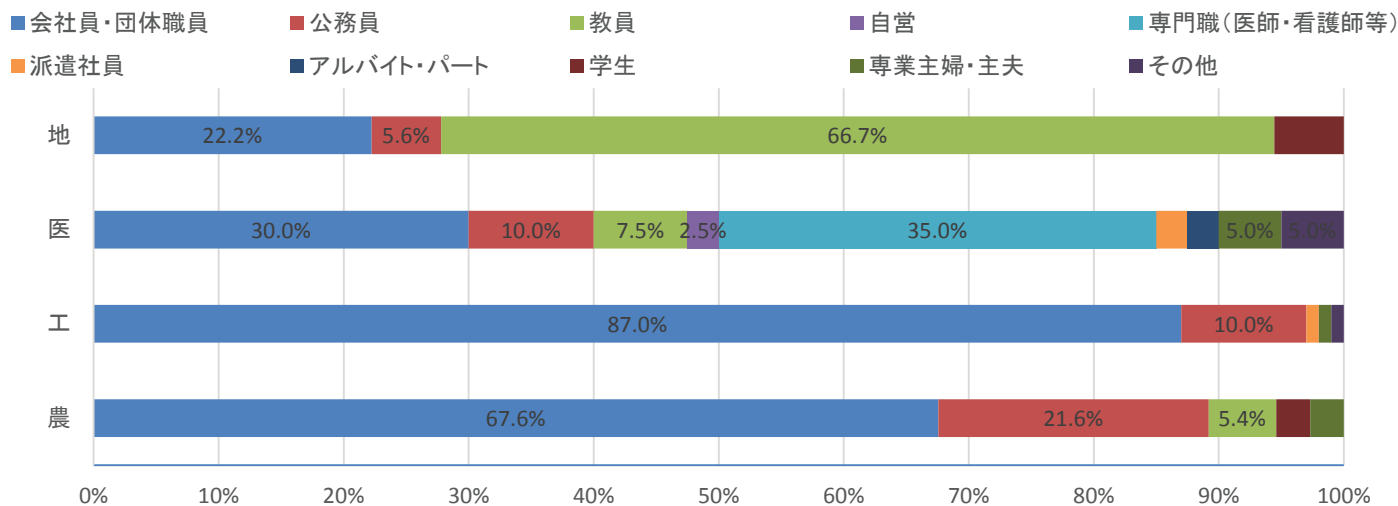
## 【性別×修了年別】



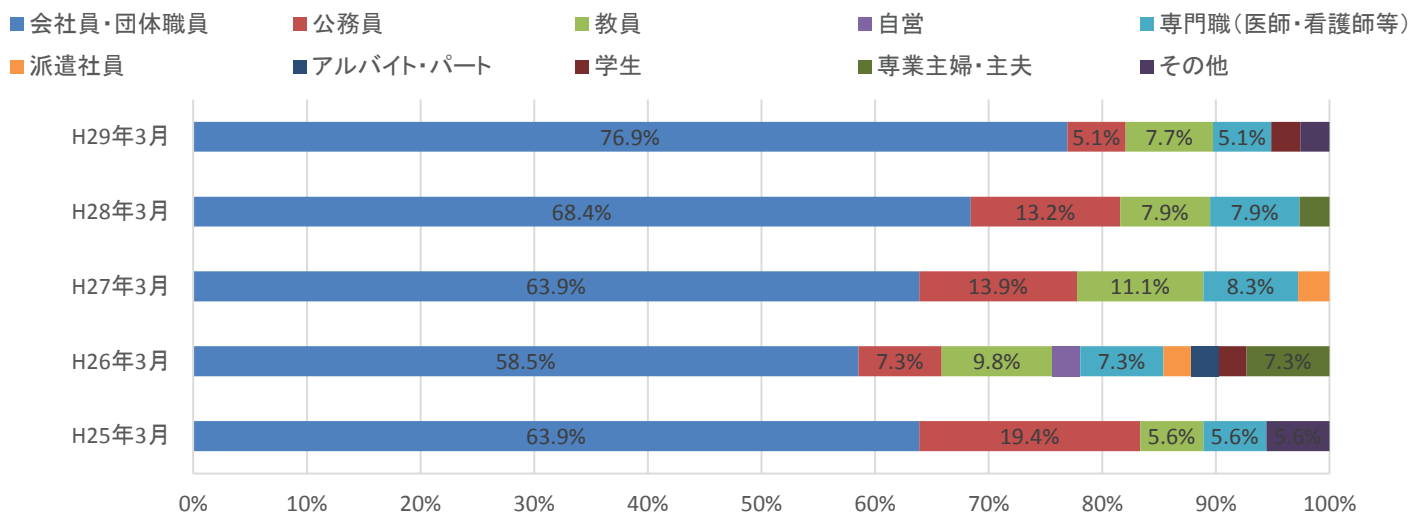
## 【現在の職業・全体】



## 【現在の職業×研究科別】

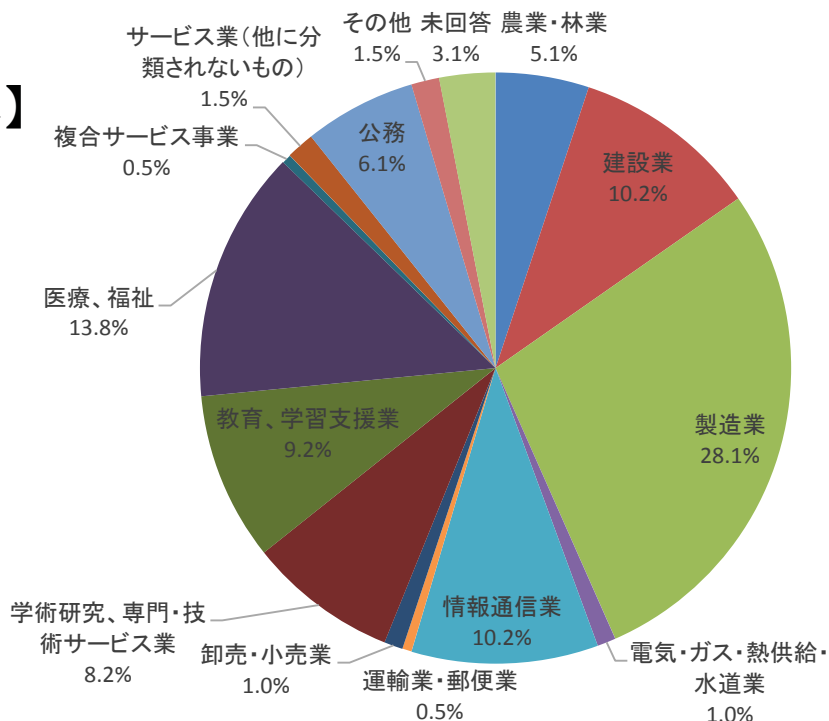


## 【現在の職業×修了年別】

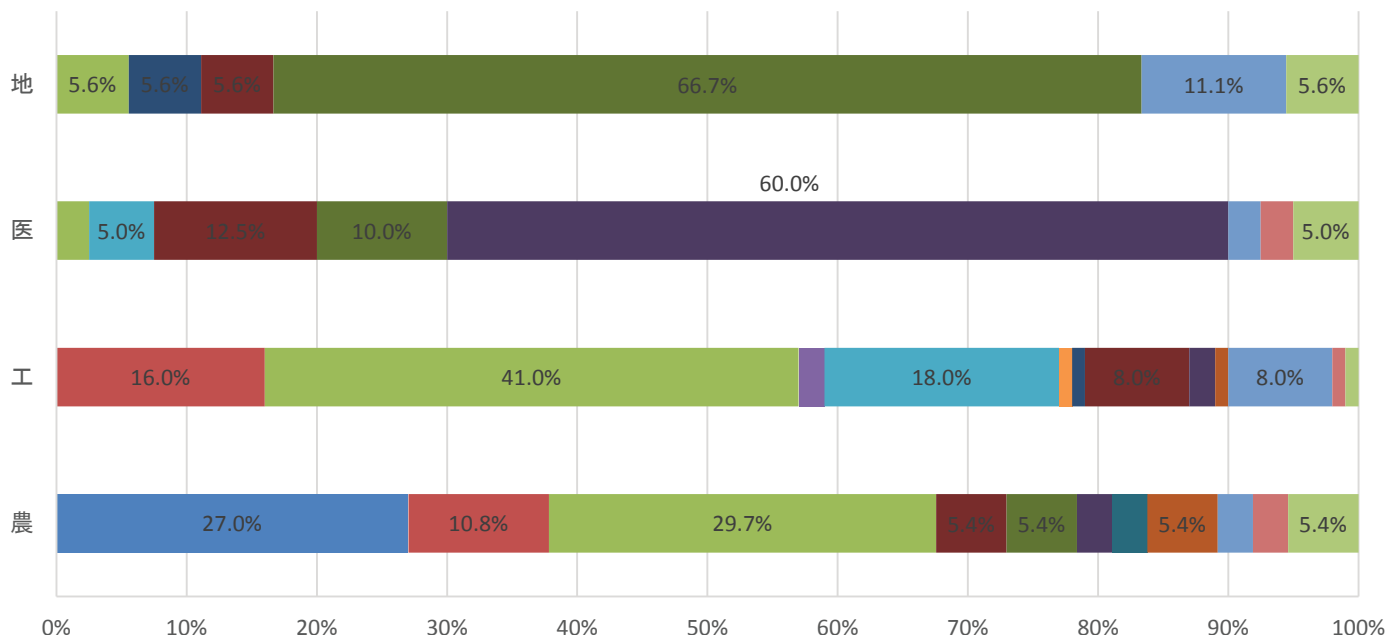
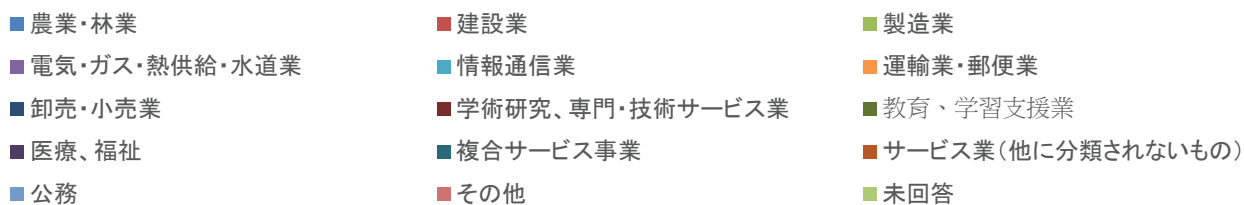




## 【現在の業種・全体】

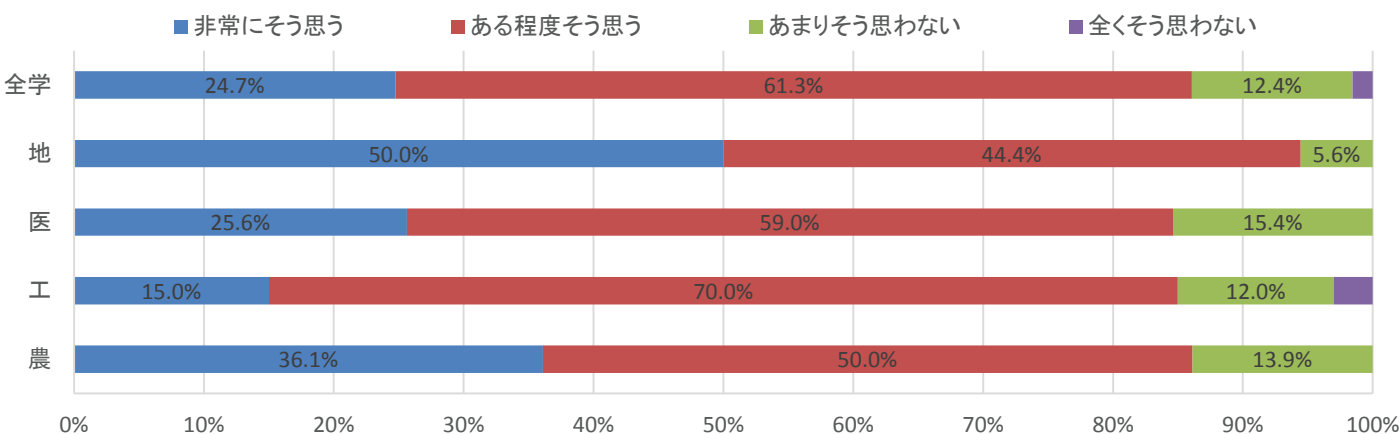


## 【現在の業種×研究科別】

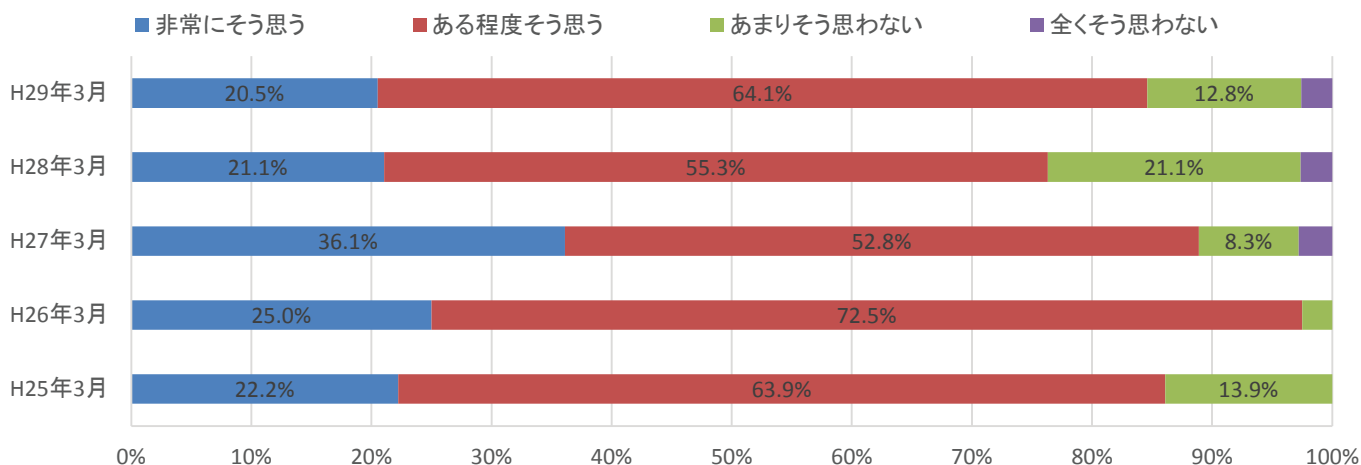


・「大学院の教育内容・研究指導に対する全体的な満足度」は、全学で86.1%が肯定回答（「非常にそう思う」+「ある程度そう思う」、以下本調査結果において同じ）した。研究科別では地域学研究科が94.4%で最も多く、農学研究科は86.1%、工学研究科は85.0%、医学系研究科は84.6%だった。  
特に地域学研究科は「非常にそう思う」の回答率が5割に達した。  
・修了年別では、H26年3月が最も多く97.5%、H28年3月が最も少ない76.3%だった。

### a. 大学院の教育内容・研究指導に、全体として満足している 【全学・研究科別】



### 【修了年別】

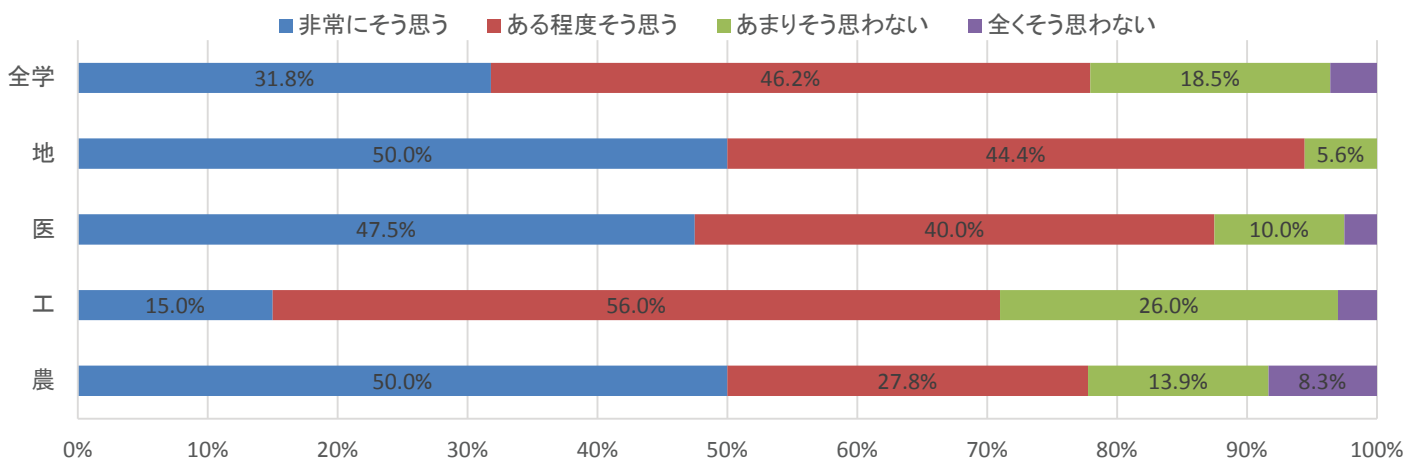


・「大学院の教育・研究の卒業後の仕事や生活への役立ち度」は全学で77.9%が肯定回答した。研究科別では地域学研究科が94.4%で最も多く、続いて多い順に医学系研究科87.5%、農学研究科77.8%、工学研究科71.0%だった。特に「非常にそう思う」の回答率は、地域学研究科(50.0%)、農学研究科(50.0%)、医学系研究科(47.5%)で5割近かった。

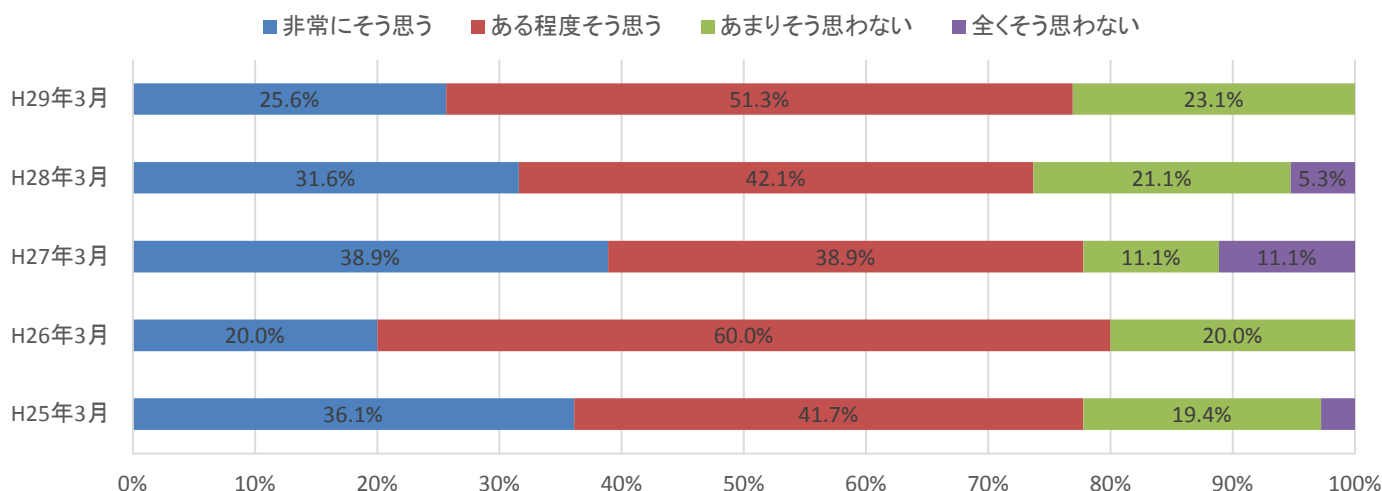
・修了年別では大きな変化はなくH26年3月が最も多い80.0%、H28年3月が最も少ない73.7%だった。

## b. 大学院の教育・研究は卒業後の仕事や生活に役立っている

### 【全学・研究科別】



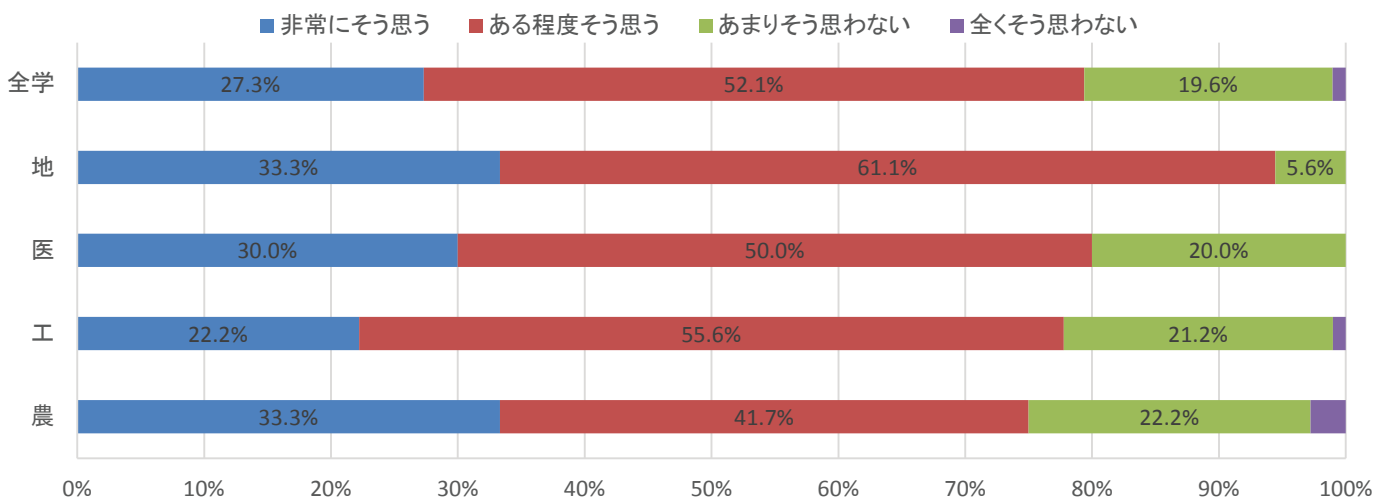
### 【修了年別】



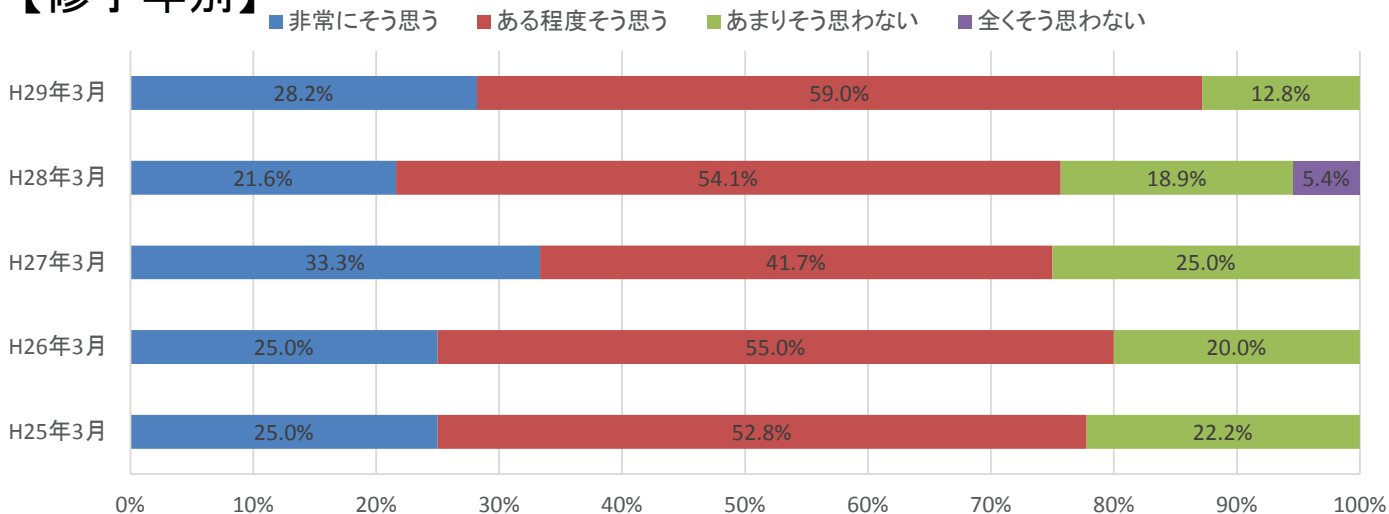
- ・「学部生への本学大学院への進学推奨度」としては、全学で79.4%が肯定回答した。研究科別では地域学研究科が94.4%で最も多く、続いて多い順に医学系研究科80.0%、工学研究科77.8%、農学研究科75.0%だった。
- ・修了年別では、H29年3月が最も多い87.2%で、H27年3月が最も少ない75.0%だった。

### c. 大学院への進学を学部生に薦めたい

#### 【全学・研究科別】



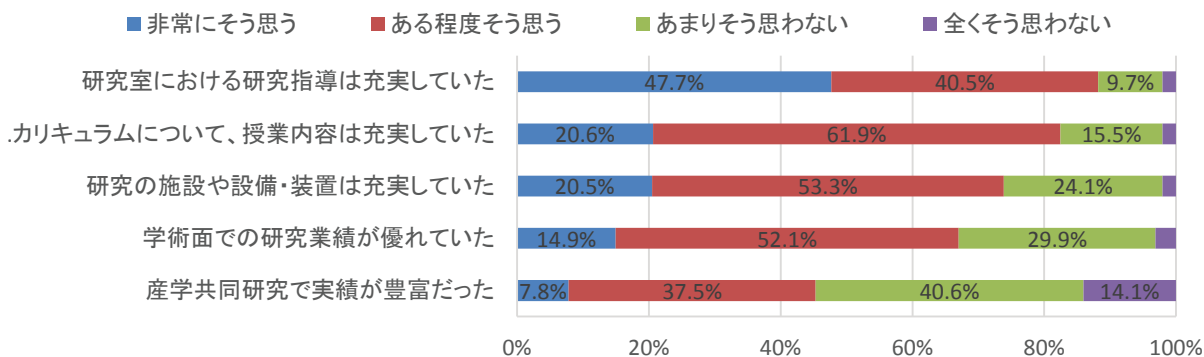
#### 【修了年別】



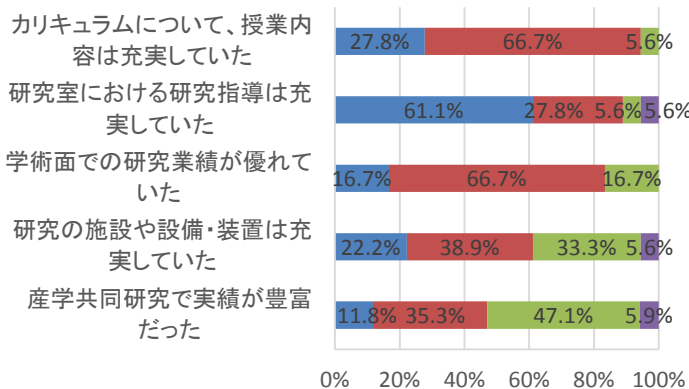
・大学院での教育・研究の充実度について質問した5項目のうち、肯定回答率の高い順に「研究指導の充実」が1位(88.2%)、「授業内容の充実」が2位(82.5%)となった。一方、「産学共同研究で実績が豊富だった」は最も低かった(45.3%)。

・研究科別では、地域学研究科では「授業内容の充実」が1位、医学系研究科では「研究指導の充実」と「施設や設備・装置の充実」が1位(同率)となった。工学研究科、農学研究科では「研究指導の充実」が1位となった。

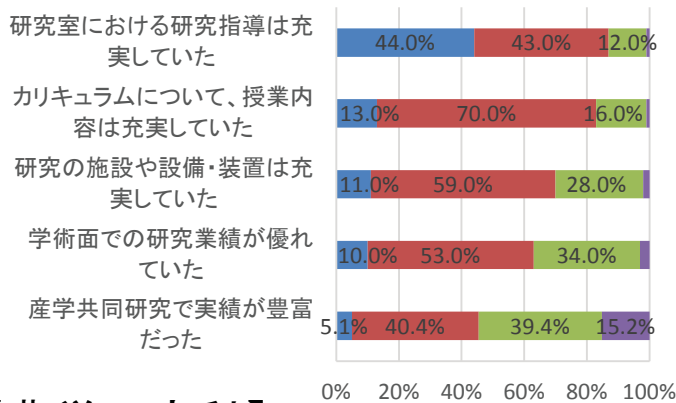
## 【全学】



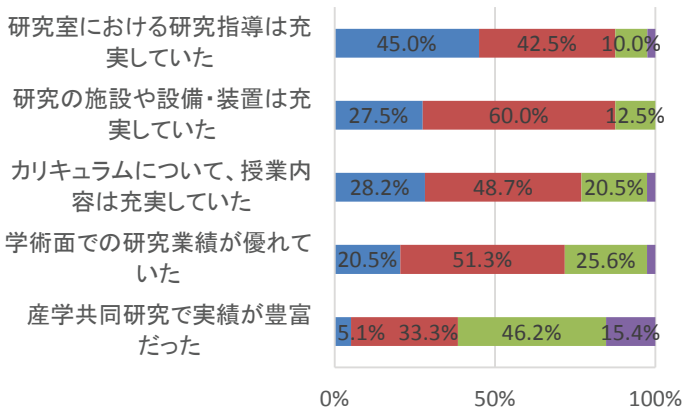
## 【地域学研究科】



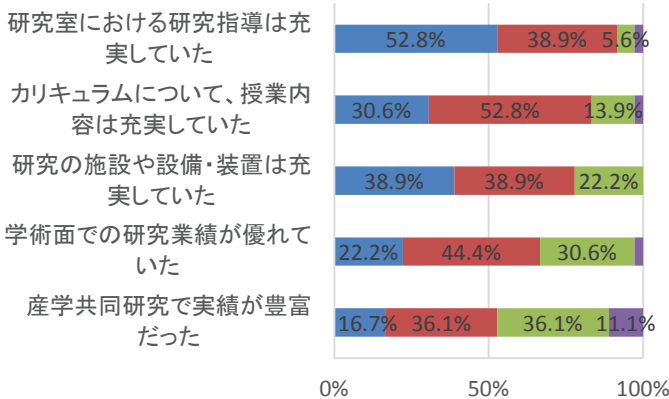
## 【工学研究科】



## 【医学系研究科】



## 【農学研究科】

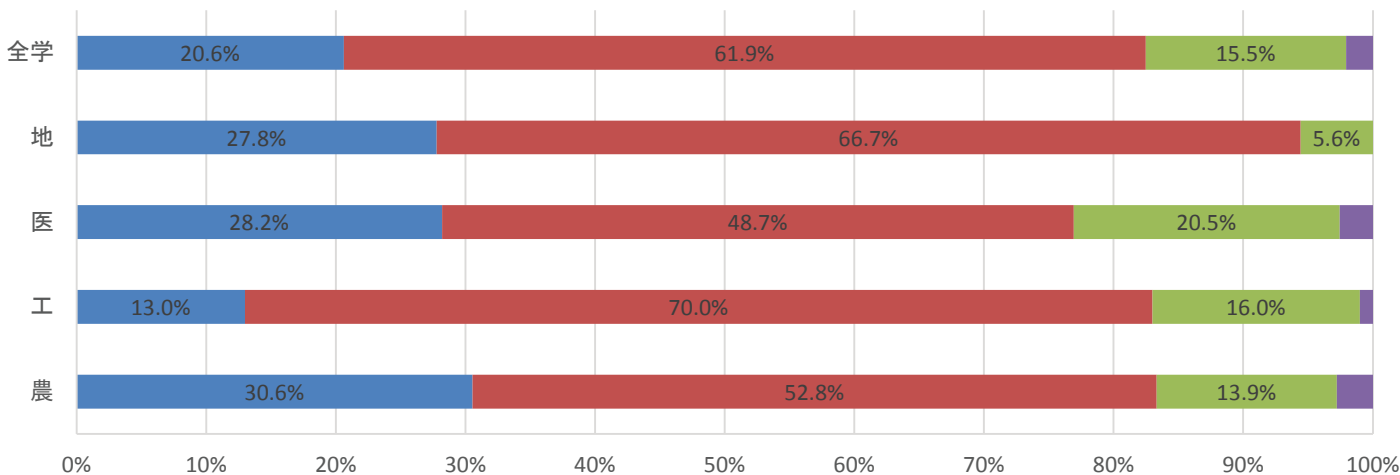


・「カリキュラムについて、授業内容は充実していた」に対して全学では82.5%の肯定回答率だった。研究科別では地域学研究科が最も高く94.4%、続いて農学研究科が83.3%、工学研究科が83.0%、医学系研究科が76.9%だった。  
 ・修了年別では、肯定回答率はH25年3月が最も高く86.1%、H28年3月が最も低い76.3%だった。

## a. カリキュラムについて、授業内容は充実していた

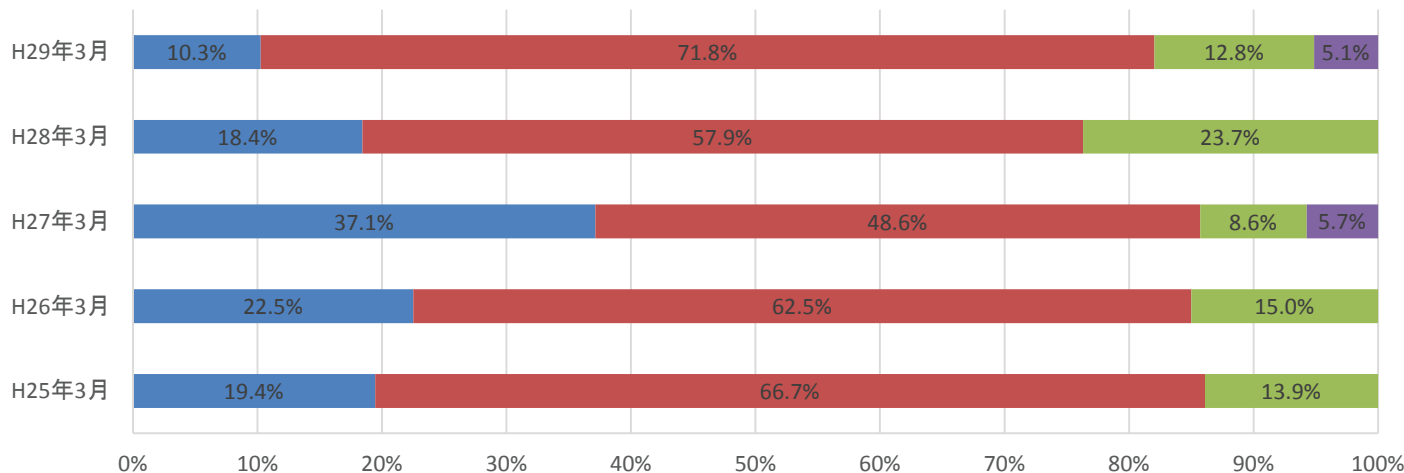
### 【全学・研究科別】

■ 非常にそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



### 【修了年別】

■ 非常にそう思う ■ ある程度そう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

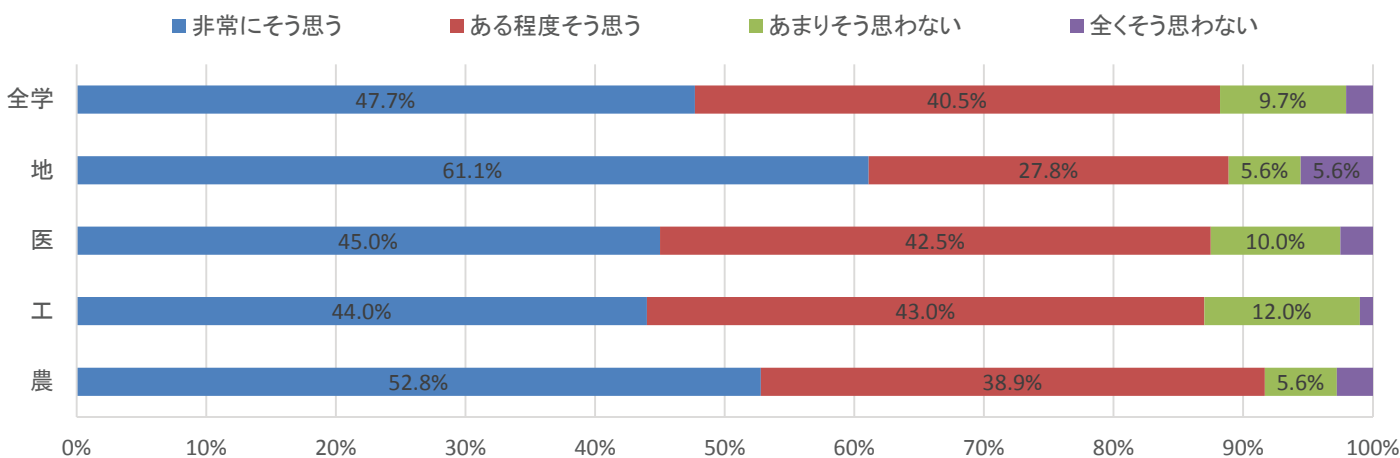


・「研究室における研究指導は充実していた」について全学では88.2%の肯定回答率だった。研究科別では農学研究科91.7%、地域学研究科88.9%、医学系研究科87.5%、工学研究科87.0%だった。また、「非常にそう思う」の割合は全学で47.7%だった。

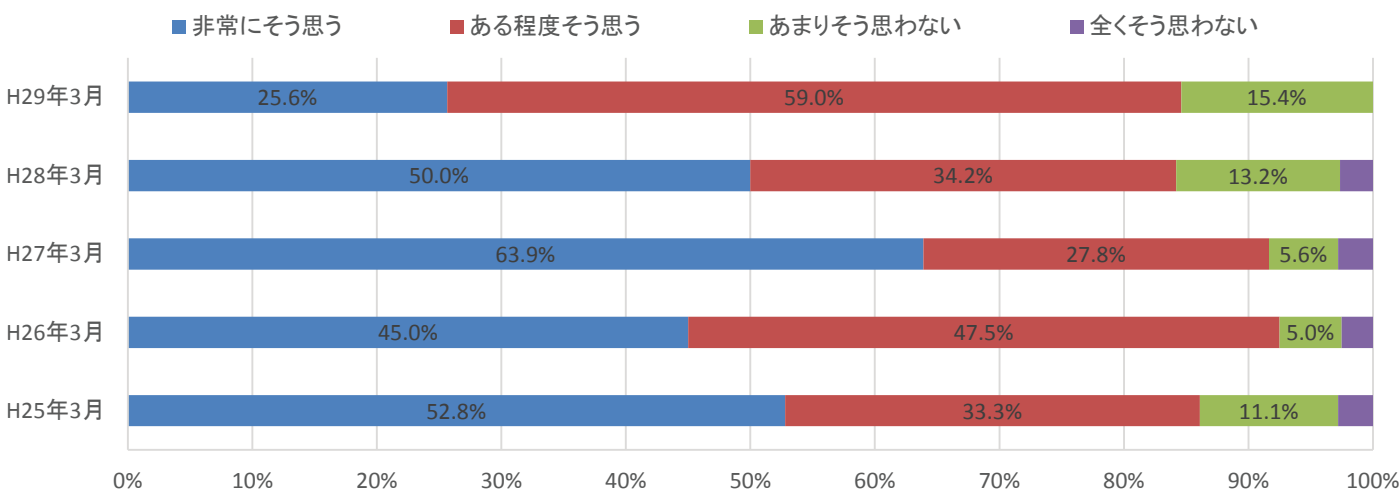
・修了年別の肯定回答率は、H26年3月およびH27年3月が90%以上の高い値であり、すべての年度で84%以上だった。

## b. 研究室における研究指導は充実していた

### 【全学・研究科別】



### 【修了年別】

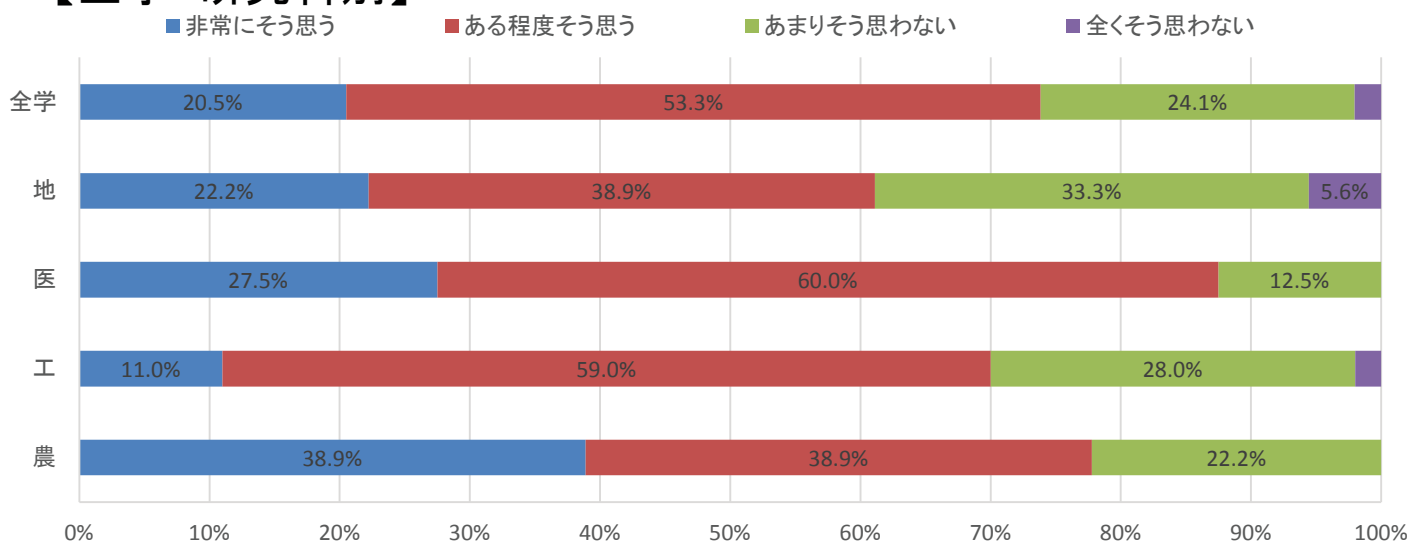


・「研究の施設や設備・装置は充実していた」について、全学では73.8%の肯定回答率だった。研究科別では医学系研究科が最も高く87.5%、続いて農学研究科77.8%、工学研究科70.0%、地域学研究科61.1%であり、研究科間でやや差がある。

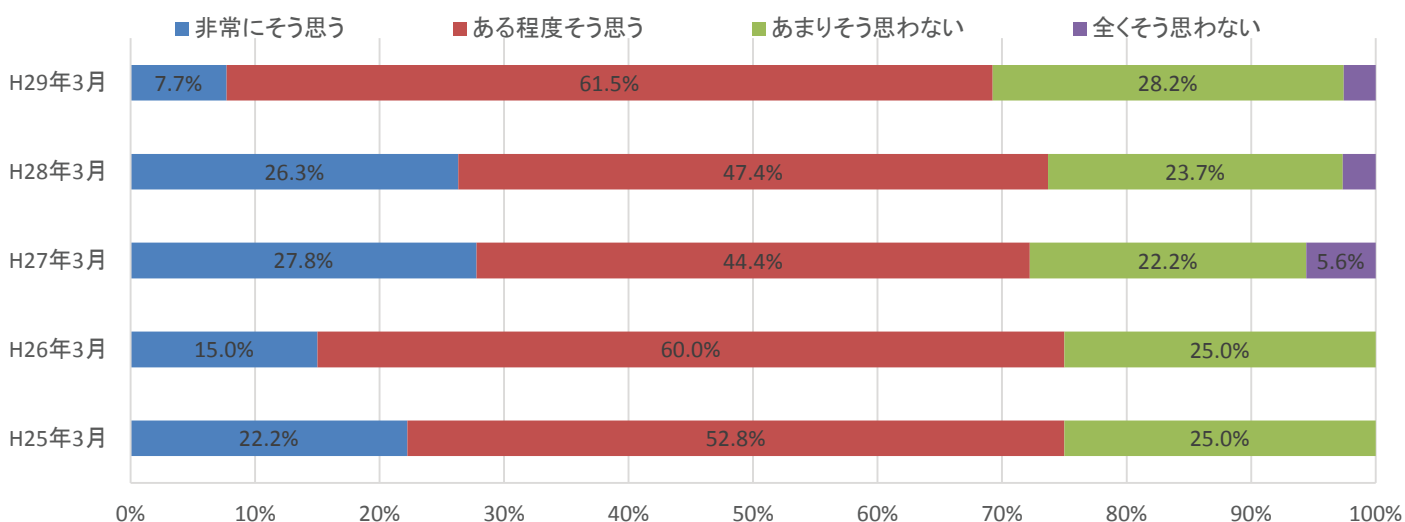
・修了年別では肯定回答率に大きな変化はなく、69.2%～75.0%だった。

### c. 研究の施設や設備・装置は充実していた

#### 【全学・研究科別】



#### 【修了年別】

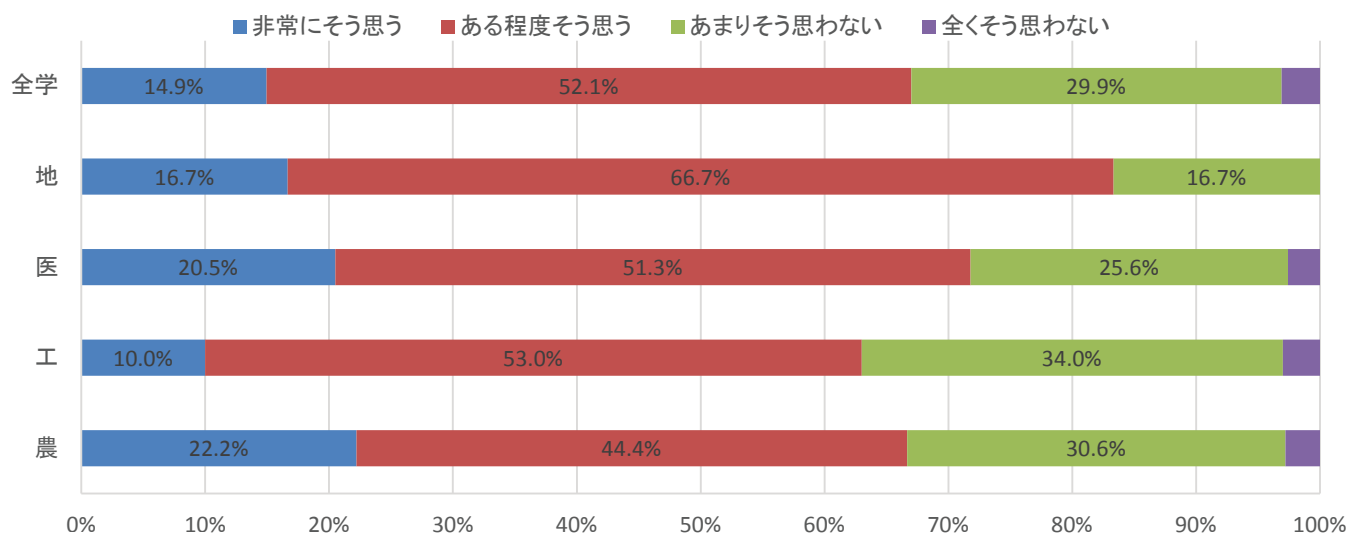




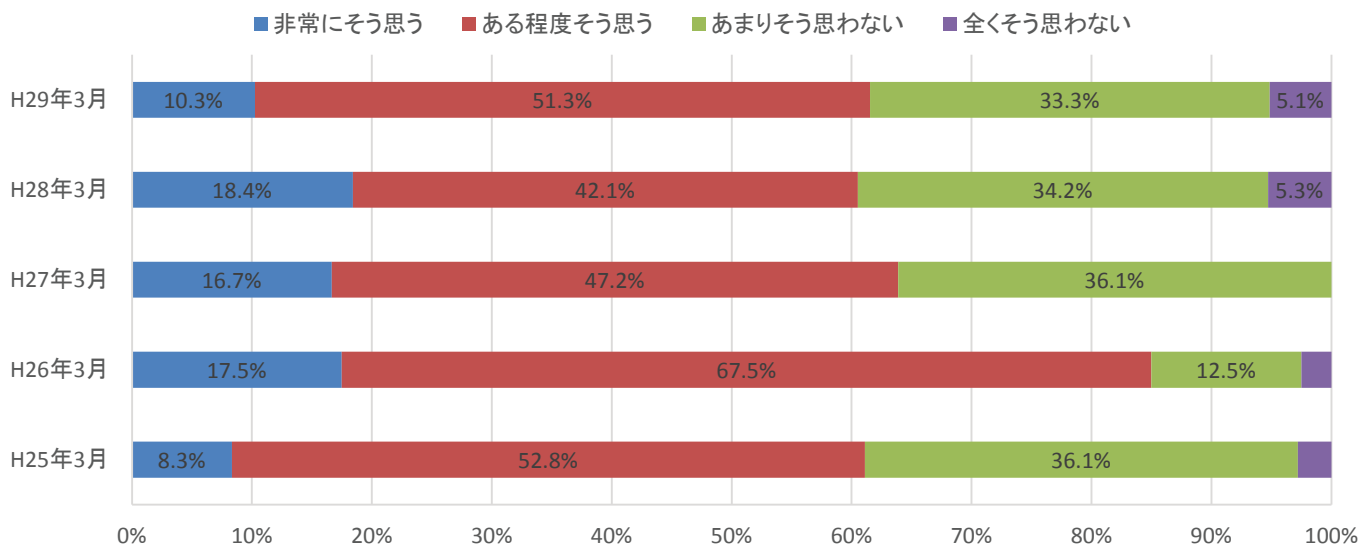
- ・「学術面での研究業績が優れていた」について、全学では67.0%の肯定回答率だった。研究科別では地域学研究科が最も高く83.3%、続いて医学系研究科71.8%、農学研究科66.7%、工学研究科63.0%だった。
- ・修了年別の肯定回答率はH26年3月が85.0%で最も高かった。他の年度では60.5%～63.9%だった。

#### d. 学術面での研究業績が優れていた

##### 【全学・研究科別】



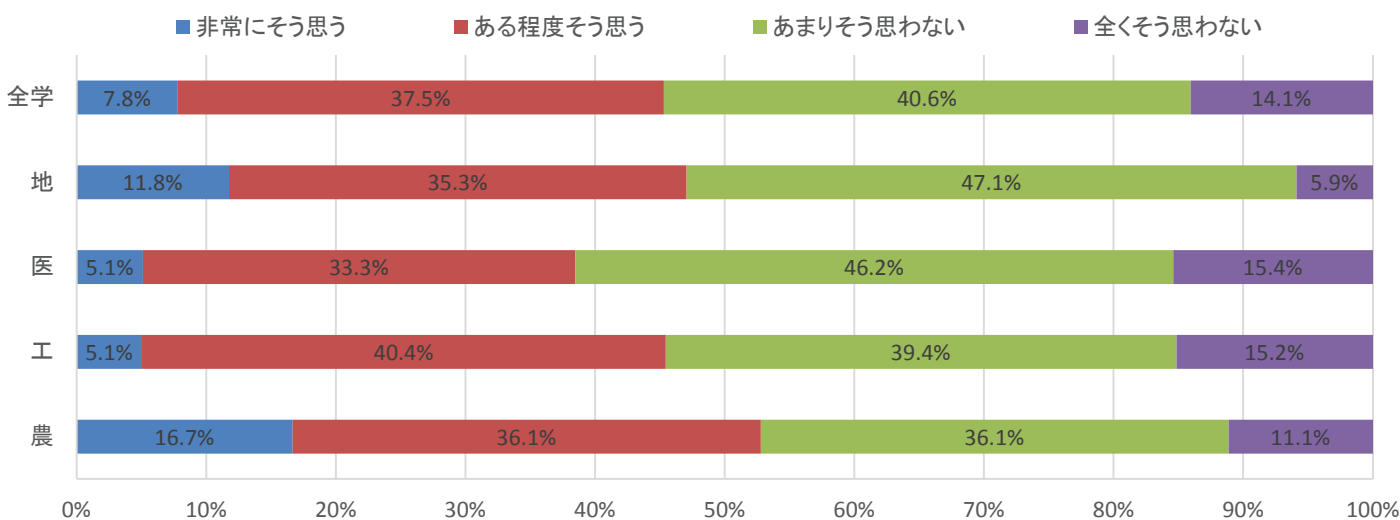
##### 【修了年別】



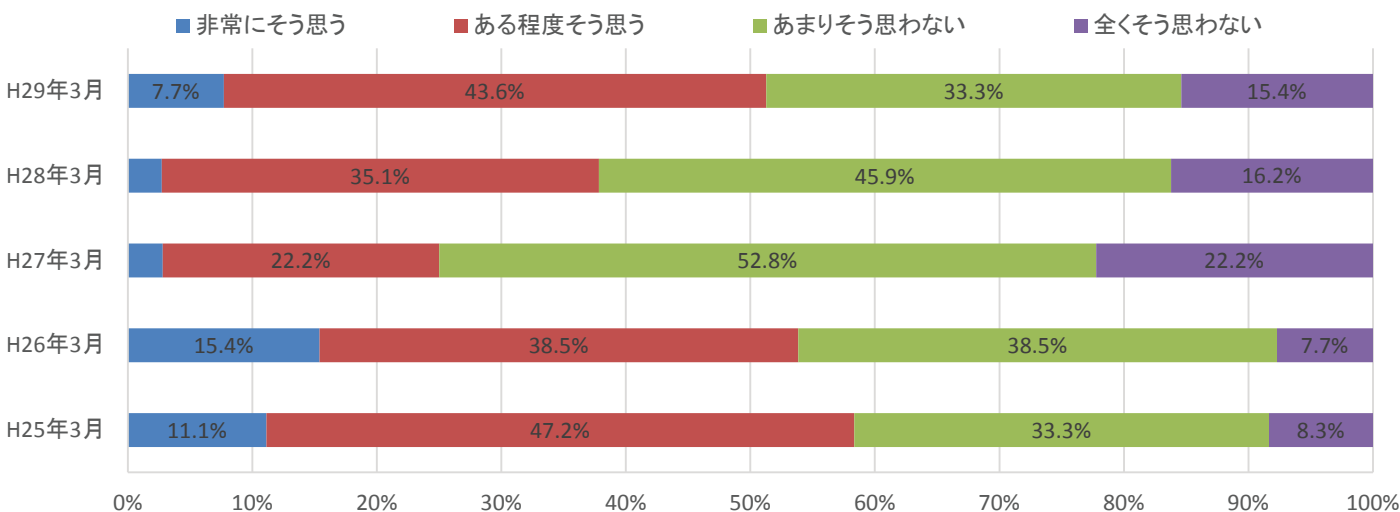
・「産学共同研究での実績が豊富だった」について、全学では45.3%の肯定回答率だった。研究科別では、農学研究科の52.8%が最も高く、続いて地域学研究科47.1%、工学研究科45.5%、医学系研究科38.5%だった。  
 ・修了年別の肯定回答率は、H27年に25.0%まで減少したが、その後増加し、H29年に51.3%となった。

## e. 産学共同研究で実績が豊富だった

### 【全学・研究科別】



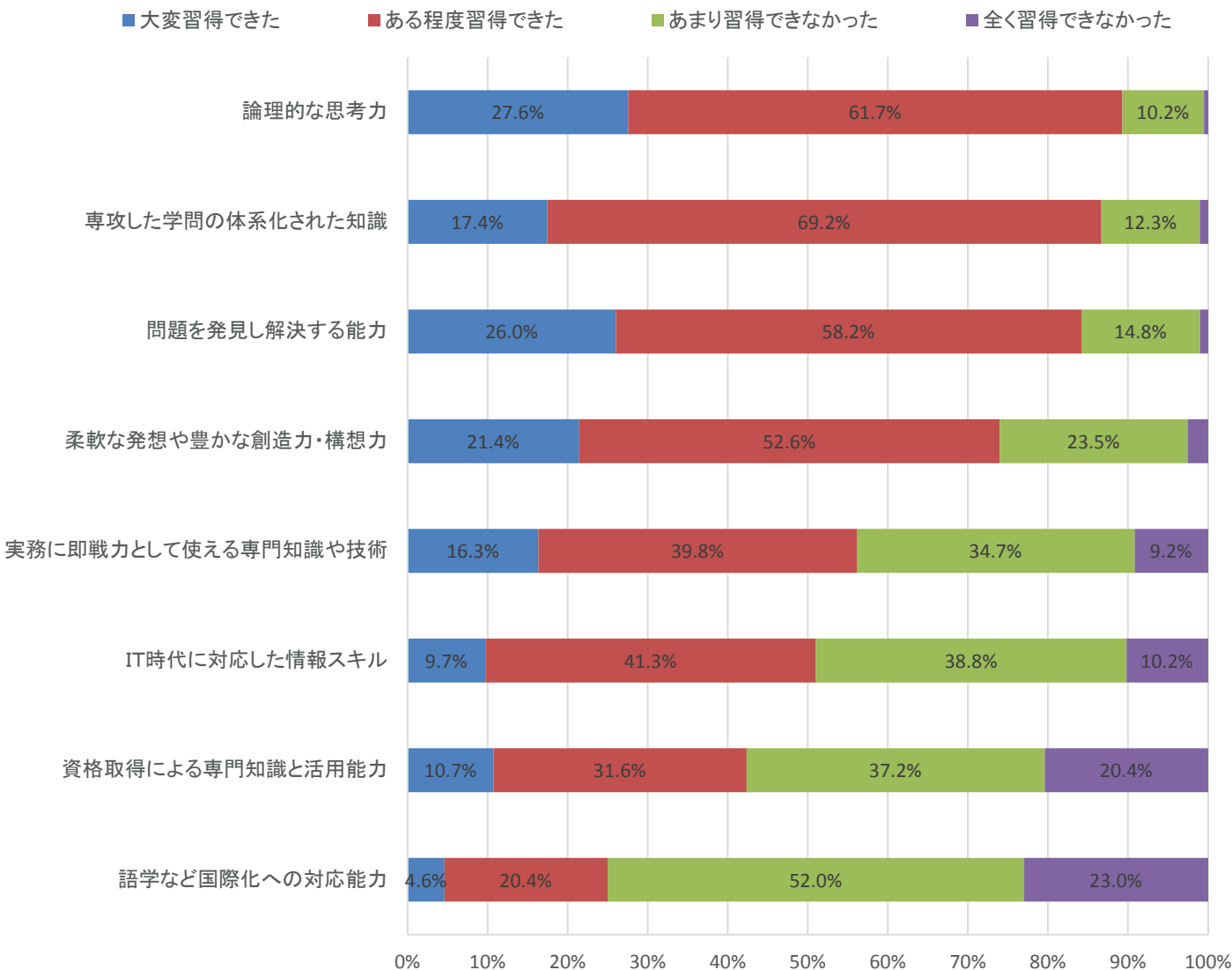
### 【修了年別】



大学院での研究や専門教育を通じて習得できた（「大変習得できた」と「ある程度習得できた」の回答合計）能力・技術・知識等8項目の中で「論理的な思考力」(89.3%)が最も高い習得度であり、続いて「専攻した学問の体系化された知識」(86.7%)、「問題を発見し解決する能力」(84.2%)、「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」(74.0%)が高い習得度だった。

一方、「資格取得による専門知識と活用能力」は42.3%、「語学など国際化への対応能力」は25.0%にとどまった。

## 【全学】大学院での研究や専門教育を通じて習得できた能力・技術・知識等

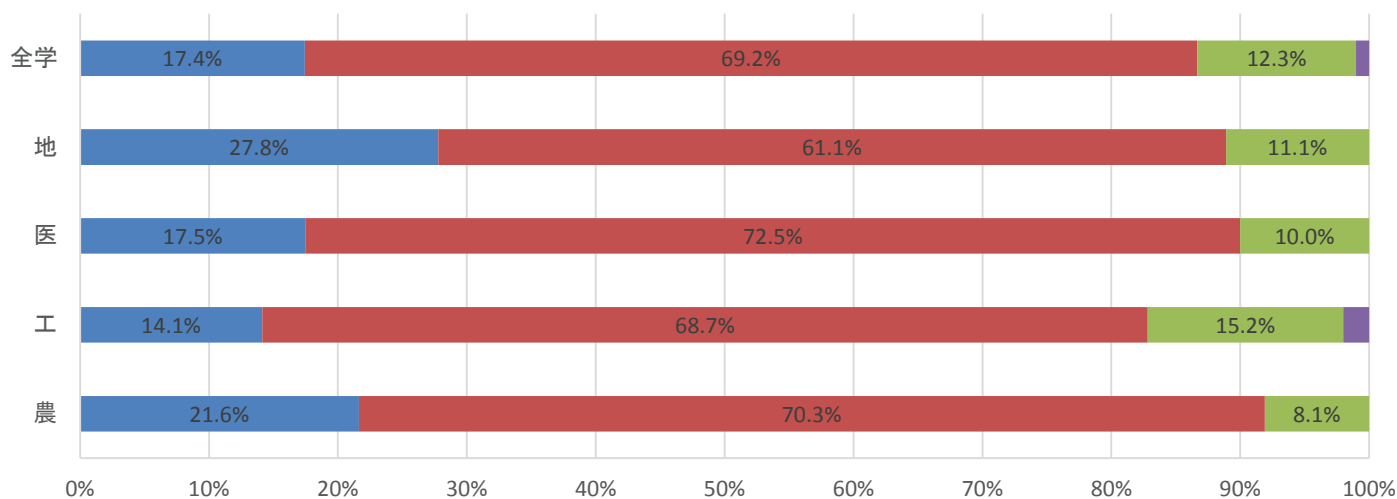


- ・「専攻した学問の体系化された知識」について全学では86.7%の習得度だった。研究科別では農学研究科が最も高い91.9%、医学系研究科が90.0%であり、全研究科で8割以上の習得度だった。
- ・修了年別ではH27年3月が最も高い91.7%、その他の年も全て84%以上の習得度だった。

## a. 専攻した学問の体系化された知識

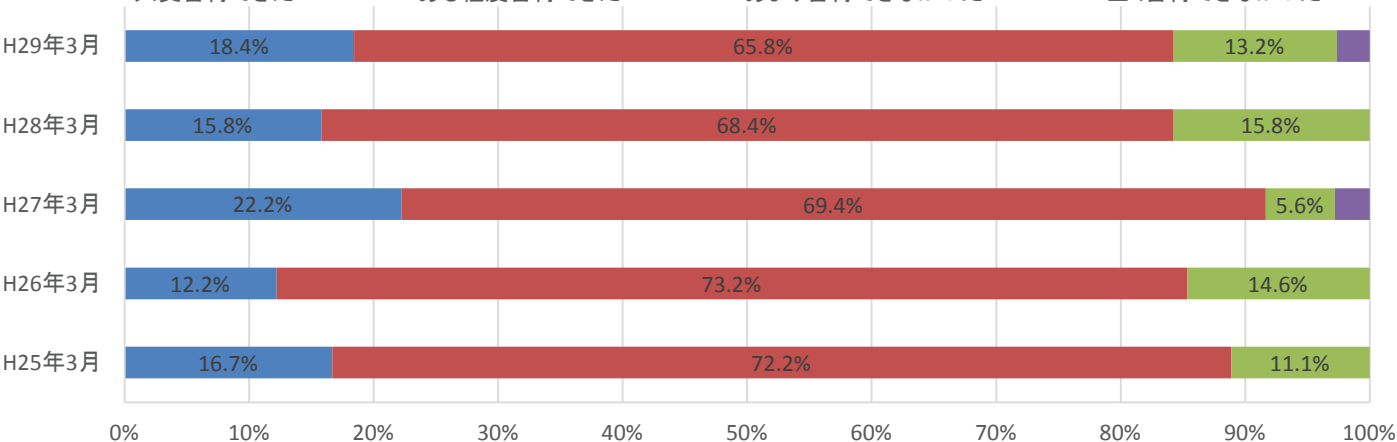
### 【全学・研究科別】

■ 大変習得できた ■ ある程度習得できた ■ あまり習得できなかった ■ 全く習得できなかった



### 【修了年別】

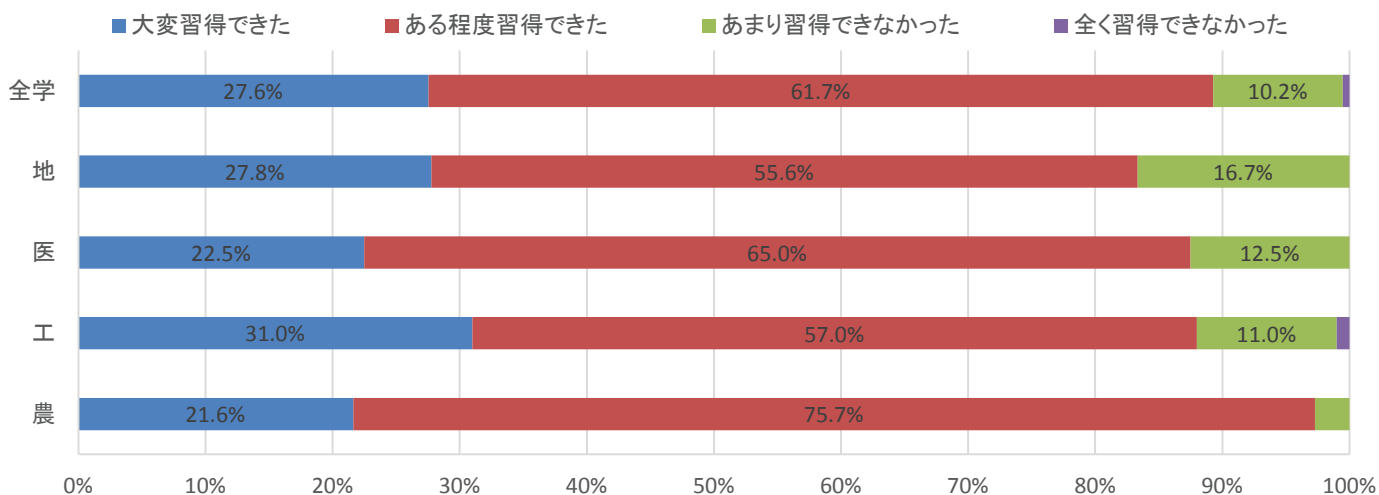
■ 大変習得できた ■ ある程度習得できた ■ あまり習得できなかった ■ 全く習得できなかった



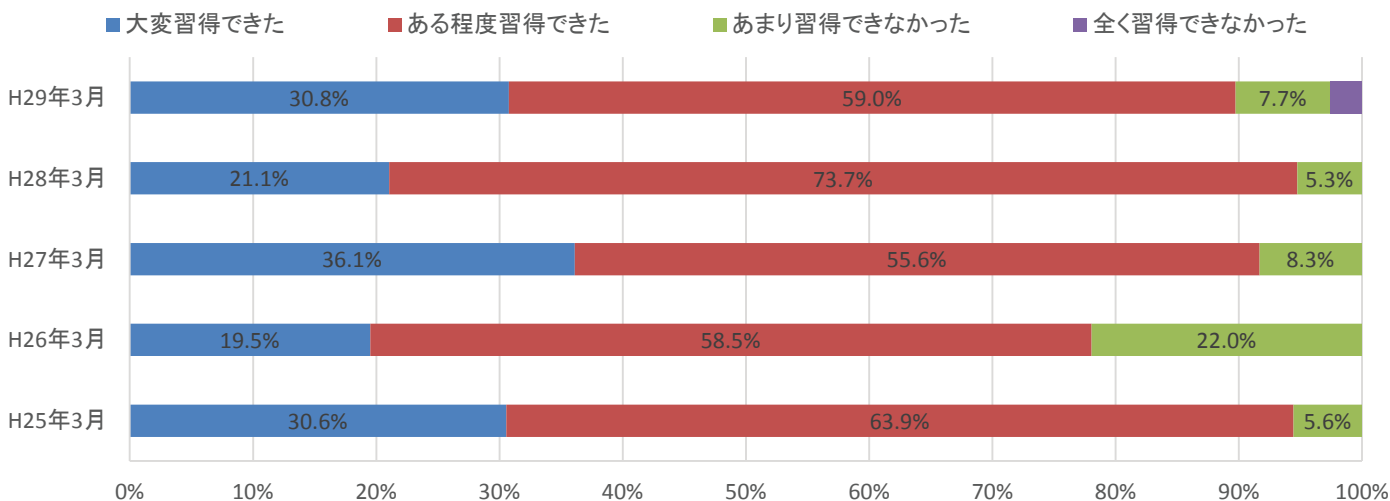
- ・「論理的な思考力」について、全学では89.3%の習得度だった。研究科別では農学研究科が最も高い97.3%であり、全研究科で83%以上だった。
- ・修了年別ではH26年3月が78.0%だったが、その他の年では9割前後の習得度だった。

## b. 論理的な思考力

### 【全学・研究科別】



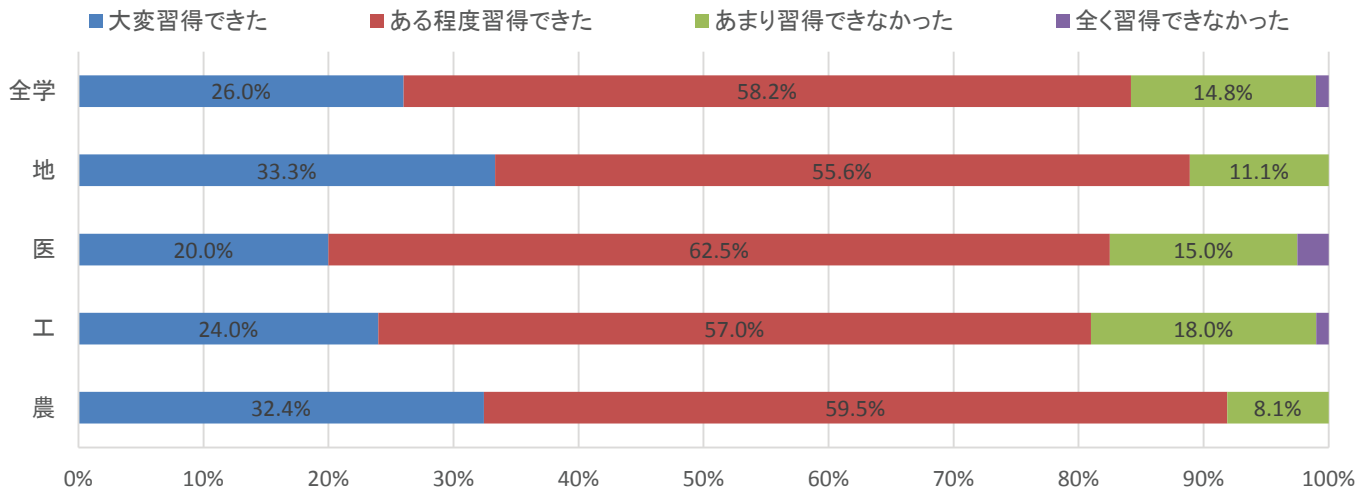
### 【修了年別】



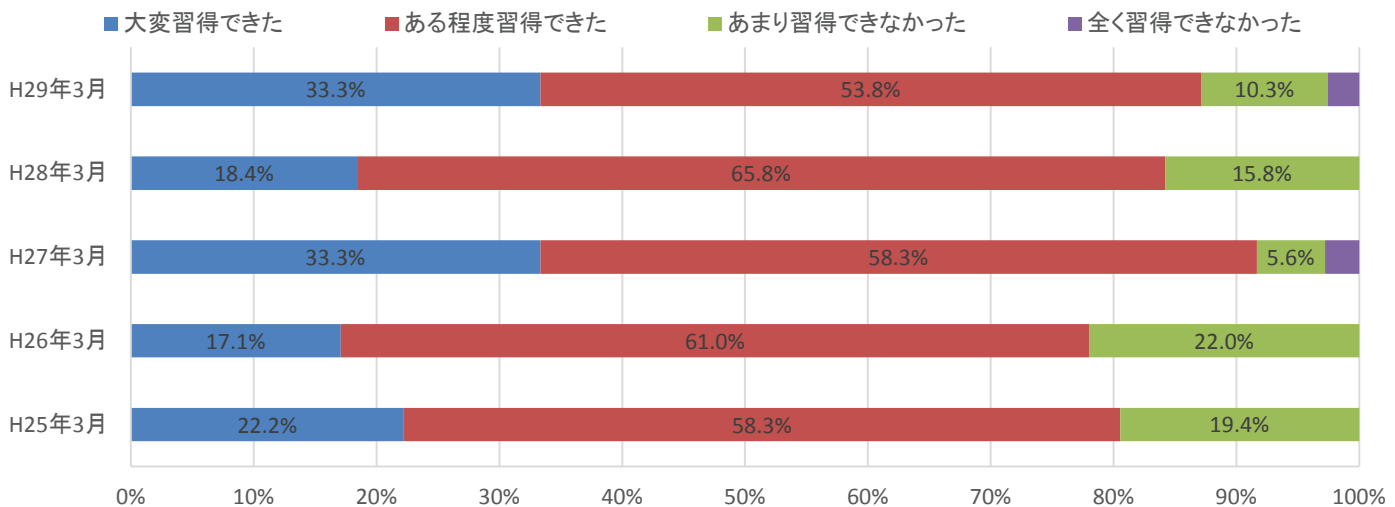
- ・「問題を発見し解決する能力」について、全学では84.2%の習得度だった。研究科別では、農学研究科が最も高い91.9%であり、全研究科で8割以上だった。
- ・修了年別ではH26年3月が78.0%であったが、その他の年では8割以上であり、特にH27年3月は91.7%の習得度だった。

## c. 問題を発見し解決する能力

### 【全学・研究科別】



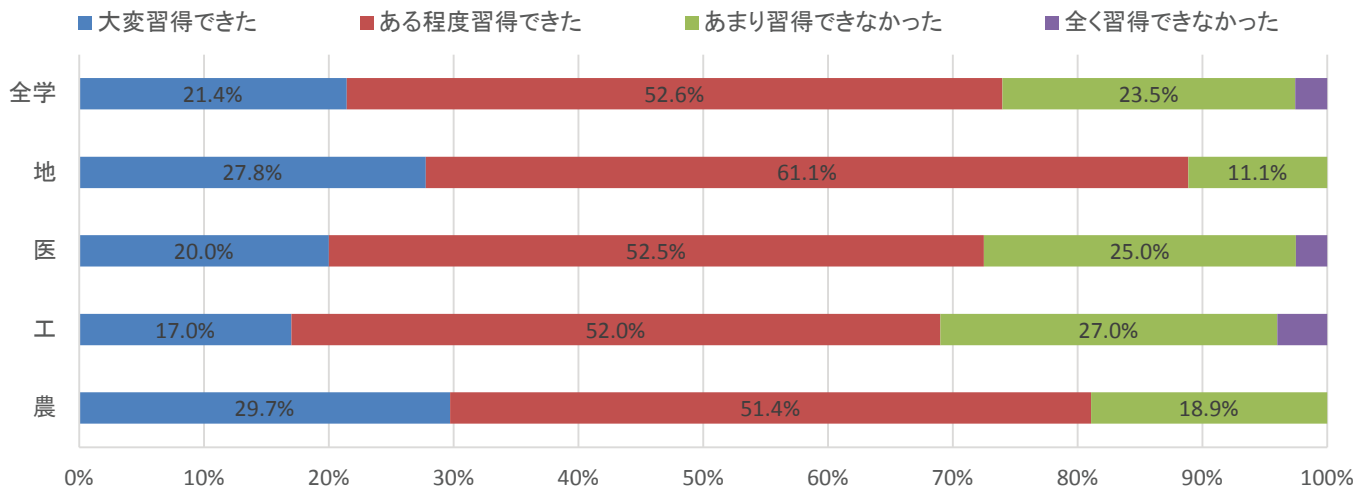
### 【修了年別】



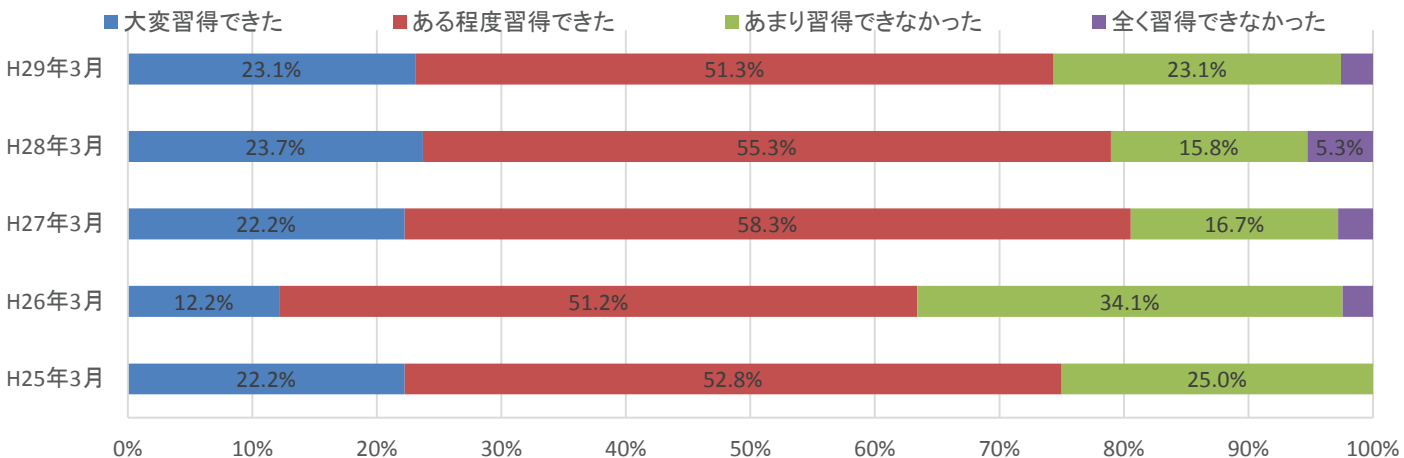
・「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」は全学で74.0%の習得度だった。研究科別では地域学研究が最も高い88.9%、続いて農学研究科81.1%、医学系研究科72.5%、工学研究科69.0%だった。  
・修了年別では、H27年3月が最も高い80.6%、H26年3月が最も低い63.4%だった。

## d. 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力

### 【全学・研究科別】



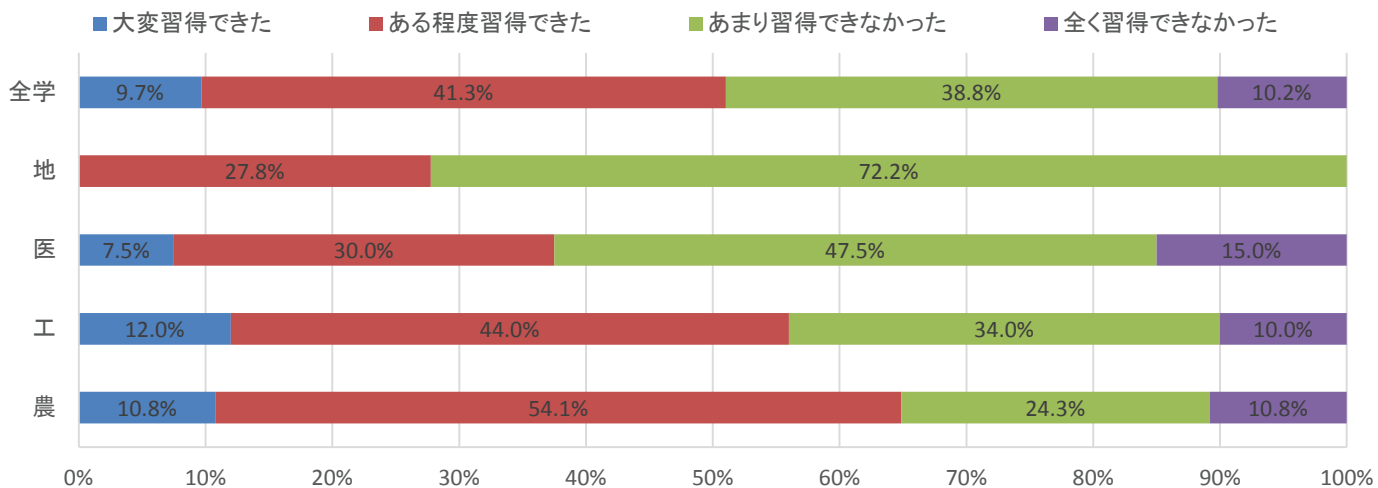
### 【修了年別】



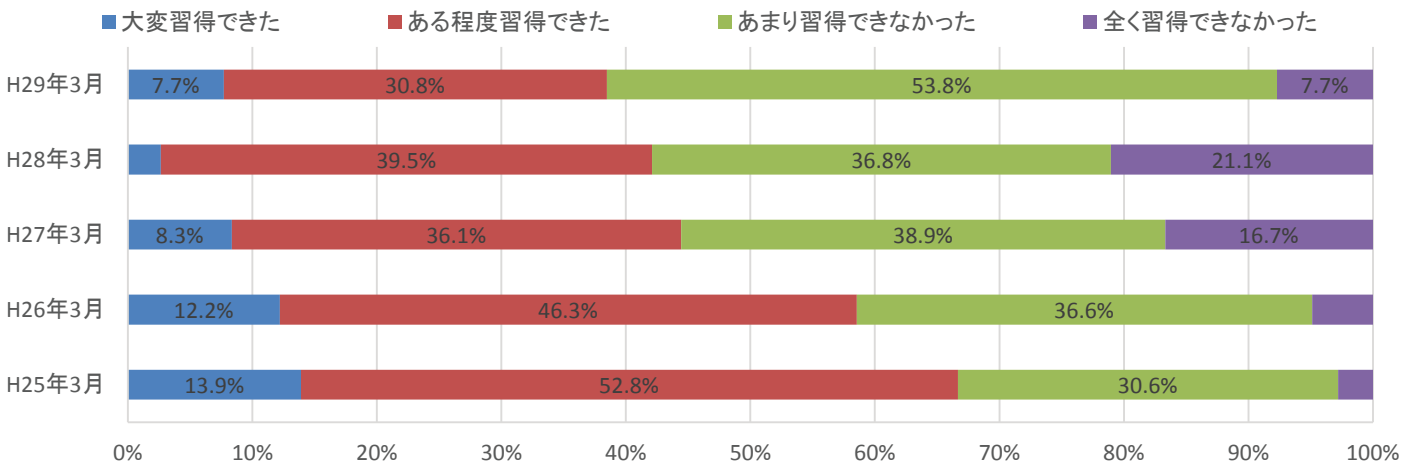
- ・「IT時代に対応した情報スキル」について、全学では51.0%の習得度だった。研究科別では最も高い農学研究科64.9%から最も低い地域学研究科27.8%まで研究科間で差がある。
- ・修了年別ではH25年3月の66.7%からH29年3月の38.5%まで減少傾向にある。

## e. IT時代に対応した情報スキル

### 【全学・研究科別】



### 【修了年別】

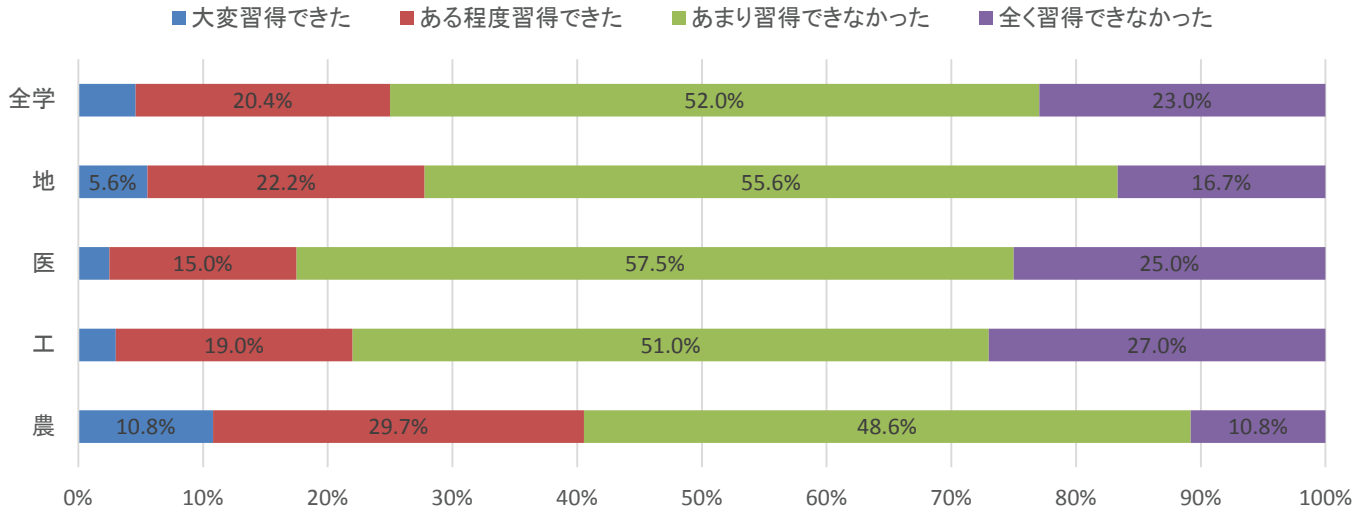




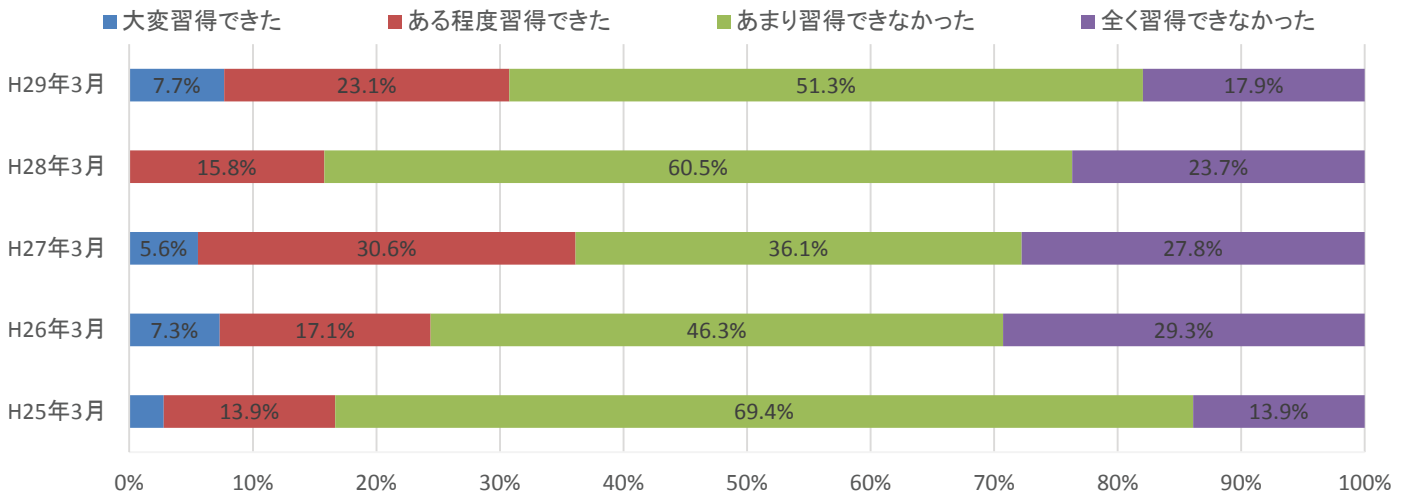
・「語学など国際化への対応能力」について、全学では25.0%の習得度だった。研究科別では農学研究科の40.5%が最も高く、続いて地域学研究科27.8%、工学研究科22.0%、医学系研究科17.5%だった。

・修了年別ではH27年3月が最も高く36.1%、H28年3月が最も低い15.8%だった。

## f. 語学など国際化への対応能力 【全学・研究科別】



## 【修了年別】

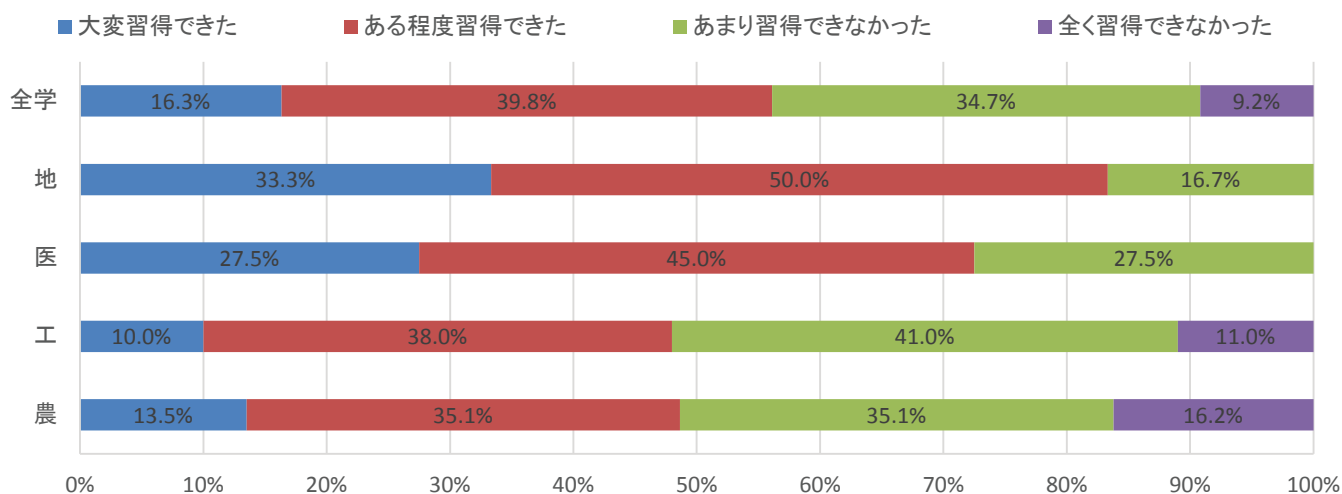


・「実務に即戦力として使える専門知識や技術」について、全学では56.1%の習得度だった。研究科別では高い順に地域学研究科(83.3%)、医学系研究科(72.5%)、農学研究科(48.6%)、工学研究科(48.0%)であり、研究科間で差がある。

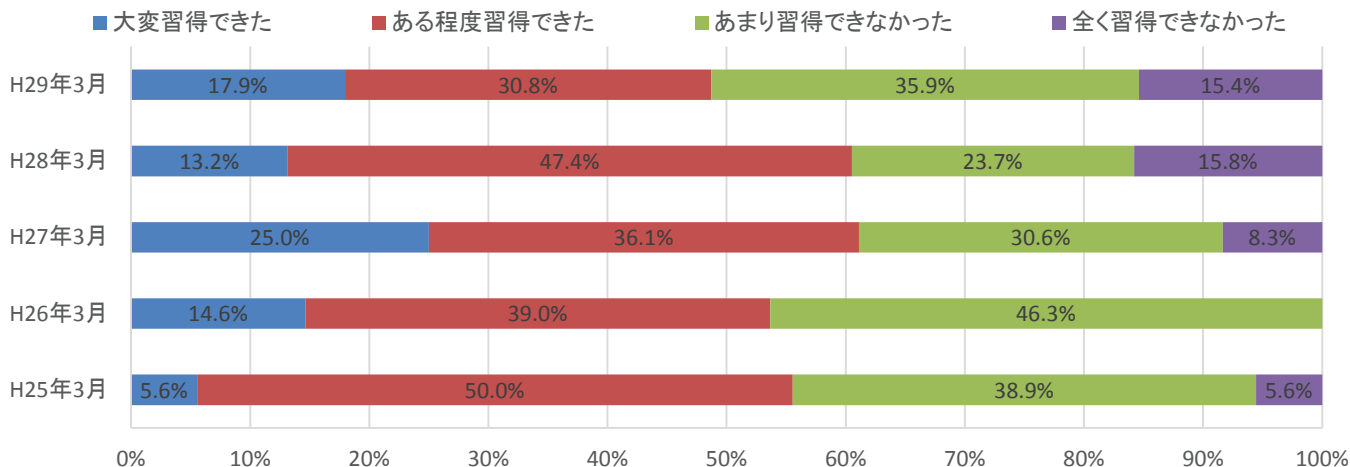
・修了年別ではH27年3月が最も高い61.1%でH29年3月が最も低い48.7%だった。

## g. 実務に即戦力として使える専門知識や技術

### 【全学・研究科別】



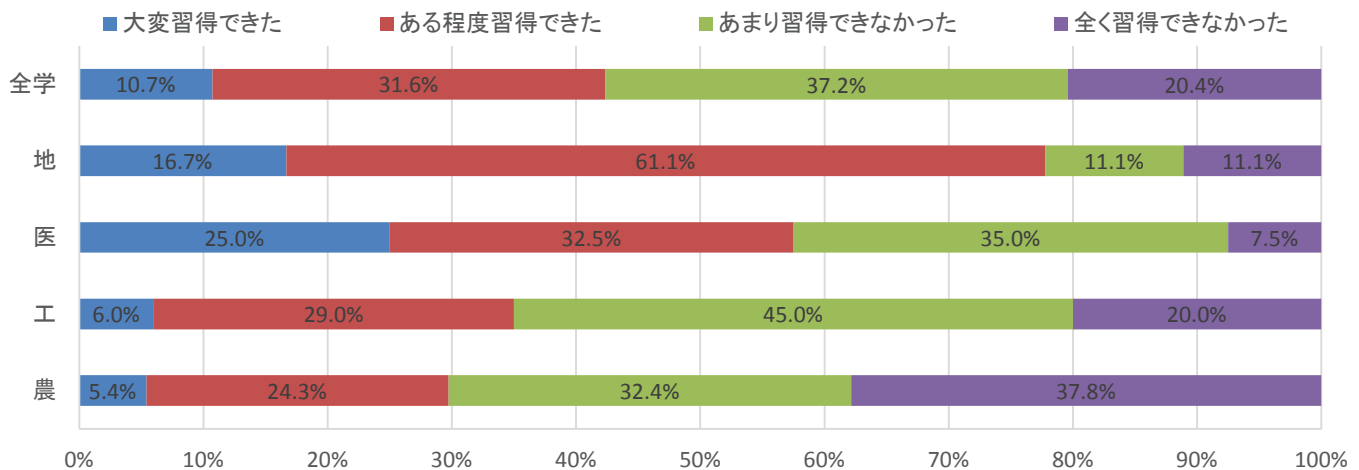
### 【修了年別】



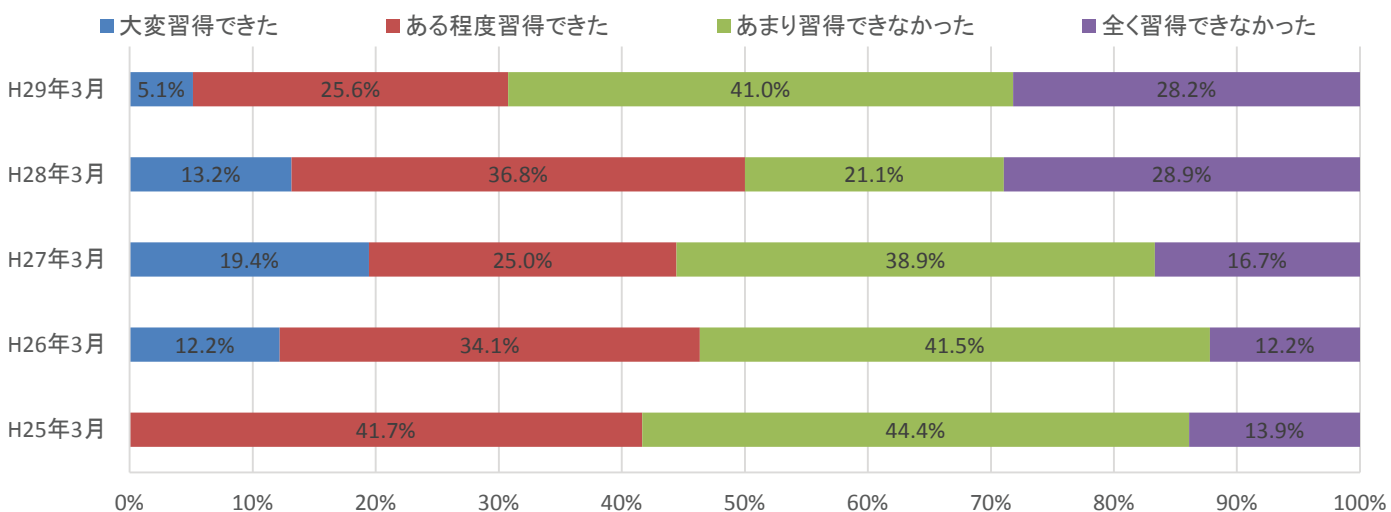
・「資格取得による専門知識と活用能力」について、全学では42.3%の習得度だった。研究科別では最も高い地域学研究科が77.8%、続いて医学系研究科57.5%、工学研究科35.0%、農学研究科29.7%であり、研究科間の差が大きい。  
・修了年別ではH25年3月からH28年3月まで41.7%～50.0%であったがH29年3月は30.8%にとどまった。

## h. 資格取得による専門知識と活用能力

### 【全学・研究科別】

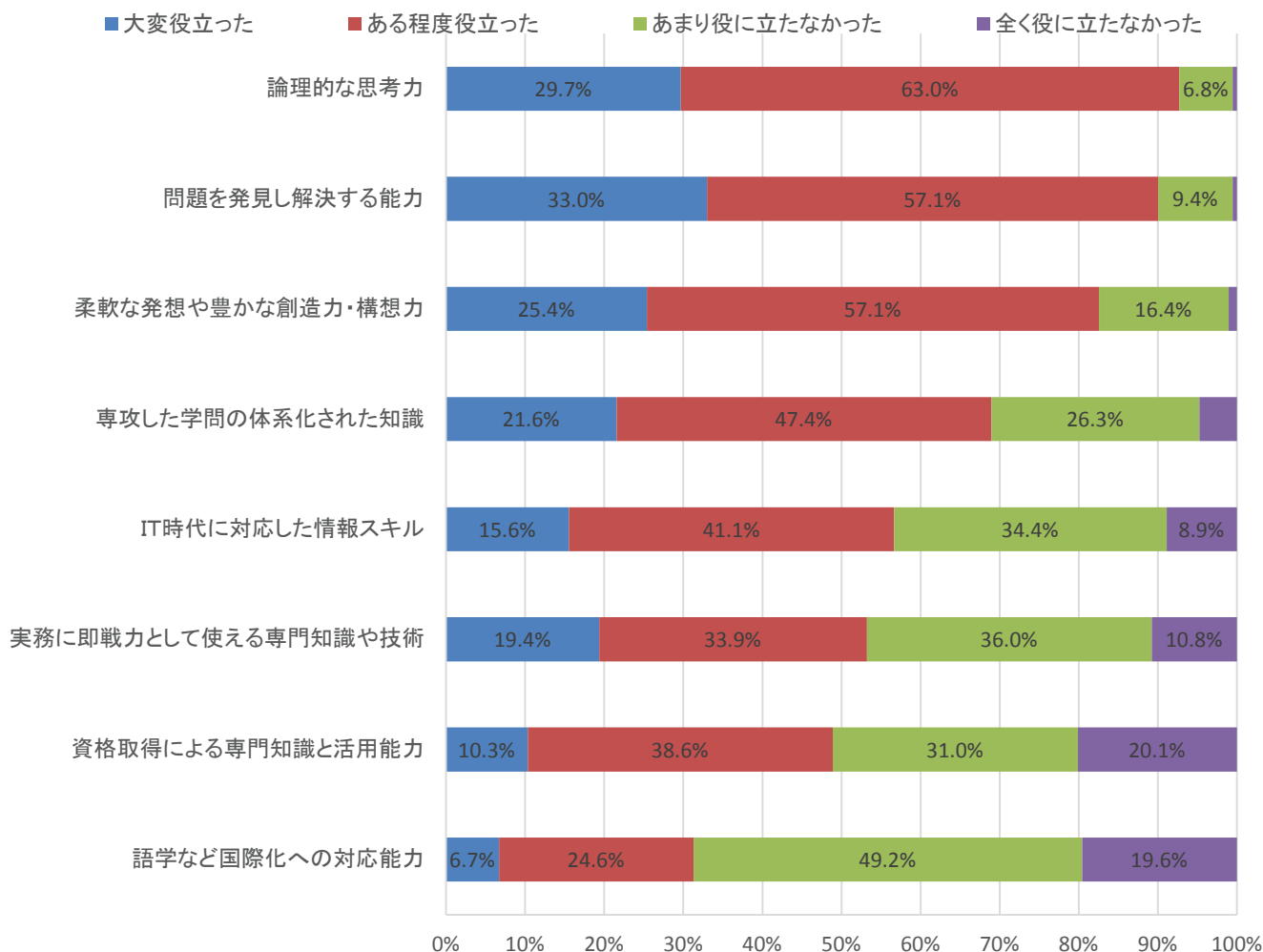


### 【修了年別】



社会に出た後、大学院での教育成果として「役立った」(「大変役立った」と「ある程度役立った」の回答合計)能力・技術・知識等は「論理的な思考力」(92.7%)、「問題を発見し解決する能力」(90.1%)、「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」(82.5%)が8割以上の高い役立ち度だった。一方、「語学など国際化への対応能力」は31.3%の役立ち度だった。

## 【全学】社会に出て教育成果として役立った能力・技術・知識等

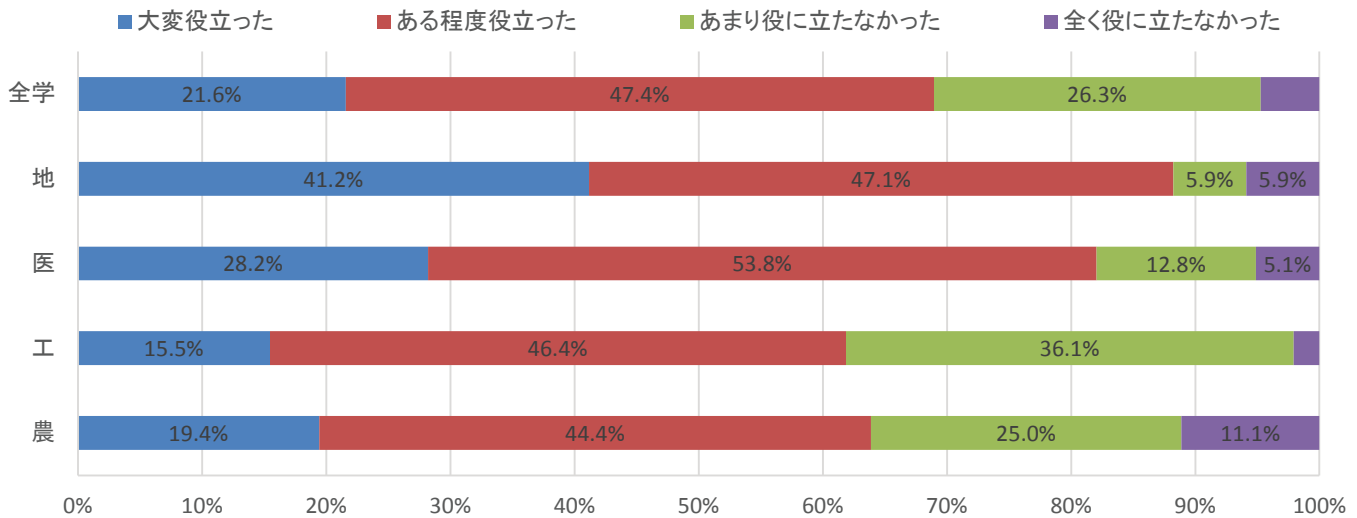


・「専攻した学問の体系化された知識」は全学で68.9%が役立ったと回答した。研究科別では、高い順に地域学研究科88.2%、医学系研究科82.1%、農学研究科63.9%、工学研究科61.9%であり、研究科間でやや差がある。

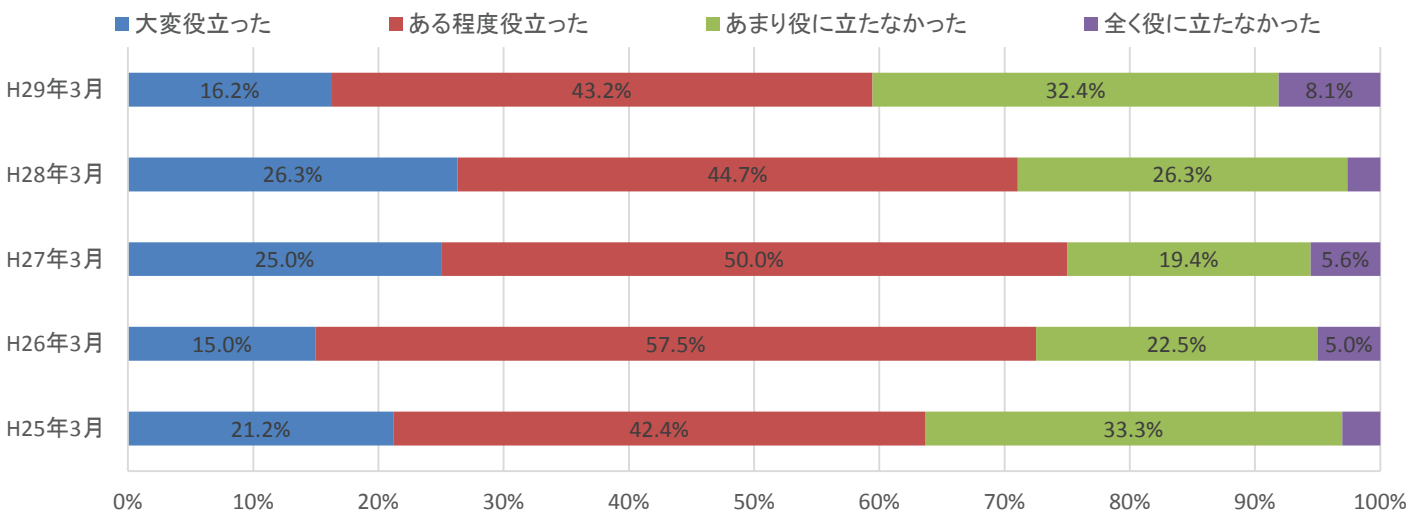
・修了年別では、H27年3月が最も高い75.0%でH29年3月が最も低い59.5%だった。

## a. 専攻した学問の体系化された知識

### 【全学・研究科別】



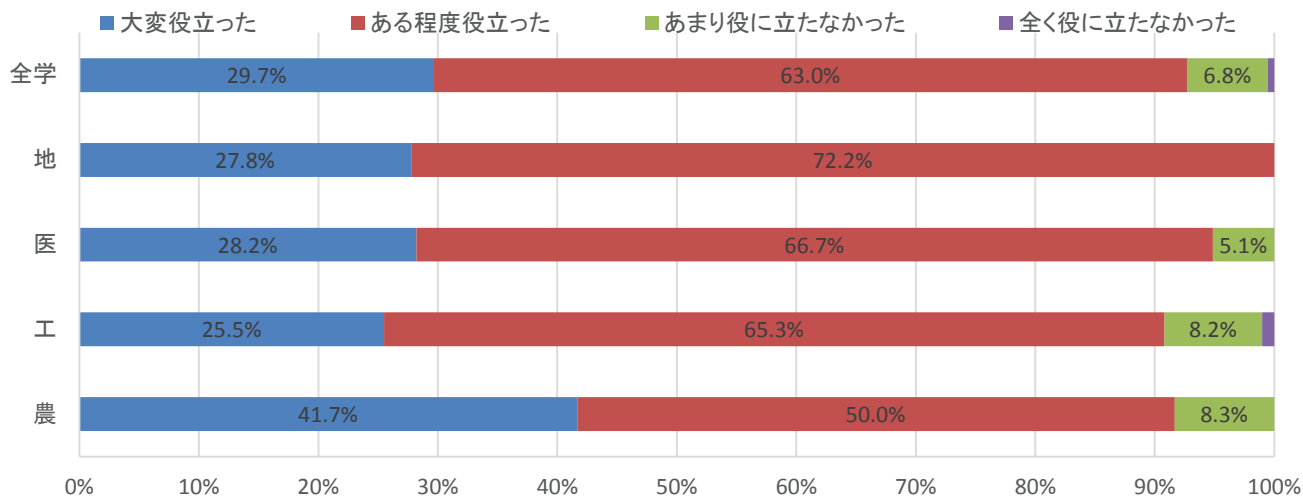
### 【修了年別】



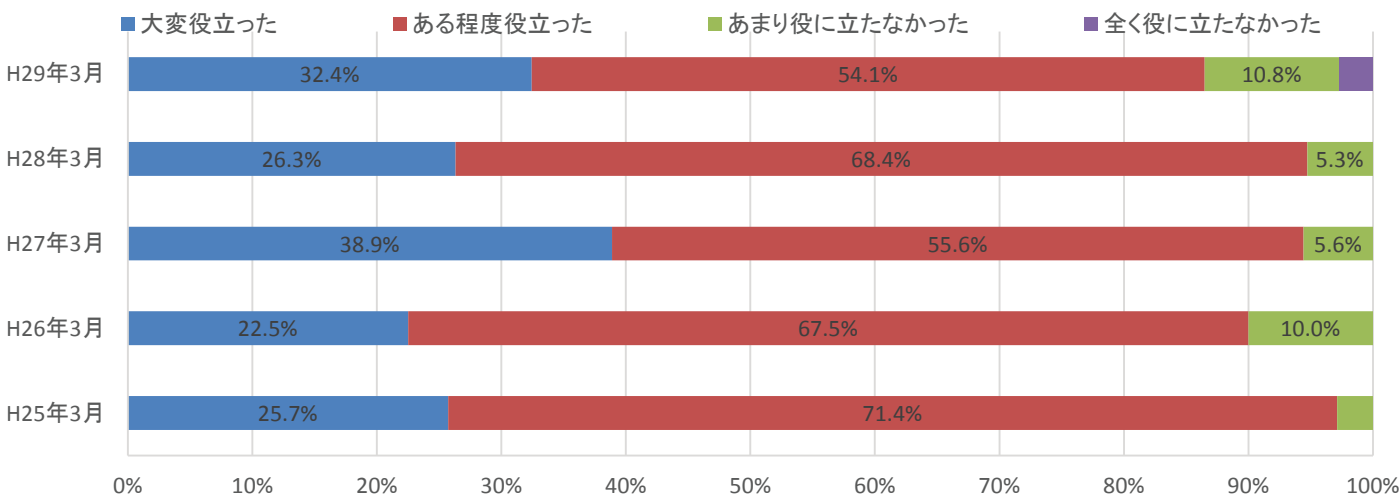
- ・「論理的な思考力」は全学で92.7%が役立ったと回答した。研究科別でも、全ての研究科において9割以上の役立ち度だった。
- ・修了年別ではH25年3月が最も高い97.1%の役立ち度であり、最も低いH29年3月でも86.5%の高い役立ち度だった。

## b. 論理的な思考力

### 【全学・研究科別】



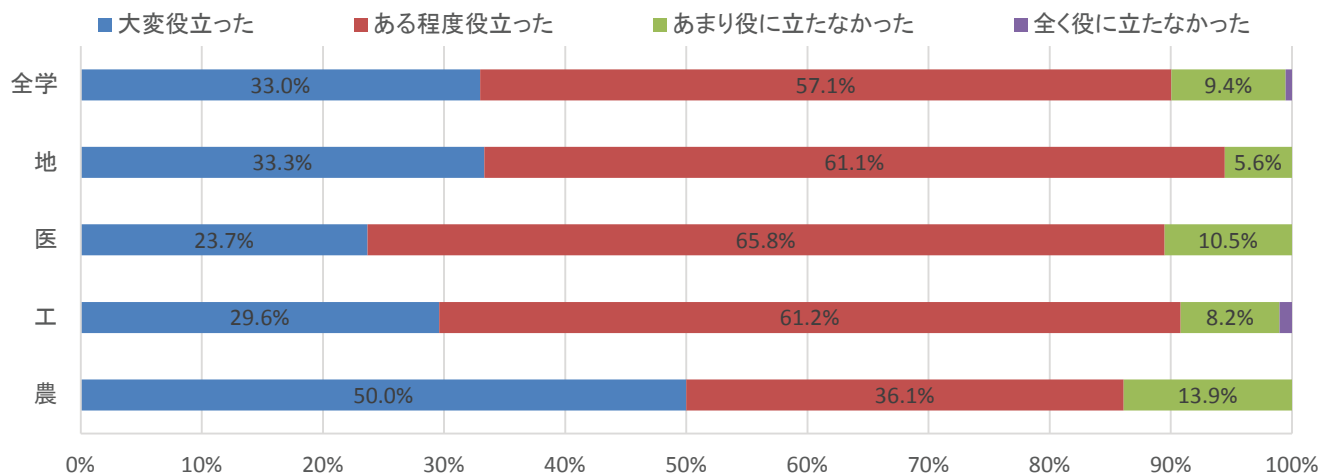
### 【修了年別】



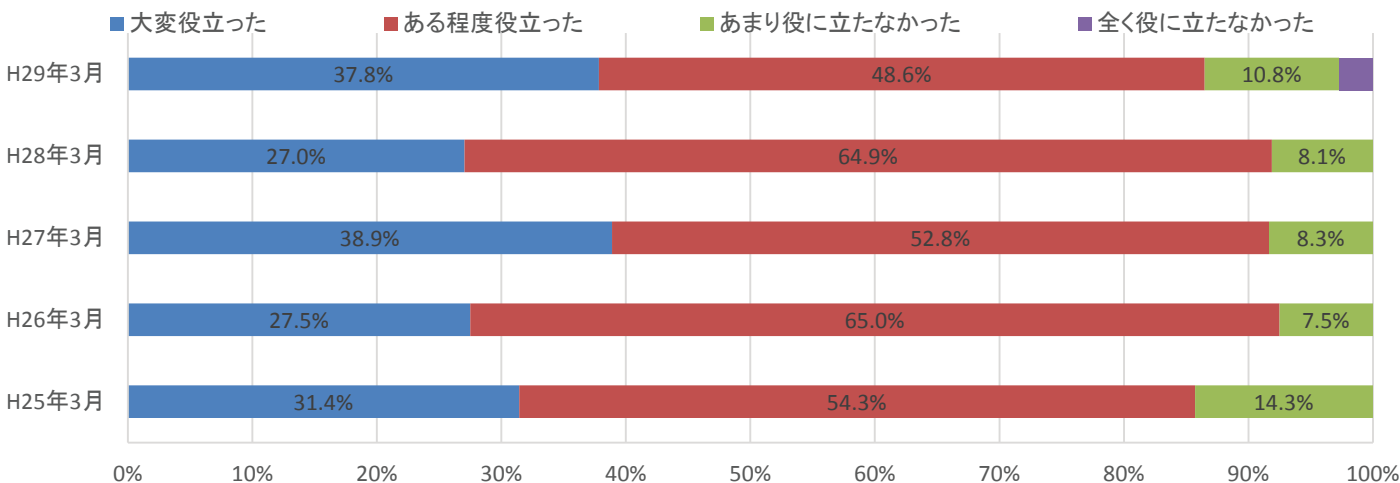
- ・「問題を見出し解決する能力」は全学で90.1%が役立ったと回答した。研究科別では地域学研究科が最も高く94.4%であり、全ての研究科で86%以上の高い役立ち度だった。また、農学研究科では「大変役立った」の回答率が5割に達した。
- ・修了年別でも全ての年で85%以上の高い役立ち度だった。

### c. 問題を見出し解決する能力

#### 【全学・研究科別】



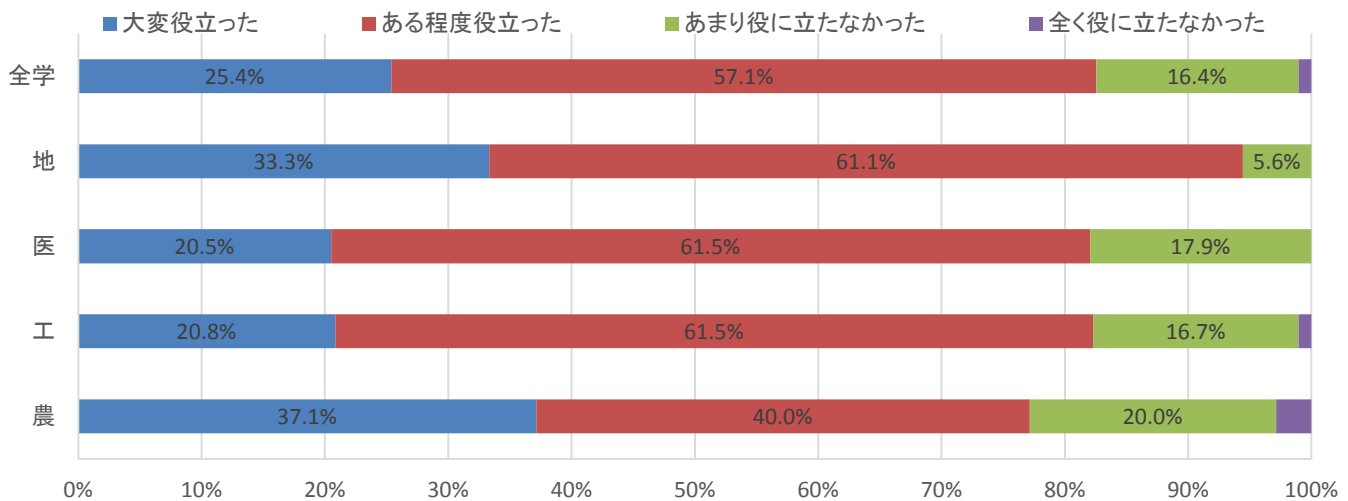
#### 【修了年別】



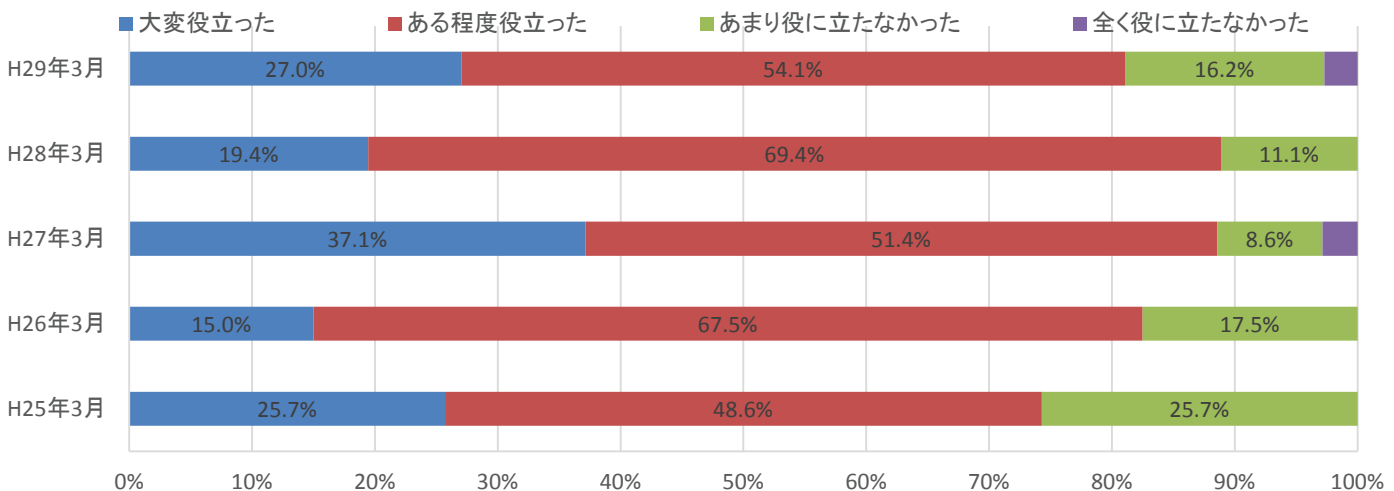
- ・「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」は全学で 82.5%が役立ったと回答した。研究科別では地域学研究科が特に高い94.4%の役立ち度、工学研究科82.3%、医学系研究科82.1%、農学研究科77.1%の高い役立ち度だった。
- ・修了年別ではH28年3月が最も高い88.9%、H25年3月が最も低い74.3%だった。

## d. 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力

### 【全学・研究科別】



### 【修了年別】

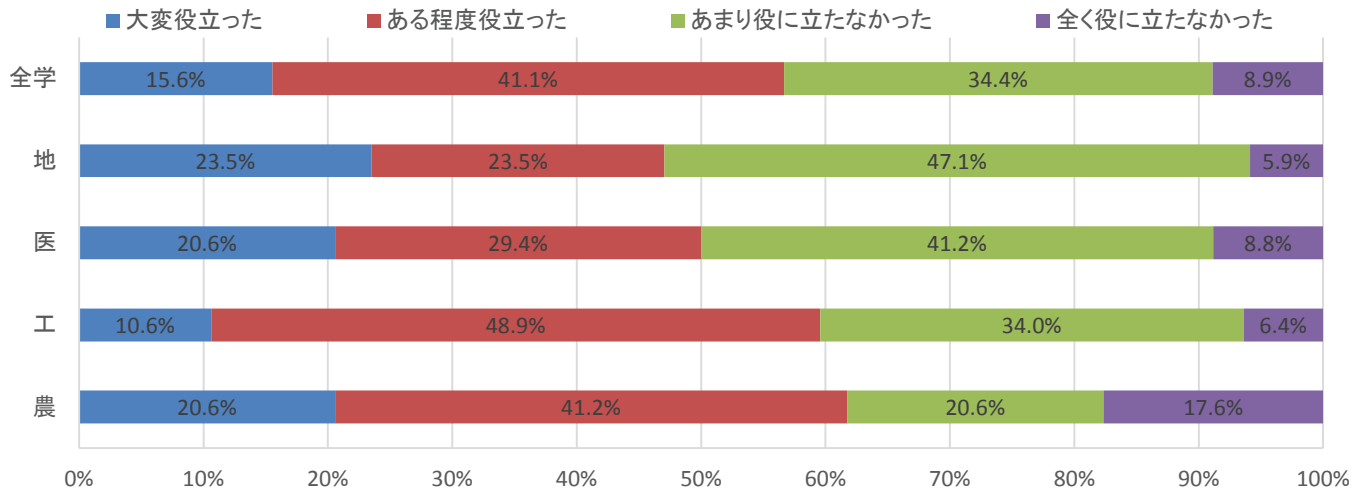




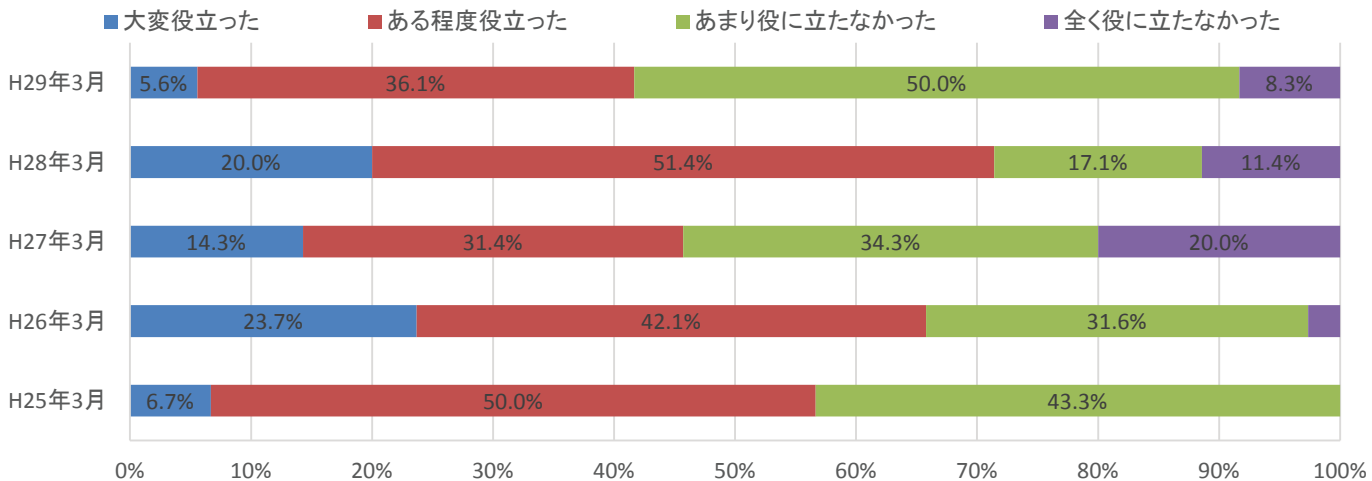
- ・「IT時代に対応した情報スキル」は全学で56.7%が役立ったと回答した。研究科別では農学研究科と工学研究科が6割前後、医学系研究科が5割、地域学研究科が5割弱(47.1%)だった。
- ・修了年別ではH28年3月が最も高く71.4%、H29年3月が最も低い41.7%であり年度間でばらつきがあった。

## e. IT時代に対応した情報スキル

### 【全学・研究科別】



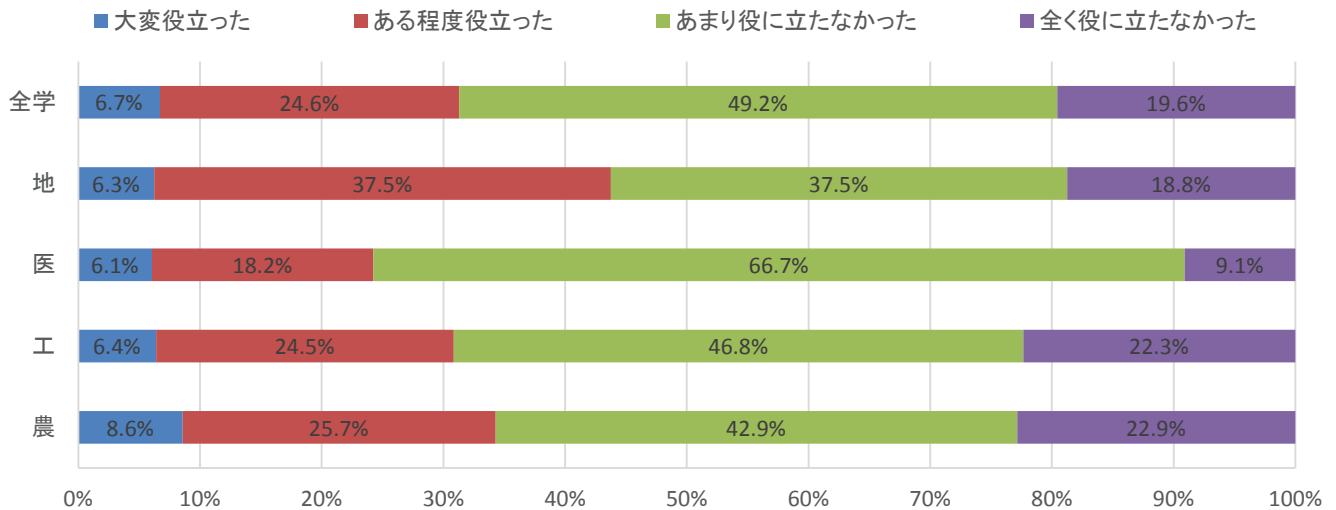
### 【修了年別】



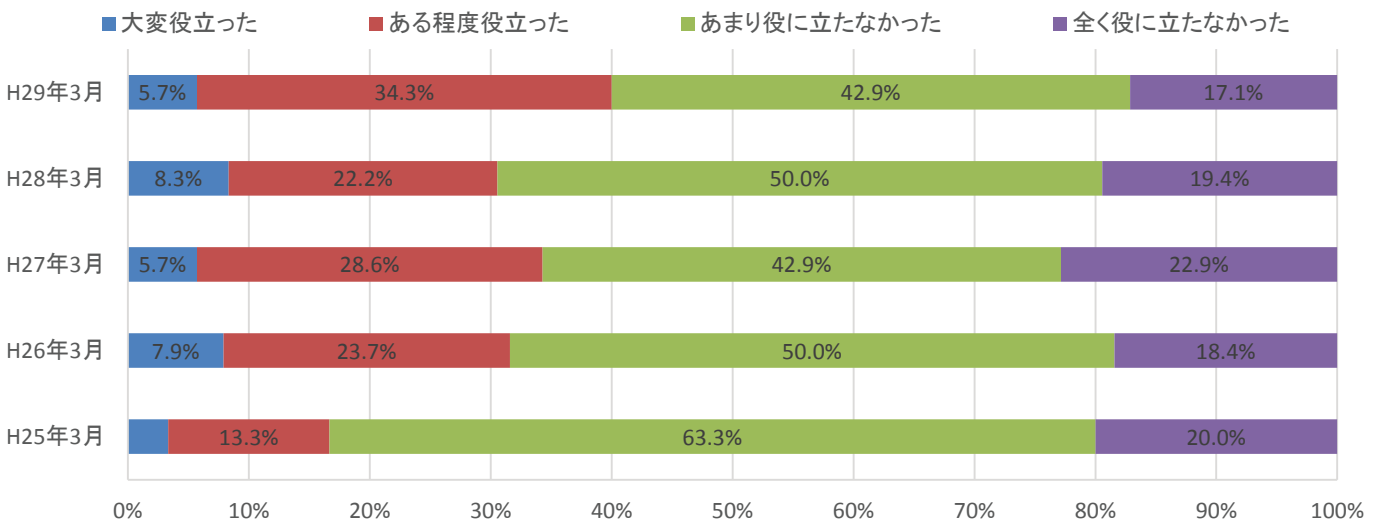
- ・「語学など国際化への対応能力」は全学で31.3%が役立ったと回答した。研究科別では最も高い地域学研究科が43.8%、続いて農学研究科34.3%、工学研究科30.9%、医学系研究科24.2%の役立ち度だった。
- ・修了年別ではH25年3月は16.7%だったが、H26年3月以降3割～4割に増加した。

## f. 語学など国際化への対応能力

### 【全学・研究科別】



### 【修了年別】

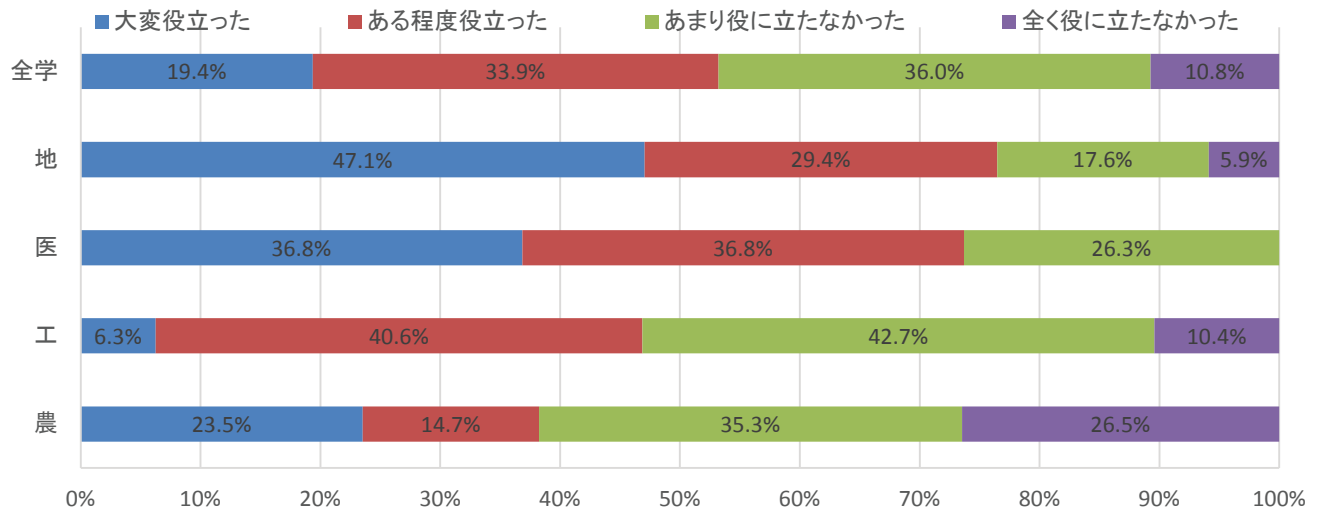


・「実務に即戦力として使える専門知識や技術」は全学で53.2%が役立ったと回答した。研究科別では地域学研究科(76.5%)と医学系研究科(73.7%)が7割以上であったが、工学研究科は46.9%、農学研究科は38.2%にとどまり、研究科間で差がある。

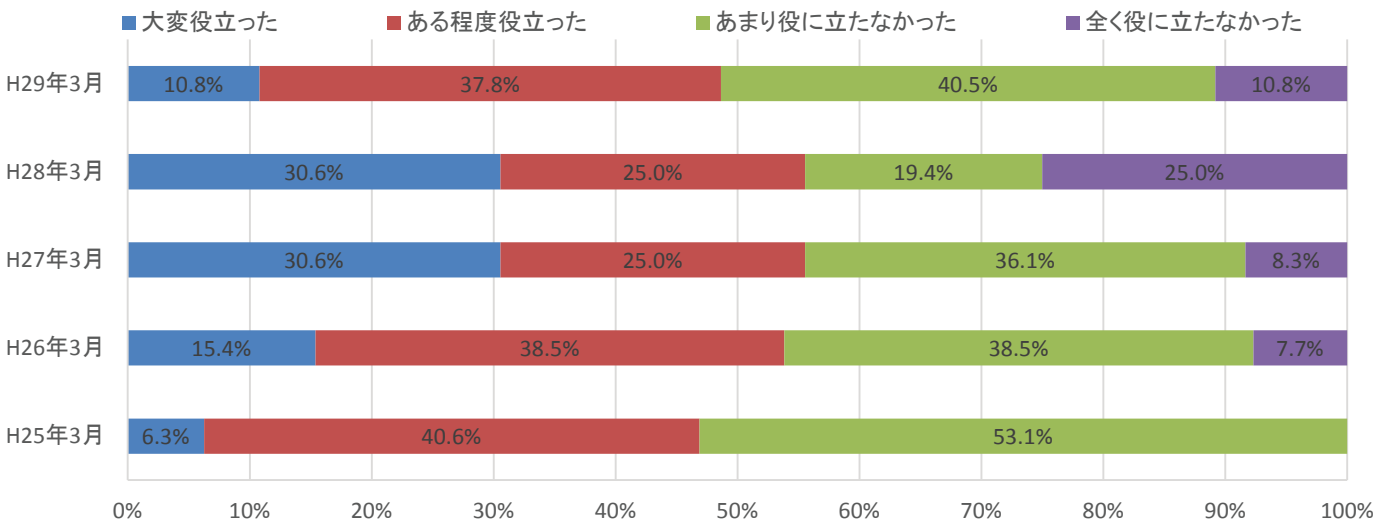
・修了年別ではH25年3月が最も低い46.9%、H27年3月およびH28年3月が最も高い55.6%だった。

## g. 実務に即戦力として使える専門知識や技術

### 【全学・研究科別】



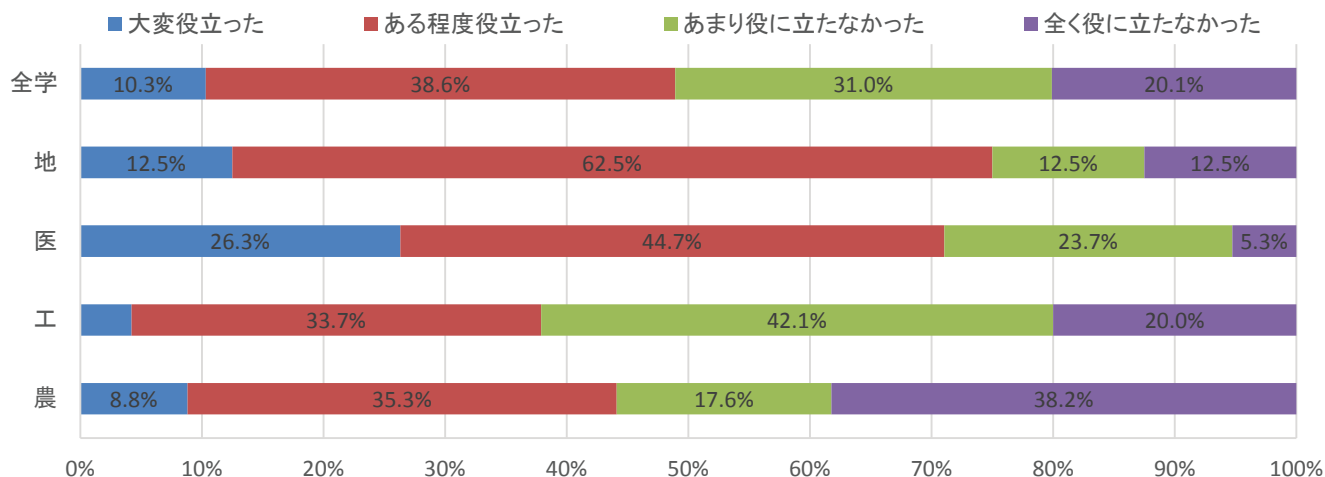
### 【修了年別】



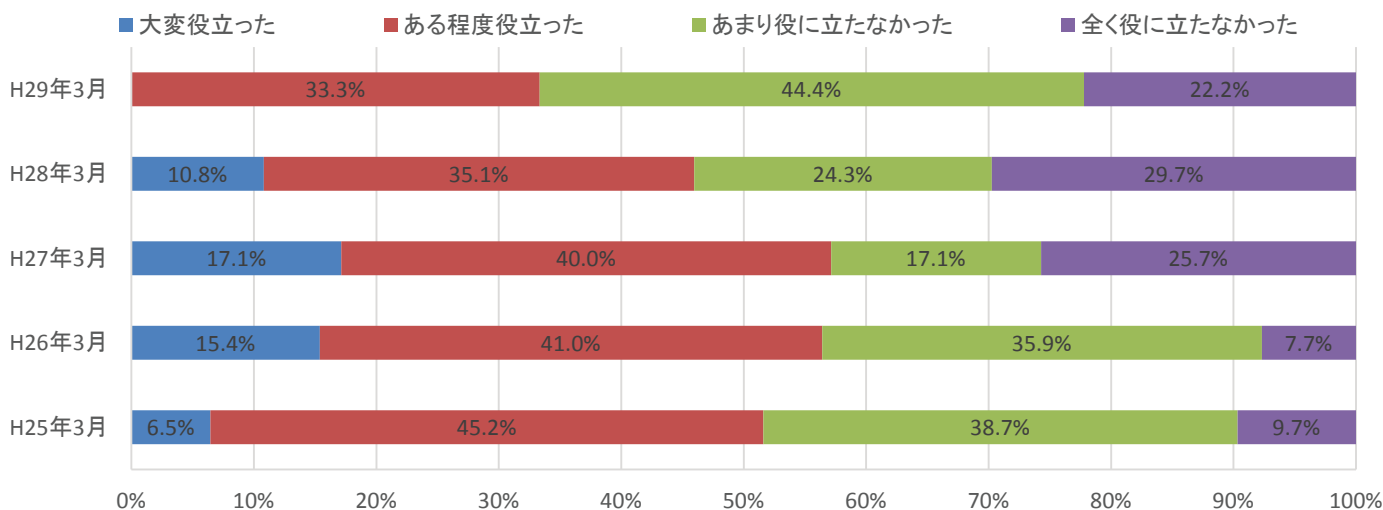
- ・「資格取得による専門知識と活用能力」は全学で48.9%が役立ったと回答した。研究科別では7割以上が役立ったと回答した地域学研究科(75.0%)と医学系研究科(71.1%)に対して、農学研究科は44.1%、工学研究科は37.9%であり、研究科間で差がある。
- ・修了年別ではH27年3月が最も高く57.1%で、H29年3月が最も低い33.3%だった。

## h. 資格取得による専門知識と活用能力

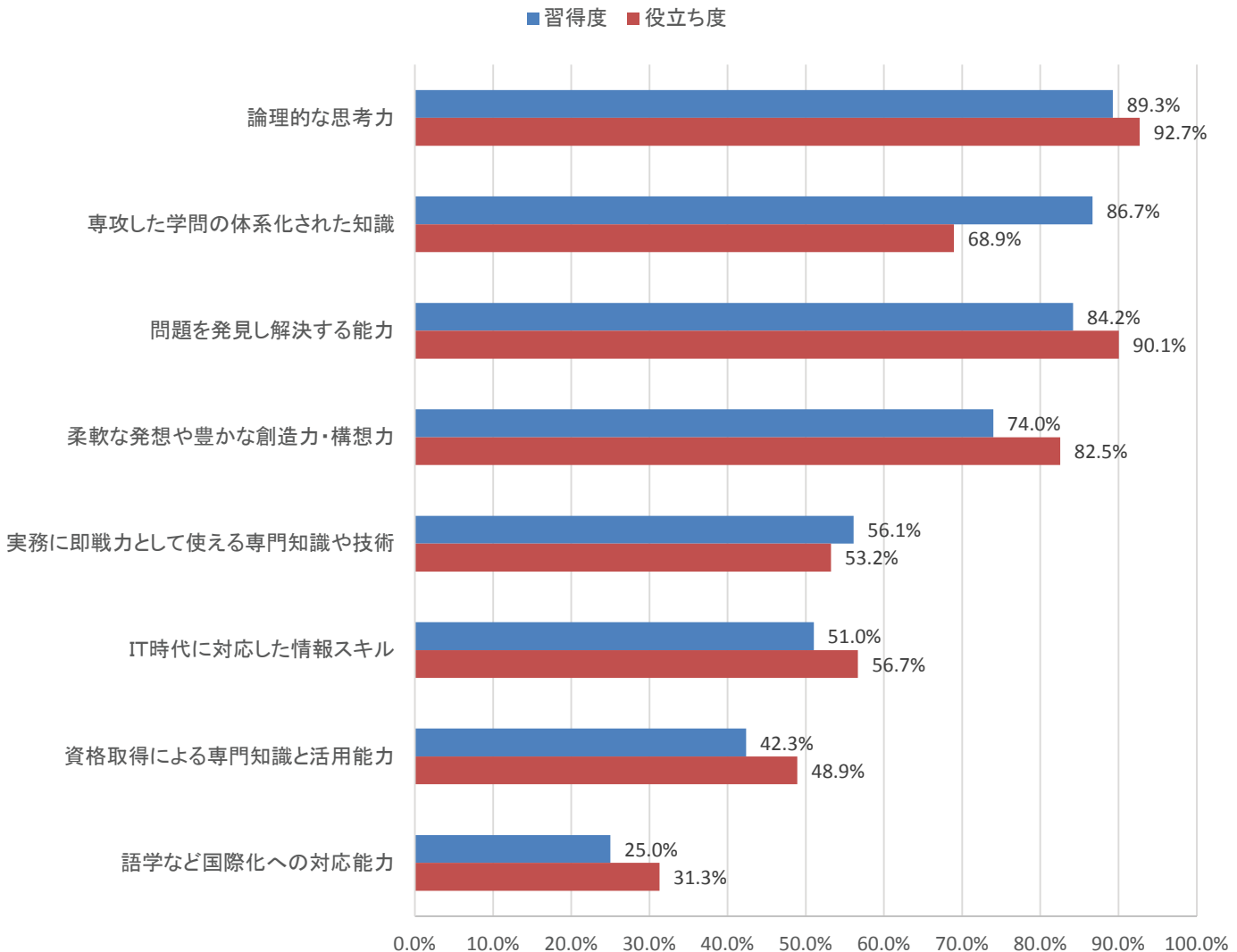
### 【全学・研究科別】



### 【修了年別】

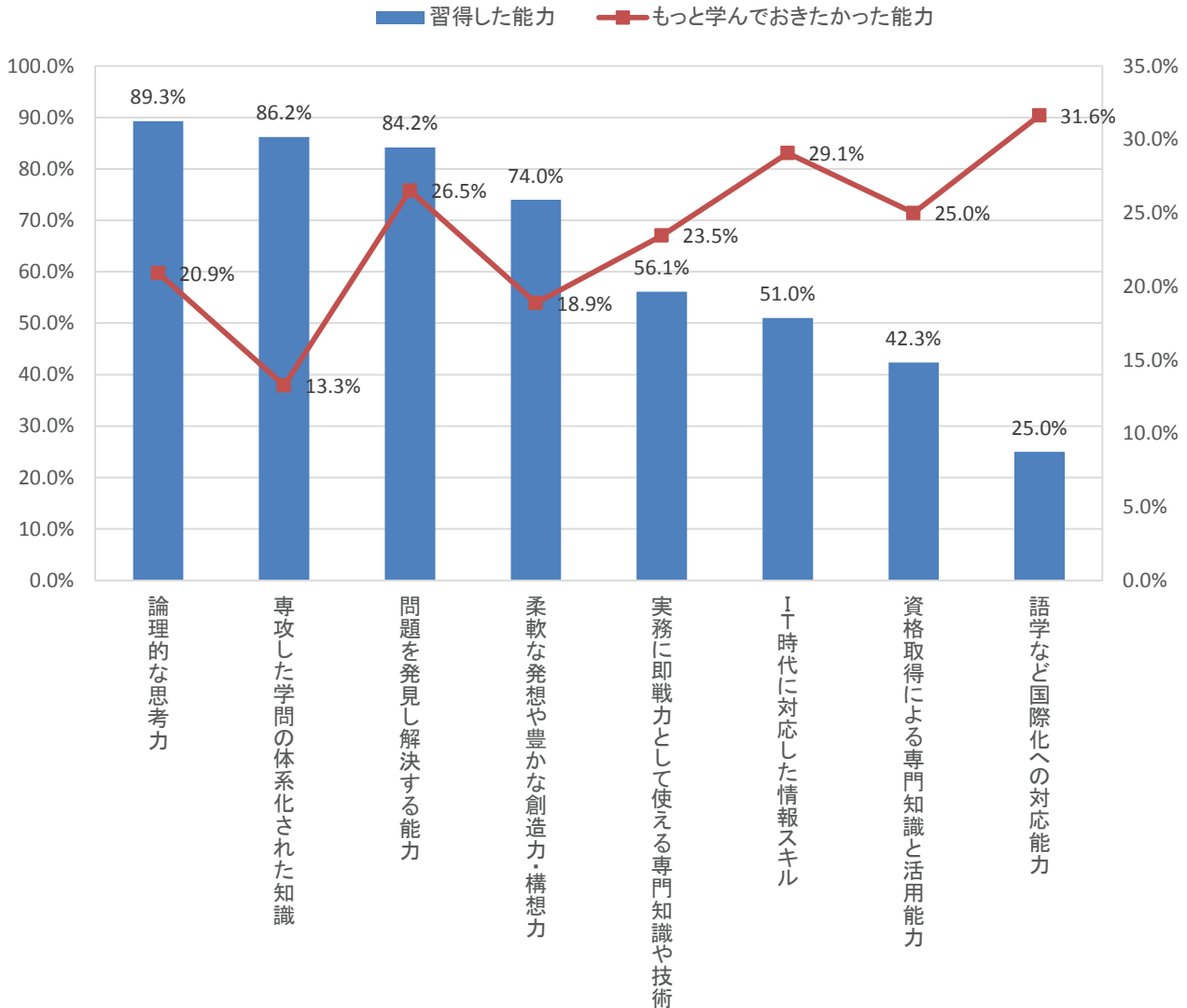


「習得度」(「大変習得できた」+「ある程度習得できた」)と「役立ち度」(「大変役立った」+「ある程度役立った」)を項目毎に比較した。「専攻した学問の体系化された知識」は習得度86.7%に対して役立ち度が68.9%で下回り、「実務に即戦力として使える専門知識や技術」も役立ち度がわずかに下回ったが、その他の項目は役立ち度が習得度を少し上回った。



・「Q5:鳥取大学大学院での能力・技術・知識等の習得度」及び「Q6:大学院で もっと学んでおきたかった能力」において質問した8項目について、回答率を比較した。前者は、各項目の回答総数(196件)に対する肯定的回答数(「大変習得できた」+「ある程度習得できた」)の割合を「習得した能力」、後者は、回答総数(196件)に対し、8項目から複数選択した各項目の回答数の割合を「もっと学んでおきたかった能力」として示す。

・「もっと学んでおきたかった能力」は「語学など国際化への対応能力」(31.6%)が1位、「IT時代に対応した情報スキル」(29.1%)が2位であった。一方、「習得した能力」において「語学など国際化への対応能力」は最も低い25.0%だった。



# 第Ⅲ部

## 就職先企業に対する 調査結果

## 1. 目的

卒業生の就職先企業から見た、学生の学習成果について、調査・分析を行う。

## 2. 対象

平成25年3月～平成29年3月(過去5か年)の本学卒業生の就職先企業

## 3. 実施・回収時期

平成30年3月下旬～5月末迄

## 4. 実施方法

教育支援・国際交流推進機構キャリアセンターが保有する卒業生の就職先企業データを活用し、企業へアンケート調査票を送付して協力を依頼。  
郵便局の料金受取人払いによる回収。

## 5. サンプル件数

1,963件送付、462件回収(回収率23.5%)

## 6. アンケート項目

- ・基本属性(Q1:従業員規模/Q2:業種/Q3:所在地)
- ・新卒採用活動で重視する学生の能力・態度等(Q4)
- ・学部卒・大学院修了者に求める能力・態度等の違い(Q5)
- ・本学卒業生の採用実績(Q6:人数/Q7:学部・研究科)
- ・本学卒業生のイメージ(Q8)
- ・本学卒業生の能力・技術・態度等(Q9)
- ・教育・学生支援改善のための意見・要望等(Q10)

## 7. その他

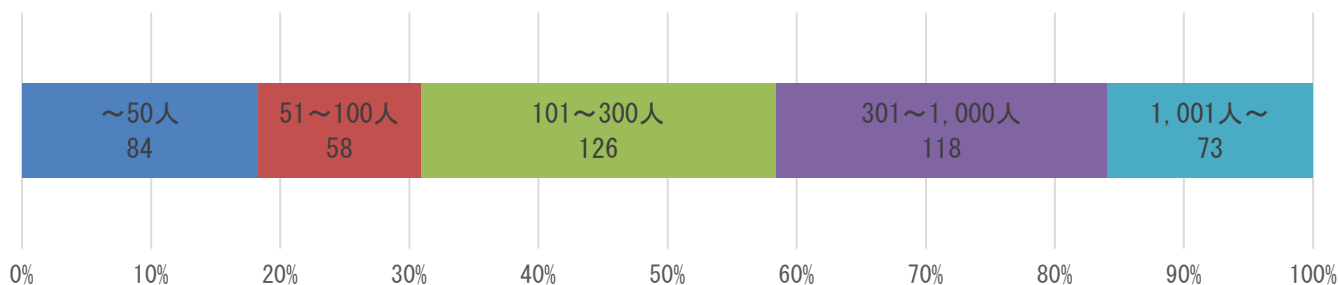
- \* 本調査結果においては、特にことわりのない限り、「卒業生」は学部卒業生と大学院修了生の双方を指す。



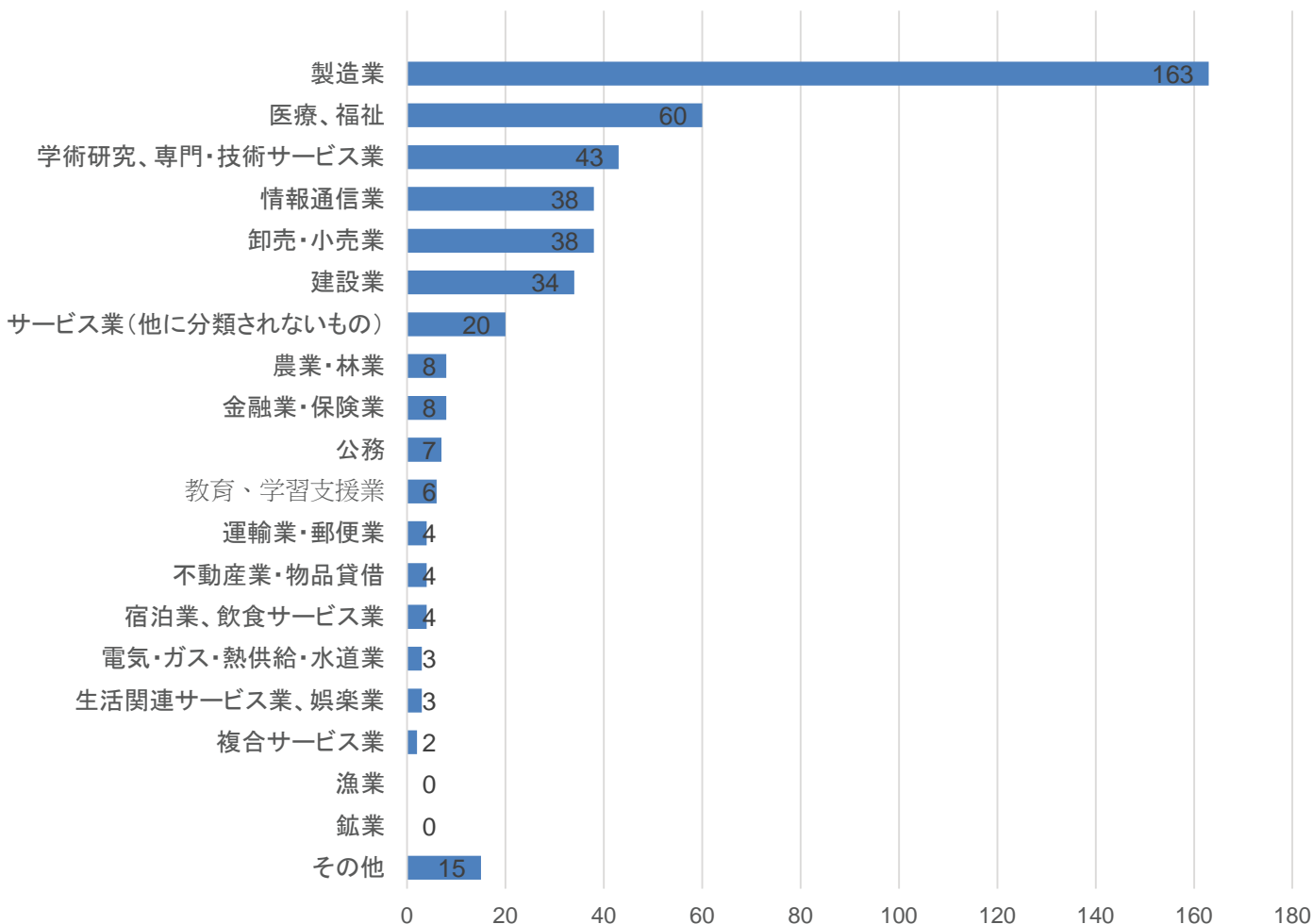
# 第1章

## 回答企業の属性・新卒者 一般に関する回答

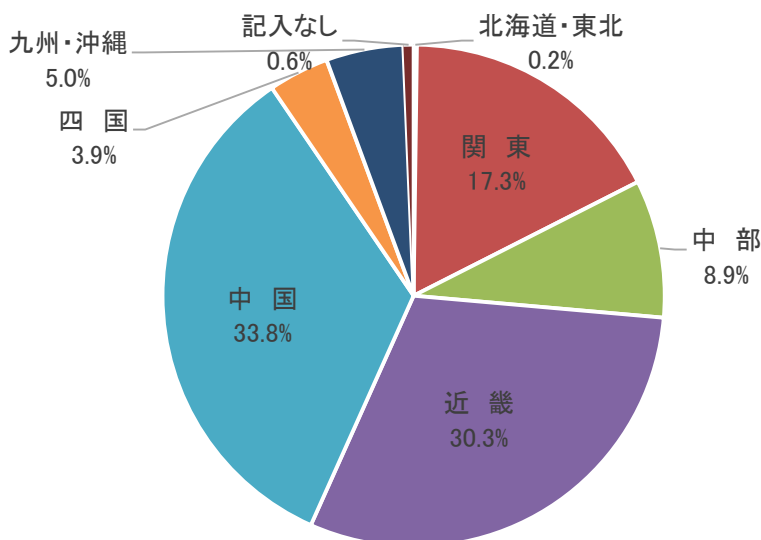
従業員規模(正規従業員)



業種

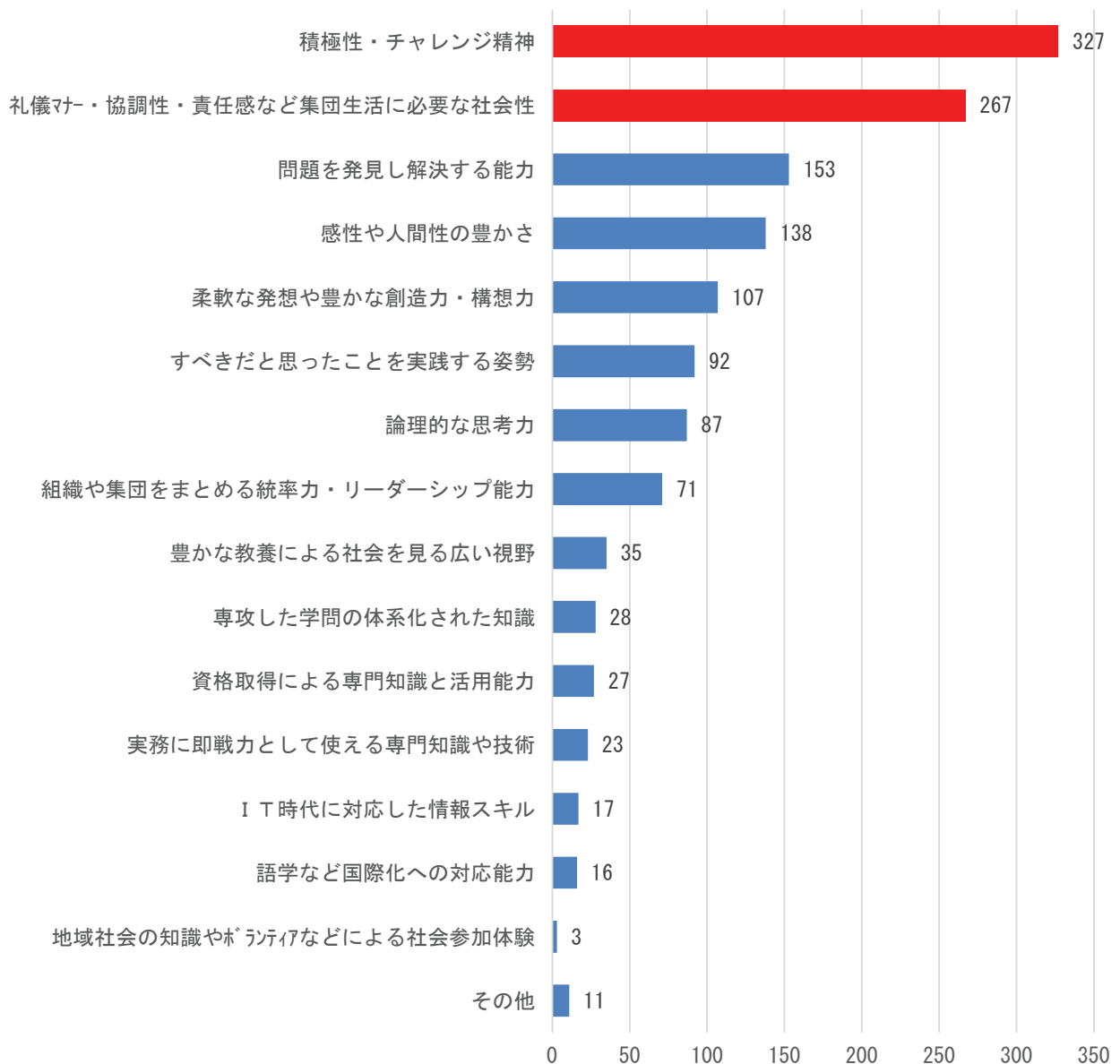


- ・中国地方に本社(本部)を置く企業が全体の3分の1を占め、次いで近畿地方の企業も3割を占めた。
- ・また都道府県別にみると、鳥取・大阪・東京・兵庫・岡山の順となった。



| 九州・沖縄     | 四国       | 中国               | 近畿               | 中部        | 関東               | 北海道・東北   |
|-----------|----------|------------------|------------------|-----------|------------------|----------|
| 23        | 18       | 156              | 140              | 41        | 80               | 1        |
| 福岡県<br>11 | 徳島県<br>4 | <b>鳥取県</b><br>70 | 滋賀県<br>5         | 新潟県       | 茨城県              | 北海道      |
| 佐賀県<br>3  | 香川県<br>4 | 島根県<br>23        | 京都府<br>15        | 富山県<br>1  | 栃木県<br>1         | 青森県      |
| 長崎県<br>2  | 愛媛県<br>9 | <b>岡山県</b><br>37 | <b>大阪府</b><br>65 | 石川県<br>3  | 群馬県              | 岩手県      |
| 熊本県<br>2  | 高知県<br>1 | 広島県<br>23        | <b>兵庫県</b><br>51 | 福井県<br>4  | 埼玉県<br>2         | 宮城県<br>1 |
| 大分県<br>1  |          | 山口県<br>3         | 奈良県<br>3         | 山梨県<br>1  | 千葉県<br>7         | 秋田県      |
| 宮崎県<br>1  |          |                  | 和歌山県<br>1        | 長野県       | <b>東京都</b><br>62 | 山形県      |
| 鹿児島県<br>3 |          |                  |                  | 岐阜県<br>1  | 神奈川県<br>8        | 福島県      |
| 沖縄県       |          |                  |                  | 静岡県<br>6  |                  |          |
|           |          |                  |                  | 愛知県<br>19 |                  |          |
|           |          |                  |                  | 三重県<br>6  |                  |          |
| 記入なし<br>3 |          |                  |                  |           |                  |          |

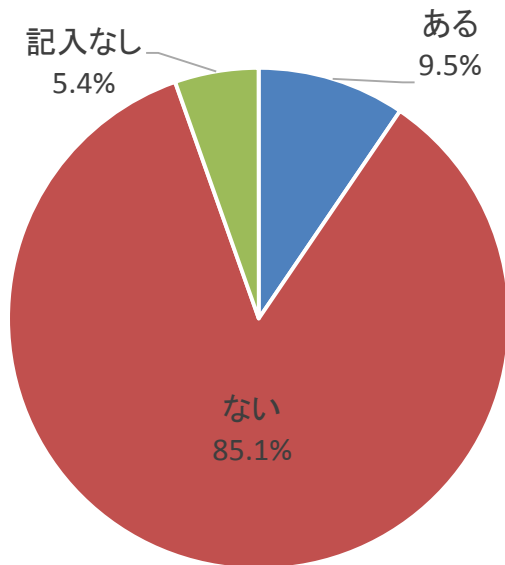
・近年の新卒採用活動で重視する、学生に求める能力・態度等を優先順位の高いもの3つまで聞いたところ、「積極性・チャレンジ精神」と「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」の2項目が特に抜きんで多く回答を集めた。この傾向は、前回（平成24年度）調査とも共通している。また、「問題を発見し解決する能力」、「感性や人間性の豊かさ」、「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」、「すべきだと思ったことを実践する姿勢」も回答数が多かった。なおこの点も、前回調査とほぼ同じである。



# 学部卒／大学院修了者間に 求める能力・態度等の違い

・直近5年間の新卒採用活動において、学部卒業者と大学院修了者のあいだに求める能力・態度等に違いがあるかどうかを聞いたところ、「ない」と回答した企業・団体等が全体の8割以上を占め(393件)、「ある」と回答したのは全体の1割程度の44件にとどまった。

・さらに、求める能力・態度等に違いがある場合、どのような能力・態度等をどちらに求めるか具体的な違いを聞いたところ、大学院修了者に対してはより高度な専門知識・技術を求める、という趣旨の回答が大半を占めた。また、同期やグループをまとめていく力や、リーダーシップについての言及も複数みられた。これらの回答内容も含めて、大学院修了者には、大学院在籍中の経験を通じて培われる能力や態度等に期待するという趣旨が寄せられた。



# 求める能力・態度等の違い(具体的記述)

## 【ある】(1/2)

### 【ある】と回答した場合の具体的記述

- ・大学院卒業者には即戦力となる**専門的知識**を有した人材を望む
- ・能力態度等個々人の違いがあり、院卒は修学年数多い分知識は豊富ですが一概に院卒が良いとは限りません。  
Q4の(5)(10)のようなものを備え持った人材を求めます。
- ・**専門性**
- ・Q4の7.13.は大学院修了者に求めたいと思います
- ・**専門性**
- ・即戦力即実用をより大学院卒に求める
- ・**専門的知識**、問題解決力
- ・学部：新卒者として柔軟に配属に部署に適應できるかどうか。院：**専門性**(理系の場合)
- ・**同期の中でのリーダーシップ**を發揮してほしい。**専門知識**はより深くあることを求めます。
- ・大学院卒業者には概念形成力、課題分析・解析力を求める
- ・院卒業者には学部卒業者よりも、より**専門的知識**を求める
- ・その分野に求める**専門的知識**
- ・**専門性**
- ・論理的検証能力、解析能力、シュミレーション能力、思考の多彩さ
- ・大学院卒には、学部卒より、より**専門的な能力**を求める。
- ・**専攻分野の知識**、社会性
- ・院卒へはより**高い学識**を期待している
- ・いわゆる上位校と呼ばれる大学は大学院生が優秀、中位校くらいになると同じ程度になる。
- ・大学院卒業者により**専門的な知識**を求めます。
- ・大学院卒業者には**高度な専門知識**に加え、**グループ内での調整能力**を期待します。
- ・大学院で学んだことによるより**高度な専門知識**
- ・**専門性の高い知識**を求める
- ・大学院卒業者には、**専門知識**を活かし、技術職幹部等として勤務してもらいます。
- ・**専門性**、ものごとを探求する力
- ・院卒の方が、こだわりが強くなる傾向が伺えます。
- ・院卒者は専門領域については、色々語れるが、それ以外の分野だと情報が乏しく、視野が狭い傾向にある。
- ・大学院卒業者には学部卒業者よりも幅広く、**専門的な知識**を求めます。
- ・電気の専門職であるが、仕事の広がりになると基礎にしがみついて進めない。  
実践力不足かと思われる。
- ・同期の中では、年長者になるので**リーダーシップ**を發揮してほしい。
- ・大学院卒業者には実務と並行しての研究姿勢(学会での発表等を目標に)
- ・大学院卒業者は、経験、知識が豊富なものと考えているので、より積極性があり、人間性の豊かな人であることに期待している。また、系統的に物事を考え、推測、まとめる能力があることに期待している。
- ・院卒のほうが圧倒的に実験の経験が豊富で特に研究職では院卒のみの採用となっています。
- ・より**専門的な視野**から来る深い洞察力と経験から来る幅広い知識
- ・**専攻された学問の知識の深さ**、発表等のスキル
- ・大学院卒は研究に対するアプローチ方法や人間性。学部卒は各学科の基礎知識や人間性。
- ・イノベーション力、感性です
- ・院卒者は、学卒者と比べ年齢が上ということもあり、まずは**同期をまとめていく**、**リーダーシップ**を求めます。また、同じ観点から、礼儀・マナーであったり、理系であれば**専門性**も求めます。

# 求める能力・態度等の違い(具体的記述)

## 【ある】(2/2)・【ない】

### 【ある】と回答した場合の具体的記述 (つづき)

- ・大学院卒業者は学部卒業者よりも**高度な専門知識**を習得しているものとみなされ、入社後は早期に業務の改善や効率化を進めていくことが期待される。
- ・自分で問題を解決する能力、また態度を求めます。実際に解決しきれなくとも、どのようなアプローチをふむべきか考えたり、自ら調べるなどして自発的な取り組みができることを期待します。
- ・学部卒業者は主に営業職としての社会性。大学院卒業者は研究・開発職等の**専門性**。
- ・能力において、学部卒業生に比べ、より**専門的な知識**を問う。  
態度において学部卒業生に比べ、年齢を考慮し、よりマナー・協調性を問う
- ・大学院卒業者には、理系の研究職としての**高い専門性**と思考力を求める。  
学部卒業者には、入社後に専門性を身に付ける為のベースの知識を求める。
- ・より**専門的な視野**から来る深い洞察力と経験から来る幅広い知識

### 【ない】と回答した場合の具体的記述

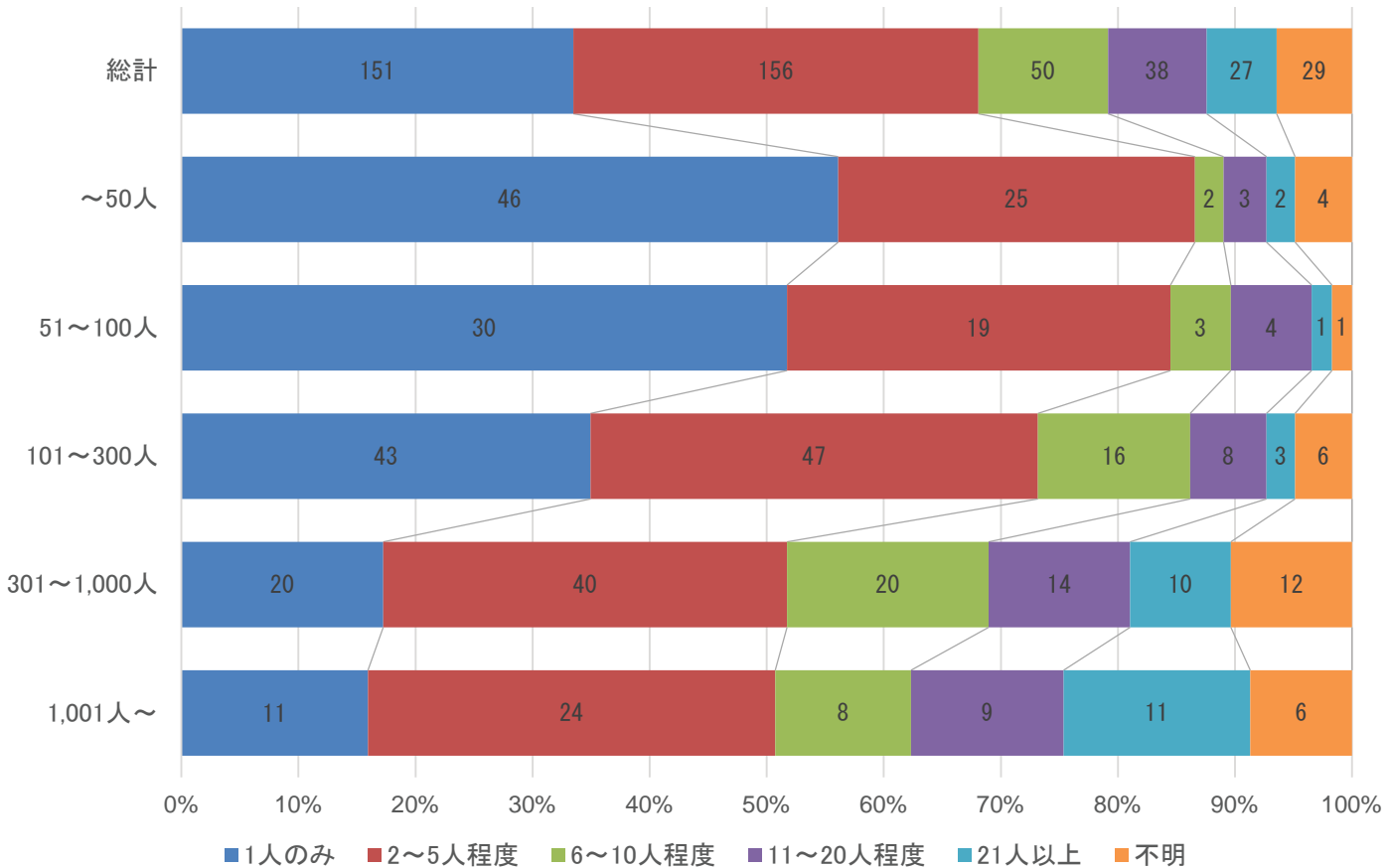
- ・熱意・元気さ・声の大きさ・はっきりと思ったことを言う、これらの力
- ・院卒生には学部生以上に高い専門知識を備えてほしい
- ・Q4の力を具体化していただくまでの速度。  
社内には中途や現場にも院卒学卒多数いらっしゃいます。新人の方はそれがわからず、自分は「かしこい」オーラをだして失敗することが多いようです。  
即戦力になる方はほんの一握りで将来性を期待していますので、人間力を身に付けて社会に出ていただきたいと考えます。
- ・基本的な技術レベルに差があるのは仕方ないので共に問題発見とそれを論理的に解決できる思考を持つ学生が欲しい。
- ・真面目で協調性のある優秀な人材です。
- ・獣医学は6年間で国家資格がとれるためほとんどが学部卒業者のみしか採用したことがないので、差がよくわかりませんが、臨床においては社会人になってからが勝負だと思っています。

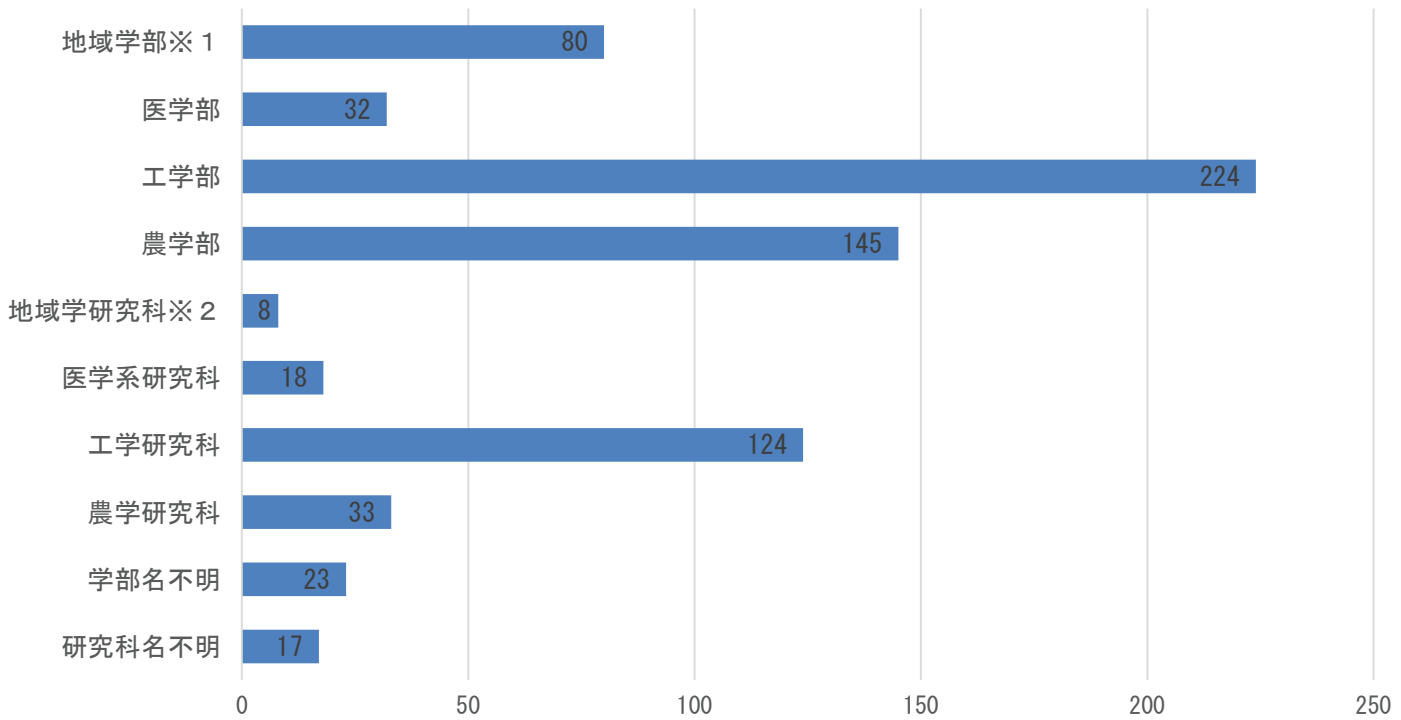
# 第2章

## 本学卒業生に関する回答



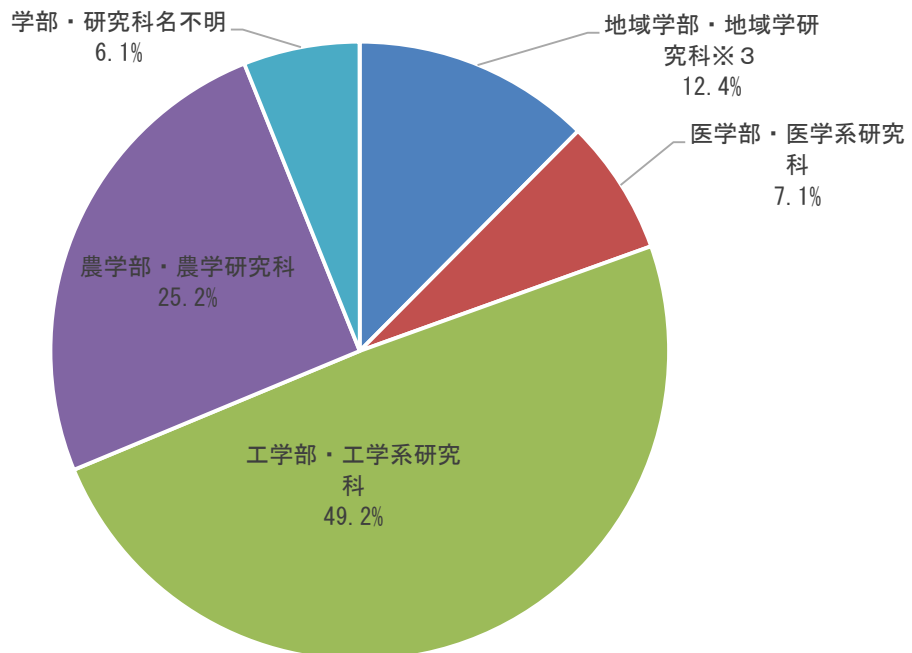
・各社がこれまでに採用した本学卒業生の実績人数は、おおむね従業員規模(正規従業員)に比例するかたちとなっている。





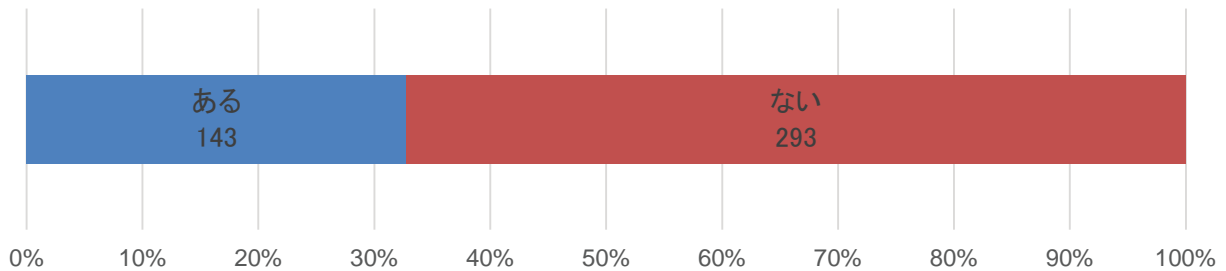
※ 1 : 旧教育地域科学部・教育学部を含む

※ 2 : 旧教育学研究科を含む



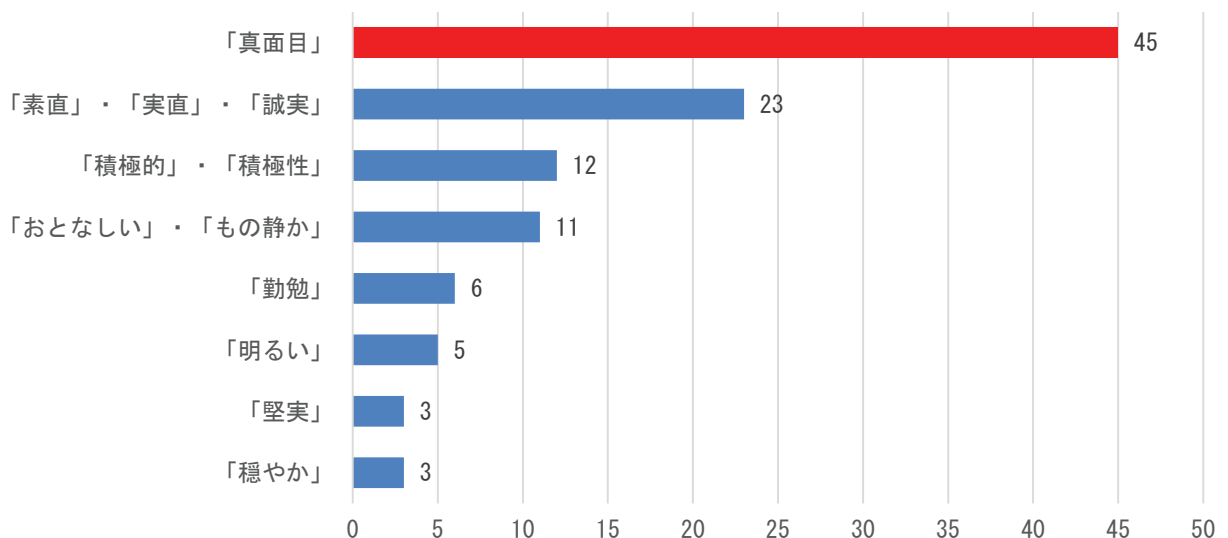
※ 3 : 旧教育地域科学部・教育学部、旧教育学研究科を含む

・本学卒業生の印象として、何かイメージされる特徴があるかどうかを聞いたところ、「ある」と回答した企業・団体等は「ない」と回答した企業・団体等の半分程度にとどまった。なお、従業員規模別の集計では、特に差はみられなかった。



・また、イメージされる特徴がある場合、それを具体的に記入してもらったところ、単語の出現度数として最も多かったのが「真面目」・「まじめ」で、45件と抜きん出た。以下、「素直」・「実直」・「誠実」(23件)、「積極的」・「積極性」(12件)、「おとなしい」・「もの静か」(11件)、「勤勉」(6件)、「明るい」(5件)、「堅実」(3件)、「穏やか」などが続いた。

イメージされる具体的な特徴



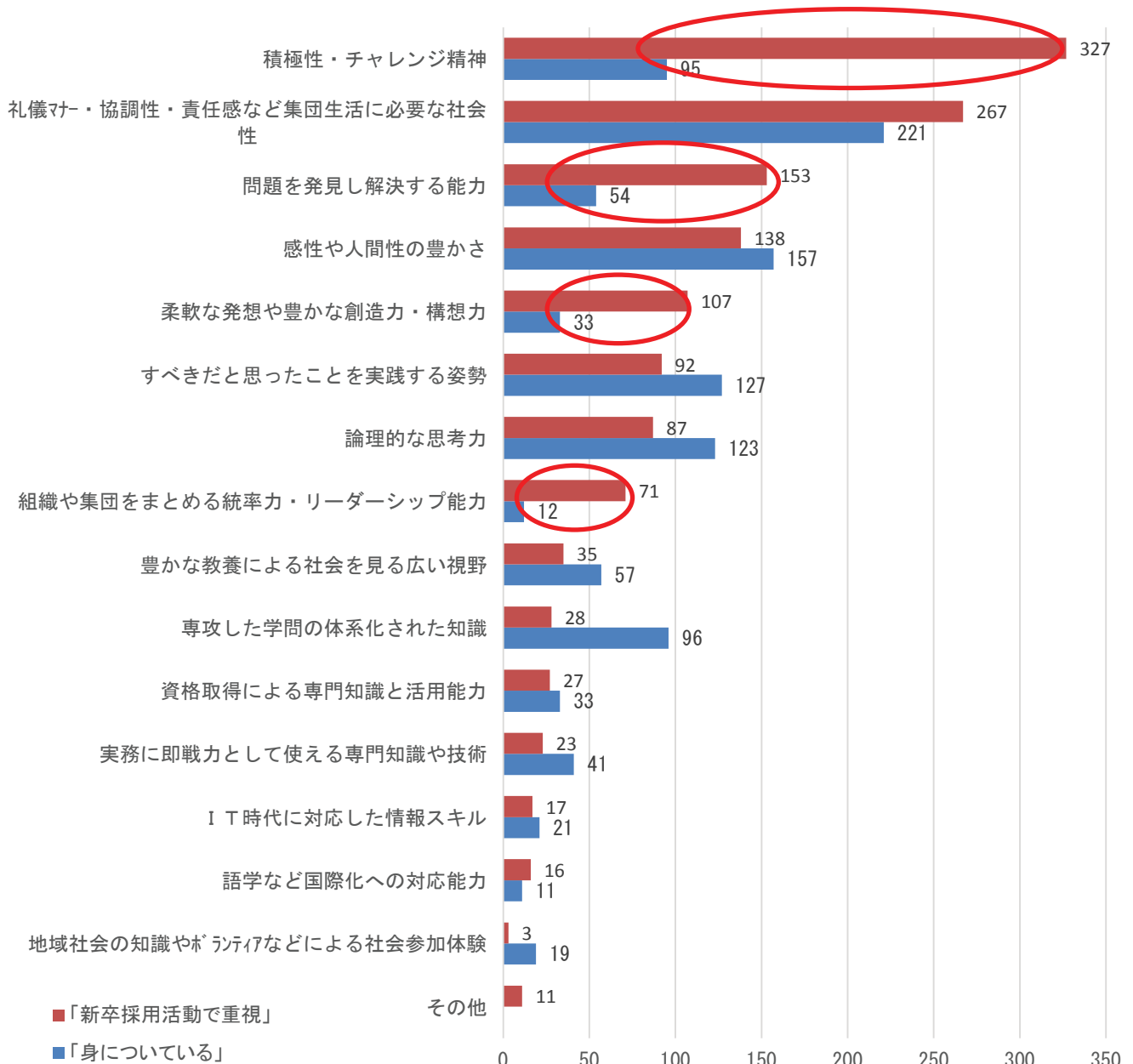
- ・明るい前向き
- ・明るく素直でありまた芯がある。
- ・明るく素朴
- ・明るくハキハキと話をし、能動的にアクションを起こす印象です
- ・穏やかな学生が多いイメージ
- ・穏やかな性格で職場にすぐ馴染むことができる。自ら指揮を執ることは少ないが、指示されたことに対する対応力は高い。
- ・穏やかな性格で信頼できる人間性。好印象。  
リーダーではなくリーダーをしっかり支えてくれる重要なポジション。
- ・落ち着いた感性豊かな人間性
- ・落ち着いており、業務遂行能力が高い
- ・落ち着きがあり、実直、**真面目**。
- ・おとなしい(3件)
- ・大人しい、鬱傾向にある
- ・おとなしくて**真面目**な印象
- ・会社の業種と関連の深い学問を研究している大学というイメージを持っている
- ・活発で自由奔放なイメージを持っています。何事にも積極的に取り組んでおり、職場を引っ張ることのできる活力あふれる人材です。
- ・頑固、ひたむき
- ・貴校卒業生は約20年前の入社が最後になりますが、ほぼ在籍しており、また、当社の重要なポジションを担っている者ばかりです。
- ・基本的な知識はあるが、応用力に欠ける
- ・勤勉 誠実
- ・勤勉・誠実・新しい知識を吸収するスペックが大きい。
- ・勤勉で規律正しいイメージがある。
- ・グループ等の集団行動で、ムードメーカーになる人が多く見られる。
- ・県外学生、**まじめ**で論理的な思考力も持った学生
- ・元気で明るいイメージ
- ・元気で素直です
- ・元気な方が多いと感じます。実際に若手でもリーダーとして活躍頂いている方もいます。
- ・堅実
- ・堅実、地域密着型、**真面目**
- ・堅実に業務をこなしている
- ・工学系の大学としての印象が強く、学生も勤勉と感じる
- ・工学部出身者が多数であり豊かな感性及び専門知識は十分であるが、統率力、リーダーシップ能力が加われば申し分ない。
- ・行動・思考が**真面目**でしっかりしている。
- ・国際感覚
- ・国立大学のプライドを良いイメージで感じています
- ・コツコツとものごとに取り組む姿勢
- ・コツコツと物事に取り組む姿勢がある
- ・コミュニケーション力、積極性を兼ね備えている。
- ・仕事に対して愚直に取り組む結果を出し続ける。
- ・仕事に対して熱心に取り組む人が多い
- ・自然に興味を持った学生が多い

- ・しっかりしている
- ・しっかりしている。現場に慣れるのが早い
- ・質実剛健
- ・実直、ひかえめ、まじめ
- ・実直、真面目
- ・実直真面目だが俊敏さやアクティブさに欠ける
- ・自分の意見をしっかりと持ちつつ、その中で協調を意識し、他者を尊重することができる。
- ・自分の意見をしっかりと持っている
- ・自分の考えや想いは持っているが、自発的なコミュニケーションは少なく、全体的に大人しい印象
- ・地道にコツコツと仕事をやり遂げるイメージがある
- ・地元に着着を持っている。鳥取を盛り上げたいと考えている学生が多いように感じる。
- ・社交的でコミュニケーション能力に長けているイメージ
- ・柔軟性に優れ、真摯に物事に取り組む姿勢が身に付いておられます。  
また、中国地方に留まらず、全国で活躍される適応力があります。
- ・主体的なイメージ
- ・純粋な人間が多く、たくさんの知識を吸収して適応能力に優れている。
- ・親近感があり、真面目な印象。
- ・素直、前向き、チームワークを大事にする。コミュニケーション能力が高い。
- ・素直さ
- ・素直さ、愛嬌
- ・素直で真面目である。考える力など基礎能力高い。
- ・素直で真面目な性格。要領よく物事をすすめる力がある。
- ・誠実
- ・誠実・まじめ
- ・誠実でどんなことにも真剣に取り組む姿勢、責任感に優れている。  
豊富な知識や教養を活かす積極性が少し欠けているように感じる。
- ・積極性があり、主体的に行動できる学生が多い印象です
- ・積極性が高い、女性が多い
- ・積極的、専門知識
- ・積極的である
- ・専門性が高く、地域に根ざした生活、人間性である。
- ・素朴でまじめ(2件)
- ・他大学の理工系学生よりコミュニケーション能力が高い。  
理系であるが日本文化に興味を持っている
- ・知識があり真面目な印象がある
- ・地方大学だと思っていたら意外と優秀、積極性は高いと思います。
- ・地方を好む
- ・内向的、真面目
- ・忍耐力が強く、長く働いて頂ける印象があります。
- ・ねばり強さ

- ・控え目
- ・比較的おとなしく積極性にやや欠ける一方、まじめさ素直さ堅実さがあり仕事には打ち込むタイプが多いように感じる。
- ・プライドが高い
- ・朴訥、内に秘めたイメージ
- ・真面目(10件)
- ・まじめ、おとなしい
- ・真面目、個性的、優秀
- ・真面目、仕事熱心(2件)
- ・真面目、実直、積極性がある
- ・真面目、誠実(2件)
- ・真面目、積極性は少なめ、コツコツ丁寧
- ・まじめ、専門性の技術や知識を早く身に付けられる
- ・真面目、熱心
- ・まじめ、能力が高い
- ・真面目。少し大人しい。(2件)
- ・真面目でおとなしいイメージ
- ・真面目で勤勉(2件)
- ・真面目でコツコツと仕事を行う
- ・真面目でコツコツと努力する
- ・真面目で実直なイメージ
- ・真面目で純朴なイメージ
- ・真面目で素直
- ・真面目で積極性がある
- ・まじめで専門的な知識が豊富
- ・まじめで丁寧な取り組み姿勢
- ・真面目で努力家(2件)
- ・真面目でねばり強い
- ・まじめで優秀なイメージ
- ・真面目で有能
- ・真面目な印象
- ・まじめに仕事に取り組んでいる
- ・真面目に着実に任務に取り組む
- ・まじめに物事に取り組む姿勢が見られる。
- ・明朗快活かつ豊かな知性と柔軟性を有している。
- ・メンタルの弱さ・無責任
- ・もの静かであるが芯が通っている。素直な人柄、勤勉で実直
- ・もの静かでおとなしい
- ・やる気があり責任を持ってできる。
- ・やる気を感じる
- ・優秀かつ接客向き
- ・優秀な人材が多い
- ・ゆったりしたイメージ
- ・礼儀がしっかりされている方が多い。メールであったり、こちらからの連絡に対するレスポンス等様々な所で感じられる。
- ・礼儀正しく協調性がある。
- ・論理的な思考力を持ちながら、自らで考えた事を実際に行動に移せる行動力をお持ちだと感じます。

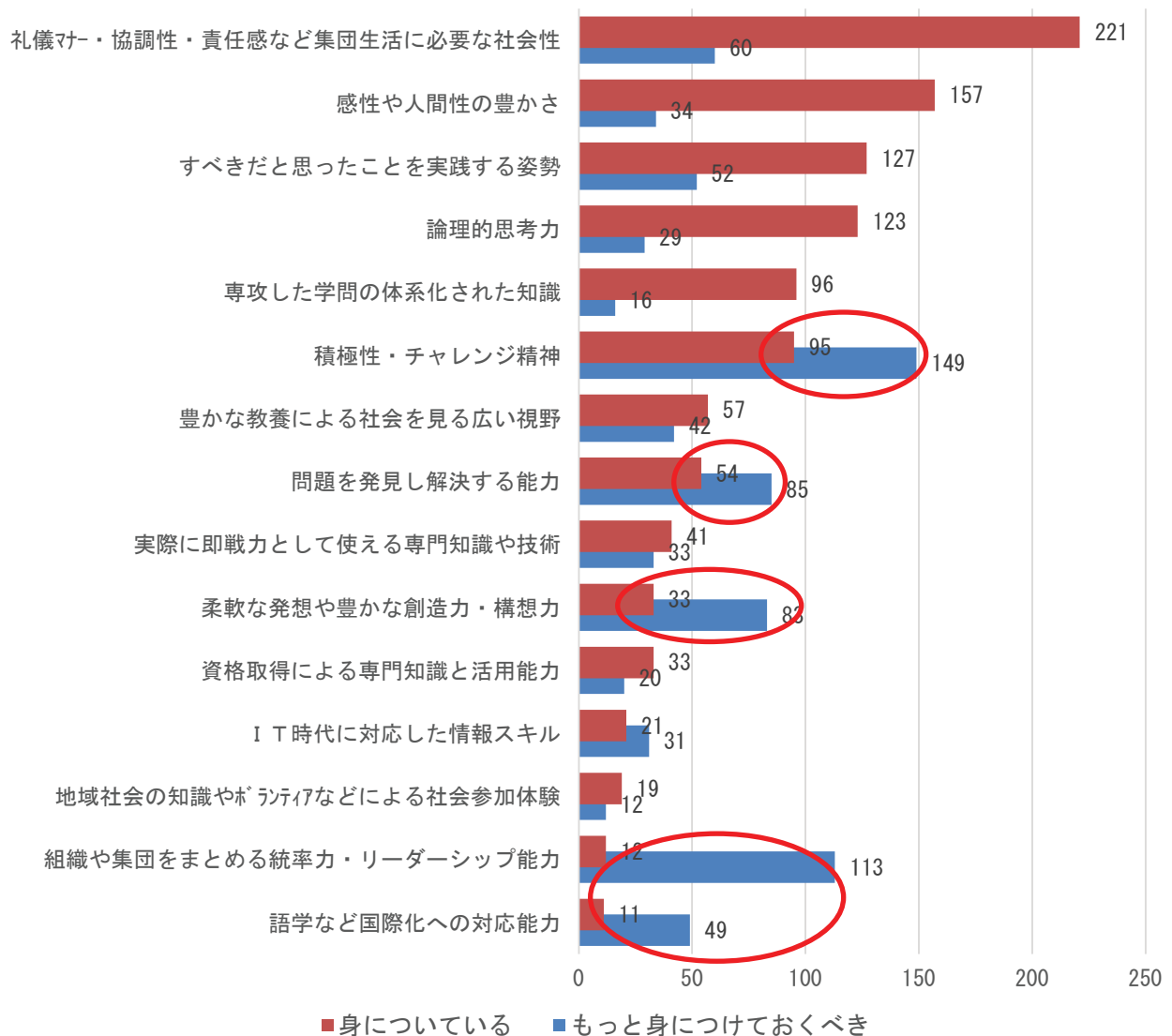
# 新卒採用時に重視する能力・態度等(問4) ×身についている能力・態度等(問9)

・新卒採用活動で重視する能力・態度等(問4)と、本学卒業生の印象として「身についている」と感じられる能力・技術・態度等(問9)を比較したところ、「新卒採用活動で重視」において最も回答を集めた「積極性・チャレンジ精神」は、本学卒業生に「身についている」とする回答は3分の1に満たず、大きな開きがみられた。同様に「問題を発見し解決する能力」、「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」、「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」についても、「身についている」が「新卒採用活動で重視」の回答数を大きく下回った。



・「身についている」が最も多く選ばれたのは「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」(221件)で、回答した企業・団体等全体(462件)の半数近くが選択している。続いて、「感性や人間性の豊かさ」(157件)、「すべきだと思ったことを実践する姿勢」(127件)、「論理的思考力」(123件)も多く選ばれた。

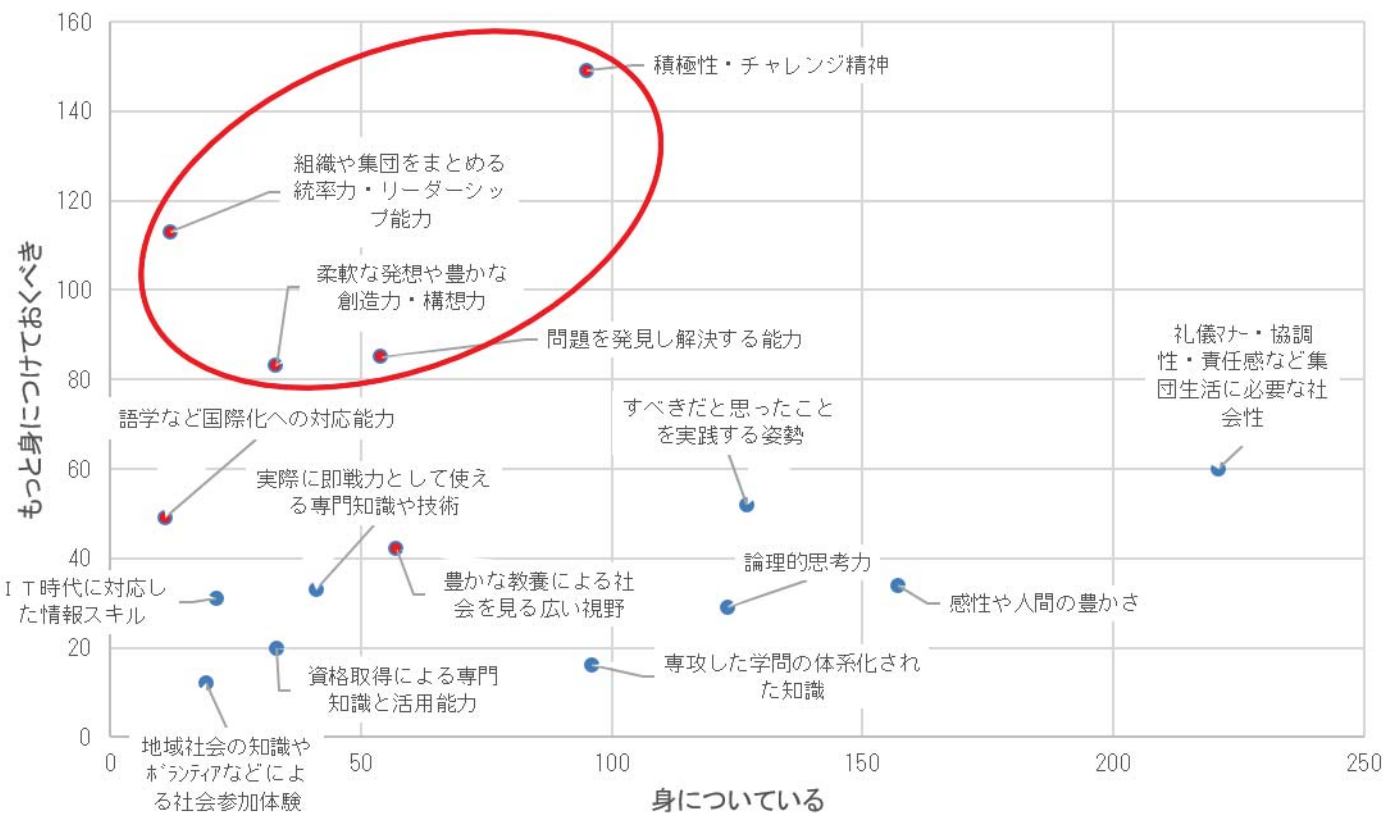
・他方で、「積極性・チャレンジ精神」、「問題を発見し解決する能力」、「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」、「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」、「語学などの国際化への対応能力」では、「もっと身につけておくべき」が「身についている」を上回った。





・「もっと身につけておくべき」が「身につけている」を上回った6項目のうち、両者の差が最も大きく開いた「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」では、「もっと身につけておくべき」の回答数が多い反面(第2位)、「身につけている」の回答数は全項目の中で下から2番目と非常に少なく、「身につけている」と「もっと身につけておくべき」の間の隔たりに加えて、大きな課題と考えられる。

・「積極性・チャレンジ精神」は、「身につけている」の回答数が第6位と一定の評価は集めたが、「もっと身につけておくべき」の回答数がそれをさらに大きく上回る(第1位)結果となった。



# 教育・学生支援の改善への意見・要望

## (自由記述) 1/3

・前回調査とは異なる今回調査の大きな特徴として、現在の企業側の人材不足感・採用難が背景にあると思われる意見・要望が多く寄せられた。卒業生の早期離職への苦言や就職支援のあり方への要望がみられたほか、インターンシップ等、学生と企業との接点を増やし、卒業後の職業社会について理解を深めるための取組の強化を求める声が多数みられた。

- ・会話力(声の大きさ・熱意・元気さ)をみがいて欲しい・実業につながる研究の充実
- ・獣医師の場合国家試験による免許の取得が必要条件ではあるが十分条件ではない。論理的思考に基づき、診断・治療へと進むものなので、しっかりした知識のよりどころとなる基礎系の見識を広くもった人材の方が実際の臨床の場における応用が効く。また、小動物臨床は飼い主さんにとっては、頼れる先生でもありきっちりとした説明ができるためには社会人のマナーとして言葉づかいが上手くないと難しい。
- ・ディスカッションや会議にて発言する積極性
- ・前年度入社の名1名だけですが、非常に努力家で上層部の期待も大きい人材です。Q9のcやdの特徴を持った人材は、教育だけではなかなか身に付きにくいものですが、企業としては是非共に働きたいと思える人材です。
- ・学生に対し厳しく指導されておられると聞いている教授が次々と退職されているのは少し危惧しています
- ・貴校に限らず学生さんは専門的な知識は身に付けられていますが、基本的な用語の定義を知らない方が目立ちます。この基本的な用語の理解があいまいな部分を明確にする教育を希望します。
- ・貴校に限ったことではありませんが、理系学生の海外勤務への意欲が年々低くなっていると感じています。当社に限らずグローバル化は進むと思われるため、強化が必要ではと。
- ・コミュニケーションスキルを高めて欲しい。社会人組織人としての謙虚さを身に付けて欲しい
- ・奨学金制度の充実を図り、貧困学生の支援を積極的にお願したい。民間企業としても支援を惜しまない。
- ・鳥取に根差す企業として、**鳥取大学卒業生を積極的に採用したいと考えているので、企業と学生を結びつける仕組みをどんどん考えて頂きたいです。**
- ・**理系学生が不足しているので積極的に紹介して欲しいです**
- ・情報を入手する手段がインターネットだけとなっている学生がいるのではないかと、本、新聞、テレビなど多様なメディアに触れる機会が必要だと考えます。
- ・すばらしい学生を育てていただきありがとうございます。当社の宝のような人材です。
- ・**県内に残るような指導**
- ・専門分野において掘り下げていく能力はあるが、社会人として組織の中でうまくやっていく能力またはひっぱりついでに能力を伸ばしてもらえるとなお良い。
- ・開業小動物病院ですが獣医師としての基礎技術を修得して卒業して欲しい。
  1. イヌ・ネコから検査に必要な血液がスムーズにできること
  2. 血管確保が短時間でできること
  3. 気管チューブの挿管が短時間でできること
  4. 麻酔管理ができること
- ・**厳しい状況でも常識的な期間を耐える忍耐力を身に付けてから社会に出るべきだと思います。中小にとってはダメと思ってすぐやめてしまうような人材は迷惑なだけです。**
- ・東京にある企業からすると地方の大学の特徴や強みなどが分かりにくいので、もう少し外部に向かってPRをしてははいかがでしょうか。
- ・**もう少し自分のやりたいことを明確にして、企業の内容と結びつける方向で考えてほしい。**
- ・卒業までに自動車免許は取っていただいているとありがたいです。
- ・社会にはいわゆる華やかな職種とそうではない縁の下で活動する職種もあり、様々である。こういった職種についても、誇りと責任感をもって仕事ができる気持ちの育成に、これからも尽力願います。

- ・大学としてにイメージはあまりなく、それぞれ”個人”としてとらえています。
- ・基礎知識、思考力、応用力については優秀である。ただし、社会人としての自覚に希薄な面が見受けられた。責任感を重視した人材の育成をお願いしたい。
- ・御大学に限らず、土木を学ぶ学生が減っている状況です。これ以上土木を学ぶ学生が減っていかないように魅力ある専門教育をお願いできればと考えております。
- ・各支社の要となって活躍して頂ける人財の方が多く、一層貴学ご卒業生に入社して頂きたい思いが強まっております。
- ・海上自衛隊に優秀な人材を輩出していただきありがとうございます。
- ・コミュニケーション能力、課題解決能力を基礎とし、苦しいこと困難なことにも避けることなくチャレンジしていく精神力を持ち、人として信頼される人間力を高める教育を目指していただきたい。
- ・東南アジアより外国人研修生を迎え入れているので、外国語はできているのにこしたことはないと思います。語学力よりもコミュニケーション能力の高さの方が重要になってくるので、その方面の能力を伸ばしてほしいです。国境を超えてどのような人とも仲良くしようとする、知ろうと知る力を伸ばしてほしいです。
- ・我々中小企業にとって、多くのことをやっていける能力が必要なことが多いため。土台のある貴学生は、業務上、大きな支えとなっております。これからは問題解決のための問題特定ができる生徒を多く輩出していただければと思います。
- ・活躍してくれていて感謝しています。とくに大学での恩師からの言葉は働く力になってます。
- ・機械・電子・情報が協力しあって企画し、クラウドファンディングに参加するといった取組みがあれば面白いし、これから社会が必要としている創造性も育むことが出来るのではないかと思います。
- ・専門性は幅広く活かして欲しいと感じています。弊社においても化学専攻ではなかった社員が大勢活躍しています。学生が考えている以上に自身の専門性を活かす場が社会にはあるということを啓蒙して頂けたらと思います。
- ・2017年4月に入社してもらいましたが、大変まじめで性格も良く、他の新人の手本になって活躍してくれています。専攻した分野は事業内容とは違ったものでしたが、体系的に学ぶ力があるので、技術取得も早く大変優秀な人材です。
- ・他校(私立、職業訓練大学)の実践的なカリキュラムの研究
- ・社会性豊かな学生が多い印象です。ぜひ積極的に採用したい学校です。
- ・貴学の卒業生の離職率が高いです。こちらとしても優秀な人材に長く続けてもらいたいです。
- ・非常に優秀な職員でした。本人が緊急に取り組みたい地域課題があり、残念ながら退職しましたが、現在でも、地域で子どもの教育支援に関わる仕事を頑張っており、地域の貴重な人材です。鳥取大学卒業生は1名のみの採用実績ですので、卒業生のイメージできる特徴と尋ねられても、個人のイメージでしかありませんので、あえて記入しておりません。
- ・研究に取り組んでいたので、個々でもの物事に集中することはできているが、団体で行動することに注力してほしい。
- ・採用活動においても、貴校の学生は礼儀正しく好印象を持てます。また、上項「もっと身に付けておくべき」項目についても学卒レベルでは十分な水準と考えております。意見というほどではありませんが、就職活動時には業種を絞ることなく広く業界研究するようアドバイスいただけたらと思います。
- ・貴学の学生ではありませんが、他学の学生さんでインターンシップや会社説明会に無断欠席をする学生が見受けられます。特に中小企業では、1、2名での開催もあり、該当の学生のためだけに社内調整や準備も行っているのに、欠席の場合は必ず連絡するよう指導をお願いします。
- ・弊社にて活躍している卒業生は、期待通りの成果をあげつつあります。

- ・企業との共同研究やインターンシップ制度の活用。企業採用担当との交流など。
- ・大変優秀な方に入社頂き1年が過ぎますが、大変積極的に仕事に取り組んで頂き将来有望な人材として成長して頂いております。
- ・競争に勝つ精神力、タフさ
- ・短期間で離職することなく、継続勤務して頂きたい。
- ・自分の適性に合った仕事を選ぶために自分自身を知り、また、どのような可能性があるのを見極める指導をお願いしたい。企業の採用が面接等でどこまで見極められるかは限界があると感じている。
- ・学生時代に実習インターンなどを通して実際の仕事をする現場をみることで、就職に対する選択肢を広げたり、興味のある分野をみつけていただければと思います。
- ・自然の豊かな鳥取県の国立大に通っていると感性豊かで大らかな人に優しい人になる気がします。将来何をしたいか、どう世界を変えてゆきたいか、恥ずかしがらずもっと声を大にして後悔のない人生を送ってください。
- ・早い学年でインターンを実施するなど、学生に社会にでるとは何かを教えてあげて欲しい。
- ・地元出身の学生を増やして欲しい。地方にある大学らしさが地元の人たちに伝わる活動をして欲しいです。
- ・学生は全体的におっとりのんびりとした学生が多い印象です。  
就職活動においては保守的ならず、どんどん外に出ていく姿勢があれば、より良くなると思います。また、大学の立地上、交通の便で選考に負担がかかる学生が多いと思われるので、何かしら支援があれば良いと思います。
- ・最近の学卒者全般に言えることは教育方針の偏重、家庭環境の変化等にも大きな影響を受けているのかもしれませんが、社会に対する「厳しさ」に大いに欠けていると感じております。
- ・SMO業界はまだまだ認知度が低いため業界やCRC業務についてご説明させていただける場があると非常にありがたいです。
- ・当会では2016年の採用試験から福祉系の大学等で専門課程を履修していないかた、福祉の現場で働いたことがない方であっても、「福祉に対する強い情熱がある者、福祉に対する熱き心がある者」としての採用枠を設け、2名を採用しています。  
このような「福祉に対する強い情熱、熱き心」をもつ学生を育成していただきたいと思います。
- ・専門知識を身に付けて欲しい。もう少し元気さがあれば。
- ・5/23鳥取大学と鳥取県教育委員会との意見交換会において、直接お伝えしています。
- ・知識も必要ですが、世の中の情勢や変化をもっと感じてほしいです。
- ・就職活動の支援、本格化する学部3回生、大学院1回生の3月より前に、企業など、社会に対して視野を広げる機会を設ける。

## 第Ⅳ部

# 就職先企業・学部卒業 生・大学院修了生の データ関連性

就職先企業、学部卒業生、大学院修了生から各々回収した3種類のアンケートにおいて、学部・研究科での教育効果や学修成果(能力・技術・態度等)に関する設問に注目し、共通する項目間の関連性について分析を行った。

### ■就職先企業(Q9:鳥取大学卒業生の能力・技術・態度等)

- ①「**身につけている**」(3つまで選択可)の回答率  
(回答件数／総回答企業数) → 「**習得している**」
- ②「**もっと身につけておくべき**」(3つまで選択可)の回答率  
(回答件数／総回答企業数) → 「**もっと習得すべき**」

### ■卒業生

#### (Q6:鳥取大学での習得度)

- ③「**大変習得できた**」及び「**ある程度習得できた**」の肯定的回答率  
(回答者数／総回答者数) → 「**習得できた**」

#### (Q7:社会での役立ち度)

- ④「**大変役立った**」及び「**ある程度役立った**」の肯定的回答率  
(回答者数／総回答者数) → 「**役立った**」
- ⑤「**学んでおけば良かった**」(3つまで選択可)の回答率  
(回答件数／総回答者数) → 「**もっと学ぶべき**」

### ■修了生

#### (Q5:鳥取大学での習得度)

- ⑥「**大変習得できた**」及び「**ある程度習得できた**」の肯定的回答率  
(回答者数／総回答者数) → 「**習得できた**」

#### (Q6:社会での役立ち度)

- ⑦「**大変役立った**」及び「**ある程度役立った**」の肯定的回答率  
(回答者数／総回答者数) → 「**役立った**」
- ⑧「**学んでおけば良かった**」(3つまで選択可)の回答率  
(回答件数／総回答者数) → 「**もっと学ぶべき**」

## 就職先企業、卒業生、修了生向けアンケートの設問

| アンケートの設問(能力・技術・知識等)        | 就職先企業 | 学部卒業生 | 大学院修了生 |
|----------------------------|-------|-------|--------|
| 感性や人間性の豊かさ                 | ○     | ○     |        |
| 豊かな教養による社会を見る広い視野          | ○     | ○     |        |
| すべきだと思ったことを実践する姿勢          | ○     | ○     |        |
| 積極性・チャレンジ精神                | ○     | ○     |        |
| 礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性 | ○     | ○     |        |
| 組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力    | ○     | ○     |        |
| 専攻した学問の体系化された知識            | ○     | ○     | ○      |
| 論理的な思考力                    | ○     | ○     | ○      |
| 問題を発見し解決する能力               | ○     | ○     | ○      |
| 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力           | ○     | ○     | ○      |
| IT時代に対応した情報スキル             | ○     | ○     | ○      |
| 語学など国際化への対応能力              | ○     | ○     | ○      |
| 実務に即戦力として使える専門知識や技術        | ○     | ○     | ○      |
| 地域社会の知識やボランティアなどによる社会参加体験  | ○     | ○     |        |
| 資格取得による専門知識と活用能力           | ○     | ○     | ○      |

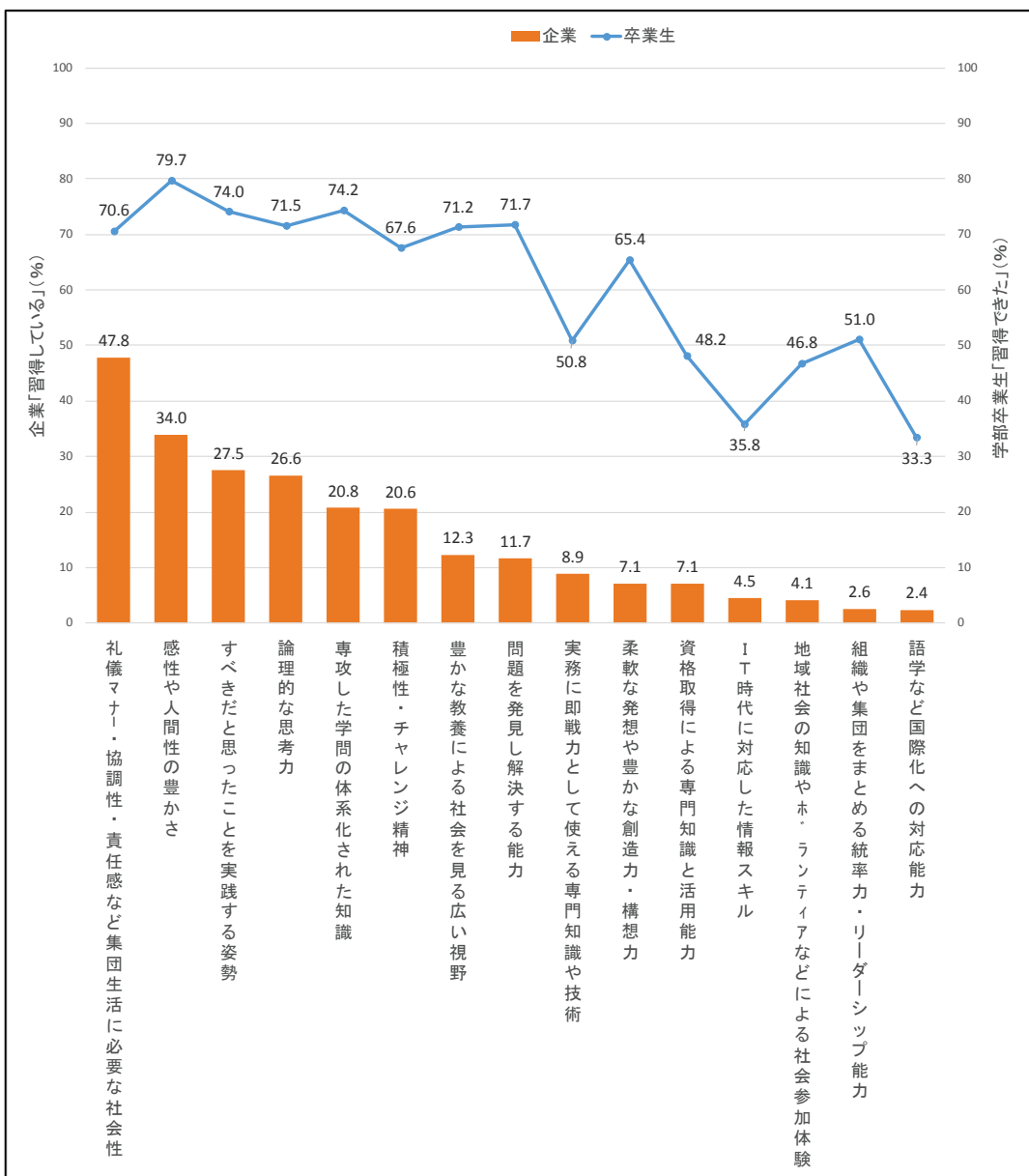
各アンケート結果を組み合わせ、以下に示す4つの観点から、教育効果や学修成果について検討を行った。各対応関係は、以下のとおり。

- 【習得度】:** 企業「習得している」(①)と卒業生・修了生「習得できた」(③・⑥)の関係
- 【要望度】:** 企業「もっと習得すべき」(②)と卒業生・修了生「習得できた」(③・⑥)の関係
- 【ギャップ度】:** 企業「もっと習得すべき」(②)と卒業生・修了生「役立った」(④・⑦)の関係
- 【不足度】:** 企業「もっと習得すべき」(②)と卒業生・修了生「もっと学ぶべき」(⑤・⑧)

・共通する15項目について、企業「習得している」の回答率(降順)と卒業生「習得できた」の回答率を示す。

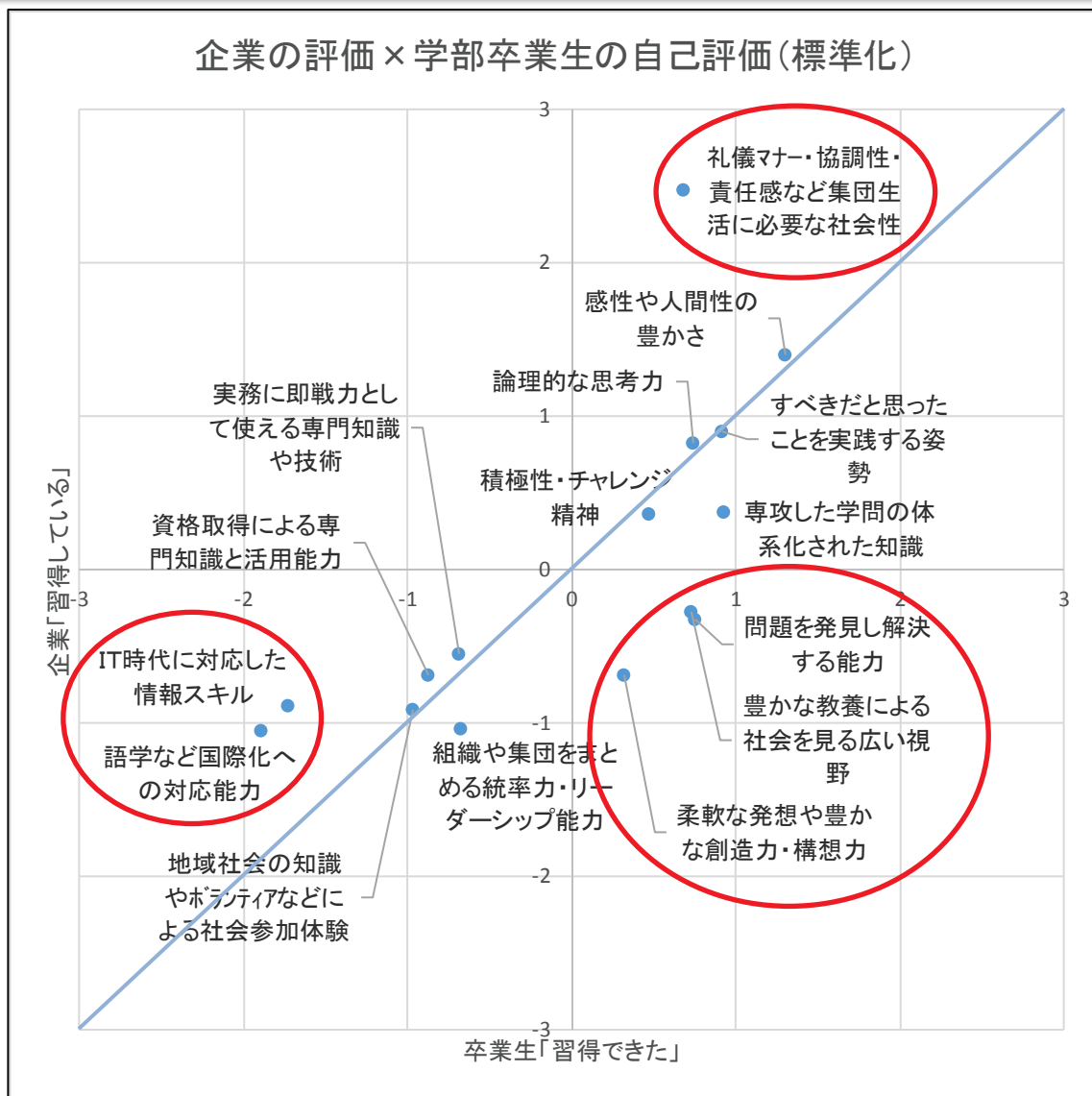
・企業が「習得している」と回答した上位6項目は、「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」、「感性や人間性の豊かさ」、「すべきだと思ったことを実践する姿勢」、「論理的な思考力」、「専攻した学問の体系化された知識」と「積極性・チャレンジ精神」であり、卒業生が「取得できた」と回答した項目も同様に高い値を示していることから、回答傾向が概ね一致していた。

・卒業生の回答では、上記6項目以外に「豊かな教養による社会を見る広い視野」や「問題を発見し解決する能力」が70%以上の高い回答率であった。





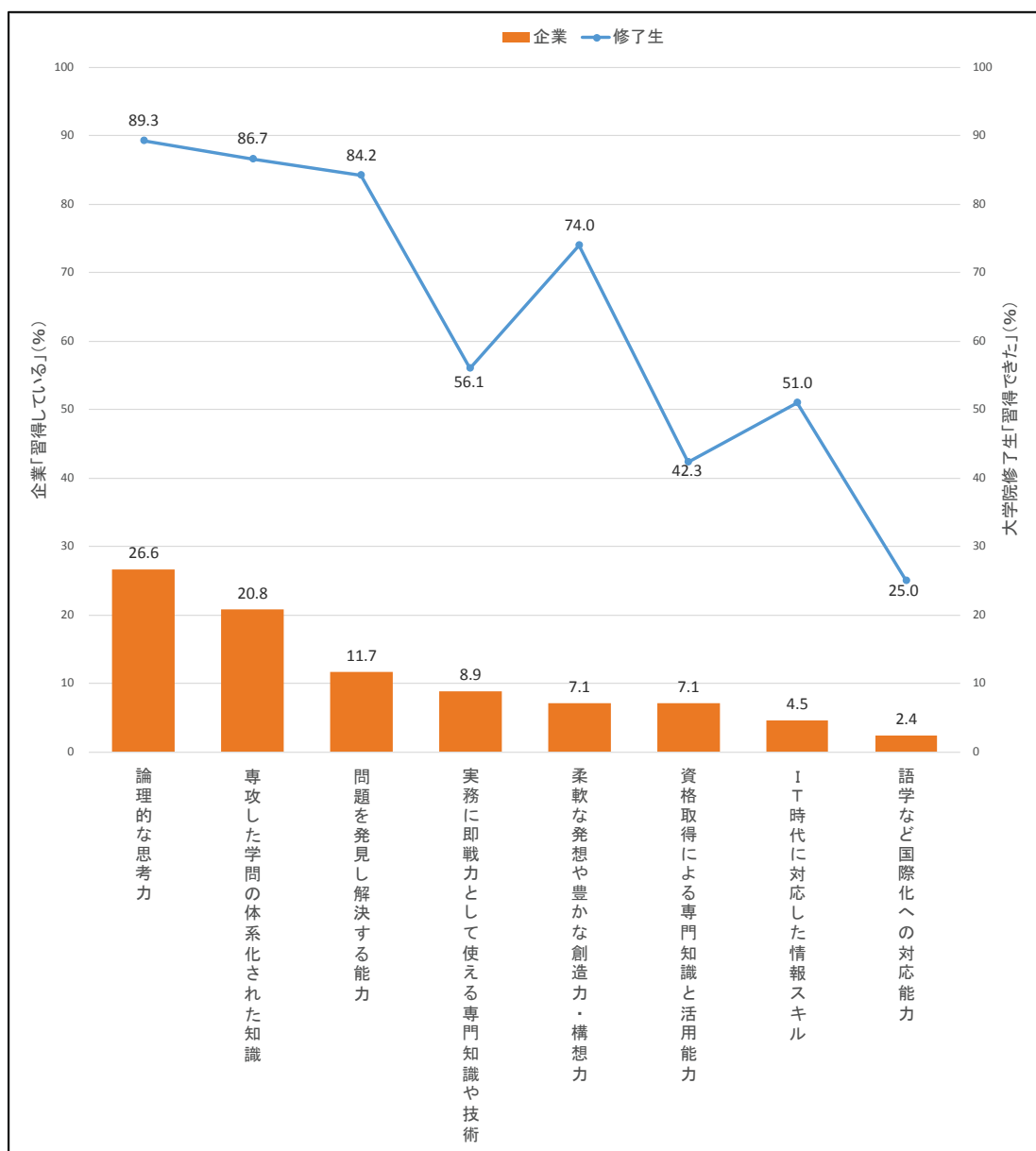
- ・回答率の算出方法が異なるため、両者の結果を標準化して比較した結果を示す。
- ・卒業生と企業の評価がともに高いのが右上の領域であり、6項目が該当している。特に「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」は、卒業生の結果以上に企業は高く評価していた。
- ・卒業生の評価は高いが、企業の評価が低いのが右下の領域であり、3項目が該当している。「豊かな教養による社会を見る広い視野」、「問題を発見し課題を解決する能力」や「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」は、卒業生の結果ほど企業は評価していなかった。
- ・卒業生と企業の評価がともに低いのが左下の領域であり、6項目が該当している。特に「IT時代に対応した情報スキル」と「語学など国際化への対応能力」は、双方の回答率がかなり低いが、卒業生の結果よりも企業の評価はそれほど低くなかった。



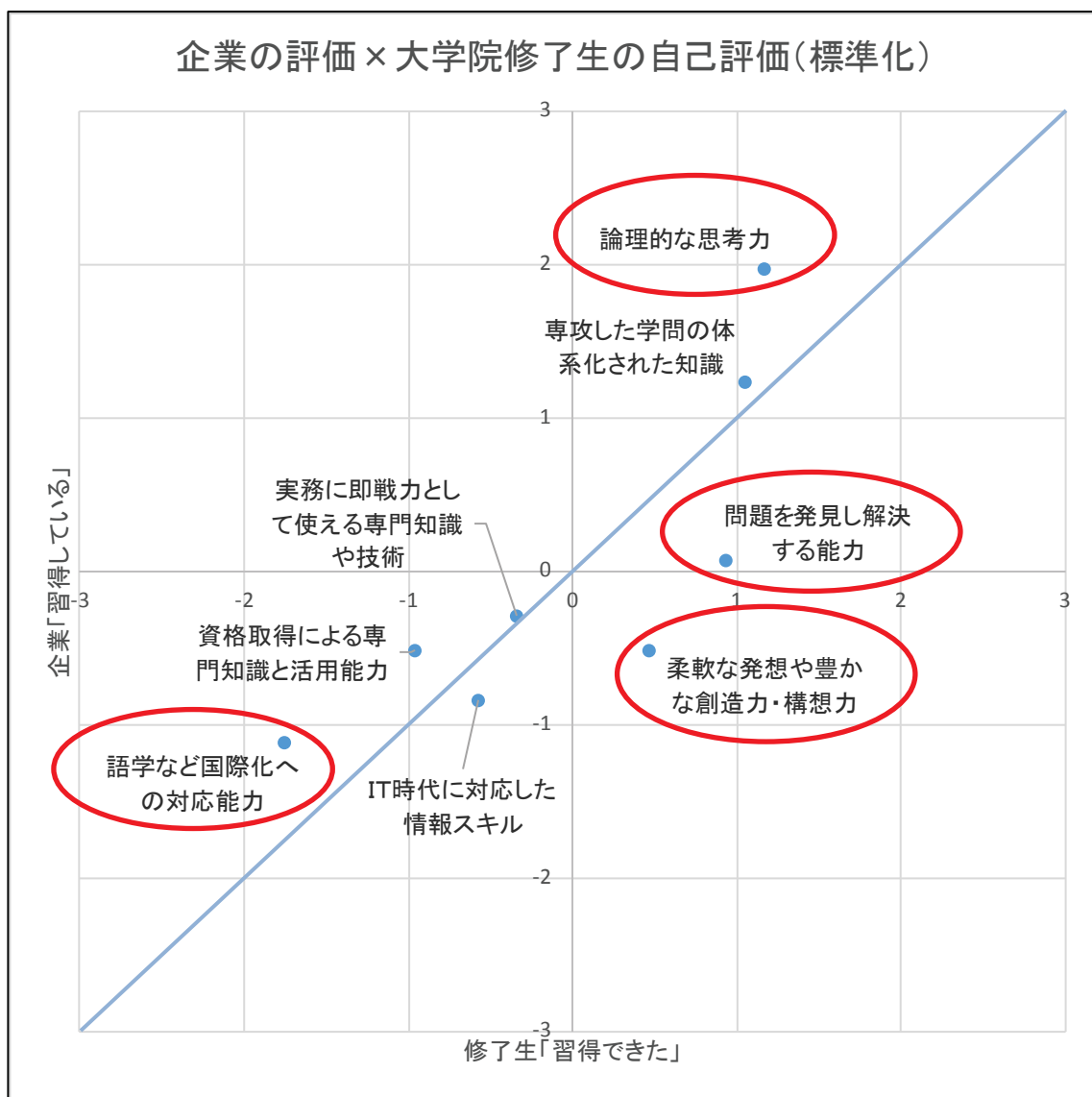
・共通する8項目について、企業「習得している」の回答率(降順)と修了生「習得できた」の回答率を示す。

・修了生の設問は卒業生に比べて少ないが、企業が「習得している」と回答した上位2項目は、「論理的な思考力」と「専攻した学問の体系化された知識」であり、修了生が「取得できた」と回答した項目も同様に高い値を示していることから、回答傾向が概ね一致していた。

・修了生の回答では、上記2項目以外に「問題を発見し解決する能力」や「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」が70%以上の高い回答率であった。



- ・回答率の算出方法が異なるため、双方の結果を標準化して比較した結果を示す。
- ・修了生と企業の評価がともに高いのが右上の領域であり、3項目が該当している。「論理的な思考力」は修了生の結果以上に企業が高く評価しているものの、「問題を発見し解決する能力」は修了生の結果ほど企業は評価していなかった。
- ・修了生の評価は高いが、企業の評価が低いのが右下の領域であり、1項目が該当している。「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」は、修了生の結果ほど企業は評価していなかった。
- ・修了生と企業の評価がともに低いのが左下の領域であり、4項目が該当している。特に「語学など国際化への対応能力」は、双方の回答率がかなり低いが、修了生の結果よりも企業の評価はそれほど低くなかった。



・共通する8項目について、卒業生・修了生「習得できた」と企業「習得している」の回答率を示す。円の大きさ(数字)は企業の回答率であり、各項目の相関係数は以下のとおりで、その関連性は全て高かった。

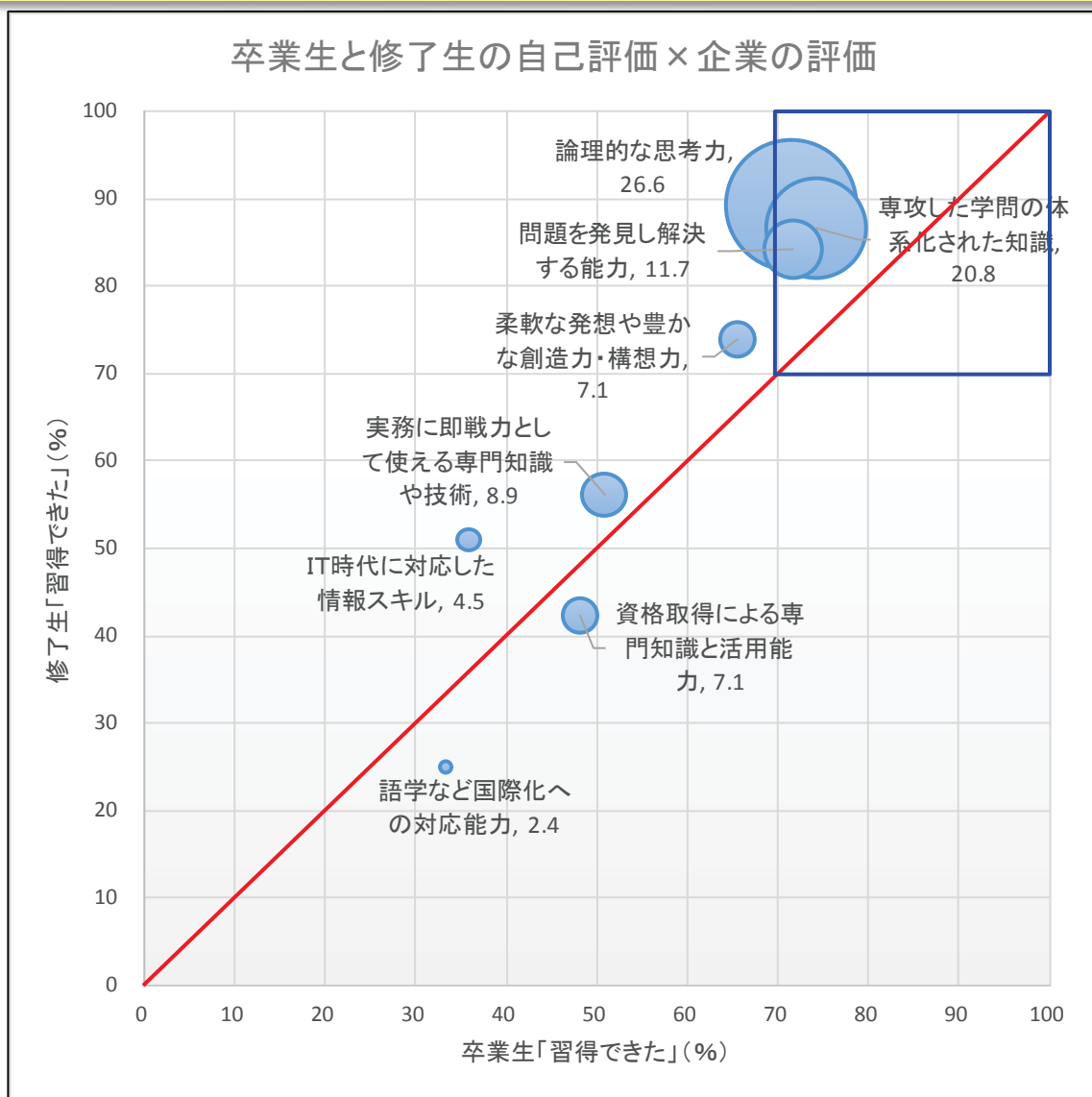
－卒業生「習得できた」と修了生「習得できた」の相関係数：0.94

－企業「習得している」と卒業生「習得できた」の相関係数：0.79

－企業「習得している」と修了生「習得できた」の相関係数：0.81

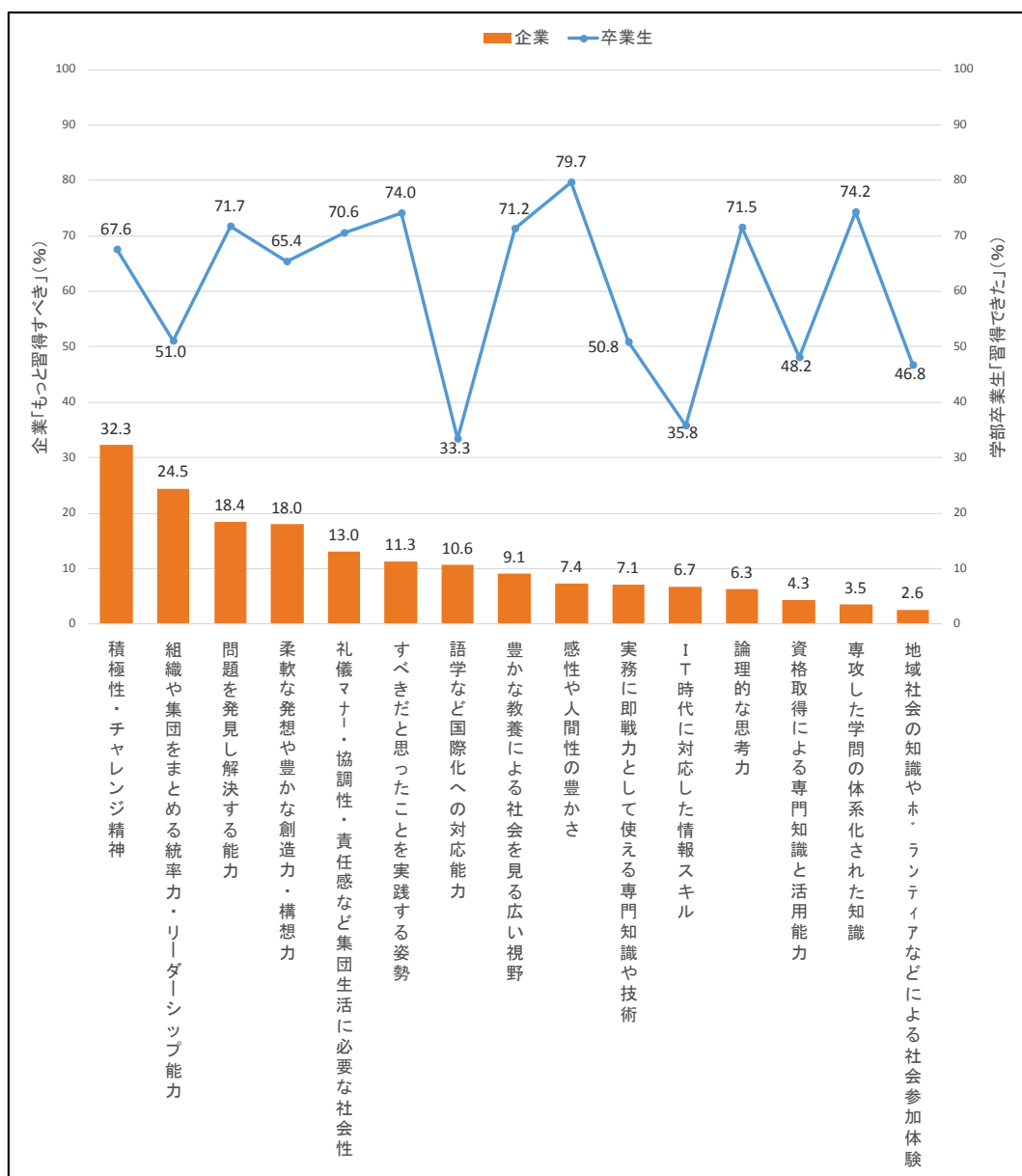
・「資格取得による専門知識と活用能力」と「語学など国際化への対応能力」を除いた6項目については、卒業生よりも修了生の回答率が高い傾向にあった。

・本学の学生自身(卒業生及び修了生)及び企業が能力・技術・態度等として身につけている(習得している)と高く評価している項目は、「論理的な思考力」と「専攻した学問の体系化された知識」であり、修了生の方がその傾向が強かった。



・共通する15項目について、企業「もっと習得すべき」の回答率(降順)と卒業生「習得できた」の回答率を示す。

・企業が「もっと習得すべき」と回答した上位4項目は、「積極性・チャレンジ精神」、「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」、「問題を発見し解決する能力」と「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」であったが、卒業生が「取得できた」と回答した上位項目は、「感性や人間性の豊かさ」、「専攻した学問の体系化された知識」、「すべきだと思ったことを実践する姿勢」等であり、回答傾向は一致していなかった。



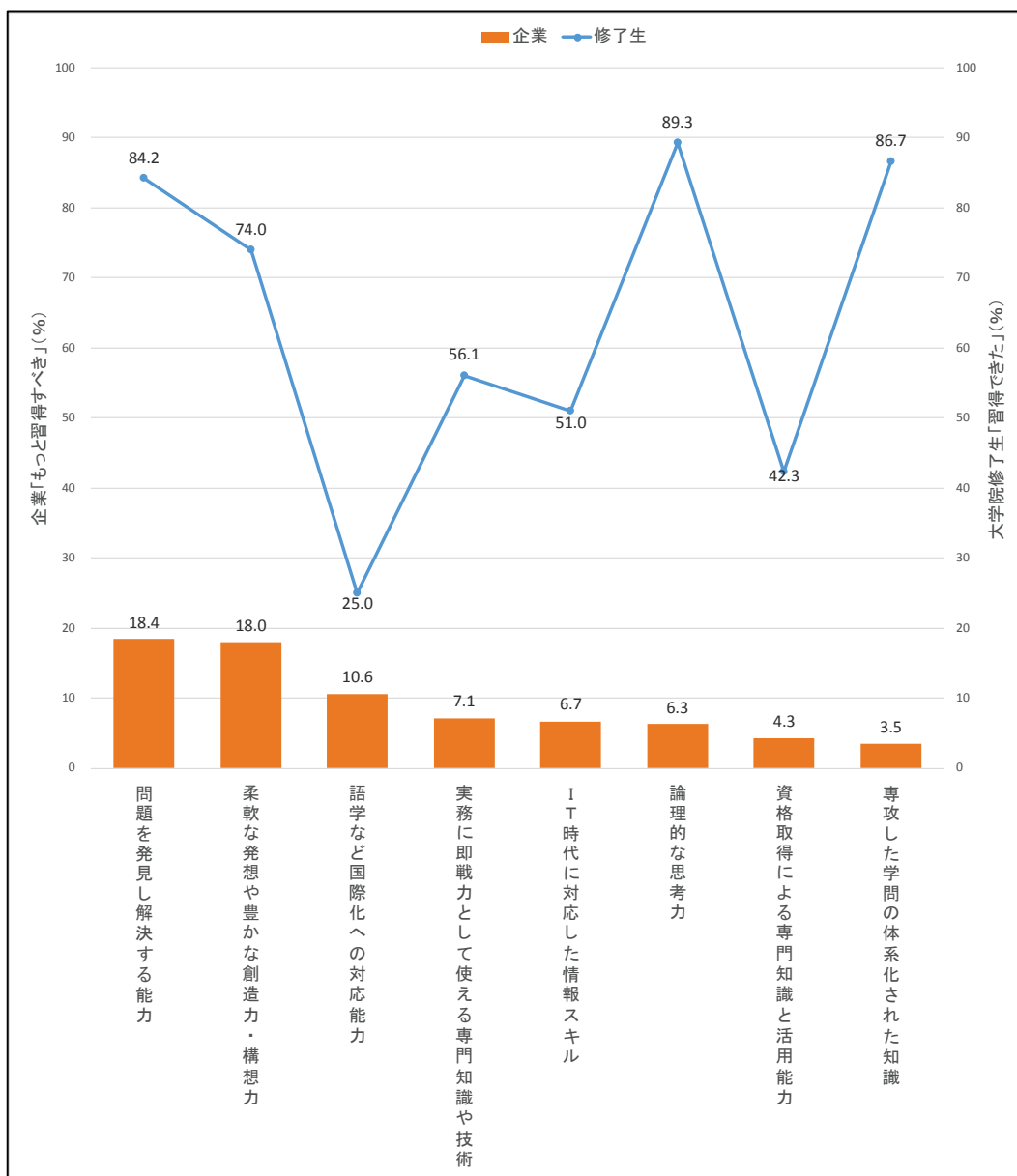
# 10 【要望度】企業の評価×学部卒業生の自己評価

- ・回答率の算出方法が異なるため、双方の結果を標準化して比較した結果を示す。
- ・卒業生の評価は高いが、企業が強く要望するのが右上の領域であり、4項目が該当している。特に「積極性・チャレンジ精神」は、卒業生の結果以上に企業は高いものを要望していた。
- ・卒業生の評価が低く、企業が強く要望するのが左上の領域であり、1項目が該当している。「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」は、卒業生自身があまり習得できていないとの認識はあるが、企業はより高いものを要望していた。
- ・卒業生の評価が低く、企業があまり要望していないのが左下の領域であり、5項目が該当している。「IT時代に対応した情報スキル」と「語学など国際化への対応能力」については、企業は卒業生が取得できたと思うレベルでは少し足りないと考えている。

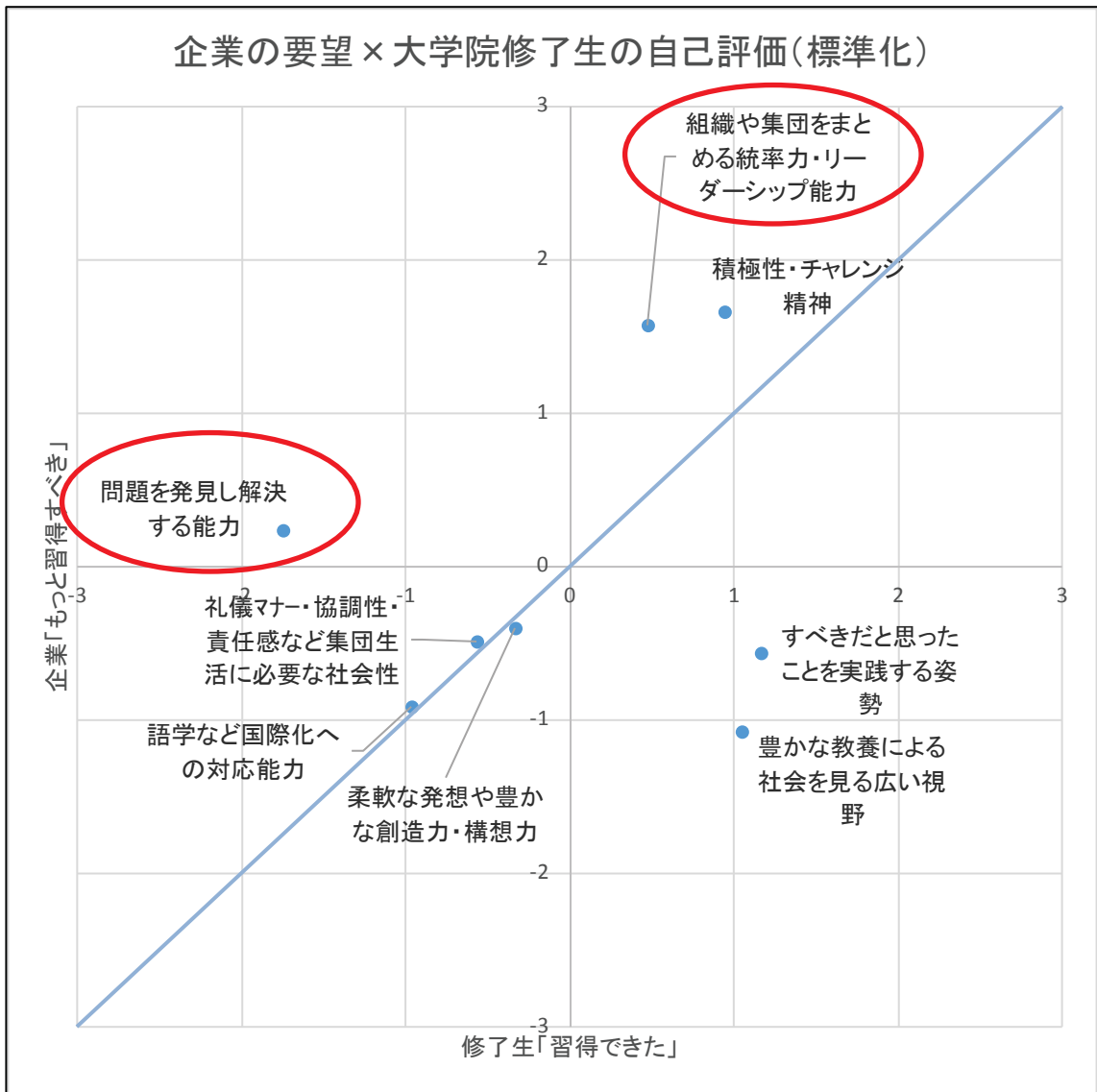


・共通する8項目について、企業「もっと習得すべき」の回答率(降順)と修了生「習得できた」の回答率を示す。

・修了生の設問は卒業生に比べて少ないが、企業が「もっと習得すべき」と回答した上位2項目は、「問題を発見し解決する能力」と「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」であり、修了生が「取得できた」と回答した項目も比較的高い値を示していたが、修了生が「取得できた」と回答した上位項目は「論理的な思考力」と「専攻した学問の体系化された知識」であり、回答傾向は一致していなかった。



- ・回答率の算出方法が異なるため、双方の結果を標準化して比較した結果を示す。
- ・修了生の評価は高いが、企業が強く要望するのが右上の領域であり、2項目が該当している。特に「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」は、修了生の結果以上に企業は高いものを要望していた。
- ・修了生の評価が低く、企業が強く要望するのが左上の領域であり、1項目が該当している。「問題を発見し解決する能力」は、修了生自身が習得できていないとの認識はあるが、企業はもう少し高いものを要望していた。
- ・修了生の評価が低く、企業があまり要望していないのが左下の領域であり、3項目が該当しているが、特徴的な傾向はみられなかった。



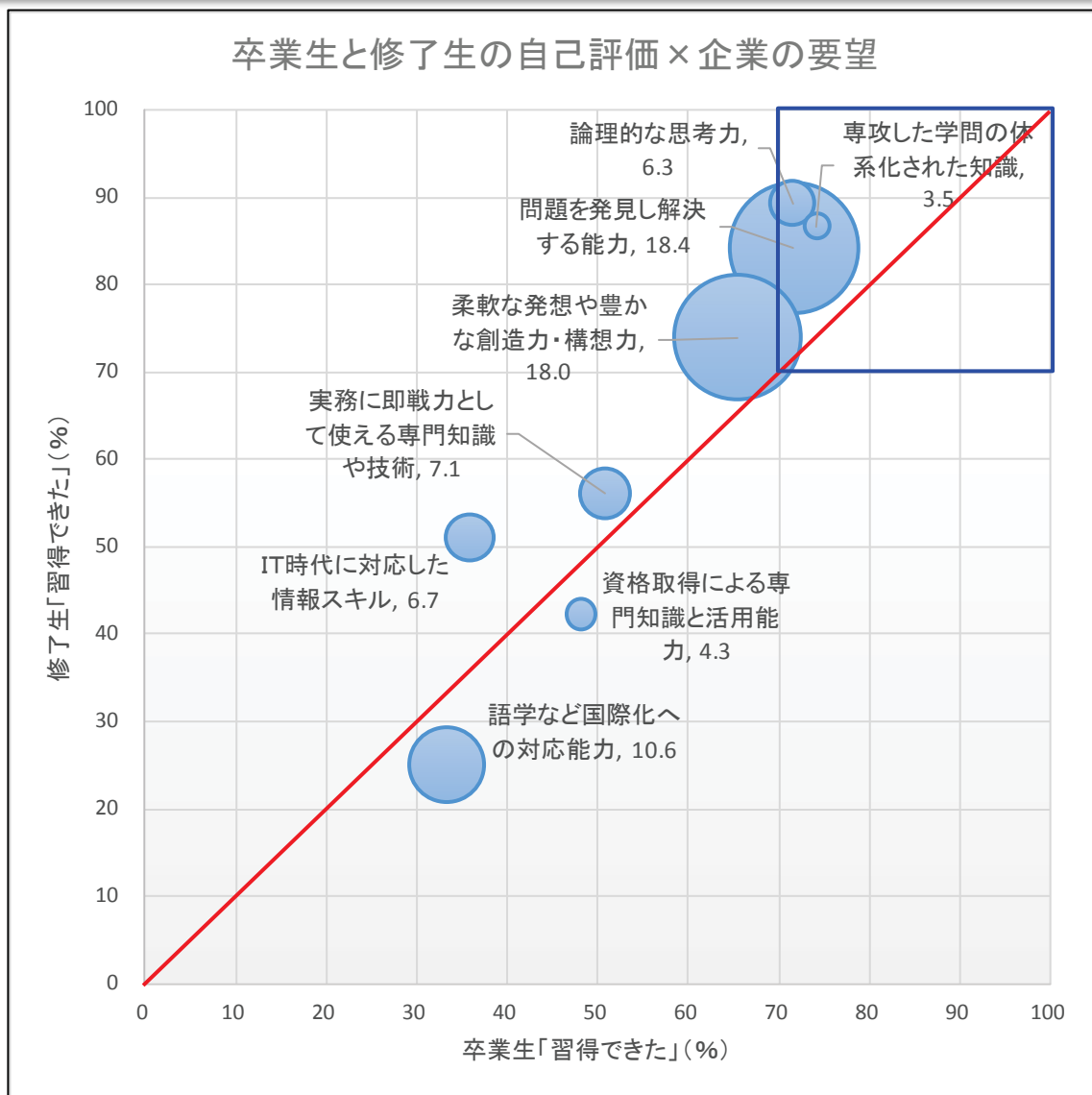


・共通する8項目について、卒業生・修了生「習得できた」と企業「もっと習得すべき」の回答率を示す。円の大きさ(数字)は企業の回答率であり、各項目の相関係数は以下のとおりで、その関連性は卒業生と修了生のみで高かった。

- －卒業生「習得できた」と修了生「習得できた」の相関係数：0.94
- －企業「もっと習得すべき」と卒業生「習得できた」の相関係数：0.21
- －企業「もっと習得すべき」と修了生「習得できた」の相関係数：0.18

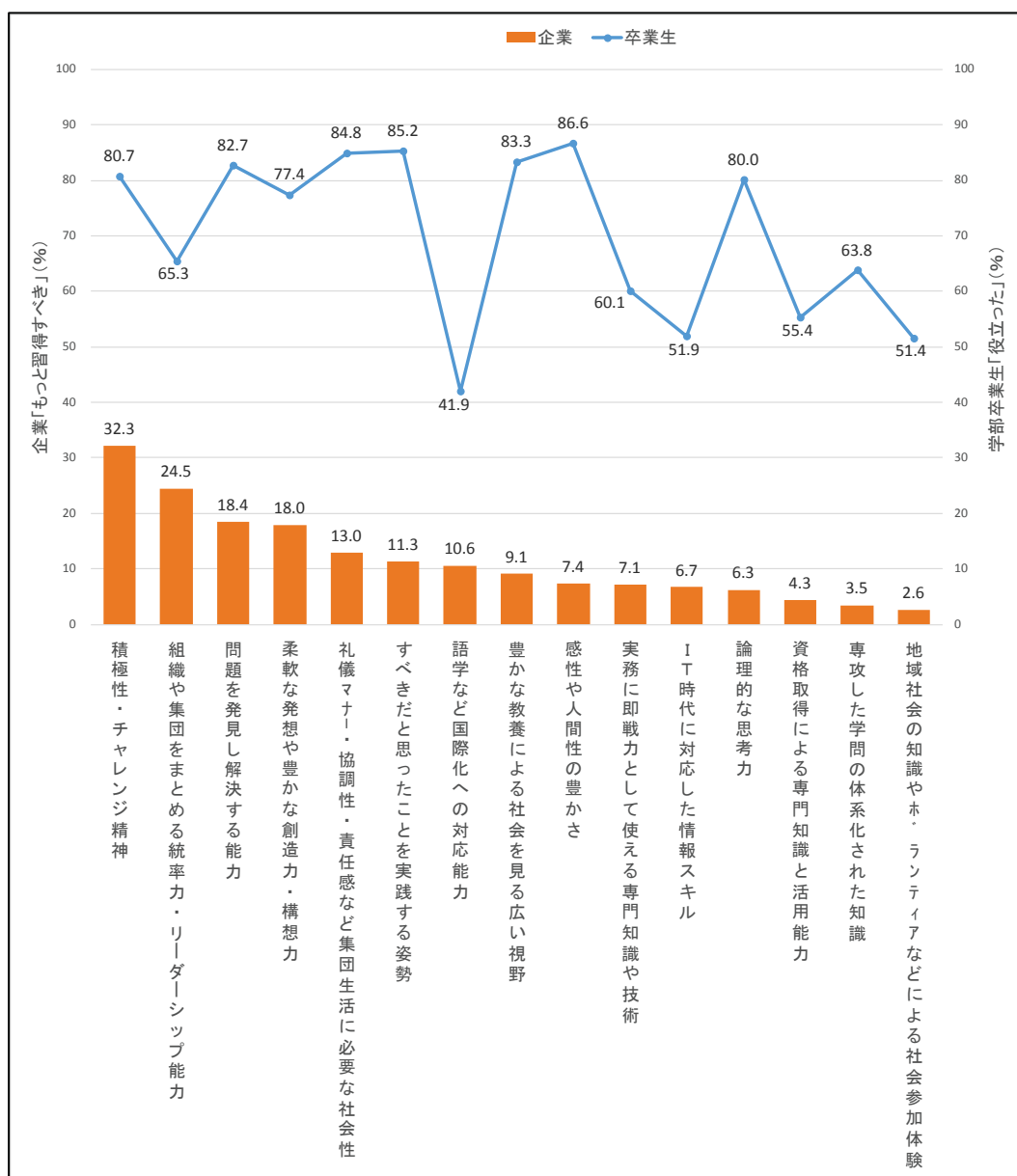
・「資格取得による専門知識と活用能力」と「語学など国際化への対応能力」を除いた6項目については、卒業生よりも修了生の回答率が高い傾向にあった。

・本学の学生自身(卒業生及び修了生)は能力・技術・態度等として身につけている(習得している)と思っているが、企業としてはもっと身につけておくべき(もっと習得すべき)と要望している項目は、「問題を発見し解決する能力」であり、修了生の方がその傾向は強かった。

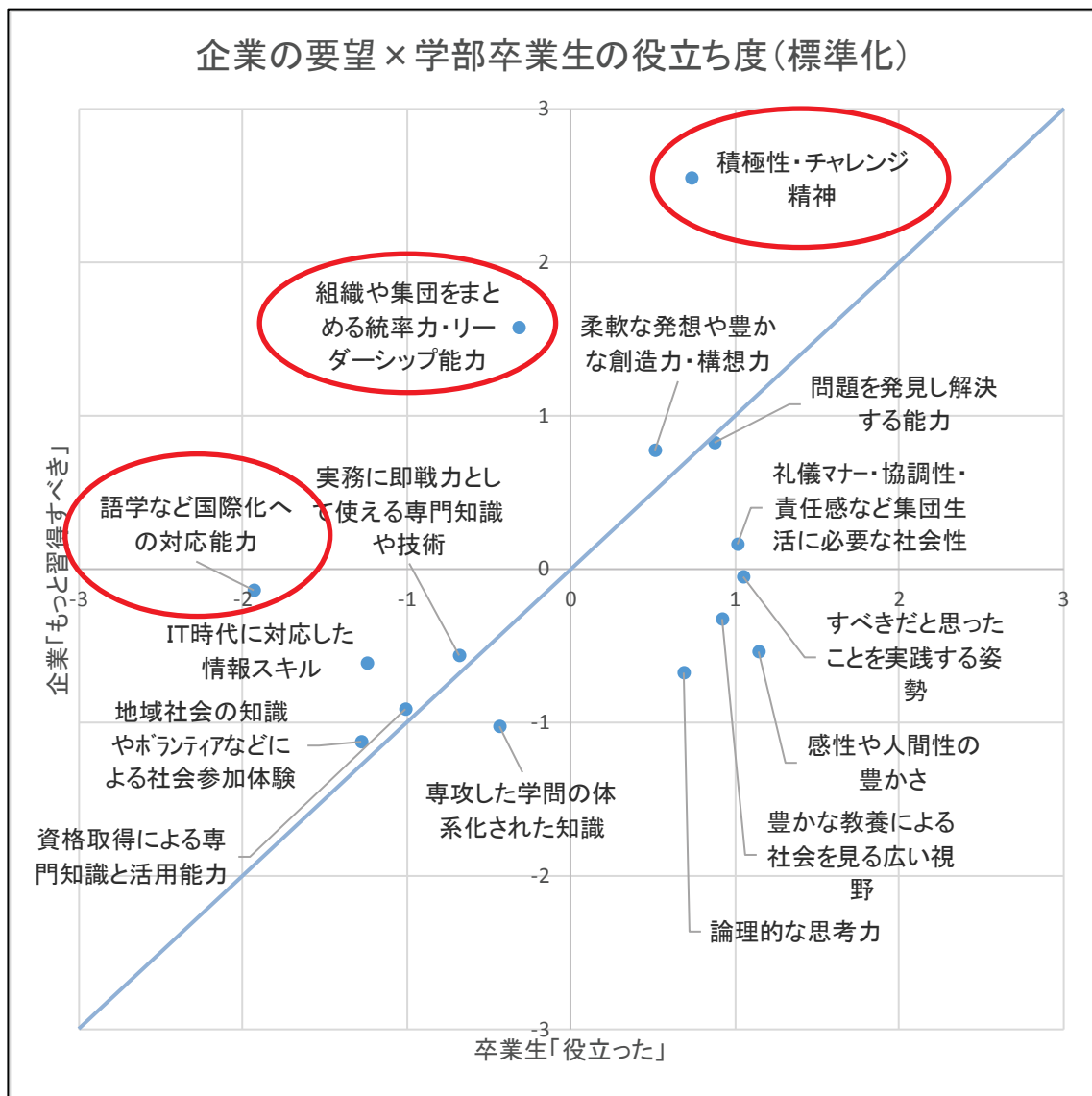


・共通する15項目について、企業「もっと習得すべき」の回答率(降順)と卒業生「役立った」の回答率を示す。

・企業が「もっと習得すべき」と回答した上位4項目は、「積極性・チャレンジ精神」、「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」、「問題を発見し解決する能力」と「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」であったが、卒業生が「役立った」と回答した上位項目は「感性や人間性の豊かさ」、「すべきだと思ったことを実践する姿勢」、「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」等であり、回答傾向は一致していなかった。

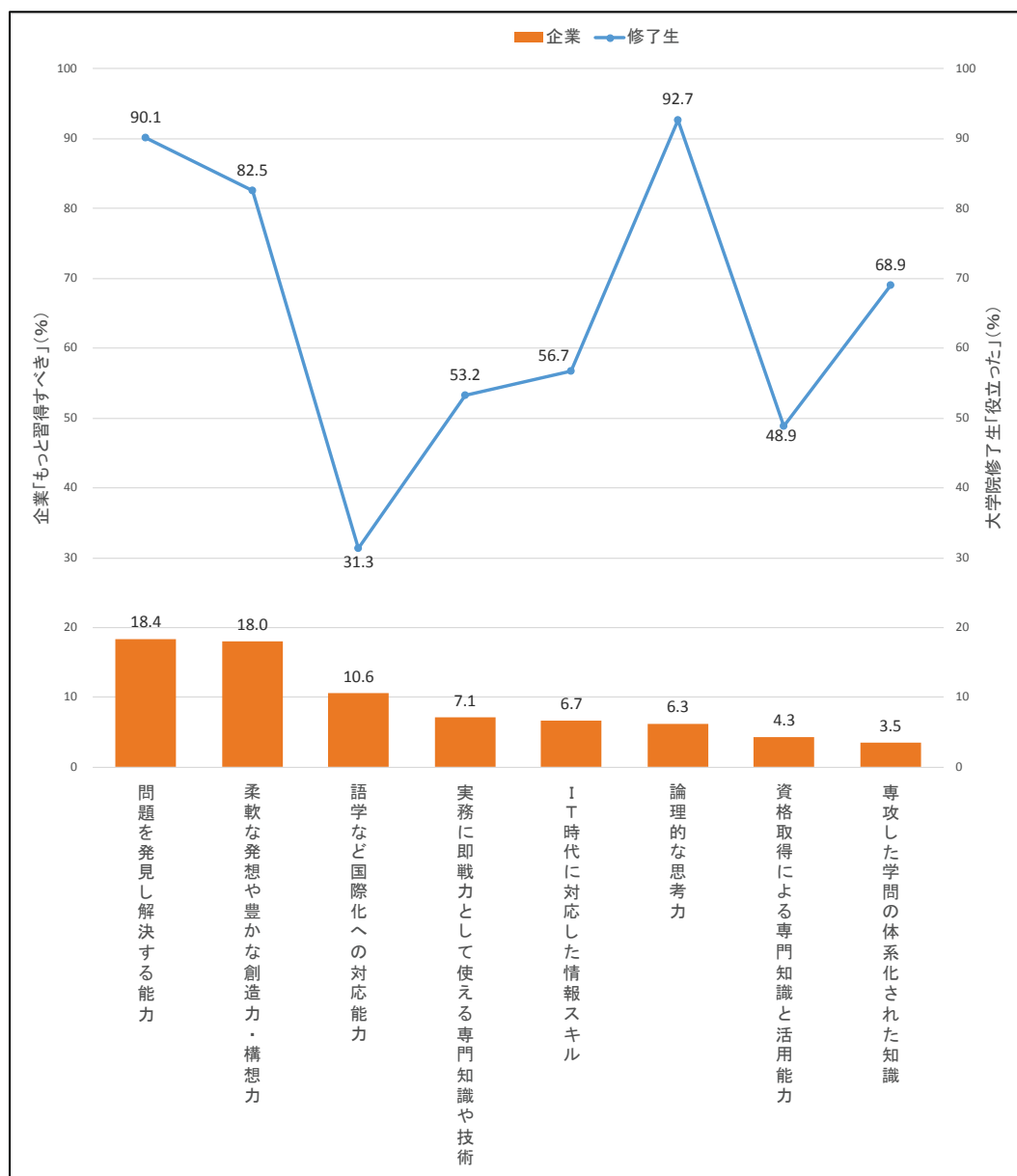


- ・回答率の算出方法が異なるため、双方の結果を標準化して比較した結果を示す。
- ・卒業生の評価は高いが、企業が強く要望するのが右上の領域であり、4項目が該当している。特に「積極性・チャレンジ精神」は、卒業生の結果以上に企業は高いものを要望していた。
- ・卒業生の評価が低く、企業が強く要望するのが左上の領域であり、1項目が該当している。「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」は、卒業生自身が習得できていないとの認識はあるが、企業はより高いものを要望していた。
- ・卒業生の評価が低く、企業があまり要望していないのが左下の領域であり、5項目が該当している。「語学など国際化への対応能力」については、企業は卒業生が取得できたと思うレベルでは少し足りないと考えている。

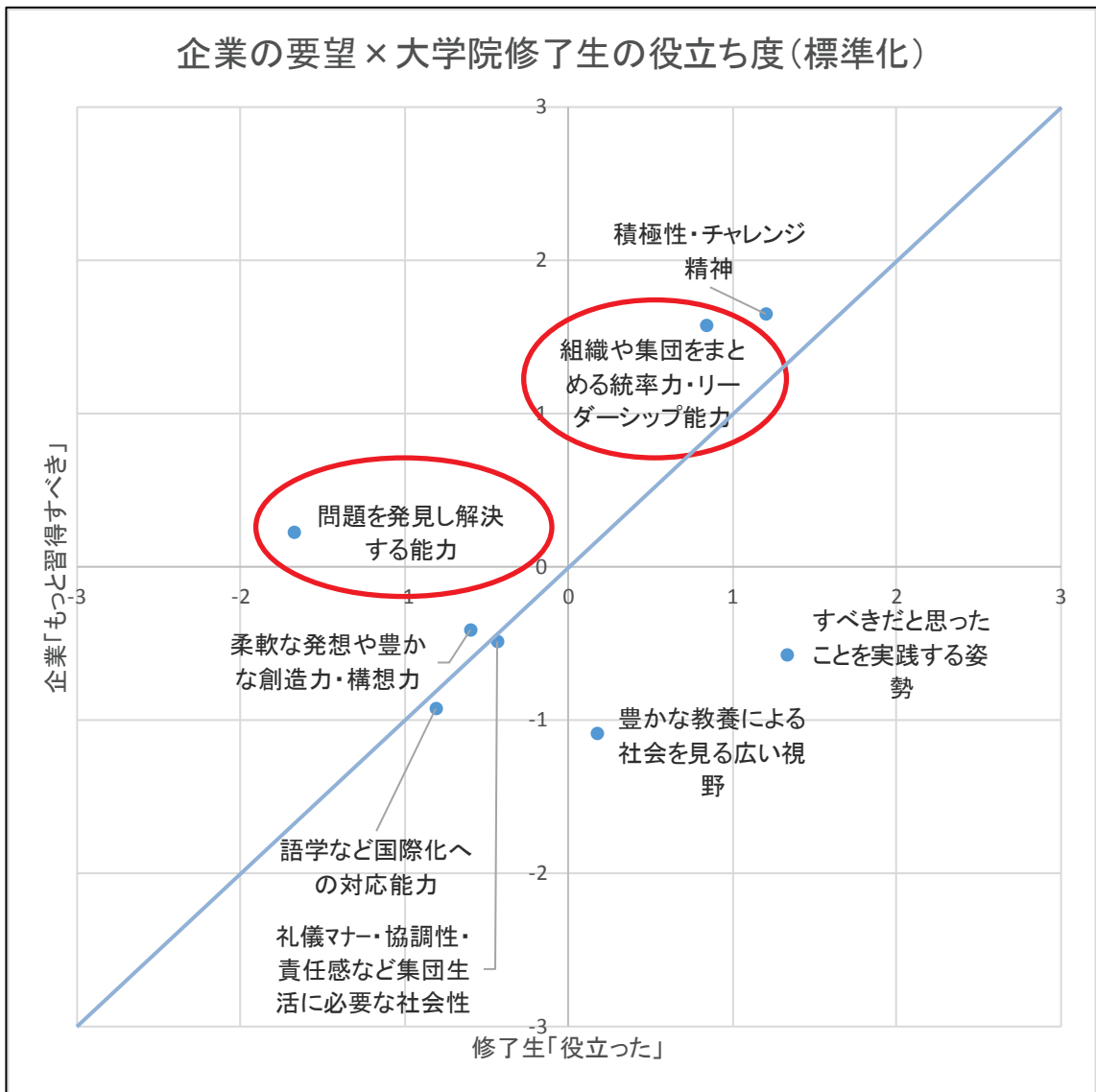


・共通する8項目について、企業「もっと習得すべき」の回答率(降順)と修了生「役立った」の回答率を示す。

・修了生の設問は卒業生に比べて少ないが、企業が「もっと習得すべき」と回答した上位2項目は、「問題を発見し解決する能力」と「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」であり、修了生が「役立った」と回答した項目も比較的高い値を示していたが、修了生が「取得できた」と回答した上位項目は「論理的な思考力」であり、回答傾向はあまり一致していなかった。



- ・回答率の算出方法が異なるため、双方の結果を標準化して比較した結果を示す。
- ・修了生の評価は高いが、企業が強く要望するのが右上の領域であり、2項目が該当している。「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」は、修了生の結果以上に企業はもう少し高いものを要望していた。
- ・修了生の評価が低く、企業が強く要望するのが左上の領域であり、1項目が該当している。「問題を発見し解決する能力」は、修了生自身が習得できていないとの認識はあるが、企業はもう少し高いものを要望していた。
- ・修了生の評価が低く、企業があまり要望していないのが左下の領域であり、3項目が該当しているが、特徴的な傾向はみられなかった。



・共通する8項目について、卒業生・修了生「役立った」と企業「もっと習得すべき」の回答率を示す。円の大きさ(数字)は企業の回答率であり、各項目の相関係数は以下のとおりで、その関連性は卒業生と修了生で高く、企業とはあまり高くなかった。

－卒業生「役立った」と修了生「役立った」の相関係数：0.97

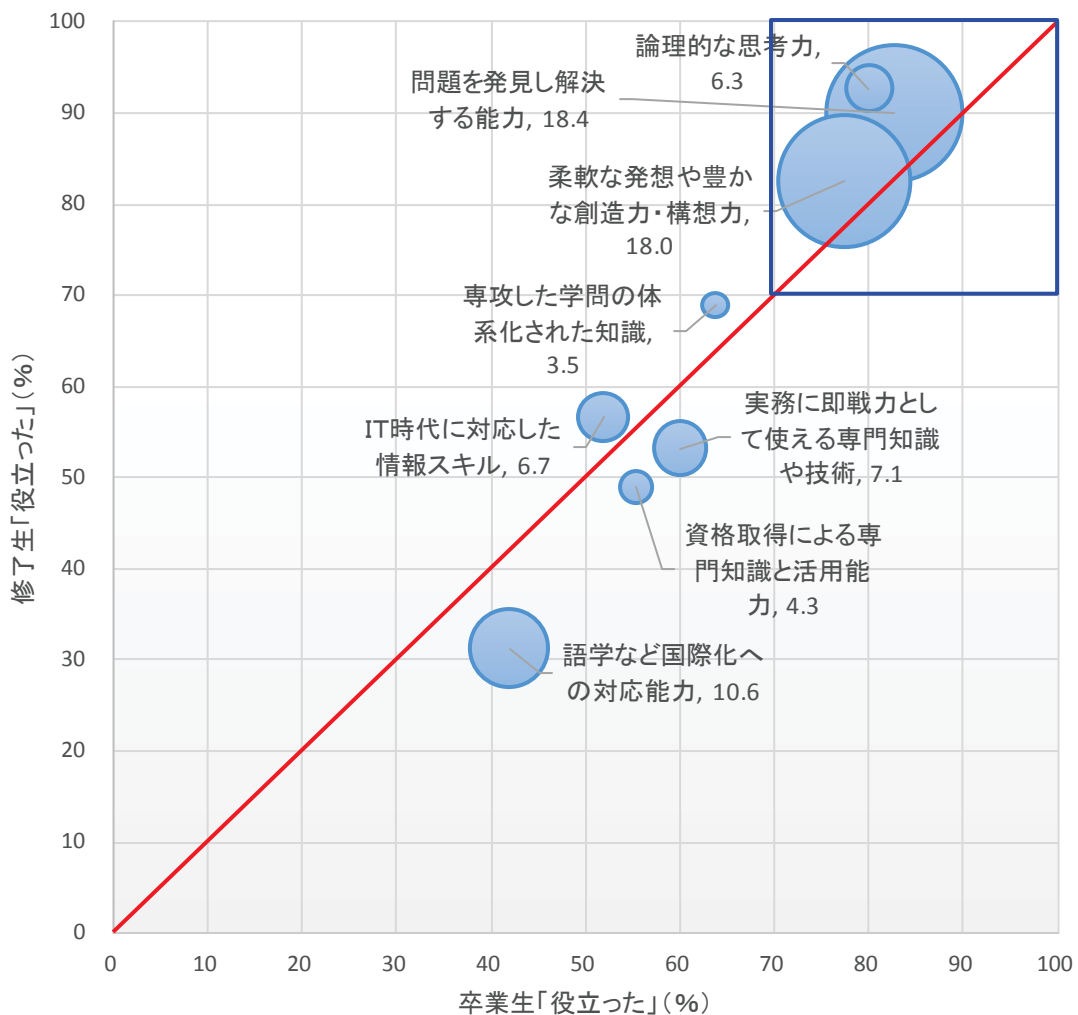
－企業「もっと習得すべき」と卒業生「役立った」の相関係数：0.49

－企業「もっと習得すべき」と修了生「役立った」の相関係数：0.40

・「実務に即戦力として使える専門知識や技術」、「資格取得による専門知識と活用能力」と「語学など国際化への対応能力」を除いた5項目については、卒業生よりも修了生の回答率が高い傾向にあった。

・本学の学生自身(卒業生及び修了生)は習得できた能力・技術・態度等が社会で役立っている(役立った)と思っているが、企業としてはもっと身につけておくべき(もっと習得すべき)と要望している主な項目は、「問題を発見し解決する能力」と「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」であった。

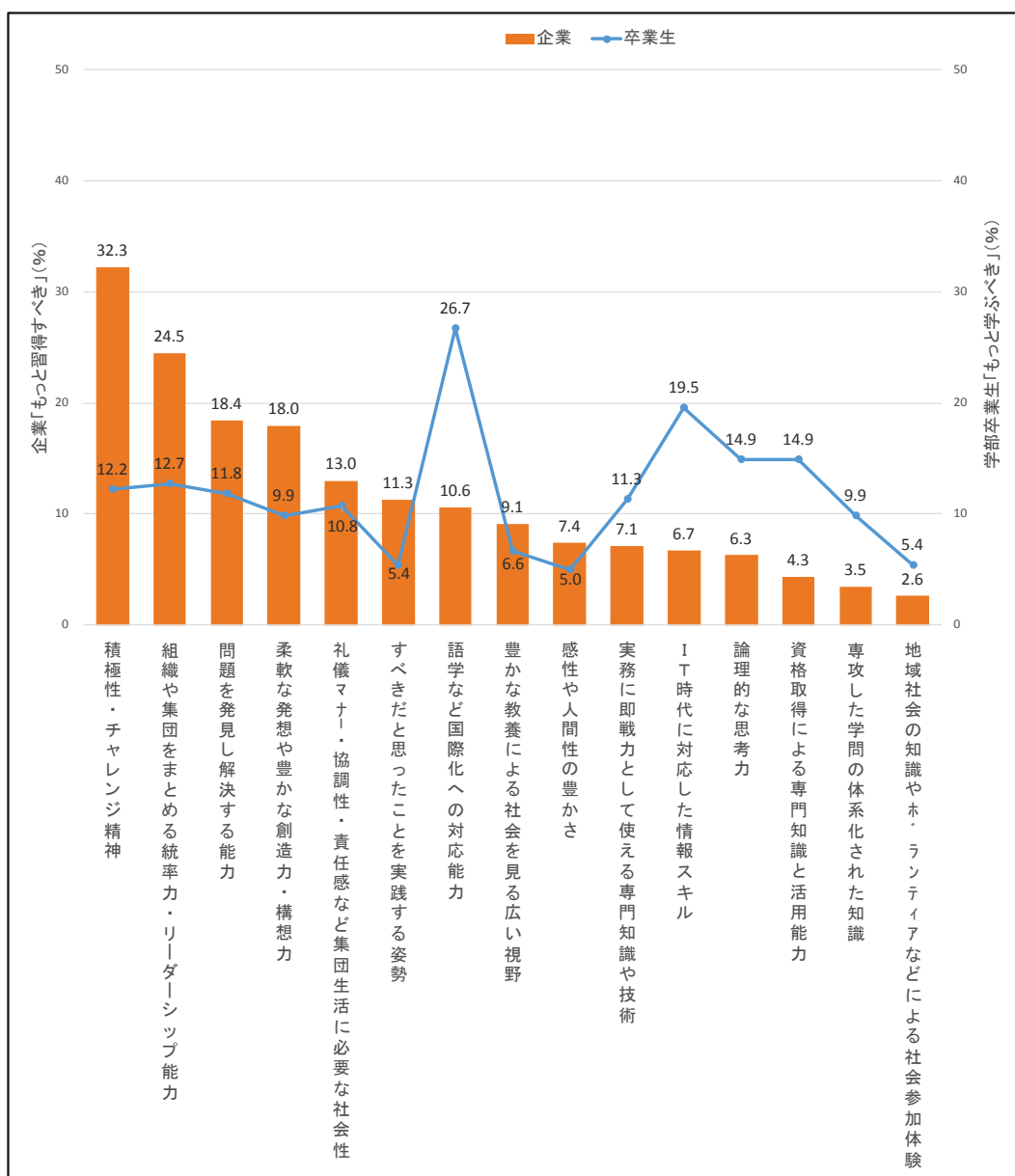
卒業生と修了生の役立ち度×企業の要望



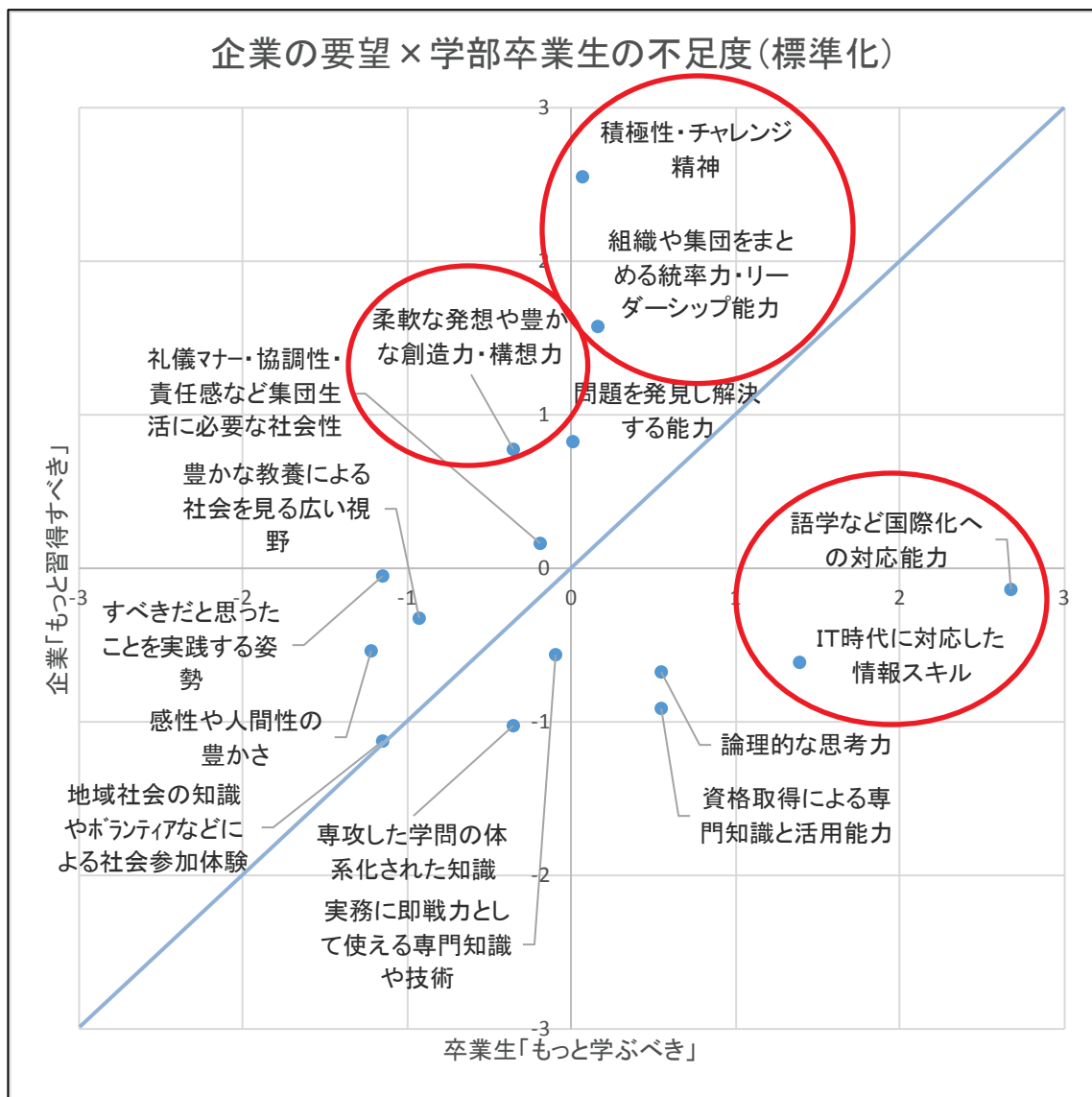
# 19 【不足度】企業の評価×学部卒業生の自己評価

・共通する15項目について、企業「もっと習得すべき」の回答率(降順)と卒業生「もっと学ぶべき」の回答率を示す。

・企業が「もっと習得すべき」と回答した上位4項目は、「積極性・チャレンジ精神」、「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」、「問題を発見し解決する能力」と「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」であったが、卒業生が「もっと学ぶべき」と回答した上位項目は「語学など国際化への対応能力」、「IT時代に対応した情報スキル」等であり、回答傾向は一致していなかった。



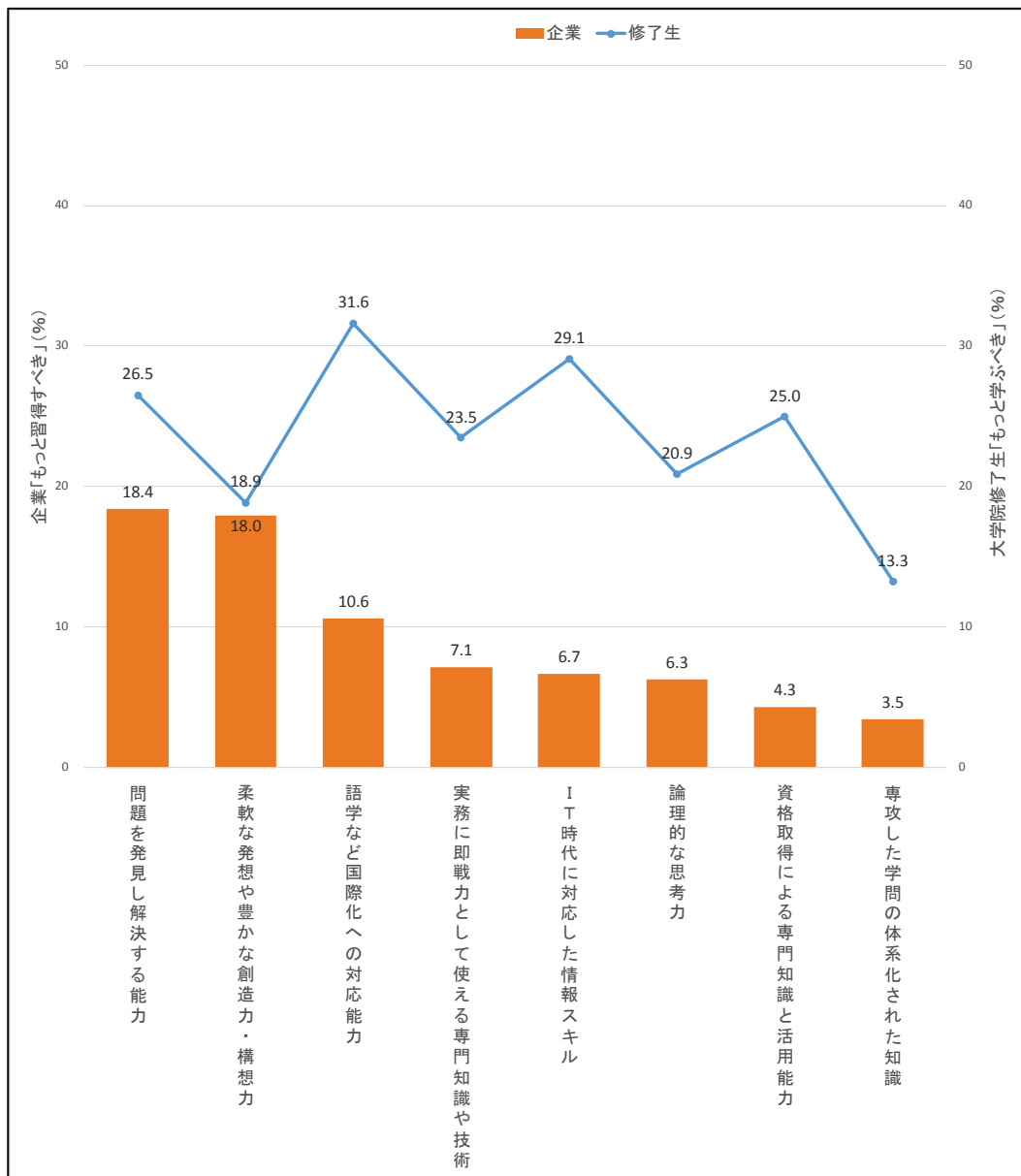
- ・双方の結果を標準化して比較した結果を示す。
- ・卒業生の後悔と企業の要望が強いのが右上の領域であり、3項目が該当している。特に「積極性・チャレンジ精神」や「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」は、卒業生の結果以上に企業は強く要望していた。
- ・卒業生の後悔は強いが、企業の要望はあまり強くないのが右下の領域であり、4項目が該当している。特に「語学など国際化への対応能力」や「IT時代に対応した情報スキル」については、企業はさほど求めていなかった。
- ・卒業生の後悔は強くないが、企業が強く要望するのが左上の領域であり、2項目が該当している。特に「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」については、企業は強く要望していた。



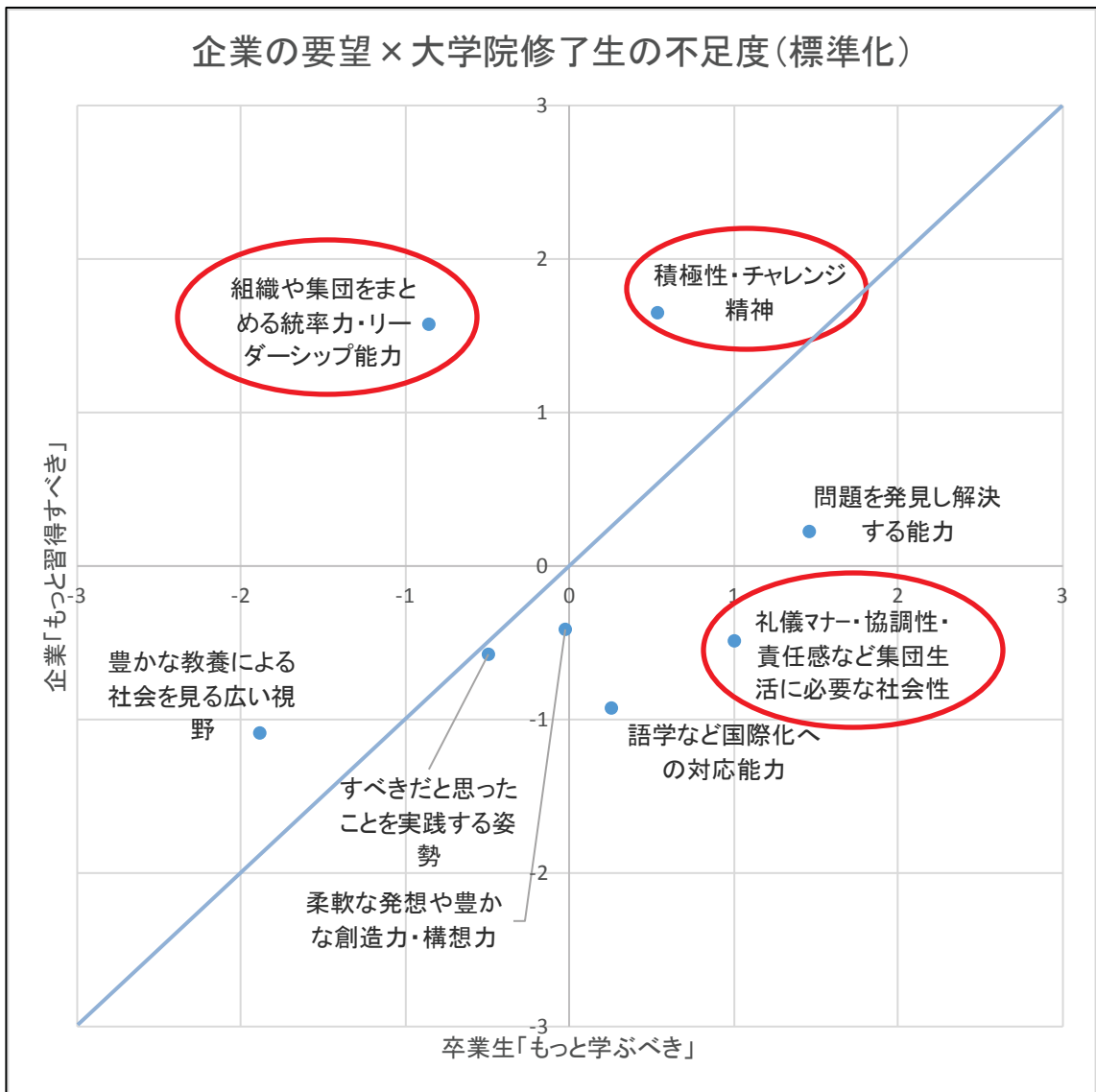


・共通する8項目について、企業「もっと習得すべき」の回答率(降順)と修了生「もっと学ぶべき」の回答率を示す。

・修了生の設問は卒業生に比べて少ないが、企業が「もっと習得すべき」と回答した上位2項目は、「問題を発見し解決する能力」と「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」であったが、修了生が「もっと学ぶべき」と回答した上位項目は「語学など国際化への対応能力」、「IT時代に対応した情報スキル」等であり、回答傾向は一致していなかった。



- ・双方の結果を標準化して比較した結果を示す。
- ・修了生の後悔と企業の要望が強いのが右上の領域であり、2項目が該当している。「積極性・チャレンジ精神」は、修了生の結果以上に企業は強く要望していた。
- ・修了生の後悔は強いが、企業の要望はあまり強くないのが右下の領域であり、2項目が該当している。特に「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」については、企業はさほど求めていなかった。
- ・卒業生の後悔は強くないが、企業が強く要望するのが左上の領域であり、1項目が該当している。「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」については、企業は強く要望していた。



・共通する8項目について、卒業生・修了生「もっと学ぶべき」と企業「もっと習得すべき」の回答率を示す。円の大きさ(数字)は企業の回答率であり、各項目の相関係数は以下のとおりで、その関連性は卒業生と修了生のみで高かった。

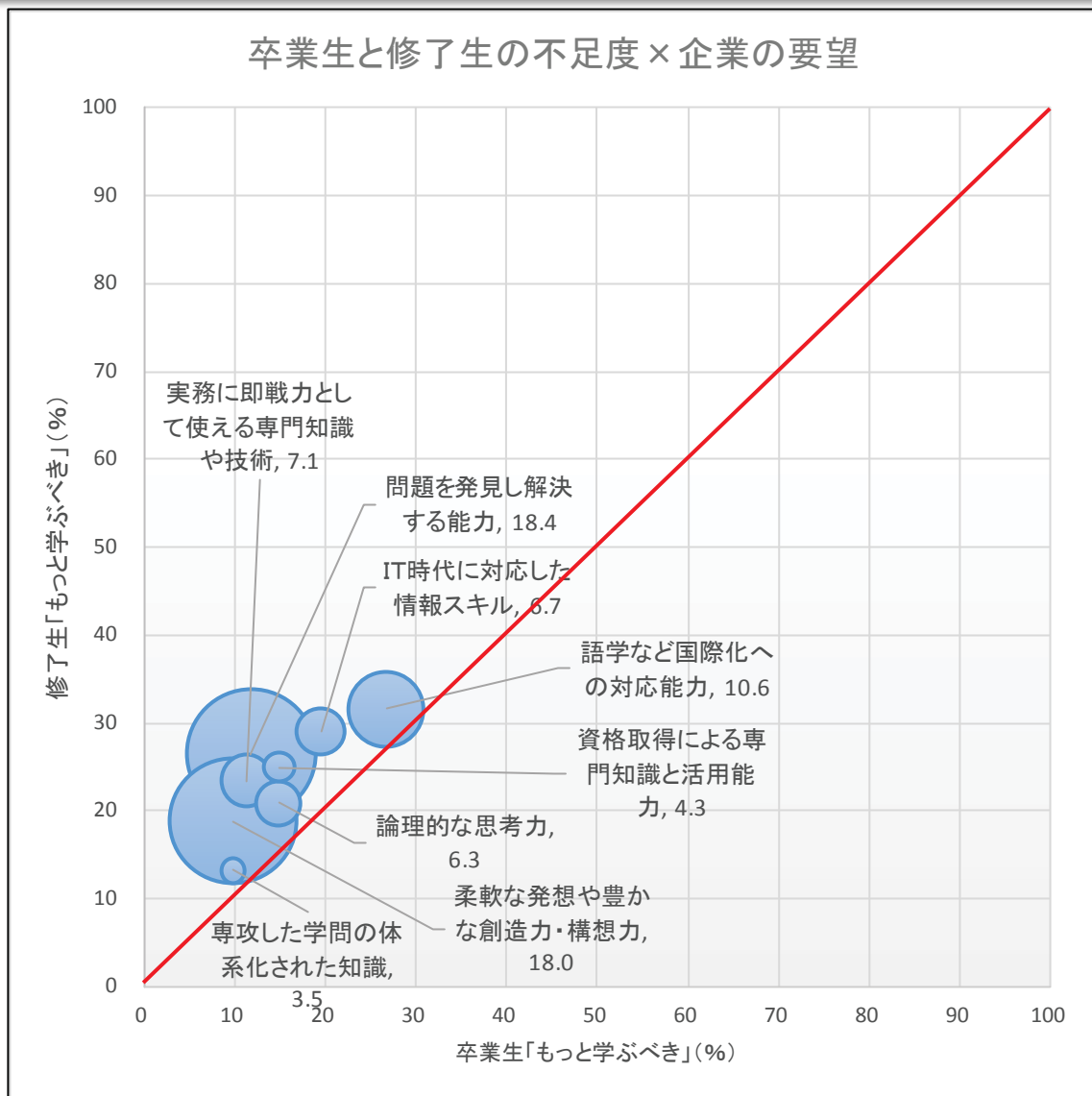
－卒業生「もっと学ぶべき」と修了生「もっと学ぶべき」の相関係数：0.79

－企業「もっと習得すべき」と卒業生「もっと学ぶべき」の相関係数：-0.13

－企業「もっと習得すべき」と修了生「もっと学ぶべき」の相関係数：0.18

・全8項目については、卒業生よりも修了生の回答率が高い傾向にあったが、全体的に回答率は低かった。

・本学の学生自身(卒業生及び修了生)は能力・技術・態度等としてもっと学んでおけば良かった(もっと学ぶべき)と思っており、企業としてももっと身につけておくべき(もっと習得すべき)と要望している主な項目は、「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」と「問題を発見し解決する能力」であり、修了生の方がその傾向が強かった。



## まとめ

本学の各学部・研究科が実施している教育活動に対する客観的評価を得ることを目的として、平成 25 年 3 月から平成 29 年 3 月までの期間の学部卒業生、大学院修了生を対象に、また当該期卒業生・修了生の就職先企業を対象に、平成 29 年度末（平成 30 年 3 月）に「鳥取大学の教育力」に関するアンケート調査を実施した。それぞれの詳細な調査結果については、第 I 部から第 IV 部の報告をご覧ください。ここでは、今回調査結果の概要、平成 24 年度実施の前回調査との比較結果、学部卒業生に対して新たに追加されたグローバル教育、キャリア教育に関する調査結果について述べることにする。

### 1. 学部卒業生に対する調査結果

総合的な満足度に関する設問：

「鳥取大学の教育内容に対する全体的な満足度」については、全学で 85.9%が肯定的回答を行い、学部別では農学部 91.3%、医学部 88.6%、地域学部 88.4%、工学部 79.6%であった。「大学教育の卒業後の仕事や生活への役立ち度」については、全学で 73.6%が肯定的回答を行い、学部別では医学部が最も多く 89.5%で、次いで農学部 75.5%、地域学部 68.8%、工学部 66.1%であった。地域学部は「全体的な満足度」「役立ち度」ともに「非常にそう思う」の回答が 25%以上と他学部に比べて高かった。「高校生に対する本学受験の推奨度」については、全学で 78.2%が肯定的回答を行い、学部別では医学部 83.4%、農学部 82.7%、地域学部 80.3%と 3 学部で 8 割を超えたが、工学部では 71.1%であった。

教育・研究の充実度に関する設問：

大学の教育・研究の充実度に関する 14 項目のすべてにおいて 40%以上の肯定的回答を得た。肯定的回答が最も多かった項目は「専門教育が充実していた」で 84.3%、最も少なかった項目は「他学部の授業が選択できた」で 42.0%であった。14 項目中、「非常にそう思う」が 2 割を超える項目は、「専門教育が充実していた」（24.0%）、「教員との交流が多かった」（20.7%）、「少人数による指導が受けられた」（20.0%）の 3 項目だった。

詳しく見ていくと、「教養教育の充実」については、地域学部と工学部で約 8 割、医学部と農学部で約 6 割であった。「専門教育の充実」については、農学部と医学部で約 9 割の高い肯定的回答率、工学部と地域学部は 8 割前後の肯定的回答で、総じて 8~9 割が肯定的回答をしており、全学的に専門教育が充実していたという結果であった。「工夫され勉強しやすいカリキュラム」については、全学で約 6 割の肯定的回答であったが、農学部・医学部・地域学部で約 6 割、工学部で約 5 割であった。「学習意欲が湧く授業が多かった」については、全学で約 6 割の肯定的回答であったが、学部間で差があり、地域学部が最も高く 68.8%、医学部 63.2%、農学部 58.3%、工学部 50.3%の肯定的回答だった。「少人数による指導」についても学部間の差が大きく、肯定的回答について地域学部では約 8 割であったが、農学部で約 6 割 5 分、医学部と工学部では 5 割以下だった。「教員との交流が多かった」についても学部間の差があり、地域学部で 7.5 割、農学部で約 7 割、医学部で約 6 割、工学部で 5 割未満の肯定的回答だった。「外国語学習に積極的だった」については、地域学部と農学部は 50%を超える一方、工学部では 41.8%、医学部では 36.8%と低めの肯定的回答だった。「参加型・プロジェクト型の実践教育に注力」については学

部間の差が大きく、地域学部は7割以上である一方、農学部と医学部は約5割、工学部は4割未満の肯定的回答だった。「学習面での施設・設備が充実していた」と感じる卒業生は、学部にかかわらず全学的に約7割が肯定的回答を行った。「研究面での施設・設備が充実していた」については、学部間での差が大きく、農学部のみが極めて高い肯定的回答(7割5分)である一方、工学部と医学部は5割5分、地域学部では5割という結果だった。「学術面での研究業績が優れていた」については、全学では5割5分が肯定的回答をしているが、学部間で差があり、農学部が最も高く64.5%、医学部は57.5%、工学部は52.8%、地域学部は51%であった。「著名な教授・講師が多かった」については、全学では4割5分が肯定的回答で、医学部のみ5割を若干超えたが、おおよそ4~5割の肯定的回答であり、学部間で大きな差はなかった。「産学共同研究で実績が豊富だった」については、肯定的回答は全学で約4割であり、各学部の結果もおおよそ4割であった。「他学部の授業が選択できた」については、地域学部で48.2%、農学部で44.8%、工学部40.3%である一方、医学部では35.1%の肯定的回答であった。

#### 交流活動・支援体制の充実度に関する設問：

大学の交流活動やサポート体制に関する9項目のうち、肯定的回答の多い順でみると、「クラブ・サークル活動が盛んだった」が最多(76.0%)、「IT活用教育」が最少(28.1%)であった。「学生生活の支援体制が充実」「就職活動の支援体制が充実」は約6割、「国際交流が活発」「地域社会との交流が盛ん」は約5割5分、「海外留学制度が充実」は約5割が肯定的回答であった。

詳しく見ていくと、「学生生活の支援体制が充実していた」と肯定的回答した卒業生は全学で62.3%、学部間の差はあまりなかった。「就職活動の支援体制が充実していた」の肯定的回答は全学で58.4%だった。工学部では7割近くである一方、地域学部と農学部では5割台、医学部では5割未満が肯定的に回答し、「非常にそう思う」と回答した者は地域学部が16.4%と最も高く、工学部と農学部では1割程度、医学部では1.8%だった。「国際交流が活発だった」と肯定的に回答した卒業生は全学で56.0%であったが、農学部と地域学部では7割を超える一方、工学部では約5割、医学部では4割未満であった。「海外留学制度が充実していた」と肯定的に回答した卒業生は全学で48.2%、農学部では約2割が「非常にそう思う」と回答、66.2%が肯定的に回答した。地域学部では1割以上が「非常にそう思う」と回答、57.6%が肯定的に回答し、工学部では43.8%、医学部では26.6%が肯定的に回答した。「地域社会との交流が盛んだった」に肯定的に回答した卒業生は全学で53.0%、地域学部では圧倒的に高い85.5%の肯定的回答であったのに対し、医学部で5割、農学部と工学部では4割台であった。「学外学習による職業体験や社会体験が多かった」と肯定的に回答した卒業生は全学で38.8%、地域学部で57.3%、医学部と農学部では約4割前後、工学部では3割未満だった。「資格取得のサポートに積極的だった」と肯定的に回答した卒業生は全学で33.4%、地域学部・工学部・農学部の3学部は約3割だったのに対して、医学部のみ46.9%と高い肯定的回答だった。「IT活用教育に熱心だった」と肯定的に回答した卒業生は全学で28.2%、工学部・地域学部・医学部で約3割前後、農学部は24.4%で低めだった。「クラブ・サークル活動が盛んだった」と肯定的に回答した卒業生は全学で75.9%、医学部では約9割、地域学部では約8割、工学部では7割強、農学部では6割5分の肯定的回答だった。

#### 大学での教育・学生生活を通じて習得した能力・技術・知識等に関する設問：

15項目中、「感性や人間性の豊かさ」が最も高い習得度(79.6%)で、「専攻した学問の体系化

された知識」「すべきだと思ったことを実践する姿勢」「問題を発見し解決する能力」「論理的な思考力」「豊かな教養による社会を見る広い視野」「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」「積極性・チャレンジ精神」「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」の8項目は約7割の習得度であった。

詳しく見ていくと、「専攻した学問の体系化された知識」の習得度は全学で74.4%、学部別では医学部が最も高く85.9%、次いで農学部78.4%、工学部74.3%、地域学部58.1%であった。「資格取得による専門知識と活用能力」は全学で48.2%の習得度だった。学部別では医学部が7割と高い習得度に対し、農学部で約5割、地域学部と工学部で約4割であった。「実務に即戦力として使える専門知識や技術」は全学で50.9%の習得度であったが、医学部が7割以上で最も高い習得度に対し、農学部で54.1%、工学部で46.7%、地域学部で32.7%だった。「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」の習得度は全学で65.6%、医学部73.4%、地域学部68.2%、工学部64.7%、農学部57.6%だった。「論理的思考力」の習得度は全学で71.8%、工学部78.3%、医学部72.5%、地域学部と農学部はおよそ6割5分だった。「問題を発見し解決する能力」の習得度は全学で71.8%、医学部77.8%、工学部・地域学部・農学部は7割前後であった。「感性や人間性の豊かさ」は全学で79.8%の習得度であったが、地域学部で約9割、医学部と農学部で約8割、工学部で7割強と高い習得度だった。特に地域学部では「大変習得できた」の回答者が約3割だった。「豊かな教養による社会を見る広い視野」は全学で71.2%の習得度であったが、医学部・工学部・農学部の3学部は約7割に対して、地域学部は約76.4%と少し高めの習得度だった。「すべきだと思ったことを実践する姿勢」は全学で74.2%であったが、学部間の差異はなく4学部ともに7割台であった。「大変習得できた」は農学部が特に高く23.2%だった。「積極性・チャレンジ精神」は全学で67.7%だった。学部間の差異はなく、4学部ともに7割前後であった。「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」は全学で約7割の習得度であったが、医学部・地域学部・農学部は7割台、工学部では約6割5分だった。「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」は全学で約5割の習得度で、医学部のみ6割近くあり、地域学部・工学部・農学部はおおよそ5割であった。「語学など国際化への対応能力」は全学で33.4%の習得度で、農学部が最も高く49.4%、次いで地域学部で36.4%、工学部と医学部では約2割台だった。「IT時代に対応した情報スキル」は、全学で35.9%の習得度で、工学部が約5割の高い習得度だったが、医学部と農学部は約3割、地域学部は約2割だった。「地域社会の知識やボランティア等による社会参加体験」は全学で46.9%の習得度で、地域学部が約8割で圧倒的に高い習得度で、特に「大変習得できた」の回答者は2割を超えていた。医学部と農学部は約4割、工学部では約3割5分の習得度だった。

社会に出て教育成果として役立った能力・技術・知識等に関する設問：

社会に出て大学で学んだ教育成果として役立った（「大変役立った」＋「ある程度役立った」）と回答した能力・技術・知識等は「感性や人間性の豊かさ」が最も高く86.5%だった。「すべきだと思ったことを実践する姿勢」（85.2%）、「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」（84.8%）、「豊かな教養による社会を見る広い視野」（83.3%）、「問題を発見し解決する能力」（82.7%）、「積極性・チャレンジ精神」（80.6%）、「論理的な思考力」（80.0%）は8割以上が役立ったと回答した。

詳しく見ていくと、「専攻した学問の体系化された知識」は全学の63.7%が役立ったと回答、

学部別では医学部 87.5%、農学部と工学部は 6 割前後、地域学部は約 5 割が役立ったと回答した。「資格取得による専門知識と活用能力」は全学で 55.2%、医学部 84.4%、農学部 52.1%、地域学部と工学部は約 4 割 5 分が役立ったと回答した。「実務に即戦力として使える専門知識や技術」は全学 60.1%が役立ったと回答し、医学部 85.4%に対し、農学部と工学部は 5 割、地域学部は 4 割台が役立ったと回答した。「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」は全学で 77.3%が役立ったと回答、医学部のみ 8 割台、地域学部・工学部・農学部も 75%以上で学部間での大きな差異はなかった。「論理的思考力」は全学では 80.0%が役立ったと回答、医学部 88.4%と最も高く、地域学部・工学部・農学部も 8 割弱の役立ち度であった。「問題を発見し解決する能力」「感性や人間性の豊かさ」「豊かな教養による社会を見る広い視野」「すべきだと思ったことを実践する姿勢」「積極性・チャレンジ精神」「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」はいずれも全学の 8 割から 9 割が役立ったと回答し、学部間に差はあまり見られなかった。「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」は全学の 65.3%が役立ったと回答したが、医学部で 77.3%と高い一方、地域学部・工学部は 6 割台、農学部は 58.1%であった。「語学など国際化への対応能力」が役立ったとの回答率は全学で 41.8%だった。「IT 時代に対応した情報スキル」「地域社会の知識やボランティア等による社会参加体験」が役立ったとの回答率はいずれも全学で 5 割であった。「学生時代にもっと学んでおけば良かった」と思う能力・技術・知識等に関して回答を求めたところ、「語学など国際化への対応能力」が 149 件で圧倒的に多く、次いで「IT 時代に対応した情報スキル」が 109 件であった。

## 2. 平成 24 年度実施のアンケート調査結果との比較

平成 24 年度調査と平成 29 年度調査の「総合的な満足度」を比較すると、「全体として満足」「卒業後の仕事や生活に役立っている」「受験を高校生に薦めたい」の全 3 項目で平成 29 年度調査の肯定回答率の方が若干ではあるが高かった。「教育と研究に関する充実度」については「学修面での施設・設備が充実」「研究面での施設・設備が充実」「工夫され勉強しやすいカリキュラム」「外国語学習に積極的」の 4 項目で平成 29 年度調査の方が高い肯定回答率である一方、「教員との交流が多かった」「著名な教授・講師が多かった」「他学部の授業が選択できた」の 3 項目では平成 24 年度調査の肯定回答率の方が若干高かった。「交流活動・支援体制に関する充実度」については「就職活動の支援体制が充実」「国際交流が活発」「地域社会との交流が盛ん」「海外留学制度が充実」「学外学習による職業体験や社会体験活動が多い」の 5 項目で、平成 29 年度調査の方が高い肯定回答率だった。特に「海外留学制度が充実」は大きな差が見られる。「大学での教育や学生生活を通じて習得した能力・技術・知識」については「語学など国際化への対応能力」で、平成 29 年度調査結果の肯定回答率が高くなっていた。しかしながら、平成 29 年度調査においても「国際化への対応能力」は 33.3%で、全ての項目の中で最も低い結果だった。その他の項目では微細な変動のみで大きな差は見られなかった。「社会に出てから役立った能力・技術・知識」を比較すると、15 項目中 14 項目で平成 29 年度調査結果の肯定回答率が高くなっていた。「専攻した学問の体系化された知識」については、平成 24 年度調査の役立ち度の方が平成 29 年度よりも高い結果となっていた。

### 3. キャリア教育およびグローバル教育に関する調査結果

#### キャリア教育に関する設問：

「キャリア入門」は平成 24 年度入学生より、本学では地域学部を除いて必修（または選択必修）科目となっているため、今回の調査対象となる卒業生ではその多くが単位を修得しているが、それ以外のキャリア教育科目について、単位を修得した卒業生は少ない。キャリア科目からの学びがその後、役に立ったのかを聞いたところ、在学中の役立ち感・卒業後の役立ち感ともに積極的評価は全体の 3 割前後にとどまった。

#### グローバル教育に関する設問：

学部生時代に海外研修や留学プログラムに参加しており、語学習得や国際交流が主たる参加目的であるように思われる。卒業時点においても、満足度に関するすべての質問項目において肯定的な意見が 6 割以上を占めた。チームワーク形成力、英語運用力、異文化理解・受容力、自己開発・管理力の習得について 7 割以上の肯定的な回答を得られた。一方で、トリリンガル能力の習得や地球的規模の問題に関する認識能力については、否定的回答が半数近くあった。

### 4. 大学院修了生に対する調査結果

#### 教育内容・研究指導に対する全体的な満足度に関する設問：

全学で 86.1%が肯定的に回答し、研究科別では地域学研究科が 94.4%で最も多く、農学研究科は 86.1%、工学研究科は 85.0%、医学系研究科は 84.6%だった。特に地域学研究科は「非常にそう思う」の回答率が 5 割に達した。「大学院の教育・研究の卒業後の仕事や生活への役立ち度」は全学で 77.9%が肯定回答した。研究科別では地域学研究科が 94.4%で最も多く、続いて多い順に医学系研究科 87.5%、農学研究科 77.8%、工学研究科 71.0%だった。特に「非常にそう思う」の回答率は、地域学研究科(50.0%)、農学研究科(50.0%)、医学系研究科(47.5%)で 5 割近かった。「学部生への本学大学院への進学推奨度」について、全学で 79.4%が肯定的回答し、研究科別では地域学研究科が 94.4%で最も多く、続いて多い順に医学系研究科 80.0%、工学研究科 77.8%、農学研究科 75.0%だった。

#### 教育・研究の充実度に関する設問：

肯定的回答率の高い順に「研究指導の充実」(88.2%)、「授業内容の充実」(82.5%)である一方、「産学共同研究で実績が豊富だった」が最も低かった(45.3%)。研究科別では、地域学研究科では「授業内容の充実」が 1 位、医学系研究科では「研究指導の充実」と「施設や設備・装置の充実」が 1 位(同率)となった。工学研究科、農学研究科では「研究指導の充実」が 1 位となった。「カリキュラムについて、授業内容は充実していた」について、全学では 82.5%の肯定回答率で、研究科別では地域学研究科が最も高く 94.4%、続いて農学研究科が 83.3%、工学研究科が 83.0%、医学系研究科が 76.9%だった。「研究室における研究指導は充実していた」について全学では 88.2%の肯定回答率だった。研究科別では農学研究科 91.7%、地域学研究科 88.9%、医学系研究科 87.5%、学研究科 87.0%だった。また、「非常にそう思う」の割合は全学で 47.7%だった。「研究の施設や設備、装置は充実していた」について、全学では 73.8%の肯定回答率で、研究科別では医学系研究科が最も高く 87.5%、続いて農学研究科 77.8%、工学研究科 70.0%、地域学研究科 61.1%であり、研究科間でやや差がある。「学術面での研究業績が優れていた」について、全学では 67.0%の肯定回答率で、研究科別では地域学研究科が最も高く 83.3%、続いて医学系研究科 71.8%、農学研究



科 66.7%、工学研究科 63.0%だった。「産学共同研究での実績が豊富だった」について、全学では 45.3%の肯定回答率で、研究科別では農学研究科の 52.8%が最も高く、続いて地域学研究科 47.1%、工学研究科 45.5%、医学系研究科 38.5%だった。

研究や専門教育を通じて習得できた能力・技術・知識等に関する設問：

8項目の中で「論理的な思考力」(89.3%)が最も高い習得度であり、続いて「専攻した学問の体系化された知識」(86.7%)、「問題を発見し解決する能力」(84.2%)、「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」(74.0%)が高い習得度だった。一方、「資格取得による専門知識と活用能力」は 42.3%、「語学など国際化への対応能力」は 25.0%にとどまった。「専攻した学問の体系化された知識」について全学では 86.7%の習得度で、研究科別では農学研究科が最も高い 91.9%、医学系研究科が 90.0%、全研究科で 8割以上の習得度だった。「論理的な思考力」について、全学では 89.3%の習得度で、研究科別では農学研究科が最も高い 97.3%であった。「問題を発見し解決する能力」について、全学では 84.2%の習得度で、研究科別では、農学研究科が最も高い 91.9%であった。「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」は全学で 74.0%の習得度だった。研究科別では地域学研究科が最も高い 88.9%、続いて農学研究科 81.1%、医学系研究科 72.5%、工学研究科 69.0%であった。「IT時代に対応した情報スキル」について、全学では 51.0%の習得度で、研究科別では最も高い農学研究科 64.9%から最も低い地域学研究科 27.8%まで研究科間で差が見られた。「語学など国際化への対応能力」について、全学では 25.0%の習得度で、研究科別では農学研究科の 40.5%が最も高く、続いて地域学研究科 27.8%、工学研究科 22.0%、医学系研究科 17.5%であった。「実務に即戦力として使える専門知識や技術」について、全学では 56.1%の習得度で、研究科別では高い順に地域学研究科(83.3%)、医学系研究科(72.5%)、農学研究科(48.6%)、工学研究科(48.0%)であり、研究科間で差が見られた。「資格取得による専門知識と活用能力」について、全学では 42.3%の習得度で、研究科別では最も高い地域学研究科が 77.8%、続いて医学系研究科 57.5%、工学研究科 35.0%、農学研究科 29.7%であり、研究科間の差が大きい。

社会に出て教育成果として役立った能力・技術・知識等に関する設問：

「論理的な思考力」(92.7%)、「問題を発見し解決する能力」(90.1%)、「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」(82.5%)が 8割以上の高い役立ち度であった。一方、「語学など国際化への対応能力」は 31.3%の役立ち度であった。「専攻した学問の体系化された知識」は全学で 68.9%が役立ったと回答した。研究科別では、高い順に地域学研究科 88.2%、医学系研究科 82.1%、農学研究科 63.9%、工学研究科 61.9%であり、研究科間でやや差が見られた。「論理的な思考力」は全学で 92.7%が役立ったと回答し、全ての研究科において 9割以上の役立ち度であった。「問題を発見し解決する能力」は全学で 90.1%が役立ったと回答、研究科別では地域学研究科が最も高く 94.4%であり、全ての研究科で 86%以上の高い役立ち度であった。また、農学研究科では「大変役立った」の回答率が 5割に達した。「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」は全学で 82.5%が役立ったと回答、研究科別では地域学研究科が特に高い 94.4%の役立ち度、工学研究科 82.3%、医学系研究科 82.1%、農学研究科 77.1%の高い役立ち度だった。「IT時代に対応した情報スキル」は全学で 56.7%が役立ったと回答、研究科別では農学研究科と工学研究科が 6割前後、医学系研究科が 5割、地域学研究科が 5割弱(47.1%)であった。「語学など国際化への対応能力」は全学で 31.3%が役立ったと回答、研究科別では最も高い地域学研究科が 43.8%、続いて農学研究科 34.3%、工学研究科 30.9%、医学系研究科 24.2%の役立ち度であった。「実務に即戦力として使える専門知識

や技術」は全学で 53.2%が役立ったと回答、研究科別では地域学研究科(76.5%)と医学系研究科(73.7%)が7割以上であったが、工学研究科は46.9%、農学研究科は38.2%にとどまり、研究科間で差が見られた。「資格取得による専門知識と活用能力」は全学で48.9%が役立ったと回答、研究科別では7割以上が役立ったと回答した地域学研究科(75.0%)と医学系研究科(71.1%)に対して、農学研究科は44.1%、工学研究科は37.9%であり、研究科間で差が見られた。

## 5. 就職先企業に対する調査結果

近年の新卒採用活動で重視する学生に求める能力・態度等を優先順位の高いものとして、「積極性・チャレンジ精神」「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」の2項目が特に抜きんでて多く回答を集めた。この傾向は、前回(平成24年度)調査とも共通している。また、「問題を発見し解決する能力」、「感性や人間性の豊かさ」、「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」、「すべきだと思ったことを実践する姿勢」の回答数も多かった点も前回調査とほぼ同じである。直近5年間での新卒採用活動において、学部卒業者と大学院修了者のあいだに求める能力・態度等に違いがあるかどうかを聞いたところ、「ない」と回答した企業・団体等が全体の8割以上を占め、「ある」と回答したのは全体の1割程度にとどまった。さらに、求める能力・態度等に違いがある場合、どのような能力・態度等をどちらに求めるか具体的な違いを聞いたところ、「大学院修了者に対してより高度な専門知識・技術を求める」という回答が大半を占めた。そのほかに大学院修了者に求めるものとしては、「論理的な思考力」、「リーダーシップ」等が挙げられた。これらの回答内容も含めて、大学院修了者には大学院在籍中の経験を通じて培われる能力や態度等に期待するという趣旨が寄せられた。

各社がこれまでに採用した本学卒業生の実績人数は、おおむね従業員規模(正規従業員)に比例するかたちとなっている。本学卒業生の印象として、何かイメージされる特徴があるかどうかを聞いたところ、「ある」と回答した企業・団体等は「ない」と回答した企業・団体等の半分程度にとどまった。なお、従業員規模別の集計では、特に差はみられなかった。また、イメージされる特徴がある場合、それを具体的に記入してもらったところ、単語の出現度数として最も多かったのが「真面目」・「まじめ」で、45件と抜きん出た。以下、「素直」・「実直」・「誠実」(23件)、「積極的」・「積極性」(12件)、「おとなしい」・「もの静か」(11件)、「勤勉」(6件)、「明るい」(5件)、「堅実」(3件)、「穏やか」などが続いた。

## 6. 就職先企業・学部卒業生・大学院修了生のデータ関連性

習得度について：

卒業生と企業の評価がともに高いのが「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」で、卒業生の結果以上に企業は高く評価していた。また、卒業生の評価は高いが、企業の評価が低いのが「豊かな教養による社会を見る広い視野」、「問題を発見し課題を解決する能力」「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」であった。卒業生と企業の評価がともに低いのが「IT時代に対応した情報スキル」、「語学など国際化への対応能力」であった。修了生と企業の評価がともに高いのが「論理的な思考力」、「問題を発見し解決する能力」であった。また、修了生の評価は高いが、企業の評価が低いのが「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」であった。修了生と企業の評価がともに低いのが「語学など国際化への対応能力」であった。

#### 要望度について：

卒業生の評価は高いが企業が強く要望するのが「積極性・チャレンジ精神」で、卒業生の結果以上に企業は高いものを要望していた。卒業生の評価が低く企業が強く要望するのが「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」で、卒業生自身があまり習得できていないとの認識はあるが、企業はより高いものを要望していた。卒業生の評価が低く企業があまり要望していないのが「IT時代に対応した情報スキル」、「語学など国際化への対応能力」で、企業は卒業生が取得できたと思うレベルでは少し足りないと考えている。修了生の評価は高いが企業が強く要望するのが「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」で、修了生の結果以上に企業は高いものを要望していた。修了生の評価が低く企業が強く要望するのが「問題を発見し解決する能力」で、修了生自身が習得できていないとの認識はあるが、企業はもう少し高いものを要望していた。

#### ギャップ度について：

卒業生の評価は高いが企業が強く要望するのが「積極性・チャレンジ精神」で、卒業生以上に企業は高いものを要望していた。卒業生の評価が低く企業が強く要望するのが「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」で、卒業生自身が習得できていないとの認識はあるが企業はより高いものを要望していた。卒業生の評価が低く企業があまり要望していないのが「語学など国際化への対応能力」で、企業は卒業生が取得できたと思うレベルでは少し足りないと考えている。修了生の評価は高いが企業が強く要望するのが「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」で、修了生の結果以上に企業はもう少し高いものを要望していた。修了生の評価が低く企業が強く要望するのが「問題を発見し解決する能力」で、修了生自身が習得できていないとの認識はあるが、企業はもう少し高いものを要望していた。

#### 不足度について：

卒業生の後悔と企業の要望が強いのが「積極性・チャレンジ精神」、「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」で、卒業生の結果以上に企業は強く要望していた。卒業生の後悔は強いが、企業の要望はあまり強くないのが「語学など国際化への対応能力」、「IT時代に対応した情報スキル」で、逆に卒業生の後悔は強くないが企業が強く要望するのが「柔軟な発想や豊かな創造力・構想力」であった。修了生の後悔と企業の要望が強いのが「積極性・チャレンジ精神」で、修了生の結果以上に企業は強く要望していた。修了生の後悔は強いが企業の要望はあまり強くないのが「礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性」で、逆に修了生の後悔は強くないが企業が強く要望するのが「組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力」であった。

以上のように、今回の調査結果からは本学の教育活動にかかる貴重な客観的評価が得られたと同時に、同結果は学部卒業生・大学院修了生・就職先企業からの意見・要望としていくつかの課題を提示している。本学では学部・研究科によって教育目標や養成する人材像が明確に異なっている。例えば医学部や医学系研究科では、(医療研究者を含む)医療従事者の育成という極めて明確な方向性があり、卒業・修了後の進路も医療関係に集中している。当然のことながら、今回の調査結果はこのような事情を明瞭に反映している。したがって、設問項目のすべてについて、学部・研究科毎の結果を横並びにして単純に比較できないのは言うまでもない。しかし、今回の

結果から学部・研究科毎にある程度の傾向を抽出することは、十分に可能であり、その意味で今回のアンケート調査結果は、それぞれの学部・研究科における今後の教育改革において、極めて貴重な情報を提供し得る。この調査結果が、今後、本学の教育目標や教育グランドデザインの見直し、あるいは、各学部・研究科における教育改善の取り組みに大いに活用されることを期待する。

平成 31 年 2 月

# 資料

# 平成24年度及び平成29年度の比較データ 【学部卒業生】

- 平成24年度アンケートでは学部卒業生(N=762)、平成29年度アンケートでは学部卒業生(N=552)のデータを使用し、集計を行った。ただし、「所属未記載者」及び「各設問での未回答者」は対象外とした。
- 両アンケートの結果については、以下の項目において「**肯定的回答率**」により比較を行った。
  - ・**総合的な満足度【3項目】**:  
(「非常にそう思う」+「ある程度そう思う」)／回答件数
  - ・**充実度【教育10項目、研究4項目、交流活動4項目及びサポート体制5項目】**:  
(「非常にそう思う」+「ある程度そう思う」)／回答件数
  - ・**能力・技術・知識等の習得度【論理力4項目、実践力5項目及び人間力6項目】**:  
(大変習得できた+ある程度習得できた)／回答件数
  - ・**学修成果の役立ち度【論理力4項目、実践力5項目及び人間力6項目】**:  
(大変役立った+ある程度役立った)／回答件数      ※平成29年度から実施
- アンケート結果欄における「**赤色セル**」は75%以上、ポイント差欄における「**青色セル**」は10ポイント差以上の増減を示す。

## ■アンケート結果の概要

- 総合的な満足度では、全体として前回より4ポイント増加しており、教育内容については高い満足度を維持していた。
- 充実度も概ね前回より向上しており、「専門教育」については全学部において高い満足度を維持していた。
- 習得度では、「感性や人間性の豊かさ」が前回と同様高い満足度を維持していたが、4ポイント減少していた。
- 役立ち度では、「論理力」や「人間力」カテゴリーに示す各能力が全学部において概ね高い値を示していたが、「実践力」カテゴリーの項目が低い傾向にあるのが今後の課題である。
- 大学として教育の質の向上がみられた箇所は、「国際的な交流が活発だった」、「海外留学制度が充実していた」及び「語学など国際化への対応能力」であった。これは本学が「スーパーグローバル大学等事業経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」(平成24～28年度)に取り組んだ成果であると推察できる。

# 平成24年度及び平成29年度の比較データ 【学部卒業生】

| 総合的な満足度 |                          | 平成24年度アンケート(%)<br>(非常にそう思う+ある程度そう思う) |                   |                   |                   |      | 平成29年度アンケート(%)<br>(非常にそう思う+ある程度そう思う) |                   |      |                   |      | ポイント差 |                   |                  |                  |     |
|---------|--------------------------|--------------------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|------|--------------------------------------|-------------------|------|-------------------|------|-------|-------------------|------------------|------------------|-----|
|         |                          | 大学                                   | 地域学部              | 医学部               | 工学部               | 農学部  | 大学                                   | 地域学部              | 医学部  | 工学部               | 農学部  | 大学    | 地域学部              | 医学部              | 工学部              | 農学部 |
| 総合      | 鳥取大学の教育内容に、全体として満足している   | 79.8                                 | 86.5 <sup>1</sup> | 78.8              | 74.6              | 81.7 | 85.8                                 | 88.4 <sup>1</sup> | 88.6 | 79.6              | 91.3 | 5.9   | 1.9 <sup>1</sup>  | 9.8              | 5.0 <sup>1</sup> | 9.6 |
|         | 鳥取大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている | 71.3                                 | 72.5              | 84.4              | 64.6              | 67.1 | 73.5                                 | 68.8              | 89.5 | 66.2              | 75.6 | 2.2   | -3.8 <sup>1</sup> | 5.1              | 1.6              | 8.5 |
|         | 鳥取大学への受験を高校生に薦めたい        | 73.1                                 | 81.9              | 70.4              | 64.6              | 78.8 | 78.0                                 | 80.4              | 83.3 | 71.1              | 82.7 | 5.0   | -1.5              | 12.9             | 6.6              | 3.9 |
|         | 平均点                      | 74.7                                 | 80.3              | 77.9 <sup>1</sup> | 67.9 <sup>1</sup> | 75.9 | 79.1                                 | 79.2              | 87.1 | 72.3 <sup>1</sup> | 83.2 | 4.4   | -1.1              | 9.3 <sup>1</sup> | 4.4              | 7.3 |

| 充実度    |                         | 平成24年度アンケート(%)<br>(非常にそう思う+ある程度そう思う) |                   |      |      |      | 平成29年度アンケート(%)<br>(非常にそう思う+ある程度そう思う) |                   |      |      |      | ポイント差 |                   |      |                   |      |
|--------|-------------------------|--------------------------------------|-------------------|------|------|------|--------------------------------------|-------------------|------|------|------|-------|-------------------|------|-------------------|------|
|        |                         | 大学                                   | 地域学部              | 医学部  | 工学部  | 農学部  | 大学                                   | 地域学部              | 医学部  | 工学部  | 農学部  | 大学    | 地域学部              | 医学部  | 工学部               | 農学部  |
| 教育     | 教養教育が充実していた             | 69.3                                 | 81.8 <sup>1</sup> | 62.5 | 64.0 | 70.7 | 70.2                                 | 79.5 <sup>1</sup> | 61.1 | 75.6 | 61.9 | 0.9   | -2.3 <sup>1</sup> | -1.4 | 11.6 <sup>1</sup> | -8.8 |
|        | 専門教育が充実していた             | 81.2                                 | 77.8              | 84.9 | 79.1 | 84.3 | 84.3                                 | 78.6              | 88.6 | 81.6 | 90.5 | 3.1   | 0.8 <sup>1</sup>  | 3.7  | 2.5 <sup>1</sup>  | 6.1  |
|        | 外国語学習に積極的だった            | 37.2                                 | 39.2              | 31.3 | 32.1 | 48.5 | 45.8                                 | 53.6              | 36.8 | 41.8 | 53.5 | 8.5   | 14.4              | 5.6  | 9.7               | 5.1  |
|        | 工夫され勉強しやすいカリキュラムになっていた  | 50.4                                 | 56.5              | 55.0 | 45.8 | 46.4 | 56.9                                 | 57.7              | 59.6 | 52.2 | 61.4 | 6.4   | 1.1               | 4.6  | 6.4               | 15.0 |
|        | 参加型・プロジェクト型の実践教育に注力していた | 47.5                                 | 61.8              | 39.4 | 44.4 | 45.5 | 50.0                                 | 72.3              | 48.2 | 37.0 | 52.8 | 2.5   | 10.6              | 8.9  | -7.4              | 7.3  |
|        | 少人数による指導が受けられた          | 56.9                                 | 78.9 <sup>1</sup> | 46.3 | 46.7 | 59.0 | 57.5                                 | 80.4              | 50.0 | 44.8 | 64.6 | 0.6   | 1.4               | 3.8  | -1.9              | 5.5  |
|        | 教員との交流が多かった             | 63.2                                 | 77.2              | 65.0 | 49.2 | 67.5 | 60.7                                 | 75.0              | 59.6 | 47.3 | 70.9 | -2.5  | -2.2              | -5.4 | -1.9              | 3.4  |
|        | 学習意欲が湧く授業が多かった          | 56.7                                 | 66.7              | 60.6 | 45.0 | 59.6 | 58.4                                 | 68.8              | 63.2 | 50.2 | 58.3 | 1.7   | 2.1               | 2.5  | 5.2               | -1.4 |
|        | 他学部の授業が選択できた            | 45.9                                 | 55.0              | 28.8 | 44.5 | 54.8 | 42.0                                 | 48.2              | 35.1 | 40.3 | 44.9 | -3.9  | -6.8              | 6.3  | -4.2              | -9.9 |
|        | 学習面での施設・設備が充実していた       | 58.4                                 | 51.2              | 63.1 | 60.4 | 58.4 | 67.5                                 | 69.6              | 69.3 | 65.0 | 68.5 | 9.1   | 18.5              | 6.2  | 4.6               | 10.1 |
|        | 平均点                     | 56.7                                 | 64.6              | 53.7 | 51.1 | 59.5 | 59.3                                 | 68.4              | 57.2 | 53.6 | 62.7 | 2.6   | 3.8               | 3.5  | 2.5               | 3.2  |
| 研究     | 著名な教授・講師が多かった           | 45.3                                 | 43.2              | 42.1 | 45.6 | 50.0 | 44.7                                 | 44.1              | 50.9 | 44.3 | 40.9 | -0.5  | 0.9               | 8.8  | -1.3              | -9.1 |
|        | 学術面での研究業績が優れていた         | 51.4                                 | 48.2              | 44.9 | 54.0 | 57.2 | 55.8                                 | 50.0              | 57.5 | 52.7 | 64.6 | 4.4   | 1.8               | 12.6 | -1.2              | 7.3  |
|        | 産学共同研究で実績が豊富だった         | 41.2                                 | 36.9              | 34.6 | 44.3 | 47.6 | 42.4                                 | 40.0              | 40.2 | 43.5 | 44.9 | 1.1   | 3.1               | 5.6  | -0.8              | -2.7 |
|        | 研究面での施設・設備が充実していた       | 51.0                                 | 33.3              | 50.3 | 54.6 | 64.5 | 58.9                                 | 50.0              | 54.9 | 56.2 | 74.8 | 7.9   | 16.7              | 4.6  | 1.6               | 10.3 |
| 平均点    | 47.2                    | 40.4                                 | 43.0              | 49.6 | 54.8 | 50.4 | 46.0                                 | 50.9              | 49.2 | 56.3 | 3.2  | 5.6   | 7.9               | -0.4 | 1.5               |      |
| 交流活動   | 地域社会との交流が盛んだった          | 45.9                                 | 71.9 <sup>1</sup> | 45.0 | 30.4 | 42.2 | 52.9                                 | 85.6 <sup>1</sup> | 50.0 | 41.3 | 45.7 | 7.0   | 13.7              | 5.0  | 10.9              | 3.5  |
|        | 国際的な交流が活発だった            | 45.5                                 | 50.3              | 34.4 | 33.5 | 68.7 | 56.0                                 | 73.0              | 36.8 | 46.8 | 73.2 | 10.4  | 22.7              | 2.5  | 13.3              | 4.6  |
|        | クラブ・サークル活動が盛んだった        | 74.3                                 | 77.2              | 84.4 | 70.3 | 67.3 | 75.9                                 | 79.1              | 88.6 | 73.6 | 65.4 | 1.7   | 1.9               | 4.2  | 3.3               | -1.9 |
|        | 学外学習による職業体験や社会体験が多かった   | 33.3                                 | 46.8              | 36.9 | 26.3 | 26.1 | 38.8                                 | 57.3              | 41.6 | 27.9 | 37.8 | 5.5   | 10.5              | 4.7  | 1.6               | 11.7 |
| 平均点    | 49.7                    | 61.5                                 | 50.2              | 40.1 | 51.0 | 55.9 | 73.7                                 | 54.3              | 47.4 | 55.5 | 6.2  | 12.2  | 4.1               | 7.3  | 4.5               |      |
| サポート体制 | 資格取得のサポートに積極的だった        | 32.1                                 | 35.1              | 47.5 | 25.8 | 23.0 | 33.3                                 | 30.9              | 46.9 | 29.9 | 29.1 | 1.3   | -4.2              | -0.6 | 4.0               | 6.1  |
|        | IT活用教育に熱心だった            | 31.6                                 | 26.9              | 28.1 | 37.9 | 30.7 | 28.1                                 | 27.3              | 27.7 | 31.3 | 24.4 | -3.5  | 0.4               | -0.4 | -6.6              | -6.3 |
|        | 海外留学制度が充実していた           | 31.3                                 | 36.8              | 18.8 | 27.2 | 43.9 | 48.1                                 | 57.7              | 26.5 | 43.8 | 66.1 | 16.8  | 20.8              | 7.8  | 16.6              | 22.2 |
|        | 学生生活の支援体制が充実していた        | 60.2                                 | 64.3              | 62.5 | 55.4 | 60.6 | 62.2                                 | 62.2              | 64.6 | 60.7 | 63.0 | 2.0   | -2.2              | 2.1  | 5.3               | 2.4  |
|        | 就職活動の支援体制が充実していた        | 52.5                                 | 51.8              | 46.9 | 55.6 | 53.9 | 58.3                                 | 56.4              | 49.1 | 68.2 | 52.8 | 5.8   | 4.6               | 2.2  | 12.5              | -1.2 |
| 平均点    | 41.5                    | 43.0                                 | 40.8              | 40.4 | 42.4 | 46.0 | 46.9                                 | 43.0              | 46.8 | 47.1 | 4.5  | 3.9   | 2.2               | 6.4  | 4.6               |      |

# 平成24年度及び平成29年度の比較データ 【学部卒業生】

| 能力・技術・知識等の習得度 |                            | 平成24年度アンケート(%)<br>(大変習得できた+ある程度習得できた) |                   |                   |                   |      | 平成29年度アンケート(%)<br>(大変習得できた+ある程度習得できた) |                   |                   |                   |      | ポイント差             |                    |                   |                   |      |
|---------------|----------------------------|---------------------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|------|---------------------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|------|-------------------|--------------------|-------------------|-------------------|------|
|               |                            | 大学                                    | 地域学部              | 医学部               | 工学部               | 農学部  | 大学                                    | 地域学部              | 医学部               | 工学部               | 農学部  | 大学                | 地域学部               | 医学部               | 工学部               | 農学部  |
| 論<br>理<br>力   | 専攻した学問の体系化された知識            | 71.7                                  | 62.6 <sup>1</sup> | 83.1              | 68.3              | 75.2 | 74.2                                  | 58.2 <sup>1</sup> | 85.8              | 74.2              | 78.4 | 2.5               | -4.4 <sup>1</sup>  | 2.7 <sup>1</sup>  | 5.9 <sup>1</sup>  | 3.2  |
|               | 論理的な思考力                    | 69.4                                  | 66.1 <sup>1</sup> | 74.4              | 72.9              | 63.0 | 71.5                                  | 65.5 <sup>1</sup> | 72.6              | 78.3              | 65.6 | 2.1               | -0.6 <sup>1</sup>  | -1.8 <sup>1</sup> | 5.4 <sup>1</sup>  | 2.6  |
|               | 問題を発見し解決する能力               | 68.2                                  | 70.8              | 71.9 <sup>1</sup> | 67.1 <sup>1</sup> | 63.6 | 71.7                                  | 69.1 <sup>1</sup> | 77.9              | 72.2              | 68.0 | 3.5               | -1.7 <sup>1</sup>  | 6.0 <sup>1</sup>  | 5.1 <sup>1</sup>  | 4.4  |
|               | 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力           | 65.9                                  | 74.9 <sup>1</sup> | 60.6 <sup>1</sup> | 66.3 <sup>1</sup> | 61.2 | 65.4                                  | 68.2 <sup>1</sup> | 73.5              | 64.6 <sup>1</sup> | 57.6 | -0.4              | -6.7 <sup>1</sup>  | 12.8 <sup>1</sup> | -1.6 <sup>1</sup> | -3.6 |
|               | 平均点                        | 68.8                                  | 68.6 <sup>1</sup> | 72.5 <sup>1</sup> | 68.6 <sup>1</sup> | 65.8 | 70.7                                  | 65.2 <sup>1</sup> | 77.4              | 72.3              | 67.4 | 1.9               | -3.3 <sup>1</sup>  | 4.9 <sup>1</sup>  | 3.7 <sup>1</sup>  | 1.6  |
| 実<br>践<br>力   | IT時代に対応した情報スキル             | 38.2                                  | 32.7 <sup>1</sup> | 33.8              | 49.6              | 31.7 | 35.8                                  | 21.8 <sup>1</sup> | 31.9              | 48.5              | 32.0 | -2.4              | -10.9 <sup>1</sup> | -1.9              | -1.1 <sup>1</sup> | 0.3  |
|               | 語学など国際化への対応能力              | 23.3                                  | 23.5 <sup>1</sup> | 18.1              | 20.8              | 31.5 | 33.3                                  | 36.4 <sup>1</sup> | 23.9              | 27.8              | 48.4 | 10.1              | 12.8 <sup>1</sup>  | 5.8 <sup>1</sup>  | 6.9 <sup>1</sup>  | 16.9 |
|               | 実務に即戦力として使える専門知識や技術        | 49.5                                  | 38.6 <sup>1</sup> | 70.0 <sup>1</sup> | 48.8 <sup>1</sup> | 41.8 | 50.8                                  | 32.7 <sup>1</sup> | 72.6              | 46.7 <sup>1</sup> | 54.0 | 1.4               | -5.9 <sup>1</sup>  | 2.6 <sup>1</sup>  | -2.0 <sup>1</sup> | 12.2 |
|               | 地域社会の知識やボランティアなどによる社会参加体験  | 45.2                                  | 75.4              | 41.3 <sup>1</sup> | 31.3 <sup>1</sup> | 38.2 | 46.8                                  | 79.1              | 41.6              | 35.5 <sup>1</sup> | 41.1 | 1.5               | 3.7 <sup>1</sup>   | 0.3 <sup>1</sup>  | 4.3 <sup>1</sup>  | 2.9  |
|               | 資格取得による専門知識と活用能力           | 47.3                                  | 45.0 <sup>1</sup> | 80.0 <sup>1</sup> | 32.9 <sup>1</sup> | 39.0 | 48.2                                  | 40.0 <sup>1</sup> | 71.7              | 38.6              | 49.6 | 0.8               | -5.0 <sup>1</sup>  | -8.3 <sup>1</sup> | 5.7 <sup>1</sup>  | 10.6 |
| 平均点           | 40.7                       | 43.1 <sup>1</sup>                     | 48.6 <sup>1</sup> | 36.7 <sup>1</sup> | 36.4              | 43.0 | 42.0 <sup>1</sup>                     | 48.3              | 39.4              | 45.0              | 2.3  | -1.1 <sup>1</sup> | -0.3 <sup>1</sup>  | 2.7 <sup>1</sup>  | 8.6               |      |
| 人<br>間<br>力   | 感性や人間性の豊かさ                 | 84.2                                  | 88.9 <sup>1</sup> | 85.6 <sup>1</sup> | 79.6 <sup>1</sup> | 84.8 | 79.7                                  | 89.9 <sup>1</sup> | 81.4              | 72.2              | 81.6 | -4.6              | 1.0 <sup>1</sup>   | -4.2 <sup>1</sup> | -7.4 <sup>1</sup> | -3.2 |
|               | 豊かな教養による社会を見る広い視野          | 68.1                                  | 79.5 <sup>1</sup> | 66.9 <sup>1</sup> | 64.6 <sup>1</sup> | 62.4 | 71.2                                  | 76.4 <sup>1</sup> | 69.9              | 69.2              | 71.0 | 3.2               | -3.2 <sup>1</sup>  | 3.0 <sup>1</sup>  | 4.6 <sup>1</sup>  | 8.5  |
|               | すべきだと思ったことを実践する姿勢          | 72.1                                  | 74.3 <sup>1</sup> | 75.6 <sup>1</sup> | 68.3 <sup>1</sup> | 72.1 | 74.0                                  | 71.8 <sup>1</sup> | 78.8              | 72.7 <sup>1</sup> | 74.4 | 1.9               | -2.5 <sup>1</sup>  | 3.1 <sup>1</sup>  | 4.4 <sup>1</sup>  | 2.3  |
|               | 積極性・チャレンジ精神                | 70.4                                  | 70.8 <sup>1</sup> | 70.0 <sup>1</sup> | 65.8 <sup>1</sup> | 77.0 | 67.6                                  | 66.4 <sup>1</sup> | 72.6              | 66.0 <sup>1</sup> | 67.2 | -2.8              | -4.4 <sup>1</sup>  | 2.6 <sup>1</sup>  | 0.2 <sup>1</sup>  | -9.8 |
|               | 礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性 | 70.4                                  | 78.9 <sup>1</sup> | 71.3 <sup>1</sup> | 65.8 <sup>1</sup> | 67.3 | 70.6                                  | 72.7 <sup>1</sup> | 77.9              | 64.6 <sup>1</sup> | 72.0 | 0.2               | -6.2 <sup>1</sup>  | 6.6 <sup>1</sup>  | -1.2 <sup>1</sup> | 4.7  |
|               | 組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力    | 51.1                                  | 51.5 <sup>1</sup> | 53.1 <sup>1</sup> | 47.9 <sup>1</sup> | 53.3 | 51.0                                  | 50.0 <sup>1</sup> | 58.4              | 50.0              | 47.2 | -0.1              | -1.5 <sup>1</sup>  | 5.3 <sup>1</sup>  | 2.1 <sup>1</sup>  | -6.1 |
| 平均点           | 69.4                       | 74.0 <sup>1</sup>                     | 70.4 <sup>1</sup> | 65.3 <sup>1</sup> | 69.5              | 69.0 | 71.2 <sup>1</sup>                     | 73.2              | 65.8 <sup>1</sup> | 68.9              | -0.4 | -2.8 <sup>1</sup> | 2.7 <sup>1</sup>   | 0.4 <sup>1</sup>  | -0.6              |      |
| 学修成果の役立ち度     |                            | 平成24年度アンケート(%)<br>(設問なし)              |                   |                   |                   |      | 平成29年度アンケート(%)<br>(大変役立った+ある程度役立った)   |                   |                   |                   |      | ポイント差             |                    |                   |                   |      |
|               |                            | 大学                                    | 地域学部              | 医学部               | 工学部               | 農学部  | 大学                                    | 地域学部              | 医学部               | 工学部               | 農学部  | 大学                | 地域学部               | 医学部               | 工学部               | 農学部  |
| 論<br>理<br>力   | 専攻した学問の体系化された知識            |                                       |                   |                   |                   |      | 63.8                                  | 50.5 <sup>1</sup> | 87.5              | 58.0              | 62.2 |                   |                    |                   |                   |      |
|               | 論理的な思考力                    |                                       |                   |                   |                   |      | 80.0                                  | 76.6 <sup>1</sup> | 88.4              | 79.3              | 76.3 |                   |                    |                   |                   |      |
|               | 問題を発見し解決する能力               |                                       |                   |                   |                   |      | 82.7                                  | 79.4 <sup>1</sup> | 88.4              | 81.4              | 82.2 |                   |                    |                   |                   |      |
|               | 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力           |                                       |                   |                   |                   |      | 77.4                                  | 74.8 <sup>1</sup> | 83.9              | 76.1              | 75.4 |                   |                    |                   |                   |      |
|               | 平均点                        |                                       |                   |                   |                   |      | 76.0                                  | 70.3 <sup>1</sup> | 87.1              | 73.7              | 74.0 |                   |                    |                   |                   |      |
| 実<br>践<br>力   | IT時代に対応した情報スキル             |                                       |                   |                   |                   |      | 51.9                                  | 39.6 <sup>1</sup> | 51.4              | 60.6              | 49.2 |                   |                    |                   |                   |      |
|               | 語学など国際化への対応能力              |                                       |                   |                   |                   |      | 41.9                                  | 36.4 <sup>1</sup> | 51.4              | 41.4              | 38.5 |                   |                    |                   |                   |      |
|               | 実務に即戦力として使える専門知識や技術        |                                       |                   |                   |                   |      | 60.1                                  | 45.3 <sup>1</sup> | 85.5              | 53.8              | 59.3 |                   |                    |                   |                   |      |
|               | 地域社会の知識やボランティアなどによる社会参加体験  |                                       |                   |                   |                   |      | 51.4                                  | 70.1 <sup>1</sup> | 58.6              | 43.9              | 39.3 |                   |                    |                   |                   |      |
|               | 資格取得による専門知識と活用能力           |                                       |                   |                   |                   |      | 55.4                                  | 44.9 <sup>1</sup> | 84.4              | 46.2              | 52.1 |                   |                    |                   |                   |      |
| 平均点           |                            |                                       |                   |                   |                   | 52.1 | 47.3 <sup>1</sup>                     | 66.2              | 49.2              | 47.7              |      |                   |                    |                   |                   |      |
| 人<br>間<br>力   | 感性や人間性の豊かさ                 |                                       |                   |                   |                   |      | 86.6                                  | 95.4 <sup>1</sup> | 89.3              | 83.5              | 80.8 |                   |                    |                   |                   |      |
|               | 豊かな教養による社会を見る広い視野          |                                       |                   |                   |                   |      | 83.3                                  | 88.8 <sup>1</sup> | 85.7              | 82.0              | 78.0 |                   |                    |                   |                   |      |
|               | すべきだと思ったことを実践する姿勢          |                                       |                   |                   |                   |      | 85.2                                  | 83.2 <sup>1</sup> | 86.5              | 85.1              | 85.7 |                   |                    |                   |                   |      |
|               | 積極性・チャレンジ精神                |                                       |                   |                   |                   |      | 80.7                                  | 79.6 <sup>1</sup> | 85.6              | 77.8              | 81.5 |                   |                    |                   |                   |      |
|               | 礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性 |                                       |                   |                   |                   |      | 84.8                                  | 89.6 <sup>1</sup> | 91.1              | 77.8              | 85.6 |                   |                    |                   |                   |      |
|               | 組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力    |                                       |                   |                   |                   |      | 65.3                                  | 65.4 <sup>1</sup> | 77.3              | 62.6              | 58.1 |                   |                    |                   |                   |      |
| 平均点           |                            |                                       |                   |                   |                   | 81.0 | 83.7 <sup>1</sup>                     | 85.9              | 78.1              | 78.3              |      |                   |                    |                   |                   |      |



# 平成24年度及び平成29年度の比較データ 【大学院修了生】

- 平成24年度アンケートでは大学院修了生(N=205)、平成29年度アンケートでは大学院修了生(N=193)のデータを使用し、集計を行った。ただし、「所属未記載者」及び「各設問での未回答者」は対象外とした。
- 両アンケートの結果については、以下の項目において「**肯定的回答率**」により比較を行った。
  - ・**総合的な満足度【3項目】**:  
(「非常にそう思う」+「ある程度そう思う」)／回答件数 ※平成29年度から実施
  - ・**充実度【教育2項目及び研究3項目】**:  
(「非常にそう思う」+「ある程度そう思う」)／回答件数 ※一部の項目は平成29年度から実施
  - ・**能力・技術・知識等の習得度【論理力4項目及び実践力4項目】**:  
(大変習得できた+ある程度習得できた)／回答件数
  - ・**学修成果の役立ち度【論理力4項目及び実践力5項目】**:  
(大変役立った+ある程度役立った)／回答件数 ※平成29年度から実施
- アンケート結果欄における「**赤色セル**」は75%以上、ポイント差欄における「**青色セル**」は10ポイント差以上の増減を示す。

## ■アンケート結果の概要

- 総合的な満足度では、全研究科の各項目において概ね高い満足度を示していた。
- 充実度では、「教育」カテゴリにおいて前回より6ポイント増加しており、「研究指導」については全研究科において高い満足度を維持していた。
- 習得度では、「論理力」カテゴリに示す各能力が前回より6ポイント増加しており、全体として概ね高い満足度を維持していた。ただし、学部卒業生の結果と同様、「実践力」カテゴリの項目が低い傾向にあるのが今後の課題である。
- 役立ち度では、「論理力」カテゴリに示す各能力が概ね高い値を示していたが、「実践力」カテゴリの項目が低い傾向にあるのが今後の課題である。

# 平成24年度及び平成29年度の比較データ 【大学院修了生】

| 総合的な満足度                    | 平成24年度アンケート(%)<br>(設問なし) |            |            |           |           | 平成29年度アンケート(%)<br>(非常にそう思う+ある程度そう思う) |            |            |           |           | ポイント差 |            |            |           |           |
|----------------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|-----------|--------------------------------------|------------|------------|-----------|-----------|-------|------------|------------|-----------|-----------|
|                            | 大学                       | 地域学<br>研究科 | 医学系<br>研究科 | 工学<br>研究科 | 農学<br>研究科 | 大学                                   | 地域学<br>研究科 | 医学系<br>研究科 | 工学<br>研究科 | 農学<br>研究科 | 大学    | 地域学<br>研究科 | 医学系<br>研究科 | 工学<br>研究科 | 農学<br>研究科 |
| 大学院の教育内容・研究指導に、全体として満足している |                          |            |            |           |           | 86.1                                 | 94.4       | 84.6       | 85.0      | 86.1      |       |            |            |           |           |
| 大学院の教育・研究は卒業後の仕事や生活に役立っている |                          |            |            |           |           | 77.9                                 | 94.4       | 87.5       | 71.0      | 77.8      |       |            |            |           |           |
| 大学院への進学を学部生に薦めたい           |                          |            |            |           |           | 79.4                                 | 94.4       | 80.0       | 77.8      | 75.0      |       |            |            |           |           |
| 平均点                        |                          |            |            |           |           | 81.1                                 | 94.4       | 84.0       | 77.9      | 79.6      |       |            |            |           |           |

| 充実度                    | 平成24年度アンケート(%)<br>(非常にそう思う+ある程度そう思う) |            |            |           |           | 平成29年度アンケート(%)<br>(非常にそう思う+ある程度そう思う) |            |            |           |           | ポイント差 |            |            |           |           |
|------------------------|--------------------------------------|------------|------------|-----------|-----------|--------------------------------------|------------|------------|-----------|-----------|-------|------------|------------|-----------|-----------|
|                        | 大学                                   | 地域学<br>研究科 | 医学系<br>研究科 | 工学<br>研究科 | 農学<br>研究科 | 大学                                   | 地域学<br>研究科 | 医学系<br>研究科 | 工学<br>研究科 | 農学<br>研究科 | 大学    | 地域学<br>研究科 | 医学系<br>研究科 | 工学<br>研究科 | 農学<br>研究科 |
| カリキュラムについて、授業内容は充実していた | 74.1                                 | 93.3       | 72.7       | 74.8      | 66.7      | 82.5                                 | 94.4       | 76.9       | 83.0      | 83.3      | 8.3   | 1.1        | 4.2        | 8.2       | 16.7      |
| 研究室における研究指導は充実していた     | 83.7                                 | 100.0      | 78.8       | 82.0      | 86.0      | 88.2                                 | 88.9       | 87.5       | 87.0      | 91.7      | 4.5   | -11.1      | 8.7        | 5.0       | 5.6       |
| 平均点                    | 78.9                                 | 96.7       | 75.8       | 78.4      | 76.4      | 85.3                                 | 91.7       | 82.2       | 85.0      | 87.5      | 6.4   | -5.0       | 6.5        | 6.6       | 11.1      |
| 研究の施設や設備・装置は充実していた     | 65.3                                 | 60.0       | 75.8       | 57.7      | 79.1      | 73.8                                 | 61.1       | 87.5       | 70.0      | 77.8      | 8.5   | 1.1        | 11.7       | 12.3      | -1.3      |
| 学術面での研究業績が優れていた        |                                      |            |            |           |           | 67.0                                 | 83.3       | 71.8       | 63.0      | 66.7      |       |            |            |           |           |
| 産学共同研究で実績が豊富だった        |                                      |            |            |           |           | 45.3                                 | 47.1       | 38.5       | 45.5      | 52.8      |       |            |            |           |           |
| 平均点                    | 65.3                                 | 60.0       | 75.8       | 57.7      | 79.1      | 62.1                                 | 63.8       | 65.9       | 59.5      | 65.7      | 8.5   | 1.1        | 11.7       | 12.3      | -1.3      |

# 平成24年度及び平成29年度の比較データ 【大学院修了生】

| 能力・技術・知識等の習得度 |                     | 平成24年度アンケート(%)<br>(大変習得できた+ある程度習得できた) |            |            |           |           | 平成29年度アンケート(%)<br>(大変習得できた+ある程度習得できた) |            |            |           |           | ポイント差 |            |            |           |           |
|---------------|---------------------|---------------------------------------|------------|------------|-----------|-----------|---------------------------------------|------------|------------|-----------|-----------|-------|------------|------------|-----------|-----------|
|               |                     | 大学                                    | 地域学<br>研究科 | 医学系<br>研究科 | 工学<br>研究科 | 農学<br>研究科 | 大学                                    | 地域学<br>研究科 | 医学系<br>研究科 | 工学<br>研究科 | 農学<br>研究科 | 大学    | 地域学<br>研究科 | 医学系<br>研究科 | 工学<br>研究科 | 農学<br>研究科 |
| 論<br>理<br>力   | 専攻した学問の体系化された知識     | 81.3                                  | 80.0       | 87.9       | 78.6      | 83.7      | 86.7                                  | 88.9       | 90.0       | 82.8      | 91.9      | 5.4   | 8.9        | 2.1        | 4.3       | 8.2       |
|               | 論理的な思考力             | 84.7                                  | 93.3       | 84.8       | 80.4      | 93.0      | 89.3                                  | 83.3       | 87.5       | 88.0      | 97.3      | 4.6   | -10.0      | 2.7        | 7.6       | 4.3       |
|               | 問題を発見し解決する能力        | 76.4                                  | 86.7       | 84.8       | 71.4      | 79.1      | 84.2                                  | 88.9       | 82.5       | 81.0      | 91.9      | 7.8   | 2.2        | -2.3       | 9.6       | 12.8      |
|               | 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力    | 66.0                                  | 93.3       | 66.7       | 59.8      | 72.1      | 74.0                                  | 88.9       | 72.5       | 69.0      | 81.1      | 8.0   | -4.4       | 5.8        | 9.2       | 9.0       |
| 平均点           |                     | 77.1                                  | 88.3       | 81.1       | 72.5      | 82.0      | 83.5                                  | 87.5       | 83.1       | 80.2      | 90.5      | 6.4   | -0.8       | 2.1        | 7.7       | 8.6       |
| 実<br>践<br>力   | IT時代に対応した情報スキル      | 44.8                                  | 53.3       | 33.3       | 45.5      | 48.8      | 51.0                                  | 27.8       | 37.5       | 56.0      | 64.9      | 6.2   | -25.6      | 4.2        | 10.5      | 16.0      |
|               | 語学など国際化への対応能力       | 22.7                                  | 13.3       | 27.3       | 15.2      | 41.9      | 25.0                                  | 27.8       | 17.5       | 22.0      | 40.5      | 2.3   | 14.4       | -9.8       | 6.8       | -1.3      |
|               | 実務に即戦力として使える専門知識や技術 | 54.2                                  | 66.7       | 66.7       | 49.1      | 53.5      | 56.1                                  | 83.3       | 72.5       | 48.0      | 48.6      | 1.9   | 16.7       | 5.8        | -1.1      | -4.8      |
|               | 資格取得による専門知識と活用能力    | 35.5                                  | 40.0       | 57.6       | 31.3      | 27.9      | 42.3                                  | 77.8       | 57.5       | 35.0      | 29.7      | 6.9   | 37.8       | -0.1       | 3.8       | 1.8       |
| 平均点           |                     | 39.3                                  | 43.3       | 46.2       | 35.3      | 43.0      | 43.6                                  | 54.2       | 46.3       | 40.3      | 45.9      | 4.3   | 10.8       | 0.0        | 5.0       | 2.9       |

| 学修成果の役立ち度   |                     | 平成24年度アンケート(%)<br>(設問なし) |            |            |           |           | 平成29年度アンケート(%)<br>(大変役立った+ある程度役立った) |            |            |           |           | ポイント差 |            |            |           |           |
|-------------|---------------------|--------------------------|------------|------------|-----------|-----------|-------------------------------------|------------|------------|-----------|-----------|-------|------------|------------|-----------|-----------|
|             |                     | 大学                       | 地域学<br>研究科 | 医学系<br>研究科 | 工学<br>研究科 | 農学<br>研究科 | 大学                                  | 地域学<br>研究科 | 医学系<br>研究科 | 工学<br>研究科 | 農学<br>研究科 | 大学    | 地域学<br>研究科 | 医学系<br>研究科 | 工学<br>研究科 | 農学<br>研究科 |
| 論<br>理<br>力 | 専攻した学問の体系化された知識     |                          |            |            |           |           | 68.9                                | 88.2       | 82.1       | 61.9      | 63.9      |       |            |            |           |           |
|             | 論理的な思考力             |                          |            |            |           |           | 92.7                                | 100.0      | 94.9       | 90.8      | 91.7      |       |            |            |           |           |
|             | 問題を発見し解決する能力        |                          |            |            |           |           | 90.1                                | 94.4       | 89.5       | 90.8      | 86.1      |       |            |            |           |           |
|             | 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力    |                          |            |            |           |           | 82.5                                | 94.4       | 82.1       | 82.3      | 77.1      |       |            |            |           |           |
| 平均点         |                     |                          |            |            |           |           | 83.6                                | 94.3       | 87.1       | 81.4      | 79.7      |       |            |            |           |           |
| 実<br>践<br>力 | IT時代に対応した情報スキル      |                          |            |            |           |           | 56.7                                | 47.1       | 50.0       | 59.6      | 61.8      |       |            |            |           |           |
|             | 語学など国際化への対応能力       |                          |            |            |           |           | 31.3                                | 43.8       | 24.2       | 30.9      | 34.3      |       |            |            |           |           |
|             | 実務に即戦力として使える専門知識や技術 |                          |            |            |           |           | 53.2                                | 76.5       | 73.7       | 46.9      | 38.2      |       |            |            |           |           |
|             | 資格取得による専門知識と活用能力    |                          |            |            |           |           | 48.9                                | 75.0       | 71.1       | 37.9      | 44.1      |       |            |            |           |           |
| 平均点         |                     |                          |            |            |           |           | 47.5                                | 60.6       | 54.7       | 43.8      | 44.6      |       |            |            |           |           |

平成30年3月

卒業生 各位

鳥取大学長  
豊島 良太

「鳥取大学 卒業生アンケート」へのご協力をお願い

拝啓 春暖の候、貴殿におかれましては益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、本学の教育・研究に多大なご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本学では、「知と実践の融合」を教育研究の基本理念に掲げ、「地域学」「医学」「工学」及び「農学」の四つの学部・研究科を中心に「グローバル」で「人間力」を持つ学生の育成を行っています。この実現のため、本学では「授業アンケート」や「学生実態調査」等のアンケート結果に基づき、授業改善や学生支援活動の充実等を行っています。

在学生に関しましては、様々な形でアンケート調査等を行っていますが、本学卒業生として見た本学の教育・研究の支援や修得すべきもの、という点も今後の教育・研究支援のあり方を検討する上で重要な視点であり、このたび別紙のアンケートをお願い申し上げる次第です。ご多忙中のこととは存じますが、何卒ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

なお、誠に勝手ながら、回答は同封の返信用封筒(郵送料無料)にて2018年5月31日(木)までにご投函くださいますよう、お願い申し上げます。

敬具

【アンケートの回答方法に関するお願い】

アンケートは、本学に登録されている、保証人様の住所宛に送付させていただいています。誠に勝手ながら、回答につきましては、卒業生の皆様をお願いしたいと思いますので、就職先等が遠方でご自宅に不在の場合は、休暇等でご帰宅時に記入していただく、設問をFAX・メール等を利用して回答していただく、または、アンケートを転送いただければと思います。

なお、集計の際に回答者個人が特定されるような分析は行いません。

また、これに係る個人情報等は本アンケート以外に利用しません。

※ご不明な点は、鳥取大学学生部教育支援課教務企画係(Tel:0857-31-5054,e-mail:st-kyokikaku@adm.tottori-u.ac.jp)までお問い合わせください。



Q6. あなたは鳥取大学での教育や学生生活を通じて、以下の能力・技術・知識等は、どの程度習得できたと思いますか。

| 能力・技術・知識等                     | 大変習得できた | ある程度習得できた | あまり習得できなかった | 全く習得できなかった |
|-------------------------------|---------|-----------|-------------|------------|
| a. 感性や人間性の豊かさ                 | 4       | 3         | 2           | 1          |
| b. 豊かな教養による社会を見る広い視野          | 4       | 3         | 2           | 1          |
| c. すべきだと思ったことを実践する姿勢          | 4       | 3         | 2           | 1          |
| d. 積極性・チャレンジ精神                | 4       | 3         | 2           | 1          |
| e. 礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性 | 4       | 3         | 2           | 1          |
| f. 組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力    | 4       | 3         | 2           | 1          |
| g. 専攻した学問の体系化された知識            | 4       | 3         | 2           | 1          |
| h. 論理的な思考力                    | 4       | 3         | 2           | 1          |
| i. 問題を発見し解決する能力               | 4       | 3         | 2           | 1          |
| j. 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力           | 4       | 3         | 2           | 1          |
| k. IT時代に対応した情報スキル             | 4       | 3         | 2           | 1          |
| l. 語学など国際化への対応能力              | 4       | 3         | 2           | 1          |
| m. 実務に即戦力として使える専門知識や技術        | 4       | 3         | 2           | 1          |
| n. 地域社会の知識やボランティアなどによる社会参加体験  | 4       | 3         | 2           | 1          |
| o. 資格取得による専門知識と活用能力           | 4       | 3         | 2           | 1          |

Q7. あなたが社会に出てから、以下の能力・技術・知識等は、どの程度役立ちましたか。

また、学生時代にもっと学んでおけば良かったと思う能力・技術・知識等があれば、以下の中から3つ選び○をつけてください。

| 能力・技術・知識等                     | 大変役立った | ある程度役立った | あまり役に立たなかった | 全く役に立たなかった | 学んでおけば良かった(3つまで○) |
|-------------------------------|--------|----------|-------------|------------|-------------------|
| a. 感性や人間性の豊かさ                 | 4      | 3        | 2           | 1          |                   |
| b. 豊かな教養による社会を見る広い視野          | 4      | 3        | 2           | 1          |                   |
| c. すべきだと思ったことを実践する姿勢          | 4      | 3        | 2           | 1          |                   |
| d. 積極性・チャレンジ精神                | 4      | 3        | 2           | 1          |                   |
| e. 礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性 | 4      | 3        | 2           | 1          |                   |
| f. 組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力    | 4      | 3        | 2           | 1          |                   |
| g. 専攻した学問の体系化された知識            | 4      | 3        | 2           | 1          |                   |
| h. 論理的な思考力                    | 4      | 3        | 2           | 1          |                   |
| i. 問題を発見し解決する能力               | 4      | 3        | 2           | 1          |                   |
| j. 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力           | 4      | 3        | 2           | 1          |                   |
| k. IT時代に対応した情報スキル             | 4      | 3        | 2           | 1          |                   |
| l. 語学など国際化への対応能力              | 4      | 3        | 2           | 1          |                   |
| m. 実務に即戦力として使える専門知識や技術        | 4      | 3        | 2           | 1          |                   |
| n. 地域社会の知識やボランティアなどによる社会参加体験  | 4      | 3        | 2           | 1          |                   |
| o. 資格取得による専門知識と活用能力           | 4      | 3        | 2           | 1          |                   |

Q8. 鳥取大学で受講した講義や先生からの指導、学生時代に参加した課外活動等の中で、社会に出てから「これは本当に役立った」と感じるものは、どのようなものでしょうか。

授業科目名(卒業研究を含む)、先生の名前、クラブ・サークル活動名等について、具体的にご記入ください。

Q9. 今後の鳥取大学における教育や学生支援の改善のために、ご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

引き続き、「キャリア教育」「グローバル教育」に関するアンケートにもご協力をお願いします。

## [鳥取大学のキャリア教育に関する調査票]

◆鳥取大学では、生きること・学ぶこと・働くことについて理解を深め、大学卒業後の進路選択(進学・就職)を視野に入れた、充実した学生生活への動機づけを行うため、正規の教育課程内・課程外において、キャリア教育の充実に努めています。  
本学のキャリア教育について、以下の質問にお答えください。

◆質問はQ10～Q12まであります。

Q10. 本学の全学共通科目(キャリア教育)についてお尋ねします。

(1)あなたは在学中に以下の全学共通科目の単位を修得しましたか。あてはまるものに○をつけてください。

| 科目名   | 単位を修得した | 単位を修得できなかった<br>若しくは未履修 |
|---|---------|------------------------|
| a. 「キャリア入門」   |         |                        |
| 上記以外のキャリア教育科目<br>b. (例)「キャリアデザイン I～IV」、「就業体験学習」、「社会人入門」、「就職活動に挑む」、<br>「地域公共メディア論」、「地域就業論」、「理系学生のためのグローバルキャリアデザイン」 |         |                        |

(2)(1)で「単位を修得した」と答えた方にお尋ねします。あなたにあてはまるものを選んでください。

| 項目                             | 非常に<br>そう思う | ある程度<br>そう思う | あまりそう<br>思わない | 全くそう<br>思わない |
|--------------------------------|-------------|--------------|---------------|--------------|
| a. 科目からの学びが <b>在学中</b> に役立った   | 4           | 3            | 2             | 1            |
| b. 科目からの学びが <b>卒業してから</b> 役立った | 4           | 3            | 2             | 1            |

(3) (2)のa.において、「4:非常にそう思う」または「3:ある程度そう思う」と回答した方にお聞きします。  
在学中にどのようなかたちで役立ったと感じたのか、具体的にお聞かせください。

【科目名: \_\_\_\_\_】※(1)の科目名の中から選び、該当する科目名をご記入ください(複数選択可)。

(4) (2)のb.において、「4:非常にそう思う」または「3:ある程度そう思う」と回答した方にお聞きします。  
卒業してからどのようなかたちで役立ったと感じたのか、具体的にお聞かせください。

【科目名: \_\_\_\_\_】※(1)の科目名の中から選び、該当する科目名をご記入ください(複数選択可)。

Q11. 本学のインターンシップについてお尋ねします。

(1)あなたは在学中にインターンシップに参加したことはありますか。

1. はい (→(2)へ)                      2. いいえ(→Q12へ)

(2). どの学年で参加しましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 学部1年    2. 学部2年    3. 学部3年    4. 学部4年以上

(3). 実習期間はどのくらいですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 1日    2. 2～3日    3. 4～5日    4. 6～10日    5. 11～29日    6. 30日以上

(4). 単位認定を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 全学共通科目として受けた    2. 専門科目として受けた

Q12. 本学の学生に対して、次のような教育や指導を強化したほうがよいと思われますか。あてはまるものを選んでください。

| 項目                             | 非常に<br>そう思う | ある程度<br>そう思う | あまりそう<br>思わない | 全くそう<br>思わない |
|--------------------------------|-------------|--------------|---------------|--------------|
| a. 労働法や社会保険制度など卒業後のキャリアに関係する知識 | 4           | 3            | 2             | 1            |
| b. 実際に企業等で働いている方たちとの交流         | 4           | 3            | 2             | 1            |
| c. 本学卒業生との交流                   | 4           | 3            | 2             | 1            |
| d. インターンシップ                    | 4           | 3            | 2             | 1            |
| e. 社会的マナーやコミュニケーション・スキル        | 4           | 3            | 2             | 1            |
| f. 職業観や就業意識                    | 4           | 3            | 2             | 1            |

## [鳥取大学のグローバル教育に関する調査票]

◆鳥取大学では、国際社会の中核となり得る人材を育成するための取り組みの一環として、海外研修・留学プログラムの充実に努めています。  
本学在学中に海外研修・留学プログラム等に参加した方は、以下の質問にお答えください。

※「海外研修・留学プログラム等」とは、例えば、海外で行われる外国語研修、海外実践教育プログラム、海外での実習・演習・フィールドワーク・学生交流プログラム、海外の大学の研究インターンシップ、交換留学、留学等、海外で行われる教育・研究活動のことを指します。ただし、単なる海外旅行は含まれません。

◆質問はQ13～Q16まであります。Q13～Q15は数字には○をつけ、Q16は回答欄に意見や感想をご記入ください。

Q13. あなたが海外研修・留学プログラムに参加した目的についてお答えください。(複数該当する場合は、代表的なものを1つを選んでください。)

1. 語学      2. 交流      3. 研究      4. その他

Q14. 在学中に参加した海外研修や留学プログラム等について、現在どのように感じていますか。

| 項目  | 非常に<br>そう思う | ある程度<br>そう思う | あまりそう<br>思わない | 全くそう<br>思わない |
|---|-------------|--------------|---------------|--------------|
| a. 海外研修・留学プログラム等に参加してよかったと思う。             | 4           | 3            | 2             | 1            |
| b. 海外研修・留学等によって、グローバル社会や海外にチャレンジする自信がついた。 | 4           | 3            | 2             | 1            |
| c. 海外研修・留学等で履修した内容や経験が現在の仕事で役立っている。       | 4           | 3            | 2             | 1            |
| d. 海外研修・留学等での経験が、人生観、職業観などに何らかの成果をもたらした。  | 4           | 3            | 2             | 1            |

Q15. 海外研修・留学プログラム等の経験を通じて、以下の能力・知識等は、どの程度習得できたと思いますか。

| 能力・知識等   | 大変<br>習得できた | ある程度<br>習得できた | あまり習得<br>できなかった | 全く習得<br>できなかった |
|--|-------------|---------------|-----------------|----------------|
| a. 【自己開発・強化力】<br>自分自身のありたい姿についての明確な志を持ち、その実現のための努力を主体的・継続的に行える力                                    | 4           | 3             | 2               | 1              |
| b. 【自己管理能力】<br>海外の過酷な異文化環境でもへこたれないタフさを持ち、与えられた仕事を自己責任で自ら判断して遂行する力                                  | 4           | 3             | 2               | 1              |
| c. 【課題発見・解決力】<br>世界の潮流を冷静に判断し、俯瞰的視野で課題を見つけ、その解決に向けて説得力のある最善解を導き出す力                                 | 4           | 3             | 2               | 1              |
| d. 【日本発信力】<br>日本人としての誇りと明確なアイデンティティを醸成し、日本の歴史、社会、文化および価値観等の日本事情を理解するとともに、それらをグローバル社会に向けて紹介できる知識と能力 | 4           | 3             | 2               | 1              |
| e. 【地球的課題理解力】<br>地球環境問題や食糧問題等の地球的規模の課題とその国境を越えた取り組みの必要性を理解し、その解決のために是非取り組みたいなど、「地球市民」としての認識        | 4           | 3             | 2               | 1              |
| f. 【異文化理解力】<br>日本とは異なる文化、習慣、価値観などを文化の多様性として理解する能力  | 4           | 3             | 2               | 1              |
| g. 【異文化受容力】<br>外国人を含む多種多様な人間と協力、協働して新しい価値を生み出す力  | 4           | 3             | 2               | 1              |
| h. 【英語通用力】<br>異文化とのコミュニケーション基本ツールとしての英語通用力   | 4           | 3             | 2               | 1              |
| i. 【トリリンガル能力】<br>現地コミュニティとの良好な関係の構築に必要な基礎的な現地言語による会話能力   | 4           | 3             | 2               | 1              |
| j. 【プレゼンテーション能力】<br>自分の考えを簡潔にまとめ、他人に分かりやすく伝えることができる力   | 4           | 3             | 2               | 1              |
| k. 【ディベート能力】<br>相手の意見を丁寧に聴き、ニーズに合った合意点を生み出すことができる力   | 4           | 3             | 2               | 1              |
| l. 【チームワーク形成力】<br>人間関係に関する問題が生じないように配慮しつつ、異なる文化的背景を有する外国人とのチームワークを形成でき、人間関係に関する問題が生じても解決できる力       | 4           | 3             | 2               | 1              |

Q16. 海外研修・留学プログラム等に参加したことで、良かった点、改善が必要な点、研修の内容や経験が現在の仕事で役立った点、海外経験が人生観・職業観などに何らかの成果をもたらした点等があれば、具体的にご記入ください。

～質問は以上です。アンケートへのご協力ありがとうございました。お手数をおかけしますが、同封の返信用封筒にてご返信をお願いします。～



平成30年3月

修了生 各位

鳥取大学長  
豊島 良太

「鳥取大学大学院 修了生アンケート」へのご協力をお願い

拝啓 春暖の候、貴殿におかれましては益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、本学の教育・研究に多大なご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本学では、「知と実践の融合」を教育研究の基本理念に掲げ、「地域学」「医学」「工学」及び「農学」の四つの学部・研究科を中心に「グローバル」で「人間力」を持つ学生の育成を行っています。この実現のため、本学では「授業アンケート」や「学生実態調査」等のアンケート結果に基づき、授業改善や学生支援活動の充実等を行っています。

在学生に関しましては、様々な形でアンケート調査等を行っています。本学修了生として見た本学の教育・研究の支援や修得すべきもの、という点も今後の教育・研究支援のあり方を検討する上で重要な視点であり、このたび別紙のアンケートをお願い申し上げる次第です。ご多忙中のこととは存じますが、何卒ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、誠に勝手ながら、回答は同封の返信用封筒(郵送料無料)にて2018年5月31日(木)までにご投函くださいますよう、お願い申し上げます。

敬具

【アンケートの回答方法に関するお願い】

アンケートは、本学に登録されている、保証人様の住所宛に送付させていただいています。誠に勝手ながら、回答につきましては、修了生の皆様をお願いしたいと思いますので、就職先等が遠方でご自宅に不在の場合は、休暇等でご帰宅時に記入していただく、設問をFAX・メール等を利用して回答していただく、または、アンケートを転送いただければと思います。

なお、集計の際に回答者個人が特定されるような分析は行いません。

また、これに係る個人情報等は本アンケート以外に利用しません。

※ご不明な点は、鳥取大学学生部教育支援課教務企画係(Tel:0857-31-5054,e-mail:st-kyokikaku@adm.tottori-u.ac.jp)までお問い合わせください。



Q7. 大学院での授業や研究指導の中で、社会に出てから「これは本当に役立った」と感じるものは、どのようなものでしょうか。  
授業科目名や先生の名前等、具体的にご記入ください。

Q8. 今後の鳥取大学大学院における研究指導改善のために、ご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

～質問は以上です。アンケートへのご協力ありがとうございました。お手数をおかけしますが、同封の返送用封筒にてご返信をお願いします。～

平成30年3月

各 位

鳥取大学長  
豊島 良太

「鳥取大学教育力アンケート」へのご協力をお願い

拝啓 春暖の候、益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、本学の教育・研究に多大なご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本学では、「知と実践の融合」を教育研究の基本理念に掲げ、「地域学」「医学」「工学」及び「農学」の四つの学部・研究科を中心に「グローバル」で「人間力」を持つ学生の育成を行っています。この実現のため、本学では、机上の学びだけでなく、地域のさまざまな現場に赴いて理解を深める「インターンシップ」や「フィールド実習」を実施する他、多様な地域貢献活動に参画することを奨励しております。地域コミュニティの発展や経済の活性化等に貢献でき、地域や職場で活躍できうる人材の養成を目指しています。

このような本学卒業生がその就職先でいかに評価されているか、という点も今後の教育・学生支援のあり方を検討する上で重要な視点であり、このたび別紙のアンケートをお願い申し上げる次第です。ご多忙中のこととは存じますが、何卒ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

なお、誠に勝手ながら、回答は同封の返信用封筒(郵送料金無料)にて2018年5月31日(木)までにご投函くださいますよう、お願い申し上げます。

敬具

【アンケートの回答方法に関するお願い】

アンケートは、人事・採用ご担当者様にご回答いただくことを想定しています。複数人の卒業生がお世話になっている事業所の場合、所属もまた複数、多地域にわたると思われる場合があります。その場合は、人事・採用ご担当者様が、総括してご回答くださるようお願い申し上げます。

なお、集計の際に企業名等並びに回答者個人が特定されるような分析は行ないません。

また、これに係る個人情報等は本アンケート以外に利用しません。

おって、すでに本学卒業生が辞(退)職してご回答いただけない場合、お手数ですが「Q6」の項目以降につきましてご回答願います。

※ご不明の点は、鳥取大学学生部教育支援課教務企画係(Tel.:0857-31-5054、e-mail:st-kyokikaku@adm.tottori-u.ac.jp)までお問い合わせください。



Q6. 貴社でこれまでに採用した、鳥取大学卒業生の実績人数について、当てはまるものに○をつけてください。

1. 1人のみ      2. 2～5人程度      3. 6～10人程度      4. 11～20人程度      5. 21人以上      6. 不明

Q7. 貴社でこれまでに採用した鳥取大学卒業生の、卒業学部・大学院について、当てはまるものに○をつけてください。(複数可)

1. 地域学部(旧教育地域科学部・教育学部を含む)      2. 医学部      3. 工学部      4. 農学部  
 5. 地域学研究科(旧教育学研究科を含む)      6. 医学系研究科      7. 工学研究科      8. 農学研究科  
 9. 学部卒業者を採用したことはあるが、学部名はわからない  
 10. 大学院卒業(修了)者を採用したことはあるが、研究科名はわからない

Q8. 鳥取大学卒業生の印象として、何かイメージされる特徴はありますか。有無のどちらかに○をつけてください。

また、イメージされる特徴がある場合、どのようなものでしょうか。具体的な特徴をご記入ください。

・鳥取大学卒業生の印象としてイメージできる特徴は、[    ある    ・    ない    ]

<イメージされる具体的な特徴>

Q9. 鳥取大学卒業生の印象として「身につけている」と感じられる能力・技術・態度等を、以下の中から3つまで選び○をつけてください。

また「大学での教育や研究指導等でもっと身につけておくべき」と感じられるものを、以下の中から3つまで選び○をつけてください。

| 能力・技術・知識等                     | 「身につけている」<br>(3つまで○) | 「もっと身につけておくべき」<br>(3つまで○) |
|-------------------------------|----------------------|---------------------------|
| a. 感性や人間性の豊かさ                 |                      |                           |
| b. 豊かな教養による社会を見る広い視野          |                      |                           |
| c. すべきだと思ったことを実践する姿勢          |                      |                           |
| d. 積極性・チャレンジ精神                |                      |                           |
| e. 礼儀マナー・協調性・責任感など集団生活に必要な社会性 |                      |                           |
| f. 組織や集団をまとめる統率力・リーダーシップ能力    |                      |                           |
| g. 専攻した学問の体系化された知識            |                      |                           |
| h. 論理的な思考力                    |                      |                           |
| i. 問題を発見し解決する能力               |                      |                           |
| j. 柔軟な発想や豊かな創造力・構想力           |                      |                           |
| k. IT時代に対応した情報スキル             |                      |                           |
| l. 語学など国際化への対応能力              |                      |                           |
| m. 実務に即戦力として使える専門知識や技術        |                      |                           |
| n. 地域社会の知識やボランティアなどによる社会参加体験  |                      |                           |
| o. 資格取得による専門知識と活用能力           |                      |                           |

Q10. 今後の鳥取大学における教育や学生支援の改善のために、ご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

～質問は以上です。アンケートへのご協力ありがとうございました。～  
 お手数をおかけしますが、同封の返送用封筒にてご返信お願いします。

「鳥取大学の教育力」アンケート  
報告書作成WG

|                         |     |       |
|-------------------------|-----|-------|
| 理事（教育担当），教育支援・国際交流推進機構長 |     | 中島 廣光 |
| 教育支援・国際交流推進機構 教育センター長   |     | 橋本 隆司 |
| 入学センター                  | 准教授 | 山田 貴光 |
| 教育センター                  | 准教授 | 井上 順子 |
| 教育センター                  | 准教授 | 小林 昌博 |
| キャリアセンター                | 准教授 | 長尾 博暢 |
| 大学評価室                   | 教授  | 大野 賢一 |
| 学生部教育支援課長               |     | 中田 泰久 |
| 学生部教育支援課副課長             |     | 出田 啓輔 |